

一般国道
3号 筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第6集

以来尺遺跡 II

福岡県筑紫野市大字筑紫所在遺跡の調査

1998

福岡県教育委員会

一般国道
3号 筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第6集

以来尺遺跡 II

福岡県筑紫野市大字筑紫所在遺跡の調査

1998

福岡県教育委員会

序

福岡県教育委員会では建設省九州地方建設局の委託を受けて、昭和56(1981)年度から一般国道3号筑紫野バイパスの建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりました。調査は平成9年度に終了し、筑紫野バイパスは現在建設中です。

この報告書は、平成4(1992)年5月から平成9(1997)年11月まで発掘調査を実施した筑紫野市大字筑紫所在の以来尺遺跡の記録の一部です。平成8年度に「以来尺遺跡Ⅰ」として報告したものに続く弥生時代後期の集落跡の報告です。二日市地峡と呼ばれるこの地域は古代より筑紫神社が鎮座しており、福岡平野と筑後平野、あるいは筑前・筑後・肥前の三国を結ぶ重要な交通の要衝でした。今回の調査では、弥生時代後期の集落跡を中心に、古墳時代後期の古墳と集落跡や、さらには中世の集落跡や近世の山城跡なども確認され、当時の交流の復元にとって大変意義のある成果を得ることができました。

本書が、地域間交流の研究や文化財保護思想の普及と活用の一助となれば幸甚に存じます。

発掘調査及び整理作業や報告書の作成にあたって、御協力いただいた多くの方々に深甚の謝意を表します。

平成10年3月31日

福岡県教育委員会

教育長 光安 常喜

例 言

1. この報告書は、平成4(1992)年度から平成9(1997)年度まで福岡県教育委員会が建設省九州地方建設局の委託を受けて実施した一般国道3号筑紫野バイパスの建設に先立つ埋蔵文化財の発掘調査記録で、一般国道3号筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告の第6集である。
2. 本書に記録した以来尺遺跡は筑紫野バイパス第6地点にあたり、筑紫野市大字以来尺927・929・932番地外に所在する。調査面積・検出遺構・出土遺物は膨大なため、報告は平成8・9・10年度の3カ年に分けて実施する。
3. 本書に掲載した遺構図は、馬田弘稔・水ノ江和同・齋部麻矢・秦憲二・杉原敏之が作成した。
4. 本書に掲載した遺構写真は馬田・水ノ江・齋部・秦・杉原が、遺物写真については水ノ江・齋部・秦・杉原と北岡伸一が撮影した。なお、空中写真についてはフォト大塚に委託した。
5. 出土遺物は九州歴史資料館において岩瀬正信の指導で整理・復元作業を行い、鉄器の保存処理は九州歴史資料館横田義章氏に依頼した。
6. 使用した方位はすべて座標北である。
7. 出土遺物・写真・図面等については、すべて九州歴史資料館および福岡県文化課太宰府事務所において保管している。
8. 執筆は馬田・齋部・秦・杉原の各自が行い、担当箇所は文末に明記している。編集は齋部が担当した。

本文目次

I. はじめに

1. 調査の経緯と組織..... 1
2. 位置と環境..... 3

II. 発掘調査の記録

1. 調査の概要..... 8
2. 弥生時代の遺構と遺物 2 — 平坦面地区の調査 2 —
 - (1) 竪穴住居跡..... 9
 - (2) 掘立柱建物跡.....51
 - (3) 溝状遺構.....62
 - (4) ピット145
 - (5) その他の遺物146

図 版 目 次

- 図版 1 (1) 127～132号竪穴住居跡 (北から)
(2) 133～135号竪穴住居跡 (北から)
- 図版 2 (1) 住1003号群・住1421号群と中世溝1002号 (北西から)
(2) 住1011号北柱筋下の素環頭刀子出土状態 (南西から)
- 図版 3 (1) 住1003号群と中世溝1002号・小溝・Pイ～ニ・Pへ (北東から)
(2) 住1003号群と中世溝1002号・小溝・Pロ～ト (北から)
- 図版 4 (1) 住1003号群と中世溝1002号・小溝・Pロ～ホ・Pト (北東から)
(2) 住1003号の住居遺棄祭祀土壇S X 1009号刀子出土状態 (南東から)
- 図版 5 (1) 建1002号群と住1018号 (住143号)・住10号案 (南西から)
(2) 建1002号群中の〔建1002～1005・1007～1010号〕 (南西から)
- 図版 6 (1) 建1002号群・住1002号群と中世溝1004・1024号 (東から)
(2) 建1002号群・住1002号群、溝2004・2005号と中世溝1004・1024号 (東から)
- 図版 7 (1) 建1002号と溝1001・2003号 (南から)
(2) 建1002号群・住1002号群と溝1001・2001号 (南から)
- 図版 8 (1) 建1002号と溝1001号 (西から)
(2) 建1001・1002号・住1001号と溝1001・2001号 (南から)
- 図版 9 (1) 完掘した土壇1001号〔土坑12号〕 (西から)
(2) 建2011号群・住1046号群と土壇1002号の上位土器群出土状態 (北から)
- 図版 10 (1) 土壇1003号〔土坑11号〕の下位土器群出土状態 (西から)
(2) 住1002号A・Bの西壁中央土壇D21とD P 211・212 (東から)
(3) 完掘した住1018号A・B (住143号)の南壁中央土壇D21とD P 211・212 (北東から)
- 図版 11 (1) 建1019号群 (南から)
(2) 建1019号群・住1019号群、溝1003・18号と中世溝16号 (東から)
- 図版 12 (1) 完掘した住1019号・溝18号と中世溝16号 (南東から)
(2) 完掘した住1019号A～C (住141号)の西壁中央土壇D21とD P 211・D P 212 (北東から)
(3) 完掘した住1020号A・B (住142号)の西壁中央土壇D21とD P 211・212、建1019号A・Bと建1032号の各P 4 (北東から)
- 図版 13 (1) 建1029・2013号と建1号案・住19号案 (南から)

- (2) 建2013号群・住1466号群と中世溝1004・1024号（北東から）
- 図版14 (1) I住1424群・II住1422群・III住1421群・IV住1420群・建2014号と中世溝1002号（東から）
(2) 同（南から）
- 図版15 (1) I住1424群・II住1422群・III住1421群・IV住1420群・建2014号と中世溝1002号（南西から）
(2) 住1421号の住居施設（南東から）
- 図版16 (1) I住1424群・II住1422群・III住1421群・建2014号と中世溝1002号（南東から）
(2) 住1414号・建2014号と中世溝1002号（北東から）
(3) 住1012号・2001号と中世溝1002号（北東から）
- 図版17 1003・1421・1426・1437号竪穴住居跡出土土器
- 図版18 1022号溝出土土器. 1
- 図版19 1022号溝出土土器. 2
- 図版20 1022号溝出土土器. 3
- 図版21 1022号溝出土土器. 4
- 図版22 1022号溝出土土器. 5
- 図版23 1022号溝出土土器. 6
- 図版24 1022号溝出土土器. 7
- 図版25 1022号溝出土土器. 8
- 図版26 1022号溝出土土器. 9
- 図版27 1022号溝出土土器. 10
- 図版28 1022号溝出土土器. 11
- 図版29 1022号溝出土土器. 12
- 図版30 1022号溝出土土器. 13
- 図版31 1022号溝出土土器. 14
- 図版32 1022号溝出土土器. 15
- 図版33 1022号溝出土土器. 16
- 図版34 1022号溝出土土器. 17
- 図版35 1022号溝出土土器. 18
- 図版36 1022号溝出土土器. 19
- 図版37 1022号溝出土土器. 20
- 図版38 1022号溝出土土器. 21
- 図版39 1022号溝出土土器. 22

- 図版40 1022号溝出土土器. 23
- 図版41 1022号溝出土土器. 24
- 図版42 1022号溝出土土器. 25
- 図版43 1022号溝出土土器. 26
- 図版44 1022号溝出土土器. 27
- 図版45 1022号溝出土土器. 28
- 図版46 1022号溝出土土器. 29
- 図版47 1022号溝出土土器. 30
- 図版48 1022号溝出土土器. 31
- 図版49 1022号溝出土土器. 32
- 図版50 1022号溝出土土器. 33
- 図版51 1022号溝出土土器. 34
- 図版52 1022号溝出土土器. 35
- 図版53 1022号溝出土土器. 36
- 図版54 1022号溝出土土器. 37
- 図版55 1022号溝出土土器. 38
- 図版56 1022号溝出土土器. 39
- 図版57 1022号溝出土土器. 40
- 図版58 1022号溝出土土器. 41
- 図版59 1022・1023号溝出土土器. 1
- 図版60 1022・1023号溝出土土器. 2
- 図版61 1022・1023号溝出土土器. 3
- 図版62 1022・1023号溝出土土器. 4
- 図版63 1022・1023号溝出土土器. 5
- 図版64 (1) 土製品
(2) 石庖丁
- 図版65 (1) 砥石. 1
(2) 砥石. 2
- 図版66 (1) その他の石製品
(2) 鉄製品・ガラス玉

挿 図 目 次

第1図	国道3号筑紫野バイパス用地内の各調査地点 (1/10,000)	折込
第2図	弥生時代後期の以来尺周辺遺跡分布図 (1/50,000)	5
第3図	以来尺遺跡調査地点 (1/10,000)	7
第4図	以来尺遺跡遺構配置略図 (1/1,200)	8
第5図	127・128号竪穴住居跡実測図 (1/60)	10
第6図	127・128号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/4)	11
第7図	130～132・134号竪穴住居跡実測図 (1/60)	折込
第8図	1003・1011号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/4 3は1/6)	22
第9図	1414・1419・1421号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/4)	32
第10図	ガラス玉実測図 (1/1)	40
第11図	1422・1426・1435～1437号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/4)	41
第12図	1022・1023号溝トレンチ配置略図 (1/300)	63
第13図	1022・1023号溝土層断面図. 1 (1/60)	64
第14図	1022・1023号溝土層断面図. 2 (1/60)	65
第15図	1022号溝1トレンチ出土土器実測図. 1 (1/4 1・2は1/6)	66
第16図	1022号溝1トレンチ出土土器実測図. 2 (1/4)	67
第17図	1022号溝1トレンチ出土土器実測図. 3 (1/4)	68
第18図	1022号溝1トレンチ出土土器実測図. 4 (1/4 33は1/6)	69
第19図	1022号溝2トレンチ出土土器実測図. 1 (1/4)	72
第20図	1022号溝2トレンチ出土土器実測図. 2 (1/4)	73
第21図	1022号溝2トレンチ出土土器実測図. 3 (1/4)	74
第22図	1022号溝3トレンチ出土土器実測図. 1 (1/4)	76
第23図	1022号溝3トレンチ出土土器実測図. 2 (1/4 114は1/6)	77
第24図	1022号溝3トレンチ出土土器実測図. 3 (1/4)	78
第25図	1022号溝3トレンチ出土土器実測図. 4 (1/4)	79
第26図	1022号溝4トレンチ出土土器実測図. 1 (1/4 150は1/6)	83
第27図	1022号溝4トレンチ出土土器実測図. 2 (1/4 155・159は1/6)	84
第28図	1022号溝4トレンチ出土土器実測図. 3 (1/4 173は1/6)	85
第29図	1022号溝4トレンチ出土土器実測図. 4 (1/4)	86
第30図	1022号溝4トレンチ出土土器実測図. 5 (1/4 186は1/6)	87

第31図	1022号溝4トレンチ出土土器実測図.	6 (1/4	195~197は1/6)	88
第32図	1022号溝4トレンチ出土土器実測図.	7 (1/4)		89
第33図	1022号溝4トレンチ出土土器実測図.	8 (1/4	222・223は1/6)	90
第34図	1022号溝4トレンチ出土土器実測図.	9 (1/4)		91
第35図	1022号溝5トレンチ出土土器実測図.	1 (1/4	242は1/6)	95
第36図	1022号溝5トレンチ出土土器実測図.	2 (1/4)		96
第37図	1022号溝5トレンチ出土土器実測図.	3 (1/4)		97
第38図	1022号溝5トレンチ出土土器実測図.	4 (1/4)		98
第39図	1022号溝5トレンチ出土土器実測図.	5 (1/4)		99
第40図	1022号溝5トレンチ出土土器実測図.	6 (1/4	289は1/6)	100
第41図	1022号溝5トレンチ出土土器実測図.	7 (1/4)		101
第42図	1022号溝5トレンチ出土土器実測図.	8 (1/4)		102
第43図	1022号溝5トレンチ出土土器実測図.	9 (1/4)		103
第44図	1022号溝5トレンチ出土土器実測図.	10 (1/4)		104
第45図	1022号溝6トレンチ出土土器実測図.	1 (1/4)		108
第46図	1022号溝6トレンチ出土土器実測図.	2 (1/4)		109
第47図	1022号溝6トレンチ出土土器実測図.	3 (1/4)		110
第48図	1022号溝6トレンチ出土土器実測図.	4 (1/4	376・377は1/6)	111
第49図	1022号溝6トレンチ出土土器実測図.	5 (1/4)		112
第50図	1022号溝6トレンチ出土土器実測図.	6 (1/4)		113
第51図	1022号溝8トレンチ出土土器実測図.	1 (1/4)		116
第52図	1022号溝8トレンチ出土土器実測図.	2 (1/4)		117
第53図	1022号溝8トレンチ出土土器実測図.	3 (1/4)		118
第54図	1022号溝8トレンチ出土土器実測図.	4 (1/4)		119
第55図	1022号溝8トレンチ出土土器実測図.	5 (1/4)		120
第56図	1022号溝8トレンチ出土土器実測図.	6 (1/4)		121
第57図	1022号溝8トレンチ出土土器実測図.	7 (1/4)		122
第58図	1022号溝9トレンチ出土土器実測図.	1 (1/4)		124
第59図	1022号溝9トレンチ出土土器実測図.	2 (1/4	498・502は1/6)	125
第60図	1022号溝10トレンチ出土土器実測図	(1/4)		127
第61図	1022号溝01・02トレンチ出土土器実測図	(1/4	524は1/6)	128
第62図	1022号溝02トレンチ出土土器実測図.	1 (1/4)		129
第63図	1022号溝02トレンチ出土土器実測図.	2 (1/4)		130

第64図	1022号溝02トレンチ出土土器実測図. 3 (1/4 561・562は1/6)	131
第65図	1022・1023号溝03トレンチ出土土器実測図. 1 (1/4)	133
第66図	1022・1023号溝03トレンチ出土土器実測図. 2 (1/4 597・598は1/6)	134
第67図	1022号溝セクション堤内出土土器実測図. 1 (1/4)	136
第68図	1022号溝セクション堤内出土土器実測図. 2 (1/4 622は1/8)	137
第69図	1023号溝周辺土器実測図 (1/4)	139
第70図	1022号出土土製品実測図 (1/2)	140
第71図	2007号溝 (P1516) 実測図 (1/30)	141
第72図	ピット1351実測図 (1/30)	142
第73図	石庖丁実測図 (1/2)	143
第74図	砥石実測図 (1/3)	144
第75図	その他石製品実測図 (1/3)	145
第76図	鉄製品実測図 (1/2 8・9は1/3)	146
第77図	その他の遺物実測図 (1/4)	147

表 目 次

表1	10号A案竪穴住居跡計測表	149
表2	10号B案竪穴住居跡計測表	149
表3	18号A案竪穴住居跡計測表	150
表4	18号B案竪穴住居跡計測表	151
表5	19号A案竪穴住居跡計測表	151
表6	19号B案竪穴住居跡計測表	152
表7	1002号A竪穴住居跡計測表	153
表8	1002号B竪穴住居跡計測表	153
表9	1003号A竪穴住居跡計測表	154
表10	1003号B竪穴住居跡計測表	155
表11	1011号竪穴住居跡計測表	155
表12	1018号A竪穴住居跡計測表	156
表13	1018号B竪穴住居跡計測表	157
表14	1019号A竪穴住居跡計測表	157
表15	1019号B竪穴住居跡計測表	158

表16	1019号 C 豎穴住居跡計測表	159
表17	1020号 A 豎穴住居跡計測表	159
表18	1020号 B 豎穴住居跡計測表	160
表19	1049号 A 豎穴住居跡計測表	161
表20	1049号 B 豎穴住居跡計測表	161
表21	1057号 豎穴住居跡計測表	162
表22	1413号 A 豎穴住居跡計測表	163
表23	1413号 B 豎穴住居跡計測表	164
表24	1413号 C 豎穴住居跡計測表	165
表25	1413号 D 豎穴住居跡計測表	165
表26	1413号 E 豎穴住居跡計測表	166
表27	1413号 F 豎穴住居跡計測表	167
表28	1414号 A 豎穴住居跡計測表	167
表29	1414号 B 豎穴住居跡計測表	168
表30	1414号 C 豎穴住居跡計測表	169
表31	1414号 D 豎穴住居跡計測表	169
表32	1415号 豎穴住居跡計測表	170
表33	1416号 豎穴住居跡計測表	171
表34	1419号 豎穴住居跡計測表	171
表35	1420号 豎穴住居跡計測表	172
表36	1421号 A 豎穴住居跡計測表	172
表37	1421号 B 豎穴住居跡計測表	173
表38	1421号 C 豎穴住居跡計測表	174
表39	1422号 A 豎穴住居跡計測表	175
表40	1422号 B 豎穴住居跡計測表	176
表41	1423号 豎穴住居跡計測表	176
表42	1424号 A 豎穴住居跡計測表	177
表43	1424号 B 豎穴住居跡計測表	178
表44	1425号 豎穴住居跡計測表	178
表45	1426号 豎穴住居跡計測表	179
表46	1435号 A 豎穴住居跡計測表	180
表47	1435号 B 豎穴住居跡計測表	181
表48	1436号 豎穴住居跡計測表	182

表49	1437号竖穴住居跡計測表	182
表50	1464号竖穴住居跡計測表	183
表51	1465号 A 竖穴住居跡計測表	183
表52	1465号 B 竖穴住居跡計測表	184
表53	1466号竖穴住居跡計測表	185
表54	1467号竖穴住居跡計測表	185
表55	2001号 A 竖穴住居跡計測表	186
表56	2001号 B 竖穴住居跡計測表	186
表57	1号案掘立柱建物跡計測表	187
表58	12号 A 案掘立柱建物跡計測表	188
表59	12号 B 案掘立柱建物跡計測表	188
表60	1002号掘立柱建物跡計測表	189
表61	1003号 A 掘立柱建物跡計測表	190
表62	1003号 B 掘立柱建物跡計測表	190
表63	1004号掘立柱建物跡計測表	191
表64	1005号掘立柱建物跡計測表	191
表65	1007号掘立柱建物跡計測表	192
表66	1008号 A 掘立柱建物跡計測表	192
表67	1008号 B 掘立柱建物跡計測表	193
表68	1009号掘立柱建物跡計測表	193
表69	1010号掘立柱建物跡計測表	194
表70	1019号 A 掘立柱建物跡計測表	194
表71	1019号 B 掘立柱建物跡計測表	195
表72	1029号 A 掘立柱建物跡計測表	195
表73	1029号 B 掘立柱建物跡計測表	196
表74	1031号掘立柱建物跡計測表	196
表75	1032号掘立柱建物跡計測表	197
表76	2013号 A 掘立柱建物跡計測表	198
表77	2013号 B 掘立柱建物跡計測表	199
表78	2014号掘立柱建物跡計測表	200

付 図 目 次

- 付図1 以来尺遺跡遺構配置図 (1/200)
- 付図2 建1002号群 (建1001~1005・1007~1010号)、住1002号群 (住1001・1002・1018号、住10・12・13号案)、溝1001 (1004) 号実測図 (1/60)
- 付図3 建1019号群 (建1019・1031・1032号)、住1019号群 (1019~1021・115号)、溝1003・2005・2006・16・18号実測図 (1/60)
- 付図4 住1466号群 (住1464~1467号、住18~20号案)、建2013号群 (建1029・2013号、建1・12号案)、溝1004 (1024) 号実測図 (1/60)
- 付図5 建2014号、㊶住1424号群 (住1013・1014・1024・1025号)、㊷住1422号群 (住1422・1423号)、㊸住1421号群 (住1415・1416・1421・1426・1437・2001号)、㊹住1420号群 (住1419・1420号) 実測図 (1/60)
- 付図6 住1003号群 (住1003・1011・1049・1157・1435・1436号)、中世溝1002号群 (溝1002・1005・1006号、小溝、Pイ~ト) 実測図 (1/60)



写真 周辺地形

I はじめに

1. 調査の経緯と組織

一般国道筑紫野バイパスは、同福岡南バイパス(福岡市東区二又瀬～筑紫野市永岡：19.08km)の後を受け、昭和47年度から建設に関わる調査が始まり、翌昭和48年度から事業化した大規模なバイパスである。この筑紫野バイパスの建設に先立ち、建設省九州地方建設局福岡国道工事事務所から福岡県教育庁文化課に当該地の埋蔵文化財調査に関する依頼があり、文化課は14カ所(地点)の文化財包蔵推定地を提示・回答した。このうち第7～14地点については昭和56年度～59年度に、第1～6地点については平成2～6年度に、また第6地点の補足調査を平成9年度に行った。第2～5地点については『一般国道3号筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第1～3集(福岡県教育委員会)として、第7～14地点については、第1集(福岡県教育委員会 1986)として成果が纏められている。また第1地点については、本年度第5集として報告する。各地点の詳細については以下のとおりである。

本書は第6地点「以来尺遺跡」の調査報告であるが、平成4～6年度調査分の旧石器時代～弥生時代の一部については平成8年度に『一般国道筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告第4集 以来尺遺跡Ⅰ』として報告している。今回は平成4～6年度調査分の弥生時代の遺構の続きを『以来尺遺跡Ⅱ』として報告する。弥生時代の残りと古墳時代以降の中世まで、平成10年度調査分、各時代・以来尺遺跡全体のまとめについては平成10年度に『以来尺遺跡Ⅲ』として報告する。

第1地点	諸田仮塚遺跡	筑紫野市大字諸田字仮塚および大字永岡字原 平成2年8月～平成3年4月 (平成9年度報告)
第2地点	仮塚南遺跡	筑紫野市大字諸田字仮塚 平成3年4月～平成3年11月 (平成7年度3月報告)
第3地点	久良々遺跡	筑紫野市大字筑紫字久良々 平成5年6月～平成5年10月 (平成7年度3月報告)
第4・5地点	倉良遺跡	筑紫野市大字筑紫字倉良・天神田 平成4年2月～平成4年5月 (平成7年度3月報告)
鉄塔移転地区	天神田遺跡	筑紫野市大字筑紫字倉良・天神田 平成2年5月～平成2年6月 (平成7年度3月報告)
第6地点	以来尺遺跡	筑紫野市大字筑紫字以来尺 平成4年5月～平成7年1月 (平成8・9・10年度報告)

なお、平成4～6年度の発掘調査、平成7年度の遺物整理、平成8・9年度の発掘調査・報告書作成にあたっての組織と関係者は次のとおりである。

建設省九州地方建設局福岡国道工事事務所

	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
事務所長	清水 英治	長谷部正和	長谷部正和	佐竹 芳郎	佐竹 芳郎	藤本 聡
副所長	高場 正富	中空 進	中空 進	中空 進	緒方 良一	兼式征二郎
	宮崎 鴨高	宮崎 鴨高	中馬 昌明	緒方 良一	藤並 之生	別府 五男
建設監督官	池田 勝美	野鶴 博任	野鶴 博任	松尾 義信	松尾 義信	有家 信義
	岡山 一則	平川 澄雄	平川 澄雄	山川 武春	山川 武春	柴田 智
調査第二課長	尾林 一字	西原 廣寿	西原 廣寿	西原 廣寿	田中 義高	田中 義高
調査係長	島 義博	島 義博	芹口 臣也	芹口 臣也	鶴 敏信	沓掛 孝
建設技官	松本 厚廣	松本 厚廣	桜井 俊郎	島田 隆一	島田 隆一	島田 隆一
工務課長	久原 義宜	久原 義宜	淵 幸一	淵 幸一	淵 幸一	河野 良行
工務第一係長	田中 秀明	田中 秀明	逆瀬川方久	黒木 俊彦	黒木 俊彦	梶原 俊之
工務第三係長	西島 正男	逆瀬川方久	田口 仁	田口 仁	田口 仁	斎藤 敬嗣

福岡県教育委員会

	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
総括						
教育長	光安 常喜	光安 常喜	光安 常喜	光安 常喜	光安 常喜	光安 常喜
教育次長	月盛清三郎	樋口 修資	樋口 修資	松枝 功	松枝 功	松枝 功
指導第二部長	松枝 功	丸林 茂夫	丸林 茂夫	丸林 茂夫	竹若 幸二	竹若 幸二
文化課長	森山 良一	森山 良一	松尾 正俊	松尾 正俊	松尾正俊 磯崎 好雄	石松 好雄
参事兼文化財保護室長	柳田 康雄	柳田 康雄	柳田 康雄	柳田 康雄	柳田 康雄	柳田 康雄
課長補佐	石川 元彬	清水 圭輔	清水 圭輔	元永 浩士	元永 浩士	城戸 秀明
課長技術補佐					井上 裕弘	井上 裕弘
庶務						
管理係長	毛屋 信	毛屋 信	杉光 誠	柴田 恭郎	黒田 一治	黒田 一治
事務主査	東 勇治	富田 浩一	安丸 重喜	久保 正志	久保 正志	久保 正志
主任主事	安丸 重喜	安丸 重喜	久保 正志	東 健二	東 健二	鶴我 哲夫
調査						
総括	副島 邦弘	橋口 達也	橋口 達也	橋口 達也	橋口 達也	橋口 達也
参事補佐		馬田 弘稔	馬田 弘稔			
主任技師	水ノ江和同	水ノ江和同	水ノ江和同	齋部 麻矢	齋部 麻矢	秦 憲二
技師	秦 憲二	齋部 麻矢	秦 憲二	秦 憲二	秦 憲二	森井 健二
		秦 憲二	杉原 敏之			
		杉原 敏之				

南筑後教育事務所

参事補佐兼文化班主任

馬田 弘稔

北九州教育事務所

参事補佐兼文化班主任

馬田 弘稔

馬田 弘稔

筑豊教育事務所

主任技師兼文化班主任

水ノ江和同

水ノ江和同

水ノ江和同

九州歴史資料館調査課

主任技師

齋部 麻矢

技師

杉原 敏之

杉原 敏之

杉原 敏之



第1図 国道3号筑紫野バイパス用地内の各調査地点 (1/10,000)

2 位置と環境

以来尺遺跡は福岡県筑紫野市大字筑紫字以来尺927・929・932に位置する。筑紫野市は佐賀県との県境に位置し、福岡県側を太宰府市・小郡市・夜須町と接している。西に脊振山系・東に三郡山塊が迫り、その間が約2km幅の狭長な平野になっている。通称「二日市地峡」と呼ばれる地域で、福岡平野と筑紫平野の接点となる。福岡平野は国指定史跡の水城付近で狭まり、「遠の朝廷」と呼ばれた大宰府を経てこの地域を通り、筑紫平野に抜けている。このため古来から筑後・朝倉や長崎方面に向かうために必ず通過する交通の要所であり、古代においては大宰府から南下するルートであり、江戸時代においては長崎街道・日田街道・薩摩街道・太宰府天満宮参詣道が合流していた。現在も国道3号をはじめ西日本鉄道・JR線・九州縦貫自動車道が通り、ここから枝分かれして各方面に向かっている。また平野の北西には鷺田川が、西には筑後川と合流して有明海に注ぐ宝満川が流れ、この地域の水源となっている。また、この宝満川中流域の丘陵上には、旧石器～歴史時代の遺跡が数多く存在している。本遺跡は脊振山系から平野に向かって東側に派生した丘陵が、さらに東側にヤツデ状に延びる舌状丘陵の緩斜面に位置している。400m西南には、「延喜式」にも登場する筑紫神社が控え、さらに南には長崎街道の筑前六宿の一つである原田宿がある。

弥生時代は、この周辺地域一体が全盛期であった。前期初頭にはすでに大規模な集落が出現し、夜須町の東小田・峯遺跡のように別格として埋葬されるような集団の存在も確認されている。前期前半はまだその実態が明らかにはなっていないが、小郡市三国ノ鼻遺跡では木棺墓・甕棺墓などの集団墓が見つかったことから、集落の存在が予測できる。前期後半から中期前半になると三国丘陵を中心に遺跡が飛躍的に増加する。まず丘陵の平坦地に集落を形成するが、人口増加のため徐々に緩斜面へと広がっていく状況も見られる。また、それに伴い小郡市横隈北田遺跡のような、約70基の貯蔵穴群だけに環濠を巡らせて区画する遺跡が存在するものも、大規模な貯蔵施設の集落全体による管理が必要となったのであろう。中期後半にはこの丘陵上の集落は廃れて行き、人々は台地へと移動する。またこの時期は青銅器の生産が行われ始めた時期で、少数ではあるが出土する。またこの金属器の生産・使用に伴い、集落間の格差が顕著になり始める。

以来尺遺跡と同じ弥生時代後期の集落は、筑紫野市・小郡市の、広い範囲を確保できる丘陵平坦部に広がっていく。遺跡数としては中期の全盛期に比べやや減少の感があるが、個々の規模は大きくなり、環濠を巡らせる集落が形成されるようになる。小郡市の三国の鼻遺跡では、丘陵頂上の平坦地を囲むように環濠を巡らせ、その中に34軒の住居が時期をやや異にして配されている。また青銅器生産・埋納関係の遺物の量では比較にならないものとなる。集落遺跡としては、大規模なものに小郡市の三国の鼻遺跡の環濠集落や、夜須町のヒルハタ遺跡の多数の

住居群などがある。また、この時期には、中期に始まった青銅器の生産・埋葬が盛んになり、集落や墓地から各種製品や鑄型が多く出土するようになる。バイパス内の調査においても、第2地点の仮塚南遺跡で広形銅戈の鑄型が出土している。この他にも多くの遺跡が確認されており、この地域には特別な力を有する集落が点在していたことが窺われる。

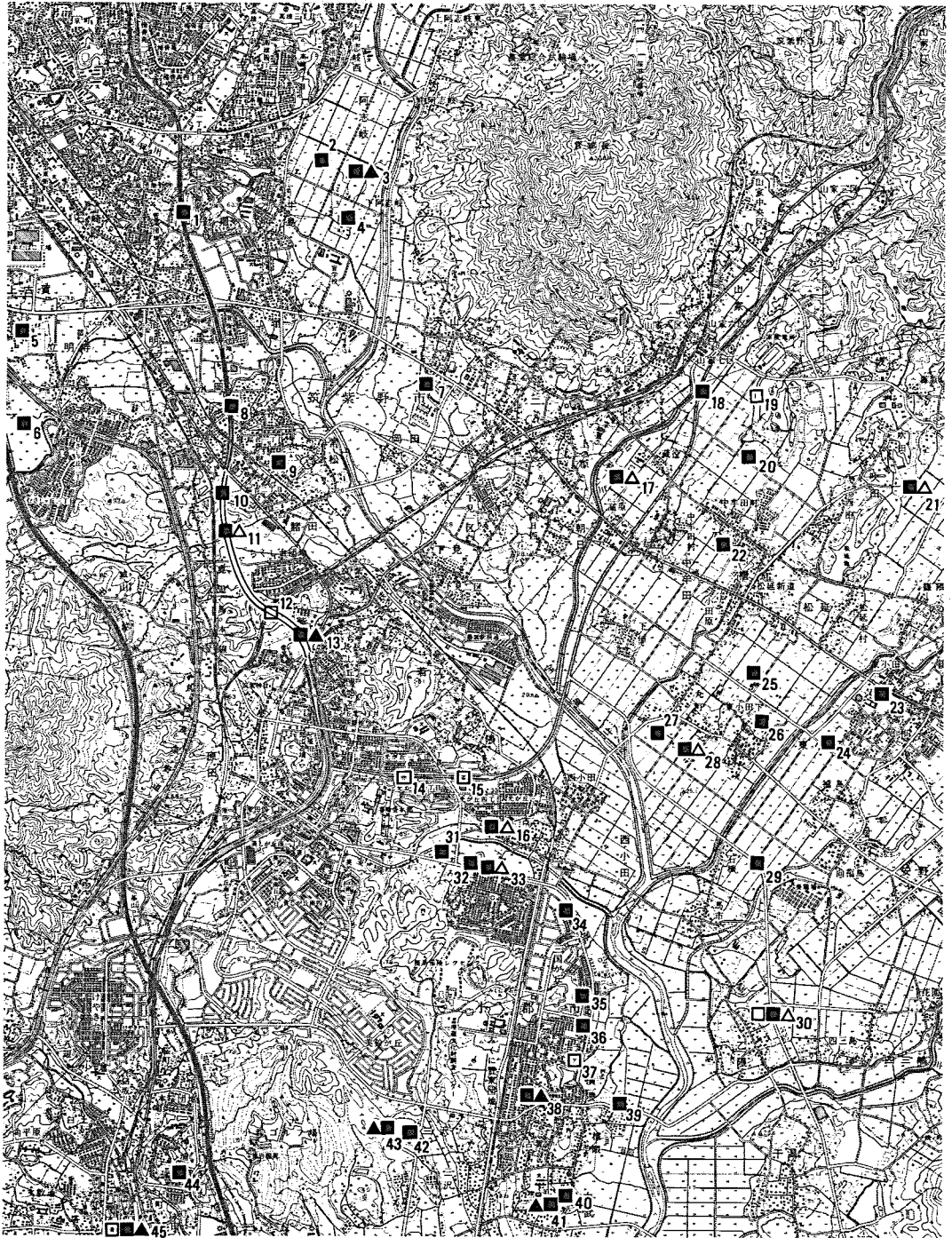
参考文献

【以来尺遺跡Ⅰ】一般国道3号筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告第4集
 福岡県教育委員会編 1997
 【仮塚南遺跡】一般国道3号筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告第3集
 福岡県教育委員会 1995
 【夜須町史】夜須町史編纂委員会編 1991
 【太宰府市史 考古資料編】太宰府市教育委員会 1992
 【小郡市史】小郡市史編集委員会編 1996

(齋部)

弥生時代後期周辺遺跡分布図掲載の遺跡一覧

- | | | |
|-----------------|---------------|--------------|
| 1 野黒坂遺跡 | 19 中島遺跡 | 37 横隈狐塚遺跡 |
| 2 御笠地区遺跡E地点 | 20 茶屋原遺跡 | 38 横隈山遺跡 |
| 3 御笠地区遺跡F地点 | 21 ヒルハタ遺跡 | 39 横隈上ノ原上遺跡 |
| 4 御笠地区遺跡G地点 | 22 杵野遺跡 | 40 三国小学校遺跡 |
| 5 立明寺遺跡 | 23 夜須中学校遺跡 | 41 みくに保育所内遺跡 |
| 6 貝元遺跡 | 24 塔ノ本遺跡 | 42 三沢上棚田遺跡 |
| 7 日焼遺跡 | 25 浦の原遺跡 | 43 三沢栗原遺跡 |
| 8 永岡遺跡 | 26 慮木菽遺跡 | 44 城ノ上遺跡 |
| 9 常松遺跡 | 27 迫額遺跡 | 45 千塔山遺跡 |
| 10 諸田仮塚遺跡 | 28 中原前遺跡 | |
| 11 仮塚南遺跡 | 29 東小田七坂遺跡B地点 | |
| 12 倉良遺跡 | 30 乙隈天道町遺跡 | 凡例 |
| 13 以来尺遺跡 | 31 津古東宮原遺跡 | ■ 後期の遺跡 |
| 14 池ノ上遺跡 | 32 津古西台遺跡 | □ 後期の埋葬遺跡 |
| 15 平原遺跡 | 33 津古東台遺跡 | △ 青銅器の鑄型出土遺跡 |
| 16 隈・西小田遺跡6地点 | 34 津古生掛遺跡 | ▲ 青銅器出土遺跡 |
| 17 宮ノ上遺跡 | 35 三国ノ鼻遺跡 | |
| 18 大島遺跡 | 36 横隈鍋倉遺跡 | |



第2図 弥生時代後期の以来尺周辺遺跡分布図 (1/50,000)

II 発掘調査の記録

1. 調査の概要

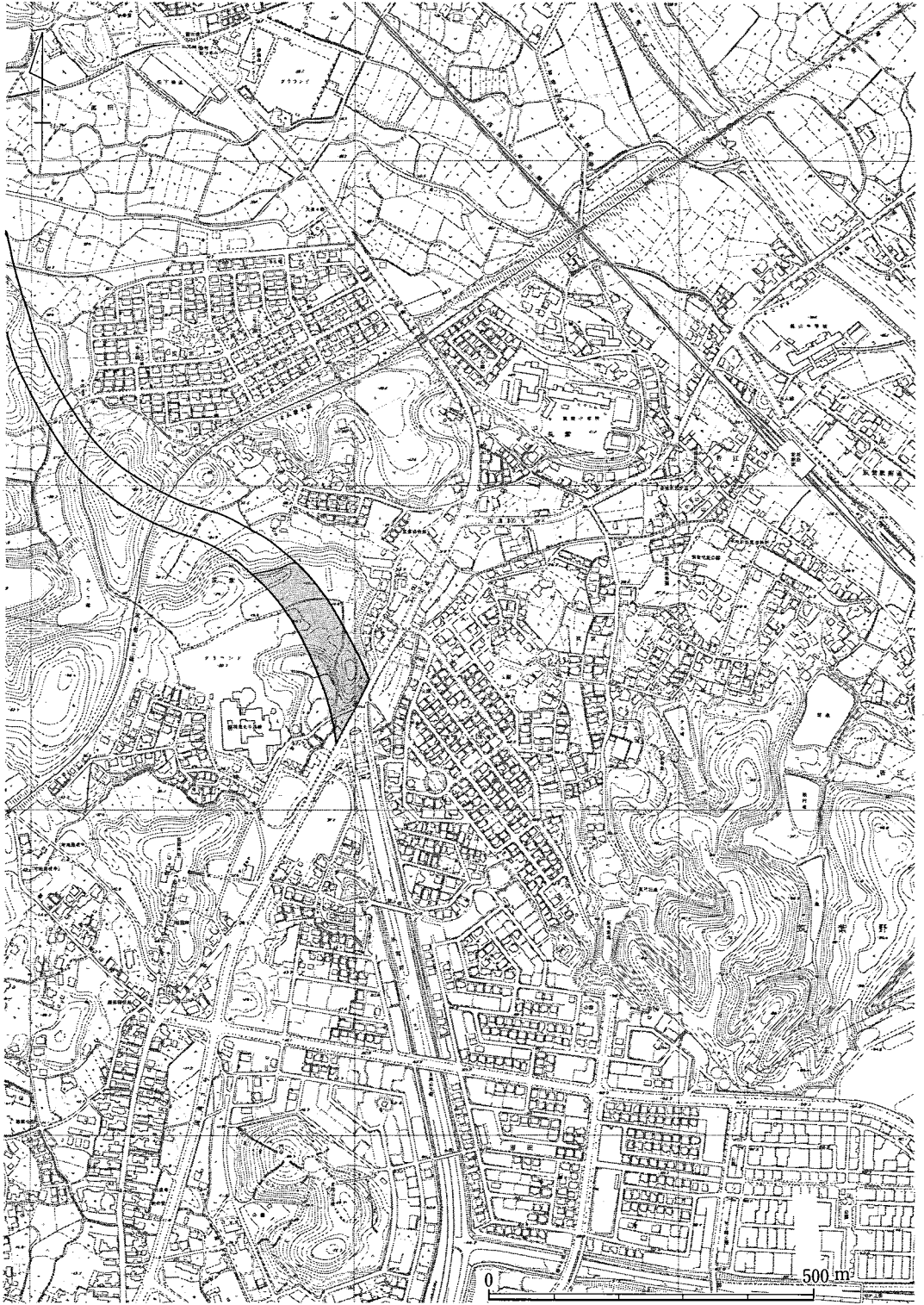
以来尺遺跡の発掘調査は、平成4（1992）年5月6日から平成7（1995）年1月20日まで実施されたが、途中の平成5年6月7日から同年10月4日までの4カ月間は筑紫野バイパス3地点「久良々遺跡」の発掘調査に移行したため、実際の調査期間は2年4カ月である。また、平成9年度に農道付け替えのための事前調査を、急遽平成9年10月29日から11月18日まで補足調査として行った。一般国道3号筑紫野バイパスの建設に伴う事前調査の場合、普通は幅40mほどの細長い調査区になるが、標高48mの丘陵を標高40m程度までに掘削するため多少の法面が必要となり、実際には幅70mの比較的広い調査区になった。当初の調査予定面積は、長さ230m、幅70mの約14,400㎡であったが、土取りや開墾による削平、農道付け替え部分の追加により実際の調査面積は12,360㎡になった。

調査区は標高46～48m付近の丘陵上の平坦部と標高38～46mの丘陵斜面部とに分かれ、また弥生時代・古墳時代・中近世の各遺構も同一面で検出された。

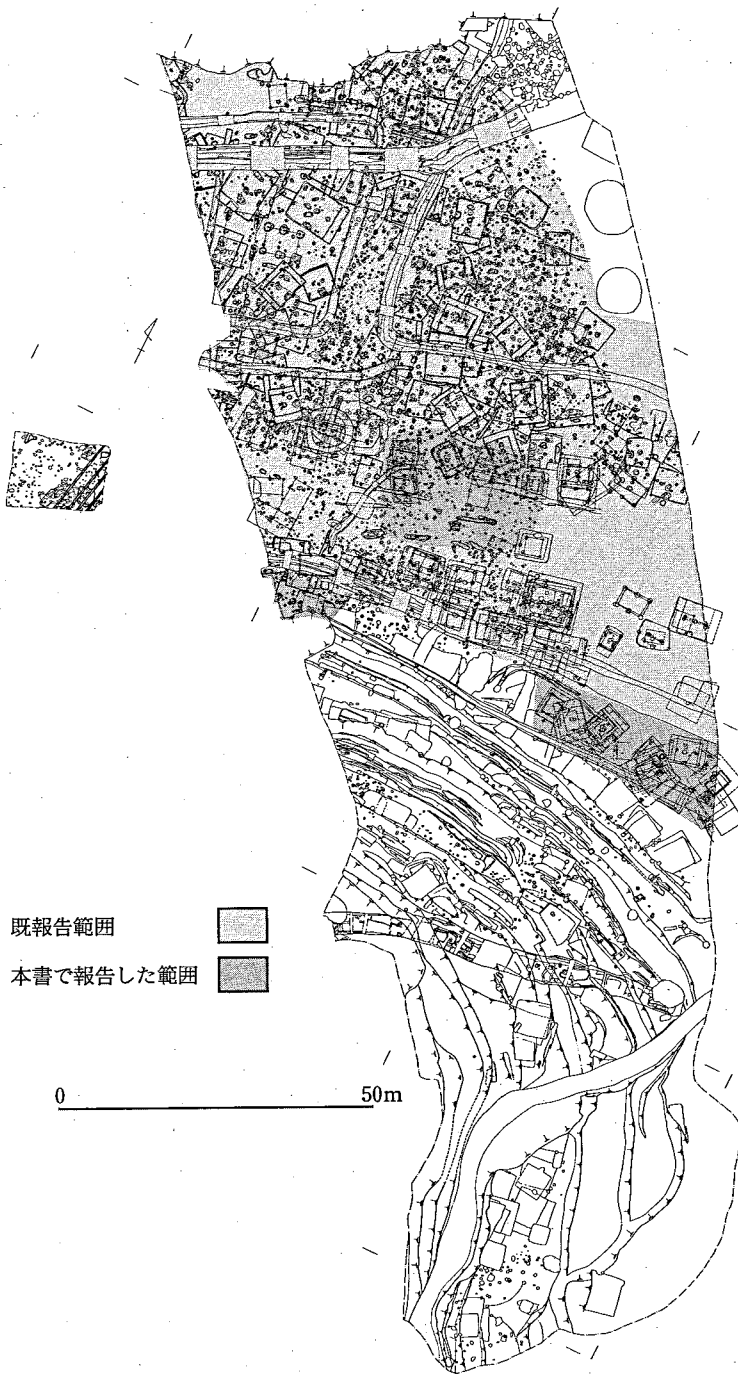
調査の大まかな経過としては以下のとおりである。

平成4年5月6日	調査開始 調査員：水ノ江
平成4年7月21日	調査員：秦合流
平成5年4月1日	調査員：水ノ江と馬田交代
平成5年4月30日	気球写真撮影
平成5年11月4日	調査員：秦と齋部交代
平成6年8月24日	調査員：齋部と杉原交代
平成6年12月12日	気球写真撮影
平成7年1月6日	報道機関への発表
平成7年1月8日	現地説明会（400人参加）
平成7年1月20日	調査終了 調査員：馬田・杉原
平成9年10月29日	農道付け替え部分調査開始 調査員：森井
平成9年11月18日	農道付け替え部分調査終了 調査員：森井

本遺跡からは、旧石器時代から中世までパンケース540箱に及ぶ年代幅の広い遺物が出土したが、遺構の大半は弥生時代後期に属する集落で、その他に古墳時代後期の集落と墳墓や、中近世（14～16世紀）の集落と山城も若干含まれる。報告は平成9・10年度の2カ年に分ける予定であったが、遺構・遺物の量や追加調査の関係で、平成8～10年度の3カ年で行うこととなった。平成8年度は旧石器・縄文時代の遺物と主に丘陵平坦部の弥生時代の遺構と遺物を、平成9



第3図 以来尺遺跡調査地点 (1/10,000)



第4図 以来尺遺跡遺構配置略図 (1/1,200)

年度は丘陵平坦部の残りの部分の弥生時代の遺構と遺物と斜面裾部の溝状遺構の遺物を、平成10年度には主に丘陵斜面部の弥生時代の遺構と遺物および全体の古墳時代以降の遺構と遺物、農道付け替え部分の遺構と遺物についての報告をそれぞれに行う（第4図）。

なお、調査においては筑紫野市教育委員会と随時協議を行い、発掘作業員の手配や関係機関との調整にご協力・ご配慮を賜りましたこと、心からお礼申し上げます。

2. 弥生時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

127号竪穴住居跡（図版1、第5図）

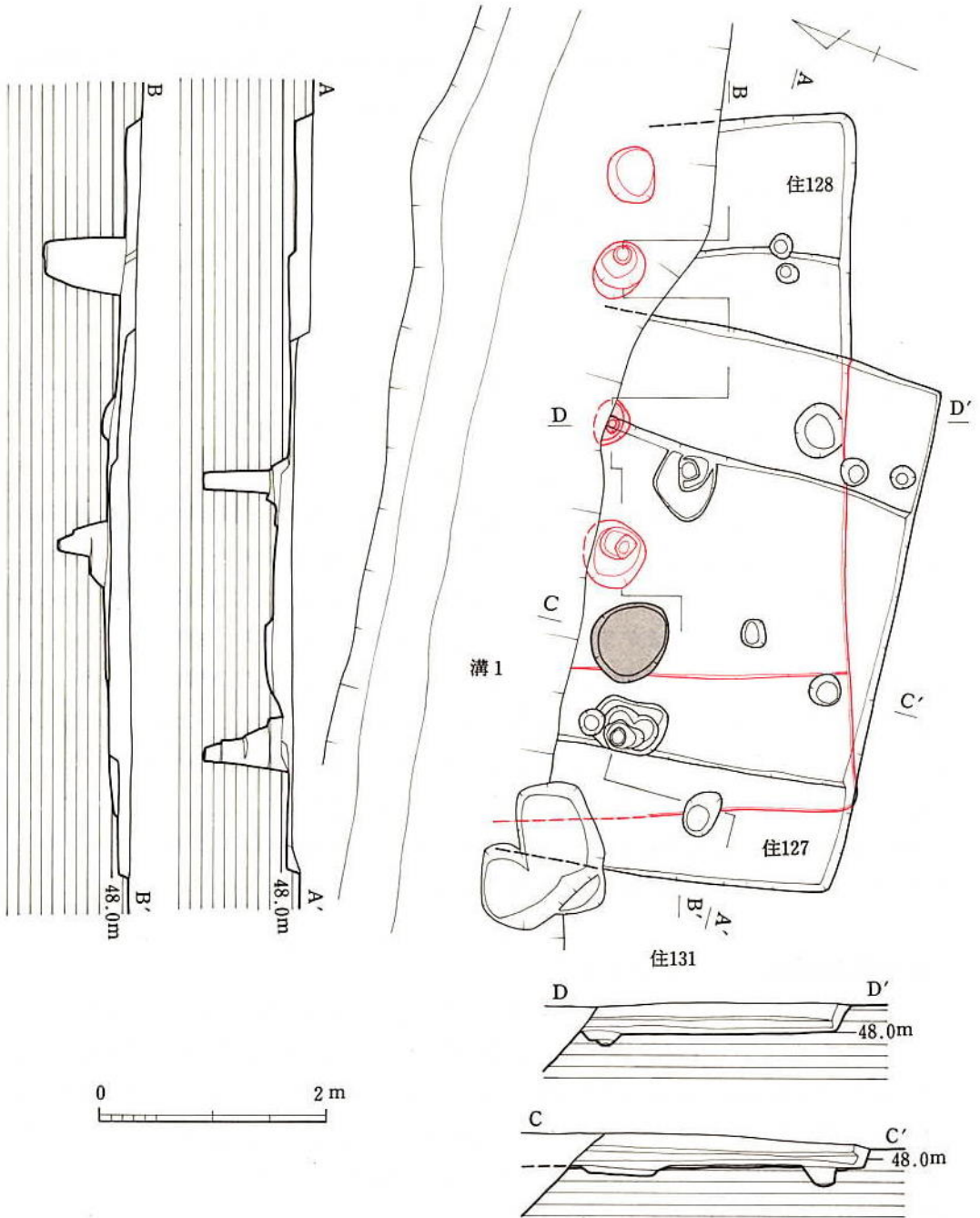
平坦面の西南隅に位置する。北半分を1号堀によって開削されているが、支柱穴と炉が検出されたことから、規模が復元できる。南辺は4.8mで、炉・支柱穴を中点とすると4.3mと考えられる。このことは、1号堀の北側に北辺が見られないことから妥当であろう。したがって、平面形は正方形に近かったと推定される。128号竪穴住居跡との切り合い関係は検出時に明確に観察された。西辺には地山削り出しのベット状遺構がつき、東辺には切り合う部分にのみ貼土がある。床面は硬化した貼床があり、ベット状遺構上にも及んでいた。炉跡は2つの支柱穴の中心からやや西寄りにみることができる。支柱穴は、西側は掘形の形状から柱は抜き取られておるものと思われ、東側は根元で切られたと思われる。屋内土坑は南辺で検出されなかったため、北辺に付いていたものと思われる。西側のベット状遺構上に焼土があったが、廃棄されたものか、埋没段階での焼土で、本遺構に伴うものではない。また、西側に位置する131号竪穴住居跡とも、切り合い関係や屋内土坑の位置から、伴わないと考えられる。

遺物（第6図14～16）14は小型甕か壺の底部であろう。15は高杯の脚部で胎土は精良である。16は小型の器台か支脚の裾部であろう。外面は2次焼成により赤変している。（秦）

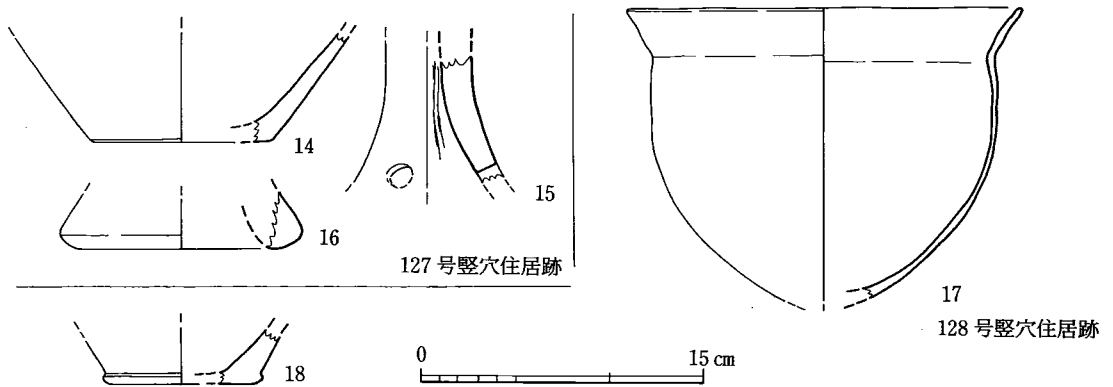
128号竪穴住居跡（図版1、第5図）

平坦面の西南隅に位置する。北半分を1号堀によって開削され、127号竪穴住居跡に西半分を切られているが、南辺と支柱穴・炉が床下に遺存していたことから、規模が復元できる。短辺は6.1mで、炉を中点とすると長辺は4.2mに復元できる。この規模であれば、住居北隅が1号堀の北側に検出されるはずなので、1号堀の掘形として掘った張り出し部分がこれに当たると思われる。床面は127号竪穴住居跡よりも若干高く、炉の残りは良くない。支柱穴は、掘形の形状から柱は抜き取られているものと思われる。

東西両辺に地山削り出しのベット状遺構がつく。



第5図 127・128号竪穴住居跡実測図 (1/60)



第6図 127・128号竖穴住居跡出土土器実測図 (1/4)

遺物 (第6図17・18) 17は鉢で、器壁が薄く、胎土は精良である。18は小型器種の底部であろう。 (秦)

130号竖穴住居跡 (図版1、第7図)

平坦面の西南隅に位置する。南半部を攪乱によって削られているため、残りが良くない。上面の削平も著しく、壁がわずかしか残っていない。特に南西側は床面も失われていたため、西接する132号竖穴住居跡との切り合い関係は不明確であった。ここでは切っているものと考えたい。北西コーナーはベット状遺構の東端部の可能性もあり、明確なのは北東コーナーのみであるため、規模を復元することができない。東側のベット状遺構は、134号竖穴住居跡と切り合う部分は貼土で、それ以外は地山削り出しであった。屋内施設は明確でなく、西側支柱穴は特定できない。屋内土坑は南壁についていたものと思われる。

残りが悪いため、遺物量も少なく、時期を特定する遺物は出土していない。 (秦)

131号竖穴住居跡 (図版1、第7図)

平坦面の西南隅に位置する。南半部を攪乱によって削られているため、残りが良くない。上面の削平も著しく、壁がわずかしか残っていない。特に南西側は床面も失われていたため、132号竖穴住居跡との切り合い関係は不明確であったが、屋内土坑が132号竖穴住居跡の北壁の下から検出されたので、切られているものと考えられる。129号竖穴住居跡との関係は検出時から明確であった。また、炉を切られているため、127号竖穴住居跡との切り合い関係も明確である。西側支柱穴は129号竖穴住居跡の下から、東側支柱穴は128号竖穴住居跡の床下から検出されており、掘形の形状から柱は抜き取られているものと思われる。すべての壁が切られているため、規模を推定できない。

残りが悪いため、遺物量も少なく、時期を特定する遺物は出土していない。(秦)

132号竪穴住居跡 (図版1、第7図)

平坦面の西南隅に位置する。南半部を攪乱によって削られているため、残りが良くない。上面の削平も著しく、壁がわずかしか残っていない。特に南側は床面も失われていたため、西接する130号竪穴住居跡との切り合い関係は不明確であった。西側には作り付けのベット状遺構が検出されているが、131号竪穴住居跡と切り合う部分のみの貼土であるのかもしれない。平面長方形プランのコーナー部分が残っていないので明確でないが、炉と北壁の距離から、短辺4.4mの規模を復元することができる。屋内土坑は南壁についていたものと思われたが検出されなかった。支柱穴は掘形の形状から、2本とも柱を抜いていると考えられる。

残りが悪いため、遺物量も少なく、時期を特定する遺物は出土していない。(秦)

134号竪穴住居跡 (図版1、第7図)

平坦面の西南隅に位置する。南半部を攪乱によって削られているため、残りが良くない。上面の削平のわりには、壁が20cm残っており、南西コーナーの隅丸形は明瞭に検出された。西側は130号竪穴住居跡に切られるため、床下からプランがわずかに見られる程度であった。東壁は1025号竪穴住居跡に切られており、支柱穴も不明確であったことから、規模は正確でないが、長辺5.3m、短辺4.3mの隅丸方形プランを復元できる。炉と屋内土坑は攪乱を受けて失われたものと思われる。

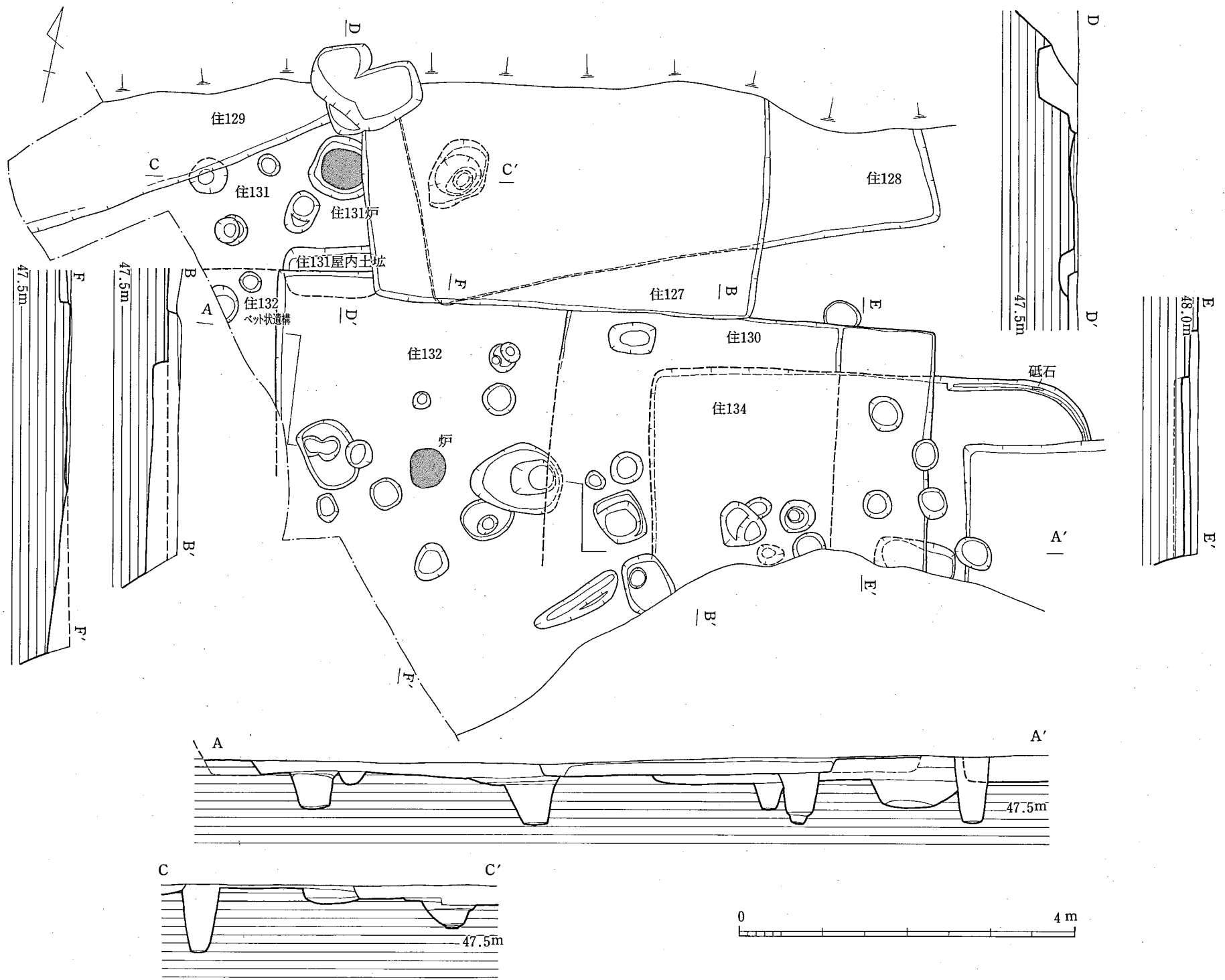
遺物(第74図1) 第74図1は東北隅の周溝近くから出土した粘板岩製砥石で、6面使用の完形品である。上下端面は整形している。(秦)

1002号竪穴住居跡 (図版6・7・10、付図2、表7・8)

建1002号群(建1001~1005・1007~1010号)、住1002号群(住1001・1002・1018号、住10・12・13号案)、溝1001号群(溝1001・1003・2001~2007号、土坑1001~1003号、土坑13号) 溝1004号群(溝1004・1024・1・15・16号)の重複関係

上記の遺構群のなかで、住10・12・13号案は1992年(平成4年度)に調査され、住1018号は1993年度に調査し、共に1996年度の『以来尺遺跡I』(以下、『I集』と略)に、それぞれ住10・12・13号や住143号として既報告されたものがあるが、遺構群の重複関係を検討する際、以下の①~③について留意すべきである。

留意事項① 既報告の住12号の説明文では、「当初は1軒の住居跡という認識で掘り進めたが、貼床を除去した時点でもう1軒分の炉跡・支柱穴・屋内土坑・壁溝が検出され、ほぼ同じ場所で立て替えられた2軒分の住居跡という結論に至り」、「切っている住居跡を12号、切られ



第7図 130~132・134号竖穴住居跡実測図 (1/60)

ている住居跡を13号とした」と記され、『I集』の第40図では、住12号を黒線・住13号を赤線で掲示されている。

しかし『I集』で赤線掲示の「主柱穴」の掘り形内〔本書の『以来尺遺跡II』（以下、『II集』と略）の付図2での赤線掲示の棟持柱P22掘り形内〕には2個の柱穴が検出・掲示されていること（『II集』の住12・13号案では、この2個を赤・青線で掲示させて頂いた）や、住12・13号の各施設として掲示された「炉」（『II集』での「床中央部土壇D11」）・説明文中の「屋内土坑」（同「壁中央部土壇D21」）・「ベッド」（同「壁沿・壁隅高床」）などの配置・重複関係掲示状況についてや、加えて実際の1/20遺構実測図を再検討させて頂くと、下記のとおりである。

実測図中の南壁検出面標高と「ベッド」検出面標高の註記から、その比高差は0～2cmとされていることなどや、上述の掘り形内で2個の柱穴が検出されていることなどや、住居規模などから、『II集』の付図2掲示の住12・13号案のように、住13号がほぼ同じ規模で、住13号B案（青線）⇒住13号A案（赤線）の順に新しく建て替え後に、さらに住13号A案の北壁外に壁沿高床を配した住12号案（黒線）へと建て替えたことが十分に考えられる。

以上のことから、1992年度調査時点で既に検出・実測はされていたが、『I集』の第40図では省かれている建1008号AのP1・建1008号BのP21を加え、『II集』での建1008号の建物規模や後述する各遺構間の重複関係の説明上、同第40図に加筆・検討などをさせて頂き、また、その検討案（住13号B案⇒住13号A案⇒住12号案）を再掲示させて頂いた。

留意事項② また、『I集』での住10号も、既報告では建て替えについては言及されていないが、この住10号は『II集』の付図2に示した1992年度に調査がなされた調査区界（住13号A案のD11南側～住10号A案のD11北側～建1009号のP1部にかけて示した調査区界）以南の1993年度の筆者調査区については、後述する建1003・1008・1009号などの建1002号群の各建物規模を把握するために、調査区界以北についても一部再調査・精査を実施した結果、『II集』の付図2に赤線で示したように『I集』の第34図で掲示・既報告説明の「屋内土坑」内で住10号A案より古い住10号B案の柱穴様小ピットDP212とその抜去痕や、同「中央溝」（『II集』の住1421号説明文中で筆者使用の棟持柱筋区画溝aHM11）南側の「主柱穴」（住10号A案掲示の黒線の棟持柱P22の掘り形）よりも古い住10号B案のP22掘り形）や、住10号B案の施設と考える住10号A案よりも古い南・東壁沿高床や一段低い中央部床面を検出し、住10号の遺構実測図にもその旨の各検出面標高を註記・下部遺構として平面図を追加していたことなどから、（住10号は住10号B案⇒住10号A案）へと新しく建て替えられたことが、十分に考えられる。

以上のことから、1992年度調査で既に検出・実測はされていたが、『I集』の第34図では省かれている建1002号のP1・建1005号のP2・建1009号のP22や、1993年度調査で検出した建1005号のP3や住10号A案のP12・14などを加え、留意事項①で前述の住12・13号案同様に、各建物規模や後述する各遺構間の重複関係の説明上、加筆・検討案（住10号B⇒住10号A）も再掲

示させて頂いた。

留意事項③ さらに、住1018号Aについては、1993年度に調査し、『I集』の第151図に掲示され、既報告された住143号と大略同じ住居ではあるが、若干遅れて調査担当者の一員に加えさせて頂いた馬田も共に掘り下げた下部遺構を検出後、住143号実測図中に赤線でその旨註記・追加実測した住1018号Bが第151図では省かれ、住143号（大略住1018号A）の建て替えについての説明はなされていない。

また、同図では、住143号を切る『II集』の付図2の建1003号のP21は掲示されているが、住143号を切る同建1004号のP7は掲示されていない。

以上のことなどから、『I集』で住143号として大略報告された住居についても、調査時に付していた住1018号として、留意事項①・②同様に後述する遺構間の重複関係や各建物規模の説明上『II集』の付図2に掲示し、(住1018号B⇒住1018号A)へと建て替えられていることにも言及する。

さて、以上の留意事項①～③のような状況を踏まえて、各遺構について、継続した建て替えや掘り替えが確認できた新・旧関係を旧⇒新、その新・旧関係を示さない遺構間の切り合いによる新・古関係を古⇒新で示すと、各遺構群の重複関係は以下の㊸～㊹のように判断できる。

㊸住1002号は建1008号AのP2と建1008号BのP1・2を切り、建1008号AのP3は建1008号BのP22を切り、建1008号BのP5は建1010号のP3を切る。

また、建1008号A（主軸方向N-12°-W）と建1008号B（同N-11°-W）は主軸方向が一致するに等しいだけでなく、建1008号Aの東側の桁行柱筋のP1・3は建1008号Bの重要な外接の棟持柱（他の建物では、棟持柱抜去に伴い土器埋納祭祀例も認められる）P21・22をそれぞれ整然と切るなどの意図的（継続的）重複関係にあることから、(建1010号→建1008号B⇒建1008号A→住1002号B⇒住1002号A)。

㊹なお、1992年度調査の遺構実測図では、建1008号AのP1・建1008号BのP21は既報告の住13号（住12号）南壁に切られて検出されているが、建1008号を建物として確認したのは92年度調査区外の93年度調査区であり、留意事項②で既述したように、建1008号BのP4も住10号A案の南壁沿いに張られた高床を92年度調査で除去後の93年度調査での検出であることから、建1008号と既報告住10・12・13号間の新・古関係については不明瞭符？を加えさせて頂くと、(建1010号→建1008号B⇒建1008号A→？住10号B案⇒住10号A案。建1010号→建1008号B⇒建1008号A→？住13号B案⇒住13号A案⇒住12号案)。

㊺建1003号Aは、P2・6が建1003号BのP2・6をそれぞれ切り、P81が建1009号のP21を切り、P4・21が既報告の住143号を切ることから〔住1018号B⇒住1018号A→建1003号B⇒建1003号A。建1009号→建1003号B⇒建1003号A〕。

㊻なお、建1029号は留意事項②で既述したように、92年度調査でP2・22が既報告の住10号

に切られて検出され、93年度調査でもP3が住10号に既に切られた状態で検出したが、92年度調査でのP1は未検出であることから、93年度調査で建物として確認した建1009号と既報告の住10号間の新・古関係については不明瞭符?を加えさせて頂くと、〔建1009号→建1003号B⇒建1003号A→?住10号B案⇒住10号A案〕。

㊸建1004号は、P6・7が既報告住143号を切ることから、〔住1018号B⇒住1018号A→建1004号〕。

㊹なお、既報告住10号と建1002・1005・1007号間との重複関係についても、建1002号のP2は92年度調査で住10号A案の南壁沿高床下から検出され、建1005号のP2は92年度調査で中央部の張り床を切って検出され・P3は93年度調査で92年度掘り下げの南壁に切られて検出し、建1007号のP3は92年度調査では未検出であるが、留意事項①～③で既述したように、建物3棟は93年度調査で確認したものであることから、前述㊸・㊹同様に不明瞭符?を加えさせて頂くと、〔建1002号→?住10号B案⇒住10号A案。建1005号→?住10号B案⇒住10号A案。建1007号→?住10号B案⇒住10号A案〕。

㊺溝1004号(1024号)は、付図1の遺構配置図に示すように、建1002・1008・1010号の柱穴や既報告住10号の南壁、既報告の住137号(1021号)・141号(1019号)や土壇11号(土壇1003号)を切って中世の溝1号に続き、また、住20・24号を切る溝へも続く、中世の溝と考えられる。

㊻なお、建1001・1002号と溝1001号群の重複関係については、建1002号で後述する。

1002号A住居

住居規模は、床面積が約17.2㎡(北-南壁間の桁行方向が約418cm・東-西壁間の梁行方向が約412cm)で、北・南側の柱筋に内接棟持柱P21・22を配し、桁行換算の算出値は30.7cm。

ところで、住1002号A・BのP11～14の主柱配置規模は、それぞれ桁行Aが277cm・174cm、梁行Bが228cm・180cmで、住Bから住Aへの建て替えに際しては、住Bの西側の桁行柱筋下で桁行柱間(P13-P14)を北・南方にそれぞれ(276cm-174cm)× $\frac{1}{2}$ =51cm大きく取り、梁間をこの51cmとほぼ等しい228cm-180cm=48cm東方に大きく取ることで、床規模を住Bの東壁外に拡大したものと考えられる。

なお、床中央土壇D11は住Bとほぼ同じ位置で、換言すれば、主柱配置内の床面も含めて、高床よりも一段低い中央部床面の東方への規模拡大が意図されており、住Bの東壁外配置の東壁沿高床配置を考慮したものと言えよう。

また、この東壁沿高床幅は、通有例よりも幅狭としたものか。

1002号B住居

住居規模は、床面積が約14.5㎡(北-南壁間の桁行方向が約418cm・東-西壁間の梁行方向が約347cm)で、北・南側の柱筋内に独立棟持柱P21・22を梁間中央より若干西寄りに配し、桁行

と（西柱筋一西壁）間換算の算出平均値は29.5cm。

（馬田）

註)

1. 秦憲二編「以来尺遺跡Ⅰ」（『一般国道3号 筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第4集、福岡県教育委員会、1997）

1003号竪穴住居跡（図版2～4・14・15、付図6、表9・10）

住1003号群（住1003・1011・1049・1157・1435・1436号、祭祀土壇1009号）、**住1060号群**（住1004・1005・1060号外）と**溝1002号群**（溝1002・1005・1006号）の重複関係

上記9軒外の住居群のなかで、5軒に建て替えが確認でき、周辺住居群を含めると約15軒前後の重複関係となるので、以下では、住1003号群（重複計9軒）の住居を中心に説明する。

なお、建て替えや掘り替えが確認できた新・旧関係を旧⇒新、遺構間の切り合いによる新・古関係を古⇒新、確認できた新・旧関係や遺構間の切り合いによる新・古関係などから意図的（継承的）に重複させた（させられた）と考えられる前・後関係を前⇒後で示し、住1003号A・住1003号Bなどを単に住A・住Bなどと略して説明すると、以下Ⅰ～Ⅲ小群で①～⑤の重複関係上の特徴を指摘できる。

Ⅰ住居群 住1005号? →住1003号B ⇒住1003号A →住1049号B ⇒住1049号A →住1004号。住1049と住1060号との重複関係と、住1005号? →住1003号については、住1004・1005・1060号外を『Ⅲ集』で報告するなかでの検討とする。

①住1049号の南壁と住1060号の北壁間は約160cmと近接することから重複関係にあるが、〔どちらが新しいかは不明〕である。

なお、両者についての詳細は、住1060号の『Ⅲ集』での報告事項とする。

②住1005号は、東壁が住1060号の北東壁隅部に切られ(住1005→住1060号)、住1005号の東壁方向と住1003号の西壁方向が整然とすることから、住1413・1414号例のように、住1005号→住1003号とも考えられるが、このこと(住1005号? →住1003号)についても、住1005号の『Ⅲ集』での報告事項とする。

③住1003号A・Bは、棟持柱筋以東の住AのD11検出張り床下で、ほぼ同筋下に配された住BのD11を検出し、住Aの北壁沿高床下面で住Bの北壁沿高床も検出できたことなどから、(住B⇒住A)に建て替えたことが確認できる。

④住1049号A・Bは、住AのP11が住BのP11を切り、住居個別説明で後述する。住B構築時『地鎮祭類似の柱建て(杭打ち)祭祀行為』痕⇒『構築規模基準杭』痕と考えられる、床中央部土壇D11内の柱(杭)様材抜去痕D P111を検出できたことなどから、(住B⇒住A)に建て替えたことが確認できる。

⑤なお、住1003号は、上述のD P 111に西壁を切られ、住1049号Aの東壁中央に配された方形区画H21内の柱穴様小ピット抜去痕H P 211(深さは数cmしかなかったため、1/20実測を待たずに1/100の平板測量のみとし、住1003号掘り下げ作業をした)にも北壁沿高床縁を切られることから、(住1003号→住1049号)の古→新関係が確認できる。

⑥『Ⅲ集』で報告する住1004号は、住1003号群・住1060号群外のなかでは最も新しく、古墳時代中期?(遺物未検討)のカマド付設住居で、住1005号外の住居を切り、中世の溝1002号に切られる(住1005号外→住1060号→溝1002号)。

Ⅱ住居群 住1157号→住1436号⇒住1435号B⇒住1011号→Ⅰ住居群中の住1003号→住1049号。

⑦各住居の北東壁隅部の新・旧関係は、住1436号の床に張り床を施して住1435号Bの北東壁隅高床を配し(住1436号⇒住1435号B)、住1435号Bの同高床に張り床を施して住1435号Aの北東壁隅高床を配し(住1435号B⇒住1435号A)、住1435号Aの同高床と東壁沿の一段低い中床に張り床を施して住1011号の東壁沿高床を配す(住1435号A⇒住1011号)ことなどから、(住1436号⇒住1435号B⇒住1435号A⇒住1011号)の順に建て替えたことが確認できる。

⑧上述のことは、上記4軒の北側の棟持柱P 211掘り形部・東壁の中央土壇D 21部などでの新・旧関係からも確認できる。

⑨なお、住1011号の床中央土壇D 11と住1436号のD 11の切り合い関係については、4軒いずれの住居も、この住居中央部での埋土が削平で遺存しないこともあり、検出時の確認ミスであることは、各住居の諸施設配置・切り合い関係からも明かである。

⑩住1157は、後世の削平に因って欠失する高床東側の、一段低い中床遺存部が、上述4軒中の住1011・1435A・1435BのD 21に切られることから、(住1057号→住1436号⇒住1435号B⇒住1435号A⇒住1011号)の順に新しいことが確認できる。

Ⅲ大溝・小溝群 Ⅰ・Ⅱ住居群→Ⅲ中世溝群(溝1002・1005・1006号外、Pイ～ト群)

⑪溝1002号(検出面標高47.20~47.50m、底面同46.55~46.66m、検出面幅約140~162cm、N-88°-Wの東-西方向)は、以来尺1号墳をも切る中世の(山)城に伴う大溝で、最も新しい。

⑫溝1005・1006号(検出面同47.99~48.13m、底面同47.86~48.08m)も、同古墳の東側周溝部を切り、上記の溝1002号に伴う小溝で、住1003・1011号などを切る。

⑬また、住1003号の北壁沿高床を切る小溝も溝1002号に伴う。

⑭なお、住1435号Bの北東壁隅高床~D 21~住1435号AのP 13にかけての小溝は、住1435号Bに伴う住居外への排水施設で、住1435号AのP 13近くで、この小溝に切られる小溝は、住1436号に伴う同様の施設である。

⑮ところで、⑬で既述した小溝部の大溝1002号では、その北岸からはPイ～ホ・南岸からはPへ～トを検出している。

この大溝・小溝とPイートに関する留意事項として、㉑小溝とPイートの埋土が、住居群埋土とは異なり、大溝の埋土と同じであること、㉒バイパス路線の調査区内に限ってではあるが、大溝沿いの小溝は、この部分でのみ検出されていること、㉓この小溝部分のみで、大溝南・北岸で対峙して整然とした柱穴様ピット列は検出されていないこと、㉔中世の大溝南・北岸と重複する弥生～古墳時代初期に属する建物例としては『I集』で既報告の建1024号A・Bと大溝1号（付図6）があるが、大溝1002号のこの部分の南側からの、Pへ・トを棟持柱、Pイ～ホを北側の柱筋とするような柱穴列は確認されなかったこと、㉕調査区北端の土塁を伴う大溝6・7号や大溝1・1002号を配した中世（山）城全体の構えでは、この部分が丘陵南側での谷部などの以南を眼望する中心部に相当することなどが指摘される。

以上のことなどから、小溝は柵列を構えるための布掘りで、㉖Pへ・トは跳ね橋の主脚、Pイ～ホは跳ね橋の副脚のピット、㉗跳ね橋を伴う門構え施設で、Pイ～ハは主出入口門、Pニ・ホは脇出入口門の柱穴の二者が考えられる。

なお、Pイ～ホ中軸方向はN-88°-Wで、各Pのトンボ間はP（イ～ロ間108cm、ローハ間126cm、ハーニ間83cm、ニーホ間145cm、へート間411cm）を測り、Pイ～ホ中軸とPへ・ト中軸との距離は154cmを測る。

住居計測表での換算・算出に類しての試行はどうかとも思うが、一応の算出によると、（Pイ～Pホ）間 $462\text{cm} = 30.8\text{cm} \times 15.0$ 、（Pへ～Pト）間 $410\text{cm} \div 30.8\text{cm} \times 13.0 = 400.4$ 、中軸間 $154\text{cm} = 30.8\text{cm} \times 5.0$ となり、小溝とPイ～ホ中軸間も $30.8\text{cm} \times 3.0 = 92.4\text{cm}$ で、いずれも整然とした施設と言える。

1003号A住居

住居規模は、床面積約 28.7m^2 （北-南壁間の桁行方向が約649cm、東-西壁間の梁行方向が約442cm）で、北・南側の柱筋に外接棟持柱P21・22を配し、棟持換算の算出値は29.2cm。

1003号B住居

住居規模は、住Aと同じで、棟持換算の算出値でも同様に29.2cm。

住1003号A・Bの規模復原について

住A・Bの諸施設配置の特徴を列記すると、下記のとおりである。

㉘住Aの桁行Aは約301cmを計測し、 $301\text{cm} \times \frac{1}{4} = 75.25\text{cm}$ と（北柱筋-H P211）間の計測値75cmと一致する。

㉙『II集』の本報告も含めて『I集』以来の住居壁間規模は、いずれも桁行Aと梁行Bのそれぞれ中軸下で計測したものであるが、住A・Bの（東壁-西壁）間計測に限り、付図6に示すように、東壁の南端部最大壁間での補助破線で計測すると約442cmで、梁行Bの約 $220\text{cm} \times 2 =$

440cmと一致するに等しい。

㊦上記の約 $220\text{cm} \times 2 = 110\text{cm}$ と、(東壁—HP212)間の約111cm、換言すると、H21幅とも一致するに等しい。

㊧住Aの棟持柱間 a_1 は321cmで、 $321\text{cm} \times 2 = 642\text{cm}$ と(北壁—南壁)間の約649cmはほぼ同じである。

㊨住Bでの床中央部土壇D11と壁中央部土壇D21の配置は、共に、桁行中軸に北接し、D11は棟持柱筋下に設け、D11内の柱穴様小ピットDP211・212は検出されていない。

㊩住AでのD11・21配置は、D11が棟持柱筋から大きく東壁寄りとなり、東壁側の方形区画H21の東縁部HP211と共に桁行中軸下に設け、住A同様にD21内のDP211・212は検出されていない。

以上の㊦～㊩から、下記㊰～㊳が留意される。

留意事項① H21配置に際しては、H21が東側の桁行柱間部の『施設』であることから、棟持柱間 a_1 $321\text{cm} \times \frac{1}{4} = 80\text{cm}$ ではなく、㊦で指摘したように、桁行柱間A、換言すると(主柱P11—P12)の柱間口規模の $\frac{1}{4}$ で整然と構えたものと考えられ、このことは、住1011・1435・1036号例でも同様である。

留意事項② 住居の壁規模(壁プラン)は、『I集』で既報告の1001号A・Bや住1458・1459号のような整然とした長方形壁規模例よりも、弥生期～古墳中期では住1003号A・Bや『I集』で既報告のカマド付設の住1025号のように若干長台形の壁規模例が多い。

上記の二者の差異は、第1因として、垂直方向に建ち上げ、また、直線的な軸組みに適した主柱・棟持柱・桁・梁材かどうかで生じたものとも考えられる。

第2因として、軸組み技法の差異で生じたものとも考えられる。

第3因として、数回の建て替えによる新・旧住居の棟持柱筋方向の差異に従って、四壁規模も整然と掘り替えた(付図5の住1421号A～C例)ものか、付図6に示す住1011・1435A・1435B・1436号の建て替え例のように、一部旧出住居壁部をそのまま生かしたものかの差異で生じたものとも考えられる。

第4因として、出入り口施設を含めた諸施設配置を考慮しての、意図的配慮の是非で生じたことも考えられる。

第5因として、壁部、およびその周辺部の地勢等も考えられる。

上記第1～第5因についての今後の検討課題として、今回は列記㊰・㊳について指摘のみとし、これ以上の蛇足を止める。

留意事項③ 『II集』の本報告も含めて『I集』以来の住居規模計測表中の換算については、桁行A・棟持 a_1 ・(DP211—DP212)・(HP211—HP212)の4例中の2例換算についてのみ表記したが、4例別の換算を試みれば、列記㊦～㊩の指摘の是非もより詳細に検討できるもの

と考えられる

留意事項④ 以来尺遺跡でも、筆者が調査を担当した住居に限れば、なぜか、D21内でのD P211・212の検出を通例とする

また、住1421号A・Bのように、住居中央部の床〔中床〕と異なり、また、一段と高い壁沿・壁隅部の床〔高床〕とも異なり、その中間ほどの高さの壁中央部の方形区画H21の確認（付図5）例や、『I集』で既報告の住1048号の中床部張り床材土とは別の張床材土を使用した壁中央部の方形区画H21の確認例や、住1003号A・1011号・1435号A・1435号BのH P211・212検出からの方形区画H21の確認例も多い。

加えて、以下に説明する住1003号A内の祭祀土壇S X1009号と土壇内出土の「遺物」である刀子の「別所への住居掘り替えに伴う祭祀遺物」としての確認例も多い。

刀子は、㉑刃部を旧出住BのD11に求心する状況で、㉒新出住AのH21西縁筋の、㉓南壁沿高床北縁で、㉔刀子同様に住BのD11に求心する掘り形を有し、㉕住Aの高床面ではなく、一段低い中床の張り床面と一致する深さに掘られた、㉖土壇S X1009号内から、㉗その底面から10cm上位で、㉘水平の状態出土したものである。

以上のことと、列記㉑・㉒や他の住居例から、留意事項④として、下記㉑～㉒などについての検討が『III集』以下で必要となる。

㉑住居構築当初の床中央部土壇D11配置は、棟持柱筋直下よりも、若干D21配置壁寄り（住1436号、付図5の住1422号B）の例や、棟持柱筋にD11の掘り形を接してD21配置壁寄り（付図2の住1018号A）の例が多い。

㉒当初から建て替えた住居のD11配置は、旧出D11部とほぼ同じ位置に設ける例も多いが、D21配置壁と対峙する壁中央部に新たな方形区画H21配置（H P211・212配置）を確認した住居では、棟持柱筋下よりも、明らかにこのH21寄り（住1003号A、住1435号B、付図5の住1422号A）となる例が多い。

㉓また、H21配置住居への建て替えに際しては、当初の住居のD21内柱穴様小ピットD P211・212の片方除去（住1436号）例や、両方除去（住1003号B）例が認められる。

㉔また、H21配置住居への建て替えに際しては、旧来のD21部に張り床材土とは別途の材土を使用して方形区画DH21を構え（住1421号A）たり、旧来のD21部両端に壁隅高床を構え（住1435号B）たりする例があり、両端の壁隅高床間の低いD21外部は、方形区画DH21同類となる。

㉕しかし、H21を建て替えに際して構えない住居については、D21とD P211・212配置が継承され、構えられる（住1465B⇒住1465A⇒住1464号）例がある。

㉖既述の住1003号Aでの刀子の出土状況・状態は、住1011号住での素環頭刀子の出土状況・状態との類似項が多い。

②また、上記のことは、筆者の調査担当ではないため、出土状況・状態は不明な点も多いが、『I集』で既報告がなされている「4号竪穴式住居跡」(同集第23図)の「屋内土坑」出土(同第24図)の「かなりの大型」「頁岩製砥石」(同報文、同第233図)を、同集の付図5で旧住(赤線図示)⇒新(青線図示)で示させて頂くと、この砥石が、①折損部とは逆の先端部を新出住のD11に求心する状況で、②旧出住の桁行中軸直下の、③おそらくは、新出住のD21南端のHP211部で、④砥石同様に旧出住のD11に求心する掘り形を有し、⑤新出住の張り床面ではなく、一段と低く掘られた旧出住のD21部を埋設後に新たに掘られた、⑥新出住のD21内から、⑦その張り底面直上で、⑧ほぼ水平の状態での出土状況・出土状態とほとんど一致するのに等しい類似項も指摘できる(同集の付図5参照)。

なお、留意事項④の検討に際しては、①報告者がD11を通称の「炉」なる呼称を使用せず、屋内祭祀土壇として構えた〔居住空間＝住居床中央部の祭祀火床〕との認識呼称「床中央部土壇D11」の是非、②同様にD21を通称の「屋内土坑」なる呼称を使用せず、屋内祭祀土壇として構えた〔居住空間壁沿の祭祀〕との認識呼称「壁中央部土壇D21」の是非、③同様にH21を集落内でも特別に〔居住空間壁沿のハレ結界〕を構えることを許容された住居のみで確認できるとの認識呼称「壁沿中央部方形区画H21」の是非についても、DP111・DP211・DP212・HP211・HP212・DH21・aHM11の是非と共に、『III集』での検討課題としたい。

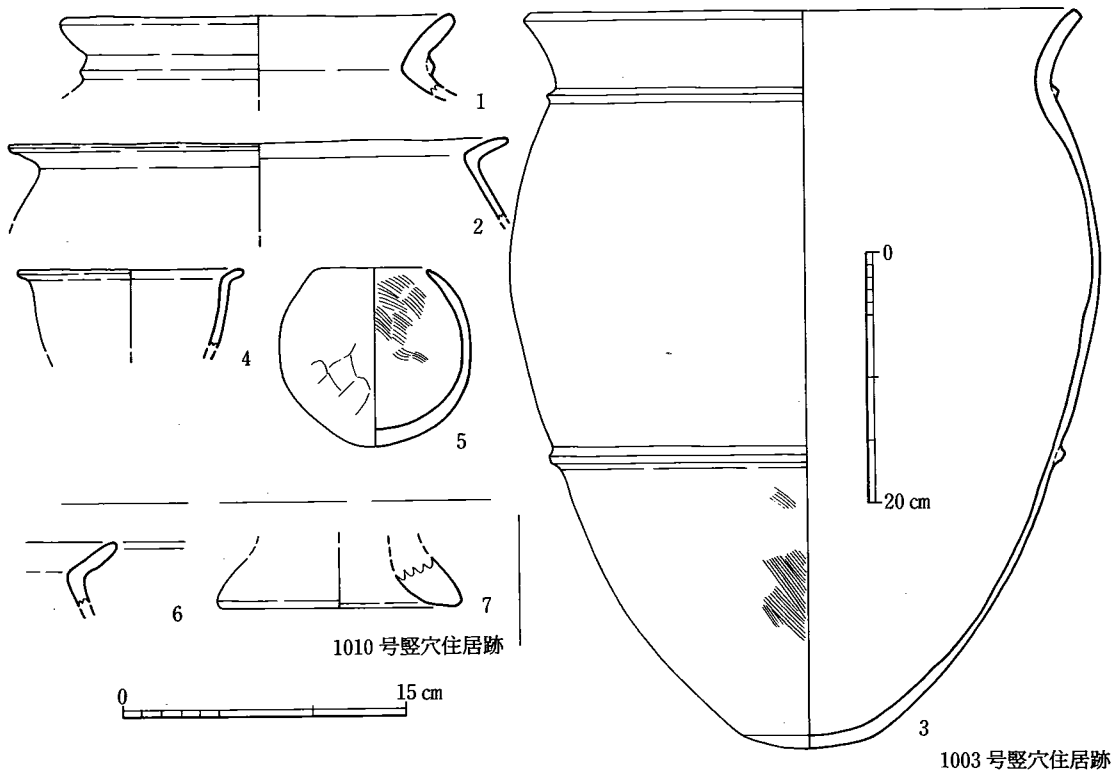
(馬田)

遺物(図版19・66、第8図1～5、第76図8)1～3は甕である。1は頸部に突帯を貼り付けるが、磨滅が激しく突帯も原形をとどめない。調整は不明で復元口径は21cmを測る。2は胴部が大きく張るもので、器壁が薄い。磨耗が激しいが一部にハケ目が残る。3は頸部に台形の、胴部に刻み目の突帯を巡らせる大型のもので、復元口径43.5cm、最大胴部径47cm、器高58.5cm。外面は磨耗が激しくハケ目がわずかに残る程度である。胴部下位は二次的に火を受けて赤色化し煤の付着が見られる。内面はナデ調整で、全体をやや薄く仕上げる。西側屋内土壇の床面より一括出土。4は椀上半部で、復元口径12cm。磨滅気味であるがナデ調整が窺える。5はボール型の椀で、口縁部は磨滅が激しく完結しているか定かでない。内面上半はハケ調整で下半はナデによりハケ目は消される。外面底部付近にもわずかにハケが見え、中位には工具等によるナデの痕跡が見える。外面の中位の一部は二次的に火を受けて赤色化している。西側屋内土壇の床面より一括出土。第76図8は刀子で、長さ22.9cm、刀身最大幅2.6cmを測る。厚さは刀身で背幅0.4cm、茎で0.3cm。鞘の木質がよく残る。

(齋部)

註)

1. 秦憲二編「以来尺遺跡I」(『一般国道3号 筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第4集、福岡県教育委員会、1997)



第8図 1003・1011号竪穴住居跡出土土器 (1/4 3は1/6)

1011号竪穴住居跡 (図版2～4、付図6、表11)

重複関係は、住1003号で詳述。

住居規模は、床面積約35.9㎡(南―北壁間の桁行方向が約686cm、西―東壁間の梁行方向が約523cm)で、棟持柱は西側の柱筋に外接P21・東側の柱筋内に独立P22を配す。

上記の棟持柱の変則的配置は、住1436号⇒住1435B⇒住1435A⇒住1011号へと3回の建て替えを行う際に、構築当初の住1436号のP22掘り形をすべての建て替え住居のP22掘り形として継承したことに起因したもので、このことについては後述する。

棟持換算の算出値は、29.9cm。

ところで、住1011号は3回の建て替えが確認でき、住1436号⇒住1435B⇒住1435A⇒住1011号の順に新しく、以下にこの4軒の住居規模の復原について説明するが、詳細は各住居の計測表48・47・46・11を参照されたい。

住1011・1435B・1435A・1436号の規模復原について

上記4軒の住居規模復原に際しての、留意事項を当初に示すと、以下の①～⑧などである。

留意事項① 中央土壇D11が4箇所確認できたこと。

留意事項② いずれの住居も南半部を欠失するが、北壁が3壁・北棟壁隅高床が2箇所確認できたこと。

留意事項③ D11確認数が4箇所にしては、北側の棟持柱P22が1箇所・東壁中央土壇D21が2箇所しか確認できないこと。

留意事項④ 上記のP22内で、他の柱穴に比べて異状に深い小ピットP222を検出したこと

留意事項⑤ また、D21内の柱穴様小ピットも不規則に2箇所しか確認できないこと。

留意事項⑥ 西壁沿いに、ほぼ直線状に4箇所柱穴様ピットが確認できたこと。

留意事項⑦ 北東壁隅高床2者中の古い高床下までのびる小溝が、東壁沿いで確認できたこと。

留意事項⑧ 重複住居の西壁北側の、最も新しい住居床面近くで、素環頭の刀子が出土したこと。

以上の留意事項①～⑧（以下、単に①・⑧などと略す）に、住1003・1049号外の住居規模の検討成果を加えると、4軒の住居規模は以下のように復原できよう（付図5）。

1011号住居

D11 D11周辺部は削平が著しく、構築当初の住1436号の床面も一部欠失することと、住1436号のD11床面の方がより熱変焼土化していたため、既述したように、切り合い関係の確認ミスをしたが、棟持柱筋に東接・桁行中軸に北接する。

P21・22 ①で指摘したP222は、掘り形埋土とは異なる黒褐色土を呈したため、掘り形検出面で、既に確認できたが、径が13～14cmと小さいため、注意して掘り形全体を掘り下げた。

4軒のすべてのP21・22の底面標高は、47.35～47.70m間であるが、P222は47.28mと最も深く、P21径は14～20cmを測る。

⑧の刀子が、後述するが、住居重複部とは別所での新期住居構築・使用に伴う、住1011号遺棄祭祀遺物と考えられることから、P222は住1011号の棟持材P22除去行為に関し、住1436号構築以来、P22配置部とした〔とすることを、集落内で規制され、別所への移動を許容された〕ことに対する、別所構築住居のP22柱建て祭祀前の、住1011号での標象棟持杭P222痕と考えて、P22をP222痕中心としたものである。

P11～14 P12・13と上記P21・22の棟持柱筋から、P11・13を復原すると、P21は整然と南側の柱筋に外接し、⑧の刀子は整然と北側の柱筋下となる。

なお、刀子が南側の柱筋下ではなく北側の柱筋下で、刃部を北側に求心し、3軒の建て替え住居の棟持柱配置を当初の住1436号の北側P22掘り形に継承して重複させ、それでいて北壁側へより規模拡大を継承し、既述のP222もその北側のP22で確認されたことから、新期の住居構

築（居住空間）の許容は、より集落中枢部に近い、高所の丘陵中央平坦部への移動許容として看取される。

高床・方形区画H21（HP211・212）・方形区画DH21・D21（DP211・212）

これ以上の長文・蛇足を避けるため、詳細を省くが、住1436号〔高床・H21（HP211・212）・DH21無配置。D21（DP211・212）配置。なお、DP212は住1435号B構築時に除去祭祀〕⇒住1435号B〔南東・北東壁隅高床とDH21・D21（DP211・212）とH21（HP211・212）配置。なお、DP211は住1435号A構築時に除去祭祀〕⇒住1435号A〔4壁隅高床とDH21・D21（DP211・212は無配置）とH21（HP211・212）配置〕⇒住1011号〔南・北壁沿高床とDH21・D21（DP211・212は無配置）とH21（HP211・212）配置〕として4軒別にそれぞれ復原できる。

なお、住1011号のHP211・212は主柱P11・12で兼用したものと考えられる。

P31・32 梁行Bは約478cmで、桁行Aの約368cmよりも約110cmも大きいため、棟持柱間柱P31・32を（P31－P32）間約52cmと大きくとり、北側の柱筋部ではなく、南側の柱筋部のみに配す。

なお、この南側部のみの配置は、D11を棟持柱以東への配置と共に、H21に面した棟持柱筋以西でも北半部の中床への配慮と考えられる。

以上のように、住1011号の諸施設配置は、いずれも旧出の住1435号Aの諸施設配置から帰納されるものではあるが、H21幅127cmとDH21幅125cm、（HP212－H21東縁）間92cmと（DH21西縁－D21）間89cmとはそれぞれ一致するに等しいなど、整然とした住居である。

1435号A住居

D11 棟持柱筋以西の配置ではなく、同筋以東配置を取り、（南柱筋－D11）間186cmは、桁行A約388cm× $\frac{1}{2}$ =194cmとほぼ一致することから、後述する〔（南柱筋－南西壁隅高床北縁）間、換言すると、（南柱筋－DH21南縁）間〕も一致するものとして、このDH21南縁を桁行A中軸線までとして復原すると、D21は（DH21南縁－DH21北縁）間の中央配置となる。

また、上記の南東壁隅高床北縁筋（DH21南縁筋）は、構築当初の住1436号の南側棟持柱P21への配慮が強い（求心性が強い）ことから、住1435号AのD11もこの配慮下の配置であると考えられ、また、住1011号のD11も同様の配慮下にあると思われ、両D11に加えて、構築当初の住居も通例としてD21寄りに配されることなどから、D21については以下のように、以前から思慮し、多数の建て替え住居資料の整理復原を試行してきたものである。

報告者呼称の壁中央土壇D21・壁中央土壇方形区画DH21は、当初の住居構築者（群）以来のその居住者（群）にとっての直系祖先への祭処、また、柱穴様小ピットDP211・212はその祭祀標象関係の柱（杭）痕として思慮。

同様に、床中央部土壇D11は、上記祭処での祭祀行為の火床として思慮。

なお、以上のことについては、住1435号Bでも後述する。

P11～14 P12・13と棟持柱筋から、P11・13を復原すると、(P21—北柱筋)間338cmと建て替え前の住1434号Bの(P21—北柱筋)間338cmは一致する。

高床・H21 (HP211・212)・DH21・D21

(南柱筋—HP211)間を、桁行A約388cm× $\frac{1}{4}$ =97cmで復原すると、南西壁隅高床長は約157cm・北西壁隅高床長は約164cmで、ほぼ同じ規模となる。

また、D11で既述のように、(南柱筋—DH21南縁)間を、桁行A約388cm× $\frac{1}{2}$ =194cmで復原すると、建て替え前の住1435号B構築以来、DP211・212除去後に継承されたD21は、H21長のほぼ中央配置となる。

1435号B住居

D11 重複4軒のなかで、住1435号BのD11のみが、棟持柱筋以西の配置を取り、(D11—DP211)間が270cmを測るまでにD21から離れ、逆に(D11—HP211)間が134cmを測るまでに近づいて設けられている。

また、既述のように、住1435号Aは、(壁隅高床2箇所・DH21・D21 (DP211・212)・H21 (HP211・212)配置)の住居で、構築当初の住1436号〔D21 (DP211・212)のみ配置)の住居からは1回目の建て替え住居で、床面積も約19.2㎡から約22.5㎡へと規模拡大している。

上述のような、構築当初の住居からは1回目の建て替え住居に認められる、D11がD21から離れ、逆に、D21付設壁と対峙した壁に新たに付設されたH21 (HP211・212)部へ移動する特徴は、既述の住1003号B〔D21 (DP211・DP212は住1003号A構築で除去)・壁沿高床2箇所配置〕⇒住1003号A〔D21 (DP211・212は無配置)・壁沿高床2箇所・H21 (HP211・212)配置〕にも例があり、床面積は同じである。

また、構築当初の住居に既にH21 (HP211・212)を配するが、1回目の建て替えに伴い、同様にH21部にD11が移動する類似例は、後述の住1422号B⇒住1422号Aにもある。

以上のことや、住1435号Aの住居規模復原のD11について既述したことなどから、報告者呼称の床中央部土壇D11は、重複住居中の構築当初の住居に伴う当初のものは、既述のように、直系祖先(群)祭祀の火床を原則とするが、方形区画H21併設時の建て替え後住居に伴うD11は、H21が別途住居の居住者をも含む血縁集団共有の祭処で、D11はその火床ともなり、H21部の柱穴様小ピットHP211・212はその祭祀標象関係の柱(杭)痕として思慮しているものである。

なお、上述の報告者の思慮についての是非は、『III集』での検討課題としたい。

P21・22 棟持柱間 a_1 263cmは、住1435号の梁行B約265cmと一致するに等しい。

P11～14 P12と棟持柱筋とP32からP11・12・14を復原すると、(P32—棟持柱筋)間48cm

と梁行B約198cm× $\frac{1}{4}$ =49.5cmは一致するに等しい。

高床・H21 (HP211・212)・DH21・D21 (DP211・212)

(南柱筋-DH21南縁)間を、桁行A約329cm× $\frac{1}{4}$ =82.25cmで復原すると、南東壁隅高床長は約146cmで、22東西中軸以北の北東壁隅高床長127cmはほぼ等間となる。

また、(HP211-HP212)間は150cm・(D11-D21)間は270cmを測る。

1436号住居

D11は棟持柱間 a_2 のほぼ中軸、D21はその中軸とP22東西中軸間に配す。

また、(南柱筋-DP211)間は149cm、(東柱筋-DP211)間は150cmを測り、一致するに等しい。

また、棟持柱間 a_1 162cmは、第1回目の建て替え住居である住1435号Bの桁行A約329cm× $\frac{1}{2}$ =64.5cmとほとんど同じである。

なお、D21に近接し、住1435号Bの北東壁隅高床下～P54～住1435号AのP13を経て、西壁外へと傾斜をわずかに下げつつ検出した小溝は、住1436号に伴う、D21への漏水防止のための特別にD21への配慮がなされた排水施設である。(馬田)

遺物(図版19・66、第8図6・7、第76図9)6は甕の口縁部・7は器台裾部で、どちらも小片。磨滅のため調整は不明。7は二次的に火を受けて赤色化する。第76図9は素環頭刀子で4片に割れておりいずれも接合しないが同一個体。刀身は幅がほぼ変わらず1.15cm、厚さは最大で0.3cmで切先に向かって0.2cmほどになる。茎は幅1.0cm、厚さ0.4cm。素環頭部は直径0.6cm。刀身に繊維の斜行する薄い木質が残る。(齋部)

1049号竪穴住居跡(図版3、付図6、表19・20)

住1049号B⇒住1049号Aへの建て替えを含む、他の住居群などの重複関係は、住1003号で詳述。

1049号A住居

住居規模は、床面積約22.1㎡(北-南壁間の桁行方向が約486cm、東-西壁間の梁行方向が約455cm)で、北・南側の柱筋に外接棟持柱P21・22を配し、棟持柱間・(HP211-HP212)間換算の算出値平均は30.7cm。

1049号B住居

住居規模は、床面積約15.6㎡(北-南壁間の桁行方向が約476cm、東-西壁間の梁行方向が約328cm)で、北・南側の柱筋に内接棟持柱P21・22を配し、(北柱筋-DP111)間換算の算出値

は31.2cm。

住1049号A・Bの規模復原について

留意事項① 住1003号での重複関係説明I—④でも言及したように、住1003号の西壁を切る住BのDP211は、住居調査での中央土壇D11埋土を慎重に掘り下げ、また、D11底面で慎重にその検出作業を実施すると、筆者の成果によれば少なからず確認例のある柱穴様小ピットである。

筆者は、方形住居のこのDP111を、円形住居のD11内のDP111と共に、住居構築に伴う、昨今にまで類を見る「地鎮祭」類似の、当時の「柱建て（標象・標柱杭打ち）祭祀行為痕（抜去痕）」、加えて、「住居構築全般（竪穴掘削、柱・諸施設配置、軸組み等全般）の基準杭痕（抜去痕）」と以前から思考してきたものである。

上述の、構築当初の住BのDP111抜去痕を中床中央で確認できたこと。

留意事項② 住Aの方形区画H21内のHP211痕が、住A・BのP13と共に検出できたこと。

以上の留意事項①・②などから復原した住居規模は、住Aの（北柱筋—HP211）間80cm・（北壁—P21）間82cmは、桁行A約312cm× $\frac{1}{4}$ =78cmとほぼ一致する。

また、住Aの桁行A—梁行B=桁行差約52cmは、住Bの（西柱筋—西壁）間と一致する。

なお、住Aの（東柱筋—東壁）間は既述の住1003号A例などから梁行B約260cm× $\frac{1}{2}$ =130cmとし、（西柱筋—西壁）間は同260cm× $\frac{1}{4}$ =65cmとして、棟持柱筋方向（桁行方向の北・南壁間約486cm）が梁行方向（東—西壁間約455cm）よりも規模が大きいという、梁間1間型住居壁規模の通例で住Aを復原した。

ところで、上記復原では、（東壁—棟持柱筋）間が約260cm、（西壁—棟持柱筋）間が約195cmとなり、住居東半部の規模の方が約65cmだけ大きいが、 $260 \div 190 \text{cm} \approx 1.37$ の棟持柱筋の壁間不均衡率は、付図6の住1436号が $279 \text{cm} \div 172 \text{cm} = 1.62$ 〔実際の軸組みの棟持柱筋は、棟材（径15cm前後）を棟持柱P21・22（径20cm前後）に東接させることで、東へ20cm前後移動するため（ $279 \text{cm} - 20 \text{cm} \div (172 \text{cm} + 20 \text{cm}) = 1.35$ としてよい）などからも、例外と言えるものではない。

むしろ、住1049号AではH21施設への配慮から住居東半部の床規模を大きく取り、住1436号では北壁側にH21を配さずに南壁側にのみD21を構えたことへの配慮から住居南半部の床規模を大きく取ったことを示唆するものである。

住Bは、（東壁—東柱筋）・（西壁—西柱筋）間を、共に、梁行B約224cm× $\frac{1}{4}$ =56cmで復原すると、（住AのHP211）と（住Bの東壁）間は2cmしかなく、換言すれば、住B東壁部を住AのH21西縁とし、東壁の規模拡大がH21配置のためになされたものとも言える。

また、上述のことは、建て替えをしてまでも新たなH21配置を必然としたことを示しており、方形区画H21の施設としての機能を検討する際には留意すべき事項と言えよう。（馬田）

1157号竪穴住居跡（図版2・3、付図6、表21）

重複関係は、住1003号で詳述。

住居規模は、不明で、西側の柱筋外の西壁沿高床縁に、独立棟持柱P21を配し、梁行・（P21—西柱筋）間換算の算出平均は29.8cm。

また、西側の柱筋外接の棟持柱筋柱P31・32を配すが、（P31—棟持柱筋）間66cmは、梁行B $266\text{cm} \times \frac{1}{4} = 66.5\text{cm}$ と一致するに等しい。

なお、このように、主柱P11—P14間にP31・32を $\frac{1}{4}$ 等間で外接配置する住居は、住1157号→住1436号⇒住1435号B⇒住1435A⇒住1011号）の重複関係が確認できる住1435号Bに〔梁行B約198cm $\times \frac{1}{4} = 49.5\text{cm}$ と（P32—棟持柱筋）間48.0cm〕も例があり、住1157号の梁行B $266\text{cm} \times \frac{3}{4} = 199.5$ とこの住1435号Bの梁行B約198cmは一致するに等しい。

加えて、住1157号の梁行B $266\text{cm} \times \frac{3}{4} = 199.5\text{cm}$ は、住1436号の梁行B約192cmともほぼ等しいことも指摘できるが、これらの検討については、『Ⅲ集』での類例住居増を待って行いたい。

（馬田）

1413号竪穴住居跡（図版14・16、付図5、表22～27）

重複関係は、住1421号群で詳述。

1413号A住居

住居規模は、床面積約30.2㎡（北—南壁間の桁行方向が約646cm、東—西壁間の梁行方向が約468cm）で、北・南側の柱筋に外接棟持柱P21・22を配すと考えられ、桁行・（HP211—HP212）換算の算出値平均は30.8cm。

1413号B住居

住居規模は、床面積約21.6㎡（北—南壁間の桁行方向が約462cm、東—西壁面の梁行方向が約468cm）で、北・南側の柱筋に外接棟持柱P21・22を配すと考えられ、（HP211—HP212）換算の算出値は32.0cm。

1413号C住居

住居規模は、住1413号Bと同じで、北・南側の柱筋に内接棟持柱P21・22を配すと考えられ、（HP211—HP212）換算の算出値は31.5cm。

1413号D住居

住居規模は、住1413号Bと同じで、北・南側の柱筋に内接棟持柱P21・22を配すと考えられ、

桁行換算の算出値は30.1cm。

1413号E住居

住居規模は、住1413号Bと同じで、北・南側の柱筋に内接棟持柱P21・22を配すと考えられ、(HP211—HP212)換算の算出値は29.0cm。

1413号F住居

住居規模は、住1413号Bと同じで、北・南側の柱筋に内接棟持柱P21・22を配すと考えられ、桁行・(HP211—HP212)換算の算出値平均は29.0cm。

ところで、住1413号は5回の建て替えが確認でき、住1413号F⇒住1413号E⇒1413号D⇒住1413号C⇒1413号B⇒住1413号Aの順に新しく、以下、この6軒の住居規模の復原について説明するが、付図5には住1413号Aの住居規模復原図のみを掲示し、住1413号B～Fについては主柱11～14の位置のみを示し、これ以上の煩雑な付図となることを避けたため、詳細は表22～27を参照されたい。

なお、以下では住1413号Aを住A、住1413号Bを住Bなどと略す。

住1413号A～Fの規模復原について

①各住居それぞれのHP211・212中心を結ぶ桁行方向中軸を中軸HA、この各住居中軸HAと直交する各HP211・212の梁行方向中軸を中軸HBとすると、住A西壁方向に対し、それぞれの中軸HAはいずれも平行し、それぞれの各中軸HBはいずれも直交する。

②上記のことに留意し、主柱穴P11を確認した住Aの西・北側柱筋を住A西壁方向とそれぞれ平行・直交させることで復原する。

③また、中央土壇D11を確認した住Aの梁行(梁間)中軸を棟持柱筋とし、この棟持柱筋(主軸)がD11中心を通ることとして、東側柱筋を復原する。

④同様に、住Aの中軸HA中心を通る直交軸はD11のほぼ中心を通ることから、この直交軸を桁行中軸とし、住Aの南側柱筋を復原する。

⑤以上の住Aの各柱筋の復原(桁行A・梁行B規模の復原)を経て、主柱穴P11を確認した住Bの西・北側柱筋を同様に復原する。

⑥また、住Aの西側柱は住Bの西側柱筋から西に3cm移動し、住Aの北側柱筋は住Bの北側柱筋から北に49cm移動したことに留意し、住Bの梁間を住A梁間と一致させ、住Bの南側柱筋を住A南側柱筋から49cm以北に復原する。

⑦以上の柱A・Bの各柱筋の復原を経て、住A・Bの各中軸HAの位置は移動がなく、このことが住A・Bの西側柱筋がわずか3cmの移動として看取でき、換言すれば、住A西側柱筋と各住C～Fの西柱筋との間隔は、住A西側柱筋と住C～Fの各中軸HAとの間隔(移動)とし

て看取できることを示唆する。

⑧同様に、住AのHP211以北で確認した住C～Fの各HP211と住AのHP211との間隔は、住C～Fの各北側柱筋が住Aの北側柱筋以北にこの間隔だけ移動することで復原できることをも予期させ、住AのHP212以南で確認した住C～Fの各HP212配置と住AのHP212配置からの各住居の南側柱筋復原についても予期でき、これら方形区画H21とH21内柱穴様小ピットHP211・212配置からの住居規模の復原については、住1413・1424号の説明でも言及するように、予期以上の成果を得るものである。

⑨以上の各住居の各施設計測値については、表22～27に示すので詳細参照のこと。

なお、以上のように復原した6軒の住居規模は、住Bの桁行256cmが住CのH21長と一致し、住Cの（HP211—HP212）間の126cm×2ともほぼ一致し、住Dの（D11—H21東縁）間の91cmが住Eの（北柱筋—H21南縁）間と一致し、住Cの（HP211—西柱筋）間の22cmが住E・Fの同間と一致するなど、いずれも諸施設配置が整然とした住居である。

また、住C～Fでは床面積が約21.6㎡で方形区画H21のみの配置、住Bでは床面積は同じであるが桁行規模を旧出住よりも小さくするが北・南壁沿高床を加え、住Aでは床面積を約30.2㎡に規模拡大するなど、住1413号居住者の住居空間占有地の規模拡大という集落内での許容（変容）経緯を看取することもできよう。

加えて、出土遺物の検討を一切、筆者がしていない段階での言及ではあるが、上記のことは、住1413号が、住1414号D・C・B・A⇒住1413号F・E・D・C・B・A⇒住1425号⇒住1424号へと建て替え移動すると共に、最終的には、南側の住1414号～北側の1424号間およびその周辺を、集落内で生活空間占有域として許容されたものとして看取することもできよう。

さらに、上記の一連の移動は、最も新しい住1424号A構築時には、住1424号Aの中央部床面標高が47.77m、最も古い住1414号Dの同標高が47.47mで、しかも、南端の住1414号D～北端の住1424号A間の住居はいずれも重複関係にあることから、各住居いずれもその東・西側の壁構造の検討が必要となるが、この問題（当該類例住居を「**竪穴住居**」と呼称することが**不適當**であること）については、南側急傾斜面部で確認した住1268号群（『III集』で報告予定）などを含めての検討課題としたい。

（馬田）

1414号竪穴住居跡（図版14・16、付図5、表28～31）

重複関係は、住1421号群で詳述。

1414号A住居

住居規模は、不明とせざるを得ないが、方形区画H21の長さ（桁行方向）換算の算出値は30.2cm。

1414号B住居

住居規模は、不明で、H21長・(HP211—HP212)換算の算出値平均は30.2cm。

1414号C住居

住居規模は、不明で、H21の幅(梁行方向)・(HP211—HP212)換算の算出値平均は29.6cm。

1414号D住居

住居規模は、不明で、(HP211—HP212)換算の算出値は31.2cm。

ところで、住1414号は3回の建て替えが確認でき、住1414号D⇒住1414号C⇒住1414号B⇒住1414号Aの順に新しく、以下、この4軒の住居施設の復原について説明するが、詳細は表28～31を参照されたい。

なお、以下では住1414号Aを住Aなどと略す。

住1414号Aの方形区画施設HP21の復原について

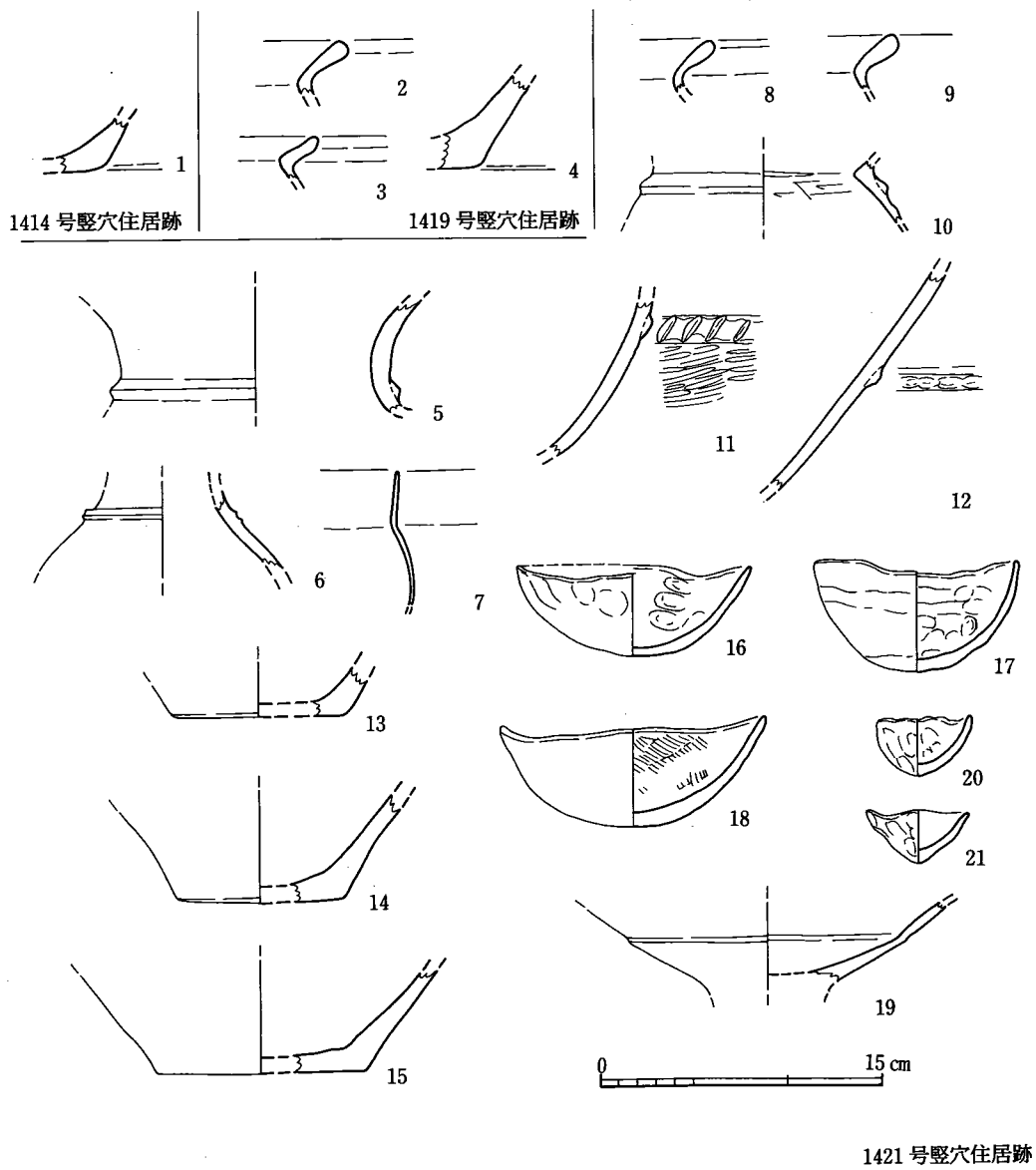
①住Aの南壁方向と平行するHP211・212桁行方向中軸を中軸HA、中軸HA中心を通る梁行方向中軸を中軸HBし、H21北縁を住DのHP211掘形に北接する南壁方向との平行線として、側点a・b・a₄を計測し、また、H21長・(HP211—HP212)各換算の算出値を求めると、H21長換算での算出値は30.2cmで、換算項のH21長は5、(H21縁—HP)は1、(HP211—HP212)は3、(HP—南壁)は1、H21幅は4といずれも整数比を得る。

しかし、(HP211—HP212)換算での算出値24.0cmでの算出値では換算6項中のH21長と(H21縁—HP)の2項が端数比を示す(表28参照)。

②上記のように、住Aでは、H21長換算の算出値30.2cmで、整然としたH21と柱穴様小ピットHP211・212配置が復原できる。

③なお、(HP211—HP212)と(H21縁—HP)の計測値が端数比を示すことを換言すれば、HP212は小柱様部材痕・HP211は小柱様部材抜去痕中心での計測であることに起因するもので、HP211部材配置はHP212部材同様にHP211抜去痕内でもHP212中心から24cmではなく30.2cm西寄り配置が復原できることを示すものと言えよう。

なお、以上のように復原した4軒のH21部規模は、表28～31に示すように、各住居の測点b中の(H21北縁—HP)間平均が、住Dで15cm・住Cで34cm・住Bで61cm・住Aで91cmと単に増大するだけでなく、 $(15+34+61+91)\text{cm} \div (0.5+1+2+3) = 201\text{cm} \div 6.5 = 30.9\text{cm}$ 前後を4軒の平均の算出値として、整然とした建て替え・諸施設配置がなされたことを示すものである。
(馬田)



第 9 图 1414 · 1419 · 1421 号竖穴住居跡出土土器実测图 (1/4)

遺物（第9図1）埋土中より出土した。やや膨らみをもつ甕の底部片である。磨滅が激しく器面調整は不明である。（杉原）

1415号竪穴住居跡（図版14、付図5、表32）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住居規模は、不明とせざるを得ないが、梁行と（北・南壁－北・南柱筋）平均の換算平均は29.9cm。（馬田）

1416号竪穴住居跡（図版14～16、付図5、表33）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住居規模は、不明とせざるを得ないが、梁行換算の算出値は29.6cm。（馬田）

遺物（図版64 第73図1）片岩製の石包丁で、1/3を欠損する。刃部中央は破損によるものか、度段のついた部分を再度両面から研磨して使用している。刃は使用によりほぼ端部まで磨滅が激しい。両面から穿孔するが、上下位置がずれたために斜めに貫通する。両面わずかに研磨痕が残る。20.0gを測る。（齋部）

1419号竪穴住居跡（図版14・15、付図5、表34）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住居規模は、不明とせざるを得ないが、梁間が324cmで、南・北側の柱筋に内接棟持柱P21・22を配し、梁行・（北柱筋－北壁）換算の算出値平均は29.8cm。

なお、壁中央土壇D21を西壁部で検出していないことや、住1421号群で西壁部にD21を配す例もないことから、東壁部配置のD21が欠失したものと考えられる。（馬田）

遺物（第9図2～4）2・3は頸部以下を欠損する資料である。2の口縁端部はやや厚くなる。3の頸部は大きく「く」字状に外反する。4の器面調整は不明。（杉原）

1420号竪穴住居跡（図版14・15、付図5、表35）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住居規模は、不明とせざるを得ないが、西壁遺存長だけでも557cmを測り、大きい。（馬田）

1421号竪穴住居跡（図版14・15、付図5、表36～38）

住1421号群（住1413～1416・1419・1426・1437・2001号）と建2014号との重複関係

上記の14軒の住居群のなかで、住1419号を除く全てに建て替えが確認でき、計28軒の住居と建物1棟との重複関係の説明（周辺住居群を含めると30遺構間以上の説明）となる。

このため、継続した建て替えや掘り替えが確認できた新・旧関係を旧⇒新、その新・旧関係を示さない遺構間の切り合いによる新・古関係を古⇒新、確認できた新・旧関係や新・古関係などから、意図的（継承的）に継続して重複させた（させられた）と考えられる前・後関係を前⇒後で示し、便宜上、Ⅰ～Ⅴの小群別に説明すると、以下のとおりである。

なお、以下では、住1424号A・住1424号Bなどの重複住居を、単に住A・住Bなどと略す。

Ⅰ遺構群 建2014号⇒住1424号群（住1414号⇒住1413号⇒住1425号⇒1424号）

①住1424号は、方形区画H21内の柱穴様部材HP211・HP212の部材痕・掘り形・抜去痕に新・旧関係が認められ、住1425号のH21南縁と一段低い中央部床面が住1424号の張り床下で確認できたことなどから、（住1425号⇒住1424号B⇒住1424号A）へと2回の建て替えが行われている〔計3軒〕。

②住1413号も、H21部のH211・212の部材痕・掘り形・抜去痕および張り床に新・旧関係が確認できたことなどから、（住F⇒住E⇒住D⇒住C⇒住B⇒住A）へと少くとも5回の建て替えが行われている〔計6軒〕。

③住1414号も、H21部の南壁やH211の部材痕・掘り形・抜去痕に新・旧関係が確認できたことなどから、（住D⇒住C⇒住B⇒住A）へと3回の建て替えが行われている〔計4軒〕。

④建2014号は、P1が住1425号、屋内棟持柱P21が住1413号、施設柱P61・62が住1414号の各張り床に切られることなどから、建2014号⇒住1424号群の順に新しい〔計1棟〕。

⑤ところで、住1424号Aの主柱穴P12は住1413号BのH21部張り床面での検出で、また、後世の削平に因り、住1424号群の壁・張り床の切り合いによる新・古関係は確認できない。

しかし、各住居別でも説明し、付図5に住1424号群・建2014号の規模、主軸・壁方向などを復原（詳細は各遺構の計測表参照）掲示するように、下記㉞～㉠の列記事項などから、〔建2014号⇒住1414号（D⇒C⇒B⇒A）⇒住1413号（F⇒E⇒D⇒C⇒B⇒A）⇒住1425号⇒住1424号（B⇒A）へと建て替え・掘り替えが行われたことが考えられる〔意図的・継承的重複計14遺構〕。

㉞各住居の西壁間距離は、住1414号A—住1413号F間が約150cm、住1413号A—住1425号間が約300cmを測り、後者間は前者間のほぼ2倍であることが看取でき、集落居住者群から住1424号群居住者集団が生活空間占有域を拡大許容されたものと考えられる。

㉟上記のことは、H21・HP211・H212の施設を含む各住居規模にも看取でき、住1414号B⇒1414号Aでの南壁の拡大〔床面積の拡大〕、住1413C（H21配置のみ、床面積約21.6㎡）⇒住1413号B（北・南壁沿高床とH21配置、同21.6㎡）⇒住1413号A（北・南・東壁沿高床配置、同約30.2㎡）への〔諸施設を含む規模拡大〕、住1425号（壁沿高床3・壁隅高床2・H21配置、同約34.2㎡）⇒住1424号A（同様配置、同約41.0㎡）への〔諸施設を含む規模拡大〕へと同様に拡大許容されたものと考えられる。

⑦また、住1414号A～Dの主軸方向は(N-52°-W)～(N-60°-W)間で、住1413号A～F間の同方向(N-30°-E)とはほとんど直交するに等しく、住1413号A～Fの同方向と住1424・1425号の同方向(N-23°-E)とはほぼ同じであることも、住1424号群の各住居の継承性を示唆するものである。

⑧同様に、各住居の中央部床面の標高は、住1414号Dが47.33m⇒住1414号Aが47.43m、住1413号Fが47.47m⇒住1413号Aが47.54m、住1425号が47.70m⇒住1424号Aが47.77mで、住1414号Dと住1424号Aとの床面比高差は、延べ床面数13枚で44cmと小さく、床面平均比高差はわずか3.7cmにすぎず、このことも、住1424号群の各住居の継承性を指唆するものである。

⑨加えて、建2014号は、住1424号群域の中央部で確認され、主軸方向はN-59°-Wで、住1424号群の主軸とほとんど一致するに等しいか、ほぼ直交し、施設柱P61・62と住1414号DのH21との配置場所が一致する。

⑩なお、⑤・⑧の留意事項は、『III集』報告予定の南側急傾斜面部の重複住居群例で極端に看取することができる。

II住居群 III住居群→II住1422号群(住1423号→住1422号)→I遺構群

⑪住1422号は、住居西寄りのD11検出面張り床下の住居中央部からも旧出のD11が検出され、主柱穴P11・棟持柱P21の掘り替えや、西壁沿高床下でのP22掘り形が確認できたことから、1回の建て替えが行われ、(住1422号B⇒住1422号A)へと建て替えが行われている〔計2軒〕。

⑫また、住1422号は住1423号の東壁を切ることから、II住1422号群(住1423号→住1422号B⇒住1422号A)となる〔重複計3軒〕。

⑬さらに、後述するIII住居群のなかの最も新しい住1421号北壁やIV住1420号群で最も新しい北壁を切るが、前述のI遺構群の住1414号から順次建て替えられてきて最も新しい住1424号に南東壁隅部を切られることから、III住居群→II住居群→I遺構群となる。

III住居群 住1421号群(住1415号⇒住1416号→住2001号→住1437号⇒住1426号→住1421号。IV住居群⇒住1421号)

⑭住1415号が住1416の東・南壁を切ることなどから、住1416号⇒住1415号へと建て替えられている。

⑮住2001号の東壁が住1415・1416号住居の西壁を切ることから、(住1416号⇒住1415号⇒住2001号)の順に新しい。

⑯住1426号は住1437号の張り床面上を直接張り床することなどから、住1437号⇒住1426号へと建て替えられている

⑰また、住1426号は住1416号の北壁を切ると共に、住2001号の北壁や住居埋土も切ることなどから、(住1416号⇒住1415号→住2001号B⇒住2001号A→住1437号⇒1426号)の順に新しい

〔計6軒〕。

⑬住1421号は、住1421号A～Cの主柱P11、棟持柱P21・22の各掘り形の切り合い関係や、住C張り床上に直接住Bの床を、また、住B張り床上に直接住Aの張り床をそれぞれ順次に張ることなどから、住C⇒住B⇒住Aへと建て替えられている〔計3軒〕。

⑭また、住Cの北壁は住1426号の西壁を切り、住Aの北壁も住1426号の北壁を切ることなどから、(住1416号⇒住1415号⇒住2001号⇒住1437号⇒住1426号⇒住1421号C⇒住1421号B⇒住1421号A)の順に新しい〔重複計9軒〕。

以上のことは、住1426号の北壁～西壁の地山壁部の検出が北西壁隅部までであることや、住Aの(D21—P21)間の南—北方向の小トレンチでの土層観察、(住1426・1437号北西壁隅部)と(住1421号A～CのP11・21)間の適宜の小トレンチでの土層観察などで確認できたものであるが、住1421号群の調査作業の実際は、『I集』^{註1}で既報告した建2011号群・住1041号群・住1046号群部での調査作業の実際と共に、多数の遺構間相互の新・旧、新・古関係を確認しつつの掘り下げ実働上、筆舌に尽くせぬものであった。

Ⅳ住居群 住1420号群(住1419号→住1420号)

⑮住1420号は、住1419号の北壁を切ることから、(住1419号→住1420号)の順に新しくなる〔重複計2軒〕。

⑯また、住1420号はⅢ住居群中の住1421号に切られることから、住1419号→住1420号→住1421号の順に新しくなるが、Ⅲ住居群中の住1421号を除く住居群との新・旧、新・古関係は不明で、Ⅰ遺構群で既述したように、床面標高や主軸方向・壁方向などの特徴から、(住1436号⇒住1426号⇒住1419号)の可能性も考えられるが、このことについては、後述Ⅴ遺構群を『Ⅲ集』で説明する中で検討する。

Ⅴ遺構群 住1012・1013号など

前述のⅢ住1421群以南の住1012・1013号などの遺構群のなかで、住1012号は北壁をⅢ住1421号群の住2001号に、西壁を住1013号にいずれも切られる。

1421号A住居

住居規模は、床面積約38.7㎡(北—南壁間の桁行方向が約709cm、東—西壁間の梁行方向が約545cm)で、北・南側の柱筋に外接棟持柱P21・22と棟持柱筋区画溝a HM11を配し、棟持換算の算出値は30.4cm。

1421号B住居

住居規模は、床面積約29.5㎡(北—南壁間の桁行方向が約610cm、東—西壁間の梁行方向が約483cm)で、北・南柱筋に棟持柱P21・22と棟持柱筋区画溝a HM11を配し、西壁中央部の方形

区画H21長換算の算出値は30.4cm。

1421号C住居

住居規模は、床面積約15.7㎡(北—南壁間の桁行方向が約440cm、東—西壁間の梁行方向が約356cm)で、北・南側の柱筋に、内接棟持柱P21・22の棟持柱を配し、棟持・(北壁—北柱筋)間換算の算出平均は29.4cm。

ところで、住1421号は2回の建て替えが確認でき、住C⇒住B⇒住Aの順に新しく、以下にこの3軒の住居規模の復原について説明するが、詳細は表28～31を参照されたい。

住1421号A～Cの規模復原について

留意事項① 住Cで確認したP11・21・22と住A・Bとの関係を、住Cのこの3柱の抜去痕(抜去時の掘り形)を継承して住Bのこの3柱と棟持柱筋区画溝a HM11の掘り形を配し、住Bのこの3柱の抜去痕を継承して住Aの3柱を配していることに留意して、3軒の規模復原をする。

留意事項② 住Cで確認した地山部北壁の位置まで住CのP21から住BのP21掘り形を移動していることに留意し、住BのP11・22掘り形も同様に住Cの東・南壁まで移動し、換言すると、住Cの壁規模を継承して住Bの柱配置規模としていることに留意し、3軒の規模復原をする。

留意事項③ 住Aの棟持柱穴P21・22の中軸a Hは、住Aの遺存各壁方向、検出高床の南・西縁各方向、H21北・南縁方向とほとんど平行・直交するに等しく、また、D21の方形区画DH21東・西縁と平行するなど、整然とした施設配置を取ることに留意し、3軒の規模復原をする。

留意事項④ また、住Aの(中軸AH—DH21東縁)間は11cmを測る(離れる)ことから、棟材は棟持柱P21・22の西側に配され、換言すれば、棟持柱P21・22に西接させて組まれたこと、更に換言すれば、DH21東縁は実際の棟材直下の位置とすることを意図したDH21配置として看取すると、(DH21東縁—DH21)間は93cm、棟持換算の算出値が30.4cmで、 $93\text{cm} \div 30.4\text{cm} = 3.06$ となり、整数3を得る。

留意事項⑤ 加えて、D21の西縁はほとんど(北西壁隅高床東縁—南西壁隅高床東縁)筋に東接するが北縁は北壁から若干離れ、DH21西縁も同筋や北壁から大きく離れることを看取し、また、D21東縁は住Bの西側柱筋にほとんど西接することも看取し、住AのD21が住BのD21を継承したものであることに留意すると、住Bの(北西壁隅高床東縁—南西壁隅高床東縁)筋がD21中心を通ることが看取できる。

また、上記のことから、住AのDH21西縁が住Bの西壁に一致するものとして住B西壁が復原でき、換言すれば、上記のDH21西縁が住B西壁を継承して配されていることも留意して、

3軒の規模復原をする。

以上の留意事項①～⑤などに加え、付図5では、住1421号群中の住1413・1414号で例示した住居規模復原や、『I集』の住144号説明の本文198頁既述の『住居では、旧住居⇒新住居間の切り合いに因る重複は、住144・住1024号・住1031号（住1052号）の三者共に、旧住居の一部（高床部を除く）を埋めもどす（埋設する）ことなく』張り床を施し、『旧住居壁の一部を破壊して（拡大して）建て替えたことによるもので』あり、壁破壊に伴う排土は張り床材土として利用し、『高床幅を限度とした重複は、住居空間の占有域下での重複（移動）が原則的であったことを示唆するもの』との考えで、復原掲示したものである。

なお、以上のように復原した住居規模は、住A内では梁行約236cmと（HP211—HP212）間が一致するに等しく、住B内では既述したように（棟持柱筋—D21）間と（棟持柱筋—H21東縁）間が149cmで一致し、住C内では（北壁—北柱筋間）110cm・桁行約220cm・（北壁—南壁）間約440cmと整数比を示すなど、住A～Cいずれも諸施設配置が整然とした住居である。

また、住AのH21長223cmと住BのH21長228cmはほぼ一致し、住Aの桁行約339cm $\times\frac{2}{3}$ =226cmや住Cの桁行220cmともほぼ一致するなど、留意事項①～⑤で言及した住C⇒住B⇒住Aへの、同施設間に限らない諸施設間での規模の意図の継承も認められるなど、整然とした建て替えが行われている。

ところで、筆者の調査担当事例および報告担当事例としては初めての、住A・Bの（棟持柱P21—P22）間の床中央部で検出した棟行方向の溝については、『I集』の住居施設の統一番号模式図（第154図）中にaHM11を以後加えることとし、その住居説明の統一名称を棟持柱筋区画溝とすることを検討中である。

また、その機能については、埋土掘り下げ時の平面的・断面的土層観察上、棟持柱P21—P21間の「地中梁」痕を確認しなかったことなどから、住居構築上、重要な棟持柱建て祭祀に伴う精神的な地中梁、そして、住居空間として住居を使用する際の、棟持柱・棟持柱筋を他と区画する、D11・D21・DH21・DHP211・DHP212、H21・HP211・HP212同様の施設として考えている。

加えて、上記のことを換言すれば、この溝aHM11の長さをP21—P22の棟持柱間 a_1 として計測すると、住Aでは395cm・住Bでは370cmとなるが、この計測値は棟持柱材長と一致するものか。

最後に、住A～Cはいずれも中央土壇D11を『I集』で既報告の住1001号同様に無配置とし、住A・Bは付図2の住10号案同様に棟持柱筋区画溝aHM11を配することについても、『III集』で検討することとしたい。（馬田）

註)

1. 秦憲二編「以来尺遺跡I」（『一般国道3号 筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第4集、

遺物 (図版17・65・66、第9図5～21、第10図3、第75図2、第76図1・3・6) 5は頸部に1条の三角突帯が貼付されている。磨滅が激しく調整は不明。6は頸部から肩部にかけて大きく膨らむ。器面の磨滅は著しいが一部丹塗りが観察される。7は頸部から端部にかけては直立気味に立ち上がり胴部付近の器厚はほとんど変わらない。8・9は口縁端部にかけてやや肥厚する。8はP-3より出土。10は頸部が大きく「く」字に折れるように外反し三角突帯が1条貼付される。内面頸部下には横方向のケズリが観察される。11は胴部下位に刻み目の突帯が1条貼付され外面にはミガキが観察される。12も突帯が貼付されるが器面調整は不明。13は復元底径9.6cmを測る。14の復元底径は9.2cm、15の底径は11.2cm。16は内面ナデ調整、外面は磨滅し調整は不明であるが、黒斑が観察される。P-1出土。17は内外面共にナデ調整、底面には黒斑が観察される。18の内面はハケ目、外面は磨滅し底面には黒斑が観察される。19の口縁と外底部とがなす屈曲部には沈線状の段がつく。20は内外面ナデ調整で内底面には指頭圧痕が残る。21の底面は尖底状になっている。

第75図2は埋土中より出土した。砥面は長軸に5面と下端面に観察される。線状痕は長軸に沿って残されている。全体に稜が不明瞭で磨滅している。粘板岩製で24.8gを測る。(杉原)

第76図1は有茎の鉄鎌で、現存長6.6cm、幅0.9cm、刃部の厚さ0.15cm、茎の厚さ0.3cm。3は用途不明鉄製品で現存長3.3cm、現存最大幅1.6cm、厚さ0.1～0.7cmを測る。薄い鉄板を折り曲げ、端を合わせて中空にする。図下端部は閉じて完結しているが上端は割れのため不明。図上部の窪みは恣意的ではなく後のつぶれか。6は鉄鎌で、現存長12.7cm・基部幅6.3cm、刃部は欠損のため不明。背はほぼ直線で、先端部は研ぎべりによるものか幅が狭くなる。基部はU字形に折り返すが柄の木痕は見られない。第10図3はスカイブルーのガラス小玉で、直径4.9～5.5mm・厚さ4.6mm・孔径1.7mm・重さ150mgを測る。(齋部)

1422号竪穴住居跡 (図版14・15、付図5、表39・40)

重複関係は、住1421号群で詳述。

1422号A住居

住居規模は、床面積25.8㎡(西—東壁間の桁行方向が584cm、北—南壁間の梁行方向が441cm)で、西・東側の柱筋内に独立棟持柱P21・22を配し、桁行換算の算出値は29.8cm。

1422号B住居

住居規模は、新出A住居同様の床面積25.8㎡で、西・東側の柱筋内に独立棟持柱P21・22を

配し、棟持換算の算出値は29.3cm。

ところで、住1422号は1回の建て替えが確認でき、住1422号B⇒住1422号Aの順に新しいが、新住A・旧住B間では、下記①～⑧が看取できる。

①棟持柱 新・旧住居共に、西壁沿高床幅106cm・東壁沿高床幅107cmとほとんど一致するに等しいが、西側のP21の方が東側のP22よりも高床に近接し、住BのP21掘り形は高床下に及ぶことから、高床の造作は棟持柱の柱建て後（棟持柱の柱建て祭祀後）であることに加え、P21—P22を住居西寄りに配置したことが看取できる。

②中央土壇D11・北壁中央土壇D21 新・旧住居共に、住居中央よりも西寄り配置とし、特にD11は（P21—P22）間中軸に西接させたことが看取できる。

③北壁方形区画H21 新・旧住居共に、H21を住居中央よりも西寄り位置とし、特にH21東縁を（P21—P22）間中軸に西接させたことが看取できる。

④また、D11配置は、住Bの棟持柱筋下から住Aでは同筋以北へと大きく移設し、換言すれば、北壁H21に近接するように移設したことが看取できる。

⑤さらに、HP211・212配置は、住AのD21南北中軸（D21中心を通る南—北方向の中軸線）と住Aの施設柱P62中軸が一致するに等しいことが看取できることから、住AのH21東縁はD21南北中軸に整えたものと考えられる。

⑥また、住AのHP211・212配置は、住BのHP211・212配置から東に14cm移設したことが看取できることから、住AのH21配置も住BのH21配置から同様に東に14cm移動させたものと考えられる。

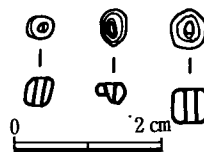
⑦なお、H21南縁は、新・旧共に（壁柱穴P51—北柱筋）間が42cmと一致することから、変化がなかったものと考えられる。

⑧上記⑥・⑦の看取点は、既述住1422号A・BでのH21配置状況に類似する。

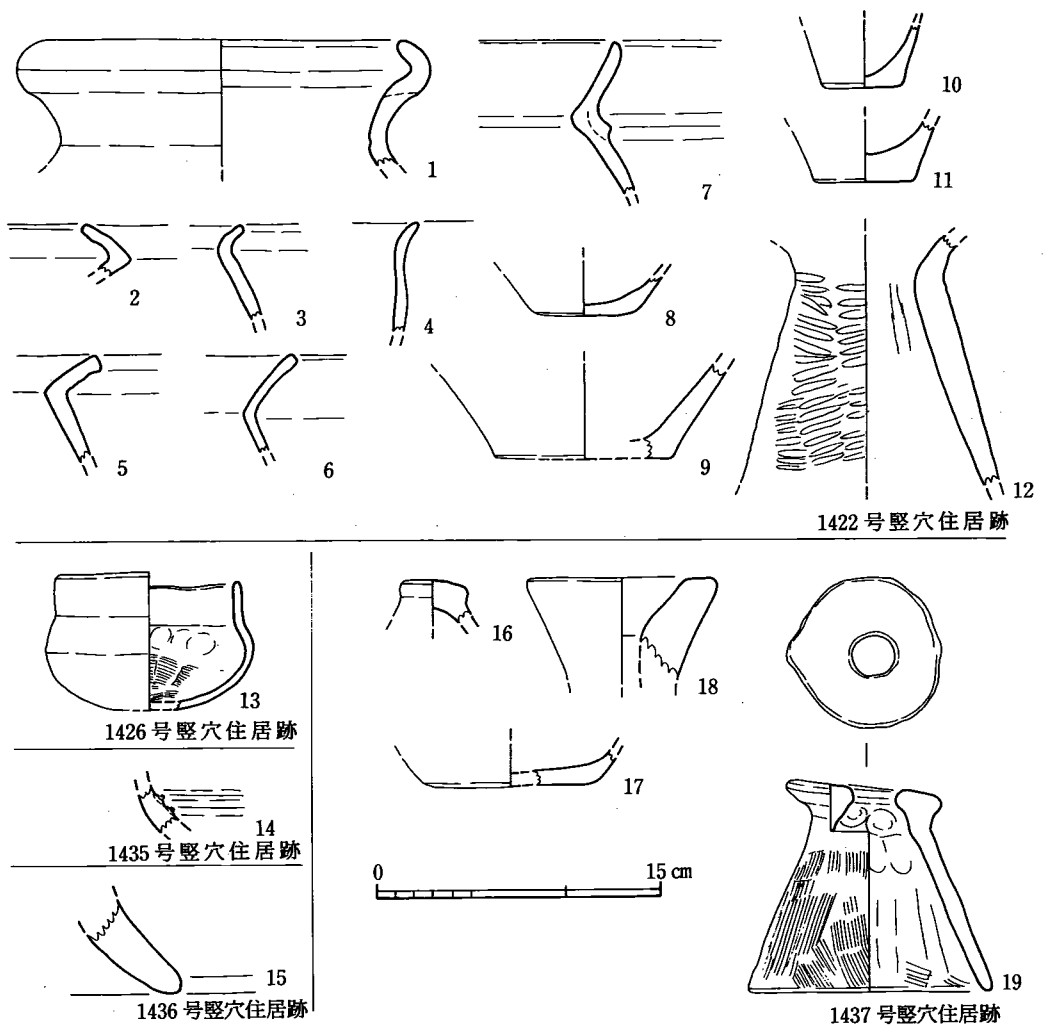
付図5は、以上のように看取された点などに留意して、住1422号A・Bの方形区画H21を復原図示したものである。

なお、新・旧住居の施設を含めた計測・算出の詳細については、表39・40に示したが、住Aは、棟持柱間322cmと（西柱筋—H21西縁）間162cm×2=324cmが一致するに等しく、梁行約350cm× $\frac{1}{2}$ =175cmが（西柱筋—HP211）間や（西柱筋—P61）間に一致するなど、いずれも諸施設配置が整然とした住居である。

また、住Bも、H21幅93cm×3.5=326cmがほぼ棟持柱間322cmに等しく、同93cm×5=465cmがほぼ桁行約476cmに等しいなど、いずれも諸施設配置が整然とした



第10図 ガラス玉実測図 (1/1)



第11図 1422・1426・1435～1437号竪穴住居跡出土土器実測図 (1/4)

住居である。

最後に、P21・22、D11・21、H21の各施設やP61・62が①～③で西寄り配置をとることの留意事項や、H21の北壁配置や、D11が④で北に移設されるという留意事項から、住居への出入口口施設は、住A・B共に南壁部の(D21—東壁沿高床東縁)間に構えたものと判断される。

(馬田)

遺物（図版65 第11図1～12 第75図3）1は復元口径22.0cm、内外面磨滅により器面調整は不明だが、内面頸部付近には粘土紐が観察される。2の口縁端部は丁寧なナデによって仕上げられている。3～6は埋土中出土の口縁部片でいずれも磨滅著しく器面調整は不明。5の頸部は鋭く「く」字状に折れる。7は頸部から口縁部にかけては「く」字状に外反し端部は鋭い。頸部は三角突帯が1条貼付される。内面頸部にはナデ調整による段がつく。8の底面は鋭く仕上げられている。9の底部から胴部へは直立気味に立ち上がる。10・11の底面端部は鋭く仕上げられている。10は内外面磨滅しており調整不明。11の外面は二次的に火を受け変色している。12は鼓形器台の胴部片で外面にタタキ、内面くびれ部にはシボリ痕がある。

第75図3は埋土中より出土した。砥面は5面あり、線状痕も多方向に残している。形状から、欠損資料と考えられるが、欠損部である上端面も一部使用している。粘板岩製で119.3gを測る。
(杉原)

1423号竪穴住居跡（図版14～16、付図5、表41）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住居規模は、不明とせざるを得ないが、桁行が約262cm・梁行が約344cmと梁行の方が約82cm大きい。このことは、東・西壁沿高床を配するための意図的なものと考えられ、住1422号例のように、西壁沿高床東縁をP21掘り形西縁に合わせたものか。

なお、壁土壇D21を住1422号東壁沿高床除去の確認作業でも検出しなかったことから、南壁に配したD21が後世の削平に因り、欠失したのと考えられる。

また、西・東の棟持柱P21・22と西・東柱筋間は13cmと一致する外接棟持柱配置とするなど、整然とした住居で、桁行・棟持換算の算出平均は29.0cm。
(馬田)

1424号竪穴住居跡（図版14～16、付図5、表42、43）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住1424号A

住居規模は、床面積約41.0㎡（北—南壁間の桁行方向が約662cm、東—西壁間の梁行方向が約619cm）で、北・南側の柱筋に外接棟持柱P21・22を配し、桁行・（HP211—HP212）換算の算出平均は30.2cm。

住1424号B

住居規模は、床面積約39.3㎡（北—南壁間の方向が約652cm、東—西壁間の梁行方向が約602cm）で、北・南側の柱筋に外接棟持柱P21・P22を配し、桁行・（HP211—HP212）換算の算

出値平均は29.2cm。

ところで、住1424号は2回の建て替えが確認でき、住1425号⇒住1424号B⇒住1424号Aの順に新しく、以下にこの3軒の住居規模の復原について説明するが、付図5には住1424号Aの住居規模復原図のみを掲示し、住1424号B・1425号については支柱P11～14と棟持柱P21・22の位置のみを示すこととし、これ以上の煩雑な付図となることを避けたため、詳細は表42～44を参照されたい。

住1424号Aの規模復原について

①HP211—HP212中軸を中軸HA（桁行A方向）、HP211・212各中軸を中軸HB（梁行B方向）とすると、方形区画H21の北縁方向は（北西壁隅高床東縁～H21東縁）方向と中軸HA方向は平行し、中軸HBは直交する。

②上記のことに留意し、西側柱筋をD11の桁行方向中軸とし、南側柱筋をP21掘り形北接線（南側柱筋—P21）間20cmとし、（P11—P12）間中心と（P13—P14）間中心を結ぶ住居東西方向中軸O（南北主軸Oの直交軸）を、①で既述した中軸HAの中心を通ることとする時、この住居東西方向中軸OはD11中心を通る。

住1424号B・1425号の規模復原について

3棟の方形区画H21内の柱穴様小ピットHP211・212の掘り替えに際しての配置関係を①で既述した住1424号Aの中軸HA・中軸HBで看取すると、以下のとおり。

③住1424号Aの中軸HAに対し、住1424号B・住1425号の同様の中軸HAは各17cm以西・10cm以東に配されている。

④同様に、住1424号AのHP211の中軸HBに対し、住1424号B・住1425号の同様の各HP211の中軸Bは8cm以北・40cm以南に配され、住1424号AのHP212の中軸HBに対しては、同様に18cm以北・10cm以北の配置となる。

⑤以上の③と④の看取事項（掘り替え位置と移動方向）を既述①と②の住1424号Aの留意事項に一致させ、支柱・棟持柱を含む諸施設の規模と配置を復原した（表42～44を比較・参照）。

以上のように3軒の住居規模を復原すると、各施設の掘り替えと移動方向の特徴は、既述の住1413号A～E、住1414号A～D、住1421号A～Cなどの住1421号群などの各住居に看取できる建て替えに際しての諸特徴（諸原則）ともほぼ一致し、『I集』で既報告の住1029号群・1031号群・1459号群・1460号群・1462号群・139号群・144号群でも看取できるものであるが、この諸原則については、『III集』で言及することとしたい。

なお、以上のように復原した3軒の住居規模は、住1424号Bの桁行A（338cm）と住1425号の棟持柱間 a_1 （338cm）が一致するなど、いずれも諸施設配置が整然とした住居である。（馬田）

1425号竪穴住居跡（図版14～16、付図5、表44）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住居規模は、床面積約34.2㎡（北—南壁間の桁行方向が約576cm、東—西壁間の梁行方向が約593cm）で、北・南側の柱筋に外接棟持柱P21・22を配し、桁行・（HP211—HP212）換算の算出値平均は29.6cm。 （馬田）

1426号竪穴住居跡（図版14～16、付図5、表45）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住居規模は、住居北側部のみの遺存のため床面積や柱配置などは不明であるが、北—南壁間の梁行方向が360cm、北壁沿高床幅が119cmで、高床幅・（東壁—西壁）換算の算出値は共に30.0cm。 （馬田）

遺物（図版17・65、第11図13、第10図2）ほぼ完形の直口壺で口径9.9cm、器高7.3cmを測る。外面は磨滅し不明だが内面はハケのちナデ調整で、頸部下位には指頭圧痕が残る。 （杉原）

第10図2はスカイプルーのガラス小玉で長径4.5mm・短径3.9mm・厚さ1.2～2.0mm・孔径1.0～2.4mm・重さ70mgを測る。丸形の玉が引き延ばされたような形になる。 （齋部）

1435号竪穴住居跡（図版2～4・14・15、付図6、表46・47）

住1436号⇒住1435号B⇒住1435号A⇒住1011号への建て替えを含む、他の住居群などとの重複関係は、住1003号で詳述。

1435号A住居

住居規模は、床面積約34.1㎡（南—北壁間の桁行方向が約644cm、西—東壁間の梁行方向が約530cm）で、西・東側の柱筋内に独立棟持柱P21・22を配し、P22は構築当初以来の柱1436号のP22掘り形を継承し、棟持柱間・（HP211—HP212）間換算の算出値は、共に30.6cm。

1435号B住居

住居規模は、床面積約22.5㎡（南—北壁間の桁行方向が約445cm、西—東壁間の梁行方向が約506cm）で、棟持柱は西側の柱筋に外接P21・東側の柱筋内に独立P22を配するという変則的構えで、このことは構築当初の住1436号のP22掘り形をすべての建て替え住居のP22掘り形とする、集落のこの住居構築者に対する内部規制に因る。

（HP211—HP212）間換算の算出値は30.0cm。

なお、住Aを含めての整然とした住居規模については、住1011号でまとめて説明したとおりである。 （馬田）

遺物（第11図14）壺の頸部から胴部付近の破片で方形の突帯が2条貼付させる。

（杉原）

1436号竪穴住居跡（図版2～4、付図6、表48）

重複関係は、住1011号で詳述したように、住1036号⇒住1435号B⇒住1435号A⇒住1011号へと3回の建て替えが確認でき、その整然とした住居規模についても、住1011号で詳述したとおりである。

住居規模は、床面積約19.2㎡（南一北壁間の桁行方向が約425cm、西一東壁間の梁行方向が約451cm）で、西・東側の柱筋内に独立棟持柱P21・22を配し、（DP211—DP212）間換算の算出値は31.0cm。

（馬田）

遺物（第11図15）裾部片の器厚は厚く、端部付近で急にすばまる。磨滅により内外面の調整は不明。

（杉原）

1437号竪穴住居跡（図版14・15、付図5、表49）

重複関係は、住1421号群で詳述。

住居規模は、住居北端部のみの遺存のため床面積や柱配置などは不明であるが、東一西壁間の梁行方向が354cmで、（東壁—西壁）換算の算出値は29.5cm。

（馬田）

遺物（図版17、第11図16～19）16は器種は不明だが頭部復元径は3.8cmを測る。17の底部片は磨滅し、調整は不明。18の受部付近は二次的受熱により赤変している。19は頭部径8.2cm、器高12.9cm、裾部径は11.2cmを測る。頭部には突起を有し、中央部には2.0cmの孔がある。頭部からくびれ部にかけてナデ、体部から裾部にかけては縦方向のハケ目で端部は横ナデされる。内面は指ナデされ一部ハケ目を残し、黒斑が認められる。

（杉原）

1464号竪穴住居跡（図版13、付図4、表50）

重複関係は、住1466号群で詳述。

住居規模は、床面積約50.1㎡（南一北壁間の桁行方向が約833cm、西一東壁間の梁行方向が602cm）で、南側の柱筋下に棟持柱P21、（D11—北側の柱筋）間に独立棟持柱P22を配す。

また、棟持柱間 a_1 の $252\text{cm} \times 1/3 = 84\text{cm}$ と（南側の柱筋—DP211）間が一致するなど、南・北壁沿高床を含む諸施設配置が整然とした住居で、桁行A換算の算出値は31.1cm。

（馬田）

1465号竪穴住居跡（図版13、付図4、表51・52）

重複関係は、住1466号群で詳述。

1465号A住居

住居規模は、床面積約33.8㎡(南―北壁間の桁行方向が約679cm、東―西壁間の梁行方向が498cm)で、南側の柱筋に外接棟持柱P21を、南・北側の柱筋間の中央に独立棟持柱P22を配す。

また、桁行Aの $334\text{cm} \times 1/3 = 111.3\text{cm}$ と(南柱筋―D P211)間の115cmがほとんど一致するに等しいなどD11を含む諸施設配置が整然とした住居で、桁行A・(南柱筋―D P211)換算の算出値平均は29.6cm。

1465号B住居

住居規模は、床面積約31.7㎡(南―北壁間の桁行方向が約680cm、東―西壁間の梁行方向が466cm)で、南側柱筋外に独立棟持柱P21を、南・北側の柱筋間の中央に独立棟持柱P22を配す。

また、D P111東西中軸線にD21を南接させるなど北東壁隅高床を含む諸施設配置が整然とした住居で、桁行A換算の算出値は28.7cm。(馬田)

1466号竪穴住居跡(図版13、付図4、表53)

住1466号群(住1464～1467号、住12・13・18・19号案、住20号)、建2013号群(建1029・2013号、建1・12号案)、溝1004号群(溝1004・1024・1・15・16号)の重複関係

上記の遺構群のなかで、『I集』^{註1}では、住18・19号案と住20号は住18～20号(同集の第51～53図)、建2013号と建1号案は建2・1号(同第166図)、建12号案は建12号(同第172図)、住13・12号案は住12・13号(同第40図)として、それぞれ既報告されたものに類似するが、遺構群の重複関係を検討する際、以下の①～⑤について留意すべきである。

留意事項① 既報告の住19号の説明文では、「長軸線上にある2本の主柱穴は深く、北側で70cmを測る」と記され、『II集』の付図4の住19号A案のP21'を北側主柱穴、同付図4の建1029号AのP2を南側主柱穴として図示する。

留意事項② また、既報告の建2号の説明文では、「当初は1間×2間を想定していたが、中央北側の柱穴は他とプランが異なり、またこれに対応する柱穴が南側で確認できなかったことから、かなり横に長い1間×1間の建物跡という認識に至った。柱穴の掘形は一辺70～80cmの比較的大きな隅丸方形で、深さはおよそ55cmに統一される。確認された柱痕はいずれも径20cm。」と記し(印は筆者付加)、『I集』の第166図では、『II集』の付図4の建2013号AのP5を建2―1、同建2013号AのP22を建2―2、同建2013号BのP10を建2―3、同住1064号のP14を建2―4、同建2013号AのP9を建2―6として図示する。

留意事項③ ところで、92年度のバイパス路線内の市道付け替え部分の調査部を、付図4で示すと、(住12号案の南東壁隅部)～(住1466号の北西壁隅部)～(住1467号の南東壁隅部)～(住19号案の南東壁隅部)間の以北である(『I集』の図版13・18参照)。

また、94年度の調査部は、(住1466号の北西壁隅部)～(同住の北東壁隅部)～(住1467号の東壁確認北端部)～(建2013号BのP22)～(住19号A案の床中央部土壇D11)間の以南である(『I集』の図版3参照)。

留意事項④ なお、94年度調査中に検出した(建2013号のP9)と(建1029号のP5・6)を、調査時点では建1029号の南側の柱筋と考え、このように考えた南側の柱筋に対峙する北側の柱筋の柱穴を確認するだけのために、19号の既調査床面部の精査を実施させて頂き、建1029号のP3とその掘り形を新たに検出した。

また、『I集』の図版28-1に示されているように、住19号案のP22部の床面近くで出土していた土器群を避けて?検出・実測されていた同P22部の精査もさせて頂き、同P22の掘り形が土器群部にまで及ぶことと、住19号A・B案の各P22柱痕を新たに検出した。

上述の新たに検出した建1029号のP3とその掘り形、住19号A・B案の各P22柱痕については、住19号の遺構実測図中に新たに実測・付加した(『II集』の図版13)。

そして、その建1029号の西側棟持柱や床中央部の床束柱穴配置の可能性も考慮して、建1号案のP6部や建1029号のP81も再度、精査させて頂いた。

留意事項⑤ なお、『I集』の図版82-1には建2013号BのP5とした柱穴も検出・掘り下げられたことが示され、実際に実測図化されているが、『I集』の第166図では掲示されていない。

以上の留意事項①～⑤のような状況を踏まえて、『II集』の当報告書作成のための実測図検討の結果、③建1029号の規模を、調査段階での規模としてではなく、『II集』の付図4に示すように、⑥また、既報告の住18・19号を同付図4に示す住18・19号案のように考え、⑦新たに、調査段階ではどの遺構に属するものかの判断に苦慮していた柱穴・掘り形[同付図4掲示の建2013号A・BのP21・23掘り形や建2013号BのP7]が、『I集』の第166図の1・2号掘立柱建物跡実測図中に[建2-1、建2-2、建2-3、建2-4]として掲示されている柱穴・掘り形などと共に、建2013号の支柱・棟持柱に属するものとの、筆者なりの結論を得、⑧また、『I集』で住19号の[南側の支柱穴]として既報告されたものが、建1029号A・Bの[P2]と判断でき、⑨住19号A・B案で掲示した[各P21・21]が、既報告の住19号の[新・旧二者の柱]配置と判断できるとの筆者なりの考えに至った。

以上の留意事項①～⑤と筆者の⑩～⑫の考えから、各遺構を、建て替えや掘り替えが行われた新・旧関係を旧⇒新、その新・旧関係にはない遺構間の切り合いによる新・古関係を古⇒新で示すと、住1466号群・建2013号群・溝1004号群の重複関係は、以下の⑬～⑭のように指摘できよう。(付図4、各建物(案)・住居(案)計測表、および『I集』の関係遺構報告参照)。

⑬住1466号群中の住1465～1467号は、いずれも残存壁高がほとんどなく、張り床部が遺存するだけに近い状態であったが、その各住居張り床の新・旧・古の切り合い関係や、(住1465号BのP22・D21)→(住1465号AのP22・D21)、(住1465号BのP21)→(住1464号のP21)、(住

1464号のP 22) → (住1466号のD21) の切り合い関係に加えて、(建1464・1465号の各P 21)・(建1465号A・Bの各P 22)・(建1465号A・建1466号の各P 13) などの各柱痕が同じ掘り形内で検出されることなどから、(住1465号B⇒住1465号A⇒住1464号) の旧⇒新の順に建て替えられ、住1464号→住1466号の古→新関係が指摘できる。

④なお、住1467号は、既述の94年度調査区内ではP 91以外に柱穴・土壇などの施設を確認していないことから、92年度調査区内に配されていた可能性も強いが、住1464号東壁と住1467号南壁との切り合い関係は、両者の張り床相互間では確認し得なかった。

しかし、柱痕が深く遺存した建1464号のP 14掘り形が標高48.99m、住1467号の張り床下面の標高が48.94mでそれぞれ検出したことから、住1467号→住1464号の順に新しいと判断でき、前述の⑦から、〔住1467号→住1465号B⇒住1465号A⇒住1464号→住1466号〕の順に新しいと判断してよい。

⑤また、住1466号と『I集』で既報告の住12・13号の重複関係は、建1002号で後述する重複関係(付図2参照)のように、住13号B案⇒住13号A案⇒住12号案のように建て替えられたものと判断すると、その住12号案の南壁沿高床部東壁を住1466号が切る(『I集』の第40図の12・13号竪穴住居跡実測図でも、この壁部が住居内側に内弯気味に掲図されている)状況(現実)下で、重複している住1466号部を発掘調査せずに、既報告の住12・13号のみの発掘・実測がなされた可能性が強いことから、〔住13号B案⇒住13号A案⇒住12号案→住1466号〕と考えられる。

⑥建2013号群の各建物に属すると判断される全柱穴間には、柱穴検出面の現標高下での切り合いは見事なまでに認められないが、各建物規模を考慮すると、いずれの建物も重複関係にある。

⑦なお、各建物に属する柱穴・掘り形内での切り合いは認められ、建1029号B⇒建1029号A、建2013号B⇒建2013号A、建12号B案⇒建12号A案の順にそれぞれが建て替えられている。

⑧しかし、建2013号群の柱穴群と住1466号群では、上述⑥の状況とは逆に、見事なまでに切り合いがどうか把握でき、建2013号A・BのP 21→住1464号の張り床、建2013号BのP 7→住1464号の張り床、建2013号BのP 10→住19号A案の張り床(『I集』の既報告では同集の第166図の建2—3と掲示された柱穴に相当し、この柱穴については「19号竪穴住居跡の床面下において検出された柱穴も存在することから、少なくともそれらに先行して建てられたものであることだけは間違いない」と説明されている)、建12号A・B案のP 3→住18号案(同集の既報告では、同第172図で建12—3と掲示の柱穴を、「18号竪穴住居跡に切られるので、それ以前である」と説明されている)の順に、それぞれの住居の方が新しい。

⑨なお、『I集』の既報告では、住19号→住20号、住103・104号→住18号の順に新しいことが把握・説明してあるが、これらの重複関係についてまでの言及は省く。

⑦溝1004号群については、建1019号で詳述する。

以上の指摘事項⑦～⑩から、遺構群の重複関係は以下の①～④にまとめられる。

①〔建1029号B⇒建1029号A→住19号B案⇒住19号A案→住18号B案⇒住18号A案〕。〔建1号→住19号B案〕。〔建12号B案⇒建12号A案→住18号B案〕。

②〔建2013号B⇒建2013号A→住1465号B⇒住1465号A⇒住1464号→住1466号〕。〔住13号B案⇒住13号A案⇒住12号案→住1466号〕。〔住1467号→住1465号B〕。

③なお、住19号案については、住19号B案⇒住19号A案への1回の建て替えだけでなく、住19号B案のP21東側のP21'（『I集』の既報告の住19号説明文での「北側」の「主柱穴」のこと）も確認されていることから、2回の建て替えが行われた可能性が強い。

上記の2回の建て替えについては、既報告の住19号の各壁の規模・方向が全体的には不整長方形プランを呈することからも看取でき、例えば西壁方向は（住19号A・B案のP21）—P21'方向と直交、南壁方向は住19号B案のP22—P21方向と平行、東壁方向は住19号A案のP22—P21と平行の関係にあることが指摘できることから言えようが、最後に、既報告の住19号に対しての住19号案の付図4への再掲示は、建1029・2013号の両建物規模の検討・報告説明するためなどの筆者文責の不可欠からのみである。

④住18号案についても同様に、重複関係の検討・報告説明するために加え、通例、棟持柱P21・22が確認できる住居にあっては、筆者が他の住居群も含めての大多数例において、他に主柱P11～14・21・22の〔配置状態と各柱筋方向〕が、出土炭化部材の位置と方向から把握できる良い資料（部材の一部については、『I集』の第57図掲示から省略）とさせて頂くための筆者責の不可欠からのみの検討案の掲示で、『III集』での言及課題としたい。

1466号住居

住居規模は、床面積約12.5㎡（南—北壁間が約357cm、東—西壁間が350cm）と超小型で、P11～14の検出を試みたが確認されなかったので当初から無配置と考えた。

なお、D21内のDP212の確認に努めたが、住1466号よりも古い住1464号のP22や建2013号のP3の埋土との識別ができず、検出し得なかった。

また、P21直交軸にD21を南接させるなど、D11を含む諸施設配置が整然とした住居で、棟持換算の算出値は31.0cm。 (馬田)

註)

1. 秦憲二編 「以来尺遺跡I」(『一般国道3号 筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第4集、福岡県教育委員会、1997)

1467号竪穴住居跡（図版13、付図4、表54）

重複関係は、住1466号群で詳述。

住居規模は、不明とせざるを得ないが、その他の柱穴P91が中央部床面から深さ4cmと浅いことや、94年度調査区で柱穴を含む諸施設を検出していないことから、P91を主柱穴P11～14中のP14、南側の棟持柱P22を新しい住1465号のD21などの掘削で欠失、西壁土壇D21を新しい住1466号のD21の掘削で欠失とし、北側の棟持柱P22を92年度調査区内で未確認とさせて頂くと、少なくとも南東壁隅高床配置が考えられ、南―北主軸で方向N-22°-Wを測る。（馬田）

2001号竪穴住居跡（図版14～16、付図5、表55・56）

重複関係は、住1421号群で詳述。

2001号A住居

住居規模は、床面積約38.4㎡（北―南壁間の桁行方向が約647cm、東―西壁間の梁行方向が約594cm）で、北・南側の柱筋に外接棟持柱P21・22を、東側の柱筋に補柱P81・82を、西側の柱筋にP83・84とHP211・212をそれぞれ配すと考えられる。

また、住1421号A同様に、北・南・東壁沿高床、北西・南西壁隅高床、西壁中央方形区画H21、棟持柱筋区画溝a HM11の諸施設を配し、中央土壇D11は無配置と考えられ、棟持換算の算出値は29.4cm。

2001号B住居

住居規模は、床面積約36.7㎡（北―南壁間が住Aと同じ約647cm、東―西壁間が住Bよりも約26cmだけ（棟持柱径分だけ）小さい約568cm）で、住A同様の棟持柱（内接棟持柱）・補柱・HPをそれぞれ配すと考えられる。

また、北・南・東壁沿高床、西壁中央H21、中床中央a HM11の諸施設配置、D11無配置は住A同様であるが、北西・南西壁隅高床は無配置と考えられ、（棟持柱筋―HP211）換算例での算出値は29.8cm。

ところで、住2001号は1回の建て替えが確認でき、住B⇒住Aの順に新しく、以下、この2軒の住居規模について説明するが、付図5には住Aの規模復原の大略のみを掲示し、住Bについては規模南半部の大略のみの掲示とし、これ以上の煩雑な付図となることを避けたため、詳細は表55・56を参照されたい。

住2001号A・Bの規模復原について

留意事項① 住Aでは、南壁側のP82とP84（北壁側のP81・83は欠失）の中心を通る補柱中軸Bと、P21・22の棟持柱筋は整然と直交すると共に、P21とP22各掘り形東端を結ぶ棟持

柱掘り形東接線は補柱中軸Bの中心を通り・直交する。

留意事項② 住Bでも、P82が確認でき、P84は、住Bに切られる住1012号の棟持柱P22掘り方との重複に因り、検出し得なかったものと考えられる。

留意事項③ 上述の補柱同様の例は、柱1422号A・Bの両壁側の壁柱穴P51に認められ、住1422号ではH21南縁筋下に配されている。

留意事項④ 住Aの東・西側の柱筋が、東側のP81—P82中軸A下・西側のP83—P84中軸A下に配され、(東壁—東側柱筋)間と(西壁—西側柱筋)間を約167cm等間で復原すると、(東壁—棟持柱筋)間が約328cm・(西壁—棟持柱筋)間が319cmで等間とならず、①既述の棟持柱掘り形東接線で等間となる。

留意事項⑤ 上記のことは、P81・82掘り形東接線を東壁沿高床西縁、P83・84掘り形西接線をH21東縁として復原しても同様である。

留意事項⑥ しかし、住Bでは住Bの東・西柱筋がP81—P82中軸下、東壁沿高床西縁がP81・82掘り形東接線下、西側柱筋がP81—P82中軸下、P83・84掘り形西接線をH21東縁として復原すると、①既述の棟持柱掘り形東接線が、東壁—西壁間、東壁沿高床西縁—H21東縁間や梁行の中軸となる。

以上の留意事項①～⑥などに加え、住1421号A・Bの住居規模と諸施設配置などを考慮すると、住2001号Bでも住1421号B同様に棟持柱掘り形東接線を棟持柱筋区画溝a HM11東壁とするa HM11が配され、住Aでは径約26cm (P81中心—P81掘り形東端間)の桁・梁・棟材を使用し、径約35cm (P22掘り形径70cm×1/2)の棟持柱に棟材を東接・梁材を外接(住Bでは梁材は内接)させた軸組み構造と諸施設配置が復原できよう。

また、中央土壇D11の無配置・棟持柱筋区画溝a HM11の配置・壁規模の大きさに加えて方形区画H21規模の大きい点など、集落内でも特別な属性を有すと考えられる住1421・2001号の確認は、集落内での出土位置、住2001号B⇒住2001号A間と住1421号C⇒住1421号B⇒住1421号A間との非連続性、しかし、生活空間占有域の住2001号A・B間と住1421号A～C間との継承性など、集落内での占地縁・有血縁の変容問題把握上、留意すべき諸事項と考えられる。

なお、付図5の復原大略図や表55・56に示すように、住2001号A・Bは共に柱・諸施設配置が整然とした住居である。

(馬田)

(2) 掘立柱建物跡

1002号掘立柱建物跡 (図版5～8、付図2、表60)

建1002号群 (建1001～1005・1007～1010号) と溝1001号群 (溝1001・1003・2001～2007・18号、土壇

1001～1003号、土坑13号)との重複関係

上記の重複関係については、住1002号の説明のなかでも、住1002号群(住1001・1002・1018号、住10・12・13号案)との重複関係を主として既述し、また、建1019号の説明のなかの列記事項⑨～⑪でも後述する。

なお、土坑1001・1003号は、『I集』でそれぞれ土坑12・11号として既報告され、土坑13号も同集で既報告、土坑1002号と溝1001・1003号^{註1}については、出土遺物のみが土坑1002号と溝1001・1003号出土として同集で既報告されている。

建て替えや掘り替えによる新・旧関係を旧⇒新、その新・旧関係を示さない遺構間の切り合いによる新・古関係を古⇒新で示すと、重複関係には以下の①～⑤の特徴が指摘できる。

①建1002号のP1～8と、他の建1002号群や溝1001号群との直接の切り合いはない。

②溝1001号と溝2003号間には、(溝1001号B→溝1001号A。溝2003号→溝1001号A)の切り合いが認められ、溝1001号Aからは多量の土器群が出土(『I集』の第221～225図)。

③土坑1001・1002号の各内部にも、(土坑1001号B→土坑1001号A。土坑1002号B→土坑1002号A)の切り合いが認められ、土坑1001号A・1002号Aからも多量の土器群が出土(同集の図版113・114、第195・196・198～202・204・207図)。

④溝2006号→住1019号Aの切り合いも認められる。

⑤なお、(P61A—P62A)と(P63A—P64A)はそれぞれが対となる建1002号関連の標柱・出入口施設柱穴、(P65A—P66A—P67A)を同建物関連の出入口施設柱穴、多量の土器群を出土した溝1001号Aや土坑1001号A・1002号Aに加えて若干の土器が遺存した溝1003号(『I集』の第225図)・溝18号を同建物関連の祭祀施設・区画溝と考えると、既述の特徴①～④から、[溝1001号B→(建1002号・溝1001号A・溝1003号・土坑1001号A・土坑1002号A)。[溝2003号→(建1002号・溝1001号A・溝1003号・土坑1001号A・土坑1002号A)]。

⑥そして、『I集』で既報告した建1001号A・B(同集の第189図、表50・51。なお、表50・51中の主軸方向N—89°—Eは、N—89°—Wの校正ミスである。)についても、『II集』の付図2にも示すように、(P61B—P62B)が対となり、建1001号関連の標柱・出入口施設柱穴、(P63B—P66B)を同建物関連の出入口施設、溝1001号B・溝2001号・溝2002号に加えて列状をなす土坑1001号B・1002号Bや溝2003～2007号・土坑13号(『I集』の第203・208図)を同関連の祭祀施設・区画溝と考えると、既述の特徴①～⑤から、[建1001号・溝1001号B・溝2001号・溝2003～2007号・土坑1001B号・土坑1002号B・土坑1003号・土坑13号]→[建1002号・溝1001号A・溝1003号・土坑1001号A・土坑1002号A]の順に新しくなると考えられる。

⑦ところで、建1002号の建物規模は1間×3間(313cm×688cm。面積21.5㎡)で、主軸方向がN—15°—Wの北・南妻側に棟持柱穴P21・22を配さず、また、既述のように標柱・出入口・祭祀・区画の諸施設を構えることが考えられるなど、1002号建物は、建1002号群や近接の建1019

号群（後述）の他の建物に比べると、極めて特異な建物である。

なお、桁行・施設柱間換算の算出値平均は30.0cm。

⑧同様に、建1001号Aの建物規模は、『I集』で既報告したように、1間×2間（166cm×363cm。面積6.0㎡）と梁間規模が極めて小さいにもかかわらず、主軸方向N-89°-Wの西・東妻側の柱筋に別途の内接棟持柱P21・22を配す。

また、特徴⑦で既述した1002号建物同様の諸施設を構えることが考えられるなど、1001号建物〔筆者は、以上の①～⑧などの構築者（群）が意図的に配慮し、また、集落内・外の構築に対する規制などの特徴を検討し・説明・言及する際、『建物』・『住居』の呼称使用を本意とし、『建物跡』・『竪穴住居跡』の呼称使用を本意としないが、『以来尺遺跡』の報告書については、全調査担当者の編集会議での多数決事項につき、『I～III集』の報告書では「建物跡・竪穴住居跡」なる見出しを使用することとなった〕も、他の建物に比べると、特異な超小型建物である。

なお、桁行・棟持柱間換算の算出値平均は29.9cm。

⑨また、『I集』で既報告した柱1001号A（同集の第155図、表8）の住居規模は、床面積22.5㎡（東一西壁間の桁行方向が519cm・南一北壁間の梁行方向が433cm。梁行B267cm×桁行A269cmの1間×1間）で、桁行とほとんど規模が等しい主軸方向N-75°-Eの東・西妻側の柱筋外に独立棟持柱P21・22を配すが、床中央部土壇D11を配さない（同様にD11を配さない住居として、住1421号A・B例があり、この住居も棟持柱筋区画溝a HM11を配すなど、特異な住居である。付図6参照）など、1001号住居も、他の住居に比べて、**特異な構築物（住居？）**である。

また、この1001号住居は、桁行・棟持柱間換算の算出値は共に29.9cmで、西側の梁行柱筋外の独立棟持柱P21と西壁間が $46\text{cm} \div 29.9 \times 1.5 = 44.25\text{cm}$ しかなく、壁建ち竪穴構築物の可能性も考えられる住居である。

以上の特徴⑦～⑨のように、1001・1002号建物と1001号竪穴構築物は、いずれも集落内では特別な属性を有す遺構と考えられ、既述の特徴①～⑨に加えて、以下の特徴⑩～⑭が指摘できる。

⑩建1002号の北一南主軸方向N-15°-Wは、表60に示すように、住1001号の東一西主軸方向N-75°-Eとは整然と直交するだけでなく、溝1001号A・溝18号の長軸方向とも直交し、溝1003号の長軸方向N-69°-Eをはじめ、土壇1001号A・1002号Aの長軸方向ともほぼ直交する。

⑪また、建1002号の主軸方向は、『I集』で既報告した建2011号群の建2009号（同集の付図3A～C、表76）の西一東主軸方向のN-75°-Eとも整然と直交する。

⑫建1001号の西一東主軸方向N-89°-Wは、表60に示すように、溝1001号B・溝2001号・溝2003～2007号の長軸方向とも一致し、土壇1003号の長軸方向N-85°-Wや土坑13号の長軸方向ともほとんど一致するに等しい。

⑬また、建1001号の主軸方向は、『I集』で既報告した建1027号B(『I集』の第192図、表67・68。なお、第192図には作図時に見落としがあったので、『III集』で修正図を掲示し、再検討する)の主軸方向とも一致する。

⑭なお、特徴⑦～⑨で既述したように、建1001号Aと住1001号Aの桁行・棟持柱換算の算出値平均は共に29.9cmで一致し、建1002号の桁行・施設柱間換算の算出値平均の30.0cmもほとんど一致するに等しい。

⑮以上の特徴などから、特徴⑤・⑥で既述した新・古関係を、遺跡群⑧〔建1001号・建1027号B・?建2008号・溝1001号B・溝1002号B・溝2001・2003～2007号・土壇1001号B・土壇1002号B・土壇1003号・土坑13号〕⇒遺構群④〔建1002号・建2009号・住1001号・溝1001号A・溝1003号・溝18号・土壇1001号A・土壇1002号A〕の順に建て替え・掘り替えが行われたものと、新・旧関係を整理することもできようが、いずれの遺構についても、出土遺物の検討をしていない段階での『II集』での報告であるため、一応の指摘事項としておき、『I集』で既報告した建2011号群・住1459号群・住1460号群・住1462号群(同集の付図3A～C・第163図・第164図)などの規模・配置状況に加えた出土遺物の検討を踏まえて、98年度の『III集』での課題とした。
(馬田)

註)

1. 秦憲二編「以来尺遺跡I」(『一般国道3号 筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第4集、福岡県教育委員会、1997)

1003号掘立柱建物跡 (図版5～8、付図2、表61・62)

重複関係は、住1002号群で詳述。

1003号A建物

建物規模は、1間×2間(359cm×455cm。面積16.3㎡。)で、東・西側の柱筋に内接棟持柱P21・22を配すと共に、床中央部に床束P81を加え、桁行A・棟持柱間 a_1 換算の算出値平均は30.2cm。

1003号建物

建物規模は、1間×2間(約359cm×400cm。面積約14.4㎡)で、東・西側の柱筋に内接棟持柱P21・22を配すと共に、床中央部に床束P81を加え、桁行A・棟持柱間 a_1 換算の算出値平均は30.1cm。
(馬田)

1004号掘立柱建物跡 (図版5～8、付図2、表63)

重複関係は、住1002号群で詳述。

建物規模は、1間×3間(587cm×448cm。面積26.3㎡)で、東・西妻側の柱筋に外接棟持柱を配し、桁行A・棟持柱間 a_1 換算の算出値平均は29.5cm。(馬田)

1005号掘立柱建物跡 (図版5～8、付図2、表64)

重複関係は、住1002号群で詳述。

建物規模は、1間×2間(442cm×504cm。面積22.3㎡)で、南・北妻側の柱筋に内接棟持柱を配すと共に、床中央部に床束P81を加え、棟持柱間 a_1 の算出値は30.0cm。

なお、桁行柱筋のなかで、西側の柱筋のみに検出した等間のP61・62は集落全体の西面を意識しての出入り口に関する施設柱か。(馬田)

1007号掘立柱建物跡 (図版5～8、付図2、表65)

重複関係は、住1002号群で詳述。

建物規模は、1間×2間(384cm×315cm。面積12.1㎡)で、東・西妻側の柱筋に内接棟持柱を配すと共に、床中央部に床束P81を加え、桁行A・棟持柱間 a_1 換算の算出平均は30.0cm。

(馬田)

1008号掘立柱掘立柱建物跡 (図版5～8、付図2、表66・67)

重複関係は、住1002号群で詳述したように、建1008号B⇒建1008号Aへと建て替えている。

1008号A建物

建物規模は、1間×2間(391cm×497cm。面積19.4㎡)で、南・北妻側の柱筋に外接棟持柱P21・22を配し、棟持柱間 a_1 換算の算出値は30.1cm。

1008号B建物

建物規模は、1間×2間(349cm×449cm。面積15.6㎡)で、南・北妻側の柱筋外接の棟持柱P21・22を配し、桁行A・棟持柱間 a_1 換算の算出値平均は29.9cm。(馬田)

1009号掘立柱建物跡 (図版5～8、付図2、表63)

重複関係は、住1002号群で詳述。

建物規模は、1間×2間(420cm×536cm。面積22.5㎡)で、東・西妻側の柱筋内接の棟持柱P21・22を配し、桁行A・棟持柱間 a_1 換算の算出値平均は30.2cm。(馬田)

1010号掘立柱建物跡 (図版5～8、付図2、表69)

重複関係は、住1002号群で詳述。

建物規模は、1間×2間(153cm399cm。面積6.1㎡)で、梁間が小さいため棟持柱穴を配さず、桁行A換算の算出値は30.7cm。

なお、上記の建物規模は、南に約8m離れて確認し、『I集』で既報告の建1001号Aの建物規模(166cm×363cm。面積6.0㎡)にはほぼ等しく、建1001号Aが東・西妻側の柱筋に内接棟持柱を配すことから、建1010号のP21は建1005号のP21に切られ・P22は建1008号のP5に切られたために、東・西妻側の柱筋内接の棟持柱を欠失するとも考えられる。(馬田)

1019号掘立柱建物跡 (図版6・11、付図3、表70・71)

建1019号群(建1019・1031・1032号) 住1019号群(住1019～1021・145号) 溝1001号群(溝1001～1003・2001～2007・18号、土坑1001～1003号、土坑13号)、溝1004号(溝1004・1024・1・15・16号)の重複関係

上記の遺構群のなかで、『I集』^{註1}では、住1019号は住141A・B号(同集の第150図)、住1020号は住142A・B号(同第150図)、住1021号は住137号(同第148図)、土坑1001号は土坑12号(同第196図)、土坑1003号は土坑11号(同第195図)として、住145号(同第150図)・土坑13号(同203図)と共に既報告されたものに類似するが、遺構群の重複関係を検討する際、以下の①～③^{註2}について留意すべきである。

留意事項① 既報告の住141A号の説明文では、「貼床は硬化しているため明瞭であり、これを外すと141B号[・]竪穴住居跡の屋内施設が検出される」と記され、住141B号の説明文では、「本[・]竪穴住居跡は141A号[・]竪穴住居跡の建て替えと思われる」と記されている(・印は筆者付加)が、後段の・印部は校正ミスであり、前段の住141A号の説明文に後続して、「141A号[・]竪穴住居跡は141B号[・]竪穴住居跡の建て替えと思われる」となるべき文意であるとの報告者からの確認を得ている。

留意事項② また、既報告の住142A号の説明文では、「貼床は硬化しているため明瞭であり、これを外すと142B号[・]竪穴住居跡のプランが検出された。」で終わっていることについても、その文意は『住142A号は住142B号を建て替えたものと思われる。』ことをも含むものであるとの報告者からの確認を得ている。

以上の留意事項①・②のことを、筆者流の建て替えや掘り替えが確認できた新・旧関係を旧⇒新、その新・旧関係を示さない遺構間の切り合いによる新・古関係を古⇒新で示すことにし、『I集』での既報告内容を整理させて頂くと、同集の住145号の説明文では、住145号は「141A[・]142A号[・]竪穴住居跡に大部分を切られる」となっている(・印は筆者付加)ことから、住145号⇒住142B号⇒住142A号⇒住141B号⇒住141A号となる。

留意事項③ ところで、『I集』で既報告の第150図では、本報告の『II集』の付図3に掲示した柱穴・柱穴様小ピット群のなかで、㊸中世の溝16号の埋土を切る状態で筆者と共に検出し、その旨を遺構実測図にも註記しているPア・シ・スのPア・スが省かれ、㊹住1020号A（大略は既報告の住142A号）を切る状態で筆者と共に検出したPイ・オ・ク・ケ・サと㊺住1019号（大略は既報告の住141A号）を切る状態で同様に検出したPセも省かれてはいるが、㊻住1020号A（大略は既報告の住142A号）を切る状態で同様に検出したPウ・カ・キにあっては、Pウを省かず、Pカ・キを住142A号（大略は住1020号A）の「貼床」下で検出の「住142B号」同様に赤（破）線で図示されている。

以上の留意事項①～③のような状況から、建1019号群の各建物規模の把握上、また、建1019号群と住1019号群などとの重複関係の説明上、既報告の住居なども『I集』の第150図に馬田責任で遺構実測図からの加筆・修筆・遺構検討をさせて頂き、『II集』の付図3中に再掲示させて頂くことにした。

さて、以上の^{註3}ような状況を踏まえて、各遺構群を、既述の旧⇒新、古⇒新で示すと、建1019号群・住1019号群などの重複関係は以下の㊼～㊿のように判断する。

㊼住1019号群の重複関係は、住145号⇒住1020号⇒住1019号の順に新しくなり、これら3軒の住居と住1021号との壁間の切り合いは認められないが、壁間距離が50～150cmと近接することから、住1019号群内での同時併存はないものと判断できる。

㊽住145号は、北西壁隅部（床面の標高約48.49m）と東壁の一部がわずかに遺存するのみで、住145号に伴う明確な柱穴などは確認できず、住1019・1020号住に因り、欠失したものと判断できる。

㊾住1019号は、2回の建て替えが行われ、住1019号C（中央部張床面の標高約48.25m）⇒住1019号B（同48.35m）⇒住1019号A（同48.39m）の順に新しくなり、付図3に示す諸施設配置・規模と判断できる。

㊿住1020号は、1回の建て替えが行われ、住1020号B（中央部張床面の標高約48.35m）⇒住1020号A（同48.32m）の順に新しくなり、付図3に示す諸施設配置・規模と判断できる。

また、以上のことも考慮して、建1019号群と住1019号群などとの重複関係を続記すると、以下の㊽～㊿のように判断できる。

㊽建1019号は、2回の建て替えが行われ、建1019号BのP3掘り形⇒建1032号のP3掘り形⇒建1019号のP3柱痕や、建1019号A・BのP2やP4での新・古関係、建1032号・建1019号AのP4やP22での新・古関係に加えて、各建物規模などから、建1019号B⇒建1032号⇒建1019号Aの順に新しくなり、建1032号・1019号AのP22が住1020号Aの北東壁隅部を切ることなどから、〔住145号⇒住1020号⇒建1019号B⇒建1032号⇒建1019号A⇒住1020号〕。

㊾建1031号は、P1・4・21が住1020号壁を切り、P3・22が住1019号から切られ、P2は

住1019・1020号を切る中世溝16号からも切られることなどから、〔住145号→住1020号→建1031号→住1019号→溝16号（中世）〕。

㊸また、建1031号の柱穴と、建1019号A・Bや建1032号の柱穴間に直接の切り合い関係は認められないが、建物規模が重複することから、建1019群内の建物は同時併存はあり得ない。

㊹なお、建1019号・住1019号群で住145号を除く遺構の主軸方向は、(N-5°-W)～(N-63°-E)間で計測でき、一致する例はないが、建1019号BのN-63°-Eと住1019号CのN-27°-Wは整然と直交し、建1031号の主軸N-15°-Wと住1020号Aの西壁・住1020号Bの北壁方向は整然と一致するなど、各遺構の出土遺物が未検討ではあるが、建1019号群と住1019号群間にも、『I集』の建2011号や住1029・1033・1459号などの説明で言及した遺構群間の新旧・新古関係と居住空間・生活空間の占有・容認関係が指摘できるものと考えられる。

以上、㊷～㊹のことも考慮して、建1019号群・住1019号群と溝1001号群・溝1024号群などとの重複関係を統記すると、以下の㊺～㊻のように判断できる。

㊺溝1024号群は、いずれも中世の溝で、付図1にも示すように、溝1024号（溝1004号）の東端部は住20号南壁外に一部示されている溝に続くものと思われ、その西端部が溝16号に続き、溝16号は住1019～1021号を切ると共に、建1019号AのP5・6と建1031号のP2・6を切りつつ、溝16号の南端部は溝15号に掘り替えられて、溝15号の南端部が溝1号へと続くものと考えられる。

㊻溝1001号群のなかで、溝2005号（P1325）と共に住1019号を切る溝18号は、その西側を住1021号に切れ、その東側もP1573に切られることから、〔住145号→住1020号→住1019号→溝18号→住1021号→中世溝18号〕、〔住1019号→溝18号→P1573〕、〔住1019号→溝2005号〕となるが、溝18号と溝2005号との切り合いはない。

㊼しかし、建1002号群で詳述したように、溝2005号の長軸方向N-89°-Wが、溝1001号B・2001号Bの長軸方向と共に、建1001号の主軸方向と一致することなどから、溝2005号は溝1001号B・2001号B・2003～2007号や土塚1001号B・1002号B、土塚1003号と土塚13号と共に、建1001号・1027号などに伴うものと考えられる。

㊽また、建1002号群で詳述したように、溝18号の長軸方向N-75°-Eが、溝1003号の長軸方向N-69°-Eと共に、建1002号（主軸N-15°-W）の梁行方向N-75°-Eと一致・ほぼ等しいことなどから、溝18号は溝1001号A・1003号・溝2001号Aや土塚1001号A・1002号A・2001号Aと共に、建1002号・住1001号などに伴うものと考えられる。

1019号A建物

建物規模は、1間×2間（367cm×385cm。面積14.1㎡）で、東・西妻側のほぼ柱筋下に棟持柱を配し、棟持柱間a₁換算の算出値は30.1cm。

なお、桁行と梁行の差が18cmと小さいことや、棟持柱がほぼ妻側の柱筋下に位置することか

ら、総柱の2間×2間の建物で、建物中央部の柱穴を確認できなかったことも一部に考えられるが、重複関係にある他の建1019号群でも検出していないことなどから、1間×2間の規模と判断した。

1019号B建物

建物規模は、1間×2間（約420cm×約342cm。面積約14.4㎡）で、東・西妻側の柱筋に内接棟持柱を配し、桁行・棟持換算の算出平均値は29.8cm。 (馬田)

註)

1. 秦憲二編「以来尺遺跡Ⅰ」（『一般国道3号 筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告』、第4集、福岡県教育委員会、1997）
2. 『Ⅰ集』と本報告『Ⅱ集』と次年度予定の『Ⅲ集』で報告・説明・検討などをする諸遺構のなかで、例えば住141号（住1019号）・住143号（住1018号）・土坑11号（土坑1003号）などのように、遺構番号を1～3桁と4桁の両者を有する諸遺構については、検出作業～（一部）掘り下げを秦氏が1～3桁の番号を付して担当されていた後に、同じ一連の遺構の（一部）検出作業～掘り下げに馬田も担当者の一員として遅れて加えさせて頂いたものについて、諸搬の事由に因り、調査中に既に別途4桁の番号を付させて頂いたものである。

また、『Ⅰ集』で既報告されている住126・129・138～140号と馬田が既報告した住144号についても、別途4桁の番号は付していないが、上述同様に遅れて担当者の一員として加えさせて頂いたものである。

なお、遺構番号が4桁のみの一者で付した1000番代の諸遺構については、馬田と、秦氏と交替した齋部氏・後続の杉原氏で、検出～掘り下げ～完掘を担当し、調査段階で既に付したものを示し、2000番代で付した諸遺構については、報告書作成に伴う検討後に、新たに付したものを示す。

3. 註2で触れた諸搬の事由は、建1019号で既述してきた留意事項①～③や住1002号で既述した留意事項③などの諸留意事項へと帰すことともなった。

1029号掘立柱建物跡（図版13、付図4、表72・73）

重複関係は、住1466号群で詳述。

1029号A建物

建物規模は、1間×2間（324cm×548cm。面積17.8㎡）で棟持柱P21・22を配さず、中央部に床束P81を配し、桁行換算の算出値は30.4cm。

1029号B建物

建物規模は、1間×2間（約348cm×約516cm。面積約48.7㎡）で、棟持柱P21・22を配さず、中央部に床束P81を配し、桁行換算の算出値は建て替え後の建1029号Aと等しい。

また、検出の各掘り形はいずれも建1029号B掘削時のもので、北側柱筋の各掘り形北端を破線で記すように、『I集』の建1027号（なお、同集の第192図には作図時に見落としがあったので、『III集』で修正図を掲示し、再検討する）で言及した縄張りによる掘り形掘削と間棹による建物構築を強く示唆し、このことを、近接する建12号A・B案でも破線で示させて頂いた。

（馬田）

1031号掘立柱建物跡（図版11・12、付図3図、表74）

重複関係は、建1019号群で詳述。

建物規模は、1間×2間（370cm×428cm。面積15.8㎡）で、南・北妻側の柱筋下に棟持柱を配し、桁行A・棟持柱間 a_1 換算の算出値平均は30.6cm。

なお、建1019号群で詳述したように、住1020号を切るPサは、建1031号の柱穴埋土とは明らかに異っており、建1031号の柱穴ではないと判断した。

1032号掘立柱建物跡（図版11・12、付図3、表75）

重複関係は、建1019号群で詳述。

建物規模は、1間×2間（約362cm×約376cm。面積約13.6㎡）で、東・西妻側のほぼ柱筋下に棟持柱を配し、桁行A・棟持柱間 a_1 換算の算出値平均は29.0cm。

（馬田）

2013号掘立柱建物跡（図版13、付図4、表76・77）

重複関係は、住1466号群で詳述。

2013号A建物

建物規模は、1間×4間（約526cm×約890cm。面積46.8㎡）で大型建物とも言えるもので、桁行Aの約890cmよりも棟持柱間 a_1 の1005cmが115cmも大きく、南・北側の柱筋外に独立棟持柱P21・22を配し、表76で換算項いずれもが整数比を示す棟持換算の算出値は29.6cmで、建て替え前の旧出の建2013号Bの棟持換算の算出値と一致する。

なお、旧出の建2013号Bからの建て替えに際しては、旧出の柱筋に南・西側柱筋を一致させ、旧出の北側柱筋に棟持棟を配す〔(旧出P22—新出P22)間は61cmを測る〕。

また、上記による桁行規模の旧出からの減小は、旧出東側柱筋から東へ更なる梁間の60cmの拡大(旧出梁間Bは466cm。新出同は526cm)で解決し、旧出床面積44.0㎡から2.8㎡の規模拡大を計るが、これら60・61cmの計測値も既述の旧・新一致の算出値29.6cmで整数2.0を算出(60cm \div 29.6cm \times 2.0=59.2cm \div 61cm)できるなど、極めて整然とした建物である。

ところで、建2013号の確認の経緯については住1466号群でも既述したように、この建物周辺の調査が92・94年度に及び、担当者・報告者に移動が生じたことに加え、筆者の調査担当力に

起因するものと、以下①～④のように考える。

①住1466号群の確認作業に迫われ、住1464号、住1465号A・BのD21集中部掘り下げて、その集合した検出面プランの形状と最深部の状況から、住居群以外の遺構も重複することには気付いていたが、建2013号も含めた全様把握にまでは至らなかったこと。

②建2013号AのP9と建1029の埋土が柱穴外の赤褐色粘質土地山の影響を受けた赤茶褐色粘質土系埋土（以来尺遺跡では、『I集』で既報告の建1027号や『III集』で報告予定の円形住居埋土もこれにほぼ等しい）であったため、建1029号のP3・5・6に住19号案のP22と建2013号AのP9を加えて、調査時には建1029号として無理したこと。

③調査時には、建2013号A・BのP21と建2013号BのP7を、住1464号の対角柱P41・44とも一部に考えたこと。

④住1466号群の張床が最も集中する建2013号のP2・3部での一部地山掘り下げを実施しての古期遺構（柱穴）の確認作業を実施しなかったことなど。

2013号B建物

建て替え後の建2013号A同様に、屋内棟持柱P23を配し、P21・22よりも約40cmも深く、住1464号の壁削平欠失・張床遺存面標高48.99m、建2013号のP23掘り形底標高48.03m（遺存P23の深さ96cm）を考慮すると、構築当初の掘り形規模は、深さ180cm前後で、上面形状が幅100cm以上・長さ200cm以上、断面形状が『I集』で既報告の建10号・住17号様の段状を呈した大規模なものと判断されよう。

また、以上のような建2013号A・Bの規模を考慮すると、遺跡全体での確認位置からしても、以来尺遺跡でも特別な属性を有した建物と言える。（馬田）

2014号掘立柱建物跡（図版14～16、付図5、表78）

重複関係は、住1421号群で詳述。

建物規模は、1間×4間（428cm×約884cm、面積約37.8㎡）と50㎡よりも小さいが、梁間が4m以上と大きく、西一東側の柱筋内に独立屋内棟持柱P21・22を配すと共に、南側の柱筋外に出入り口施設柱P61・62も配し、桁行・梁行換算の算出値は共に29.5cm。

建2013・2014号の建物規模について

ところで、建2014号の主軸方向はN-59°-Wの北西-南東、独立棟持柱間 a_1 約442mで、この建物は、前述の建2013号A（主軸方向はN-30°-Eの南西-北東、1間×4間規模で約526cm×約890cm、面積約46.8㎡、独立棟持柱3、棟持柱間 a_1 1005cm、北妻側の出入り口施設柱2、棟持換算の算出値29.6cm）と建2013号B（同N-30°-Eの南西-北東、1間×4間規模で約446cm×約944cm、面積約44.0㎡、独立棟持柱3、棟持換算の算出値29.6cm）の計3棟間での留意事項を列記すると、以下の①～④のとおりである。

留意事項① 3棟の規模はいずれも、㉞1間×4間、㉟梁行428cm・446cm・526cm、桁行約884cm・890cm・約944cm、㊱面積約37.8㎡・約44.0㎡・約46.8㎡と大型建物に近く、㊲屋内・外に妻側の柱筋から大きく離れた独立棟持柱を2～3本配置するなど、1間×2間型の通有例からは特異な建物で、㊳桁行・梁行・棟持換算例の算出値は29.5cm～29.6cmと一致するに等しい。

留意事項② ㊴建2013号と建2014号は1°差で主軸方向が直交し、㊵建2013号Aと建2014号は出入り口施設配置が確認できる。

留意事項③ 共伴出土遺物の検討をしていない段階ではあるが、3棟の建物はいずれも、㊶各重複する住居群よりも古い。

留意事項④ 3棟の建物はいずれも、以来尺遺跡全体では、㊷丘陵平坦部、㊸略西—東方向の丘陵の東端部で、㊹眼下に平野部を望み、㊺住10・17・1421号（棟持柱筋区画溝a HM11・棟持柱の大型掘り形）、住1001号（中央土壇D11無配置）、住1460・1460号群（棟持柱の特異配置・壁規模の特異性）などの住居群や、㊻建1001・1002号（1間×2間の超小型規模・1間×3間の大型規模、施設柱・土壇・溝の諸施設配置）、建2011号群（建2011号の3間×4間、屋内独立棟持柱2・四面庇？配置例）に、㊼建1027号建物を加えて、㊽これら一連の遺構群を、㊾遺構無配置区を中心とする、㊿特殊な住居・建物・諸施設の継承的環状配置と看取すると、㊽同様に、この継承的環状配置が整然となされたものであることが指摘できる。（付図1参照）。

また、以上①～④の留意事項をも考慮し、建2013号A・Bを建2014号の桁行・梁行換算の算出値29.5cm（表78）で再度検討すると、下記㊿～㊿のとおりで、3棟はいずれも整数比を示す建物であることから、換言すれば同時期構築と判断してもよいであろう（表76・77参照）。

㊿桁行A	建2013号A	$(890 \div 29.5 \times 30.0 = 885)$	建2013号B	$(944 \div 29.5 \times 32.0)$
㊿梁行B	建2013号A	$(526 \div 29.5 \times 18.0 = 531)$	建2013号B	$(466 \div 29.5 \times 16.0 = 472)$
㊿棟持a ₁	建2013号A	$(1005 \div 29.5 \times 34.0 = 1003)$	建2013号B	$(1066 \div 29.5 \times 36.0 = 1062)$
㊿側点a ₁	建2013号A	$(58 \div 29.5 \times 2.0 = 59)$	建2013号B	$(61 \div 29.5 \times 2.0 = 59)$

なお、『I集』で既報告（表75～78）の建2008～2011号のなかでは、建2009号の桁行換算の算出値と建2010号の棟持換算の算出値も共に29.5cmとなり、建2017号Aの桁行換算の算出値が29.4cmを示す。

最後に、建2014号の調査段階での出土遺物の収納に際しては、P1は住1425号のP1、P6は土壇1018号、P21は住1413号のP3、P61は住1414号のP2との註記をしている。（馬田）

(3) 溝状遺構

1003号溝状遺構（図版11、付図3、表60）

詳細は、建1002号群・建1019号群で、他の関連遺構と共に既述。

現存規模は、長さ9.39m・幅66cm・深さ36cmであるが、近接する住1019号Aの残存壁高が約15cmであることから、当時は深さ100cm前後に掘削され、溝1001号A（付図2）の形状に類していたと考えられる。

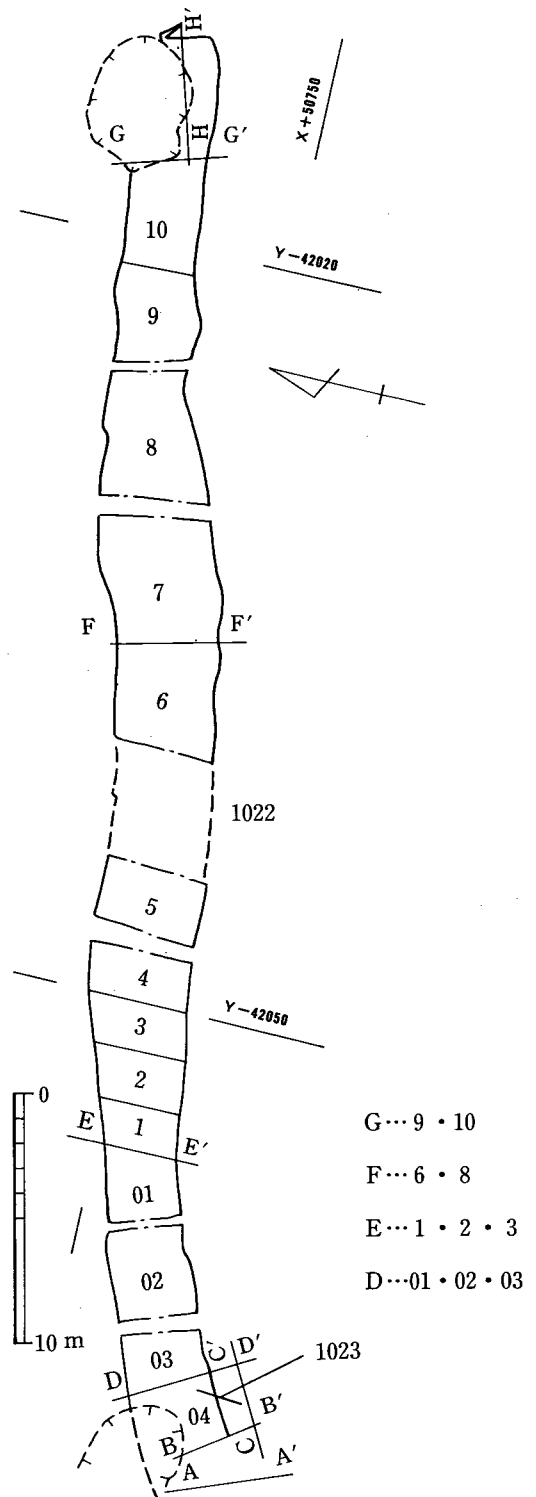
なお、溝中央部を3.5m×4.5m大に攪乱されるが、溝東半部は2段に掘り込まれ、上段床面レベルで土器片・石群が出土したことから、当時は土坑1001号A・1002号A・1003号、溝2001号A同様に祭祀使用土器群を破棄したものと考えられる。（馬田）

1022・1023号溝（第12～14図）

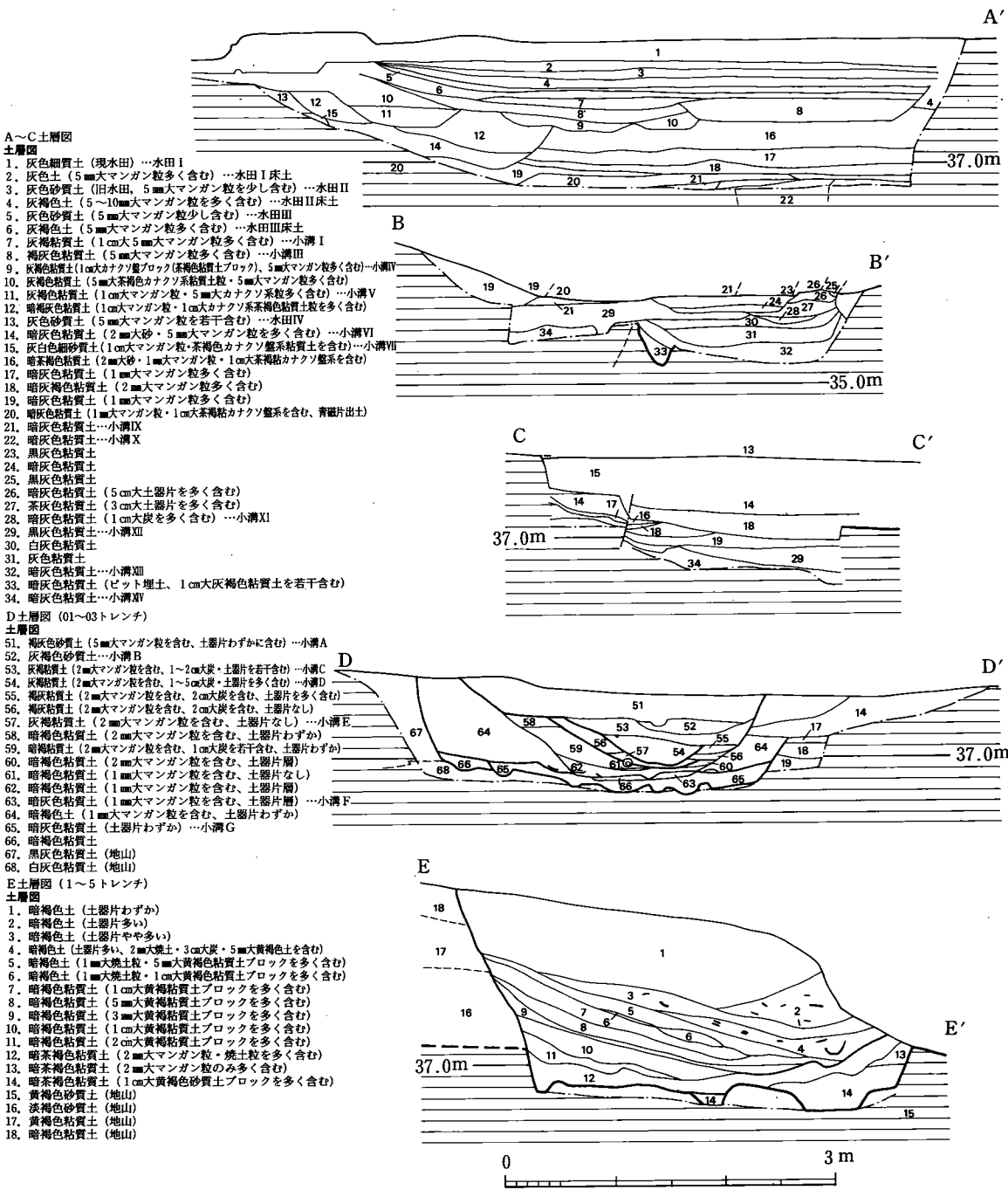
ここでは、出土した土器についてのみ説明を行い、遺構については来年度に報告する。

斜面より進めてきた包含層のトレンチ調査に引き続き、1022・1023号溝内を13区に分けて調査をおこなった。まず、1トレンチの設定とともに遺構検出を開始し、10トレンチまで設定した。そのうち、土層Eに対応するベルト以西について新たに01・02・03トレンチを設定し検出作業を行った。そして、ちょうど03トレンチ付近で新たに溝と思われる遺構を確認したため、この部分を1023号溝とした。

溝内の遺物の出土状況は一括投棄された状態であり、地点や層位によってその量は大きく異なる。特に3～5トレンチ、6トレンチ、8トレンチ付近で多量に出土している。これらの遺物の取り上げ方法については、各地点に設定した土層観察ベルトの層位に基づき行った。1～5トレンチ出土遺物については土層図E、6トレンチについては土層図F、8～10トレンチについては土層図G・H、01～03トレンチについては土層図Dがそれぞれ対応する。各地点での遺物の取り上げ後、各土層の再観察により同一層序の確認を行い、土層図E・Fについては土層

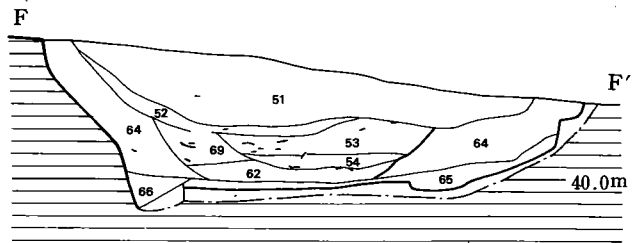


第12図 1022・1023号溝トレンチ配置略図（1/300）

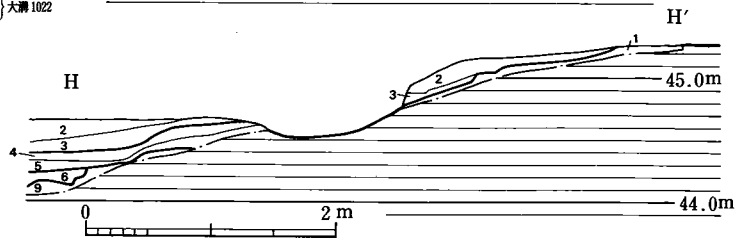
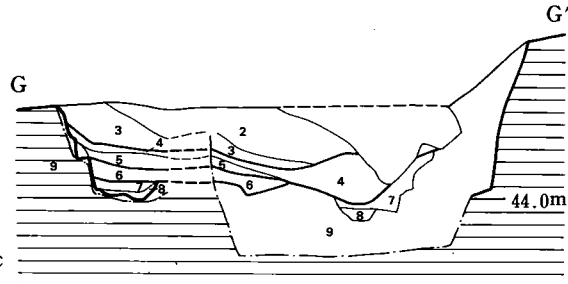


第13図 1022・1023号溝土層断面図. 1 (1/60)

- F土層図(6トレンチ)
土層図
51. 褐灰色砂質土(5mm大マンガン粒含む)・(土器片わずか含む)…小溝A
52. 灰褐色粘質土…小溝B
53. 灰褐色粘質土(1~2cm大炭、土器片を若干含む)…小溝C
54. 灰褐色粘質土(1~5cm大炭、土器片を多く含む)…小溝D
62. 暗褐色粘質土(1mm大マンガン粒含む、土器片層)
64. 暗褐色土(土器片わずか)
65. 暗褐色粘質土(1mm大マンガン粒含む、土器片わずか)…小溝G
66. 暗褐色粘質土(1mm大マンガン粒含む、土器片含まず)
69. 暗褐色粘質土
※土層図Cに一部対応



- G・H土層図(8~10トレンチ)
土層図
1……産業廃棄物残滓
2……暗褐色粘質土に10mm大の黄灰色粘質土を多く含む }小溝A
3…… " 5mm大の " を若干含む
4…… " 3mm大の " を若干含む }小溝B
5…… " 10mm大の " を若干含む }小溝C
6…… " 50mm大の " のブロックを多く含む }小溝C
7…… " 3mm大の " を若干含む }大溝1022
8……黄褐色砂質土に暗褐色粘質土を若干含む
9……黄褐色砂質土地山



第14図 1022・1023号溝土層断面図。2 (1/60)

図Dに対応させた。しかしながら、斜面に掘込まれた東西に長い溝のため全て同一に堆積したとは考えられないことから各地点の出土の上下関係を尊重し、それぞれの層序名の振替はあえて行わず土層注記時に並記した。また、Dトレンチが51層より開始されるのは、調査時において同一層序名により遺物の出土状況に混乱をきたさないための配慮からであり、それ以上の意味はない。

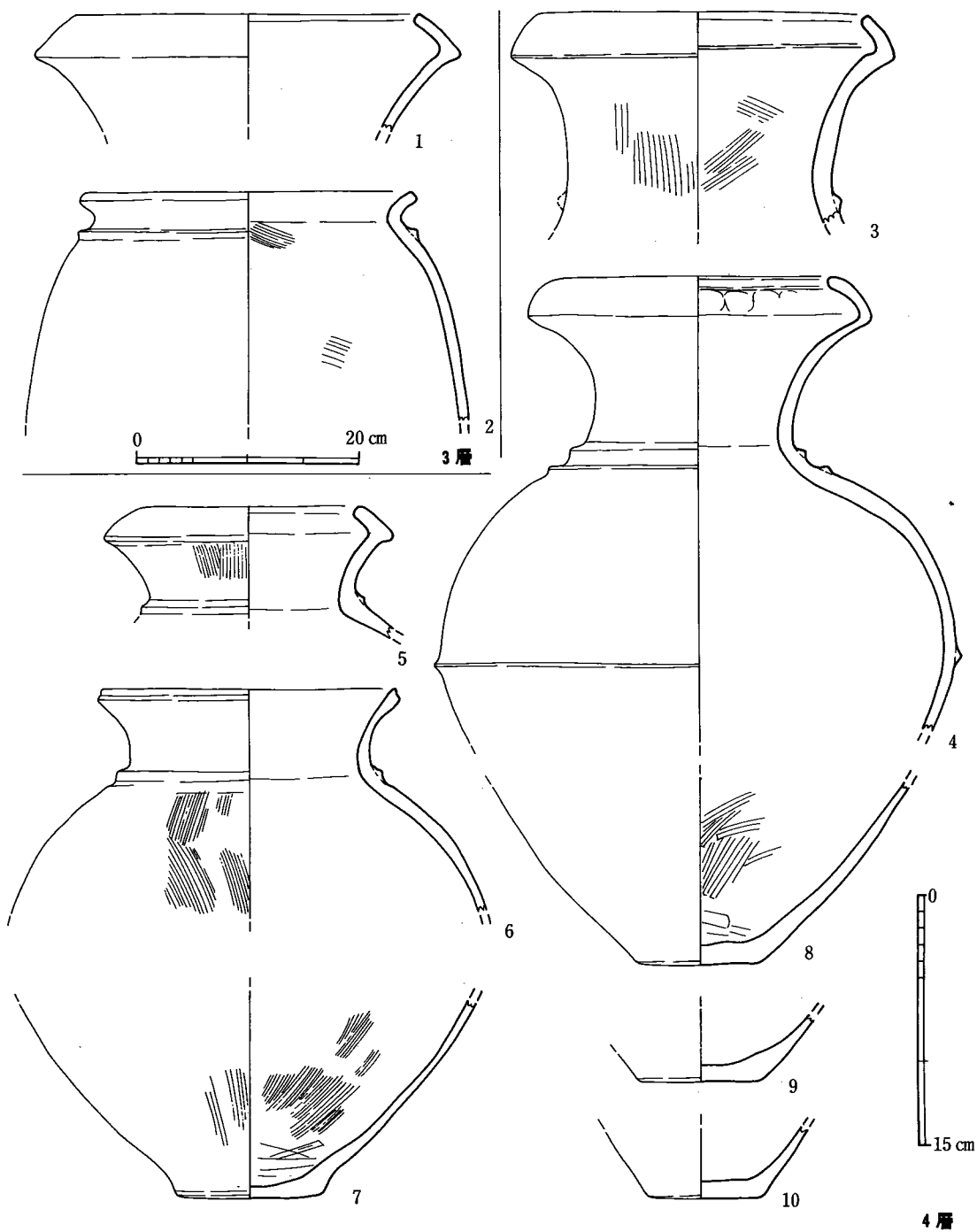
遺物

土器 (図版20~63 第15~69図)

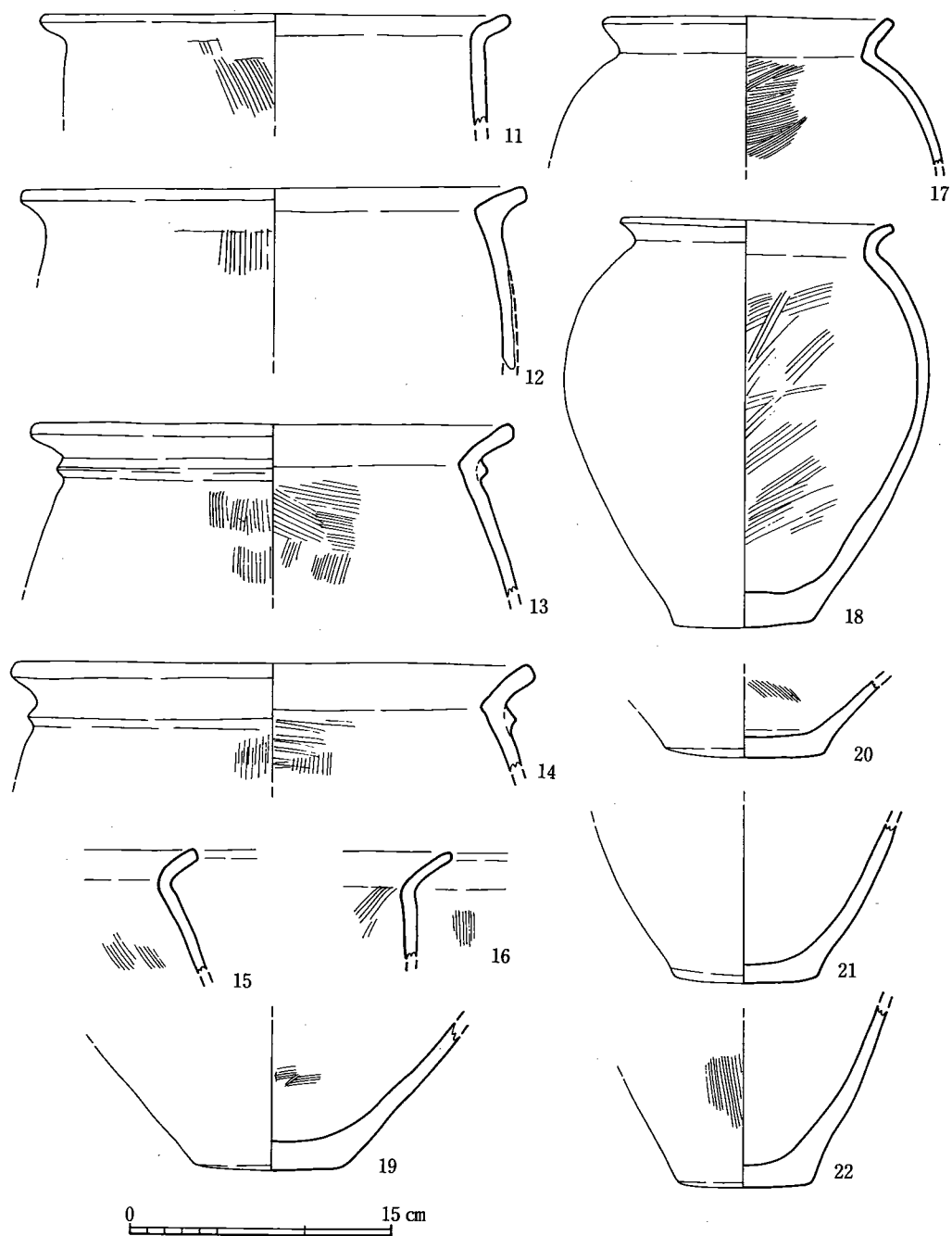
1トレンチ (第15~18図1~43)

1・2は3層出土である。1の復元口径は31.0cmを測る。口縁屈折部から端部への器厚はほぼ均等である。磨滅により内外面の調整は不明。2は復元口径30.0cmを測り、頸部下に三角突帯が1条貼付される。器面は全体に磨滅しているが、内面頸部下位は横位のハケ目。

3~32は4層出土である。3は口縁屈折部に稜を持ち頸部は長い。頸部には突帯を有しているが欠損しているため形状は不明である。4は胴部以下を大きく欠損している。口縁部は内側

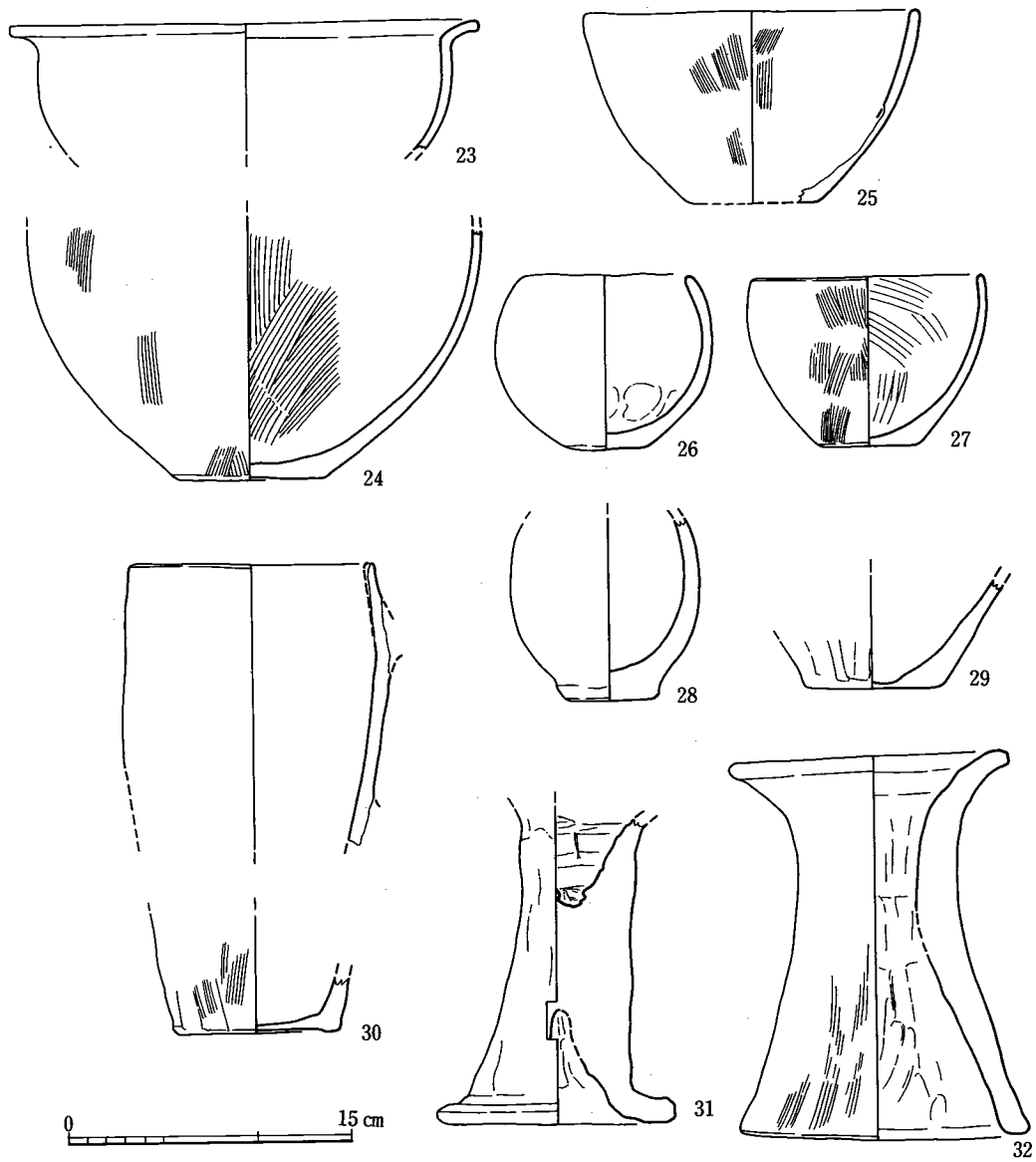


第15図 1022号溝1トレンチ出土土器実測図。1 (1/4 1・2は1/6)



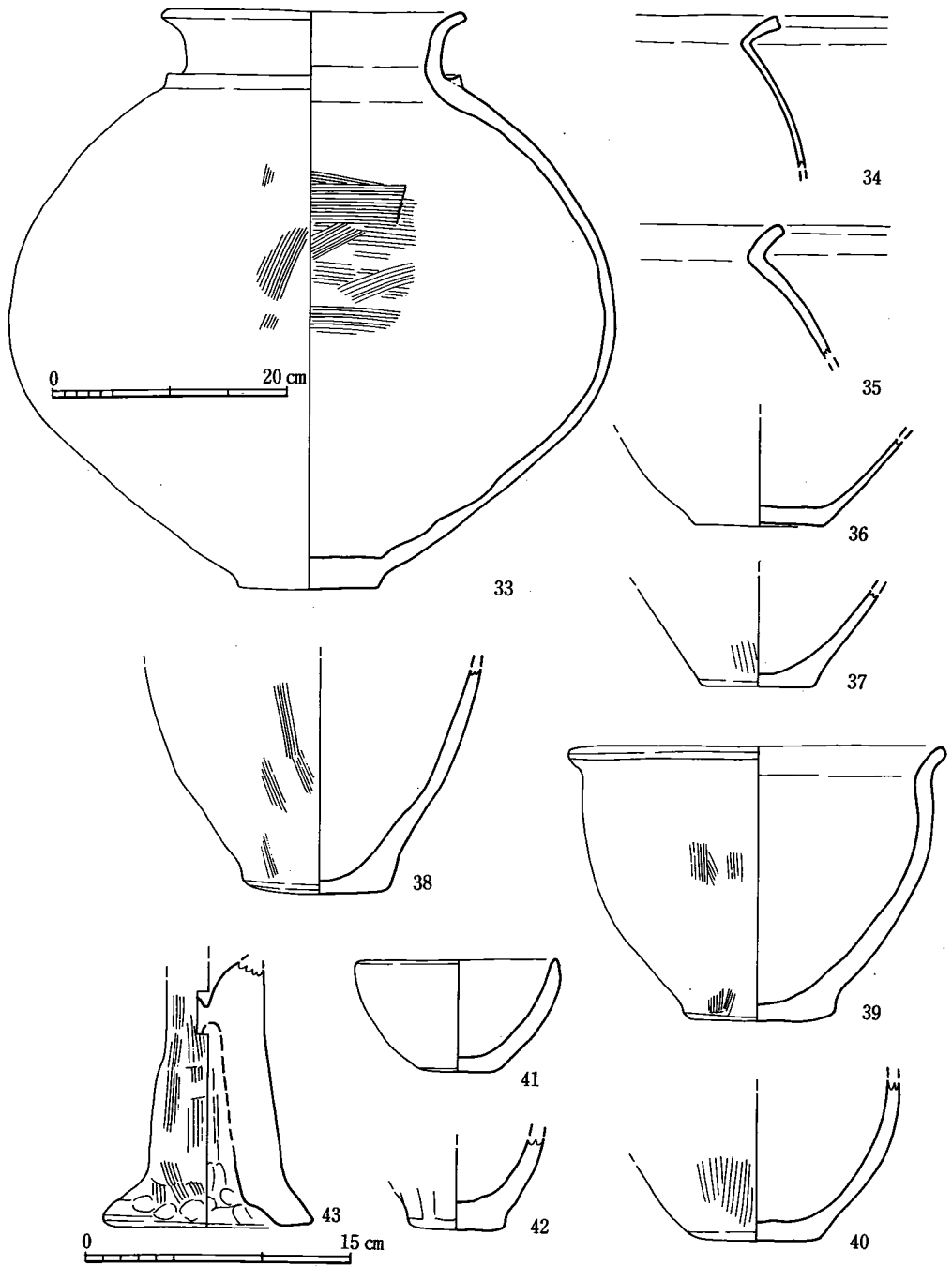
第16図 1022号溝1トレンチ出土土器実測図, 2 (1/4)

4層



4層

第17図 1022号溝1 トレンチ出土土器実測図。 3 (1/4)



5層

第18図 1022号溝1トレンチ出土土器実測図. 4 (1/4 33は1/6)

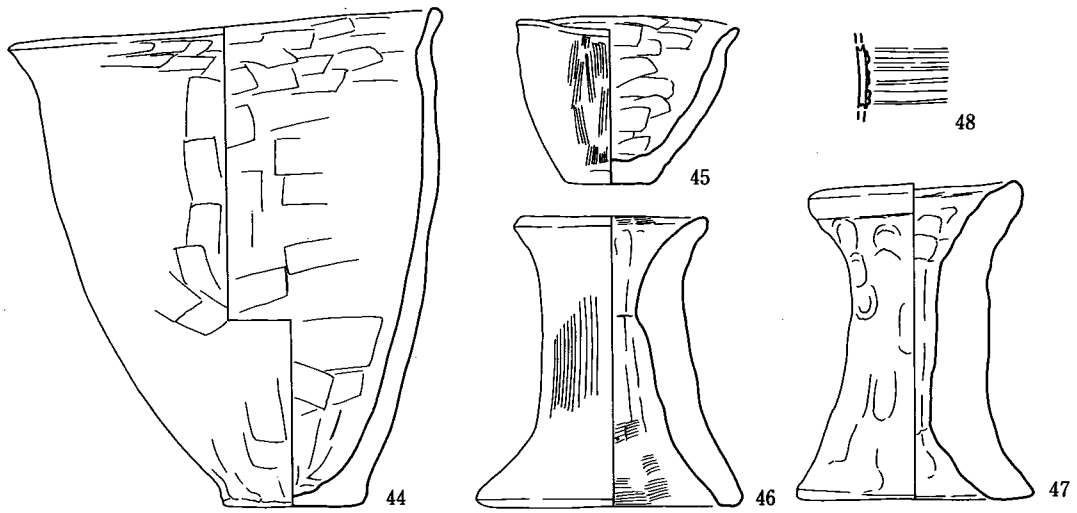
に屈折し、頸部下に2条、胴部に1条突帯が貼付される。内面の口縁屈折部から端部にかけては指頭圧痕が残る。5の口縁屈折部は外反し、頸部下には三角の突帯が貼付される。器厚は厚い。口径13.2cmを測る。6の口縁は頸部から直立に立ち上がり、端部に向うにつれ肥厚する。端部外面に沈線状の稜を持つ。復元口径18.0cmで赤褐色に焼成されている。7の復元底径は9.0cmを測り、底面端部に多少丸みを持つ。8の底面はやや膨らみを持つが端部は鋭い。復元底径は9.2cm。内面胴部はハケ目、底面はナデ。9・10は完全な平底でどちらも磨滅著しく調整は不明。11は頸部から端部へは緩やかに外反する。12の頸部は「く」字状に屈折し、かなり肥厚している。13には突帯が貼付され口縁端部付近で肥厚している。14も同じく突帯を持ち「く」字状に折れる。15・16はそれぞれ器厚は薄く小型品だろう。17の頸部は「く」字状に鋭く外反し、肩部には張りを持ちその径は口縁部より大きい。復元口径は16.7cm。18も最大径が肩から胴部付近にあり、口縁は大きく外反する。内面にはハケ目、外面は磨滅し調整は不明だが、黒斑が観察される。20・21はやや凸レンズ気味である。22は底径7.2cmを測り外面の調整はハケ目。23の口縁は大きく外反し、復元口径は25.0cmを測る。胴部は頸部下に膨らみを持っており、それ以下は急にすばまり底部へ至ると考えられる。24は平底で底径は8.3cmを測り、内外面ともにハケ目が施されている。25の胴部はゆるやかに外反し、端部に丸みを持つ。底部はおそらく平底である。26は球形の胴部を持ち端部へは丸みを持ちながら内湾し至る。底面に黒斑あり。27は口径12.4cmを測る。内外面ともにハケ目が残る。28は器面磨滅しているが、外面端部付近は工具によってナデられている。底面端部は丸みを持つ。29は全体に磨滅気味だが、底部から胴部にかけて工具によるナデ調整。30は完全に接合しないが、同一個体である。胴部はほぼ直立しそのまま口縁端部へ至る。また、胴部には円形の剝離痕が上下2箇所あり、「把手」の剝離痕と考えられる。全体に器厚は薄く調整は内外面ともにナデによる仕上げだが、口縁端部付近を除けば粗い。淡黄色に焼成されている。31の胴部は凹凸となり粗く調整されているが、裾端部付近は丁寧に横ナデが施されている。32は復元口径14.8cm、器高20.7cm、底径14.4cmを測り、外面にわずかにハケ目が観察される。

33～43は5層出土である。33は頸部から口縁部へは直立して端部で大きく外反する。また頸部下位に三角突帯が1条貼付される。最大径は胴部中位付近にある。全体にゆがみがひどく、作りは雑な印象を受ける。口径25.6cm、器高48.9cmを測る。34・35の頸部は「く」字状に外反し、どちらも磨滅著しく調整は不明。36は底径7.2cmを測る。底面はやや内湾する。37は平底で底面端部から胴部へは直立に開く。38の底径は8.3cmで、底面はやや凸レンズ状である。39の口縁部は厚みを持ったまま緩やかに外反する。口径21.3cm、器高15.6cmを測る。40は平底で端部の膨みから見れば胴部付近においては球形になるのであろう。外面にはハケ目が施される。41は器高11.4cmを測り、端部付近には黒斑が認められる。42の内面には煤が付着している。43の外面はハケ目が施され仕上げられているが、全体に凹凸が激しい。

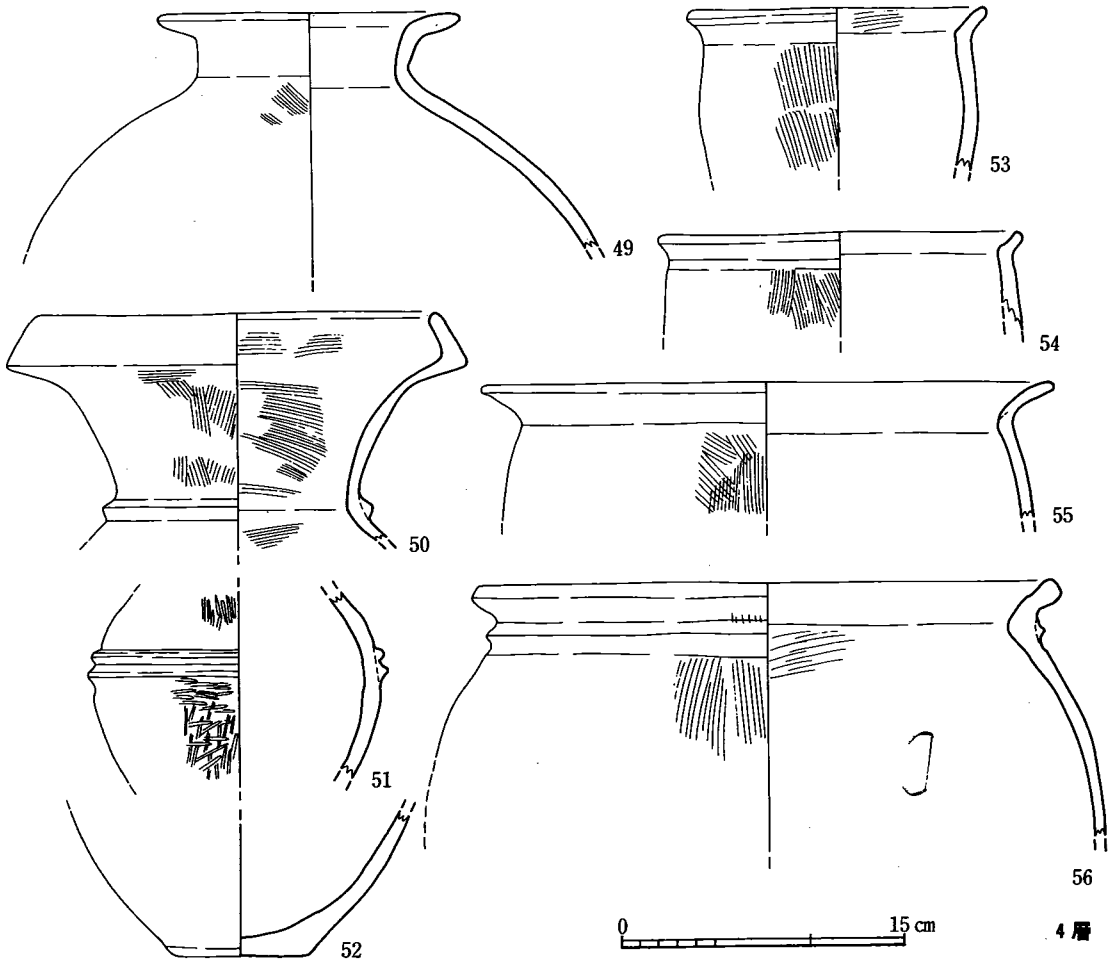
2 トレンチ (第19~21図44~93)

44~47は3層中からの出土である。44は頸部の屈曲は弱く、口縁端部においてわずかに肥厚する甕である。底部は平底だが、外面端部付近ではわずかに外反する。胴部内外面は工具による横ナデで頸部においては丁寧である。全体に作りは雑で口縁径部は楕円に歪む。器高23.3~21cm、底径7.5cm、器高25.5cmを測り、外面赤褐色、内面は黒色で煤が付着している。45の鉢は頸部がわずかに外側に屈曲する。胴部は肥厚し、口縁端部で急にすばまる。外面縦方向のハケ目、内面横ナデにより仕上げられる。口縁は歪んでいる。46・47は器台で、46の外面には縦、内面には横位のハケ目が施されており、外面の所々に煤が付着している。47はナデによって仕上げられているが、内外面ともに凹凸がある。くびれ部には工具痕が残る。48は3条の方形突帯が貼付される胴部片で器厚はそう厚くない。

49~78は4層中からの出土である。49は口頸部が直立気味に立ち上がって屈曲し、肥厚しながら端部へ至る。最大径は胴部中位あたりになろう。50の口頸部は大きく外反し、口縁部は内側へ鋭く屈曲する。この屈折部は外面においては鋭く稜が入る。また、頸部下には三角の突帯が1条貼付される。51の胴部中位には2条の方形突帯が貼付され、外面はミガキ、内面はナデにより仕上げられる。52は底径9.2cmを測る。内外面磨滅により調整は不明。53の胴部から口縁部はほぼ一定の厚さで、端部で急にすばまる。口縁部内面に横位のハケ目。54の口縁部は短く厚い。復元口径19.4cm。55の口縁は「く」字状に緩やかに外反する。復元径30.4cm。56は頸部に三角突帯が1条貼付され下位に縦位のハケ目が観察される。大型の甕で復元口径は31.2cmを測る。57は復元口径18.7cm。58~64は大小様々な鉢である。58は胴部中位から外反が始まり、頸部がわずかに屈曲し端部へ至る。外面はケズリ風のナデ、内面も同じくナデられるが凹凸を残す。内底面に約1cm径の窪みがある。外面底部付近には黒斑があり、外底面には煤が付着している。59の口縁部と底部付近には指頭圧痕が残されており、器厚は全体に厚く茶褐色に焼成される。60は口径9.9cm、器高11.0cm、底径5.2cmを測る。内外面ともナデによって仕上げられるが、器面は凸凹している。外面胴~底部付近には稜が1条入り、黒斑が観察される。61は胴部中位で張り出し、頸部で一度すばまって短い口縁が外反する。底面はやや上げ底状になっている。58~61は器厚がどれも厚くナデにより仕上げられ、器面に凹凸を持つ点が共通する。62は口径11.8cm、底径4.5cm、器高3.7cmを測る。63の頸部から口縁へは緩やかに外反する。器厚の最大厚は胴部にある。64は平底で径は7.0cmを測る。65・66は底部片で、65は内面に横位のハケ目が施され、66はやや凸レンズ気味の底面である。67も台付鉢の台部だが、台部は裾端部から内底面までは8.6cmと高い。68も台付鉢の台部片だが磨滅し、調整は不明。69~75の鼓形器台は大きさは大小様々だが、調整方法からみれば、大きく2分される。すなわち、内外面ともナデにより仕上げられるものについては、器面に凹凸を残すものが多く器厚も厚い。ハケ目が施されるものについては、器厚もほぼ規則的で丁寧に仕上げられる。前者には69・73が、後者には、

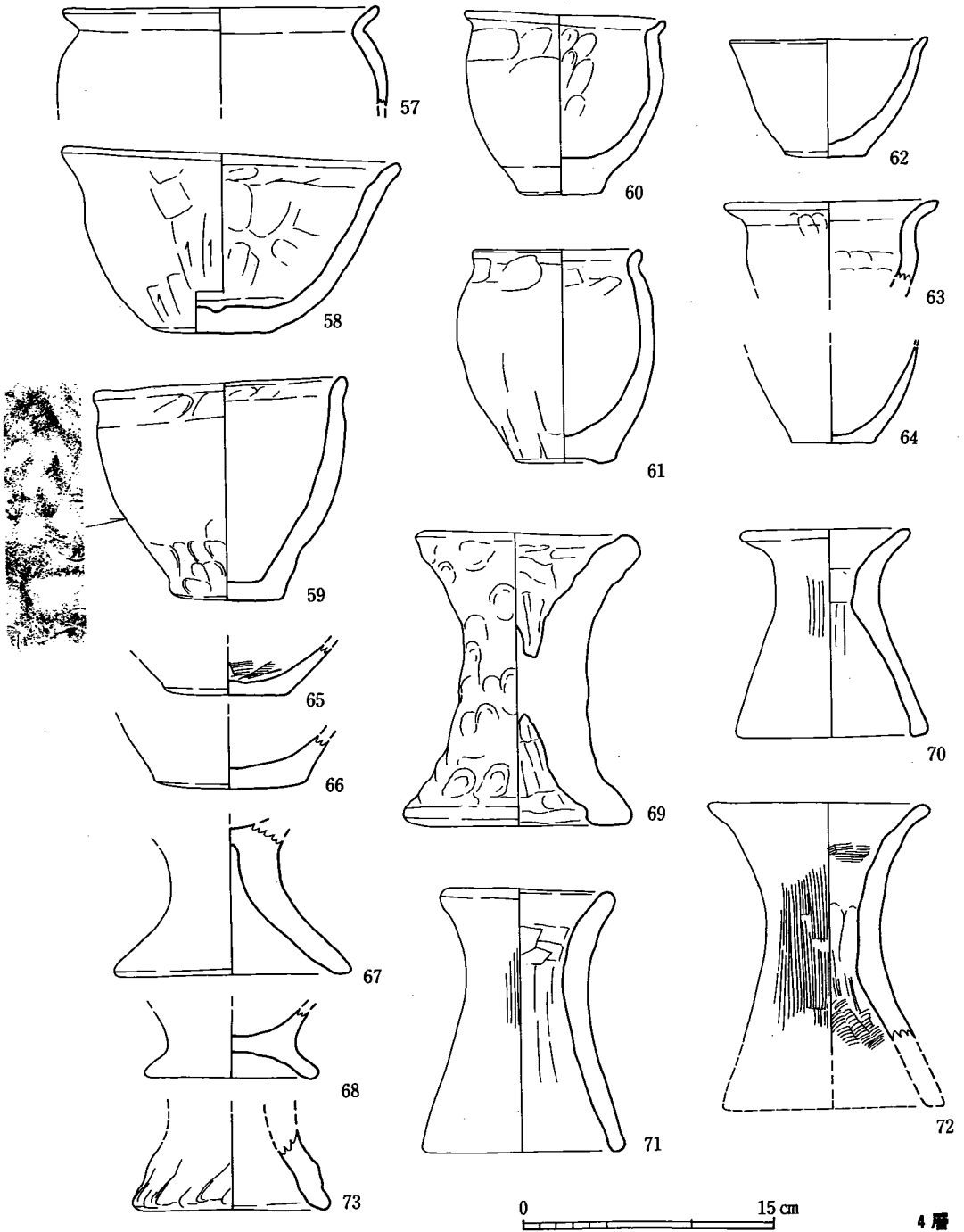


3層

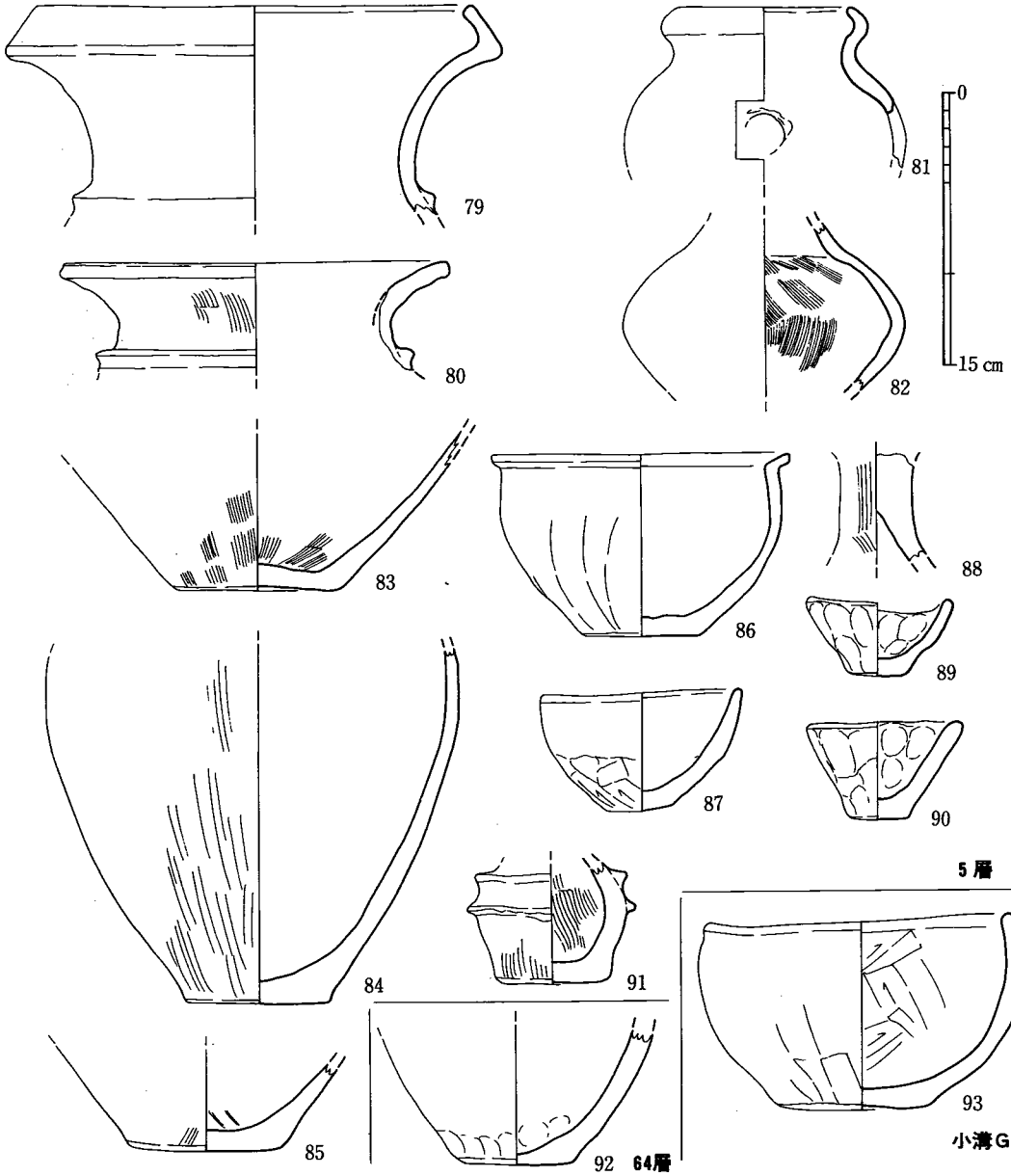
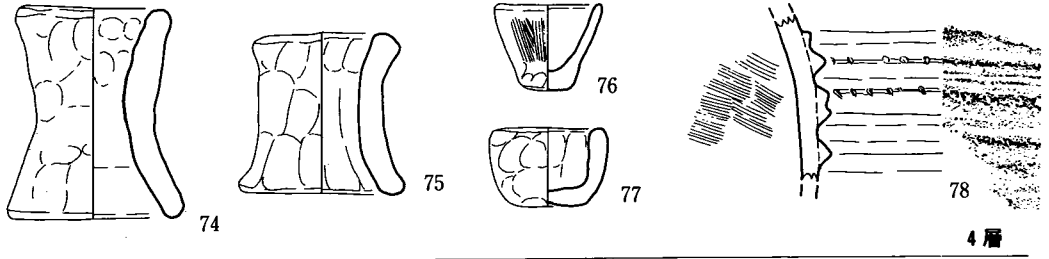


4層

第19図 1022号溝2トレンチ出土土器実測図. 1 (1/4)



第20図 1022号溝2トレンチ出土土器実測図, 2 (1/4)



第21図 1022号溝2トレンチ出土土器実測図. 3 (1/4)

70・71・72が相当する。74・75は小型の部類に入るが技術的には前者に近い。76は底部に比べ胴部の器厚は薄く外面にはハケ目が施される。77は口縁から底部までほぼ一定の厚さによって仕上げられ器面に凹凸を残し、外底面には黒斑がある。78は3条の突帯が貼付され、工具による粗い刻み目が入る。

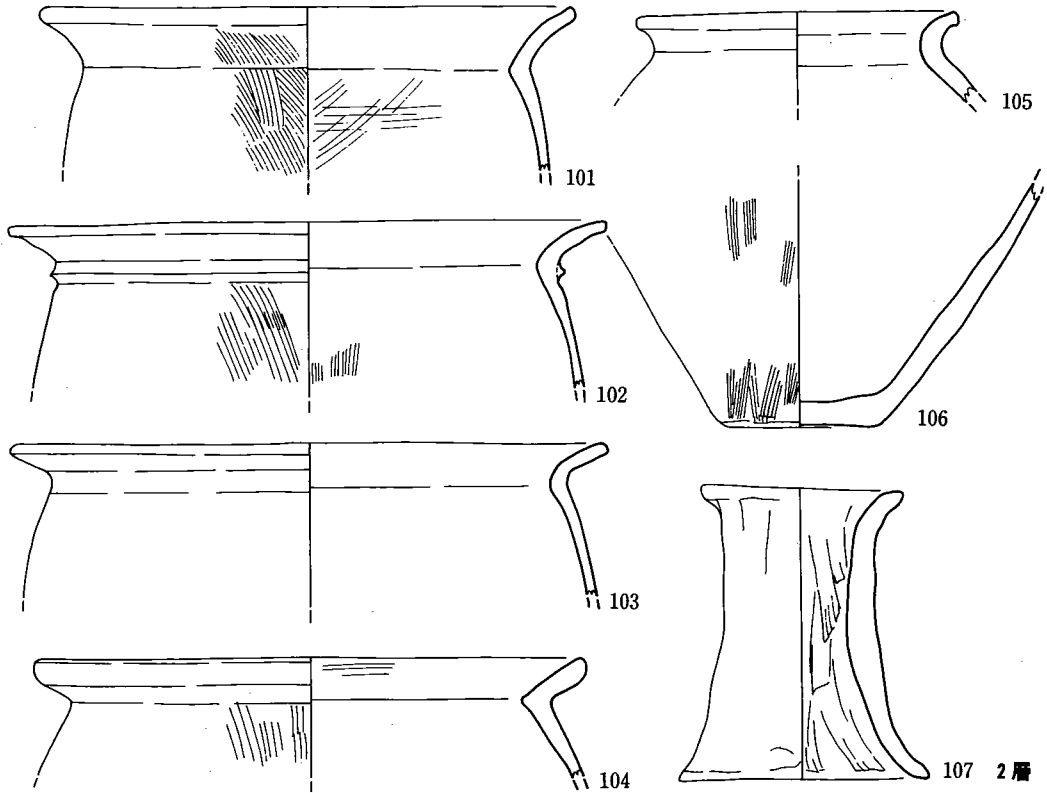
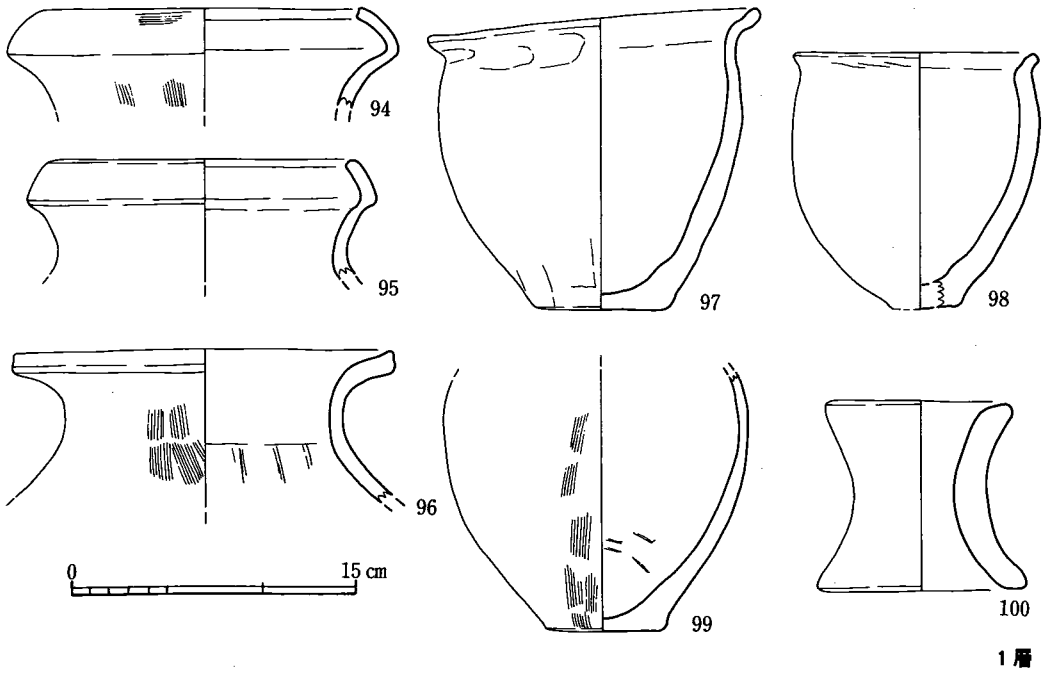
79～91は5層中の出土である。79は口縁屈折部断面はやや厚く、外面に残される稜も鈍い。80は頸部から端部にかけては緩やかに外反し、端部は厚く丁寧に仕上げられている。復元口径は21.0cmを測る。81は袋状の口縁を呈した壺で、頸部ならびに口縁部の屈曲は緩やかである。胴部に穿孔がある。82は内面に縦位のハケ目が施されている。83の底部はやや上げ底で内外面には縦方向のハケ目が施されている。84は平底で端部から胴部へは緩やかに立ち上がる。85は内面底部付近に工具痕が観察される。86の胴部から頸部へは直立ぎみに立ち上がる。口縁は短く「く」字状に外反し、端部でやや肥厚する。底面端部付近には指頭圧痕が残る。87は口縁部から胴部にかけてはナデにより仕上げられているが、底面においてはケズリが残されている。88の脚は内外面ともにハケ目が施され、一部丹塗の痕跡がある。89の底部以外の器厚は薄く、口縁部は歪んでいる。90の胴部から口縁へは直立気味に立ち上がる。底部付近には黒斑がある。91は2条の突帯が貼付され、外面底部付近と内面にハケ目が施される。肩部付近には黒斑が観察される。

92は64層中の出土である。底面の端部付近は少し面取りされている。93は小溝Gからの出土である。胴部付近は球形であり、ナデ痕を大きく残す。

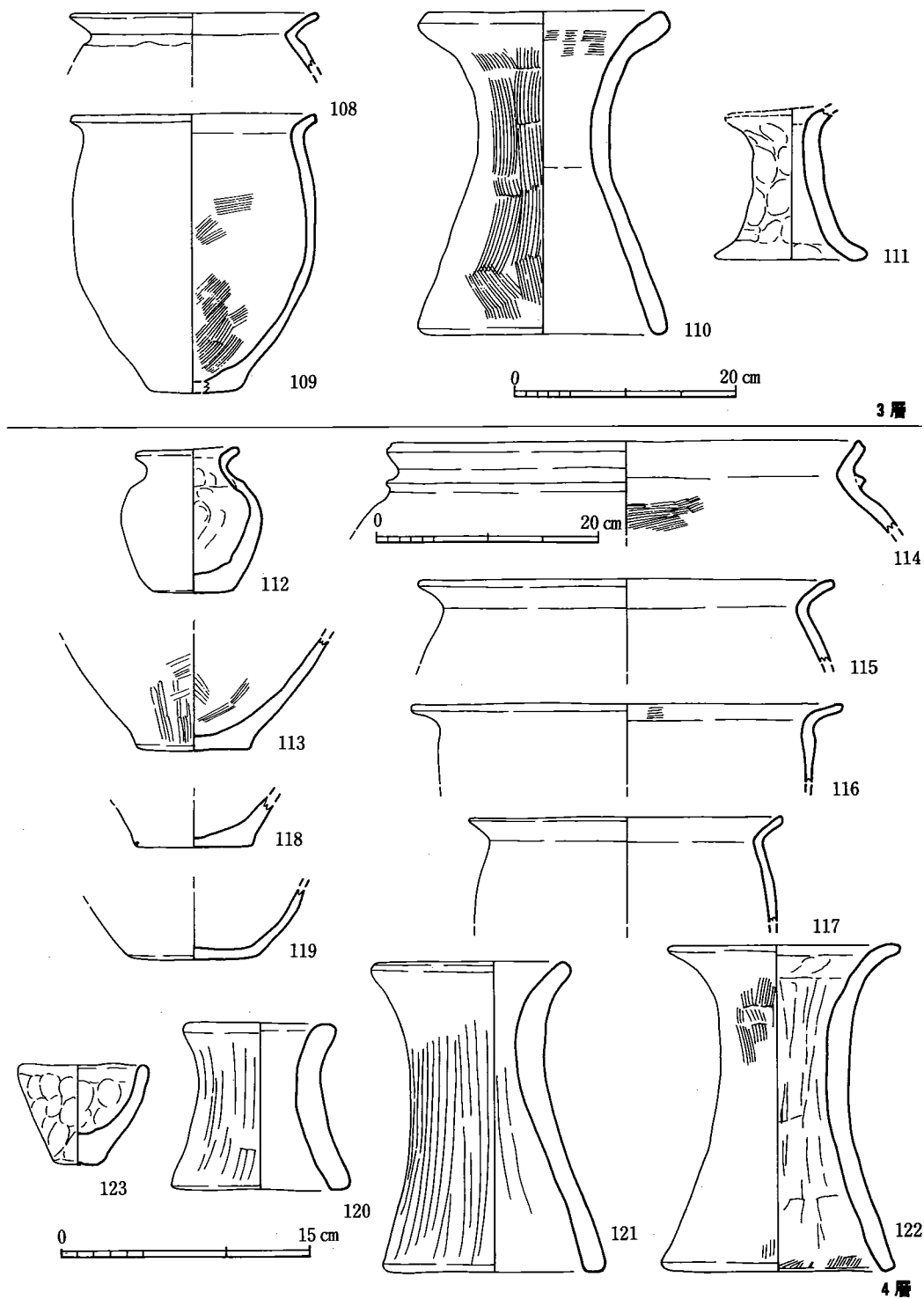
3 トレンチ (第22～25図94～144)

94～100は1層中より出土した。1は屈折部内外に鋭く稜が入り、端部へは内湾しながら至る。復元口径16.6cmを測る。95は94に比べ口縁の屈曲は弱く、屈折部がやや外へ突出する。96は頸部から端部へは大きく外反して至り、端部でやや肥厚する。頸部外面にはハケ目が、内面には工具痕が残る。復元口径20.0cmを測る。97の鉢の器厚は厚く胴部から頸部にかけて徐々に薄くなる。口縁端部でわずかに肥厚する。少し歪んでいる。復元口径17.7cm、底径7.2cm、器高14～16cmを測る。黄橙色に焼成される。98の口縁は短くわずかに外反する。器厚は全体に厚く、茶褐色に焼成される。99は胴部中位に膨らみを持ち、底部は平底である。端部までハケ目が施される。100の器台は全体に磨滅著しいが所々指頭圧痕がある。

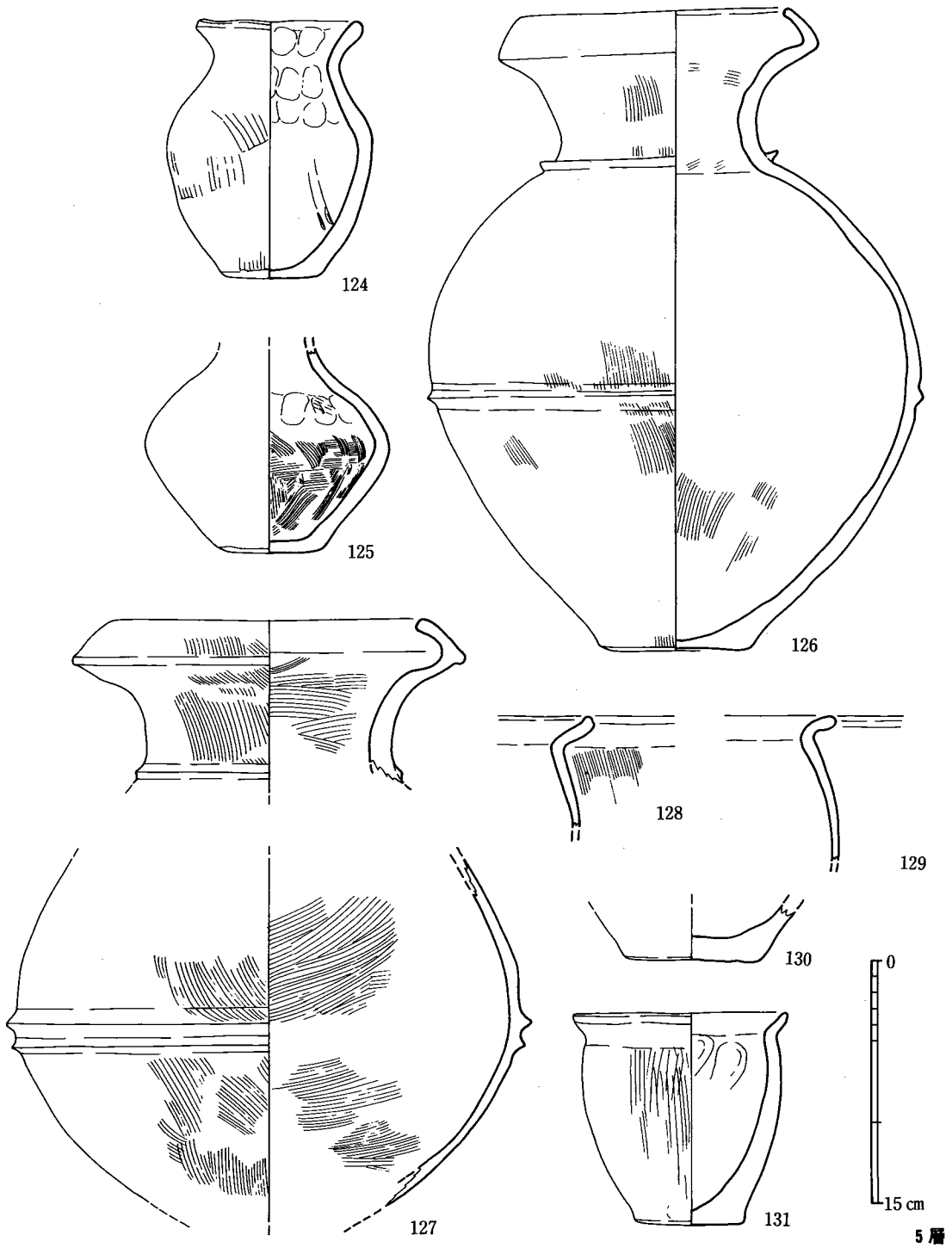
101～107は2層中の出土である。101～105の甕はいずれも「く」字状に外反する。101の口縁の屈曲は緩やかで頸部内面には稜が付く。内外面ともにハケ目が施され、口径28.4cmを測る。102は頸部に三角突帯が貼付され口縁の外反は大きい。103は頸部に丸みをもって外反する。104は頸部から端部にかけて肥厚する。頸部内面には稜が付く。105の器厚は厚く頸部の屈曲も丸みを持ち緩やかで、端部でわずかに外反する。106の底部は上げ底気味で端部にやや丸みが付く。107の器台は受部のすぐ下にくびれがあり、胴部は直立気味である。



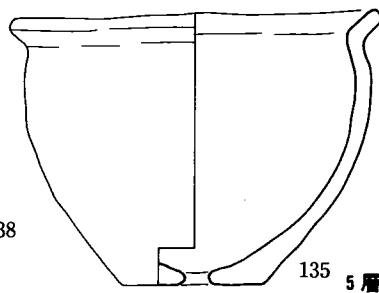
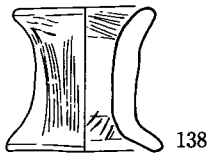
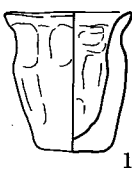
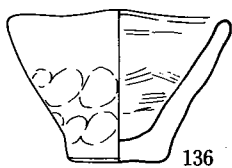
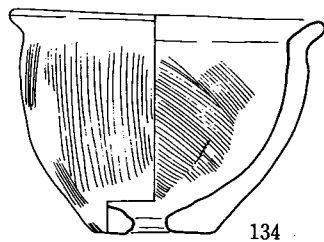
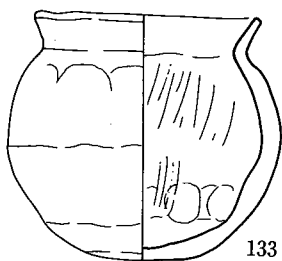
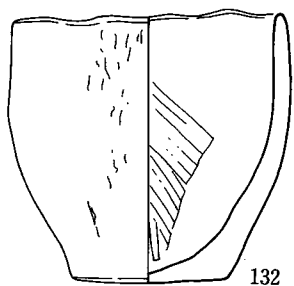
第22図 1022号溝3トレンチ出土土器実測図。1 (1/4)



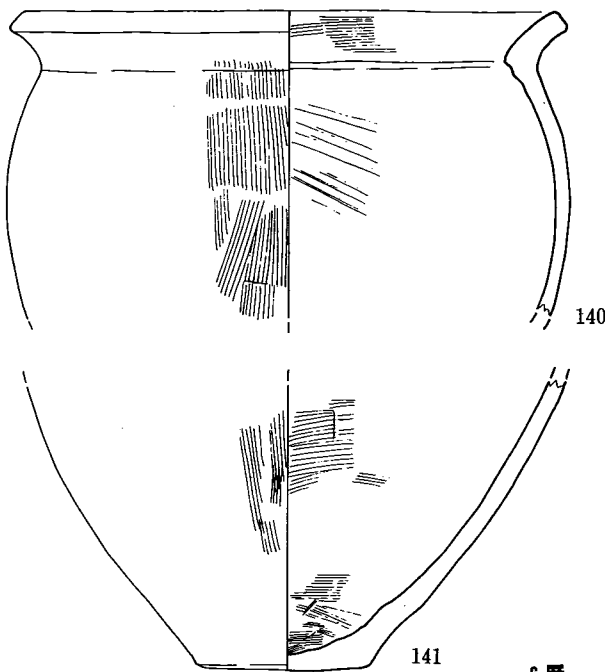
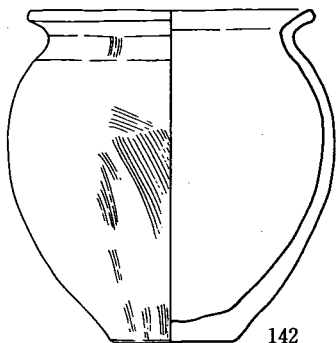
第23図 1022号溝3トレンチ出土土器実測図。2 (1/4 114は1/6)



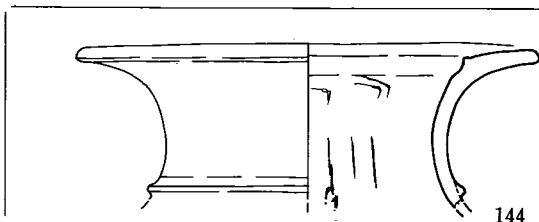
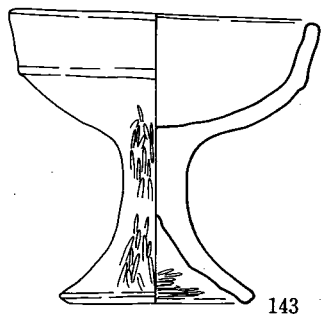
第24図 1022号溝3トレンチ出土土器実測図. 3 (1/4)



5層



6層



144

層位不明

第25図 1022号溝3トレンチ出土土器実測図. 4 (1/4)

108～111は3層中の出土である。108の甕の口縁は「く」字状に外反し、頸部下にはナデにより弱い稜が付く。109の口縁は緩やかに外反し端部は角を持つ。底部は完全に残っておらず、詳細は不明だが、外底面中央部付近では膨らみを持つ。外面は磨滅著しいが内面にはハケ目が施される。110の器台はくびれ部から受部の端部にかけて徐々に肥厚している。外面には縦位のハケ目が、内面受部付近では横位のハケ目が施されている。黄茶褐色に焼成されている。111は外面に指頭圧痕を残し器面には凹凸が残る。

112～122は4層中の出土である。112の小型の壺は肩部に張りを持ち、頸部はくびれ口縁端部へは緩やかに外反する。113は平底で内面にハケ目が残されている。復元口径7.0cmを測る。114は復元口径43.0cmを測る大型の甕で、口縁部は短く端部は角を持ち、頸部には三角突帯が1条貼付されている。115の器厚は薄く口縁は「く」字状に緩やかに外反する。116の口縁は大きく外反し内面部が天を向いている。117の復元口径は18.8cmを測る。118は平底で端部は鋭い稜をなす。119は全体に器厚は薄く底端部から胴部へは膨らみを持つ。120の器厚は厚く一定で胴部には縦位のハケ目が施される。121・122はくびれ部から裾部へは直線的に開く。122の受部は大きく開き外反する。器面は全体に磨滅しているが、外面くびれ部付近にはハケ目、内面胴部にはシボリ痕、裾付近にはハケ目が施されている。123は内外面に指頭圧痕を残し、口径7.9cm、底径2.8cm、器高6.0cmを測る。

124～138は5層中より出土した。124の口縁は緩やかに外反し端部で肥厚する。最大径は胴部中位付近にあり、底部は平底だが、端部はナデにより丸みを持つ。外面胴部にはハケ目が施され黒斑がある。内面の口縁部には指頭圧痕が認められる。黄褐色に焼成され、口径10.2cm、胴部径12.6cm、器高15.9cmを測る。125も胴部中位に最大径があり、底面端部は丸みを持つ。外面は磨滅し調整不明。126は口縁が屈曲する複合口縁壺で、屈折部外面には稜が付く。頸部と胴部に三角突帯が貼付されるが前者は鋭い。底部は平底で端部付近の稜はナデにより鋭さを欠く。器面の磨滅は著しく全体の調整は不明だが、内外面とも口縁頸部と胴部にハケ目が施される。127は口頸部と胴部に別れるが黄褐色の色調とハケ目の状況から同一個体と考えられる。口縁の屈曲は緩やかだが、屈折部は突出する。胴部は球形で中位に最大径を持つ。頸部に1条、胴部に2条の三角突帯を持つ。復元口径は19.2cmを測る。128の口縁端部はわずかに内湾する。129の口縁はゆっくり折れて大きく外反する。磨滅により調整は不明。130の底径は8.4cmを測る。131は底部付近の器厚が最も厚く、頸部から口縁へと徐々に薄くなっている。底面には黒斑がある。内面はナデによって仕上げられ、頸部下には指頭圧痕が残り茶褐色に焼成されている。132は胴部から口縁端部へはほぼ直立に立ち上がる。底部は平底で端部にやや丸味を持つ。口縁端部は横ナデによって仕上げられるがやや歪んでいる。外面は磨滅し調整は不明だが、内面については工具によるナデのようなものが観察される。口径14.0cm、器高14.4cm、復元底径8.0cmを測り、外面は淡黄褐色から茶褐色に、内面は淡黄褐色に焼成されている。133は胴部から頸部に

かけては厚く、口縁部で屈曲したのち細くなって端部へ至る。外面の口縁部は横ナデされているが、頸部以下の調整については工具で粗くナデられており、黒斑がある。内面もナデられ、所々工具痕が残る。口径12.0cm、器高は13.0cmを測り、外面は淡黄褐色、内面は暗灰色である。134・135の鉢はそれぞれ焼成後、底部中央に穿孔されている。どちらも比較的器厚は厚く胴部が張り短い口縁がわずかに屈曲する。底部は完全な平底である。134の胴部内外面にはハケ目が施されている。135は口径19.8cm、底径7.6cm、器高14.6cmを測る。136の口縁は大きく直線的に開く。外面はナデによって仕上げられるが、胴部から底部には指頭圧痕が残り黒斑がある。内面はハケ目のちナデ。口径11.9cm、4.8cm、8.1cmを測り淡黄褐色に焼成される。137は小型の甕形をした土器である。全体に器厚は厚く、胴部と口縁部付近は丁寧なナデによって仕上げられているが、頸部付近においては内外面ともに指頭圧痕が大きく残る。口径6.7cm、底径4cm、器高7.4cmを測り、黄橙色に焼成されている。138は小型の器台で器高7.6cmを測る。

139～143は6層中より出土した。139の口縁屈折部は極端に大きく外反し、内面には稜が付く。復元口径17.8cmを測る。140の口縁は胴部に比べ厚く、端部は角を持つ。141の底面端部はナデにより丸味をもち、底径は9.2cmを測る。142の口縁は「く」字状に屈曲し、胴部に張りを持つ。口径15.2cm、底径7.0cm、器高17.5cmを測る。143は杯の屈曲部に段を持ち、端部へは直線的に立ち上がる。脚部は細いが裾部付近で大きく開く。

144は4層あるいは5層中からの出土であるが、確実な地点は抑えられなかった。口縁部は大きく開き内面にはわずかに突出する稜がある。頸部には方形の突帯が貼付されている。

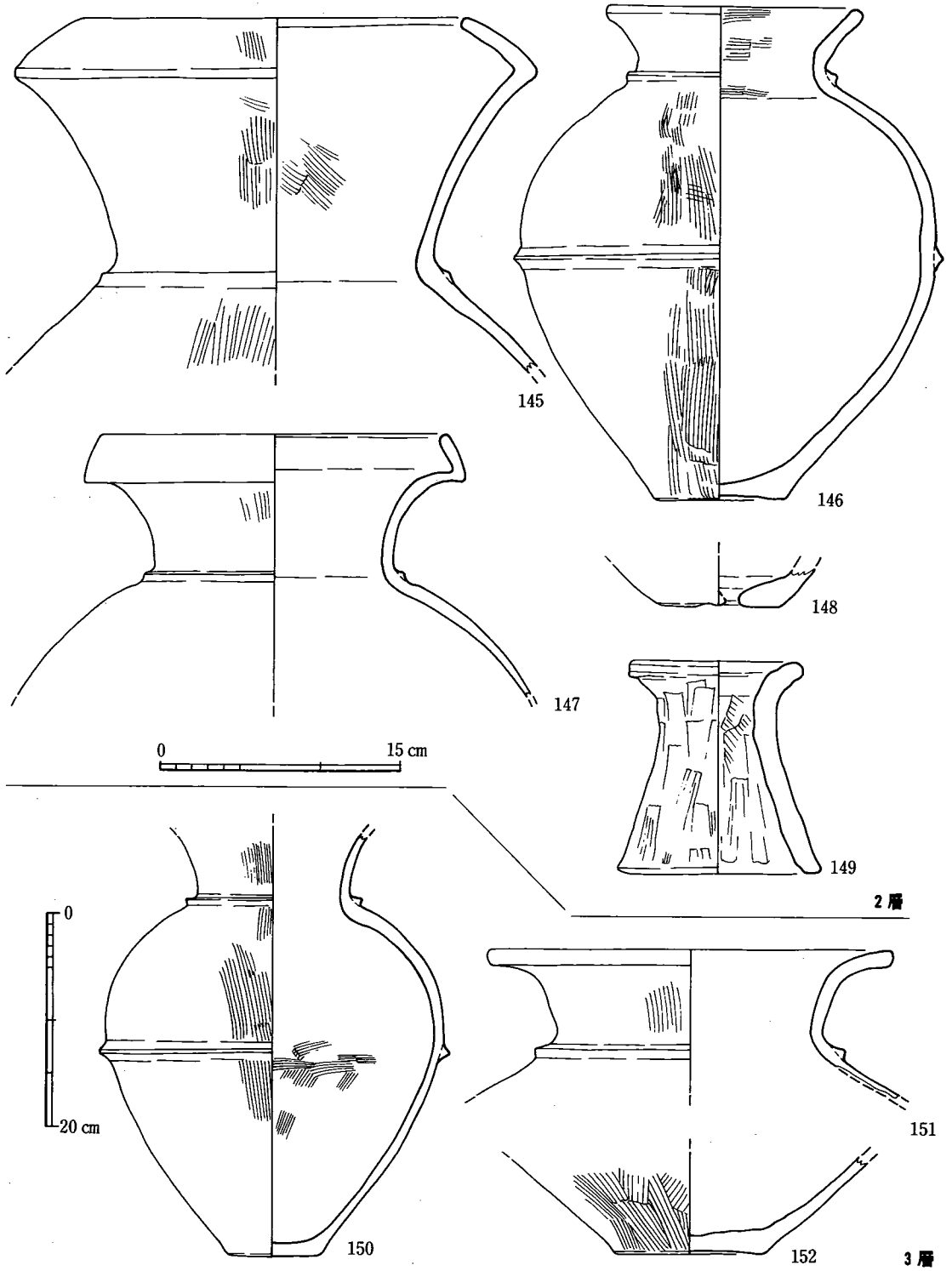
4 トレンチ (第26～34図145～238)

145～149は2層中からの出土である。145の口頸部は長くバチ状に開き屈曲する。頸部下にわずかに三角突帯が貼付される。復元口径22.0cmを測る。146の口縁は頸部よりバチ状に立ち上がり、端部は丸味を帯びる。頸部と胴部中位に三角突帯が貼付される。口径16.0cm、底径8.4cm、器高30.8cmを測る。147の屈曲は大きく口縁は立ち上がり気味で屈折部の突出も下方を向く。148は焼成後に穿孔された鉢である。復元底径7.8cmを測る。149の器台は内外面ともに工具によるナデによって仕上げられている。

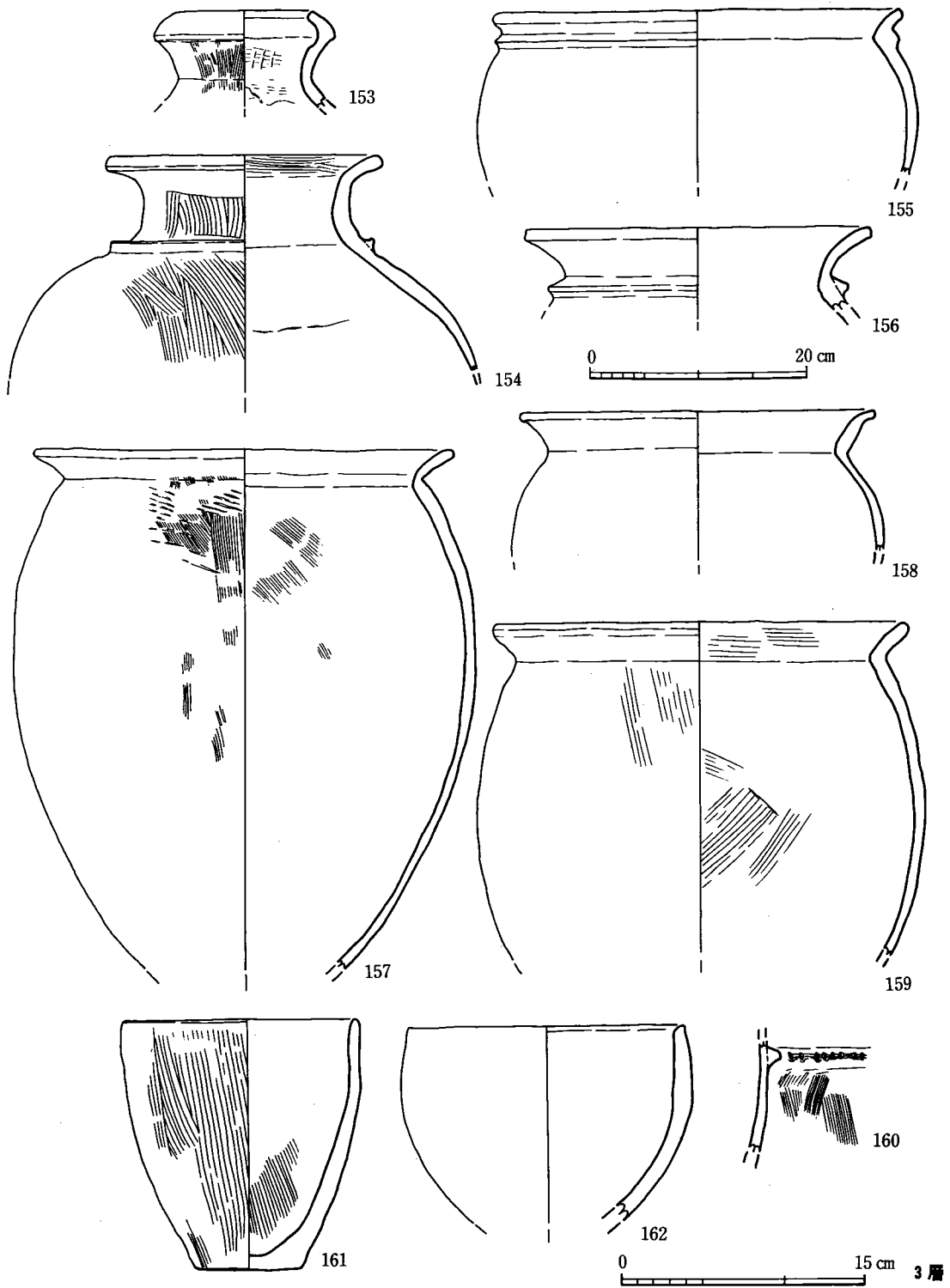
150～172は3層中の出土である。150は肩部に張りを持ち、頸部と胴部中位には突帯が貼付される。頸部では鋭い三角形である。外面頸部から胴部には縦位のハケ目が、内面胴部付近には横位のハケ目が観察される。底径8.5cmを測る。151の口縁は緩やかに外反し端部で肥厚する。頸部三角突帯が貼付される。152の底部は上げ底でハケ目は端部まで施されている。153は屈折部から口縁端部までは肥厚したまま至る。頸部の屈曲は弱い。口縁部は内外面共にナデ、頸部外面は縦位ハケ目、内面はハケ目のちナデによって仕上げられる。また内面には粘土紐のつなぎ目が観察される。154は151に比べ頸部は直立気味である。口縁内面にはハケ目が施されている。155は短い口縁に対し大きな三角突帯が貼付され頸部以下は大きく張る。復元口径38.0cmを

測る。156の復元口径は32.0cm。157は口縁が「く」字状に開く甕で頸部から胴部上位にかけてはハケ目が施されているが、中位以下はケズリ風のナデによって仕上げられている。器面は二次的受熱により一部赤変し、煤が付着。158の口縁は「く」字状に外反し端部はさらに反る。159の復元口径は25.7cmを測る。160は突帯に細かい刻み目が入っている。161は胴部中位から口縁端部へは直立して至る。底面は平底で端部がわずかに丸味を持つ。口径14.1cm、底径6.6cm、器高15.5cmを測り、茶褐色に焼成される。162は球形を呈している。磨滅著しく調整は不明。163の胴部は球形で底部はわずかに張り出しており、底径6.0cmを測る。164は胴部でわずかに屈曲したのち、口縁端部へは直線的に立ち上がる。外面胴部には黒斑があり、内面には指によるナデ痕が強く残る。165の口縁から胴部中位にかけては黒斑があり、外面底部付近にはナデ以前の工具痕が刻み状に残る。166は裾部へは緩やかに開き、端部ではやや丸味を持つ。167～172は鼓形器台であるが、167以外は小型品である。167の内面胴部付近には指による粗いナデ痕が残る。168はくびれ部から胴部中程までは、直立的でその後裾部へはスカート状に開く。内面中位は工具によるナデである。169は口径9.5cm、裾部径10.6cm、器高11.3cmを測る。170は内外面に指頭圧痕を残し器面は凸凹している。171もハケ目が施されているが、器面の調整は粗く凹凸を持つ。172の外面にはタタキの痕がわずかに残る。

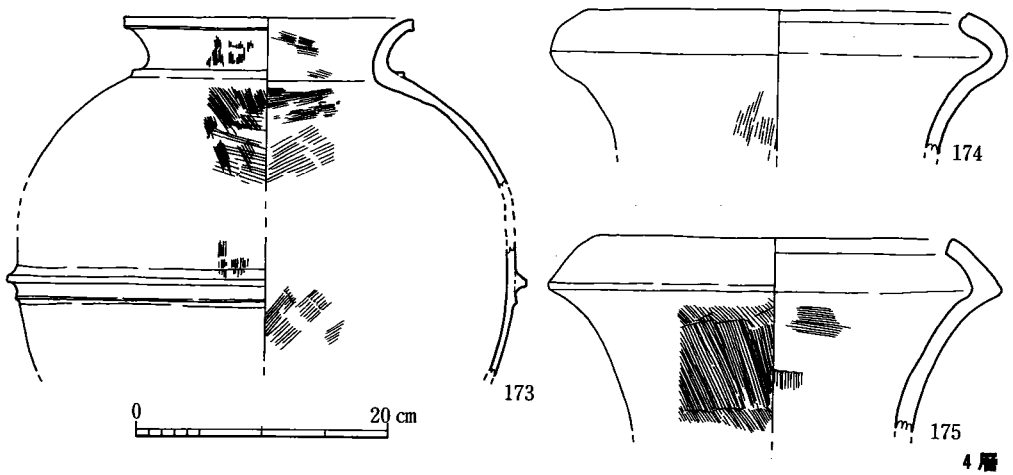
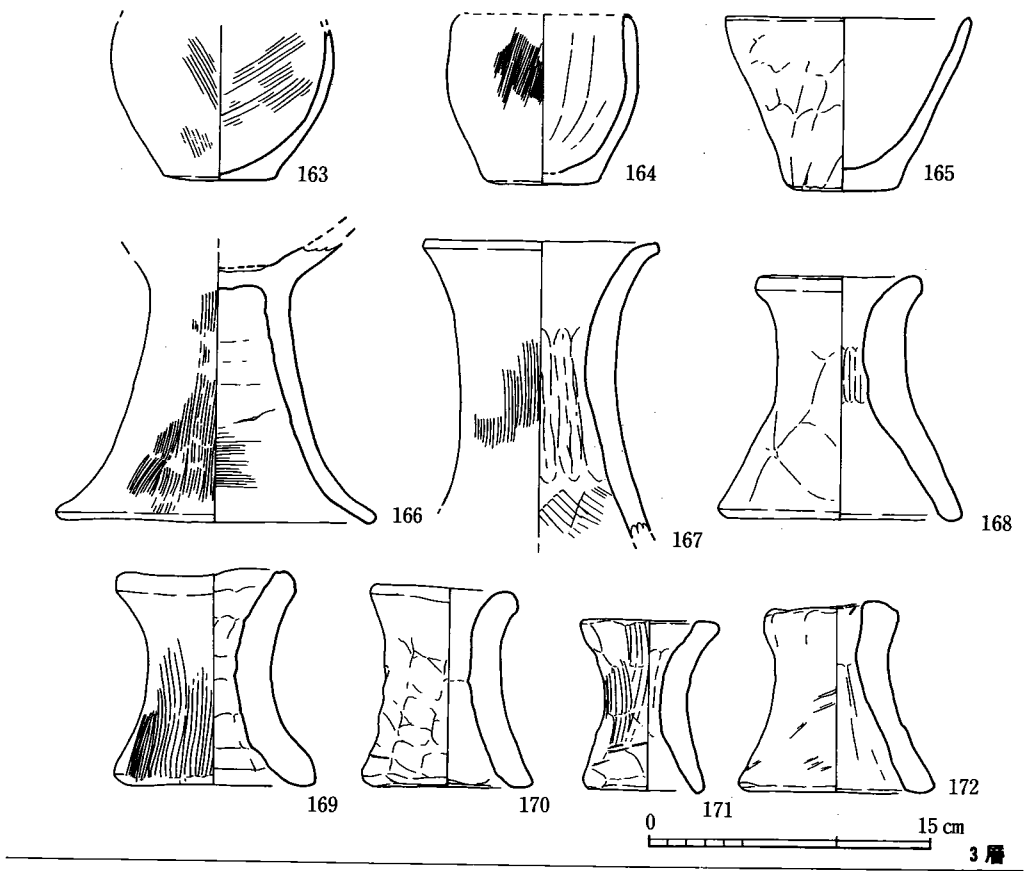
173～188は4層中からの出土である。173は口縁部が丸味をもって外反し端部はわずかに突出する。頸部に1条、胴部中位に2条の突帯が貼付されるが、胴部上段については方形でその他は三角である。174の口縁屈折部は丸く、端部は肥厚する。175の口縁屈折部は外面において稜を持つが内面は丸い。176の口縁屈折部は突出し、端部も細く外側に突出している。外面突出部下位には多方向のハケ目が施される。177の口縁は鋭角に屈曲し、屈折部の突出も鋭い。復元口径14.0cmを測る。178は口縁部から底部までの状況がわかる資料である。口頸部はバチ状に開き、口縁は屈曲して端部へは丸味を持って至る。口縁の屈折部はわずかだが突出する。胴部中位に最大径があり底部へは緩やかに至る。この底部は端部が丸みを持つ凸レンズ状である。突帯は頸部においては鋭い三角形で、胴部最大径部では方形のものが貼付される。器面は磨滅し調整は不明だが、底部から胴部下位にかけて黒斑が認められる。口径14.0cm、底径11.4cm、器高36.4cmを測る。179の屈曲は大きく頸部内面には稜が付く。180の口縁部は「く」字状に鋭く屈曲し、端部は肥厚し角を持つ。胴部から底部にかけては二次的に熱を受け赤変している。181は平底でハケ目は端部まで及ぶ。182の頸部下にはナデによる稜が入り、球形の胴部を持つ。183は肩部が膨らみ径も大きいのがそれ以上に口縁径は大きく外反する。復元口径は21.5cmを測る。184の頸部の屈曲は弱く端部は肥厚している。外面胴部にはタタキがわずかに残る。185も頸部の屈曲が弱い端部は細身である。内外面ともナデにより仕上げられているが、外面にはタタキがわずかに残る。復元口径18.8cm、器高11.0cm、底径7.3cmを測り茶褐色に焼成される。186はサラダボール状の大型の鉢で復元口径は46.4cmを測る。頸部はほぼ直角に折れ端部は厚く肥



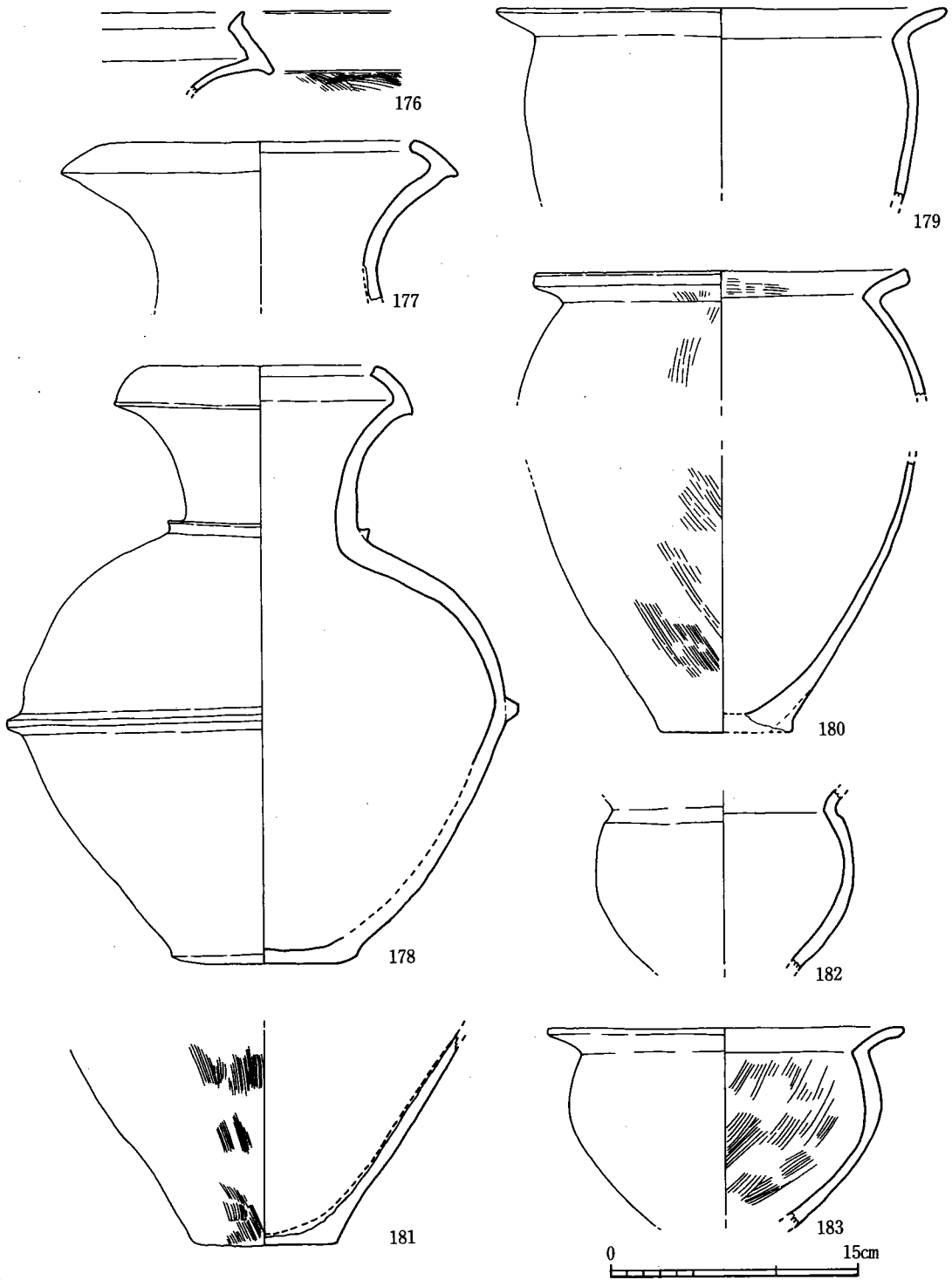
第26図 1022号溝4トレンチ出土土器実測図. 1 (1/4 150は1/6)



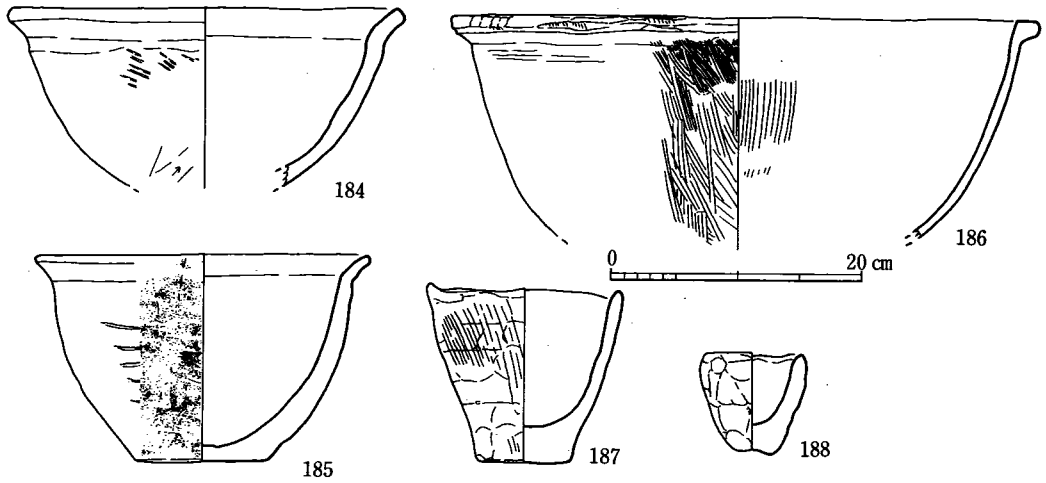
第27図 1022号溝4トレンチ出土土器実測図。2 (1/4 155・159は1/6)



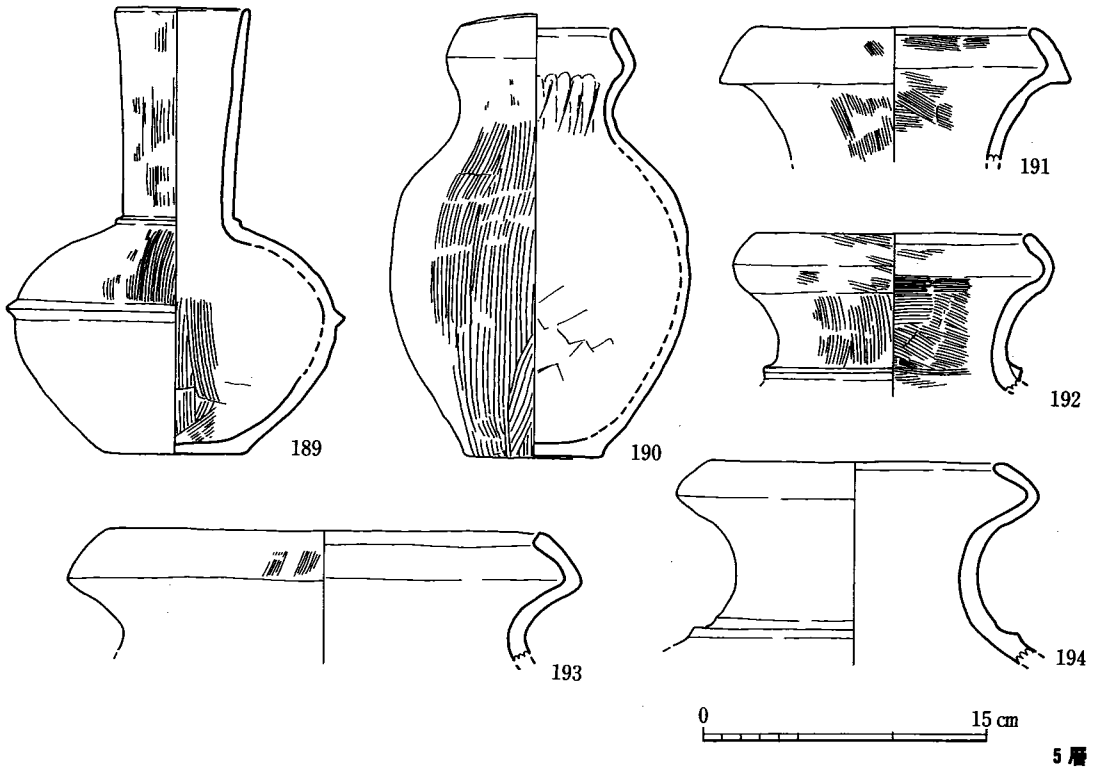
第28図 1022号溝4トレンチ出土土器実測図。3 (1/4 173は1/6)



第29図 1022号溝4トレンチ出土土器実測図. 4 (1/4)

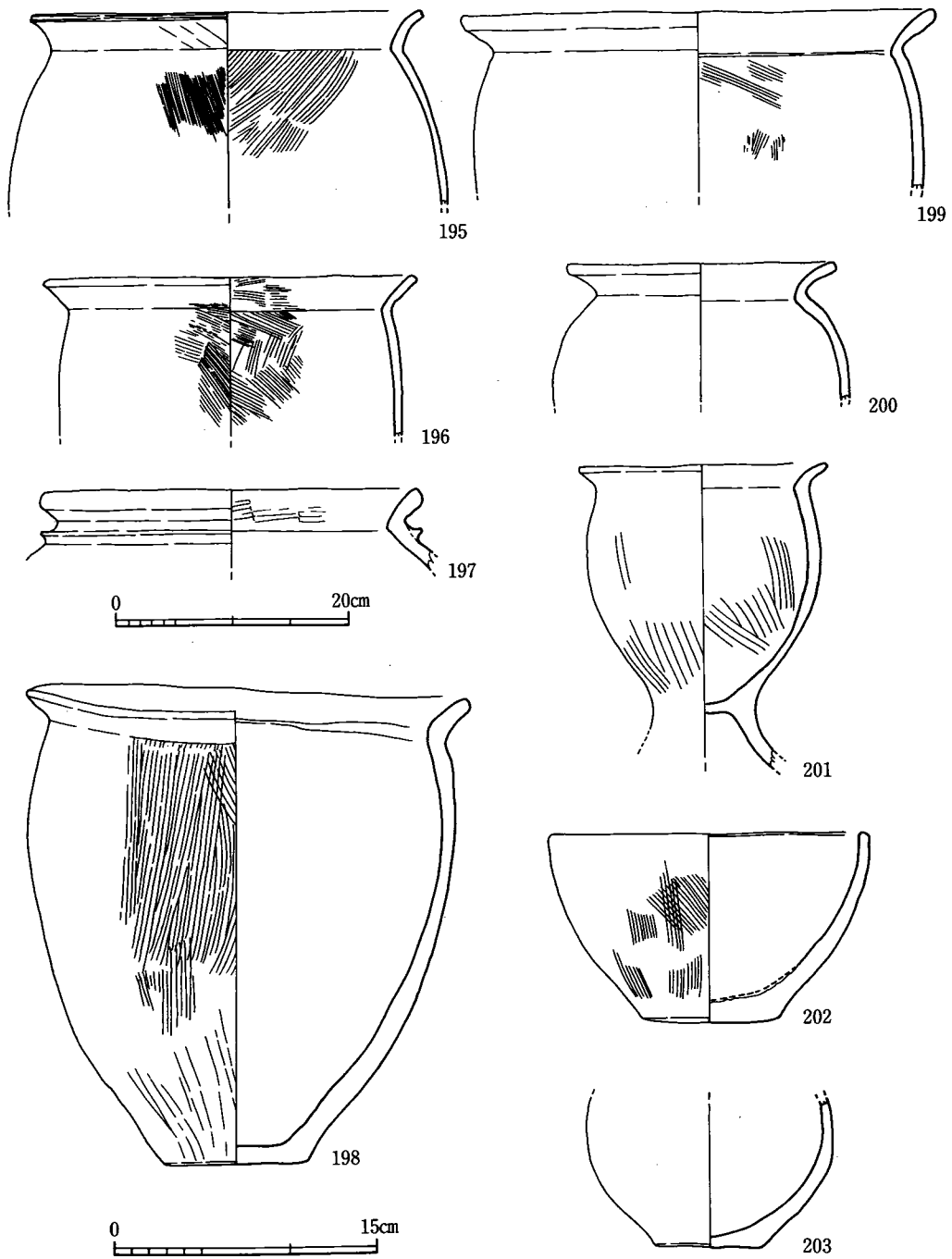


4層



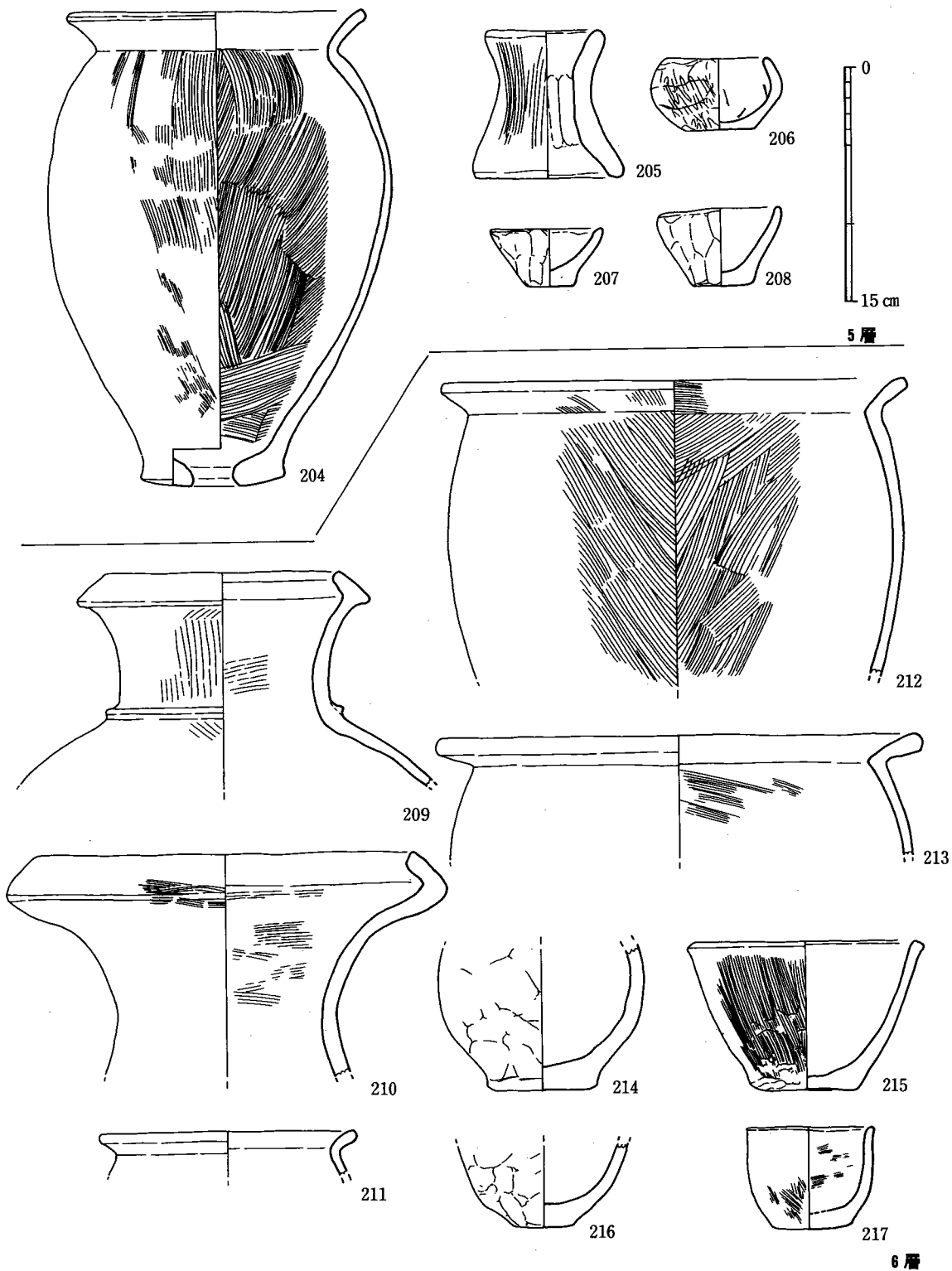
5層

第30図 1022号溝4トレンチ出土土器実測図。5 (1/4 186は1/6)

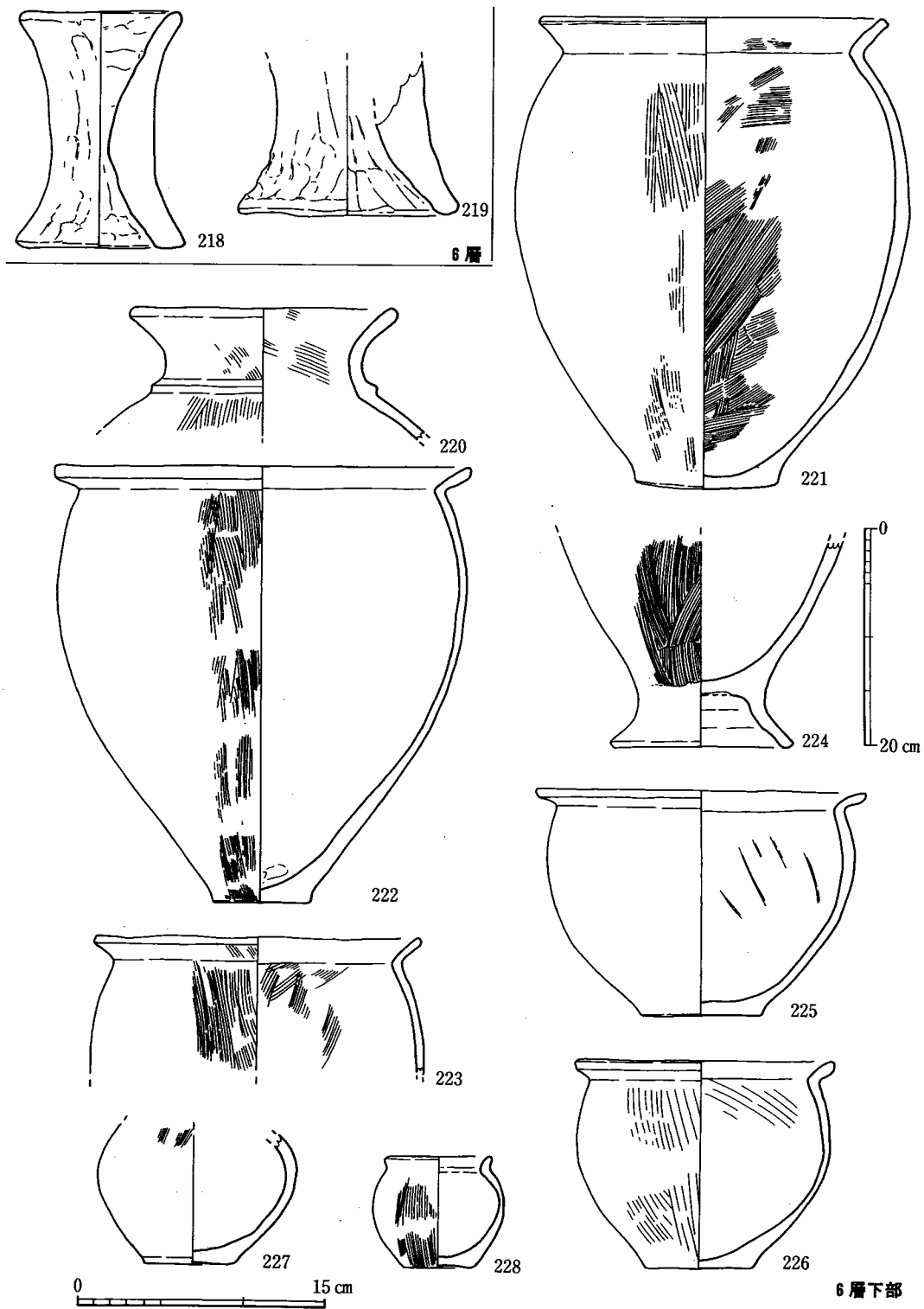


5層

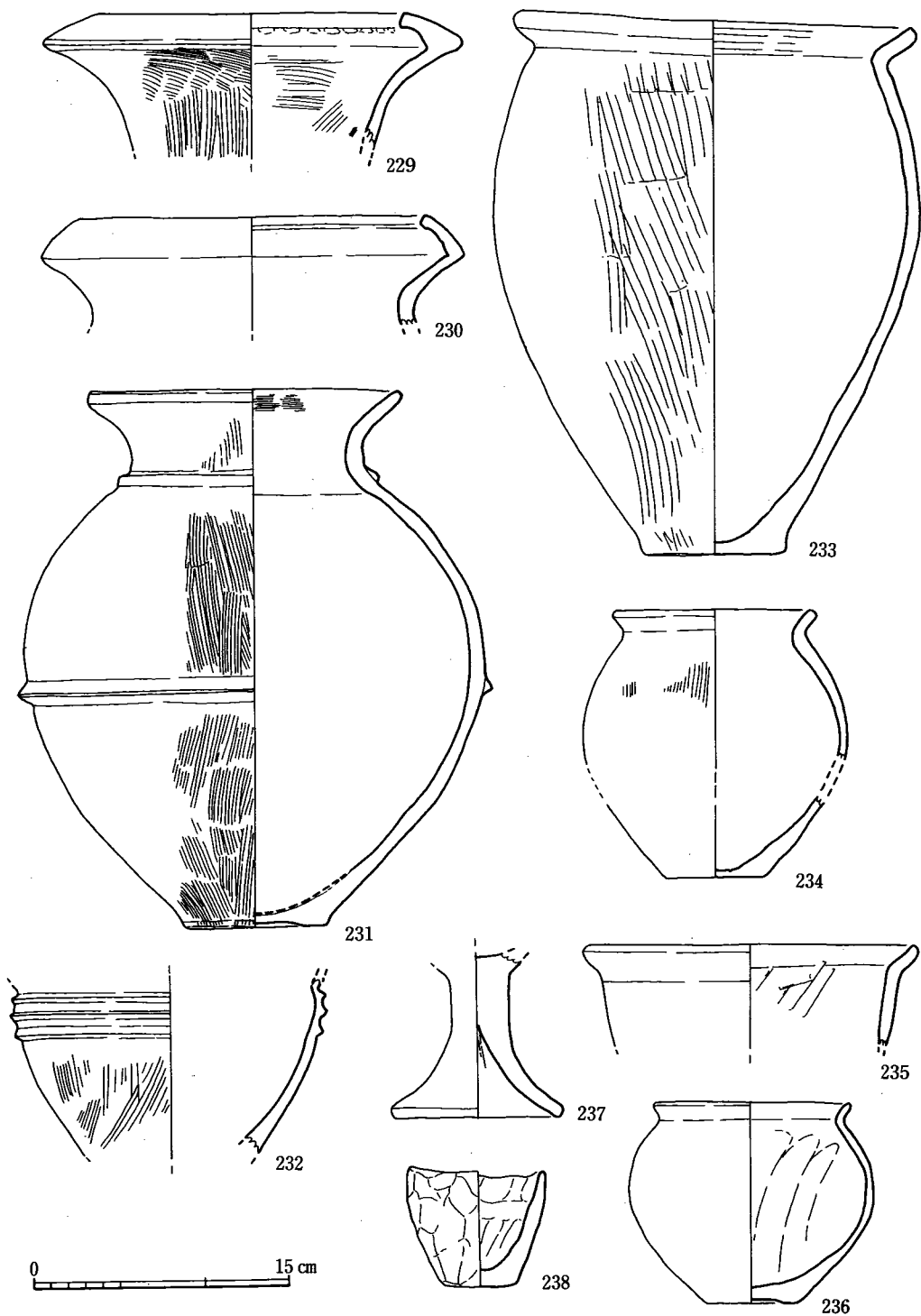
第31図 1022号溝4トレンチ出土土器実測図. 6 (1/4 195~197は1/6)



第32図 1022号溝4トレンチ出土土器実測図。7 (1/4)



第33図 1022号溝4トレンチ出土土器実測図. 8 (1/4 222・223は1/6)



層位不明

第34図 1022号溝4トレンチ出土土器実測図. 9 (1/4)

厚している。187は小型の鉢で粗い指頭圧痕がハケ目下に残る。188の胴部には黒斑がある。

189~208は5層中からの出土である。189の頸部は直線的に立ち上がり端部へ至る。胴部は中位で楕円形に膨らみ、底部は端部が鋭く稜をもった平底である。頸部と胴部中位に三角突帯が貼付される。口径7.2cm、底径7.6cm、器高23.7cmを測る。190は口頸部が緩やかに内側に屈曲する。胴部中位に最大径を持ち、端部が鋭い平底である。内面頸部は工具による横位のナデによって仕上げられ、胴部下位は工具痕でナデられる。191の口縁屈折部は突出し口縁端部は丸い。192の口縁屈曲は弱く、端部は肥厚する。頸部には方形の突帯が1条貼付される。復元口径14.6cm。193は復元口径22.8cm。194の口頸部は長く屈曲も緩やかである。195の口縁は端部付近でさらに外反する。196は内外面にハケ目が施され、内面は口縁部にまで施される。197の口縁端部は肥厚し、頸部には鋭い方形の突帯が貼付される。復元口径32.7cm。198は頸部の屈曲が弱く口縁は肥厚する。底部はやや端部に丸味を持つ。199は口縁が「く」字状に折れる。200の口縁は緩やかで大きく開く。201は台付の鉢で復元口径14.2cmを測る。202の外底部はやや張り気味。203はやや球径の胴部を持ち、底部付近で急にすぼまる。204は甕の底部を穿孔し甌として使用している。口縁は「く」字状に外反し、底部は凸レンズ状である。胴部は内外面共に丁寧にハケ目が施される。口径19.0cm、底径10.3cm、器高30.4cmを測る。205の裾部周辺は磨滅し調整は不明。206は平底で胴部外面はミガキ、内面は工具によるナデ。207は口径6.9cm。底径3.0cm、器高3.8cmを測る。208の底部には黒斑がある。

209~219は6層中より出土した。209の口頸部は長く、口縁の屈折部は外面では少し突出するが、口縁全体が肥厚するため内面の屈折は弱い。210は口頸部が長く徐々に開き屈折部へ至るが、ここから端部へは肥厚するため屈折部内外面の稜は鈍い。復元口径24.0cmを測る。211~213の口縁は「く」字状に屈曲する。212の口縁端部下には丁寧なハケ目が施される。213の屈曲は鋭く、頸部内面には稜が付く。214は外面底部に工具痕を残す。215の鉢は直線的に開き口縁へ至り、端部でわずかに外反する。216の底径は3.6cmと小さい。217は胴部から口縁端部へは直立気味に至る。218・219の器台はどちらも指頭圧痕を残し器面には凹凸があるが、219は外面胴部と内面裾部にケズリを残す。

220~228も6層中の出土だが、出土レベル的には若干下位であった。220は頸部から端部へは一定の厚さを持って至る。復元口径16.3cm。221の口縁端部には角があり、胴部はやや卵状に張りそこに最大径を持つ。胴部下位にかけて黒斑がある。復元口径21.5cm、底径8.7cm、器高29.0cmを測る。222の口縁端部は221に比べ肥厚する。胴部は張りを持つが、最大径は口縁部である。底部は完全な平底でハケ目は端部にまで及ぶ。復元口径38.2cm、底径9.2cm、器高40.1cmを測る。223の口縁は「く」字状に外反する。224の台付き鉢の脚台部は丁寧に横ナデされている。225の外面は磨滅著しいが内面には工具痕が残る。226は球形の胴部を持ち、口縁は「く」字状に外反する。底部は完全な平底である。227・228は小型の鉢でいずれも球形の胴部と若干上げ

底の底部を持つ。

229～236は4～6層中より出土したが、正確な地点を抑えることができなかった。ただ229～232・234～236・238はまとまって出土している。229の口縁屈折部は肥厚し端部は角を持っている。口頸部は内外面共にハケ目が施され、内面端部付近には指頭圧痕が残る。230は復元口径24.8cmを測る。231は頸部より口縁が大きく外反する。胴部は球形で底部はやや上げ底である。頸部と胴部に三角突帯が貼付される。外面口縁は横ナデされ、頸部から底部までは縦方向のハケ目、内面は頸部付近にハケ目が施される。232は胴部には最低3本の三角突帯が貼付されている。233は口縁が「く」字状に外反し、頸部から端部は肥厚している。胴部に最大径があり端部は平底である。胴部を中心にハケ目が施され、底面端にまで及んでいる。内面胴部は磨滅により調整は不明。234は口縁が「く」字状、底部は平底で球形の胴部を持つ。235の内面は工具によるナデ痕が残る。236は球形に張る胴部に短い口縁が取り付け、底部は上げ底である。外面はかなり磨滅しているが内面には指ナデの痕が強く残る。237の内面にはシボリ痕が観察される。裾部復元径は10.1cmを測る。238は指頭圧痕が残り器面には凹凸がある。坑口縁付近に黒斑がある。

5トレンチ (第35～44図239～339)

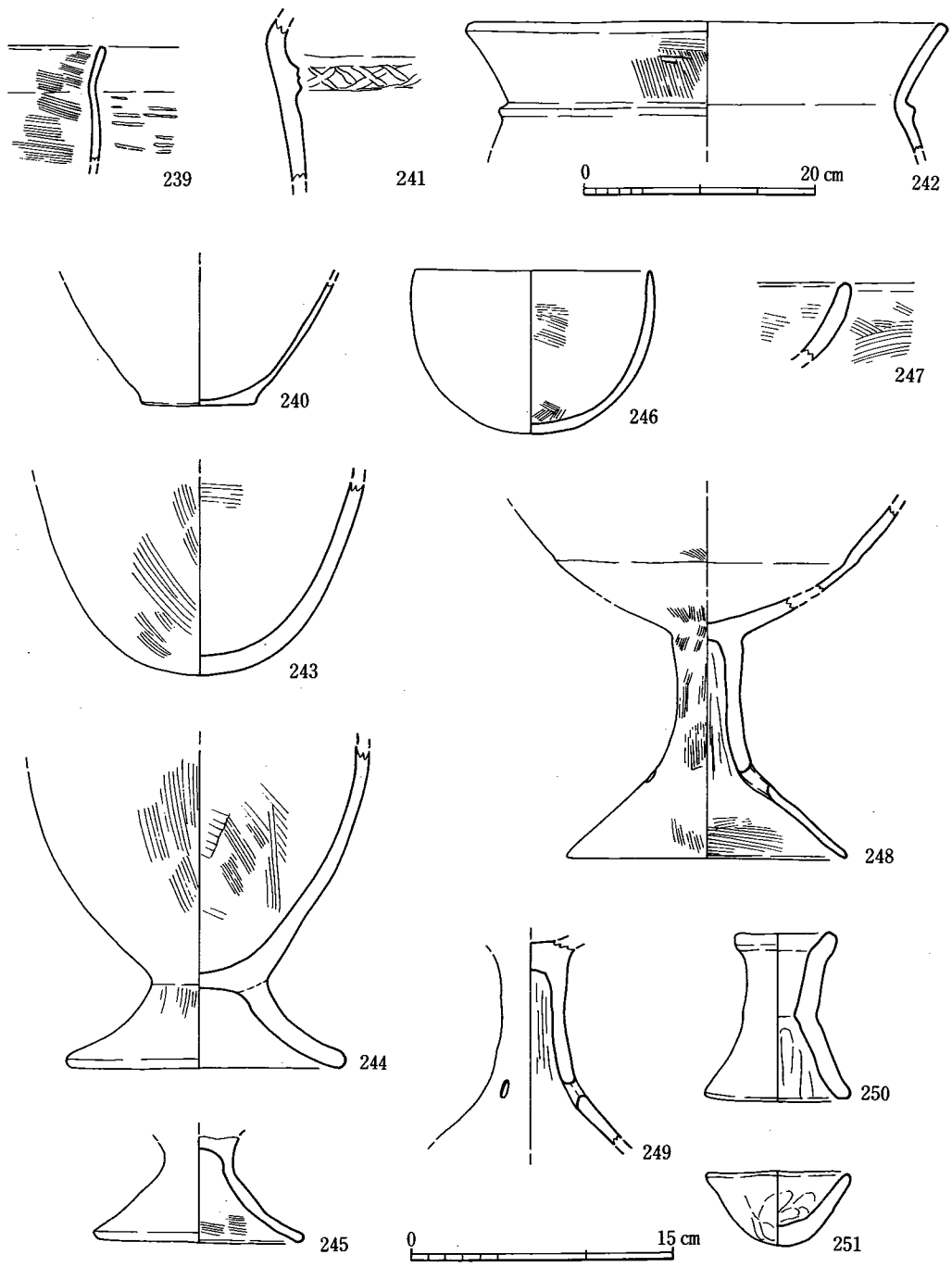
239～251は2層中出土の土器である。239の口縁は少し屈曲し、端部でわずかに肥厚する。口縁内外面はナデ、外面胴部にはタタキを残し、内面にはハケ目が施される。240の底部は復元口径6.6cmを測る。241は頸部下に方形状で幅のある突帯が貼付される。242の口縁は長く直線的に開く。頸部に三角突帯が1条貼付される。復元口径41.3cm。243は球形の底部で外面にはハケ目が施され、底部付近に黒斑あり。内面はハケ目のちナデ。244の脚台部の裾はラッパ状に開く。胴部内外面共にハケ目が施され、胴部から裾部にかけて黒斑がある。245の脚外面は磨滅しているが内面には横ナデが観察される。裾部径は12.0cmを測る。246は底面が丸くボール状を呈した鉢で口縁端部は細く鋭い。復元口径13.6cmを測る。247は鉢の口縁部片で端部付近は横ナデ、以下は内外面共にハケ目が施される。248の高杯の杯外底部と口縁の屈曲は弱い。脚は柱状部では細く、裾部へ向かうにつれ急に開く。2箇所穿孔がある。外面は裾端部までハケ目が施されるが、内面は裾付近だけでそれより上位はナデによって仕上げられる。249は3箇所に穿孔がある。250の器台は頸部下にくびれ部があり、胴部中央には別の屈曲がある。251の手捏ね土器は底面に煤が付着している。

252～275は3層中より出土した。252～257はいずれも口縁が屈曲する複合口縁壺である。252・253の口頸部はどちらも大きくバチ状に開き、頸部下に突帯を持つ。屈折部から端部にかけては肥厚し屈折部内面の稜も不明瞭である。また、どちらも口縁内面下に指頭圧痕が観察される。254は口縁部の屈曲が強く、屈折部は外面でわずかに突出する。屈折部から端部までは一定に肥厚し、屈折部内面の稜も明瞭である。口径20.5cmを測る。これに近いものには256がある

が、屈折部の突出も弱く、内面の稜も不明瞭である。255は口縁端部が細く仕上げられる点で他と異なる。257は口頸部が他に比べ短い。258は底面がわずかに張り出し、胴部から底部付近に黒斑がある。底径8.3cmを測る。259は復元口径20.4cmを測る。260は底面端部がわずかに丸味をもち、内外面ともに胴部から底部にかけてハケ目が施される。形態や色調などから259と260は同一個体の可能性がある。261は卵状の胴部に2条の突帯が貼付され、底部は平底である。262の頸部の屈曲は弱く直立気味に立ち上がる。内外面磨滅著しいが外面にはタタキがわずかに観察され、口縁から胴部にかけては黒斑がある。263～265の甕はいずれも口縁が「く」字状に屈曲し、端部は角を持つ。263の復元口径は24.0cm、264の口縁部は横ナデ、頸部以下はハケ目が施され、頸部以下に黒斑あり。265の底部は凸レンズ状で底径8.3cmを計り、頸部以下に黒斑がある。266は外面ハケ目のちナデ、内面はナデ調整で工具痕が観察される。裾端部は横ナデされている。267はサラダボール状を呈した大型の鉢で胴部から口縁部へは一定の厚さで至る。内外面ともにハケ目が施される。268・269の鉢はほぼ平底な点と底部から口縁端部へ直線的に開く点で共通する。ただ、268のほうが器厚は薄く、内外面ともにハケ目が施される。270は底面が球状を呈し、短い口縁がわずかに屈曲する。外底面には黒斑がある。271の支脚は突起を有することが頭部下の膨らみで確認できる。外面はタタキのちナデ、内面はハケ目のちナデ調整。裾径は11.5cm。272～275の器台はくびれがほぼ胴部の中位にくる272・273と、受部直下にくる274・275がある。前者は器面に凹凸を残し、内外面ともにナデられている。275は外面の端部からくびれ部までは横ナデ、以下はタタキで、内面はハケ目のちナデ。275は一部タタキを残し、くびれ部以下はハケ目、内面はハケ目のちナデ。

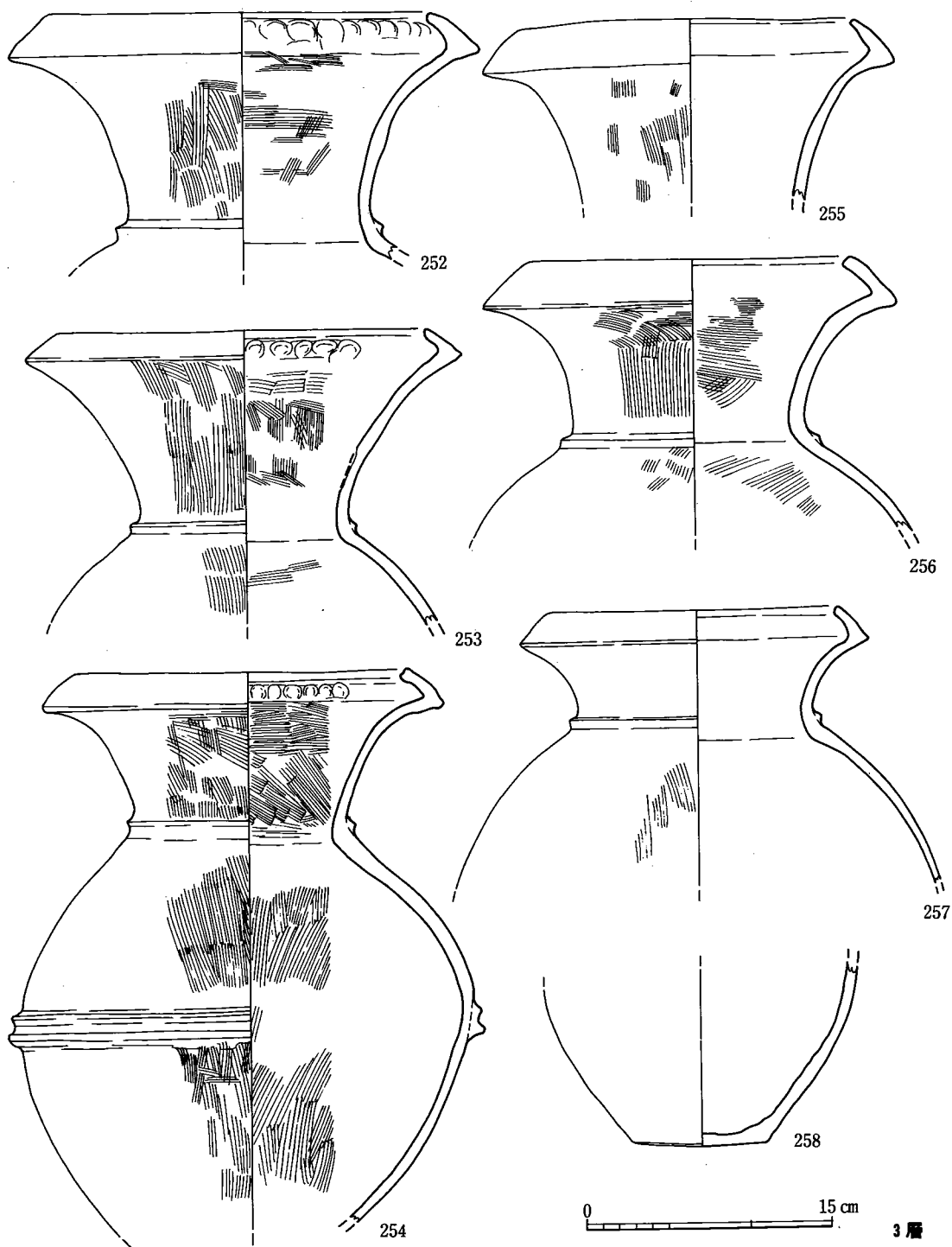
276～286は4層中からの出土である。276の屈折部内面には指頭圧痕が残されている。口径19.2cmを測る。277は胴部中位より少し上のところに三角突帯が2条貼付される。278～280の甕はいずれも口縁部が「く」字状に外反する。278は頸部以下は大きく膨らみを持ち、最大径は胴部付近になろう。また肩部以下に黒斑あり。279の復元口径は30.0cm。280は口縁部に煤付着。281・282の口縁部の屈曲は弱く、端部は角を持つ。どちらも頸部が口縁端部に比べ肥厚している。281は外面はナデ、内面は頸部以下に縦方向のハケ目が施される。282の外面胴部はハケ目、内面は工具によるナデ。復元口径18.1cm、底径6.7cm、器高24.5cmを測る。283の底部はやや凸気味、284は底径8.4cmを測る。285の胴部には黒斑がある。内外面ともに工具によるナデによって仕上げられている。茶褐色に焼成され、復元底径は7.0cmを測る。286は口径11.8cm、器高6.4cmを測り、全体に煤が付着している。

287～330は5層中より出土した。287～289は複合口縁であり、それぞれの屈曲は288が屈折部にやや鋭い稜を持つほかは比較的緩やかである。287の屈折部は肥厚し丸味を持つ。288は頸部下に三角突帯が1条貼付され、復元口径は18.4cm。289の口縁は丸味を持って屈曲し、端部も丸味を持つ。頸部下には2条の三角突帯が貼付られ、その内面には平坦な面を持つ。復元口径は

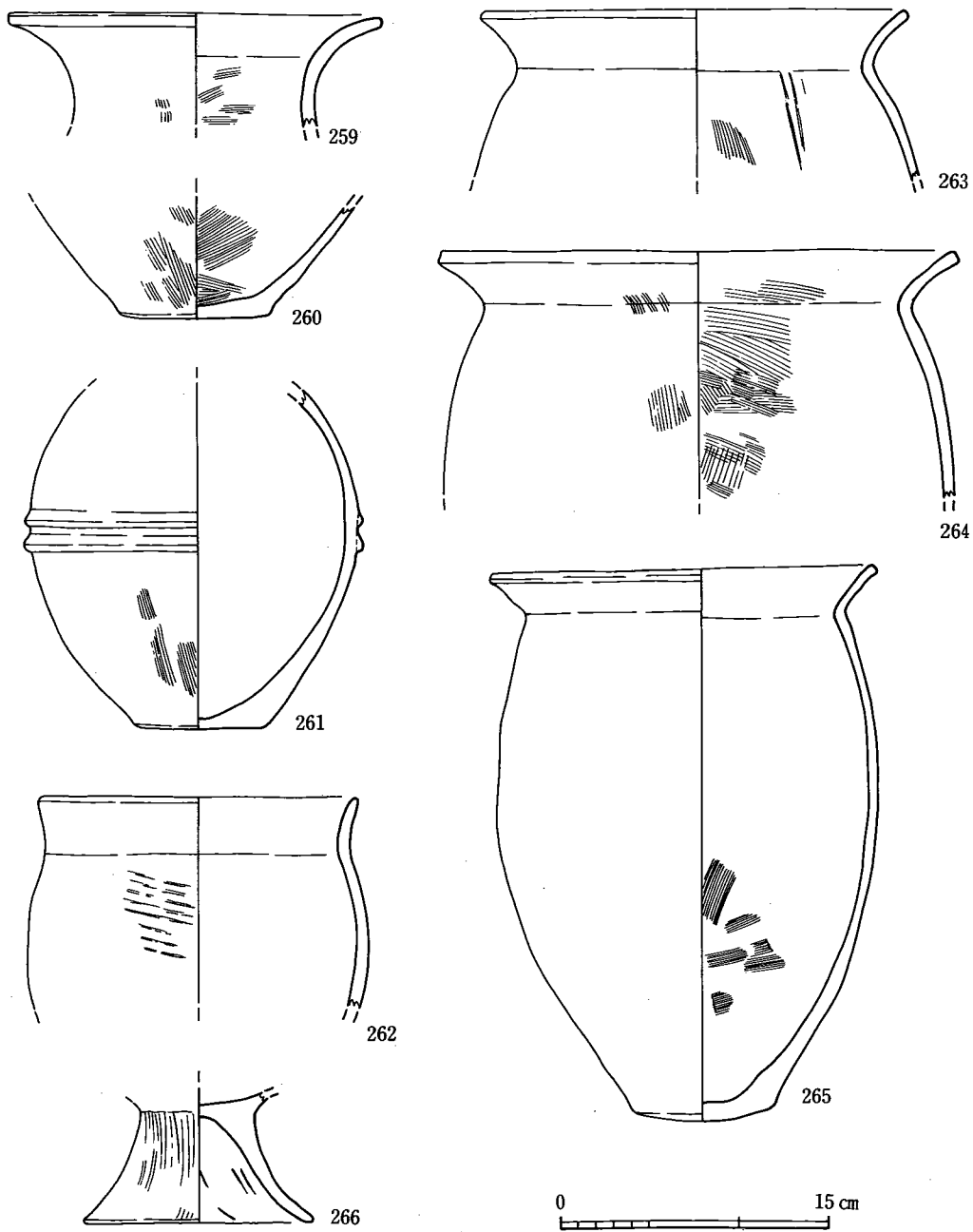


2層

第35図 1022号溝5トレンチ出土土器実測図。1 (1/4 242は1/6)

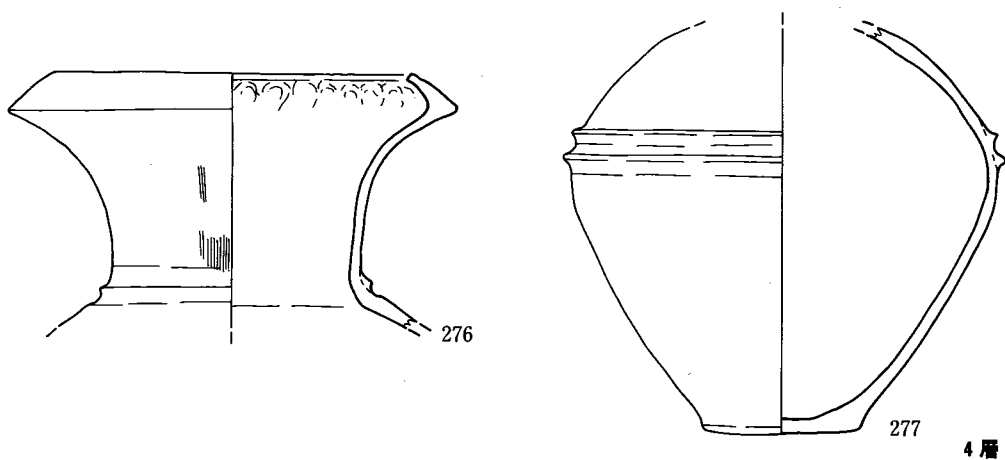
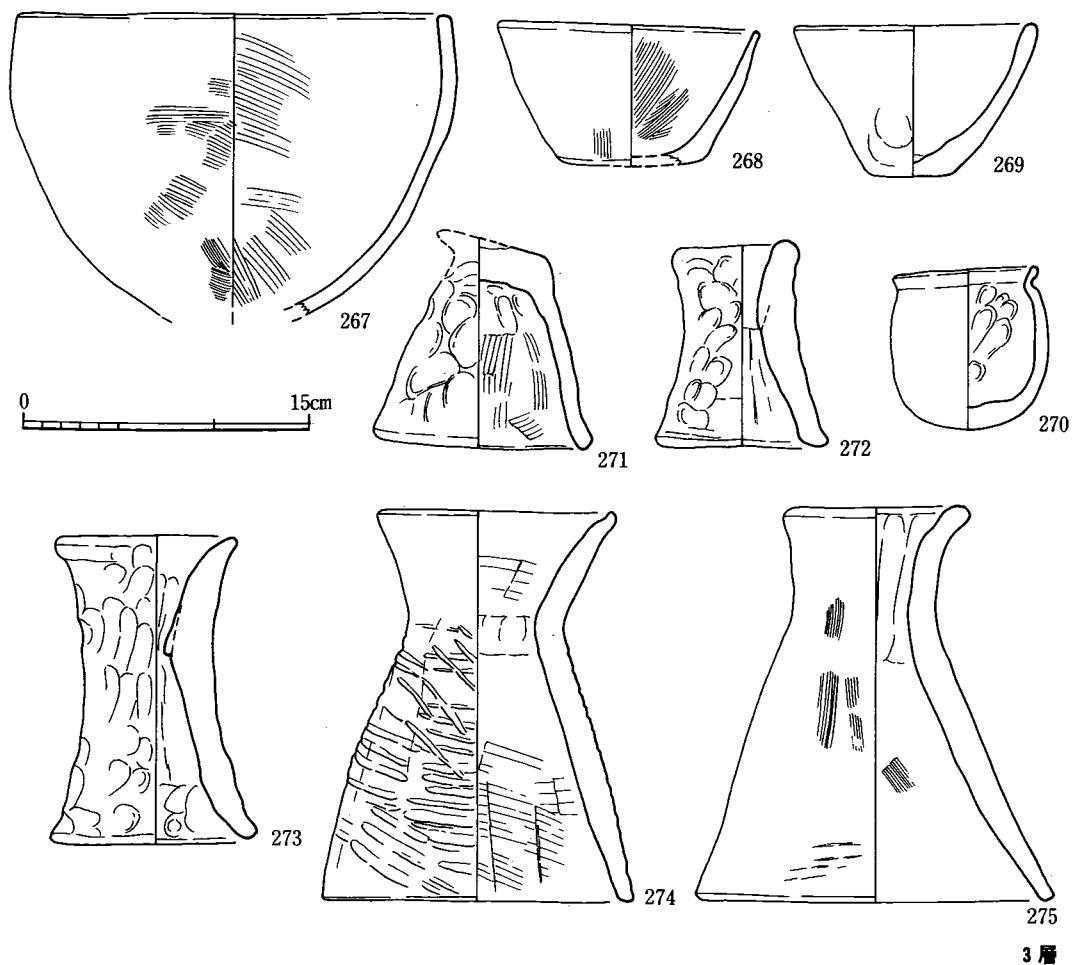


第36図 1022号溝5トレンチ出土土器実測図。2 (1/4)

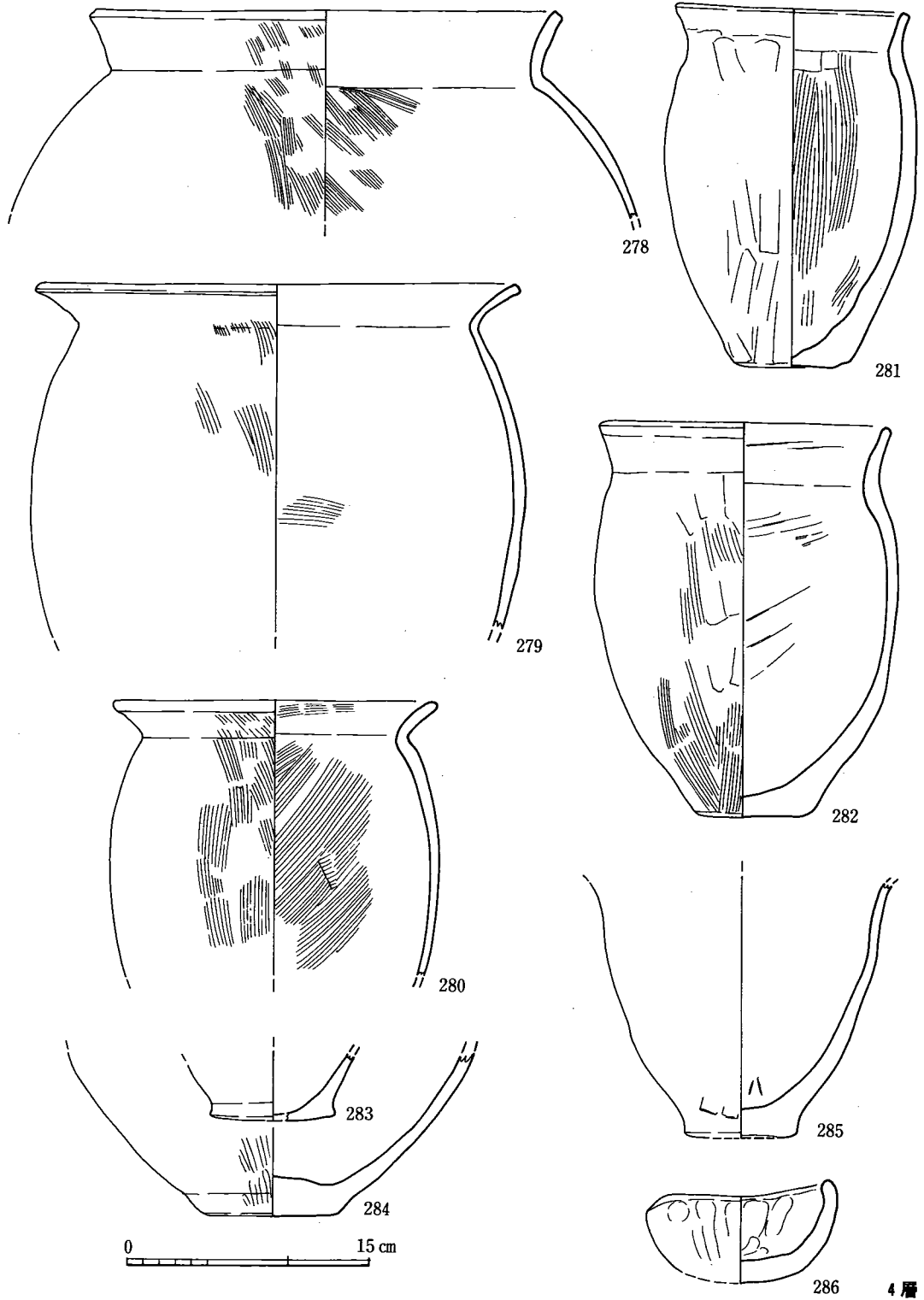


3層

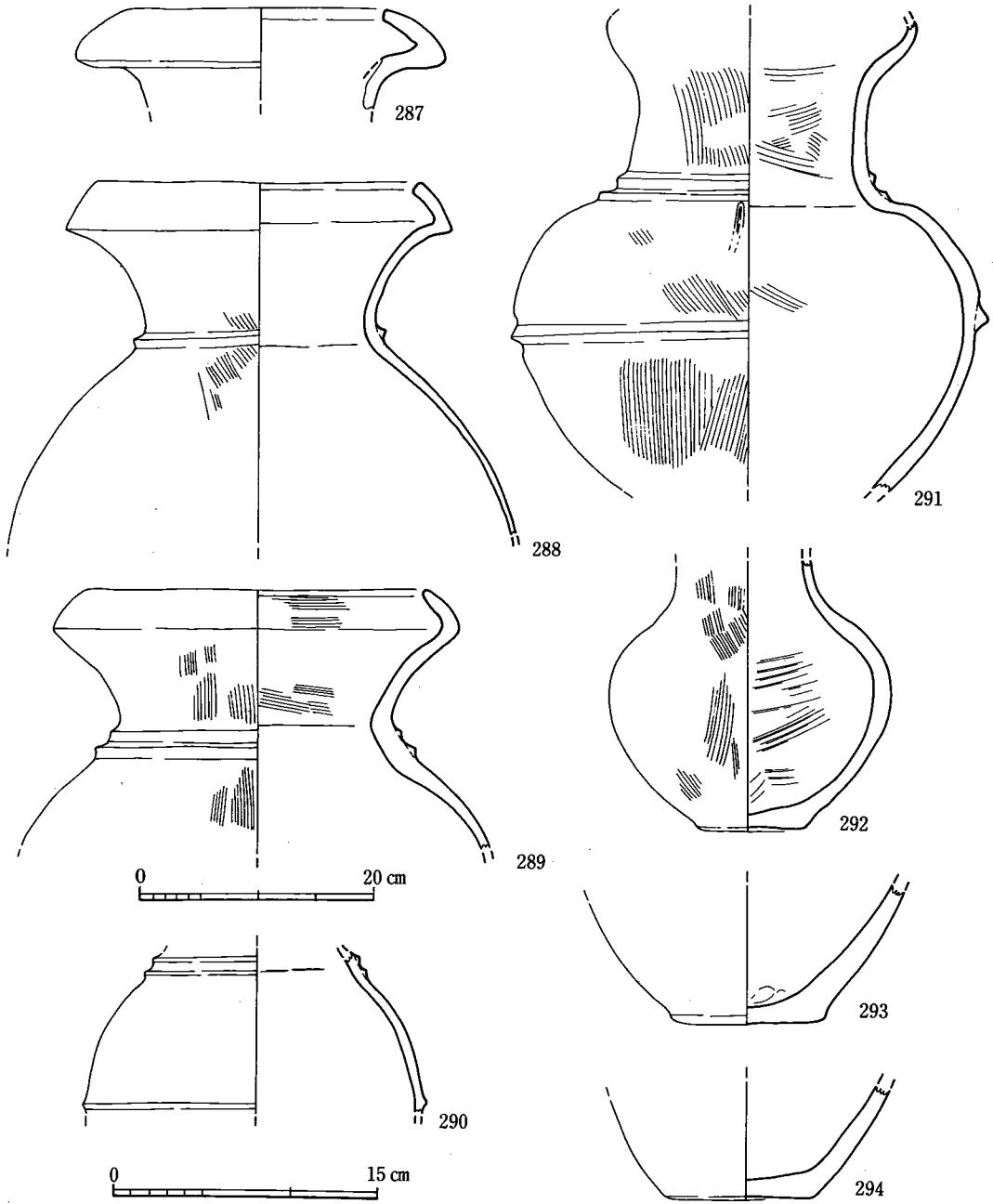
第37図 1022号溝5トレンチ出土土器実測図。3 (1/4)



第38図 1022号溝5トレンチ出土土器実測図. 4 (1/4)

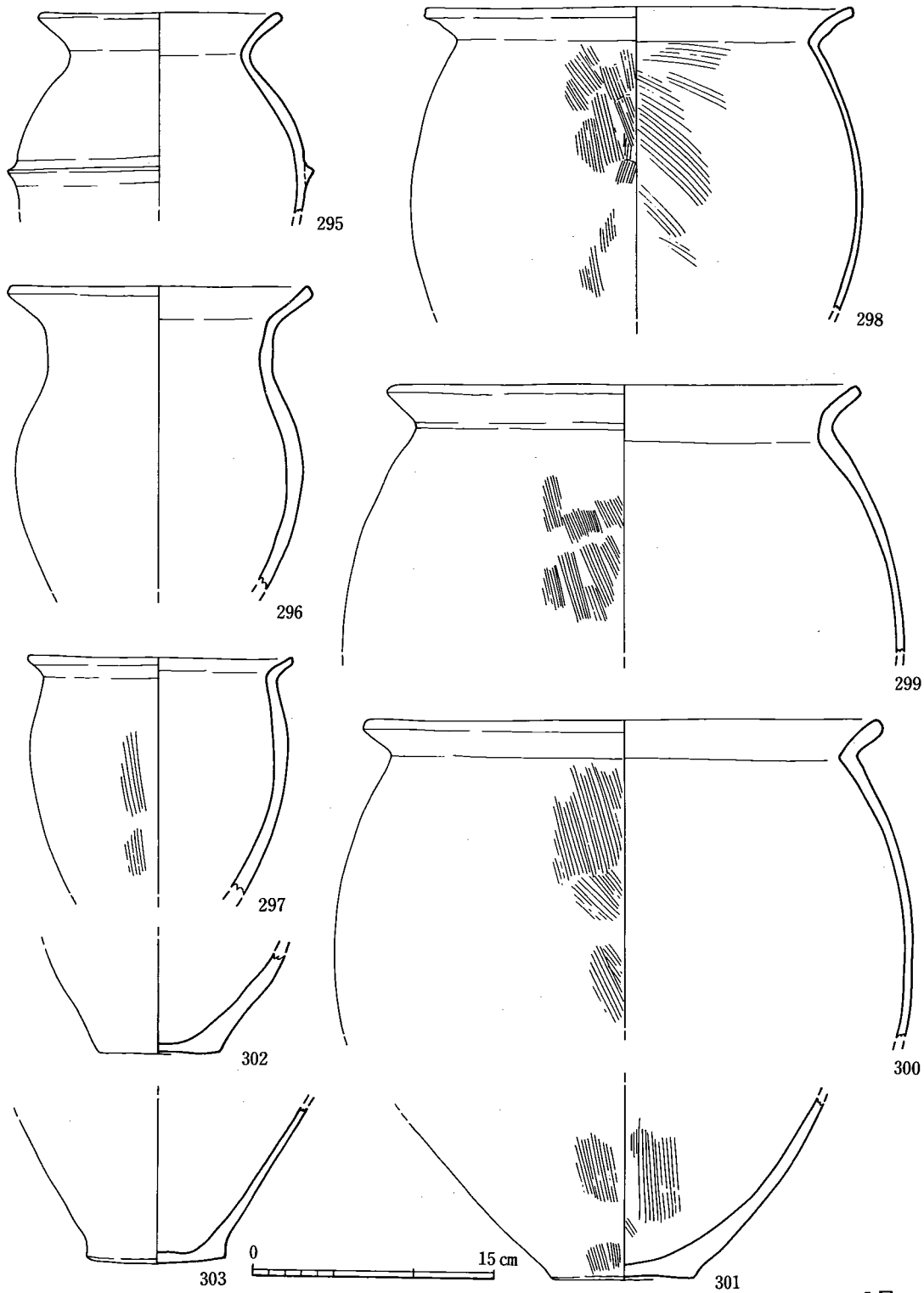


第39図 1022号溝5トレンチ出土土器実測図. 5 (1/4)

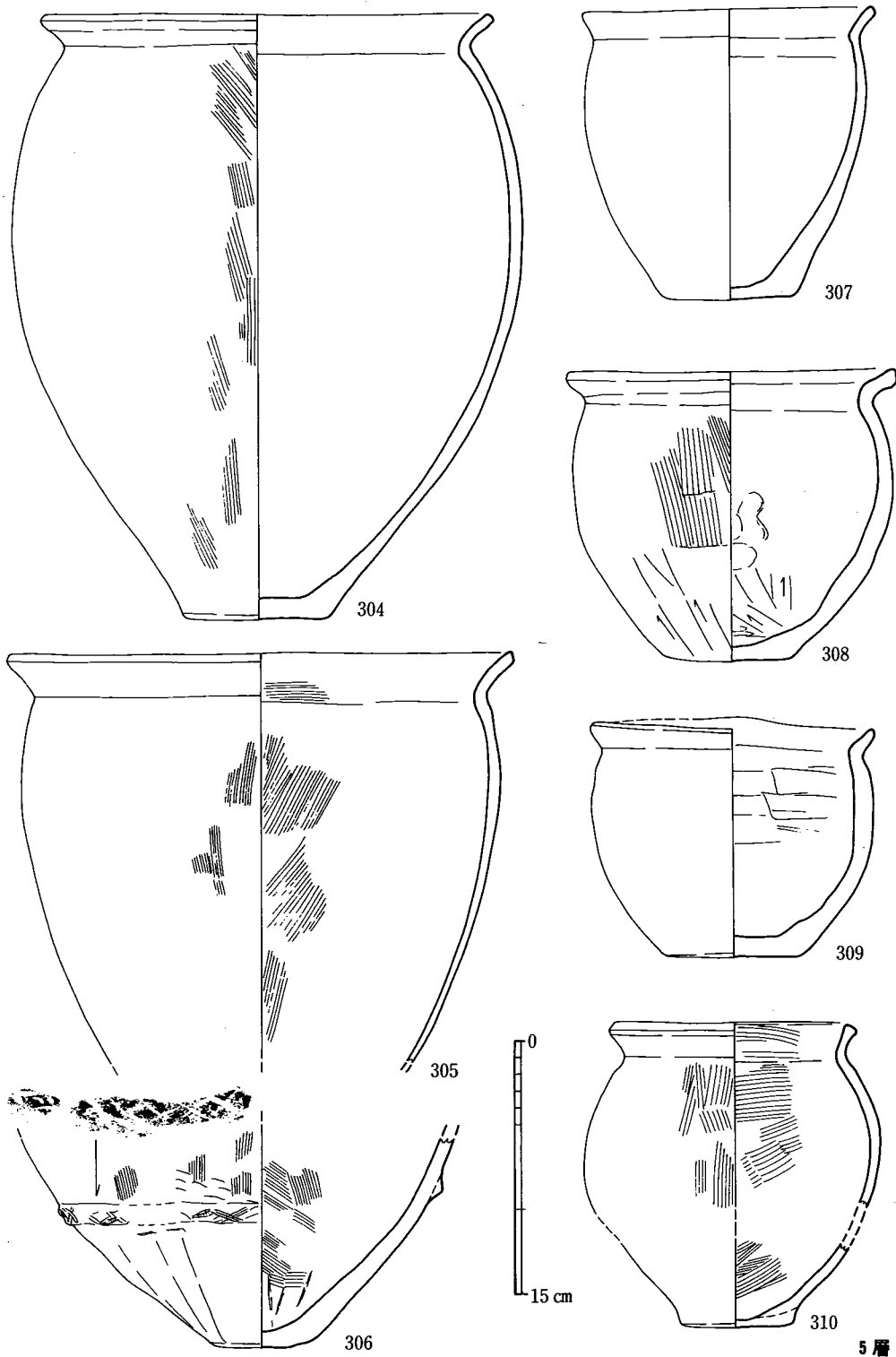


5層

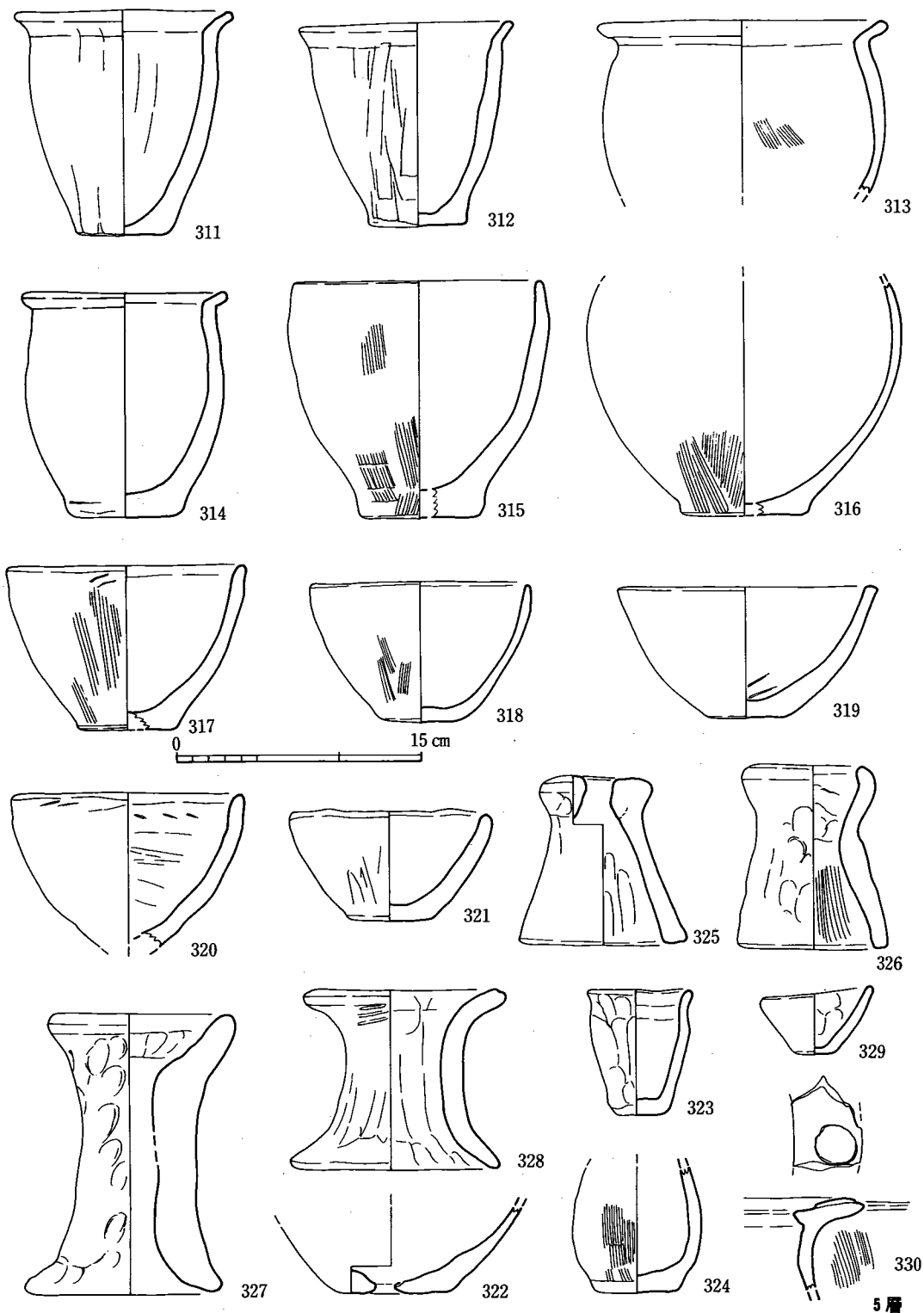
第40図 1022号溝5トレンチ出土土器実測図. 6 (1/4 289は1/6)



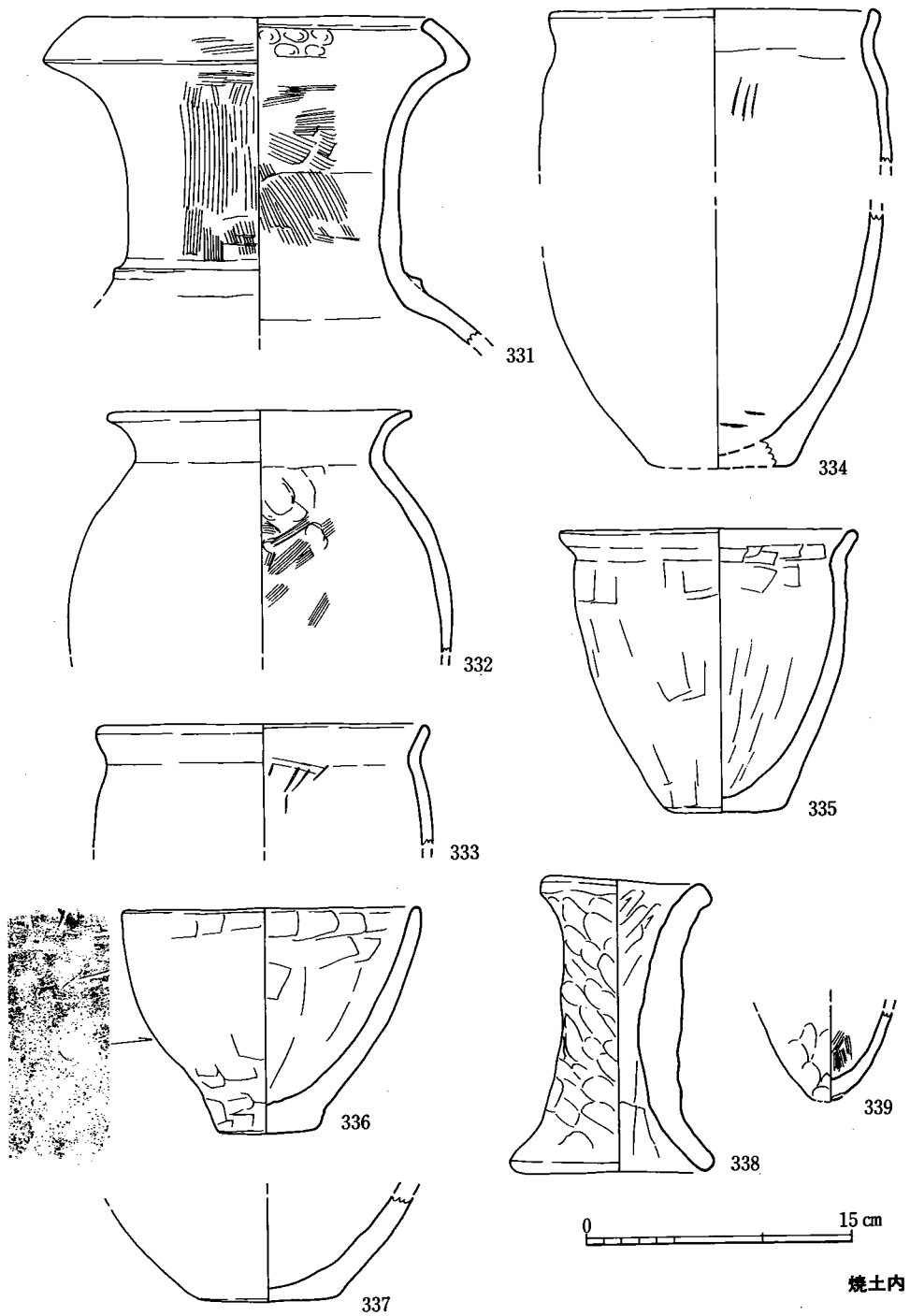
第41図 1022号溝5トレンチ出土土器実測図。7 (1/4)



第42図 1022号溝5トレンチ出土土器実測図. 8 (1/4)



第43図 1022号溝5 トレンチ出土土器実測図. 9 (1/4)



第44図 1022号溝5トレンチ出土土器実測図. 10 (1/4)

28.8cmを測る。290も頸部下に2条の突帯が貼付され胴部にも1条貼付される。291は肩部がやや張り、そこに最大径がある。頸部下には2条、胴部に1条三角突帯が貼付される。頸部が直立する。胴部最大径は27.4cmを測る。292は球形の胴部を持ち、頸部から急にすばまる。肩部付近に黒斑があり、底径6.2cmを測る。293の底面端部はやや丸味をおびている。胴部下位から底面端部にかけて煤が付着している。294は胴部から外底面中程まで黒斑がある。295の口縁部は頸部から直線的に開き端部は角を持つ。胴部には三角突帯が1条貼付される。内外面磨滅し器面調整は不明で復元口径15.2cmを測る。296は胴部から頸部へは緩やかに内湾したのち、口縁部へは緩やかに外反する。297の口縁は二次的に熱を受け煤が付着する。298～300はいずれも口縁が「く」字状に外反し、最大径が胴部にある。298の復元口径は28.8cm。299の頸部は胴部や口縁端部に比べ肥厚している。胴部外面には煤が付着している。300の口縁は短く端部付近で肥厚する。301・302の底面はやや上げ底である。301の内外面はともにハケ目が施されている。303の底面はやや凸状であり、胴部から底面端部へはやや内湾して至る。304の口縁は「く」字状に外反し、胴部中位に最大径があり、底部は平底である。外面胴部下位から底部にかけては煤が付着する。復元口径26.9cm、器高35.9cm、底径8.8cmを測る。305の頸部はわずかに屈曲し、頸部以下は急に内湾していく。306の底部は胴部に比べ小さく底面端部は丸味を持つ。胴部下位には突帯が貼付される。底面から突帯までは、擦過風にナデ上げられている。底面まで黒斑がある。底径6.1cmを測る。307は胴部から頸部にかけて一旦内湾したのち、口縁部で肥厚し外反する。底部付近には黒斑がある。口縁はかなり歪んでいる。復元口径16～19cm、底径7.6cm、器高17.0cmを測る。308・309の鉢はどちらも球形の胴部を持つ点では共通している。しかし、308の口縁端部は肥厚し底面は膨らみを持つ。外面胴部はハケ目、下位から底部はケズリ、内面はケズリのちナデによって仕上げられる。309の口縁端部は細く底部は完全な平底で内外面ともにナデによって仕上げられている。310は球形の胴部に対し、口縁は緩やかに外反し端部は角を持つ。胴部下位の外面は磨滅し調整は不明。311・312の鉢は口縁部の外反が少し異なる以外は器形に大きな差ない。どちらも工具による粗いナデによって器面調整が行われている。311は口径13.4cm、底径5.8cm、器高13.9cmを測り、茶褐色に焼成される。313は磨滅著しいが内面胴部にわずかにハケ目が観察できる。314の外面底部付近には粘土に紐のつぎ痕がある。315は器面調整が異なる以外は形態的に3トレンチ5層中の132資料に類似している。口縁部内外面はナデ、外面胴部以下はハケ目、内面はナデ。復元口径15.3cm、器高14.6cm、復元底径7.4cmを測り赤褐色に焼成される。316は復元底径7.8cm。317～321・323・324は小型の鉢で不明な320以外はみな平底である。器面調整は外面はハケ目やナデが主である。317は底部の作りは他より厚い。320の口縁部付近には工具による刺突文のようなものが施される。復元口径は14.4cmで茶褐色に焼成される。322は底面に1.3cm程度の穿孔がある。323のミチュアは形態的には3トレンチ4層の137に類似している。324は底部付近に張を持つ。325の支脚は頭部に1.5cm程度の穿孔がある。

326は受部の端部が内湾する。327はくびれ部から胴部は直線的で、裾部で大きく開く。328の受部、裾部の外反は大きい。329は手捏ね土器で器面は磨滅している。330の鋏先状の口縁の上縁には円形の粘土魂が貼付される。

331～339は焼土内より出土した。331は口頸部が直立気味に立ち上がり、口縁部は緩やかに屈曲する。口縁部内面には指頭圧痕がある。口径19.5cmを測る。332の口縁は大きく緩やかに外反している。内面頸部下はナデ押さえられている。333・334の口縁部はわずかに屈曲し、どちらも内面頸部下には工具痕が残されている。334の復元口径18.6cm、復元底径8.6cmを測る。335は311らと同じく内外面ともに工具で粗くナデられている。橙褐色に焼成される。336は胴部がやや開いて端部へ至る。335と同じく内外面ともに工具により粗くナデられる。口径17.0cm、底径5.7cm、器高12.8cmを測る。337の底面中央はやや膨らみを持つ。338は外面にもシボリ痕を残している。口径9.7cm、底径11.6cm、器高15.8cmを測る。339の手捏ね土器はナデが丁寧に行われ仕上げられている。

6 トレンチ (第45～50図340～403)

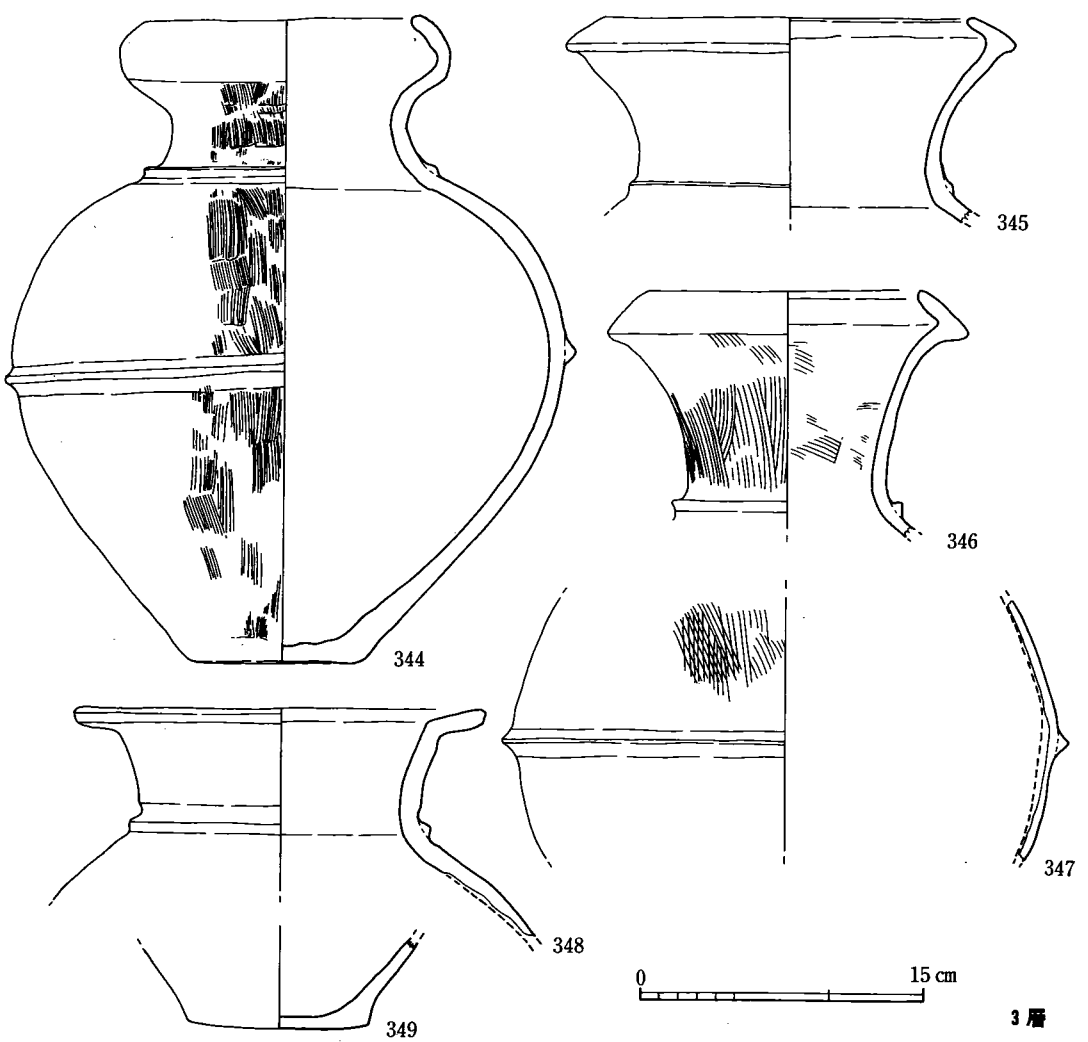
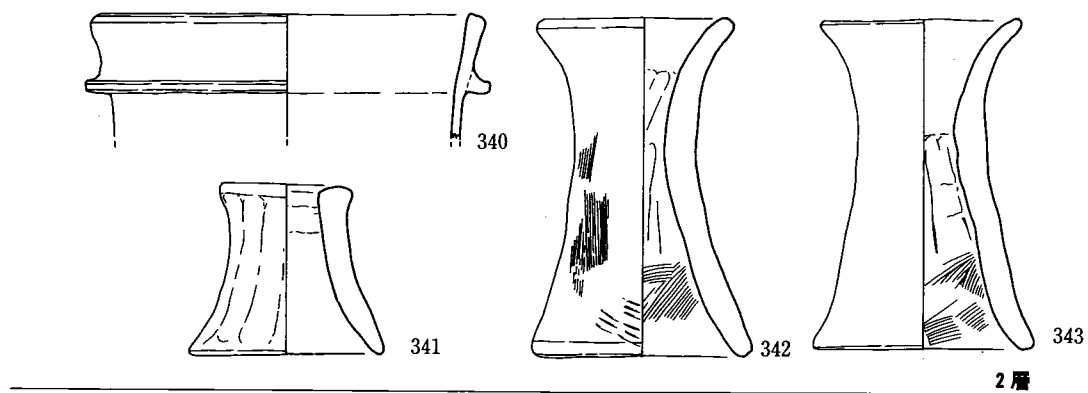
340～343は2層中より出土した。340の口縁部はほぼ直立に立ち上がり端部で肥厚する。1条の方形突帯が貼付される。341はくびれ部から裾部へは大きく開いて至る。342・343はくびれ部の屈曲する場所や器高などはほとんど変わらない。しかし、342の裾端部はやや肥厚する。また器面調整は343が磨滅著しく外面にハケ目が施されるのかは不明である。342の裾部には煤が付着している。

344～369は3層中より出土した。344の口縁は袋状で屈曲は緩やかである。頸部と胴部には突帯が貼付されている。頸部はくびれ、胴部は球形に張りを持つ。外面はハケ目が施されているが、底面端部までには至らない。内面はナデ。口径13.5cm、底径9.2cm、器高は34.4cmを測る。345は口縁屈折部に突出を持ち、端部へはやや内湾しながら至る。復元口径19.0cm。内外面磨滅により調整不明。頸部下に三角突帯が貼付される。346は屈折部に突出を持ち、頸部下には鋭い三角突帯が貼付される。347は大きく膨らむ胴部に三角突帯が貼付される。348は頸部から直線的に立ち上がり、口縁は大きく屈曲しやや上を向く平坦面を持つ。頸部は幅広い沈線状の凹部に鋭い三角突帯が貼付される。349は平底で磨滅し、器面調整は不明。350の壺の口縁は緩やかに外反し端部に至る。頸部から胴部にかけては緩やかに膨らみを持ち、底面はやや中央で張り出す。口径10.0cm、底径7.0cm、器高18.8cmを測る。351～358の甕の口縁は大きく「く」字状に外反する。351は口縁部内外面は横ナデされ胴部にはハケ目が施される。352の口縁端部はやや肥厚する。器面調整は磨滅により不明。353の復元口径は30.0cmを測る。354の胴部は球形で最大径は中位付近にある。復元口径は28.4cmを測る。355は内面頸部の屈曲部上に面を持つ。口縁端部は鋭く立ち上がる。356は復元口径21.0cmを測る。357は頸部で屈曲したのち、さらに折れて外反する。頸部から肩部にかけて張りを持つ。復元口径36.2cmを測る大型の甕である。358の

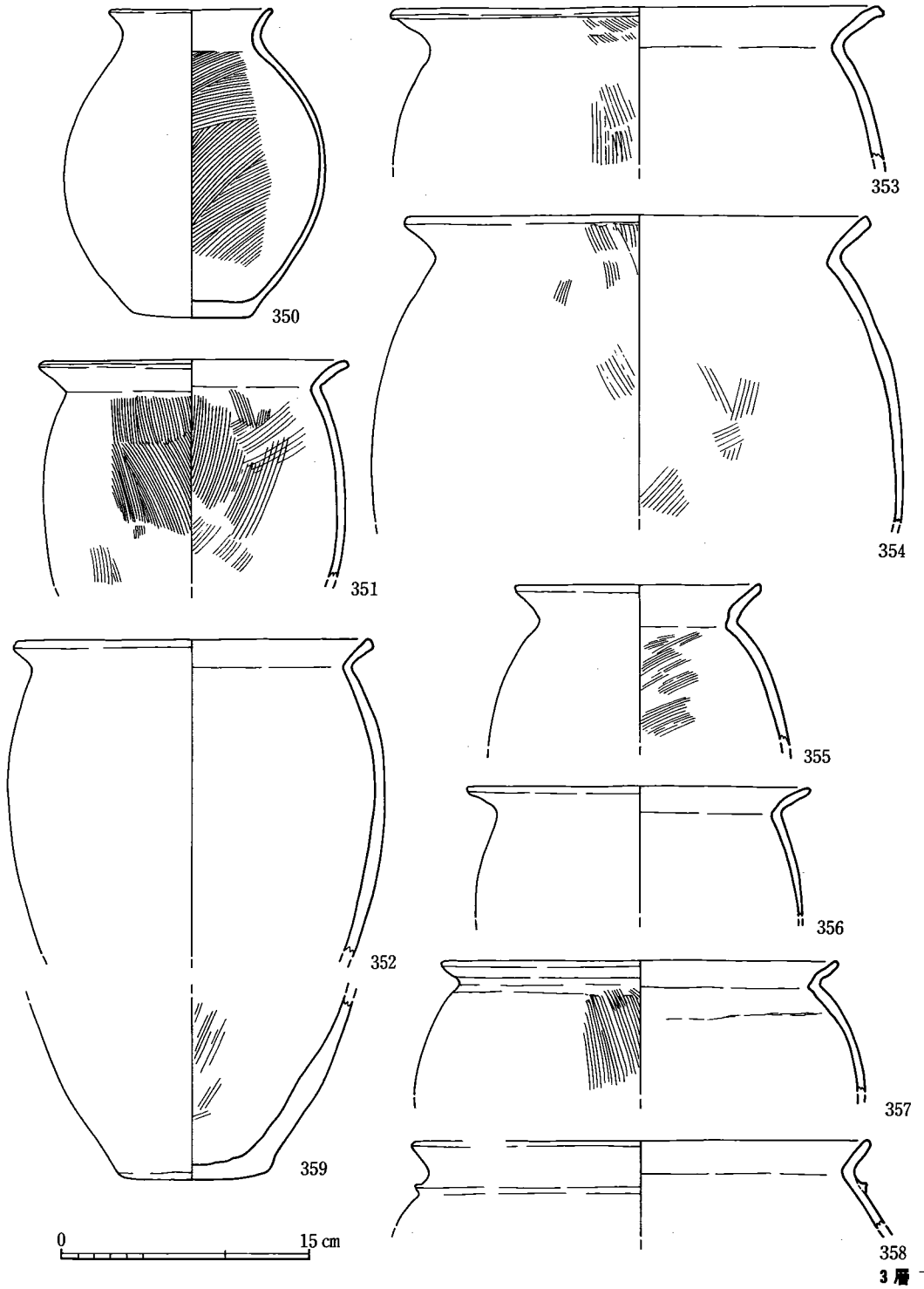
頸部から口縁端部への立ち上がりは直線的である。頸部下位に三角突帯が1条貼付される。復元口径42.0cmを測る。359の底面は凸レンズ状で底径9.0cm。360の鉢は底部から胴部にかけては直線的に平開き、そこからやや内湾しながら口縁端部に至る。端部は丁寧にナデられる。内外面ともにハケ目が施される。口径16.2cm、底径6.2cm、器高10.0cmを測る。361は底部から口縁端部へはより直線的に開く。362はやや小型で口径10.0cm、裾径10.9cm、器高11.5cmを測る。363の口縁は端部で肥厚し丁寧にナデられる。364はくびれ部から口縁端部へはラッパ状に開く。胴部外面にはわずかにハケ目が、内面には工具痕や粗いナデが観察される。365の裾端部はややふんばり気味で角を持つ。口径13.1cm、底径13.3cm、器高19.6cmを測り、器面は磨減きみであるが外面にはハケ目、内面にはナデが観察される。366は口縁からのくびれは急で、胴部から裾部にかけては柱状を呈し裾部は急に開く。367～369の手握ねはいずれも平底である。

370～386は4層中より出土した。370は復元口径18.0cmを測る。371の底部は平底で端部にやや丸みを持つ。内外面ともにハケ目が施される。372の口縁は頸部で「く」字状に屈曲したのち、端部へは緩やかに外反し至る。内面頸部の稜は鋭い。頸部から胴部中位にかけて膨らみを持ち、口縁端部へすばまって行く。底面はやや凸状である。口径39.0cm、底径9.4cm、器高35.8cmを測る。373～378は甕の口縁部片である。373の口縁は緩やかに外反し端部は角を持つ。胴部に最大径がある。374の口縁は長く、大きくバチ状に開く。復元口径26.4cmを測る。375の頸部の屈曲は弱い。376は大きくバチ状に開く口縁の頸部に鈍い三角突帯が貼付される。口縁端部は肥厚し復元口径38.0cmを測る。377は短く厚い口縁頸部にやや丸みを持った突帯が貼付される。復元口径44.0cmを測る。379はやや長胴で口縁は鋭く「く」字状に開く。外面は磨減し調整は不明で内面は頸部以下にハケ目が施される。口径15.3cm、底径6.9cm、器高18.9cmを測る。380の内底面付近は大きくナデられている。381の胴部は緩やかに内湾し、短い端部がわずかに開く。内外面とも工具によるナデが施される。382の胴部内外面はナデられ仕上げられているが凹凸が全面に残る。383のくびれは急で口縁へはラッパ状に開く。384は磨減著しく調整は不明。ただ、端部は丁寧にナデられている。385のミニチュアは胴部に三角突帯が貼付される。386の頭部は大きく肥厚し中央に径2cm未満の穿孔がある。

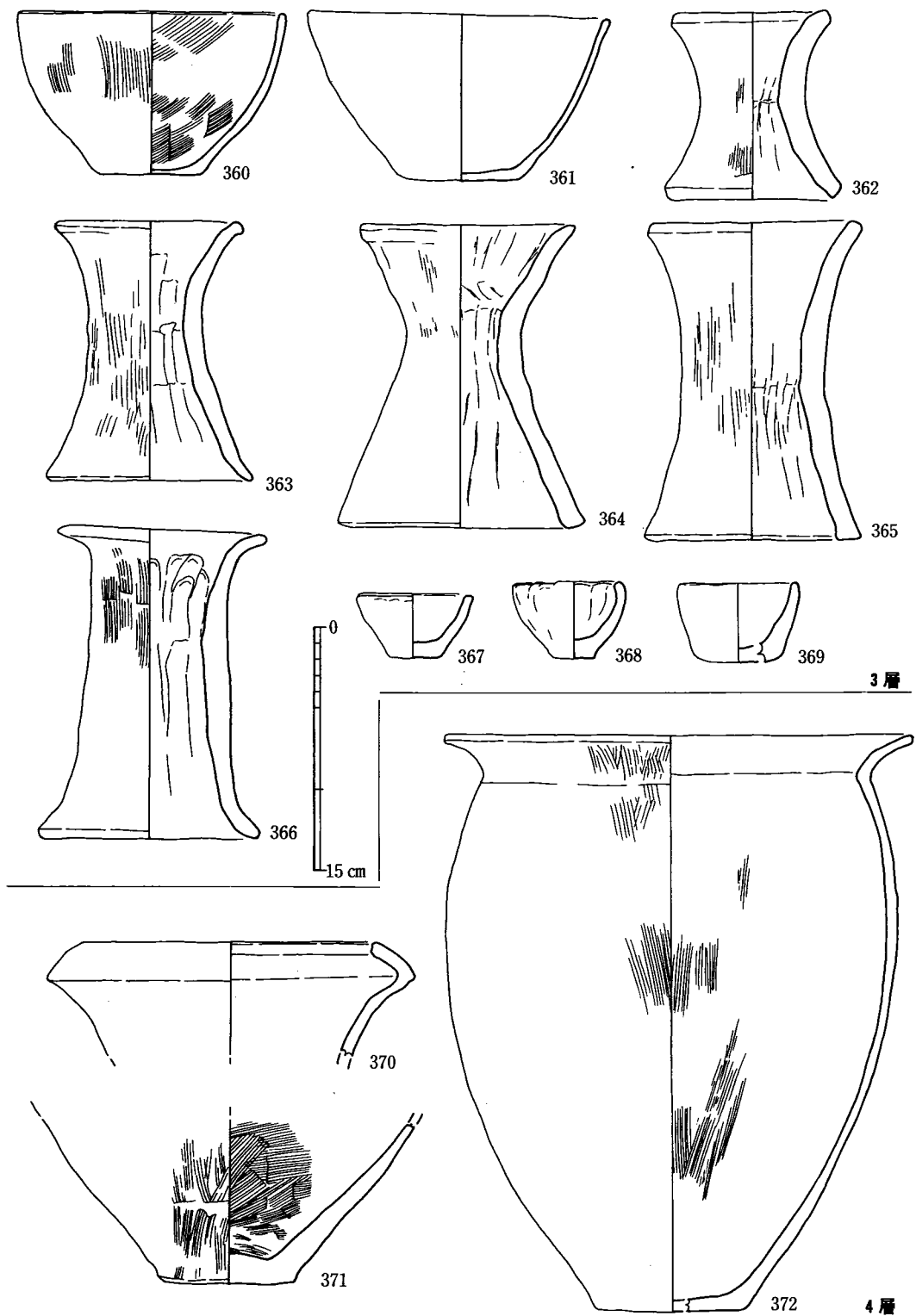
387～403は5層中からの出土である。387の口頸部は比較的長く、口縁の屈曲は緩やかである。頸部に貼付される突帯は偏平に近い。388は直立気味に立ち上がった口頸部から屈折部をへて外反する。屈折部内面は突出している。頸部には鋭い三角突帯が2条貼付される。389は口縁部下位に丁寧なハケ目が施される。復元口径は15.4cmを測る。390の頸部下には不明瞭な突帯が2条貼付される。391は底面から球形に膨らむ胴部をへて、端部へ至る。胴部には鋭い三角突帯が貼付される。口径9.9cm、底径7.4cm、器高15.3cmを測る。392の底径は10.2cmを測る。393の底部はやや凸気味である。394～397はいずれも口縁が「く」字状に外反する。器面磨減著しい397以外は程度の差はあれ、ハケ目がほどこされる。394の底部は端部に丸みをおびる。398は復



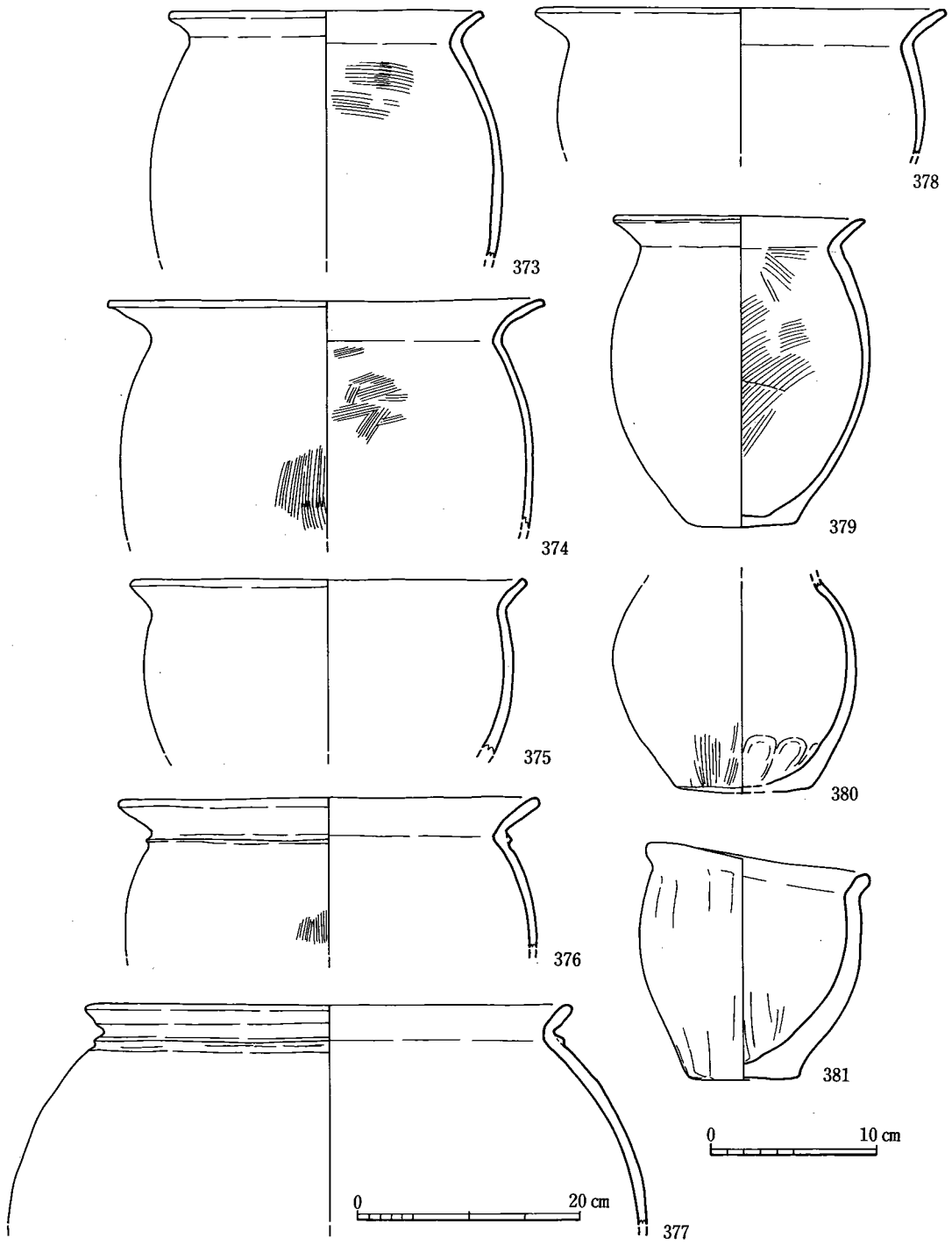
第45図 1022号溝6トレンチ出土土器実測図。1 (1/4)



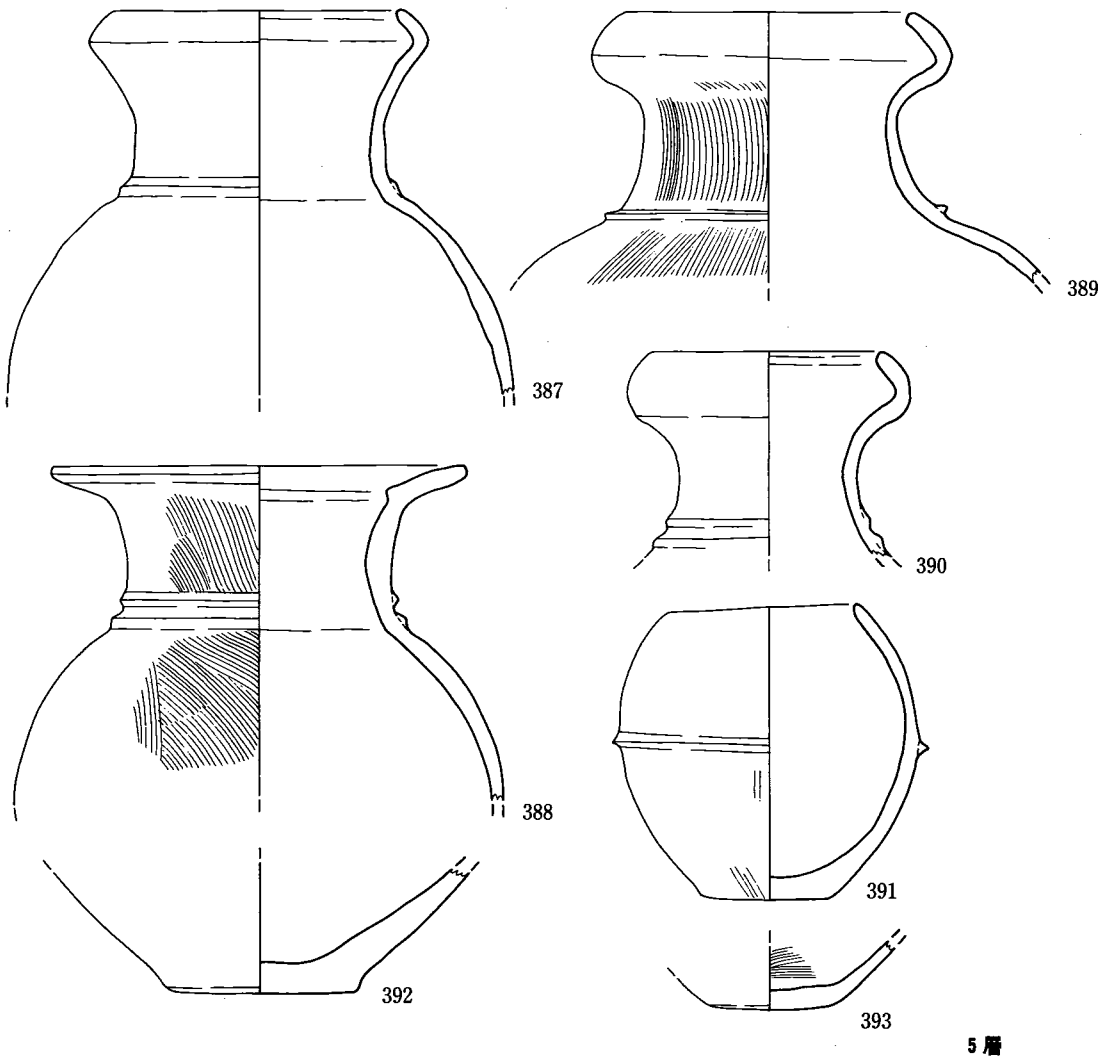
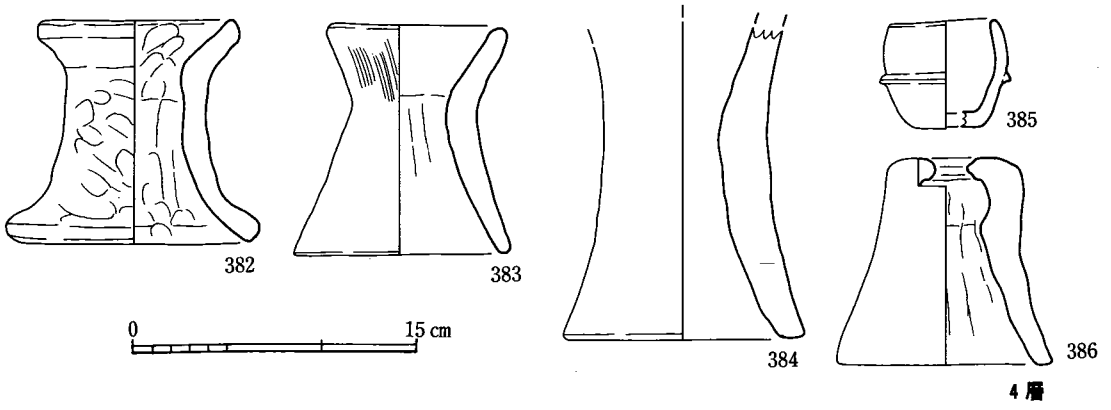
第46図 1022号溝6トレンチ出土土器実測図. 2 (1/4)



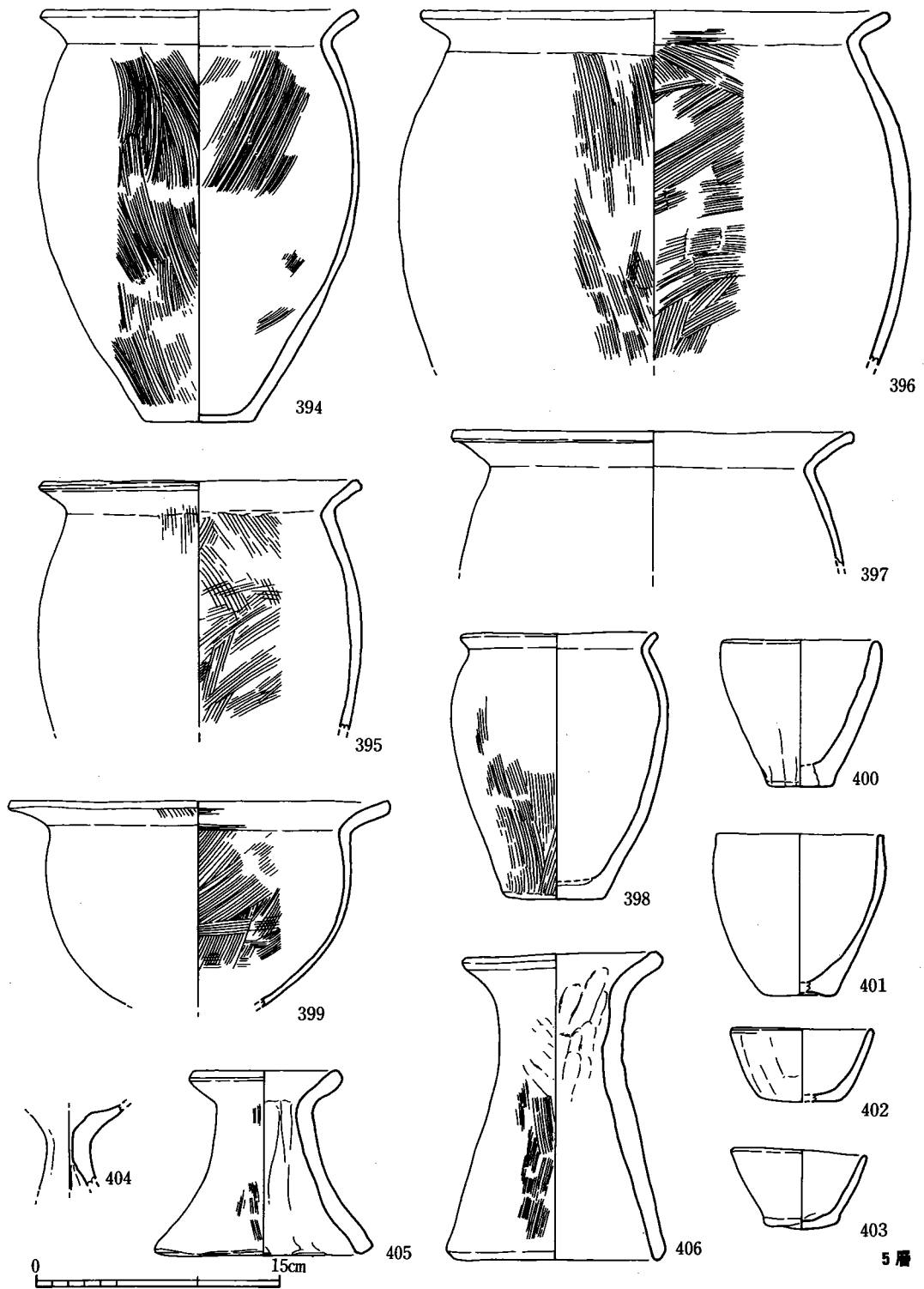
第47図 1022号溝6トレンチ出土土器実測図, 3 (1/4)



第48図 1022号溝6トレンチ出土土器実測図. 4 (1/4 376・377は1/6)



第49図 1022号溝6トレンチ出土土器実測図. 5 (1/4)



第50図 1022号溝6トレンチ出土土器実測図. 6 (1/4)

元口径12.2cm、底径6.6cm、器高16.5cmを測る。外面には黒斑がある。399の胴部の器厚は薄く頸部から端部にかけて急に肥厚する。400は小型の鉢で底部から口縁端部へはほぼ直線的に至る。401の胴部は内湾し口縁端部に向かうにつれ直立する。402は平底、403はやや凸状の底部を持つ。404は器面の磨滅著しい。405のくびれは急なため、口縁は大きく外側に開く。406の外面にはシボリ痕が確認され、内面はナデ。裾端部は細く丁寧である。

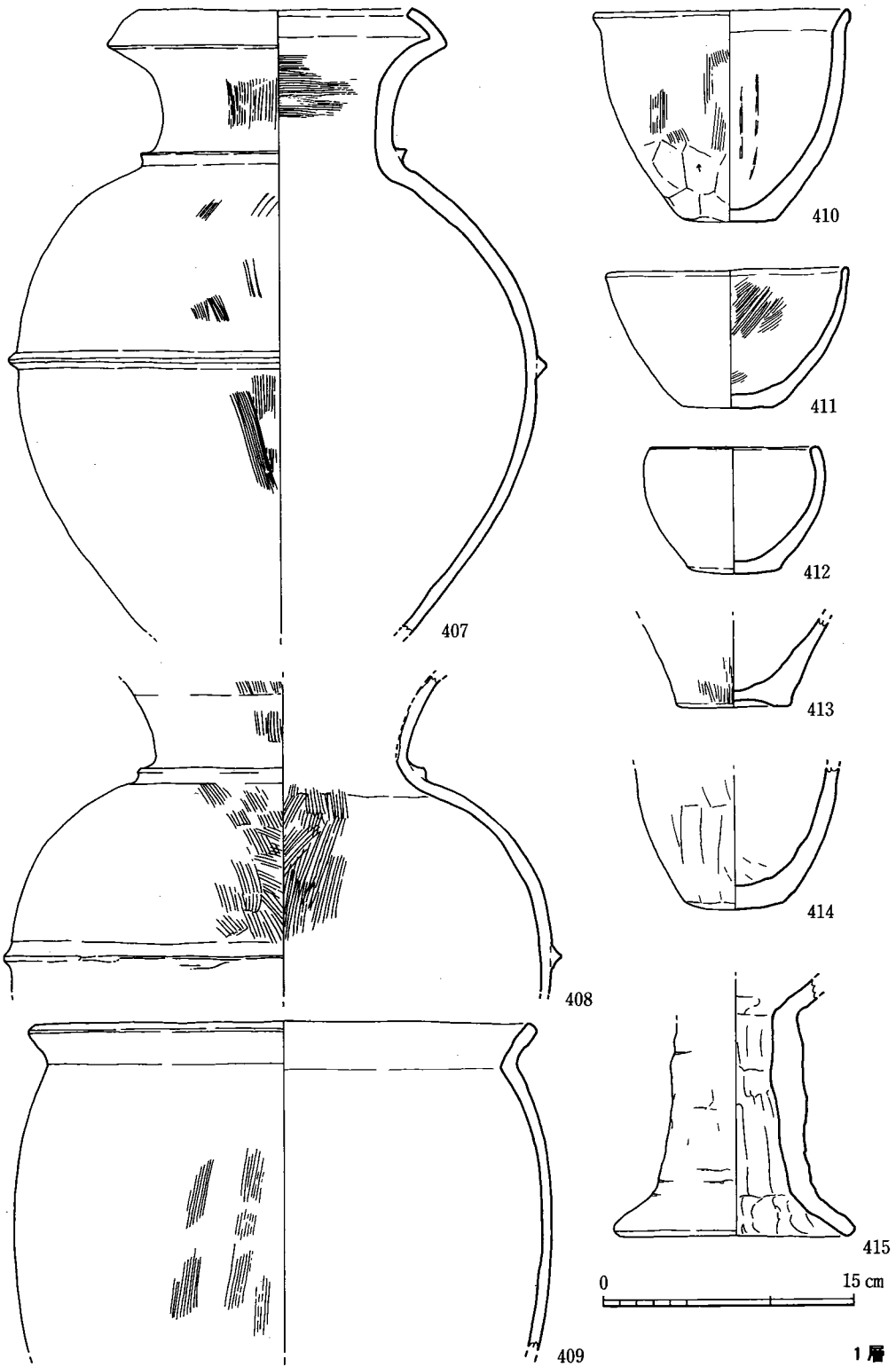
8 トレンチ (第51～57図407～481)

407～426は1・2層中からの出土である。407は口縁の屈曲が鋭く、端部は細く角を持つ。頸部下と胴部に三角突帯が貼付される。内面口頸部は横方向のハケ目が施されている。408は胴部が球形に張り頸部と胴部中位に三角突帯が貼付される。胴部は内外面ともハケ目が施されている。409は復元口径30.4cmを測る。410～412は中・小型の鉢でいずれも平底である。410の口縁はわずかに屈曲し端部はすばまる。外面底部付近の調整は粗くケズリ風である。底部付近には黒斑がある。413の底部は上げ底で底面端部はやや丸味を持つ。414の底面は端部で丸味を持ち、胴部は内外面ともに工具によるナデ。415の外面は磨滅著しいが、所々工具痕が認められる。内面裾部付近には指頭圧痕が残される。416の裾径は15.2cmを測る。417・418の底部は丸味をもつ。419は胴部に2条突帯が貼付されるが、両者の境は明瞭ではない。420は無頸壺で端部は角を持つ。球形の胴部中位には2条の三角突帯が貼付され、底部はやや凸気味である。復元口径10.4cm、底径8.3cmを測る。421・422の口縁はいずれも「く」字状に折れる。421は磨滅著しく調整不明。422の頸部付近のハケ目は横ナデにより切られる。423の器面は凹凸が激しい。424は口縁部がやや内湾し端部がわずかに肥厚して立ち上がる。内外面口縁部は横ナデ、外面頸部は縦方向の粗いナデ、内面は横ナデによって仕上げられている。口径11.3cm、底径6.5cm、器高9.2cmを測る。425の胴部は内外面とも縦方向のナデによって仕上げられ、端部付近は横ナデされている。426の手捏ねの口縁はゆがんでいる。

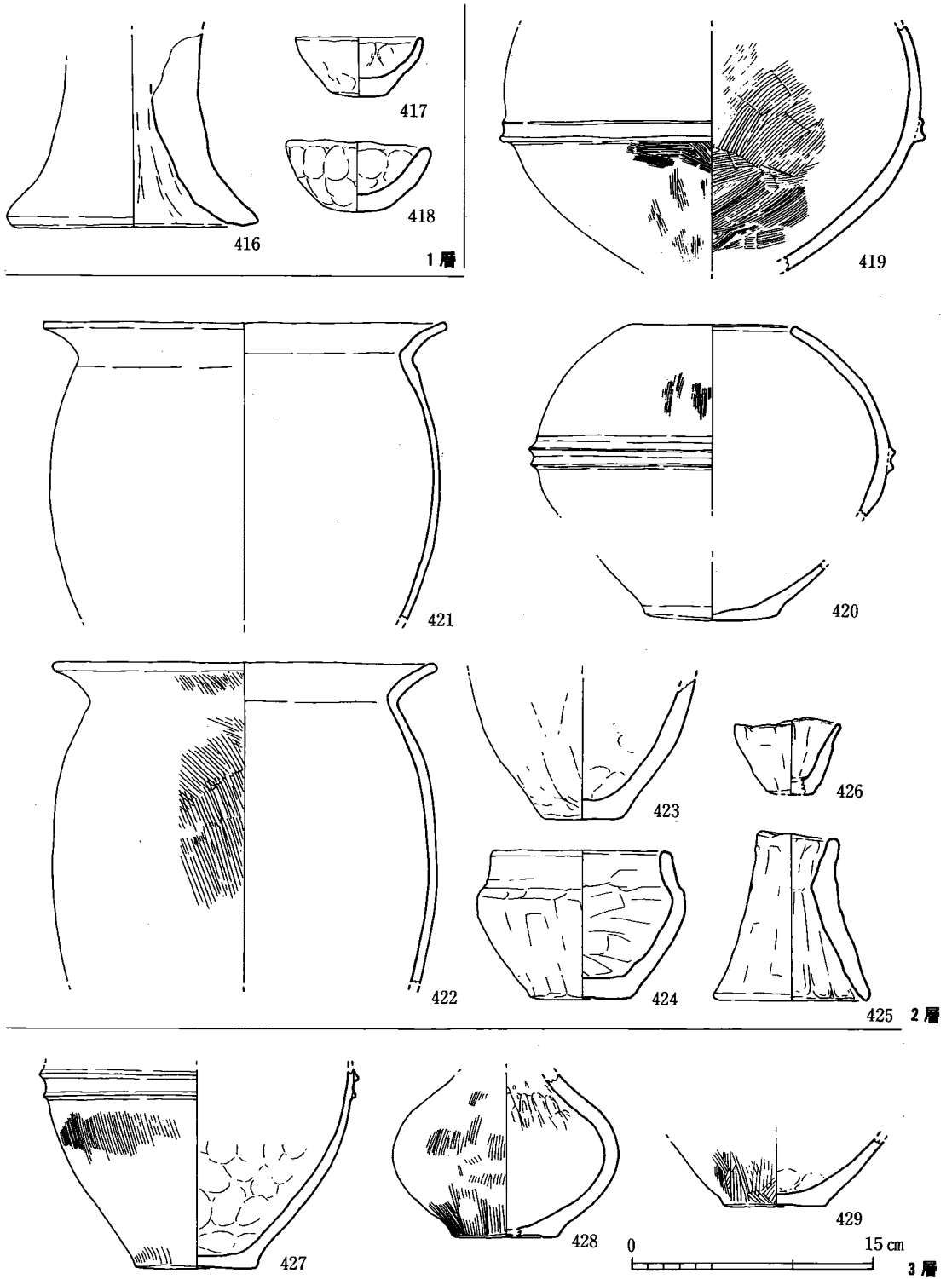
427～442は3層中の出土である。427は胴部に2条の三角突帯が貼付され、底部はややあげ底である。内面底部には指頭圧痕が残り、底径7.6cmを測る。428は胴部下位に最大径があり、底部はやや上げ底。内面頸部付近には、シボリ痕が残る。429もやや上げ底で底径6.4cmを測る。430～433・435の甕はいずれも口縁が「く」字状に外反する。430は頸部から口縁端部にかけて肥厚する。頸部下位は外面は縦、内面は横方向のハケ目が施される。復元口径28.0cmを測る。431は口縁の屈曲は鋭く端部はさらに外反する。432の復元口径は22.0cm。433は口縁は緩やかに大きく外反する。434は底部付近に加熱のため赤変化が認められる。435は頸部以下が肥厚する。436は外面頸部下位には強いナデにより稜が入る。437の口縁は直立気味でわずかに外反する。全体に器面は磨滅している。438の口縁部は「く」字状に屈曲するが、全体に器厚が厚いため鋭く外反しない。端部は角を持つ。外面頸部下位にはナデにより稜がつく。439・440は球形の胴部に短い口縁が鋭く屈曲する。439の胴部は外面はハケ目のちにミガキが、内面は指頭圧痕が残

る。440は外面ミガキ、内面は口縁部から頸部がミガキで以下はナデ。441のミニチュアは磨滅し調整は不明。442も器面は磨滅気味だが指頭圧痕が残る。

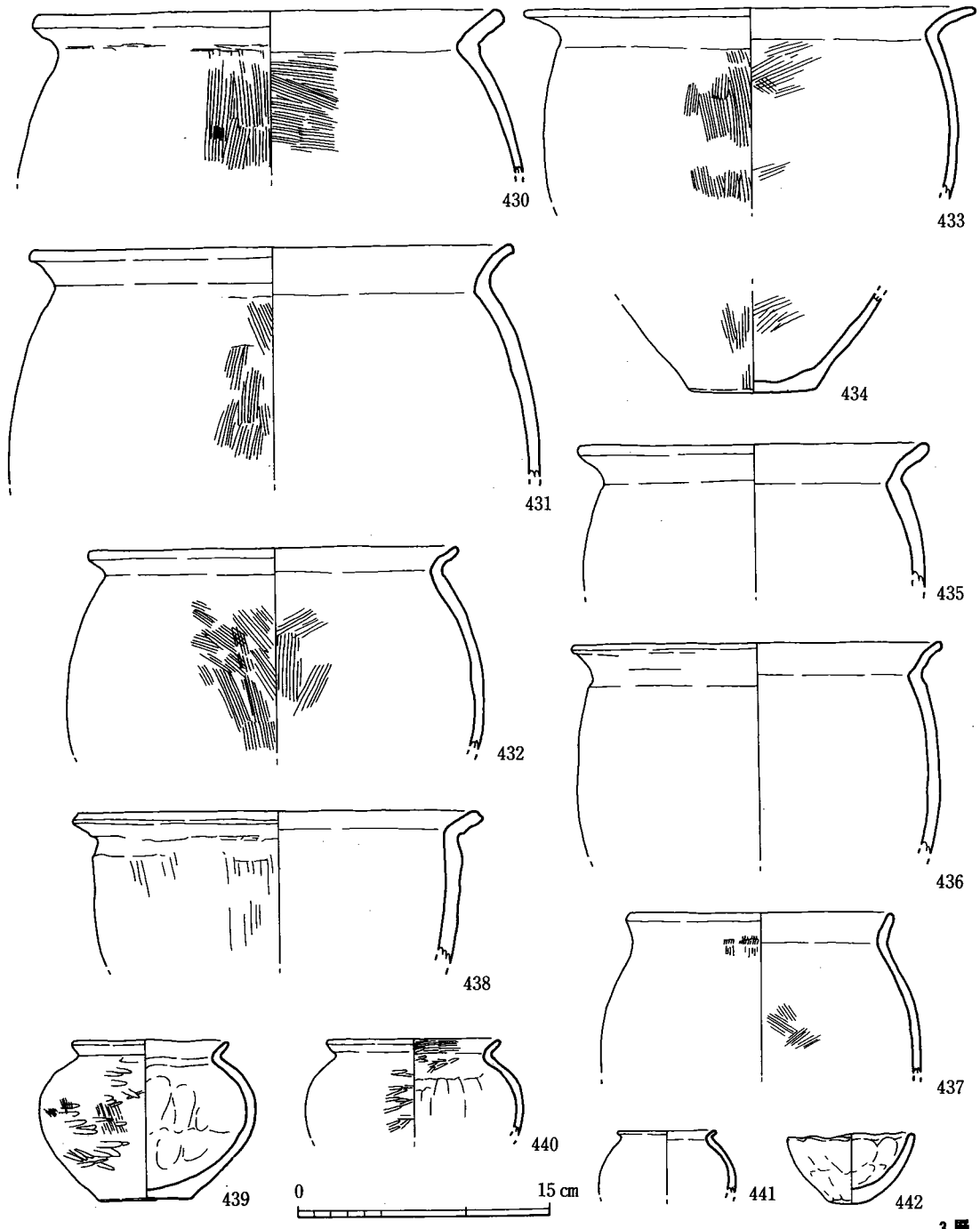
443～479は4層中より出土した。443の口縁は頸部より外反しながら大きく開く。頸部には三角突帯が1条貼付されその下位には黒斑が残される。底部は平底である。口径20.3cm、底径8.8cmを測る。444の口縁の屈曲は弱く端部は丸味を持つ。底部は完全な平底で、端部付近には黒斑が残る。445～447は複合口縁で、445の口縁部は肥厚し端部にかけて細くなる。内面には指頭圧痕が残される。復元口径21.0cmを測る。446は屈折部内面には鋭く稜を持つ。447は口頸部は長く器厚もそう厚くなくスマートである。頸部にはわずかに三角突帯が貼付される。448は口縁の屈曲は弱く袋状である。復元口径は10.6cmを測る。449は底部から胴部への立ち上がりは均等な膨らみを持たずやや歪む。底面端部は無造作にナデられて丸味を持つ。底径は11.3cmを測る。450は底径8.0cmを測る。451は上げ底でハケ目は底面端部まで及ぶ。452～462の甕は口縁が「く」字状に屈曲する452・453・455・460・462・465と、やや立ち気味に外反する456・457と、大きく逆「L」字に外反するもの458・459・461の3つに大きく分かれる。452は胴部が球形に張り底部は平底で胴部付近に黒斑がある。453は口径37.8cm。454は角度がなく外反する口縁はやや肥厚し端部で丸味を持つ。底部は完全な平底で端部までハケ目が施される。口径24.1cm、底径9.9cm、器高31.5cmを測る。455は内面頸部は丸味を持ちつつも鋭い。復元口径10.0cm。458は口縁は直角に近く折れ、端部は肥厚している。屈折部には工具痕が残る。459は復元口径27.4cmを測る。460の頸部は内面では屈曲する稜を持つがかなり肥厚している。461は鋤先口縁で器面は丹塗され、口縁上面には暗文が施されている。復元口径は35.2cmを測る。462は全体に器厚は厚く、端部はさらに肥厚している。口縁部は内外面ともに横ナデされ、内面の一部には横方向のハケ目を残す。内外面胴部はハケ目が施され、外面頸部には工具痕が残る。463の底面端部はシャープだが、464はやや丸味を持つ。465は肥厚する胴部に短く細い口縁が取り付けわずかに外反する。外面胴部は工具によるナデのためか調整は粗い。復元口径19.6cmを測り、茶褐色に焼成される。466・467は胴部が直立し、わずかに口縁が外反する。468は球形の胴部に短い口縁が「く」字状に折れて取りつく。磨滅により調整は不明。469の胴部内面には横位のハケ目が施され、内底面には指頭圧痕が残る。470は胴部上位に張りを持ち、口縁は長く「く」字状に外反する。底部は大きな平底である。胴部下位にハケ目が観察される。復元口径22cm、底径9.0cm、器高12.9cmを測る。471は胴部の張りが中位にあり口縁の屈曲も470に比べ鋭くない。底面端部に丸味を持ち、胴部から底部にかけて黒斑が観察される。472の内面には丁寧なハケ目が施されている。473～478は中小型の鉢である。473は平底で球形の厚い胴部に短く小さな口縁が外反して取りつく。口径11.1cm、底径7.5cm、器高11.1cmを測る。474は底径6.4cmを測る。475～478はいずれも平底で口縁端部へは直線的に開いて至る。475は底径と口径の差はそう大きくない。479の器台は大きく開く口縁から3cm位下位の所で一旦くびれ裾端部へは直線的に開いて至る。受



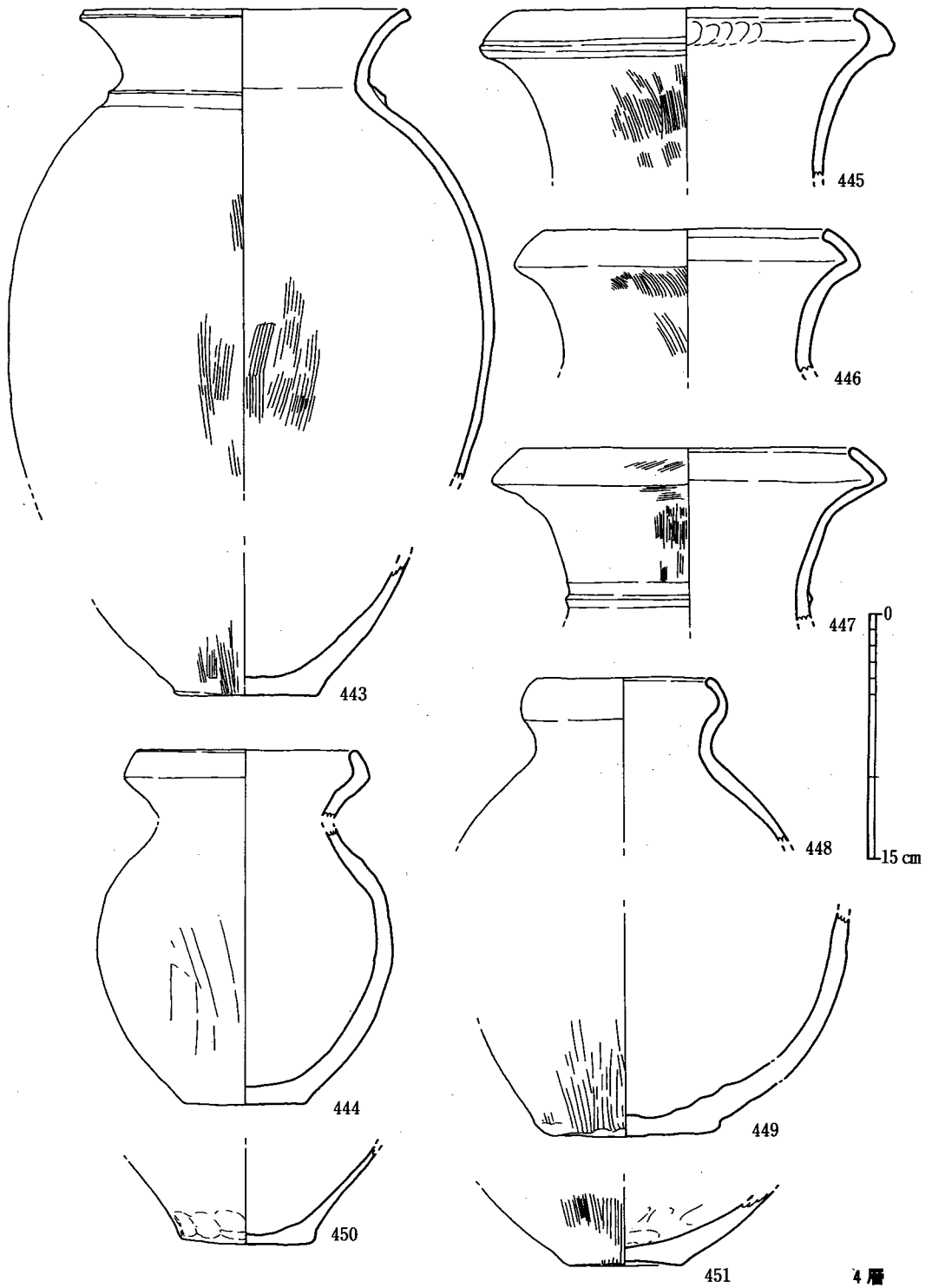
第51図 1022号溝 8 トレンチ出土土器実測図. 1 (1/4)



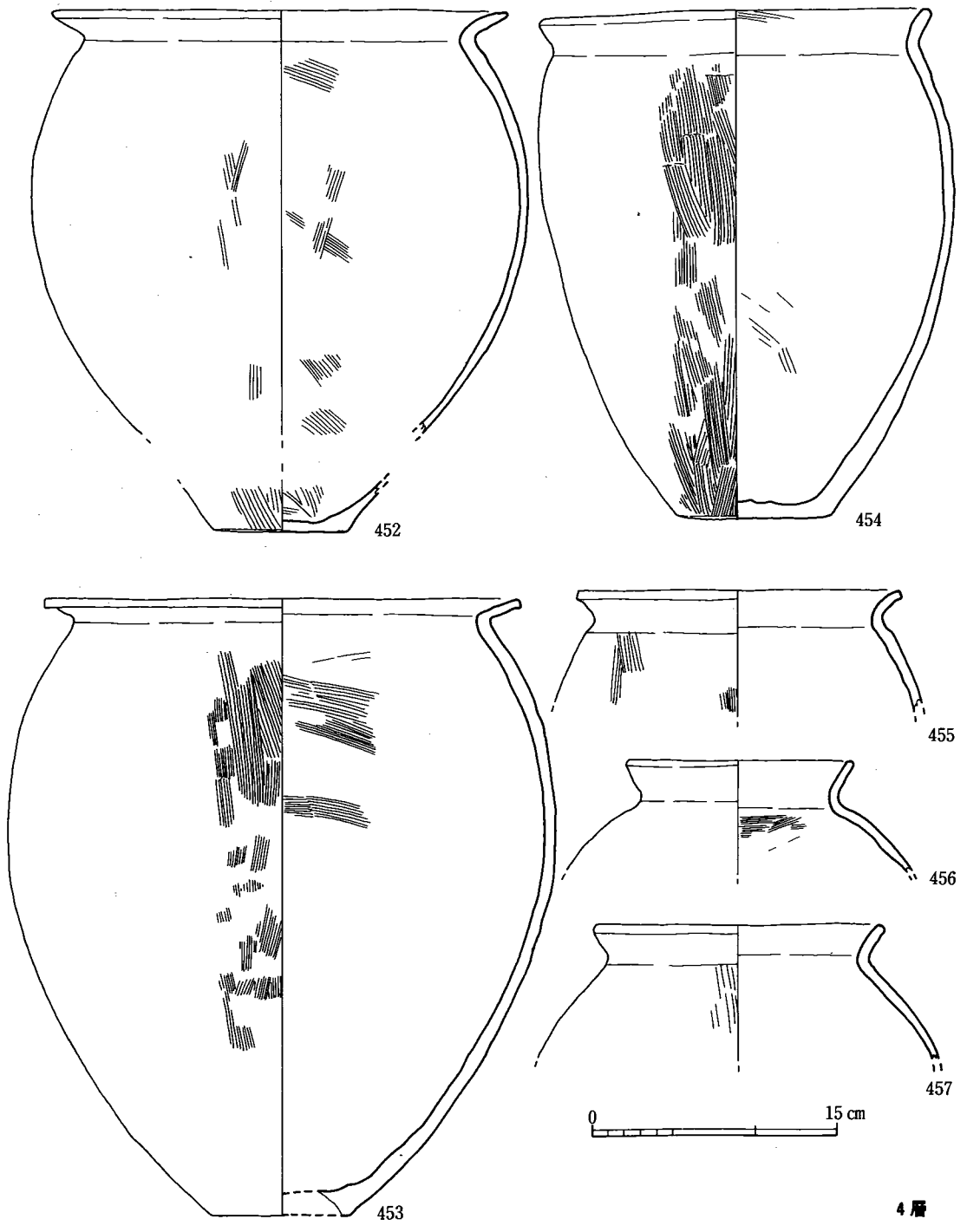
第52図 1022号溝8トレンチ出土土器実測図。2 (1/4)



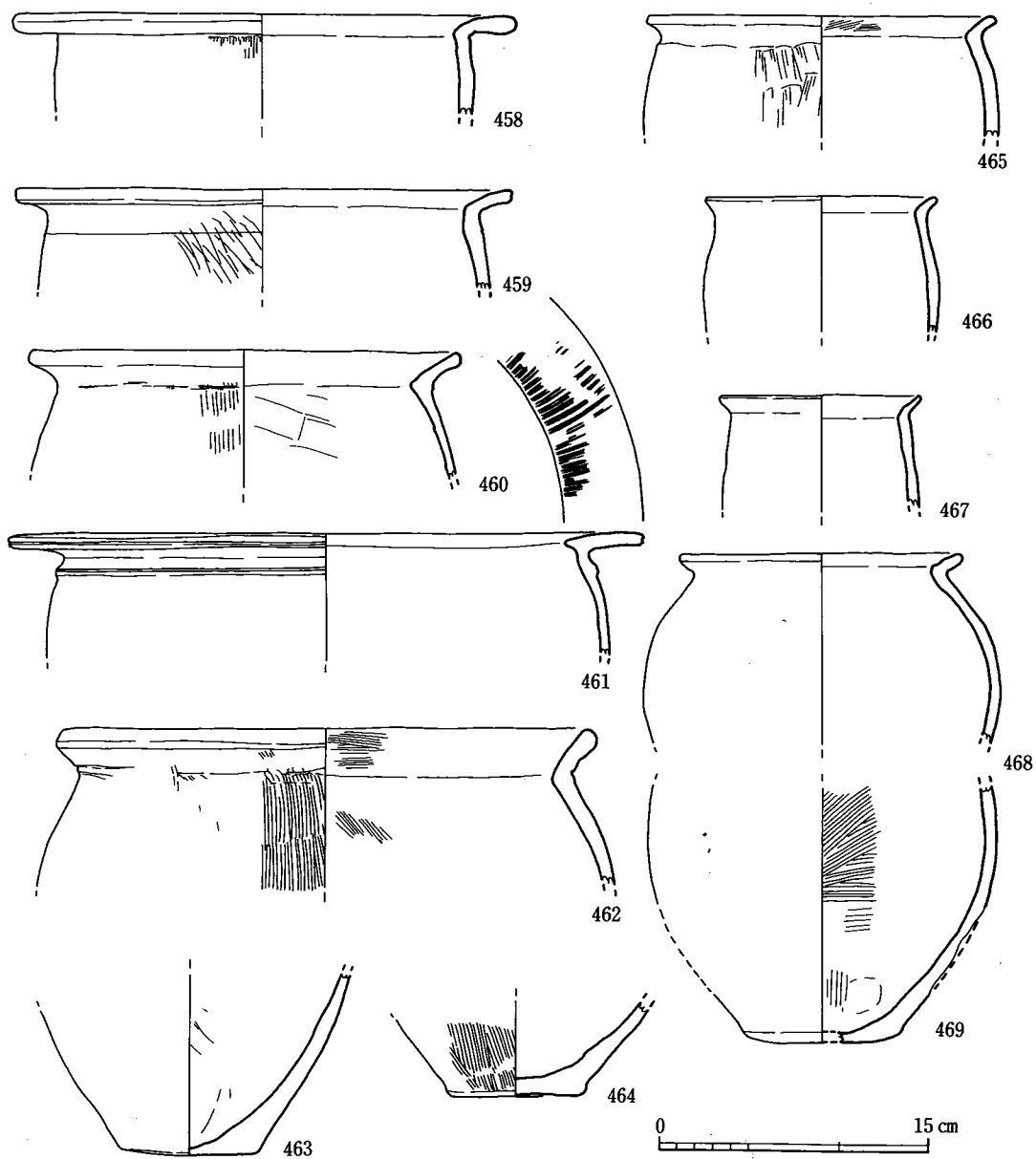
第53図 1022号溝8トレンチ出土土器実測図。 3 (1/4)



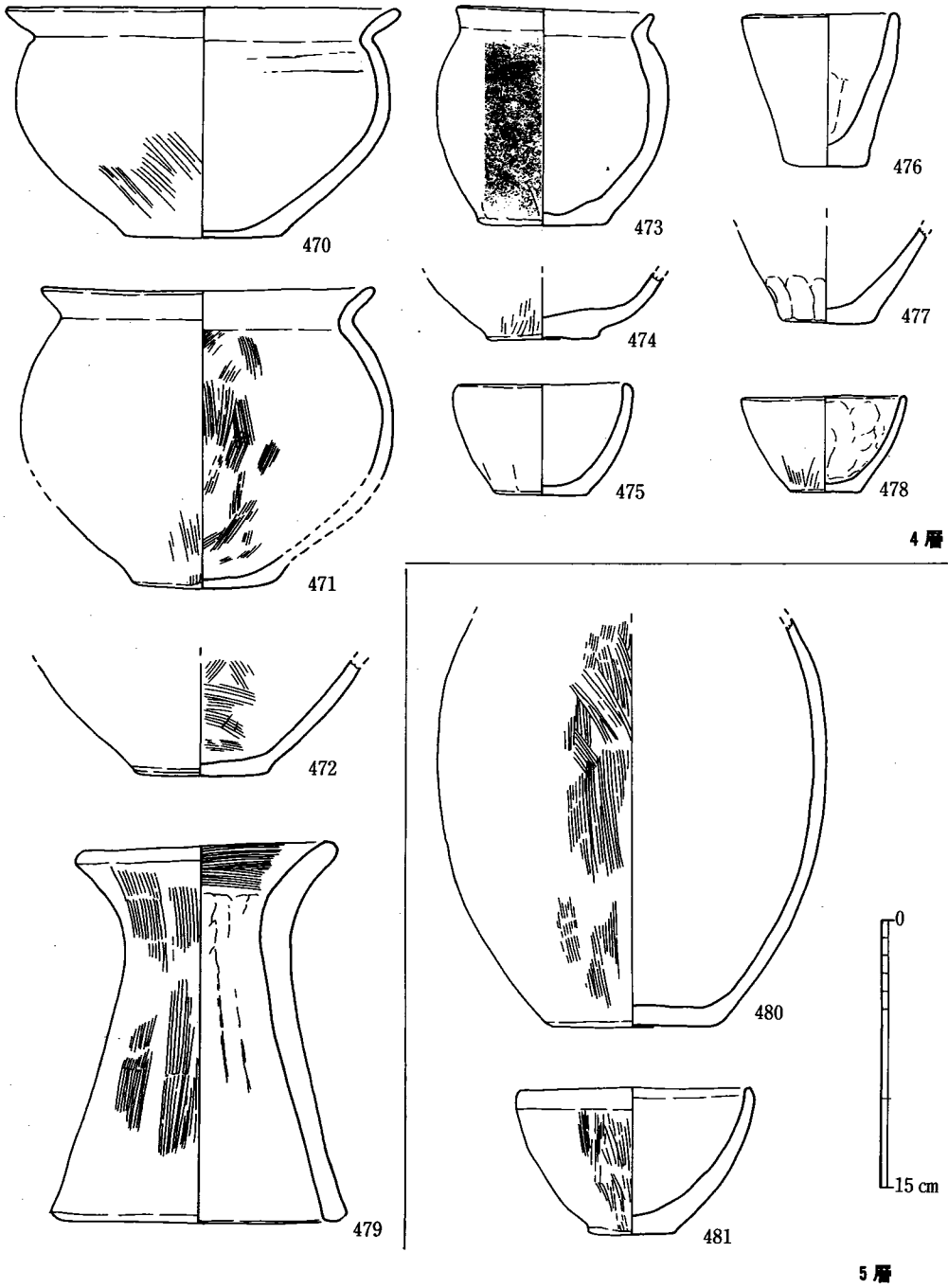
第54図 1022号溝 8 トレンチ出土土器実測図。 4 (1/4)



第55図 1022号溝8トレンチ出土土器実測図. 5 (1/4)



第56図 1022号溝 8 トレンチ出土土器実測図. 6 (1/4)



第57図 1022号溝 8 トレンチ出土土器実測図。 7 (1/4)

部内面の横方向のハケ目は丁寧に施される。口径14.5cm、底径16.4、器高21.4cmを測る。

480・481は5層中より出土した。480の底面はやや上げ底で胴部には黒斑が残る。481の底部は胴部下位から底部にかけてのナデによりやや台状に作出されている。

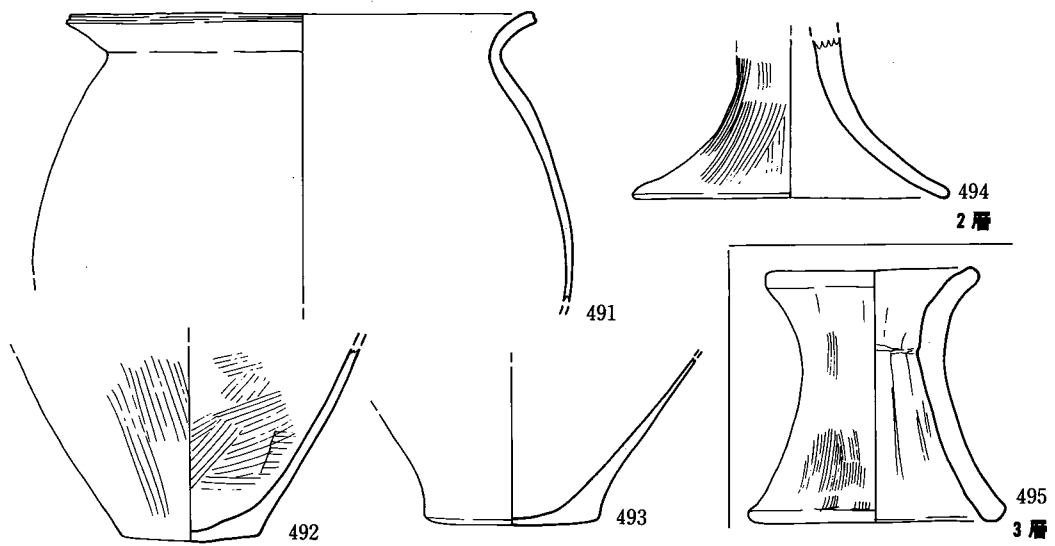
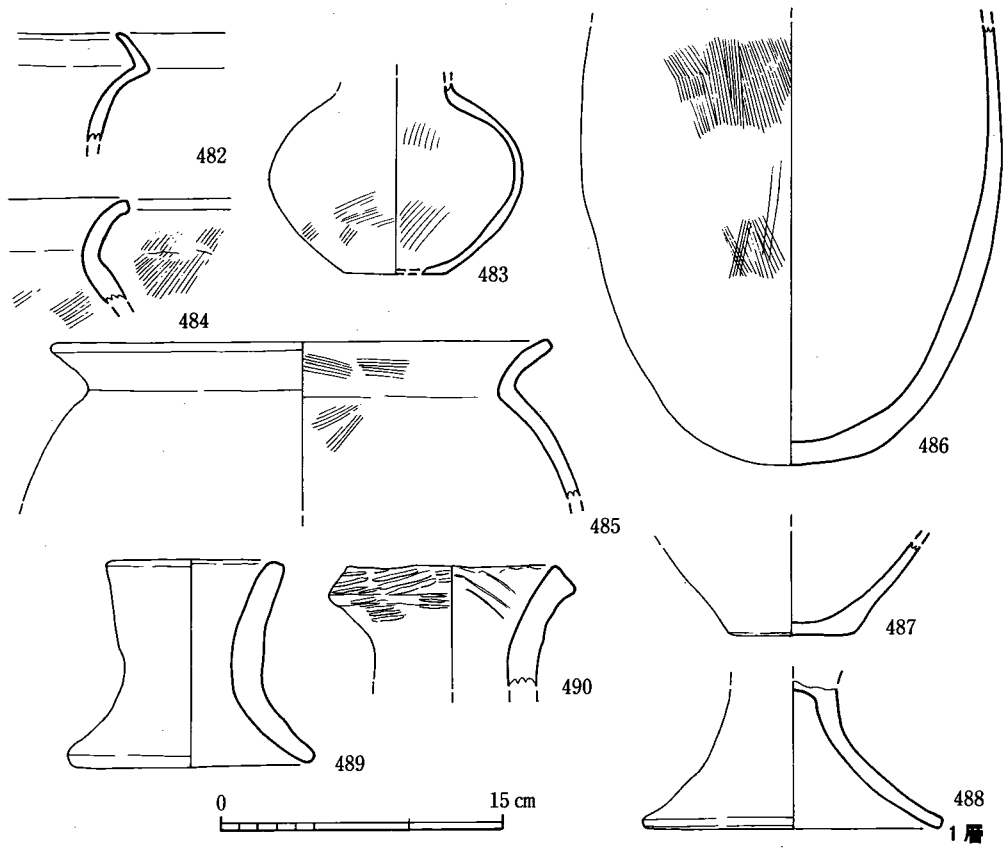
9 トレンチ (第58・59図482~507)

482~495は1~3層中より出土している。482の口縁屈折部は鋭く内外面の稜は明瞭である。483は胴部中位に膨らみを持ち底面は平底で端部の稜もシャープである。484の内外面には丁寧なハケ目が施されている。485の口縁は「く」字状に屈曲し、端部は角を持つ。内面口縁部と頸部下にハケ目が施され、復元口径26.4cmを測る。485は内外面磨滅著しく調整は不明。486の胴部は長く、底部は丸底である。器面は磨滅気味で全体の調整は判らないが、胴部外面にはハケ目がわずかに観察される。487は底径6.8cm。488は器面の磨滅著しく調整不明。489は口縁からくびれ部へは長く直線的で裾部の広がりは急である。490の口縁は大きく外反し端部が外を向く。外面にはタタキ、内面には工具痕が残る。491は、内外面ともに磨滅著しい。492の底面はやや凸気味で、内外面ともにハケ目が施される。493の底面端部はやや丸みを持つ。494の裾部復元径は14.8cmを測る。495は口縁部と裾部が丁寧なナデ、胴部外面はハケ目、内面はナデにより仕上げられる。口径11.3cm、裾径13.7cm、器高13.4cmを測る。

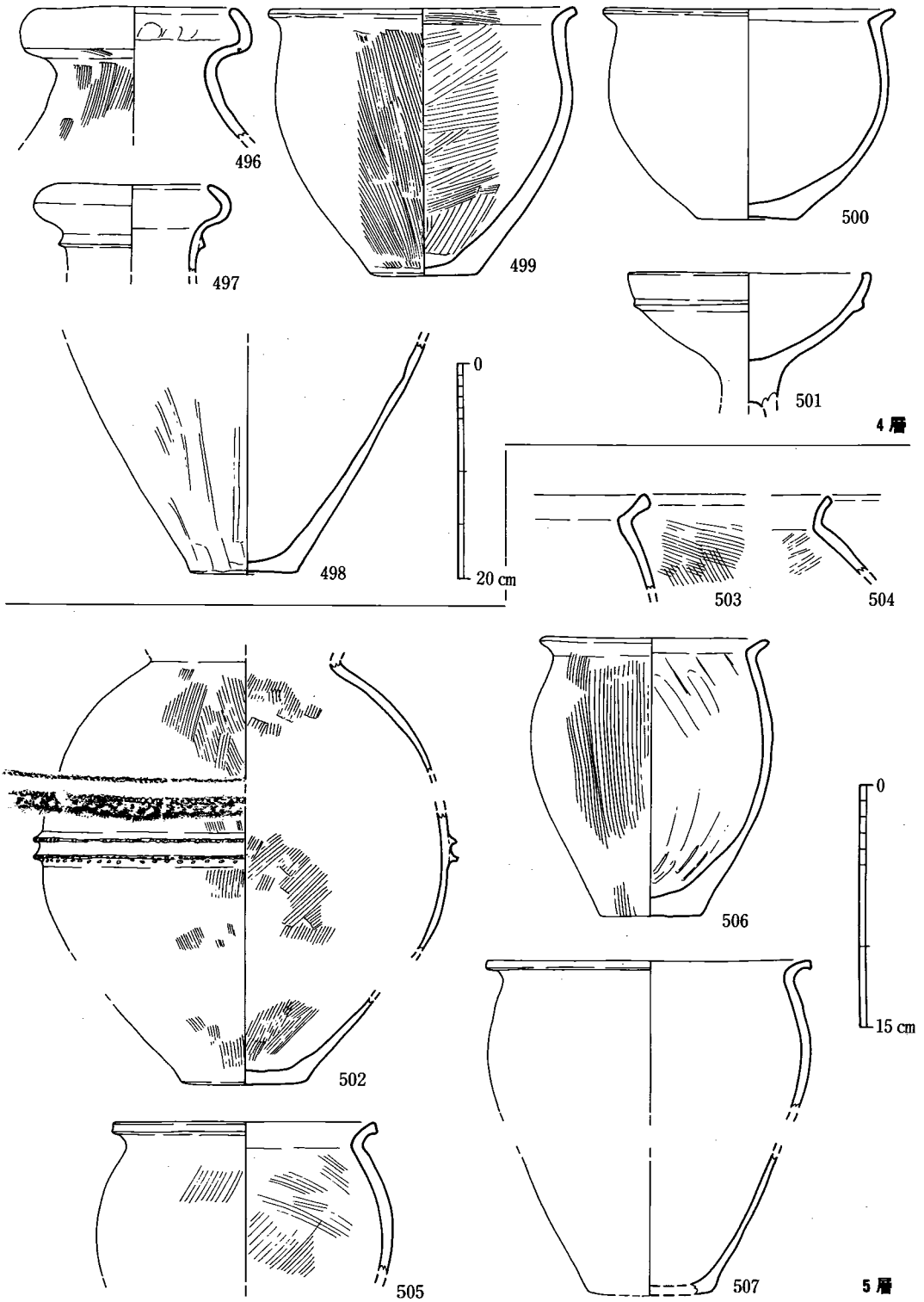
496~507は4層・5層中からの出土である。496は袋状口縁壺で口縁の屈曲は弱く、頸部以下は大きく開く。外面頸部下位にハケ目が施され、内面端部付近には指頭圧痕が残る。口径11.9cmを測る。497は口頸部下に三角突帯が1条貼付される。498は底部から胴部にかけて工具によりナデられる。499と500の口縁は「く」字状に外反する。499は500に比べ口縁の屈曲は緩やかで、胴部の張りも小さく器高も高い。頸部以下は内外面ともにハケ目が施されている。復元口径19.0cm、底径6.6cm、器高16.5cmを測る。500は球形の胴部に「く」字状に折れる短い口縁が取りつき、底部は上げ底となる。胴部から底部付近に黒斑がある。501の高杯は杯部中位に三角突帯が1条貼付され、復元口径15.0cmを測る。502は大きな球形の胴部に刻み目の入る三角突帯が2条貼付される。内外面ともにハケ目が施される。底径11.4cmを測る。505は端部がやや肥厚し、胴部は球形である。復元口径16.4cmを測る。506は口縁が短くやや厚い。胴部中位に最大径があり、底部は平底である。胴部外面はハケ目、内面はナデによって仕上げられ、頸部下と底面には工具痕が残る。口径14.4cm、底径6.3cm、器高17.2cmを測る。507の口縁は外反し端部が大きく反る。また、端部はわずかに肥厚している。器面調整は不明。

10 トレンチ (第60図508~522)

508~516は1~3層中の出土である。508・509の器厚は薄く、510の口縁は「く」字状に屈曲するが端部が肥厚し鋭くない。511の器厚は薄くほぼ均等で復元口径は18.0cm。512は完全な平底で底面端部は鋭い。513の胴部は球形で現存する限り突帯が8条貼付される。514は手捏ね土器で底部は平底である。胴部には煤が付着する。515の口縁の屈曲は丸いが急である。516の底



第58図 1022号溝9トレンチ出土土器実測図. 1 (1/4)



第59図 1022号溝9トレンチ出土土器実測図。2 (1/4 498・502は1/6)

径は7.7cmで底面端部は丸味をもつ。

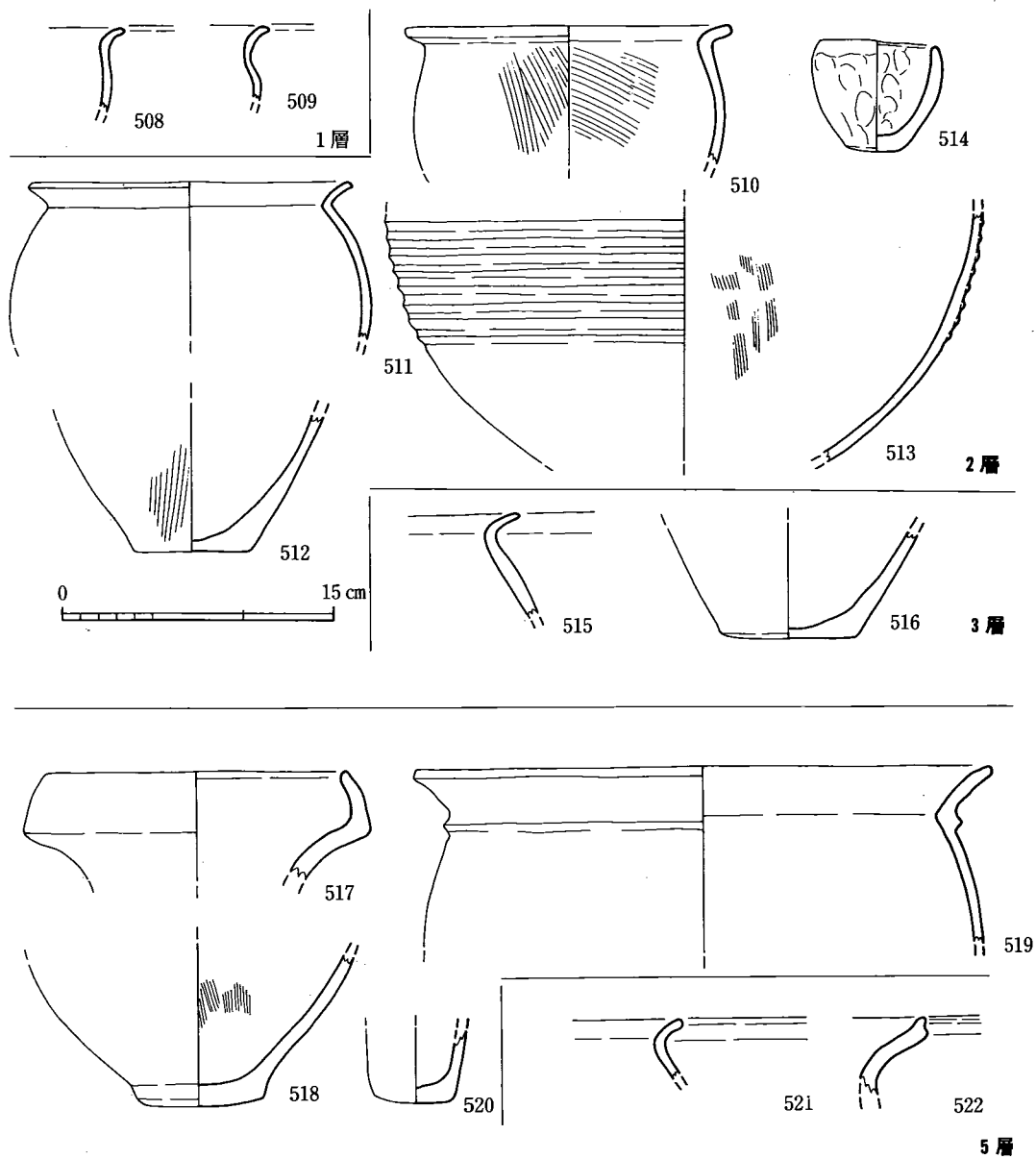
517～522は4・5層中の出土である。517の口縁の屈曲は弱く屈折部もハッキリしない。518の底面は凸状で丸味を持つ。胴部から底部にかけて黒斑あり。底径7.1cmを測る。519は「く」字状に外反し、頸部には三角突帯が貼付される。復元口径32.0cm。520の底部付近には煤が付着する。521・522は口縁部片だが、522の口縁端部は沈線状にナデられている。

01トレンチ（第61図523～527）

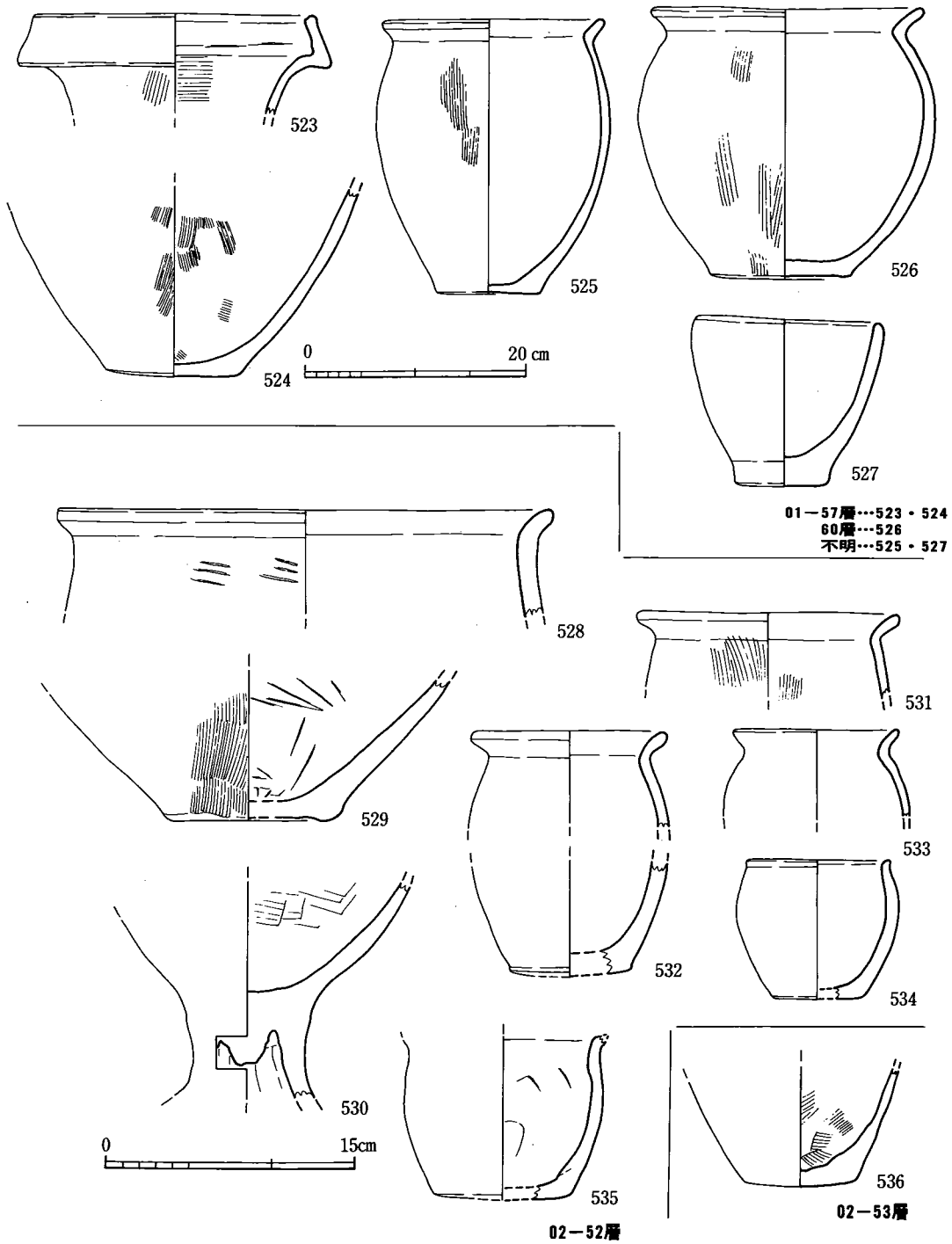
523・524は57層中から、526は60層中からそれぞれ出土し、525・527については層位は不明である。523の口縁端部は天を向き、屈折部の突出も下を向いている。524は全体に磨滅しているが、胴部内外面にはハケ目が施される。525の口縁は緩やかに外反し、胴部中程に最大径を持つ。底部はわずかに上げ底である。526は球形の胴部に口縁が「く」字状に開き、頸部付近の器厚はわずかに厚い。527は口縁端部へは直立気味で器形は132などに近い。

02トレンチ（第61～64図528～571） 528～536は52・53層中の出土である。528の器厚は全体に厚く口縁は短く外反も弱い。復元口径30.0cmを測る。529は底面端部に丸味を持つ上げ底である。胴部外面にハケ目が施され、内面には工具痕が観察される。底面には指頭圧痕も観察される。底径10.0cmを測る。530の脚台部片は内面には工具による横ナデが観察される。531の頸部は「く」字状に屈曲するが頸部から胴部にかけての張りは弱い。復元口径16.0cmを測る。532は胴部中位に最大径を持ち、ややずん胴である。533は復元口径9.8cm。534の鉢は胴部上位でわずかに屈曲し口縁端部へ至る。底部は平底である。535は胴部付近で内湾したのち、端部に至り再び外反する。536は53層出土で外面は磨滅しているが、内面にはハケ目が施される。復元径は6.8cmを測る。

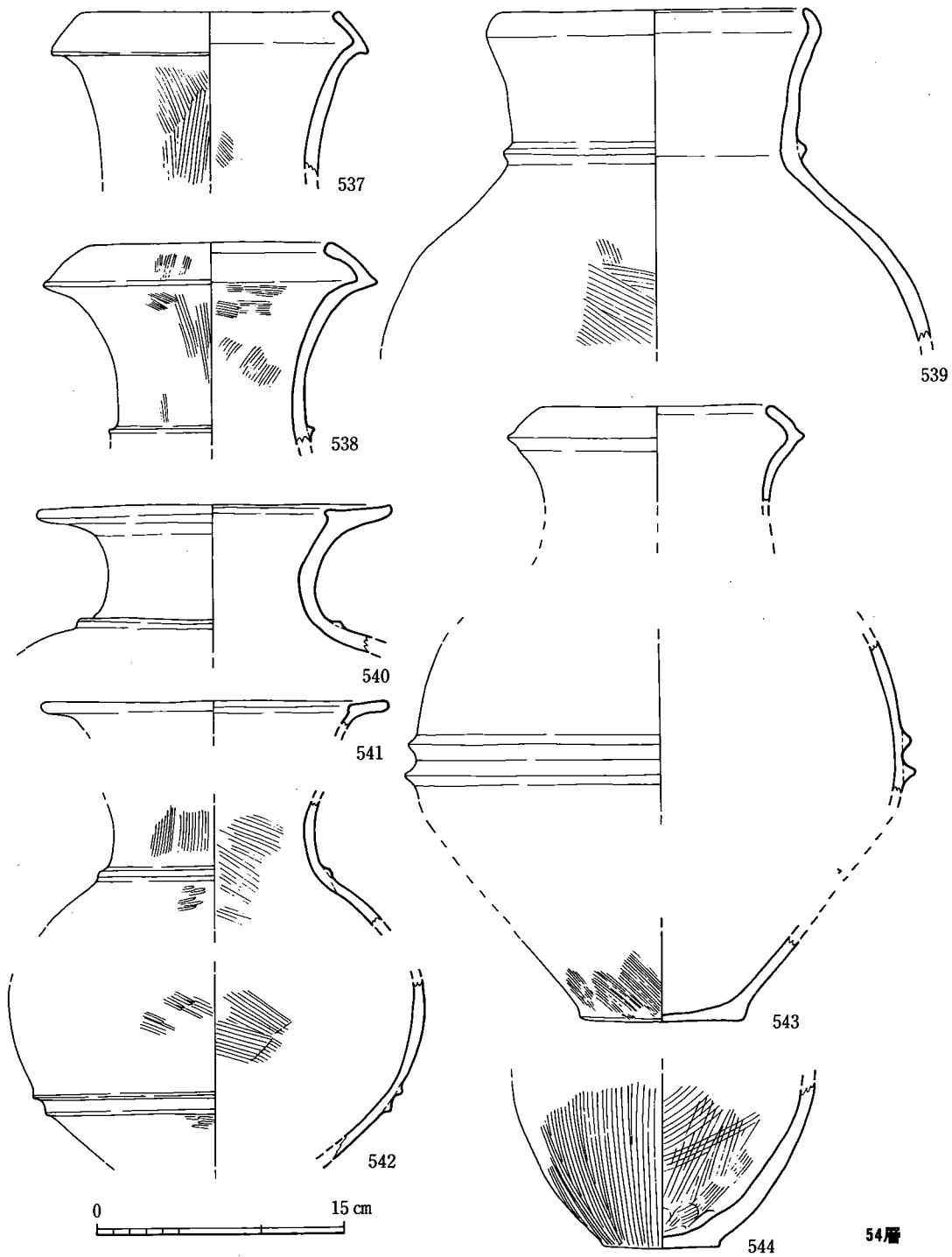
537～554は54層出土である。537・538はどちらも複合口縁で口頸部が長い。537は屈折部の突出があり、口縁は開き気味で端部はやや上を向ている。538も同じく突出するが、わずかで口縁は丸味を持って端部は内湾する。復元口径14.9cmを測る。539の口縁は直立に立ち上がるが、端部で急に内湾する。頸部に突帯が1条貼付される。復元口径は18.8cmを測る。540は口縁が大きく外反し、平坦な上面を持つ。頸部下位に三角突帯が1条貼付される。復元口径21.6cm。542は球形の胴部に2条突帯が貼付され、胴部外面にはミガキ、内面にはハケ目が施されている。543は完全に接合しないが、器面の磨滅や色調などから同一個体と考えられる。口縁屈折部の突出は明瞭でなく内面の稜もハッキリしない。544は平底で外面は底面端部までハケ目による調整が行われる。545・546は頸部が「く」字状に屈曲し、どちらも端部がやや肥厚している。545の復元口径は21.4cmを測る。547の口縁の屈曲は弱く端部は少し先細りとなる。548は上げ底であり、内外面磨滅により調整は不明。549の口縁は大きく垂れ気味に外反する。550は鉢片で口縁の屈曲は弱く、胴部は底部に向かうにつれ細くなっていく。551の外面には黒斑がある。551も550と同様の器形だが口縁に比して胴部は厚い。552は口縁端部は真直ぐに立ち底面は平底である。553



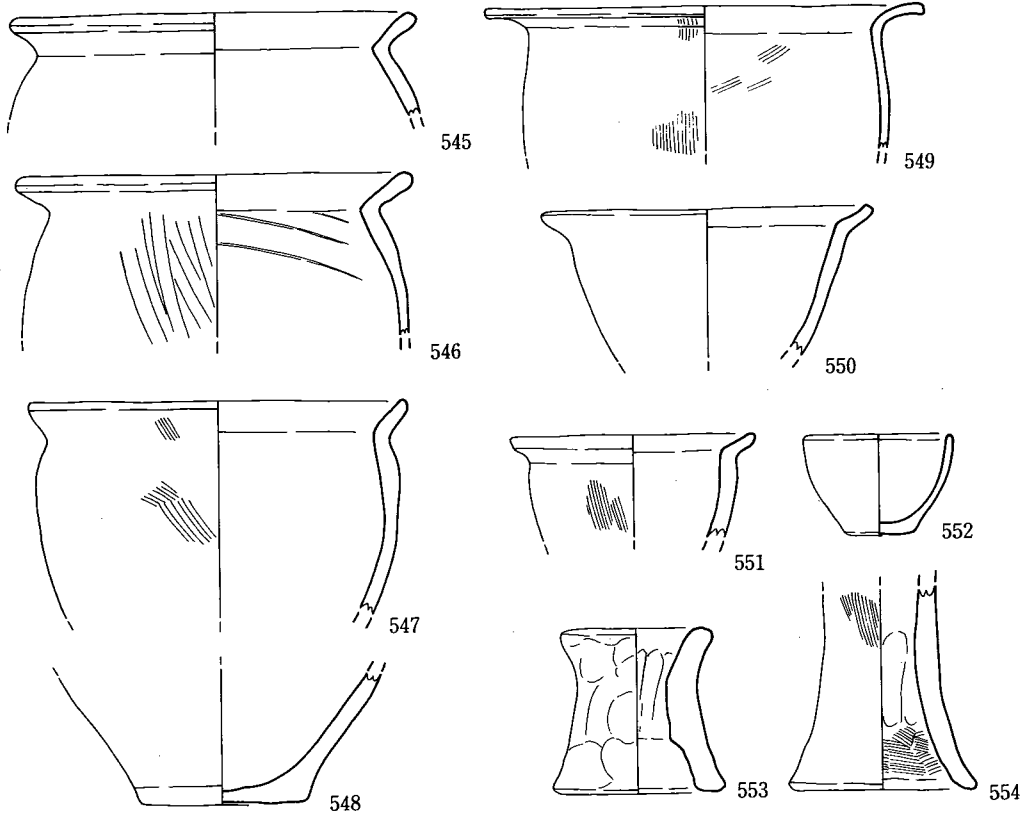
第60図 1022号溝10トレンチ出土土器実測図 (1/4)



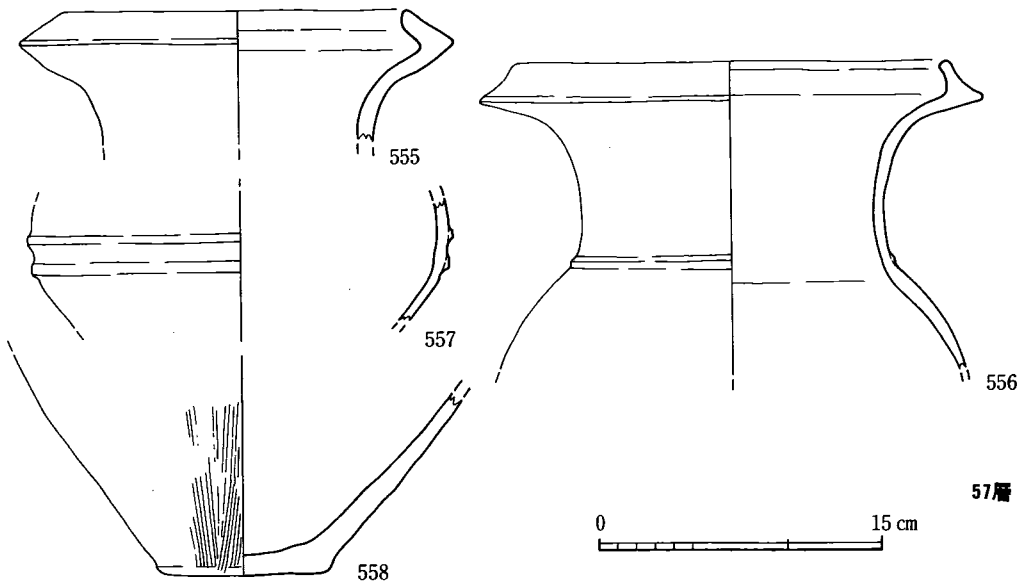
第61図 1022号溝01・02トレンチ出土土器実測図 (1/4 524は1/6)



第62図 1022号溝02トレンチ出土土器実測図. 1 (1/4)



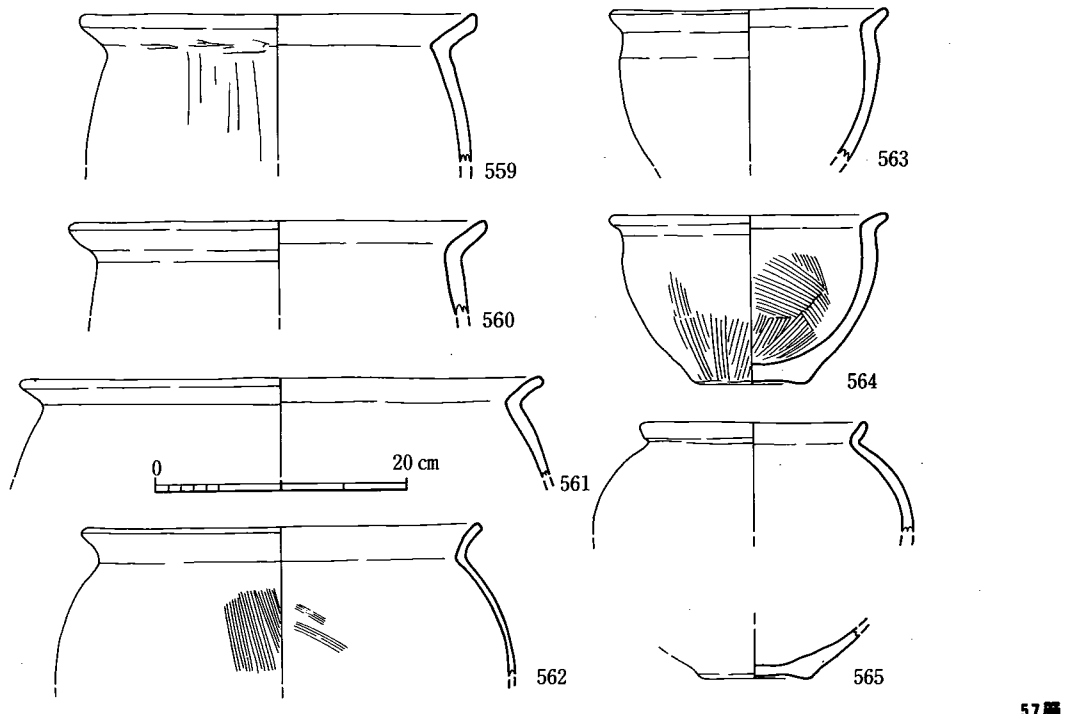
54層



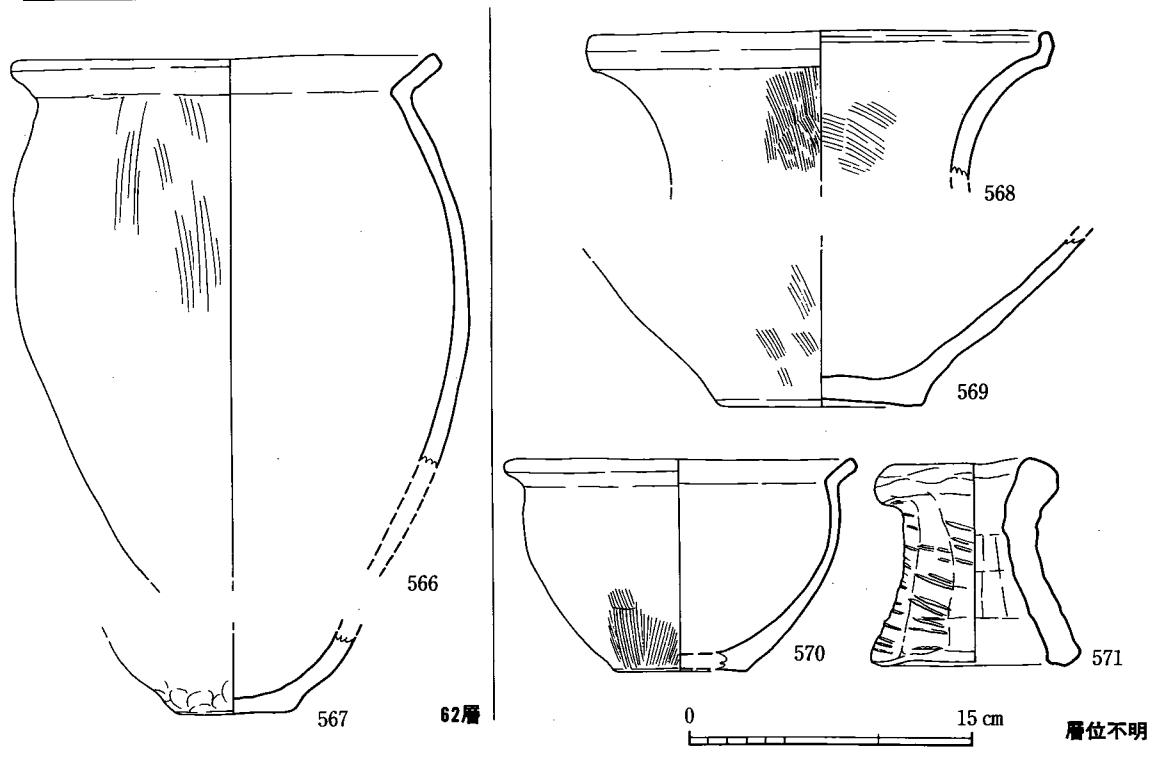
57層

0 15 cm

第63図 1022号溝02トレンチ出土土器実測図。2 (1/4)



57層



第64図 1022号溝02トレンチ出土土器実測図。3 (1/4 561・562は1/6)

の器台は磨滅著しいが指でナデられた凹凸がのこる。554の裾部内外面は丁寧に横ナデされ、内面はそののちにハケ目が施されている。

555～565は57層中からの出土である。555の口縁屈折部は厚く端部まで肥厚している。556は口頸部は直線的に立ち上がり、屈折部の突出も鋭い。復元口径22.8cmを測る。557の胴部は球形で方形の突帯が2条貼付される。器面調整は磨滅し不明。558の復元底径は9.2cmを測る。559～562は甕の口縁部片である。頸部はいずれも「く」字状に外反する。559は内外面ともに工具によるナデが観察される。560は口縁の屈曲が弱く頸部から胴部へ直線的に至る。561の復元口径は41.5cmを測る。562は頸部下に煤が付着している。563・564は短い口縁が取りつく鉢である。564の器面調整のハケ目は底面端部にまで及ぶ。565は接合しないか、器面の色調や状態から同一個体と考えられる。底部は上げ底である。

566・567は62層中からの出土である。566の頸部屈曲部内面にはわずかに突出がある。復元口径21.2cm。567の底部は指頭圧痕による成形面が残る。

568～571は層位が不明な土器である。568は頸部より緩やかに外反し、口縁端部で急に内湾する。569はやや上げ底で復元口径10.4cm。570の鉢の底部は剝離している。571の外表面はタタキのちナデられており、内面もナデられている。

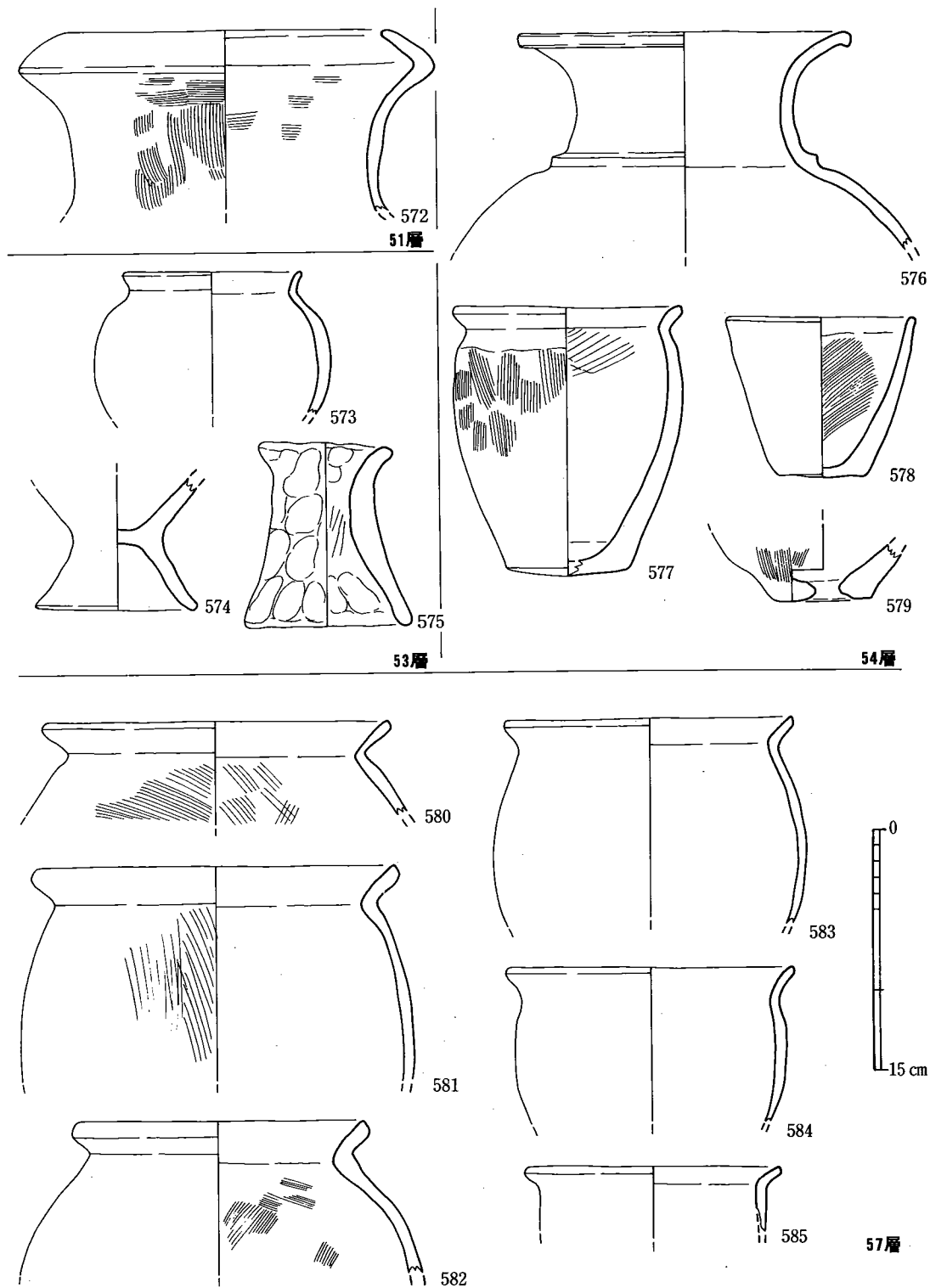
03 トレンチ (第65・66図572～599)

572は51層中からの出土である。口頸部は直立し、屈折部は丸みを持って端部へ至る。復元口径19.4cmを測る。

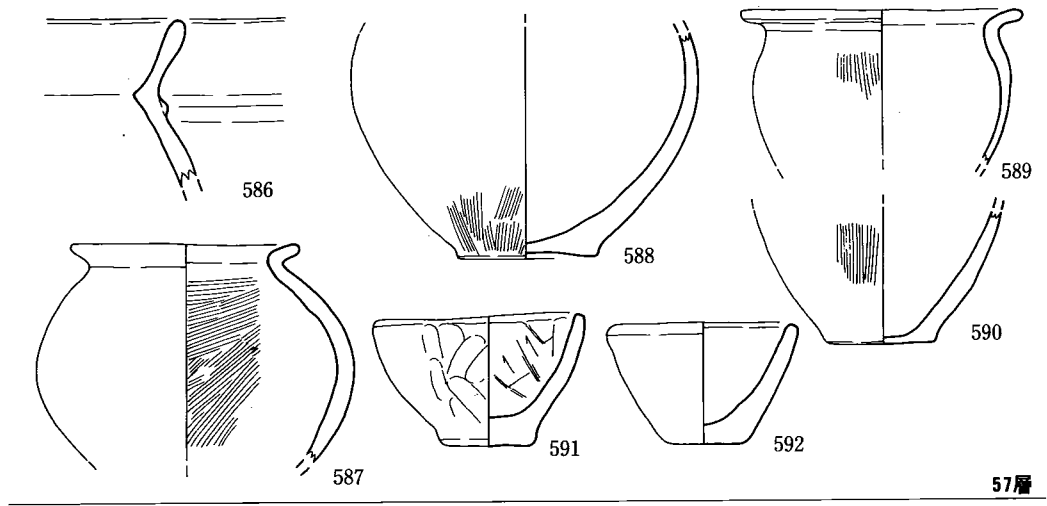
573～575は53層中からの出土である。573は球形の胴部に直立気味に口縁が取りつく。胴部の器厚は厚い。574は鉢の脚台で調整は磨滅著しく不明。裾径10.1cmを測る。575の器台内外面には指頭圧痕が残り、内面には一部シボリ痕が残る。

576～579は54層中からの出土である。576の口縁は大きく外反し端部でわずかに肥厚している。頸部には1条の三角突帯が貼付されるが磨滅し調整は不明。577は胴部付近に張りを持って内湾しながら頸部へ至り、そこから短い口縁がわずかに外反する。底部は凸レンズ状である。口縁部内外面はナデられるが、胴部は内外面ともにハケ目が施される。全体に器厚は厚い。復元口径14.4cm、底径7.6cm、器高16.8cmを測る。578は底面端部から口縁端部へは直線的に開いて至る。平底である。579は穿孔鉢の底部片で底径6～7cmを測る。

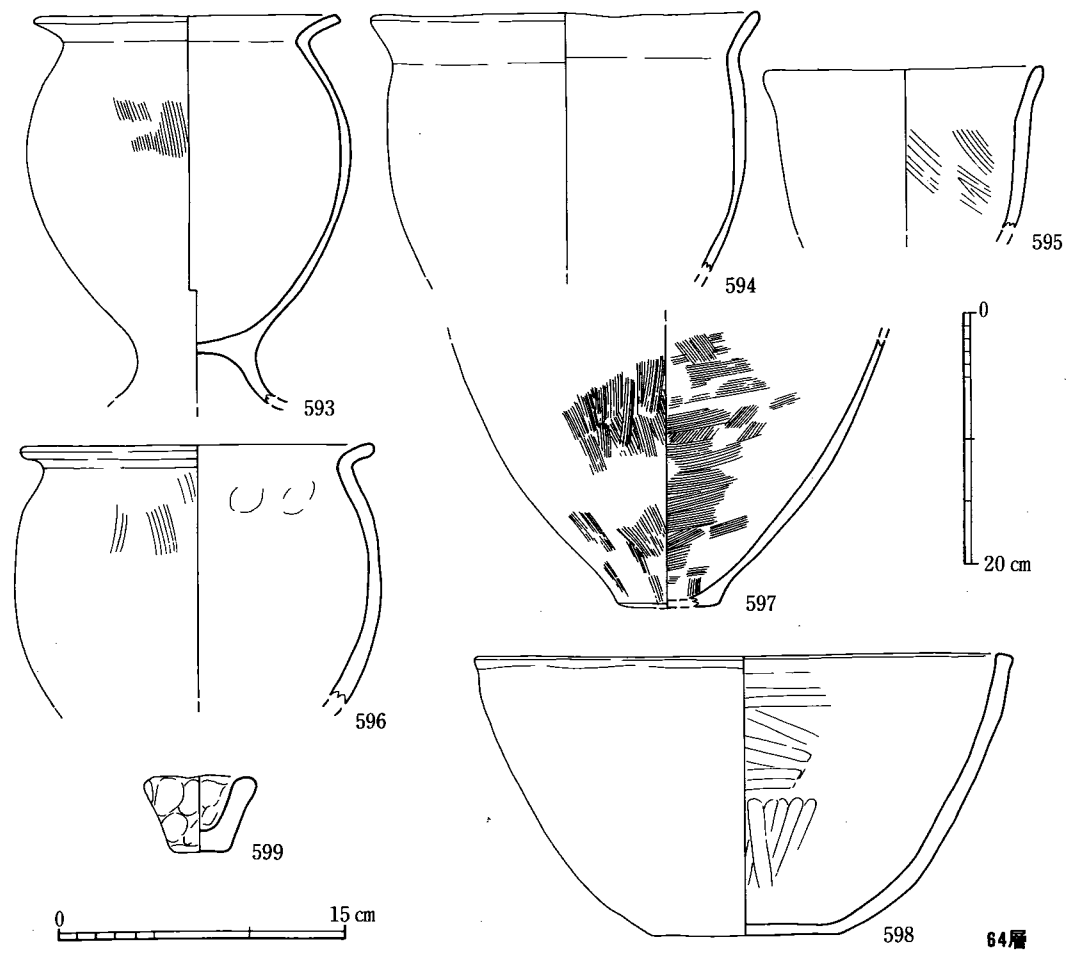
580～592は57層中からの出土である。580～585は口縁から胴部にかけての資料である。580～583・586はいずれも頸部は「く」字状に屈曲する。580は頸部が一旦細くなり、口縁端部で再び肥厚する。復元口径は21.8cm。582は頸部手前で急に肥厚し、外面は極端に屈曲する。胴部に最大径がきて口縁がややすばまる。583は口縁の屈曲はさほど強くなく、胴部へは緩やかに至る。内外面磨滅により調整は不明。584は口縁の屈曲は緩やかで、胴部の張りは口径にわずかに及ばない。585の復元口径は15.4cmを測る。586は頸部内面には鋭い角を持ち、外面には三角



第65図 1022・1023号溝03トレンチ出土土器実測図。1 (1/4)



57層



64層

第66図 1022・1023号溝03トレンチ出土土器実測図。2 (1/4 597・598は1/6)

突帯が1条貼付される。調整は不明。587は球形の胴部を持ち、内湾しながら頸部へ至り、口縁は大きく折れるように外反する。588の底面は上げ底で、外面のハケ目は底面端部にまで及んでいる。また胴部から底部付近には黒斑がある。589は胴部が球形でかなり張るが、口径を超えるまでには至らない。復元口径は14.6cmを測る。590の胴部から底部にかけては黒斑が残る。591・592は小型の鉢でいずれも平底である。591は外面に指頭圧痕を留め、内面はケズリ風にナデられている。

593～599は64層中からの出土である。593は台付鉢で大きく膨らむ胴部を持つ甕に裾部が大きく開く脚台が付く。また口縁の屈曲は大きく「く」字状に折れる。594は口縁はさほど屈曲しない。磨滅により調整は不明。595の口縁から胴部にかけては一定の厚さで頸部はほとんど屈曲しない。内面にわずかにハケ目調整が観察できる。596は胴部から底部を欠損する。復元口径18.6cmを測る。597の底面は端部に丸みを持ち、内外面ともに胴部にハケ目が施されている。復元底径8.0cmを測る。598は大型の鉢である。胴部から口縁部へはやや丸みを持ちながら至り、口縁端部は厚い角を持つ。また、底面は丁寧に面とりしたものでなく、ボール状の器の底が潰れたような感じである。口縁部をはじめ、内外面ともにナデにより仕上げられているが、胴部内面は指で直接ナデ上げており、器面には凹凸を残す。また、胎土に含まれる粒子も均一でなく、焼成も十分でない。一見して作りは雑な印象を受ける。口径42.6～42.8cm、底径15.0cm、器高22.1cmを測る。599は内外面ともに指頭圧痕をとどめ、底部は平底である。

セクション境内（第67・68図600～631）

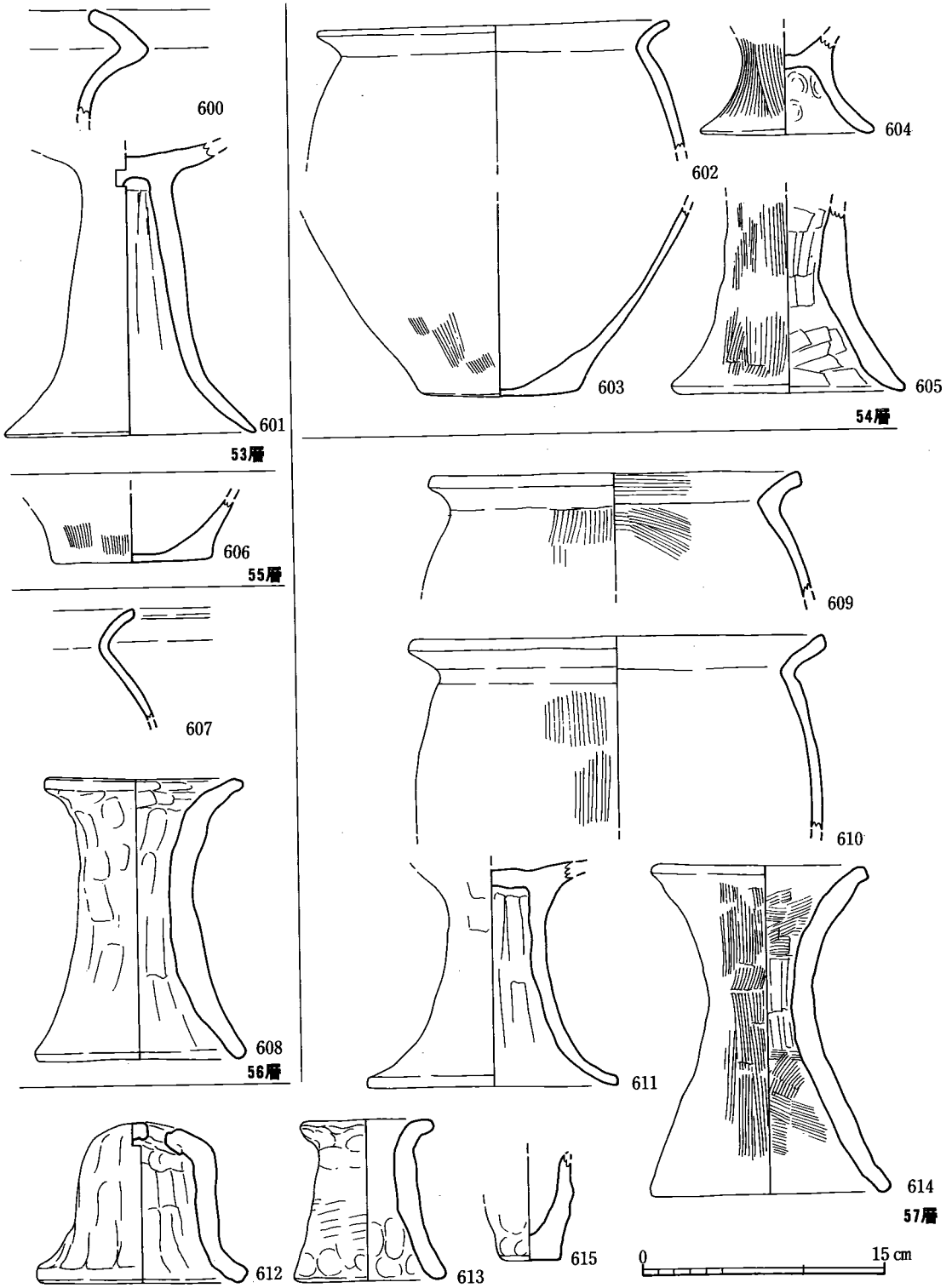
600・601は52層中からの出土である。600の口縁屈折部は外面に比して内面はそう鋭くない。601は高杯の脚で杯部を大きく欠損している。柱状部の開きは緩やかだが、裾端部では急に開く。復元裾径12.5cm。杯から脚にかけて二次加熱を受け変色している。

602～605は54層中からの出土である。602は口縁部が「く」字状に外反する甕で復元口径22.0cmを測る。603は胴部から底部付近に煤が付着する。底径9.8cmを測る。604は台付鉢の脚台で外面はハケ目が施され、内面はナデ。特に裾端部は丁寧に横ナデられる。裾径10.8cm。605は外面裾部付近に二次加熱を受け煤が付着している。

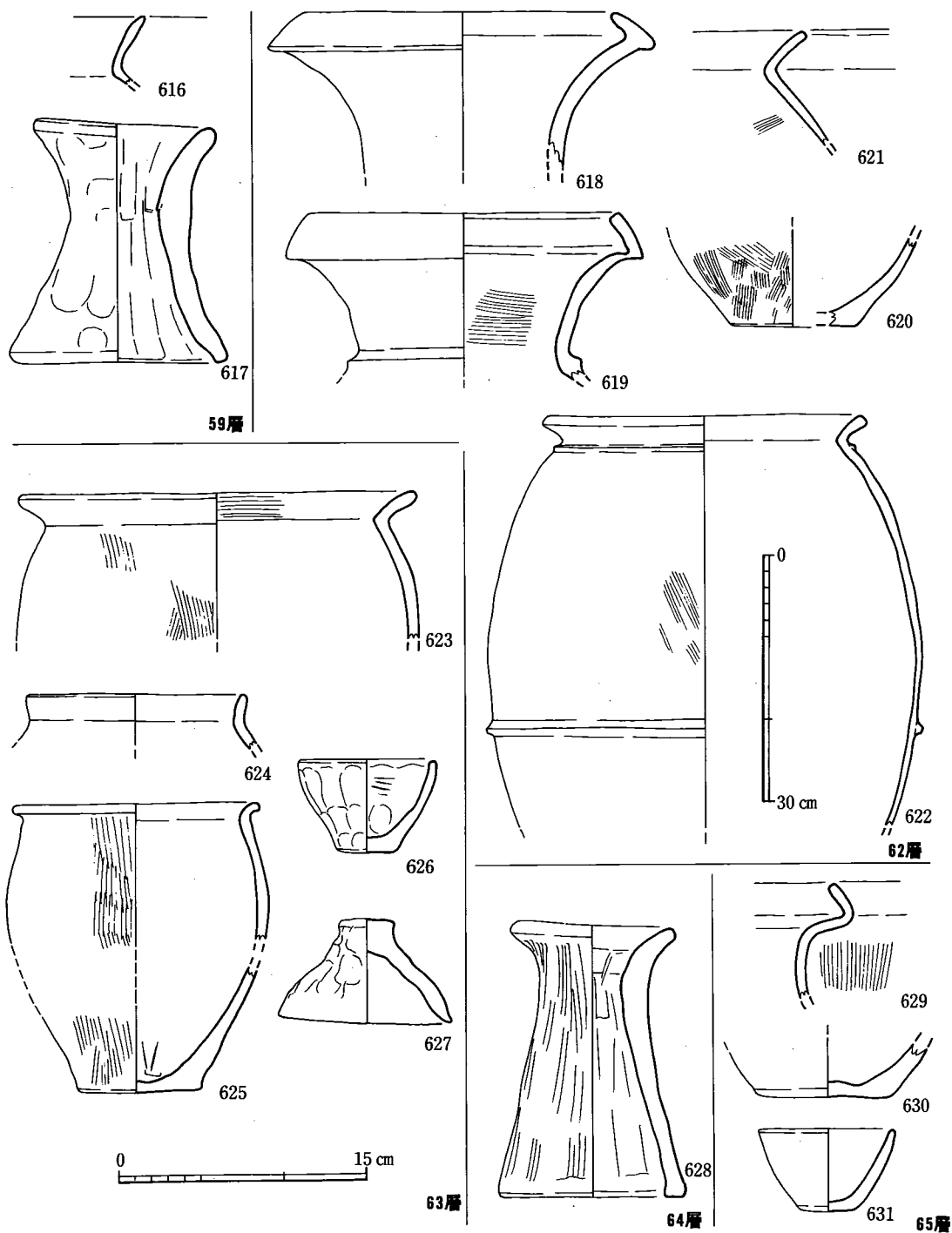
606は55層中より出土した。平底で底径10.6cmを測る。

607・608は56層中の出土である。607の口縁の端部は丁寧にナデられ角を持つ。608はナデによって仕上げられるが、指圧による凹凸を所々残す。内面口縁付近には煤が付着している。

609～615は57層中の出土である。609の口縁は頸部付近は肥厚しややすぼまって端部に至る。そのため頸部内面は鋭い屈曲であるのに対し、外面の屈曲は緩やかである。復元口径は23.2cmを測る。610の口縁は「く」字状に屈曲し端部はやや肥厚する。611のは裾端部は薄く角を持ち丁寧に作りである。裾径は15.6cmを測る。全体に磨滅しているが、内面にナデが観察される。612は完形の脚で頭部に1.5cm程度の穿孔がある。頭部は丸みを持ち、裾部へは直線的で、急に



第67図 1022号溝セクション堤内出土土器実測図。1 (1/4)



第68図 1022号溝セクション堤内出土土器実測図。2 (1/4 622は1/8)

開いて至る。内外面ともにナデられるが特に裾部は丁寧に横ナデされる。裾径13.0cm、器高10.0cmを測る。内面には煤付着。613の外面はタタキのちナデ。内面はナデで指頭圧痕を残す。614の器台は中央部にくびれ部があり、両端部は内外面ともに丁寧に横ナデされている。内外面ともにハケ目が施される。615は内外面ナデによって仕上げられている。

616・617は59層中より出土した。616は磨滅著しい。617は内外面ナデによって仕上げられているが器面の所々凹凸を残す。内外面端部は丁寧にナデられる。口径11.2cm、裾径13.3cm、器高14.5cmを測る。

618～622は62層中より出土した。618は頸部から口縁屈折部へは大きく開いて至る。屈折部の突出はわずかに認められる。口径18.5cmを測る。619の口縁はかなり立ちぎみで突出部も斜め下方を向く。頸部に三角突帯が1条貼付される。620の底部は平底で底面端部までハケ目が施される。621の頸部の屈曲は急である。622は胴部が卵状に膨れた大型の甕である。口縁は短く「く」字状に屈曲し端部は肥厚する。頸部と胴部中位に突帯が貼付される。口径39.6cmを測る。

623～627は63層中より出土した。623の復元口径は24.3cmを測る。624の口縁は頸部で緩やかに屈曲し、口縁は立ち上がる。625の口縁は厚い胴部から急に外反し端部は反る。最大径は胴部中央にある。口縁部内外面は横ナデ、外面胴部は縦位のハケ目が施され、内面はナデによって仕上げられる。626はミニチュアで平底である。627の器面調整は荒く凹凸が残る。また、頭部はきれいな面調整が行われていない。脚台部未製品であろうか。

628は64層中より出土した。口縁の2.0cm下位にくびれ部がありそこから裾部へは直線的に広がっている。両端部は丁寧に横ナデされる。口径10.0cm、裾径11.4cm、器高16.5cmを測り、口縁部付近内外面には煤が付着する。

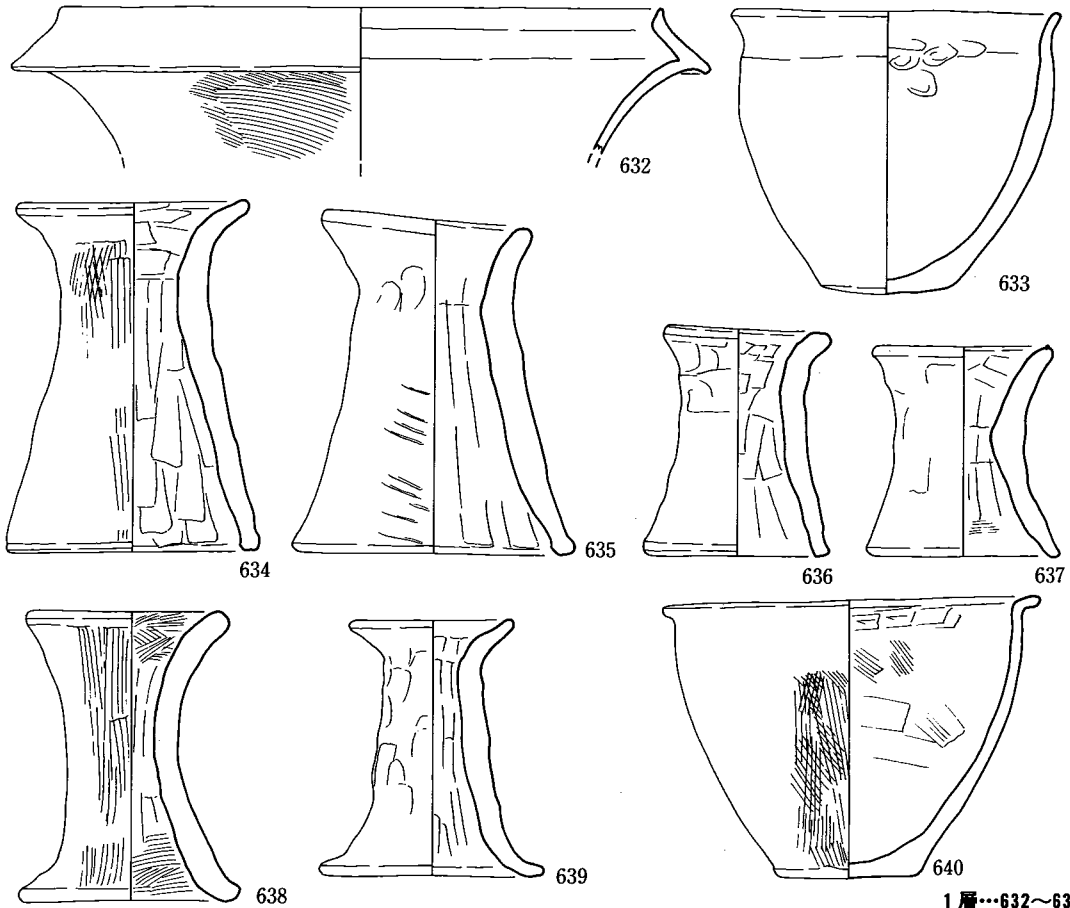
629～631は65層中より出土した。629は口頸部に縦方向のハケ目は施されている。630の底径は8.2cmを測る。631は内外面ナデによって仕上げられる。

1023号溝周辺（第69図632～645）

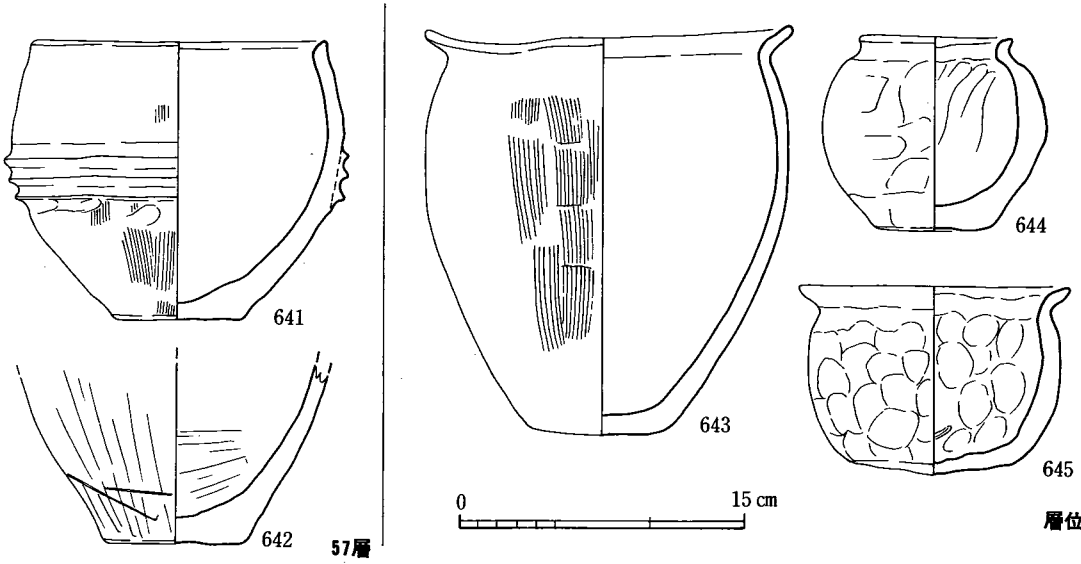
632～639は1層中からの出土である。632は口縁屈折部の突出は明瞭で口縁端部は細く立ち上がる。復元口径31.6cmを測る。633の口縁はわずかに外反する。頸部以下の器厚は厚く底部は凸レンズ状である。634は両端部内外面が丁寧にナデられるほか、外面にはハケ目が施され内面は粗いナデに留まる。復元口径12.3cm、底径13.3cm、器高18.5cmを測る。635の外面はタタキが一部残る。636・637は粗くナデられ器面に凹凸が残る。636は復元口径9.0cm、裾径10.0cm、器高12.0cmを測り、口縁内面は黒色に変色している。638は内外面ともに丁寧なハケ目がほどこされている。また器面の内外面には煤が付着している。639は口縁下位と裾部上位はほぼ均等にくびれて胴部は柱状になり、そこにナデあとが残される。また外面には煤が付着する。

640は2層中の出土である。口縁内面は工具により粗く横ナデされる。内面は黒変している。

641・642は57層中の出土である。641は丸く膨らんだ胴部に3条の三角突帯が貼付された無頸

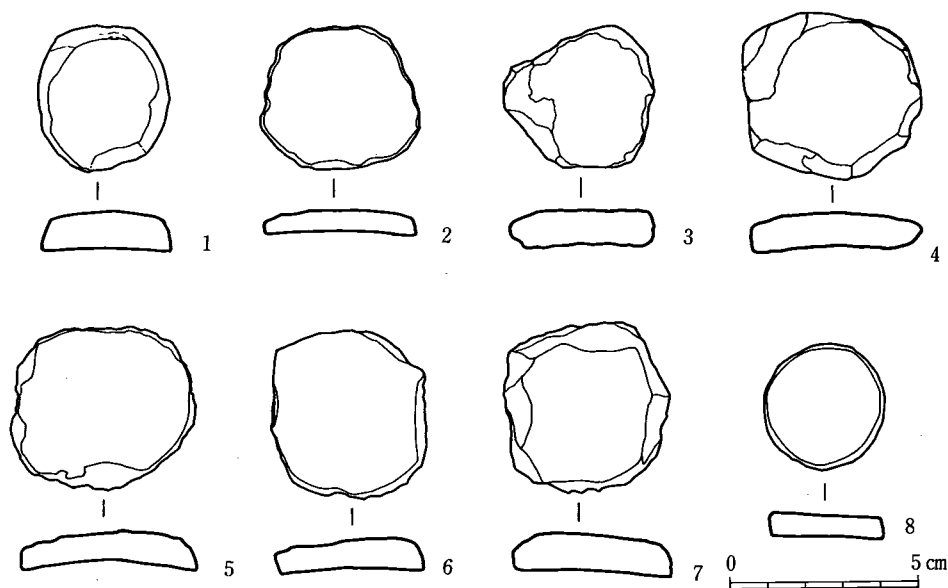


1層...632~639
2層...640



層位不明

第69图 1023号溝周边土器实测图 (1/4)



第70図 1022号出土土製品実測図 (1/2)

壺で底部は平底になる。突帯の上下にハケ目は施されているが、上位については磨滅しほとんど残っていない。内底面は黒変している。口径15.6cm、底径7.2cm、器高14.7cmを測る。642は内外面にハケ目が施され外面に工具痕も残る。

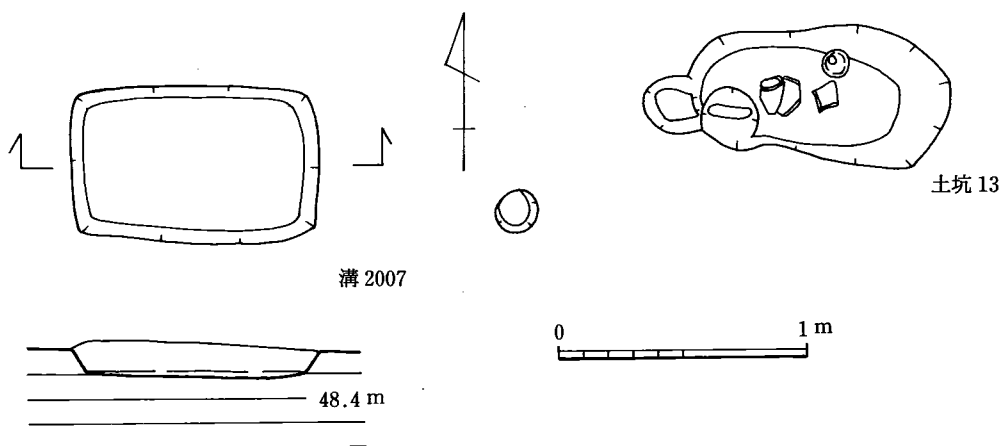
643~645は層位不明の資料である。643の口縁の屈曲も弱くかなり歪んでいる。復元口径19.4cm、底径7.4cm、器高21.7cmを測る。644は球形の胴部に口縁がわずかに取りつく鉢で口縁に比べ胴部の器厚は非常に厚い。内外面ともに粗くナデられる。復元口径8.0cm、底径6.2cm、器高10.2cmを測り、茶褐色に焼成される。645も胴部に対して短い口縁が取りつく。内外面はナデられるがそれでも凹凸を残す。
(杉原)

土製品 (図版64 第70図1~8)

1~8は土器片を打ち欠いて成形され円盤状を呈している。全て1022号溝の出土である。1は磨滅が激しい。2・3・4も磨滅著しく器面調整は不明で、成形加工も粗い。5は内面暗灰色、外面橙褐色6は茶褐色にそれぞれ焼成された土器片を素材としており、内外面と周縁端部は磨滅している。7の内面にはわずかにハケ目が観察される。8は磨滅が著しいが、周縁には凹凸が無く丁寧に整形されている。
(杉原)

石庖丁 (図版64 第73図2~6)

第75図2は蛇文岩製。両面は丁寧に研磨され研磨痕が残る。端部から刃を作り出すが、使用痕による磨耗は中央部分のみである。稜は片面のみシャープに残り、他面は使用により磨耗し



第71図 2007号溝 (P1516) 実測図 (1/30)

ている。穿孔は両面から行う。27.1gを測る。3は緑色変岩製。両面とも僅かに研磨痕が残る。刃は端部より造りだす片刃状である。刃部は全体に使用痕が残り、片面のみ稜が磨耗し刃こぼれも見られる。16.8gを測る。4は安山岩製で、研磨痕が両面に顕著に残る。端部から刃を作り出す。使用による磨耗は中位からで刃こぼれをおこす。石材は不純物が多く、表面端部は一部素材面が残る。5は頁岩製で、両面に研磨痕が残るが、端部は一部素材面が残る。刃は端部より作り出す。使用による磨耗は中央の一部のみでありその他は刃がややシャープに残る。穿孔は両面からで、片方は斜めに貫通する。第75図6は安山岩製である。両面研磨痕が残るが、上方は一部素材面が残る。刃は端部より造りだし、全体に使用痕が見られる。 (齋部)

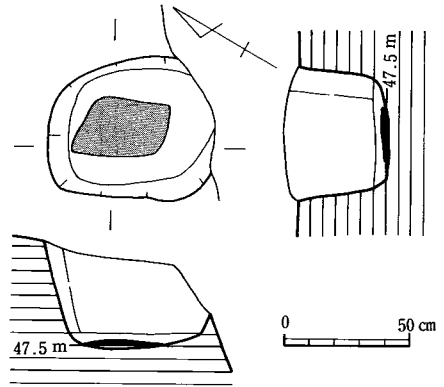
砥石 (図版65 第74図6~15)

6は破碎資料で砥面は1面のみ観察され、風化は著しく硬質砂岩製。7は平面観は正方形を呈しており、表裏中央部は窪んでいる。砥面は5面ある。珪質層灰岩製で119.3gを測る。8は上部を大きく欠損している。砥面は4面あり表裏面の中央は両面とも大きく内湾し窪んでおり、線状痕は長軸に残されている。珪質層灰岩製で98.8gを測る。9は硬質で緻密な砂岩礫を素材としている。砥面は表面と周縁の3面で、それぞれ面は内湾している。40.7gを測る。9は板状の形態を呈している。10は表裏面のほかに2側面にも砥面があり、板状を呈している。風化が進んでおり、それぞれの稜は磨滅している。花崗岩質砂岩で425.0gを測る。11の砥面は長軸に沿って5面のほか下端部に1面あり、角柱状を呈している。線状痕は長軸に沿って残されている。硬質砂岩製で543.3gを測る。12は塊状の破碎礫を使用しており受熱のためか変色している。砥面は3面ある。硬質砂岩製で230.3gを測る。13は平面観は正方形で砥面は6面全てにある。橙色で緻密な硬質砂岩製で76.2gを測る。14は花崗岩の角柱状礫を使用しており、所々磨れた礫素材面を残している。142.4gを測る。15は4面砥面がある。線状痕は長短両軸方向に残

されている。硬質砂岩製で224.1gを測る。(杉原)

その他の石器 (図版66 第75図1~9)

1は刃部と側面が敲打による成形加工が行われ背腹両面研磨されているが、わずかにその加工面を留めている。側縁部は両面研磨ののち、前後に磨かれ面を形成している。成形加工面については刃部付近にも残されている。玄武岩製で風化が著しい。492.3gを測る。2は、蛇文岩製で両面研磨され特に刃部付近は丁寧である。基部(着柄部)には加工面を残している。255.6gを測る。3は磨製石斧の破損資料で玄武岩製。いわゆる「今山産」と考えられ、再加工の痕跡はない。239.2



第72図 ピット1351実測図(1/30)

gを測る。4は緑色変岩製で刃部の研磨は非常に丁寧である。63.8gを測る。5は節理に沿って割れた赤石色変岩に刃部加工を施したサイドスクレイパーである。6は表裏面に磨れた痕跡がわずかに観察されるが風化が激しい。662.5gを測る。7の表裏面は著しく磨れている。7・8は欠損品だが、完形の大きさは6とほとんど変わらないであろう。7は256.2gを測り風化は激しい。玄武岩製。8は351.5gを測る。9は自然礫であるが一面に使用に関わると考えられる研磨面を残している。手持ちの砥石として使用したのであろうか。(杉原)

鉄製品 (図版66 第76図2・4・5・7)

2は柳葉形の鉄鏃で4.7cm、最大幅1.4cm、厚さ0.2cmを測る。関はなく鏃身から茎へと連続的に移行する。4・5は鈍片で、4が現存長4.6cm・現存最大幅1.5cm・厚さ0.25cm、5が現存長3.2cm、最大幅1.1cm・厚さ0.15cmを測る。刃部の造り出しが僅かに残る。2・4は3トレンチ、5は5トレンチ東中部旧上層出土。7は両刃の袋状鉄斧で、現存長7.4cm・刃部幅3.0cm・厚さ4cmを測る。01トレンチ出土。(齋部)

ガラス玉 (図版66 第10図1)

スカイブルーのガラス小玉で直径3.6mm・厚さ3.8mm・孔径1.4mm・重さ50mgを測る。両端が斜めにカットされる(齋部)

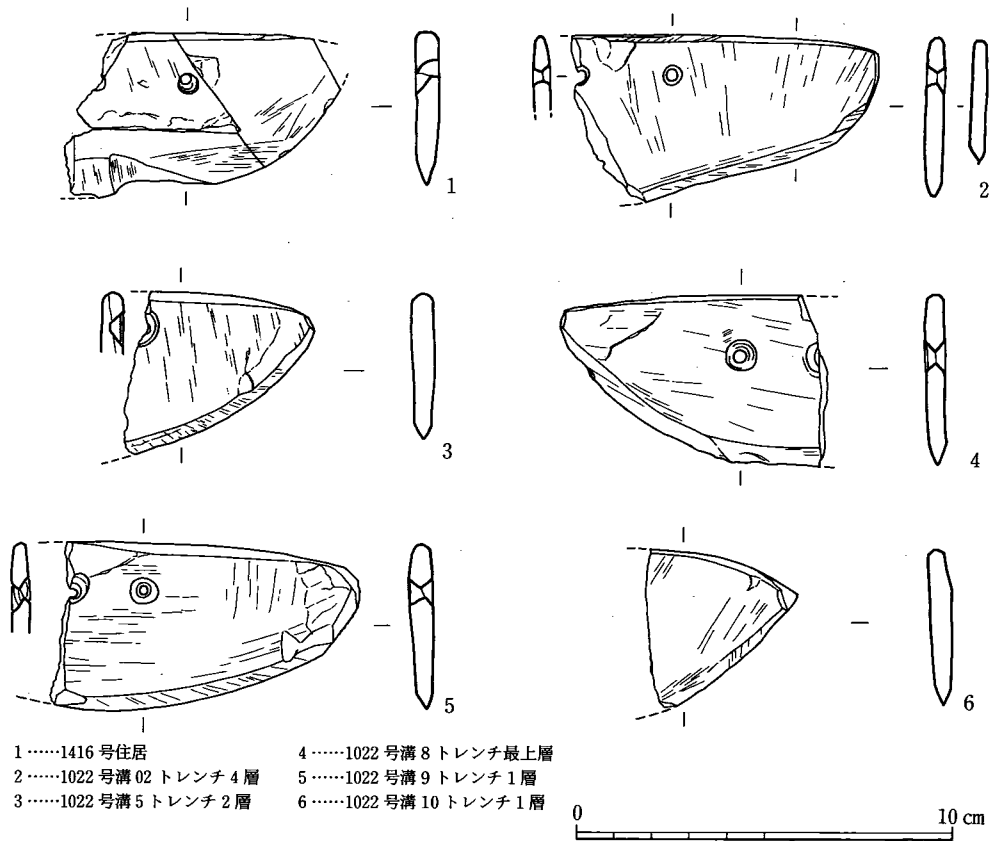
2004号溝 (図版6、付図3、表60)

重複関係も含めて、建1019号で詳述。(馬田)

2005溝 (図版6、付図3、表60)

詳細は、建1002号群・建1019号群で、他の関連遺構と共に既述。

現存規模は、長さ143cm・幅53cm・深さ9cmであるが、溝に切られる住1019号Aの残存壁高が



第73図 石庖丁実測図 (1/2)

約15cmであることから、当時は深さ約90cm前後に掘削され、溝1001号Bの形状に類したものか。

また、上記の深さと形状であったことを考慮すると、西側に約2.2m離れて検出した2006号溝の西端～2005号溝東端間の現存長は4.61mを測り、溝1001号A、(付図2)の長さ5.39m大の規模となることなどから、当時は溝2005・2006号は一連の規模であったものか。(馬田)

2006号溝 (図版11、付図2、表60)

詳細は、建1002号群・建1019号群で、他の関連遺構と共に既述。

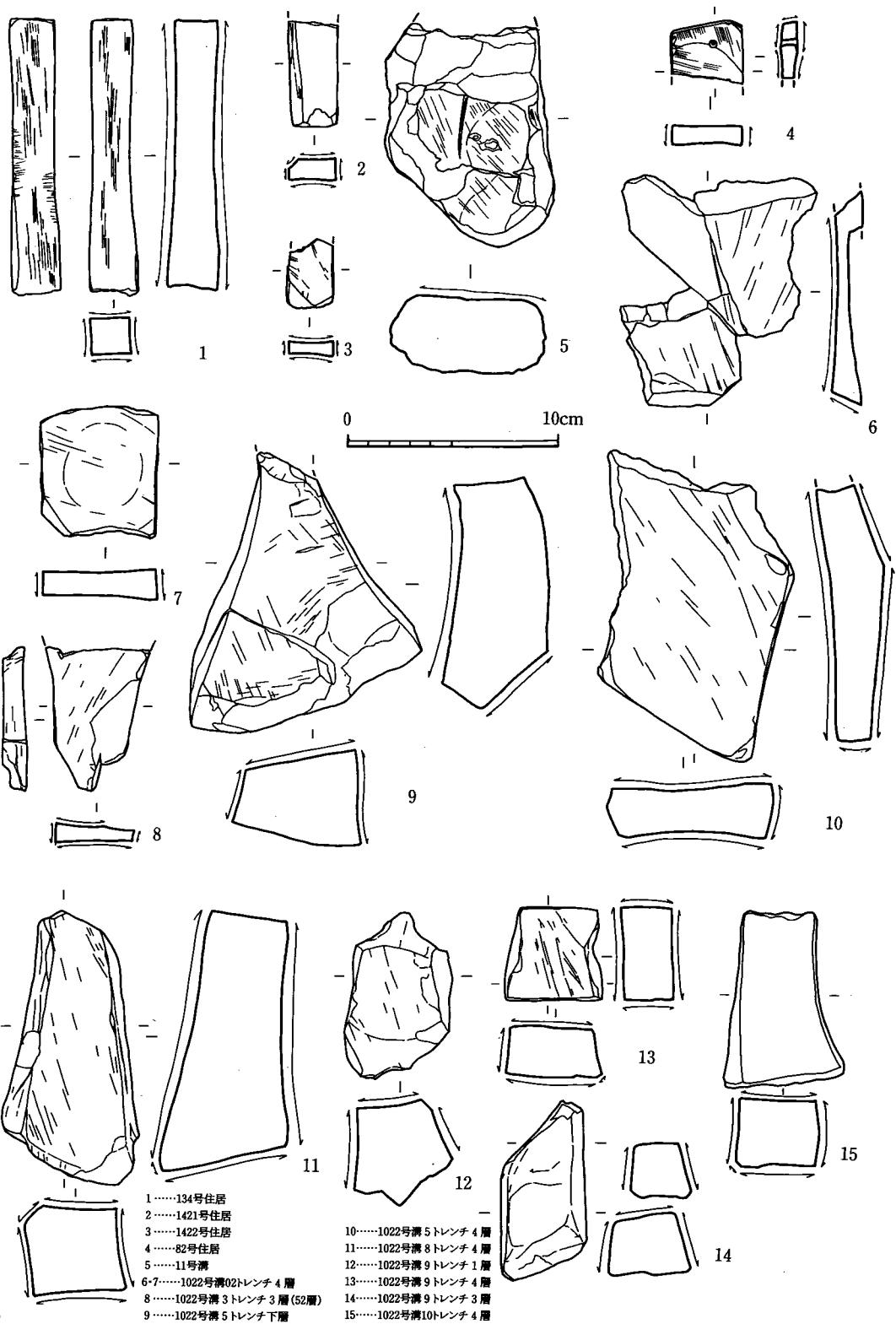
現存規模は、長さ100cm・幅55cm・深さ24cmを測る。

(馬田)

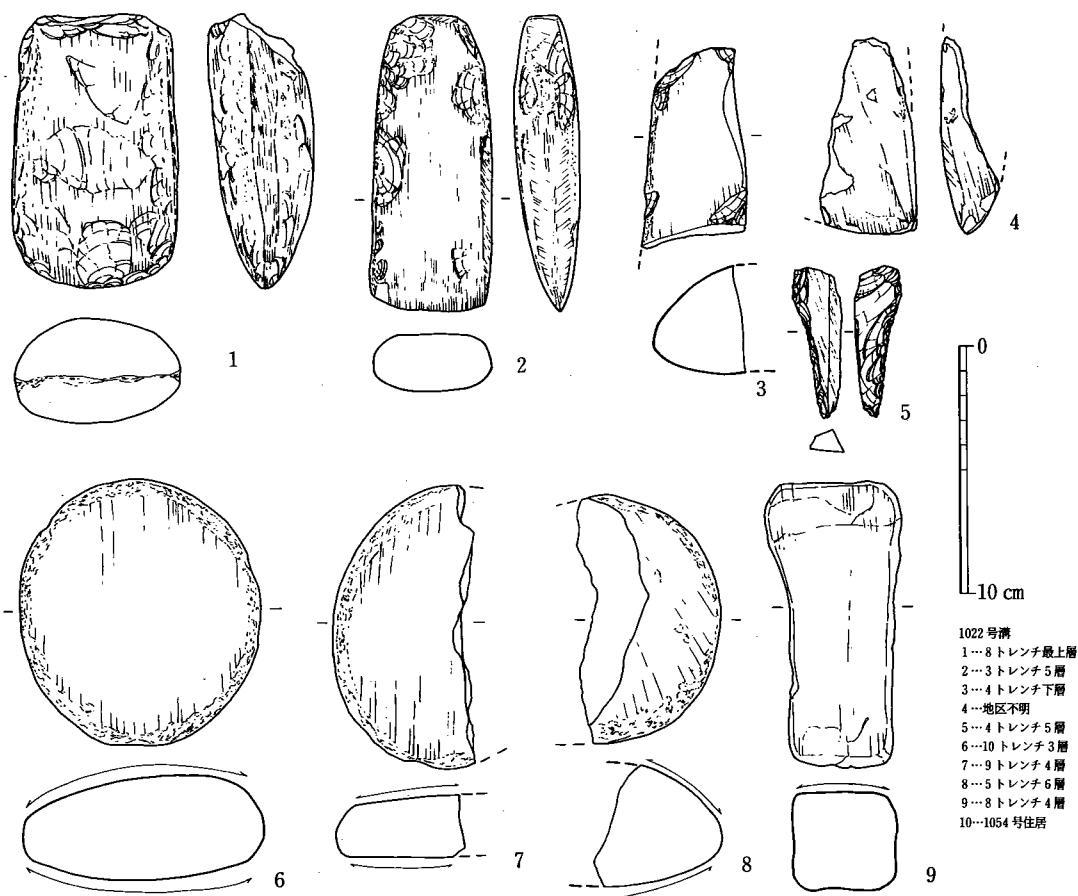
2007号溝 (付図1、第71図、表60)

詳細は、建1002号群・建1019号群で、他の関連遺構と共に既述。

現存規模は、長さ130cm・幅65cm・深さ10cmであるが、溝2005号で既述したように、東側に約



第74図 砥石実測図



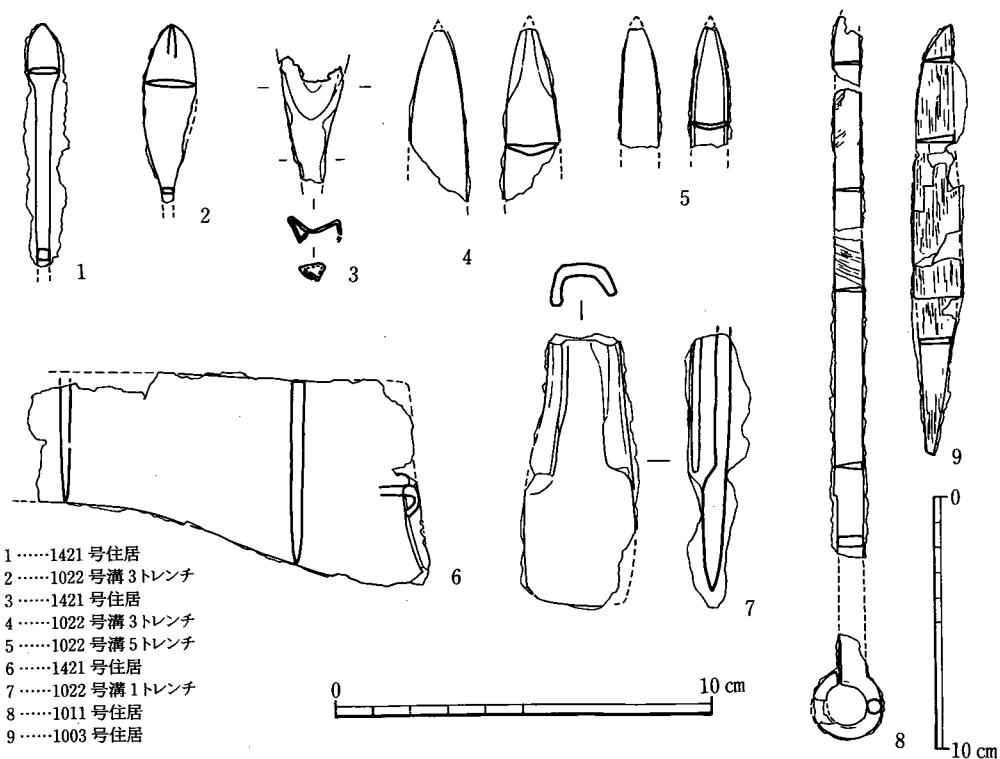
第75図 その他石製品実測図 (1/3)

1.5m離れて検出され、『I集』で既報告の土坑13号の東端～2007号溝間の現存長は3.55mを測り、同様に、当時は溝2007号・土坑13号は一連の規模であったものか。 (馬田)

(4) ピ ッ ト

ピット1351 (第72図)

平坦面の西南端に位置する。南端部を斜面部最上段の削平の際に失われている。平面方形で長軸は約70cm、短軸58cm、深さは約40cmで、形態から、本来は掘立柱建物跡の柱穴の一つであったと思われる。斜面部最上段の削平のため他の柱穴は削られたようである。この柱穴の底面からは、炭化物を含む焼土が長軸30cm、短軸25cmの略方形の呈して検出されており、その一部



第76図 鉄製品実測図 (1/2 8・9は1/3)

に柱痕の沈み込みと思われる凹みがあった。これは、柱下に敷いていた礎板が火災時に熱を受けたものと思われる。

(5) その他の遺物

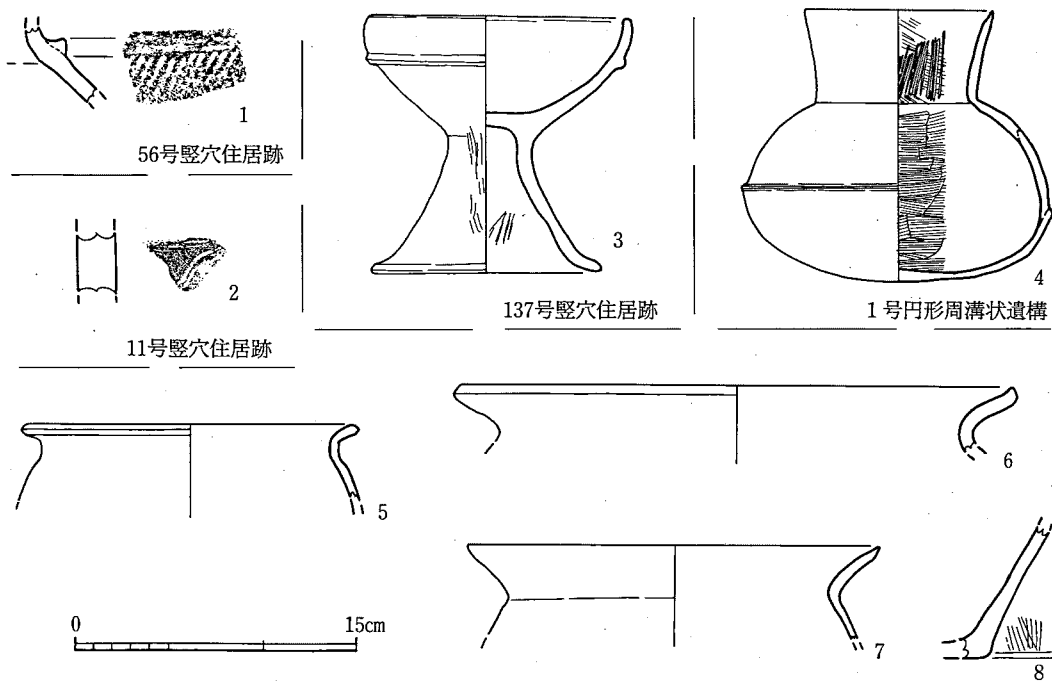
この項では、遺構や遺物の大半については『以来尺遺跡Ⅰ』で既に報告はしているが、既刊後整理中に新たに確認されたものについて、掲載するものである。遺構の説明については、前掲『Ⅰ集』を参考にいただきたい。

56号竪穴住居跡出土土器 (第77図1)

1はハケ状工具による波状文が入った土器片で、傾きは不明だが器壁が厚いことから、大型壺の肩部と思われる。(秦)

82号竪穴住居跡出土石器 (図版65 第74図4)

4は頁岩製の手持ち砥石で2面使用しており、上端面は整形面と思われる。横幅中央の上端



第77図 その他の遺物実測図 (1/4)

近くに径3mmの穿孔があり、紐を通していたと考えられる。使用面の凹みはこの穿孔までしか及んでいない。(秦)

91号竪穴住居跡出土土器 (第77図2)

2は肩部の貼付け突帯下に、ヘラ状工具による刺突文の入るもので、類例から壺と思われる。(秦)

137号竪穴住居跡出土土器 (図版17 第77図3)

3は高杯で、炉直上にはほぼ完形で、横位で検出された。赤褐色を呈する。(秦)

27号掘立柱建物跡出土土器 (第77図5～8)

5～8は甕の口縁部で、7・8は口縁端部がやや跳ね上がり気味である。8は甕の底部だろうか。平底を呈する。(秦)

11号溝出土土器 (図版65 第77図10・11 第74図5)

第74図5は砂岩製の砥石で、欠損面が多いため使用面は1面のみ確認された。側面・裏面は磨滅が弱く平坦面を形成していないので調整面であろう。火を受けたためかやや赤化している。

1号円形周溝状遺構出土土器 (図版17 第77図4)

4は長頸壺で、外面は磨滅しているため不明瞭だが、内面の頸部には磨きが見られる。内面のハケも丁寧でつくりも均一な精品である。胎土は精良で、混入物をほとんど含まない。色調は黄橙色を呈する。(秦)

表1 10号A案堅穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
北西-南東		P11・13	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	(415)	424	北壁-北柱筋	東壁-東柱筋	P ₁₁	未検出
N-47°-W			P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄			測点 a ₄	北柱筋-P ₂₁	東柱筋-高床西縁	P ₁₂
番号	検出面標高	平均	●(415)	●(424)	181		(56)	72	P ₁₃	未検出
P ₁₁	未検出		棟持柱間 a ₁		D ₁₁ -南柱筋		P ₂₁ -D ₁₁	東高床幅	P ₁₄	48.44
P ₁₂	48.72		P ₂₁ -P ₂₂	●303	234		135	106	P ₂₁	48.26
P ₁₃	未検出						D ₁₁ -P ₂₂	高床西縁-D ₁₁	P ₂₂	48.06
P ₁₄	48.69						168	157	D ₁₁	48.59
P ₂₁	48.71						P ₂₂ -南柱筋	D ₁₁ -D ₂₁	D ₂₁	48.64
P ₂₂	48.55						56	170		
壁	49.01						南柱筋-南壁	D ₂₁ -西柱筋		
高床	48.93						122	25		
中床	48.74						南高床幅	西柱筋-西壁		
桁行比	桁行柱比		桁行差	桁行柱差	棟持柱差		●122	24		
0.98	0.98		-9	-9	-112		北壁-南壁	東壁-西壁		
							●656	●482		

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(415) = 30.1cm × 13.8 = 415.4	(415) ≒ 29.6cm × 14.0 = 414.4
△梁行 B	424 = 30.1 × 14.1 = 424.4	424 ≒ 29.6 × 14.5 = 429.2
棟持 a ₁	303 ≒ 30.1 × 10.1 = 304.0	303 ≒ 29.6 × 10.0 = 296.0
南高床幅	122 ≒ 30.1 × 4.1 = 123.4	122 ≒ 29.6 × 4.0 = 118.4
北壁-南壁	656 = 30.1 × 21.8 = 656.2	656 ≒ 29.6 × 22.0 = 651.2
東壁-西壁	482 = 30.1 × 16.0 = 481.6	482 ≒ 29.6 × 16.0 = 473.6

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	303 = 30.0cm × 10.1	303 = 30.3cm × 10.0
△桁行 A	(415) ≒ 30.0 × 13.8 = 414.0	(415) ≒ 30.3 × 13.5 = 409.1
梁行 B	424 ≒ 30.0 × 14.1 = 423.0	424 = 30.3 × 14.0 = 424.2
南高床幅	122 ≒ 30.0 × 4.1 = 123.0	122 ≒ 30.3 × 4.0 = 121.2
北壁-南壁	656 ≒ 30.0 × 21.9 = 657.0	656 ≒ 30.3 × 22.0 = 666.6
東壁-西壁	482 ≒ 30.0 × 16.1 = 483.1	482 ≒ 30.3 × 16.0 = 484.8

規 模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	高床 3
	床面積38.4m ²

表2 10号B案堅穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
北西-南東		P11~13・21・ N-47°-W	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	(384)	(424)	北壁-北柱筋	東壁-東柱筋	P ₁₁	未検出
N-47°-W			P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄			測点 a ₄	北柱筋-P ₂₁	東柱筋-高床西縁	P ₁₂
番号	検出面標高	平均	●(384)	●(424)	(94)		(56)	85	P ₁₃	未検出
P ₁₁	未検出		棟持柱間 a ₁		DP ₂₁₁ -D ₂₁		P ₂₁ -D ₁₁	東高床幅	P ₁₄	重複
P ₁₂	欠失		P ₂₁ -P ₂₂	●(272)	(10)		(136)	●119	P ₂₁	欠失
P ₁₃	未検出				D ₂₁ -DP ₂₁₂		D ₁₁ -P ₂₂	高床西縁-D ₁₁	P ₂₂	欠失
P ₁₄	重複				12		(136)	(143)	D ₂₁	欠失
P ₂₁	欠失				DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂		P ₂₂ -南柱筋	D ₁₁ -DP ₂₁₂	DP ₂₁₁	未検出
P ₂₂	欠失				●(22)		(56)	(159)	DP ₂₁₂	48.38
壁	49.01				DP ₂₁₂ -南柱筋		南柱筋-南壁	DP ₂₁₂ -D ₂₁		
高床	48.74				156		(137)	12		
中床	48.64						南高床幅	D ₂₁ -西柱筋		
桁行比	桁行柱比		桁行差	桁行柱差	棟持柱差		(137)	(24)		
0.91	0.91		-40	-40	-112		北壁-南壁	西柱筋-西壁		
							●656	(25)		
								東壁-西壁		
							●482			

●桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁 行 A	$(384) \approx 30.0 \text{cm} \times 12.8$	$(384) \approx 29.5 \text{cm} \times 13.0 = 383.5$
△梁 桁 B	$(424) \approx 30.0 \times 14.1 = 423.0$	$(424) \approx 29.5 \times 14.5 = 427.8$
棟 持 a ₁	$(272) \approx 30.0 \times 9.1 = 273.0$	$(272) \approx 29.5 \times 9.0 = 265.5$
△DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	$(22) \approx 30.0 \times 0.7 = 21.0$	$(22) \approx 29.5 \times 0.5 = 14.8$
北壁-南壁	$656 \approx 30.0 \times 21.9 = 657.0$	$656 \approx 29.5 \times 22.0 = 649.0$
東壁-西壁	$482 \approx 30.0 \times 16.1 = 483.0$	$482 \approx 29.5 \times 16.0 = 472.0$

●棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟 持 a ₁	$(272) = 29.9 \text{cm} \times 9.1 = 272.1$	$(272) = 30.2 \text{cm} \times 9.0 = 271.8$
△桁 行 A	$(384) \approx 29.9 \times 12.8 = 382.7$	$(384) \approx 30.2 \times 12.5 = 377.5$
梁 行 B	$(424) \approx 29.9 \times 14.2 = 424.6$	$(424) \approx 30.2 \times 14.0 = 422.8$
△DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	$(22) \approx 29.9 \times 0.7 = 20.9$	$(22) \approx 30.2 \times 0.5 = 15.1$
北壁-南壁	$656 \approx 29.9 \times 21.9 = 654.8$	$656 \approx 30.2 \times 22.0 = 664.4$
東壁-西壁	$482 \approx 29.9 \times 16.1 = 481.4$	$482 \approx 30.2 \times 16.0 = 483.2$

規 模	1間×1間
	主 柱 4
	棟持柱 2
	高 床 3
	床面積38.4㎡

表 3 18号A案竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠 番	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a ₂	梁 間 b ₂	測 点 a	測 点 b	番 号	標 高
南東-北西 N-23°-W		P11・12・14	P ₁₁ -P ₁₂ (316)	P ₁₁ -P ₁₃ (236)	(316)	(236)	北壁-北柱筋 60	東壁-東柱筋 112	P ₁₁	未確認
			P ₁₃ -P ₁₄ (316)	P ₁₂ -P ₁₄ (236)	測 点 a ₄ 北柱筋-D ₁₁		北柱筋-P ₂₁ 66	東柱筋-D ₁₁ 93	P ₁₃	48.80
			●(316)	●(236)	175		P ₂₂ -南柱筋 15	D ₁₁ -棟持筋 25	P ₂₁	48.57
			棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ●235		D ₁₁ -南柱筋 141		南柱筋-南壁 87	棟持筋-西柱筋 118	P ₂₂	48.50
					北柱筋-D ₂₁ 217		北壁-南壁 ●463	西柱筋-D ₂₁ 0	D ₁₁	48.86
					D ₂₁ -南柱筋 ●99			D ₂₁ -西壁 56	D ₂₁	48.80
								東壁-西壁 ●404		
番号	検出面標高	平均								
P ₁₁	未確認									
P ₁₂	未確認									
P ₁₃	48.91									
P ₁₄	未確認									
P ₂₁	48.92									
P ₂₂	48.95									
壁	49.02									
高床										
中床	48.97									
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差						
(1.34)	(1.34)	(80)	(80)	(-81)						

●桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁 行 A	$(316) \approx 30.1 \text{cm} \times 10.5 = 316.1$	$(316) = 28.7 \text{cm} \times 11.0 = 315.7$
梁 行 B	$(236) \approx 30.1 \times 7.8 = 234.8$	$(236) \approx 28.7 \times 8.0 = 229.6$
棟 持 a ₁	$235 = 30.1 \times 7.8 = 234.8$	$235 \approx 28.7 \times 8.0 = 229.6$
△D ₂₁ -南柱筋	$99 = 30.1 \times 3.3 = 99.3$	$99 \approx 28.7 \times 3.5 = 100.5$
北壁-南壁	$463 \approx 30.1 \times 15.4 = 463.5$	$463 \approx 28.7 \times 16.0 = 459.2$
東壁-西壁	$404 \approx 30.1 \times 13.4 = 403.3$	$404 \approx 28.7 \times 14.0 = 401.8$

棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟 持 a ₁	$235 = 30.1 \text{cm} \times 7.8 = 234.8$	$235 = 29.4 \text{cm} \times 8.0 = 235.2$
△桁 行 A	$(316) \approx 30.1 \times 10.5 = 316.1$	$(316) \approx 29.4 \times 10.5 = 308.7$
梁 行 B	$(236) \approx 30.1 \times 7.8 = 234.8$	$(236) \approx 29.4 \times 8.0 = 235.2$
△D ₂₁ -南柱筋	$99 = 30.1 \times 3.3 = 99.3$	$99 \approx 29.4 \times 3.5 = 102.9$
北壁-南壁	$463 \approx 30.1 \times 15.4 = 463.5$	$463 \approx 29.4 \times 16.0 = 470.4$
東壁-西壁	$404 \approx 30.1 \times 13.4 = 403.3$	$404 \approx 29.4 \times 14.0 = 411.6$

規 模	1間×1間
	主 柱 4
	棟持柱 2
	床面積18.7㎡

表 4 18号B案竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
南-北		P11・12・14		P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	(274)	(256)	北壁-北柱筋	東壁-東柱筋	P ₁₁	未確認
N-22°-W		D11		(274)	(256)			99	99	P ₁₂	未確認
				P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄	測点 a ₄		北柱筋-P ₂₁	西柱筋-D ₂₁	P ₁₃	48.82
				(274)	(256)	北柱筋-D ₂₁		90	24	P ₁₄	未確認
番号	検出面標高	平均		●(274)	●(256)	125		P ₂₂ -南柱筋	D ₂₁ -西壁	P ₂₁	48.84
P ₁₁	未確認			棟持柱間 a ₁		D ₂₁ -南柱筋		16	25	P ₂₂	重複
P ₁₂	未確認			P ₂₁ -P ₂₂		●149		南柱筋-南壁	東壁-西壁	D ₁₁	重複
P ₁₃	48.92			●168				87	●404	D ₂₁	48.80
P ₁₄	未確認							北壁-南壁			
P ₂₁	48.91							●460			
P ₂₂	重複										
壁	49.02										
高床											
中床	48.88										
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差							
(1.07)	(1.07)	(18)	(18)	(-106)							

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(274) = 30.1cm × 9.1 = 273.9	(274) = 30.4cm × 9.0 = 273.6
△梁行 B	(256) = 30.1 × 8.5 = 255.9	(256) = 30.4 × 8.5 = 258.4
△棟持 a ₁	168 = 30.1 × 5.6 = 168.6	168 = 30.4 × 5.5 = 167.2
D ₂₁ -南柱筋	149 = 30.1 × 5.0 = 150.5	149 = 30.4 × 5.0 = 152.0
北壁-南壁	460 = 30.1 × 15.3 = 460.5	460 = 30.4 × 15.0 = 456.0
東壁-西壁	404 = 30.1 × 13.4 = 403.3	404 = 30.4 × 13.0 = 395.2
●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	168 = 30.0cm × 5.6	168 = 28.0cm × 6.0
桁行 A	(274) = 30.0 × 9.1 = 273.0	(274) = 28.0 × 10.0 = 280.0
梁行 B	(256) = 30.0 × 8.5 = 255.0	(256) = 28.0 × 9.0 = 252.0
△D ₂₁ -南柱筋	149 = 30.0 × 5.0 = 150.0	149 = 28.0 × 5.5 = 154.0
北壁-南壁	460 = 30.0 × 15.3 = 459.0	460 = 28.0 × 16.0 = 448.0
東壁-西壁	404 = 30.0 × 13.5 = 405.0	404 = 28.0 × 14.0 = 392.0

規 模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	床面積18.6㎡

表 5 19号A案竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
南-北		P11~14		P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃			北壁-P ₂₁	東壁-棟持柱筋	P ₁₁	未確認
N-3°-W				(274)	(256)			146	276	P ₁₂	未確認
				P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄	測点 a ₄		P ₂₁ -D ₁₁	棟持柱筋-D ₁₁	P ₁₃	未確認
				(274)	(256)	東西-P ₂₁ -D ₂₁		170	10	P ₁₄	未確認
番号	検出面標高	平均				●166		D ₁₁ -P ₂₂	D ₁₁ -D ₂₁	P ₂₁	48.31
P ₁₁	未確認			棟持柱間 a ₁		D ₂₁ -東西 P ₂₂		164	168	P ₂₂	48.60
P ₁₂	未確認			P ₂₁ -P ₂₂		168		P ₂₂ -南壁	D ₂₁ -西壁	D ₁₁	48.79
P ₁₃	未確認			●334				148	125	D ₂₁	48.79
P ₁₄	未確認							北壁-南壁	棟持柱筋-D ₂₁		
P ₂₁	48.90							●628	●178		
P ₂₂	48.85								棟持柱筋-西壁		
壁	49.02								●303		
高床									東壁-西壁		
中床	48.92								●579		
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差							

●棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟 持 a ₁	334=30.1cm×11.1=334.1	334=30.4cm×11.0=334.4
△東西P ₂₁ -D ₁₁	166=30.1 × 5.5=165.6	166≒30.4 × 5.5=167.2
棟持柱筋-D ₂₁	178=30.1 × 5.9=177.6	178≒30.4 × 6.0=182.4
棟持柱筋-西壁	303≒30.1 × 10.1=304.0	303≒30.4 × 10.0=304.0
北壁-南壁	628≒30.1 × 20.9=629.1	628≒30.4 × 21.0=638.4
東壁-西壁	579≒30.1 × 19.2=577.9	579≒30.4 × 19.0=577.6

●(棟持換算-D ₂₁)換算	計 算 値	算 出 値
棟持柱筋-D ₂₁	178=30.2cm× 5.9=178.2	178=29.7cm× 6.0=178.2
棟 持 a ₁	334≒30.2 × 11.1=335.2	334≒29.7 × 11.0=326.7
△東西P ₂₁ -D ₁₁	166=30.2 × 5.5=166.1	166≒29.7 × 5.5=163.4
棟持柱筋-西壁	303≒30.2 × 10.0=302.0	303≒29.7 × 10.0=297.0
北壁-南壁	628=30.2 × 20.8=628.2	628≒29.7 × 21.0=623.7
東壁-西壁	579≒30.2 × 19.2=579.9	579≒29.7 × 19.0=564.3

規 模	(1間×1間)
	主 柱 (4)
	棟持柱 2
	床面積36.4㎡

表 6 19号B案竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠 番	桁行 A	梁 行 B	桁行柱間 a ₂	梁 間 b ₂	測 点 a	測 点 b	番号	標 高
N-3°-E	P11~14	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃			北壁-P ₂₁ 210	棟壁-棟持柱筋 260	P ₁₁	未確認
		P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄	測 点 a ₄ 東西 P ₂₁ -D ₂₁ ● 103		P ₂₁ -D ₁₁ (140)	棟持柱筋-D ₁₁ (0)	P ₁₂	未確認
		平均				D ₁₁ -P ₂₂ (140)	D ₁₁ -D ₂₁ 187	P ₁₃	未確認
			棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ● 280					P ₁₄	未確認
						D ₂₁ -東西 P ₂₂ 177		P ₂₁	48.55
						P ₂₂ -南壁 138	D ₂₁ -西壁 123	P ₂₂	48.59
						北壁-南壁 ● 628	棟持柱筋-D ₂₁ ● 187		
							棟持柱筋-西壁 ● 310		
							東壁-西壁 ● 570		
番号	検出面標高								
P ₁₁	未確認								
P ₁₂	未確認								
P ₁₃	未確認								
P ₁₄	未確認								
P ₂₁	48.85								
P ₂₂	48.64								
壁	49.02								
高床									
中床	49.87								
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差					

●棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟 持 a ₁	280=30.1cm× 9.3=279.9	280=31.1cm× 9.0=279.9
東西P ₂₁ -D ₁₁	103=30.1 × 3.4=102.3	103≒31.1 × 3.0= 93.3
棟持柱筋-D ₂₁	187=30.1 × 6.2=186.6	187=31.1 × 6.0=186.6
棟持柱筋-西壁	310=30.1 × 10.3=310.0	310≒31.1 × 10.0=311.0
北壁-南壁	628≒30.1 × 20.9=629.1	628≒31.1 × 20.0=622.0
東壁-西壁	570=30.1 × 18.9=568.9	570≒31.1 × 18.0=559.9

●(棟持柱筋換算-D ₂₁)換算	計 算 値	算 出 値
棟持柱筋-D ₂₁	187=30.2cm× 6.2=187.2	187=31.2cm× 6.0=187.2
棟 持 a ₁	280=30.2 × 9.3=280.9	280≒31.2 × 9.0=280.8
東西P ₂₁ -D ₁₁	103=30.2 × 3.4=102.7	103≒31.2 × 3.0= 93.6
棟持柱筋-西壁	310=30.2 × 10.3=311.1	310≒31.2 × 10.0=312.0
北壁-南壁	628=30.2 × 20.8=628.2	628≒31.2 × 20.0=624.0
東壁-西壁	570≒30.2 × 18.9=570.8	570≒31.2 × 18.0=561.6

規 模	(1間×1間)
	主 柱 (4)
	棟持柱 2
	床面積35.8㎡

表 7 1002号A 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
南—北		P12・21	P ₁₁ —P ₁₂	P ₁₁ —P ₁₃	276	228	北壁—北柱筋	東壁—東柱筋	P ₁₁	48.66
N—20°—W			(276)	228			71	(92)	P ₁₂	欠失
番号	検出面標高	平均	P ₁₃ —P ₁₄	P—P	測点 a ₄	測点 b ₄	北柱筋—P ₂₁	東柱筋—D ₁₁	P ₁₃	48.70
P ₁₁	48.88		276	(228)	北柱筋—DP ₂₁₁	東柱筋—P ₂₁	7	161	P ₁₄	48.50
P ₁₂	欠失		●276	●228	DP ₂₁₁ —D ₂₁	P ₂₁ —西柱筋	P ₂₁ —D ₁₁	D ₁₁ —西柱筋	P ₂₁	48.72
P ₁₃	48.89		棟持柱間 a ₁		10	106	124	67	P ₂₂	欠失
P ₁₄	48.82		P ₂₁ —P ₂₂		14	(114)	D ₁₁ —P ₂₂	西柱筋—DP ₂₁₁	D ₁₁	48.75
P ₂₁	48.87		●(262)		DP ₂₁₂ —南柱筋	東柱筋—P ₂₂	P ₂₂ —南柱筋	DP ₂₁₁ —D ₂₁	DP ₂₁	48.59
P ₂₂	欠失				125	(114)	(7)	17	DP ₂₁₂	48.59
壁	48.99				DP ₂₁₁ —DP ₂₁₂		南柱筋—南壁	D ₂₁ —西壁		
高床	?				24		(71)	39		
中床	48.99						北壁—南壁	西柱筋—西壁		
桁行比		桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差	●(418)		92		
1.21		1.21	48	48	-14			東壁—西壁		
						●(412)				

●桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁行 A	276 = 30.0cm × 9.2	276 = 30.7cm × 9.0 = 276.3
△梁行 B	228 = 30.0 × 7.6	228 ≒ 30.7 × 7.5 = 230.3
△棟持 a ₁	(262) ≒ 30.0 × 8.7 = 261.0	(262) ≒ 30.7 × 8.5 = 261.0
DP ₂₁₁ —DP ₂₁₂	24 = 30.0 × 0.8	24 ≒ 30.7 × 1.0 = 30.7
北壁—南壁	(418) ≒ 30.0 × 13.9 = 417.0	(418) ≒ 30.7 × 14.0 = 429.8
東壁—西壁	(412) ≒ 30.0 × 13.7 = 411.0	(412) ≒ 30.7 × 13.0 = 399.1

(DP ₂₁₁ —DP ₂₁₂)換算	計 算 値	算 出 値
DP ₂₁₁ —DP ₂₁₂	24 = 30.0cm × 0.8	24 = 24.0cm × 1.0
△桁行 A	276 = 30.0 × 9.2	276 = 24.0 × 11.5
△梁行 B	228 = 30.0 × 7.6	228 = 24.0 × 9.5
棟持 a ₁	(262) ≒ 30.0 × 8.7 = 261.0	(262) ≒ 24.0 × 11.0 = 264.0
北壁—南壁	(418) ≒ 30.0 × 13.9 = 417.0	(418) ≒ 24.0 × 17.0 = 408.0
東壁—西壁	(412) ≒ 30.0 × 13.7 = 411.0	(412) ≒ 24.0 × 17.0 = 408.0

規 模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	壁沿高床 1 ? 床面積 17.2m ²

表 8 1002号B 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高	
南—北		P14	P ₁₁ —P ₁₂	P ₁₁ —P ₁₃	174	180	北壁—北柱筋	東壁—東柱筋	P ₁₁	48.40	
N—18°—W			DP211・212	174			180	122	76	P ₁₂	48.10
番号	検出面標高	平均	P ₁₃ —P ₁₄	P ₁₂ —P ₁₄	測点 b ₄	東柱筋—P ₂₁	北柱筋—P ₂₁	東柱筋—D ₁₁	P ₁₃	48.76	
P ₁₁	48.84		(174)	(180)	96	22	115	P ₂₁ —D ₁₁	D ₁₁ —西柱筋	P ₁₄	未確認
P ₁₂	48.87		棟持柱間 a ₁		東柱筋—P ₂₂	75	65	D ₁₁ —P ₂₂	西柱筋—西壁	P ₂₁	48.55
P ₁₃	48.84		P ₂₁ —P ₂₂		94	63	●91			P ₂₂	48.75
P ₁₄	未確認		●138		P ₂₁ —西柱筋	84	●347	P ₂₂ —南柱筋	東壁—西壁	D ₁₁	48.81
P ₂₁	48.89				84	(86)	南柱筋—南壁			D ₂₂	欠失
P ₂₂	48.89						(122)				
壁	48.99						北壁—南壁				
高床							●(418)				
中床	48.91										
桁行比		桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差						
0.97		0.97	-6	-6	-36						

●桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁 行 A	$174 = 30.0\text{cm} \times 5.8$	$174 = 29.0\text{cm} \times 6.0$
梁 行 B	$180 = 30.0 \times 6.0$	$180 \approx 29.0 \times 6.0 = 174.0$
棟 持 a ₁	$138 = 30.0 \times 4.6$	$138 \approx 29.0 \times 5.0 = 145.0$
西柱筋-西壁	$91 \approx 30.0 \times 3.0 = 90.0$	$91 \approx 29.0 \times 3.0 = 87.0$
北壁-南壁	$(418) \approx 30.0 \times 13.9 = 417.0$	$(418) \approx 29.0 \times 14.0 = 406.0$
東壁-西壁	$347 \approx 30.0 \times 11.6 = 348.0$	$347 \approx 29.0 \times 12.0 = 348.0$

●(西柱筋-西壁)換算	計 算 値	算 出 値
西柱筋-西壁	$91 = 30.0\text{cm} \times 3.0 = 90.0$	左に同じ
桁 行 A	$174 = 30.0 \times 5.8$	$174 = 30.0 \times 6.0 = 180.0$
梁 行 B	$180 = 30.0 \times 6.0$	左に同じ
棟 持 a ₁	$138 = 30.0 \times 4.6$	$138 = 30.0 \times 5.0 = 150.0$
北壁-南壁	$(418) \approx 30.0 \times 13.9 = 417.0$	$(418) \approx 30.0 \times 14.0 = 406.0$
東壁-西壁	$347 \approx 30.0 \times 11.6 = 348.0$	$347 \approx 30.0 \times 12.0 = 360.0$

規 模	1間×1間
	主 柱 4
	棟持柱 2
	床面積14.5㎡

表 9 1003号A 竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠 番	桁行 A	梁 行 B	桁行柱間 a ₂	梁 間 b ₂	測 点 a	測 点 b	番号	標 高
北西-南東 N-39°-W	P11~14, HP21	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	(301)	(220)	北壁沿高床幅	東壁-HP ₂₁₂	P ₁₁	未検出
	H21, HP211, 212	(301)	(220)	(301)	(220)	120	(111)	P ₁₂	未検出
平均	●(301)	●(220)	測点 a ₂	測点 b ₄	高床南縁-P ₂₁	HP ₂₁₂ -D ₁₁	P ₁₃	未検出	
									P ₁₃ -P ₁₄
番号	検出面標高	棟持柱間 a ₁		H ₂₁ 南縁-HP ₂₁₁	測点 a ₄	南柱筋-P ₂₂	棟持柱筋-西柱筋	P ₂₁	47.44
P ₁₁	未検出	●321	(11)					10	54
P ₁₂	未検出	P ₂₁ -P ₂₂	HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	北柱筋-D ₁₁	P ₂₂ -高床北縁	西柱筋-D ₂₁	D ₁₁	47.49
P ₁₃	未検出	検出面標高	●(79)	HP ₂₁₂ -H ₂₁ 北縁	D ₁₁ -南柱筋	(44)	87	D ₂₁	47.52
P ₁₄	欠							HP ₂₁₁	無配置
P ₂₁	47.73	S X 1009	48.05	11	164	南壁沿高床幅	D ₂₁ -西壁	H ₂₁	未検出
P ₂₂	47.68	高床	47.90	H ₂₁ 長	北柱筋-D ₂₁	(120)	24	HP ₂₁₁	未検出
壁	48.03	刀子茎尻	47.92	106	134	北壁-南壁	東壁-西壁	HP ₂₁₂	47.69
中床	47.75	刀子切先	47.92	北柱筋-HP ₂₁₁	D ₂₁ -南柱筋	●(649)	●(442)	SX1009	47.88
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差					
(1.39)	(1.39)	(81)	(81)	(20)					

●棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟 持 a ₁	$321 = 30.0\text{cm} \times 10.7$	$321 = 29.2\text{cm} \times 11.0 = 321.2$
△桁 行 A	$(301) \approx 30.0 \times 10.0 = 300.0$	$(301) \approx 29.2 \times 10.5 = 306.6$
△梁 行 B	$(220) \approx 30.0 \times 7.3 = 219.0$	$(220) \approx 29.2 \times 7.5 = 219.0$
△HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	$(79) \approx 30.0 \times 2.6 = 78.0$	$(79) \approx 29.2 \times 2.5 = 73.0$
北壁-南壁	$(649) \approx 30.0 \times 21.6 = 648.0$	$(649) \approx 29.2 \times 22.0 = 642.4$
東壁-西壁	$(442) \approx 30.0 \times 14.7 = 441.0$	$(442) \approx 29.2 \times 15.0 = 438.0$

(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計 算 値	算 出 値
△HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	$(79) = 30.4\text{cm} \times 2.6 = 79.04$	$(79) = 31.6\text{cm} \times 2.5$
棟 持 a ₁	$321 = 30.4 \times 10.6 = 322.2$	$321 = 31.6 \times 10.0 = 316.0$
△桁 行 A	$(301) \approx 30.4 \times 9.9 = 300.96$	$(301) = 31.6 \times 9.5 = 300.2$
梁 行 B	$(220) \approx 30.4 \times 7.3 = 221.9$	$(220) \approx 31.6 \times 7.0 = 221.2$
北壁-南壁	$(649) \approx 30.4 \times 21.3 = 647.5$	$(649) \approx 31.6 \times 21.0 = 663.6$
東壁-西壁	$(442) \approx 30.4 \times 14.5 = 440.8$	$(442) = 31.6 \times 14.0 = 442.4$

規 模	1間×1間
	主 柱 (4)
	棟持柱 2
	壁沿高床(2)
	方形区画 H ₂₁
住居遺棄祭祀	
床面積(28.7)㎡	

表10 1003号B 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
北西-南東		P11~14	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	(301)	(220)	北壁沿高床幅 ●123	東壁-東柱筋 (111)	P ₁₁	未検出
N-39°-W		DP211・212	P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄	測点 a ₄ 北柱筋-D ₂₁		高床南縁-P ₂₁ 41	東柱筋-D ₁₁ (103)	P ₁₂	重複
番号	検出面標高	平均	(301)	(220)	134		P ₂₁ -北柱筋 10	D ₁₁ -棟持柱筋 7	P ₁₃	重複
P ₁₁	重複	棟持柱間 a ₁			D ₂₁ -南柱筋 ●167		北柱筋-D ₁₁ 130	棟持柱筋-西柱筋 (110)	P ₁₄	欠失
P ₁₂	重複	P ₂₁ -P ₂₂ ●321			北高床南縁-D ₂₁ 175		D ₁₁ -南柱筋 170	西柱筋-D ₂₁ ●87	P ₂₁	47.50
P ₁₃	重複				D ₂₁ -南高床北縁 ●(228)		南柱筋-P ₂₁ 10	D ₂₁ -西壁 ●24	P ₂₂	重複
P ₁₄	重複				測点 a		P ₂₁ -高床北縁 (41)	東壁-西壁 (442)	D ₁₁	47.58
P ₂₁	重複				北壁-南壁 (649)		北壁沿高床幅 (123)		D ₂₁	47.52
P ₂₂	重複								DP ₂₁₁	除去祭祀
壁	48.03								DP ₂₁₂	除去祭祀
高床	47.81									
中床	47.68									
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差						
(1.49)	(1.49)	(81)	(81)	(20)						

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	321 = 30.0cm × 10.7	321 = 29.2cm × 11.0 = 321.2
△D ₂₁ -南柱筋	167 ≒ 30.0 × 5.6 = 168.0	167 ≒ 29.2 × 5.5 = 160.6
D ₂₁ -南高床北縁	(228) = 30.0 × 7.6	(228) ≒ 29.2 × 8.0 = 233.6
北壁沿高床幅	123 = 30.0 × 4.1	123 ≒ 29.2 × 4.0 = 116.8
西柱筋-D ₂₁	87 = 30.0 × 2.9	87 ≒ 29.2 × 3.0 = 87.6
D ₂₁ -西壁	24 = 30.0 × 0.8	24 ≒ 29.2 × 1.0 = 29.2

(D ₂₁ -南高床)換算	計算値	算出値
D ₂₁ -南高床北縁	(228) = 30.0cm × 7.6	(228) = 28.5cm × 8.0
△棟持 a ₁	321 = 30.0 × 10.7	321 ≒ 28.5 × 11.5 = 327.8
D ₂₁ -南柱筋	167 ≒ 30.0 × 5.6 = 168.0	167 ≒ 28.5 × 6.0 = 171.0
△北壁沿高床幅	123 = 30.0 × 4.1	123 ≒ 28.5 × 4.5 = 128.3
西柱筋-D ₂₁	87 = 30.0 × 2.9	87 ≒ 28.5 × 3.0 = 85.5
D ₂₁ -西壁	24 = 30.0 × 0.8	24 ≒ 28.5 × 1.0 = 28.5

規 模	1間×1間
	主柱(4)
	棟持柱 2
	壁沿高床(2)
	建て替え祭祀 床面積(28.7)㎡

表11 1011号竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
南-北		P11・14・32	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	(368)	(478)	南壁沿高床幅 (149)	西壁-西柱筋 26	P ₁₁	欠失
N-21°-E		H21, DH21	P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄	測点 a ₄ 南柱筋(HP ₂₁₁) -H ₂₁ 南縁 (18)	測点 b ₄ 西壁-HP ₂₁₂ 26	高床北縁-P ₂₁ (3)	西柱筋-H ₂₁ 東縁 (92)	P ₁₂	47.83
番号	検出面標高	平均	●(368)	●(478)	H ₂₁ 長 (340)	HP ₂₁₂ -H ₂₁ 東縁 (92)	P ₂₁ -南柱筋 7	H ₂₁ 東縁-棟持柱筋 (135)	P ₁₃	47.60
P ₁₁	欠失	棟持柱間 a ₁			H ₂₁ 北縁-北柱筋(HP ₂₁₂) (10)	測点 b	南柱筋-D ₁₁ ●176	棟持柱筋-D ₁₁ 20	P ₁₄	欠失
P ₁₂	48.00	P ₂₁ -P ₂₂ ●299			HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂ ●(368)	H ₂₁ 幅 (118)	D ₁₁ -P ₂₂ 116	D ₁₁ -HD ₂₁ 西縁 (126)	P ₂₁	47.69
P ₁₃	47.67	測点 a ₄ HD ₂₁ 長 (194)			南柱筋-HD ₂₁ 南縁 (117)	HD ₂₁ 幅 (125)	P ₂₂ -北柱筋 76	HD ₂₁ 西縁-D ₂₁ 89	P ₂₂	47.35
P ₁₄	欠失	P ₃₁ -P ₂₁ 東西軸 26			南柱筋-HD ₂₁ 南縁 (117)	P ₃₁ -棟持柱筋 80	北柱筋-高床南縁 45	D ₂₁ -東柱筋 13	D ₁₁	47.47
P ₂₁	47.73				HD ₂₁ 南縁-D ₂₁ (92)		北壁沿高床幅 114	東柱筋-東壁 23	D ₂₁	47.75
P ₂₂	47.70				D ₂₁ -HD ₂₁ 南縁 (102)		南壁-北壁 ●(686)	西壁-東壁 ●(523)	DH ₂₁	欠失
壁	48.22				HD ₂₁ 南縁-北柱筋 (57)				DP ₂₁₁	無配置
高床	48.08								DP ₂₁₂	無配置
中床	48.02								H ₂₁	48.02
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差					HP ₂₁₁	P ₁₁ 兼用
(0.77)	(0.77)	(-110)	(-110)	(-69)					HP ₂₁₂	P ₁₂ 兼用
									刀子	48.07
									P ₂₂₁	47.28
									P ₃₁	47.56
									P ₃₂	未検出

●棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟 持 a ₁	299 ≒ 30.0cm × 10.0 = 300.0	299 = 29.9cm × 10.0
梁 行 B	(478) ≒ 30.0 × 15.9 = 477.0	(478) = 29.9 × 16.0 = 478.4
△HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	(368) ≒ 30.0 × 12.3 = 369.0	(368) ≒ 29.9 × 12.5 = 373.8
南柱筋-D ₁₁	176 ≒ 30.0 × 5.9 = 177.0	176 ≒ 29.9 × 6.0 = 179.4
南壁-北壁	(686) ≒ 30.0 × 22.9 = 687.0	(686) ≒ 29.9 × 23.0 = 687.7
西壁-東壁	(523) ≒ 30.0 × 17.4 = 522.0	(523) ≒ 29.9 × 17.0 = 508.3
(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計 算 値	算 出 値
△HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	(368) = 29.9cm × 12.3 = 367.8	(368) = 29.4cm × 12.5 = 367.5
棟 持 a ₁	299 = 29.9 × 10.0	299 ≒ 29.4 × 10.0 = 294.0
梁 行 B	(478) = 29.9 × 16.0 = 478.4	(478) ≒ 29.4 × 16.5 = 485.1
南柱筋-D ₁₁	176 = 29.9 × 5.9 = 176.4	176 = 29.4 × 6.0 = 176.4
南壁-北壁	(686) ≒ 29.9 × 22.9 = 684.7	(686) ≒ 29.4 × 23.0 = 676.2
西壁-東壁	(523) = 29.9 × 17.5 = 523.3	(523) ≒ 29.4 × 18.0 = 529.2

規 模	1間×1間
	主 柱 (4)
	棟持柱 2
	壁沿高床 2
	方形区画 DH ₂₁
	方形区画 H ₂₁
	住居遺棄祭祀 床面積(35.9)㎡

表12 1018号A竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠 番	桁行 A	梁 行 B	桁行柱間 a ₂	梁 間 b ₂	測 点 a	測 点 b	番号	標 高
南東-北西 N-51°-W	P13・14・42a	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	361	(266)	西壁-西柱筋	北壁-北柱筋	P ₁₁	48.35
	P42b・43b P44b	361	(266)			81	51	P ₁₂	48.25
		P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄	測 点 a ₄	測 点 b ₄	西柱筋-P ₂₁	北柱筋-D ₁₁	P ₁₃	未確認
		(361)	(266)	西柱筋-DP ₂₁₁	北柱筋-P ₂₁	0	180	P ₁₄	未確認
番号	検出面標高	● 361	● (266)	136	133	P ₂₁ -D ₁₁	D ₁₁ -DP ₂₁₁	P ₂₁	48.54
P ₁₁	48.64	棟持柱間 a ₁		DP ₂₁₁ -D ₂₁	北柱筋-P ₂₂	201	98	P ₂₂	48.30
P ₁₂	48.59	P ₂₁ -P ₂₂		35	127	D ₁₁ -東柱筋	DP ₂₁₁ -D ₂₁	P _{41a}	48.48
P ₁₃	未確認	● 361		D ₂₁ -DP ₂₁₂	南柱筋-P ₂₁	160	20	P _{41b}	48.63
P ₁₄	未確認			33	(133)	東柱筋-P ₂₂	D ₂₁ -南壁	P _{43a}	48.46
P ₂₁	48.68			DP ₂₁₂ -東柱筋	南柱筋-P ₂₂	0	49	P _{44a}	48.46
P ₂₂	48.64			137	139	P ₂₂ -東壁	北壁-南壁	D ₁₁	48.59
壁	48.74			DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂		97	● 398	D ₂₁	48.46
高床				● 68		西壁-東壁	測 点 B	DP ₂₁₁	48.27
中床	48.73					● 539	P _{41b} -北壁	DP ₂₁₂	48.26
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差				測 点 A	
1.36	1.36	95	95	0				P _{41a} -西壁	41
								P _{43a} -西壁	54
								P _{44a} -東壁	45
●桁行換算	計 算 値	算 出 値							
桁 行 A	361 = 30.1cm × 12.0 = 361.2	左に同じ							
梁 行 B	(266) ≒ 30.1 × 8.8 = 264.9	(266) ≒ 30.1 × 9.0 = 271.0							
△DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	68 ≒ 30.1 × 2.3 = 69.2	68 ≒ 30.1 × 2.5 = 75.3							
西壁-東壁	539 ≒ 30.1 × 17.9 = 538.8	539 ≒ 30.1 × 18.0 = 541.8							
北壁-南壁	398 ≒ 30.1 × 13.2 = 397.3	398 = 30.1 × 13.0 = 391.3							
(DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂)換算	計 算 値	算 出 値							
△DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	68 = 29.6cm × 2.3 = 68.1	68 = 27.2cm × 2.5							
△桁 行 A	361 = 29.6 × 12.2 = 361.1	361 ≒ 27.2 × 13.5 = 367.2							
梁 行 B	(266) = 29.6 × 9.0 = 266.4	(266) = 27.2 × 10.0 = 272.0							
西壁-東壁	539 = 29.6 × 18.2 = 538.7	539 = 27.2 × 20.0 = 544.0							
北壁-南壁	398 ≒ 29.6 × 13.4 = 396.6	398 = 27.2 × 15.0 = 408.0							
			規 模						
			1間×1間						
			主 柱 4						
			棟持柱 2						
			対角柱 (8)						
			床面積21.5㎡						

表13 1018号B 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A		梁行 B		桁行柱間 a ₂		梁間 b ₂		測点 a ₁		測点 b ₁		番号	標高
南東—北西 N—49°—W		P13・14		P ₁₁ —P ₁₂ 341		P ₁₁ —P ₁₂ (292)		341		(292)		西壁—西柱筋 96		北壁—北柱筋 30		P ₁₁	48.40
番号		検出面標高		平均		●341 ●(292)		測点 A 西柱筋—DP ₂₁₁ 146		西柱筋—P ₂₁ 70		北柱筋—D ₁₁ 186		P ₁₃		未確認	
P ₁₁		48.64		棟持柱間 a ₁		●225		DP ₂₁₁ —D ₂₁ 43		P ₂₁ —D ₁₁ 117		D ₁₁ —DP ₂₁₂ 98		P ₁₄		未確認	
P ₁₂		重複		P ₂₁ —P ₂₂		●225		D ₂₁ —DP ₂₁₂ 27		D ₁₁ —P ₂₁ 108		DP ₂₁₂ —D ₂₁ 15		P ₂₁		48.17	
P ₁₃		未確認		●225		●225		DP ₂₁₂ —東柱筋 125		P ₂₁ —東柱筋 46		D ₂₁ —南壁 60		P ₂₂		48.12	
P ₁₄		未確認		●225		●225		DP ₂₁₁ —DP ₂₁₂ ●70		東柱筋—東壁 105		北壁—南壁 ●389		D ₁₁		48.59	
P ₂₁		48.68		●225		●225		●70		西壁—東壁 ●542		●389		D ₂₁		48.32	
P ₂₂		48.70		●225		●225		●70		●542		●389		DP ₂₁₁		48.25	
壁		48.67		●225		●225		●70		●542		●389		DP ₂₁₂		48.25	
高床				●225		●225		●70		●542		●389					
中床		48.66		●225		●225		●70		●542		●389					
桁行比		桁行柱比		桁行差		桁行柱差		棟持柱差		●542		●389					
1.17		1.17		49		49		-116		●542		●389					

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	341 = 29.9cm × 11.4 = 340.9	341 = 31.0cm × 11.0
△梁行 B	(292) = 29.9 × 9.8 = 293.0	(292) = 31.0 × 9.5 = 294.5
△棟持 a ₁	225 = 29.9 × 7.5 = 224.3	225 = 31.0 × 7.5 = 232.5
△DP ₂₁₁ —DP ₂₁₂	70 = 29.9 × 2.3 = 68.8	70 = 31.0 × 2.5 = 77.5
西壁—東壁	542 = 29.9 × 18.0 = 538.2	542 = 31.0 × 17.0 = 527.0
北壁—南壁	389 = 29.9 × 13.0 = 388.8	389 = 31.0 × 13.0 = 403.0

●(DP ₂₁₁ —DP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
△DP ₂₁₁ —DP ₂₁₂	70 = 30.4cm × 2.3 = 69.9	70 = 28.0cm × 2.5
桁行 A	341 = 30.4 × 11.2 = 340.5	341 = 28.0 × 12.0 = 336.0
△梁行 B	(292) = 30.4 × 9.6 = 291.9	(292) = 28.0 × 10.5 = 294.0
棟持 a ₁	225 = 30.4 × 7.4 = 225.0	225 = 28.0 × 8.0 = 224.0
西壁—東壁	542 = 30.4 × 18.0 = 547.2	542 = 28.0 × 19.0 = 532.0
北壁—南壁	389 = 30.4 × 13.0 = 395.2	389 = 28.0 × 14.0 = 392.0

規 模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	床面積21.1m ²

表14 1019号A 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A		梁行 B		桁行柱間 a ₂		梁間 b ₂		測点 a		測点 b		番号	標高
南東—北西 N—34°—W		P12・14		P ₁₁ —P ₁₂ (327)		P ₁₁ —P ₁₃ 297		(327)		297		北壁—北柱筋 103		東壁—東柱筋 63		P ₁₁	48.17
番号		検出面標高		平均		●(327) ●297		測点 a ₄ 北柱筋—DP ₂₁₁ 114		測点 b ₄ 東柱筋—P ₂₁ 130		北柱筋—P ₂₁ 10		東柱筋—DP ₁₁₁ 183		P ₁₂	未確認
P ₁₁		48.31		棟持柱間 a ₁		●307		DP ₂₁₁ —DP ₂₁ 34		P ₂₁ —西柱筋 177		P ₂₁ —DP ₁₁₁ 114		DP ₁₁₁ —DP ₂₁₁ 114		P ₁₃	48.15
P ₁₂		未確認		●307		●307		DP ₂₁ —DP ₂₁₂ 40		P ₂₁ —東柱筋—P ₂₂ 167		DP ₁₁₁ —P ₂₂ 130		DP ₂₁₁ —D ₂₁ 5		P ₁₄	未確認
P ₁₃		48.28		●307		●307		DP ₂₁₁ —DP ₂₁₂ ●74		P ₂₂ —南柱筋 167		P ₂₂ —南柱筋 10		D ₂₁ —西壁 57		P ₂₁	48.23
P ₁₄		未確認		●307		●307		●74		P ₈₁ —棟持柱筋 8		南柱筋—P ₈₁ 47		東壁—西壁 ●422		P ₂₂	48.27
P ₂₁		48.33		●307		●307		●74		P ₈₁ —南壁 61		P ₈₁ —南壁 47		●422		P ₈₁	48.17
P ₂₂		48.41		●307		●307		●74		壁隅高床西縁—棟持柱筋 10		南柱筋—壁隅高床 10		壁隅高床幅 118		D ₁₁	48.22
壁		48.66		●307		●307		●74		●538		●538		●422		D ₂₁	48.01
高床		48.48		●307		●307		●74		●538		●538		●422		DP ₂₁₁	47.97
中床		48.39		●307		●307		●74		●538		●538		●422		DP ₂₁₂	47.99
桁行比		桁行柱比		桁行差		桁行柱差		棟持柱差		●538		●422					
1.10		1.10		30		30		-20		●538		●422					

●桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁 行 A	$(327) = 30.0\text{cm} \times 10.9$	$(327) = 29.7\text{cm} \times 11.0 = 326.7$
梁 行 B	$297 = 30.0 \times 9.9$	$297 = 29.7 \times 10.0$
△棟 持 a ₁	$307 \approx 30.0 \times 10.2 = 306.0$	$307 \approx 29.7 \times 10.5 = 311.9$
△DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	$74 \approx 30.0 \times 2.5 = 75.0$	$74 = 29.7 \times 2.5 = 74.3$
北壁-南壁	$538 \approx 30.0 \times 17.9 = 537.0$	$538 \approx 29.7 \times 18.0 = 534.6$
東壁-西壁	$422 \approx 30.0 \times 14.1 = 423.0$	$422 \approx 29.7 \times 14.0 = 415.8$

●(DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂)換算	計 算 値	算 出 値
△(DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂)	$74 \approx 30.0\text{cm} \times 2.5 = 75.0$	$74 = 29.6\text{cm} \times 2.5$
桁 行 A	$(327) = 30.0 \times 10.9$	$(327) \approx 29.6 \times 11.0 = 325.6$
梁 行 B	$297 = 30.0 \times 9.9$	$297 \approx 29.6 \times 10.0 = 296.0$
△棟 持 a ₁	$307 \approx 30.0 \times 10.2 = 306.0$	$307 \approx 29.6 \times 10.5 = 310.8$
北壁-南壁	$538 \approx 30.0 \times 17.9 = 537.0$	$538 \approx 29.6 \times 18.0 = 532.8$
東壁-西壁	$422 \approx 30.0 \times 14.1 = 423.0$	$422 \approx 29.6 \times 14.0 = 414.4$

規 模	1間×1間
	主 柱 4
	棟持柱 2
	補 柱 1
	壁隅高床 1
床面積22.7㎡	

表15 1019号B 縦穴住居跡計測表

主軸方向	欠 番	桁行 A	梁 行 B	桁行柱間 a ₂	梁 間 b ₂	測 点 a	測 点 b	番号	標 高
南東-北西 N-32°-W	P11・14	P ₁₁ -P ₁₂ (259)	P ₁₁ -P ₁₃ (357)	(259)	(357)	北壁-P ₈₁ 112	東壁-東柱筋 17	P ₁₁	未確認
		P ₁₃ -P ₁₄ (259)	P ₁₂ -P ₁₄ (357)	測 点 a ₄	測 点 b ₄	P ₈₁ -北柱筋 20	東柱筋-DP ₁₁₁ 223	P ₁₂	48.09
		●(259)	●(357)	北柱筋-DP ₂₁₁ 93	東柱筋-P ₂₁ 191	北柱筋-P ₂₁ 38	DP ₁₁₁ -D ₂₁ 131	P ₁₃	48.16
		棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ●208		DP ₂₁₁ -D ₂₁ 38	P 2 1-西柱筋 166	P ₂₁ -DP ₁₁₁ 120	D ₂₁ -DP ₂₁₁ 3	P ₁₄	48.25
				D ₂₁ -DP ₂₁₂ 32	東柱筋-P ₂₂ 191	DP ₁₁₁ -P ₂₂ 88	D ₂₁ -西壁 49	P ₂₁	47.72
				DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂ ●70	P ₂₂ -西柱筋 166	P ₂₂ -南柱筋 13	東壁-西壁 ●423	P ₂₂	47.71
				DP ₂₁₂ -南柱筋 96	P ₈₁ -棟持柱筋 17	南柱筋-壁隅高床 10		P ₈₁	48.18
				壁隅高床西縁-棟持柱筋 10		壁隅高床幅 137		D ₁₁	48.16
						北壁-南壁 ●538		DP ₁₁₁	48.13
								D ₂₁	48.01
								DP ₂₁₁	47.92
								DP ₂₁₂	47.87
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差					
0.73	0.73	-98	-98	-51					

●桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁 行 A	$(259) = 30.1\text{cm} \times 8.6 = 258.9$	$(259) = 28.8\text{cm} \times 9.0 = 259.2$
△梁 行 B	$(357) \approx 30.1 \times 11.9 = 358.2$	$(357) \approx 28.8 \times 12.5 = 360.0$
棟 持 a ₁	$208 = 30.1 \times 6.9 = 207.7$	$208 \approx 28.8 \times 7.0 = 201.6$
△DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	$70 \approx 30.1 \times 2.3 = 69.2$	$70 \approx 28.8 \times 2.5 = 72.0$
北壁-南壁	$538 \approx 30.1 \times 17.9 = 538.8$	$538 \approx 28.8 \times 19.0 = 547.2$
東壁-西壁	$423 \approx 30.1 \times 14.1 = 424.4$	$423 = 28.8 \times 15.0 = 432.0$

(DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂)換算	計 算 値	算 出 値
△(DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂)	$70 = 30.4\text{cm} \times 2.3 = 69.9$	$70 = 28.0\text{cm} \times 2.5$
桁 行 A	$(259) \approx 30.4 \times 8.5 = 258.4$	$(259) \approx 28.0 \times 9.5 = 266.0$
梁 行 B	$(357) \approx 30.4 \times 11.7 = 355.7$	$(357) \approx 28.0 \times 13.0 = 364.0$
△棟 持 a ₁	$208 \approx 30.4 \times 6.8 = 206.7$	$208 \approx 28.0 \times 7.5 = 210.0$
北壁-南壁	$538 = 30.4 \times 17.7 = 538.1$	$538 \approx 28.0 \times 19.0 = 532.0$
東壁-西壁	$423 = 30.4 \times 13.9 = 422.6$	$423 \approx 28.0 \times 15.0 = 420.0$

規 模	1間×1間
	主 柱 4
	棟持柱 2
	補 柱 1
	壁隅高床 1
床面積22.8㎡	

表16 1019号C 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高		
南東-北西		P11~14	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	(257)	(332)	北壁-P ₈₁	東壁-東柱筋	P ₁₁	未確認		
N-27°-W		D11	(257)	(332)	(257)	(332)	100	49	P ₁₂	未確認		
番号	検出面標高	平均	P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₃ -P ₁₄	測点 a ₄	測点 b ₄	P ₈₁ -北柱筋	西柱筋-西壁	P ₁₃	重複		
			(257)	(332)	北柱筋-DP ₂₁₁	東柱筋-P ₂₁	48	44	P ₁₄	欠失		
			●(257)	●(332)	棟持柱間 a ₁	DP ₂₁₁ -D ₂₁	P ₂₁ -西柱筋	72	●425	P ₂₁	未掘	
			P ₂₁ -P ₂₂	(166)						P ₂₂ -南柱筋	P ₂₂	47.56
			P ₂₁	48.31	棟持柱間 a ₁	●129	D ₂₁ -DP ₂₁₂	東柱筋-P ₂₂	56	南柱筋-南壁	P ₃₁	48.11
			P ₂₂	48.30	P ₂₁ -P ₂₂	●129	DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	P ₂₂ -西柱筋	131		P ₃₂	48.03
			壁	48.66			P ₂₁ -P ₂₂	●129	DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	(166)	北壁-南壁	P ₈₁
			高床		P ₂₁ -P ₂₂	●129			DP ₂₁₂ -南柱筋	P ₃₁ -P ₃₂	●536	D ₁₁
			中床	48.25			P ₂₁ -P ₂₂	●129	P ₃₁ -南柱筋	●168	●536	D ₂₁
			桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差			棟持柱差	P ₃₁ -南柱筋		58
(0.77)	(0.77)	(-75)	(-75)	(-128)				DP ₂₁₂	除去痕			

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(257) = 29.9cm × 8.6 = 257.1	(257) = 28.6cm × 9.0 = 257.4
△梁行 B	(332) = 29.9 × 11.1 = 331.9	(332) = 28.6 × 11.5 = 328.9
△棟持 a ₁	129 = 29.9 × 4.3 = 128.6	129 = 28.6 × 4.5 = 128.7
P ₃₁ - P ₃₂	168 = 29.9 × 5.6 = 167.4	168 = 28.6 × 6.0 = 171.6
北壁-南壁	536 = 29.9 × 17.9 = 535.2	536 = 28.6 × 19.0 = 543.4
東壁-西壁	425 = 29.9 × 14.2 = 424.6	425 = 28.6 × 15.0 = 429.0

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	129 = 30.0cm × 4.3	129 = 32.3cm × 4.0 = 129.2
桁行 A	(257) = 30.0 × 8.6 = 258.0	(257) = 32.3 × 8.0 = 258.4
△梁行 B	(332) = 30.0 × 11.1 = 333.0	(332) = 32.3 × 10.5 = 339.2
P ₃₁ - P ₃₂	168 = 30.0 × 5.6	168 = 32.3 × 5.0 = 161.5
北壁-南壁	536 = 30.0 × 17.9 = 537.0	536 = 32.3 × 17.0 = 549.1
東壁-西壁	425 = 30.0 × 14.2 = 426.0	425 = 32.3 × 13.0 = 419.9

規模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	主軸間柱 2
	補柱 1
床面積22.8㎡	

表17 1020号A 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高		
南-北		P11~13	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	(232)	(262)	北壁-北柱筋	東壁-東柱筋	P ₁₁	未確認		
N-5°-W		DP111	(232)	(262)	(232)	(262)	(159)	77	P ₁₂	未確認		
番号	検出面標高	平均	P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄	測点 a ₄	測点 b ₄	北柱筋-P ₂₁	東柱筋-D ₁₁	P ₁₃	未確認		
			(232)	(262)	北柱筋-DP ₂₁₁	東柱筋-P ₂₁	(38)	176	P ₁₄	48.10		
			●(232)	●(262)	棟持柱間 a ₁	DP ₂₁₁ -D ₂₁	P ₂₁ -西柱筋	78	D ₁₁ -西柱筋	P ₂₁	47.54	
			P ₂₁ -P ₂₂	39						(131)	78	78
			P ₂₁	48.29	P ₂₁ -P ₂₂	●156	D ₂₁ -DP ₂₁₂	東柱筋-P ₂₂	78	8	D ₁₁	48.26
			P ₂₂	48.26			30	(131)	P ₂₂ -南柱筋	D ₂₁ -DP ₂₁₂	D ₂₁	47.15
			壁	48.67	P ₂₁ -P ₂₂	●156	DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	P ₂₂ -西柱筋	●69	131	DP ₂₁₁	48.14
			高床				P ₂₁ -P ₂₂	●156	DP ₂₁₂ -南柱筋	131	南柱筋-南壁	DP ₂₁₂ -西壁
			中床	48.35	P ₂₁ -P ₂₂	●156					(161)	64
			桁行比	桁行柱比			桁行差	桁行柱差	棟持柱差		北壁-南壁	東壁-西壁
(0.89)	(0.89)	(-30)	(-30)	(-76)		●(552)	●419					

●桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁 行 A	(232)=30.1cm×7.7=231.8	(232)=29.0cm×8.0
梁 行 B	(262)=30.1×8.7=261.9	(262)≒29.0×9.0=261.0
△棟 持 a ₁	156 ≒30.1×5.2=156.5	156 ≒29.0×5.5=159.5
△DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	69 =30.1×2.3=69.2	69 ≒29.0×2.5=72.5
北壁-南壁	(552)≒30.1×18.3=550.9	(552)≒29.0×19.0=551.0
東壁-西壁	419 ≒30.1×13.9=418.4	419 ≒29.0×14.0=406.0
(DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂)換算	計 算 値	算 出 値
△DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	69 =30.0cm×2.3	69 =27.6cm×2.5
△桁 行 A	(232)≒30.0×7.7=231.0	(232)≒27.6×8.5=234.6
△梁 行 B	(262)≒30.0×8.7=261.0	(262)=27.6×9.5=262.2
△棟 持 a ₁	156 =30.0×5.2	156 ≒27.6×5.5=151.8
北壁-南壁	(552)=30.0×18.4	(552)=27.6×20.0=552.0
東壁-西壁	419 ≒30.0×14.0=420.0	419 =27.6×15.0=414.0

規 模	1間×1間
	主 柱 4
	棟持柱 1
	床面積(23.1)㎡

表18 1020号B 堅穴住居跡計測表

主軸方向	欠 番	桁行 A	梁 行 B	桁行柱間 a ₂	梁 間 b ₂	測 点 a	測 点 b	番号	標 高	
南-北 N-5°-W	P11~14	P ₁₁ -P ₁₂ (232)	P ₁₁ -P ₁₃ (262)	(232)	(262)	北壁-北柱筋 (125)	東壁-東柱筋 29	P ₁₁	重複	
	P21・22	P ₁₃ -P ₁₄ (232)	P ₁₂ -P ₁₄ (262)	測 点 a ₄ 北柱筋-DP ₂₁₁	測 点 b ₄ 東柱筋-P ₂₁	北柱筋-P ₂₁ (38)	東柱筋-DP ₁₁₁ 145	P ₁₂ P ₁₃ P ₁₄	重複 重複 重複	
番号 検出面標高 P ₁₁ 重複 P ₁₂ 重複 P ₁₃ 重複 P ₁₄ 重複 P ₂₁ 重複 P ₂₂ 重複 壁 48.67 高床 中床 48.32	平均	●(232)	●(262)	81	(131)	P ₂₁ -DP ₁₁₁ (60)	DP ₁₁₁ -D ₂₁ 89	P ₂₁	重複	
		棟持柱間 a ₁	●(156)	DP ₂₁₁ -D ₂₁ 35	P ₂₁ -西柱筋 (131)	DP ₁₁₁ -P ₂₁ (96)	DP ₁₁₁ -DP ₂₁₂ 89	D ₁₁	48.25	
		P ₂₁ -P ₂₂		D ₂₁ -DP ₂₁₂ 28	東柱筋-P ₂₂ (131)	P ₂₂ -南柱筋 (38)	DP ₂₁₂ -西柱筋 28	DP ₁₁₁	48.20	
				●63	DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂ ●63	P ₂₂ -西柱筋 (131)	南柱筋-南壁 (161)	西柱筋-西壁 32	D ₂₂	48.12
					DP ₂₁₂ -南柱筋 88	北壁-南壁 ●(518)	東壁-西壁 ●323	DP ₂₁₁	47.89	
								DP ₂₁₂	47.97	
		桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差				
		(0.89)	(0.89)	(-30)	(-30)	(-76)				

●棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟 持 a ₁	(156)=30.0cm×5.2	(156)=31.2cm×5.0
△桁 行 A	(232)≒30.0×7.7=231.0	(232)≒31.2×7.5=234.0
△梁 行 B	(262)≒30.0×8.7=261.0	(262)≒31.2×8.5=265.2
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	63 =30.0×2.1	63 ≒31.2×2.0=62.4
北壁-南壁	(518)≒30.0×17.3=519.0	(518)≒31.2×17.0=530.4
東壁-西壁	323 ≒30.0×10.8=324.0	323 ≒31.2×10.0=312.0
(DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂)換算	計 算 値	算 出 値
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	63 =30.0cm×2.1	63 =31.5cm×2.0
△桁 行 A	(232)≒30.0×7.7=231.0	(232)≒31.5×7.5=236.3
△梁 行 B	(262)≒30.0×8.7=261.0	(262)≒31.5×8.5=267.8
棟 持 a ₁	(156)=30.0×5.2	(156)=31.5×5.0=157.5
北壁-南壁	(518)≒30.0×17.3=519.0	(518)≒31.5×16.0=504.0
東壁-西壁	323 ≒30.0×10.8=324.0	323 =31.5×10.0=315.0

規 模	1間×1間
	主 柱 4
	棟持柱 2
	床面積(18.3)㎡

表19 1049号A 竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
北-南		P11・12・14・21・22	P ₁₁ -P ₁₂ (312)	P ₁₁ -P ₁₃ (260)	(312)	(260)	北壁-P ₂₁ 82	H ₂₁ 幅 (90)	P ₁₁	未確認
N-5°-W		D ₁₁ ・D ₂₁ ・H ₂₁ ・HP ₂₁	P ₁₃ -P ₁₄ (312)	P ₁₂ -P ₁₄ (260)	測点 a ₄ 北柱筋-H ₂₁ 北縁	測点 b ₄ 東壁-HP ₂₁₁	P ₂₁ -北柱筋 (13)	H ₂₁ 西縁-東柱筋 (40)	P ₁₂	欠失
番号	検出面標高	平均	●(312)	●(260)	58	(90)	南柱筋-P ₂₂ (13)	西柱筋-西壁 (65)	P ₁₃	47.78
P ₁₁	未確認	棟持柱間 a ₁			H ₂₁ 北縁-HP ₂₁₁ 22		P ₂₂ -南柱筋 (79)	東壁-西壁 ●(455)	P ₁₄	欠失
P ₁₂	欠失	P ₂₁ -P ₂₂			HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂ ●(153)		北壁-南壁 ●(486)	東壁-東柱筋 (130)	P ₂₁	未確認
P ₁₃	47.91	●(338)			HP ₂₁₂ -H ₂₁ 南縁 (22)				P ₂₂	欠失
P ₁₄	欠失				H ₂₁ 南縁-南柱筋 (58)				DP ₁₁₁	47.70
P ₂₁	未確認				北柱筋-HP ₂₁₁ 80				D ₂₁	欠失
P ₂₂	欠失								H ₂₁	欠失
壁	48.03								HP ₂₁₁	(47.85)
高床									HP ₂₁₂	欠失
中床	48.00									
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差						
(1.20)	(1.20)	(52)	(52)	(26)						

棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	(338) = 29.9cm × 11.3 = 337.9	(338) = 30.7cm × 11.0 = 337.7
桁行 A	(312) = 29.9 × 10.4 = 311.0	(312) = 30.7 × 10.0 = 307.0
△梁行 B	(260) = 29.9 × 8.7 = 260.1	(260) = 30.7 × 8.5 = 261.0
HP ₂₁₁ -HP ₂₂	(153) = 29.9 × 5.1 = 152.5	(153) = 30.7 × 5.0 = 153.5
北壁-南壁	(486) = 29.9 × 16.3 = 487.4	(486) = 30.7 × 16.0 = 491.2
東壁-西壁	(455) = 29.9 × 15.2 = 454.5	(455) = 30.7 × 15.0 = 460.5

(HP ₂₁₁ -HP ₂₂)換算	計算値	算出値
HP ₂₁₁ -HP ₂₂	(153) = 30.0cm × 5.1	(153) = 30.6cm × 5.0
棟持 a ₁	(338) = 30.0 × 11.3 = 339.0	(338) = 30.6 × 11.0 = 336.6
桁行 A	(312) = 30.0 × 10.4	(312) = 30.6 × 10.0 = 306.0
△梁行 B	(260) = 30.0 × 8.7 = 261.0	(260) = 30.6 × 8.5 = 260.1
北壁-南壁	(486) = 30.0 × 16.2	(486) = 30.6 × 16.0 = 489.6
東壁-西壁	(455) = 30.0 × 15.2 = 456.0	(455) = 30.6 × 15.0 = 459.0

規 模	1間×1間
	主柱(4)
	棟持柱(2)
	方形区画 H ₂₁ 床面積(22.1)㎡

表20 1049号B 竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
北-南		P11・12・14・21・22	P ₁₁ -P ₁₂ (312)	P ₁₁ -P ₁₃ (224)	(312)	(224)	北壁-北柱筋 82	東壁-東柱筋 (56)	P ₁₁	未確認
N-5°-W		D ₁₁ ・D ₂₁	P ₁₃ -P ₁₄ (312)	P ₁₂ -P ₁₄ (224)			北柱筋-P ₂₁ (13)	東柱筋-DP ₁₁₁ 112	P ₁₂	欠失
番号	検出面標高	平均	●(312)	●(224)			P ₂₁ -DP ₁₁₁ (143)	DP ₁₁₁ -西柱筋 112	P ₁₃	47.81
P ₁₁	未確認	棟持柱間 a ₁					DP ₁₁₁ -P ₂₂ (143)	西柱筋-西壁 56	P ₁₄	欠失
P ₁₂	欠失	P ₂₁ -P ₂₂					P ₂₂ -南柱筋 (13)	東壁-西壁 ●(336)	P ₂₁	未確認
P ₁₃	47.93	●(286)					南柱筋-南壁 (82)		P ₂₂	欠失
P ₁₄	欠失						北壁-南壁 ●(476)		D ₁₁	欠失
P ₂₁	未確認						北柱筋-DP ₁₁₁ ●156		DP ₁₁₁	47.70
P ₂₂	欠失						DP ₁₁₁ -南柱筋 (156)		D ₂₁	欠失
壁	48.03									
高床										
中床	47.97									
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差						
(1.39)	(1.39)	(88)	(88)	(-26)						

●棟持換算	計 算 値	算 出 値
△棟 持 a ₁	(286)≒30.1cm×9.5=285.95	左に同じ
△桁 行 A	(312)≒30.1 ×10.4=313.0	(312)≒30.1 ×10.5=316.1
△梁 行 B	(224)≒30.1 ×7.4=222.7	(224)≒30.1 ×7.5=225.8
北柱筋-DP ₁₁₁	156 ≒30.1 ×5.2=156.5	156 ≒30.1 ×5.0=150.5
北壁-南壁	(476)≒30.1 ×15.8=475.6	(476)≒30.1 ×16.0=481.6
東壁-西壁	(336)≒30.1 ×11.2=337.1	(336)≒30.1 ×11.0=331.1

●北柱筋-DP ₁₁₁ 換算	計 算 値	算 出 値
北柱筋-DP ₁₁₁	156 =30.0cm×5.2	156 =31.2cm×5.0
棟 持 a ₁	(286)≒30.0 ×9.5=285.0	(286)≒31.2 ×9.0=280.8
桁 行 A	(312)=30.0 ×10.4	(312)=31.2 ×10.0
梁 行 B	(224)≒30.0 ×7.5=225.0	(224)≒31.2 ×7.0=218.4
北壁-南壁	(476)≒30.0 ×15.9=477.0	(476)=31.2 ×15.0=468.0
東壁-西壁	(336)=30.0 ×11.2	(336)≒31.2 ×11.0=343.2

規 模	1間×1間
	主 柱 (4)
	棟持柱 (2)
	床面積(15.6)㎡

表21 1057号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠 番	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a ₂	梁 間 b ₂	測 点 a	測 点 b	番号	標 高
西-東 N-73°-E	P12・14・32	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃ 266		(266)	西壁沿高床幅	北柱筋-棟持柱筋 129	P ₁₁	47.74
	D11・21	P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄ (266)	測 点 a ₄	測 点 b ₄	高床東縁-P ₂₁	棟持柱筋-南柱筋	P ₁₂	未確認
平均	番号 検出面標高	棟持柱間 a ₁	●266	P ₃₁ -P ₂₃ 南北軸	P ₃₁ -棟持柱筋	9	137	P ₁₃	47.42
				9	66	P ₁₄	未確認		
						P ₂₁ -西柱筋		P ₂₁	47.57
						●45		P ₂₂	未確認
								P ₃₁	47.70
		P ₂₁ -P ₂₂				P ₃₂	欠失		
						D ₁₁	未確認		
						D ₂₁	未確認		
壁	47.82								
高床	未検出								
中床	47.80								
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差					

●梁行換算	計 算 値	算 出 値
梁 行 B	266=29.9cm×8.9=266.1	266≒29.6cm×9.0=264.4
△P ₂₁ -西柱筋	45=29.9 ×1.5= 44.9	45=29.6 ×1.5= 44.9

●(P ₂₁ -西柱筋)換算	計 算 値	算 出 値
△P ₂₁ -西柱筋	45=30.0cm×1.5	左に同じ
梁 行 B	266≒30.0 ×8.9=267.0	266≒30.0 ×9.0=270.0

規 模	1間×1間
	主 柱 4
	棟持柱 2
	壁沿高床(2)
	床面積 ㎡

表22 1413号A 竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
北東-南西	P11・12・14	P ₁₁ -P ₁₂ (354)	P ₁₁ -P ₁₂ (332)	(354)	(332)	北壁高床幅 (92)	東壁沿高床幅 (92)	P ₁₁	調査区外
N-30°-E	P21・22, H21	P ₁₃ -P ₁₄ (354)	P ₁₂ -P ₁₄ (332)	測点 a ₄ 北柱筋-H ₂₁ 南縁 (49)		高床南縁-P ₂₁ (21)	高床西縁-東柱筋 0	P ₁₂	欠失
番号	検出面標高	平均	棟持柱間 a ₁	H ₂₁ 南縁-HP ₂₁₁ (112)		P ₂₁ -北柱筋 (33)	東柱筋-D ₁₁ 166	P ₁₃	47.44
P ₁₁	調査区外	●(354)	P ₂₁ -P ₂₂ ●(395)	HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂ ●32		北柱筋-D ₁₁ 165	D ₁₁ -H ₂₁ 東縁 86	P ₁₄	欠失
P ₁₂	欠失			HP ₂₁₂ -H ₂₁ 北縁 (112)		D ₁₁ -南柱筋 189	H ₂₁ 東縁-HP ₂₁₁ 58	P ₂₁	調査区外
P ₁₃	47.51			H ₂₁ 長 (256)		南柱筋-P ₂₂ (8)	HP ₂₁₁ -西柱筋 22	P ₂₂	欠失
P ₁₄	欠失			H ₂₁ 北縁-南柱筋 (49)		P ₂₁ -高床北縁 (46)	西柱筋-西壁 44	D ₁₁	47.42
P ₂₁	調査区外					南壁高床幅 (92)	東壁-西壁 ●(468)	H ₂₁	欠失
P ₂₂	欠失					北壁-南壁 ●(646)	H ₂₁ 幅 124	HP ₂₁₁	46.79
壁	47.66							HP ₂₁₂	46.86
高床	欠失								
中床	47.54								
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差					
(1.07)	(1.07)	(22)	(22)	(41)					

●桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁行 A	(354) = 30.0cm × 11.8	(354) = 29.5cm × 12.0
梁行 B	(332) ≒ 30.0 × 11.1 = 333.0	(332) ≒ 29.5 × 11.5 = 339.3
棟持 a ₁	(395) ≒ 30.0 × 13.2 = 396.0	(395) ≒ 29.5 × 13.5 = 398.3
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	32 ≒ 30.0 × 1.1 = 33.0	32 ≒ 29.5 × 1.0 = 29.5
北壁-南壁	(646) ≒ 30.0 × 21.5 = 645.0	(646) ≒ 29.5 × 22.0 = 649.0
東壁-西壁	(468) = 30.0 × 15.6	(468) ≒ 29.5 × 16.0 = 472.0

●(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計 算 値	算 出 値
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	32 ≒ 29.1cm × 1.1 = 29.1	32 = 32.0cm × 1.0
桁行 A	(354) ≒ 29.1 × 12.2 = 355.0	(354) ≒ 32.0 × 11.0 = 352.0
梁行 B	(332) ≒ 29.1 × 11.1 = 327.5	(332) ≒ 32.0 × 10.5 = 336.0
棟持 a ₁	(395) ≒ 29.1 × 13.6 = 395.8	(395) ≒ 32.0 × 12.5 = 400.0
北壁-南壁	(646) = 29.1 × 22.2 = 646.02	(646) ≒ 32.0 × 20.0 = 640.0
東壁-西壁	(468) ≒ 29.1 × 16.1 = 468.5	(468) ≒ 32.0 × 15.0 = 480.0

規 模	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 (2)
	高床 (3)
	(方形区画 H ₂₁) 壁床面積 (30.2)㎡

表23 1413号B 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高			
北東-南西 N-30°-E		P11・12・14 P21・22, H21	P ₁₁ -P ₁₂ (256)	P ₁₁ -P ₁₃ (332)	(256)	(332)	北壁高床幅 103	東壁-東柱筋 (89)	P ₁₁ P ₁₂ P ₁₃ P ₁₄	調査区外 欠失 47.45 欠失			
番号	検出面標高	平均	P ₁₃ -P ₁₄ (256)	P ₁₂ -P ₁₄ (332)	測点 a ₄ 北柱筋-HP ₂₁ 南縁 0	北柱筋-HP ₂₁ 南縁 H ₂₁ 南縁-HP ₂₁₁ 112 HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂ ●(32) HP ₂₁₂ -HP ₂₁ 北縁 (112) H ₂₁ 長 (256) H ₂₁ 北縁-南柱筋 0	北壁-P ₂₁ (70)	東柱筋-D ₁₁ (166)	P ₂₁ P ₁₄	調査区外 欠失			
			棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ●(322)	H ₂₁ 南縁-HP ₂₁₁ 112	P ₂₁ -北柱筋 (33)		D ₁₁ -H ₂₁ 東縁 (89)	P ₂₁ P ₂₂	調査区外 欠失				
			桁行比	桁行柱比	桁行差		桁行柱差	棟持柱差	HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂ ●(32)	北柱筋-D ₁₁ 128	H ₂₁ 東縁-HP ₂₁₁ 58	D ₁₁ H ₂₁	重複 欠失
									HP ₂₁₂ -HP ₂₁ 北縁 (112)	D ₁₁ -南柱筋 (128)	HP ₂₁₁ -西柱筋 19	HP ₂₁₁ HP ₂₁₂	欠失 46.81
									H ₂₁ 長 (256)	南柱筋-P ₂₂ 0	西柱筋-西壁 47		
									H ₂₁ 北縁-南柱筋 0	P ₂₂ -南柱筋 (33)	東壁-西壁 ●(468)		
										南柱筋-P ₂₂ (70)	H ₂₁ 幅 ●124		
										南壁高床幅 (103)			
										北壁-南壁 ●(462)			

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(256) = 30.1cm × 8.5 = 255.9	(256) = 28.4cm × 9.0 = 255.6
H ₂₁ 幅	124 = 30.1 × 4.1 = 123.4	124 = 28.4 × 4.5 = 127.8
棟持 a ₁	(322) = 30.1 × 10.7 = 322.1	(322) = 28.4 × 11.5 = 326.6
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	(32) = 30.1 × 1.1 = 33.1	(32) = 28.4 × 1.0 = 28.4
北壁-南壁	(462) = 30.1 × 15.3 = 460.5	(462) = 28.4 × 16.0 = 454.4
東壁-西壁	(468) = 30.1 × 15.5 = 466.6	(468) = 28.4 × 16.0 = 454.4
●(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	(32) = 29.1cm × 1.1 = 29.1	(32) = 32.0cm × 1.0
桁行 A	(256) = 29.1 × 8.8 = 256.1	(256) = 32.0 × 8.0
H ₂₁ 幅	124 = 29.1 × 4.3 = 125.1	124 = 32.0 × 4.0 = 128.0
棟持 a ₁	(322) = 29.1 × 11.1 = 323.0	322 = 32.0 × 10.0 = 320.0
北壁-南壁	(462) = 29.1 × 15.9 = 462.7	(462) = 32.0 × 14.0 = 448.0
東壁-西壁	(468) = 29.1 × 16.1 = 468.6	(468) = 32.0 × 15.0 = 480.0

規模	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 (2)
	高床 (2)
	(方形区画 H ₂₁) 床面積(21.6)㎡

表24 1413号C 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
北東-南西 N-30°-E		P11~14・21 P22・H21	P ₁₁ -P ₁₂ (448)	P ₁₁ -P ₁₃ (332)	(448)	(332)	北壁-北柱筋 (7)	東壁-東柱筋 (87)	P ₁₁	調査区外
			P ₁₃ -P ₁₄ (448)	P ₁₂ -P ₁₄ (332)	測点 a ₄ 北柱筋-H ₂₁ 南縁		北柱筋-P ₂₁ (33)	東柱筋-D ₁₁ (166)	P ₁₂	調査区外 欠失
			平均 ●(448)	●(332)	96		P ₂₁ -D ₁₁ (191)	D ₁₁ -H ₂₁ 東縁 (91)	P ₁₃	調査区外
			棟持柱間 a ₁		H ₂₁ 南縁-HP ₂₁₁ (65)		D ₁₁ -P ₂₂ (191)	H ₂₁ 東縁-HP ₂₁₁ (53)	P ₁₄	調査区外 欠失
			P ₂₁ -P ₂₂ ●(382)		HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂ ●126		P ₂₂ -南柱筋 (33)	HP ₂₁₁ -西柱筋 (22)	P ₂₁	調査区外 欠失
					HP ₂₁₂ -H ₂₁ 北縁 (65)		南柱筋-南壁 (7)	西柱筋-西壁 49	D ₁₁	重複
					H ₂₁ 長 ●(256)		北壁-南壁 ●(462)	東壁-西壁 ●(468)	H ₂₁	欠失
					H ₂₁ 北縁-南柱筋 (96)			H ₂₁ 幅 (124)	HP ₂₁₁	47.17
									HP ₂₁₂	47.29
番号	検出面標高									
P ₁₁	調査区外									
P ₁₂	欠失									
P ₁₃	調査区外									
P ₁₄	欠失									
P ₂₁	調査区外									
P ₂₂	欠失									
壁	47.66									
高床										
中床	47.48									
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差						
(1.35)	(1.35)	(116)	(116)	(-66)						

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(448) ÷ 30.1cm × 14.9 = 448.5	(448) ÷ 29.9cm × 15.0 = 448.5
H ₂₁ 長	(256) = 30.1 × 8.5 = 255.9	(256) ÷ 29.9 × 8.5 = 254.2
棟持 a ₁	(382) = 30.1 × 12.7 = 382.3	(382) ÷ 29.9 × 13.0 = 388.7
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	126 = 30.1 × 4.2 = 126.4	126 = 29.9 × 4.0 = 119.6
北壁-南壁	(462) ÷ 30.1 × 15.3 = 460.5	(462) = 29.9 × 15.0 = 448.5
東壁-西壁	(468) ÷ 30.1 × 15.5 = 466.6	(468) = 29.9 × 16.0 = 478.4
●(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	126 = 30.0cm × 4.2	126 = 31.5cm × 4.0
桁行 A	(448) ÷ 30.0 × 14.9 = 447.0	(448) ÷ 31.5 × 14.0 = 441.0
H ₂₁ 長	(256) ÷ 30.0 × 8.5 = 255.0	(256) ÷ 31.5 × 8.0 = 252.0
棟持 a ₁	(382) ÷ 30.0 × 12.7 = 381.0	(382) ÷ 31.5 × 12.0 = 378.0
北壁-南壁	(462) = 30.0 × 15.4	(462) ÷ 31.5 × 14.0 = 441.0
東壁-西壁	(468) = 30.0 × 15.6	(468) = 31.5 × 15.0 = 472.5

規 模	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 (2)
	(方形区画 H ₂₁) 床面積(21.6)㎡

表25 1413号D 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a ₄	測点 b ₄	番号	標高
北東-南西 N-30°-E		P11~14・21 P22・H21	P ₁₁ -P ₁₂ (422)	P ₁₁ -P ₁₃ (332)	(422)	(332)	北壁-北柱筋 (20)	東壁-東柱筋 (87)	P ₁₁	調査区外
			P ₁₃ -P ₁₄ (422)	P ₁₂ -P ₁₄ (332)	測点 a ₄ 北柱筋-H ₂₁ 南縁		北柱筋-P ₂₁ (33)	東柱筋-D ₁₁ (166)	P ₁₂	調査区外 欠失
			平均 ●(422)	(332)	(83)		P ₂₁ -D ₁₁ (178)	D ₁₁ -H ₂₁ 東縁 (91)	P ₁₃	調査区外
			棟持柱間 a ₁		H ₂₁ 南縁-HP ₂₁₁ (78)		D ₁₁ -P ₂₂ (178)	H ₂₁ 東縁-西柱筋 (75)	P ₂₁	調査区外 欠失
			P ₂₁ -P ₂₂ ●(356)		HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂ ●100		P ₂₂ -南柱筋 (33)	西柱筋-HP ₂₁₁ ●(30)	D ₁₁	重複
					HP ₂₁₂ -H ₂₁ 北縁 (78)		南柱筋-南壁 (20)	HP ₂₁₁ -西壁 19	H ₂₁	欠失
					H ₂₁ 長 (256)		北壁-南壁 ●(462)	東壁-西壁 ●(468)	HP ₂₁₁	47.18
					H ₂₁ 北縁-南柱筋 (83)			H ₂₁ 幅 (124)	HP ₂₁₂	47.09
番号	検出面標高									
P ₁₁	調査区外									
P ₁₂	欠失									
P ₁₃	調査区外									
P ₁₄	欠失									
P ₂₁	調査区外									
P ₂₂	欠失									
壁	47.66									
高床										
中床	47.48									
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差						
(1.27)	(1.27)	(90)	(90)	-40						

●桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁 行 A	(422)≒30.0cm×14.1=423.0	(422)≒30.1cm×14.0=421.4
西柱筋-HP ₂₁₁	(30)=30.0 × 1.0	(30)≒30.1 × 1.0= 30.1
棟 持 a ₁	(356)≒30.0 ×11.9=357.0	(356)≒30.1 ×12.0=361.2
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	100 ≒30.0 × 3.3= 99.0	100 ≒30.1 × 3.5=105.4
北壁-南壁	(462)=30.0 ×15.4	(462)=30.1 ×15.0=451.5
東壁-西壁	(468)=30.0 ×15.6	(468)=30.1 ×16.0=481.6

(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計 算 値	算 出 値
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	100 =30.3cm× 3.3=99.99	100 =28.6cm× 3.5=100.1
桁 行 A	(422)≒30.3 ×13.9=421.2	(422)≒28.6 ×15.0=429.0
西柱筋-HP ₂₁₁	(30)=30.3 × 1.0= 30.3	(30)≒28.6 × 1.0= 28.6
棟 持 a ₁	(356)≒30.3 ×11.7=354.5	(356)≒28.6 ×12.5=357.5
北壁-南壁	(462)≒30.3 ×15.2=460.6	(462)≒28.6 ×16.0=457.6
東壁-西壁	(468)≒30.3 ×15.4=466.6	(468)≒28.6 ×16.0=457.6

規 模	1間×1間
	主 柱 (4)
	棟持柱 (2)
	(方形区画 H ₂₁) 床面積(21.6)㎡

表26 1413号E 竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠 番	桁行 A	梁 行 B	桁行柱間 a ₂	梁 間 b ₂	測 点 a	測 点 b	番号	標 高
北東-南西 N-30°-E	P11~14・21 P22-D11・H21	P ₁₁ -P ₁₂ (438)	P ₁₁ -P ₁₃ (332)	(438)	(332)	北壁-北柱筋 (12)	東壁-東柱筋 (59)	P ₁₁	調査区外
		P ₁₃ -P ₁₄ (438)	P ₁₂ -P ₁₄ (332)	測 点 a ₄ 北柱筋-H ₂₁ 南縁 ● (91)		北柱筋-P ₂₁ (33)	東柱筋-D ₁₁ (166)	P ₁₃	調査区外
		● (438)	(332)	H ₂₁ 南縁-HP ₂₁₁ (70)		P ₂₁ -D ₁₁ (186)	D ₁₁ -H ₂₁ 東縁 (119)	P ₁₄	欠失
		棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ● (372)		HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂ ● (116)		D ₁₁ -P ₂₂ (186)	H ₂₁ 東縁-HP ₂₁₁ 25	P ₂₁	調査区外
				HP ₂₁₂ -H ₂₁ 北縁 (70)		P ₂₂ -南柱筋 (33)	HP ₂₁₁ -西柱筋 (22)	P ₂₂	欠失
				H ₂₁ 長 (256)		南柱筋-南壁 12	西柱筋-西壁 77	D ₁₁	欠失
				H ₂₁ 北縁-南柱筋 96		北壁-南壁 ● (462)	東壁-西壁 ● (468)	H ₂₁	欠失
								HP ₂₁₁	47.00
								HP ₂₁₂	未確認
									H ₂₁ 幅 (124)
番号	検出面標高	平均							
P ₁₁	調査区外								
P ₁₂	欠 失								
P ₁₃	調査区外								
P ₁₄	欠 失								
P ₂₁	調査区外								
P ₂₂	欠 失								
壁	47.66								
高床									
中床	47.47								
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差					
(1.32)	(1.32)	(151)	(151)	(-66)					

桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁 行 A	(438)=30.0cm×14.6	(438)≒29.2cm×15.0
北柱筋-H ₂₁ 南縁	(91)≒30.0 × 3.0= 90.0	(91)≒29.2 × 3.0= 87.6
棟 持 a ₁	(372)=30.0 ×12.4	(372)≒29.2 ×12.5=365.0
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	(116)≒30.0 × 3.9=117.0	(116)≒29.2 × 4.0=116.8
北壁-南壁	(462)=30.0 ×15.4	(462)≒29.2 ×16.0=467.2
東壁-西壁	(468)=30.0 ×15.6	(468)≒29.2 ×16.0=467.2

●(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計 算 値	算 出 値
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	(116)=29.7cm× 3.9=115.8	(116)=29.0cm× 4.0
桁 行 a ₁	(438)≒29.7 ×14.7=436.6	(438)≒29.0 ×15.0=435.0
北柱筋-H ₂₁ 南縁	(91)≒29.7 × 3.1= 92.1	(91)≒29.0 × 3.0= 87.0
棟 持 a ₁	(372)≒29.7 ×12.5=371.3	(372)≒29.0 ×13.0=377.0
北壁-南壁	(462)≒29.7 ×15.6=463.3	(462)≒29.0 ×16.0=464.0
東壁-西壁	(468)≒29.7 ×15.8=469.3	(468)≒29.0 ×16.0=464.0

規 模	1間×1間
	主 柱 (4)
	棟持柱 (2)
	(方形区画 H ₂₁) 床面積(21.6)㎡

表27 1413号F 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
北東-南西		P11~14・21	P ₁₁ -P ₁₂ (420)	P ₁₁ -P ₁₃ (332)	(420)	(332)	北壁-北柱筋 (21)	東壁-東柱筋 (12)	P ₁₁	調査区外
N-30°-E		P22・D11・H21	P ₁₃ -P ₁₄ (420)	P ₁₂ -P ₁₄ (332)	測点 a ₄ 北柱筋-H ₂₁ 南縁 (82)		北柱筋-P ₂₁ (33)	東柱筋-D ₁₁ (166)	P ₁₂	欠失
番号	検出面標高		平均	棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ●(354)			P ₂₁ -D ₁₁ (177)	D ₁₁ -HP ₂₁₁ ●(144)	P ₁₃	調査区外
P ₁₁	調査区外						D ₁₁ -P ₂₂ (177)	HP ₂₁₁ -H ₂₁ 東縁 (22)	P ₁₄	欠失
P ₁₂	欠失						P ₂₂ -南柱筋 (33)	H ₂₁ 東縁-西壁 124	P ₂₁	調査区外
P ₁₃	調査区外						南柱筋-南壁 (21)	東壁-西壁 ●(468)	P ₂₂	欠失
P ₁₄	欠失						北壁-南壁 ●(462)	H ₂₁ 幅 124	D ₁₁	欠失
P ₂₁	調査区外								H ₂₁	欠失
P ₂₂	欠失								HP ₂₁₁	47.14
壁	47.66								HP ₂₁₂	47.41
高床										
中床	47.47									
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差						
(1.23)	(1.23)	(88)	(88)	(-66)						

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(420) = 30.0cm × 14.0	左に同じ
D ₁₁ -HP ₂₁₁	(144) = 30.0 × 4.8	(144) ≒ 30.0 × 5.0 = 150.0
棟持 a ₁	(354) = 30.0 × 11.8	(354) ≒ 30.0 × 12.0 = 360.0
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	(98) ≒ 30.0 × 3.3 = 99.0	(98) ≒ 30.0 × 3.5 = 105.0
北壁-南壁	(462) = 30.0 × 15.4	(462) ≒ 30.0 × 15.0 = 450.0
東壁-西壁	(468) = 30.0 × 15.6	(468) ≒ 30.0 × 16.0 = 480.0

●(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	(98) = 29.7cm × 3.3 = 98.01	(98) = 28.0cm × 3.5
桁行 A	(420) ≒ 29.7 × 14.1 = 418.8	(420) = 28.0 × 15.0
D ₁₁ -HP ₂₁₁	(144) ≒ 29.7 × 4.8 = 142.6	(144) ≒ 28.0 × 5.0 = 140.0
棟持 a ₁	(354) ≒ 29.7 × 11.9 = 353.4	(354) ≒ 28.0 × 13.0 = 364.0
北壁-南壁	(462) ≒ 29.7 × 15.6 = 463.3	(462) ≒ 28.0 × 16.0 = 448.0
東壁-西壁	(468) ≒ 29.7 × 15.8 = 469.3	(468) ≒ 28.0 × 17.0 = 476.0

規 模	1間×1間
	主柱(4)
	棟持柱(2)
	(方形区画 H ₂₁) 床面積(21.6)㎡

表28 1414号A 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高	
北西-南東		P11~14・21	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃			H ₂₁ 東縁-HP ₂₁₁ 66	H ₂₁ 北縁-HP ₂₁₁ 91	P ₁₁	調査区外	
N-60°-W		P22・D11	P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄	測点 a ₄ H ₂₁ 長 ●151		H ₂₁ 西縁-HP ₂₁₂ 61	H ₂₁ 北縁-HP ₂₁₂ 100	P ₁₂	調査区外	
番号	検出面標高		平均	棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂			平均	●64	●96	P ₁₃	調査区外
P ₁₁	調査区外						HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂ ●24	HP ₂₁₁ -南壁 32	P ₁₄	欠失	
P ₁₂	調査区外							HP ₂₁₂ -南壁 23	P ₂₁	欠失	
P ₁₃	調査区外							平均	●28	D ₁₁	調査区外
P ₁₄	欠失								H ₂₁	47.43	
P ₂₁	欠失								HP ₂₁₁	47.18	
P ₂₂	調査区外								HP ₂₁₂	47.30	
壁	47.51										
高床	47.44										
中床	47.43										
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差							

●H ₂₁ 長換算	計 算 値	算 出 値
H ₂₁ 長	151=30.2cm×5.0	左に同じ
H ₂₁ 縁-HP	64≒30.2 ×2.1=63.4	64≒30.2 ×2.0= 60.4
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	24=30.2 ×0.8=24.2	24≒30.2 ×1.0= 30.2
H ₂₁ 北縁-HP	96≒30.2 ×3.2=96.6	96≒30.2 ×3.0= 90.6
HP-南壁	28≒30.2 ×0.9=87.6	28≒30.2 ×1.0= 30.2
H ₂₁ 幅	123≒30.2 ×4.1=123.8	123≒30.2 ×4.0=120.8

(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計 算 値	算 出 値
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	24=30.0cm×0.8	24=24.0cm×1.0
H ₂₁ 長	151≒30.0 ×5.0=150.0	151≒24.0 ×6.5=156.0
H ₂₁ 縁-HP	64≒30.0 ×2.1= 63.0	64≒24.0 ×2.5= 60.0
H ₂₁ 北縁-HP	96=30.0 ×3.2	96=24.0 ×4.0
HP-南壁	28≒30.0 ×0.9=27.0	28≒24.0 ×1.0= 24.0
H ₂₁ 幅	123=30.0 ×4.1	123≒24.0 ×5.0=120.0

規 模	1間×1間
	主 柱 (4)
	棟持柱 (2)
	高 床 (4)
	方形区画 H ₂₁
床面積 m ²	

表29 1414号B竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠 番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標 高
北西-南東	P11~14・21	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃			H ₂₁ 東縁-HP ₂₁₁	H ₂₁ 北縁-HP ₂₁₁	P ₁₁	調査区外
N-52'-W	P22・D11					28	61	P ₁₂	調査区外
		P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄	測点 a ₄		H ₂₁ 西縁-HP ₂₁₂	H ₂₁ 北縁-HP ₂₁₂	P ₁₃	調査区外
				H ₂₁ 長		(16)	(61)	P ₁₄	欠失
				●150				P ₂₁	欠失
番号	検出面標高	平均			平均	●22	●61	P ₂₂	調査区外
P ₁₁	調査区外		棟持柱間 a ₁			HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	HP ₂₁₁ -南壁	D ₁₁	調査区外
P ₁₂	調査区外		P ₂₁ -P ₂₂			●(106)	40	H ₂₁	47.33
P ₁₃	調査区外						HP ₂₁₂ -南壁	HP ₂₁₁	47.25
P ₁₄	欠失						(40)	HP ₂₁₂	47.20
P ₂₁	欠失								
P ₂₂	調査区外					平均	●40		
壁	47.43						H ₂₁ 幅		
高床	47.42						●101		
中床	47.33								
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差					

●H ₂₁ 長換算	計 算 値	算 出 値
H ₂₁ 長	150 =30.0cm×5.0	左に同じ
H ₂₁ 縁-HP	22 ≒30.0 ×0.7= 21.0	22≒30.0 ×0.5= 15.0
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	(106)≒30.0 ×3.5=105.0	左に同じ
H ₂₁ 北縁-HP	61 ≒30.0 ×2.0= 60.0	左に同じ
HP-南壁	40 ≒30.0 ×1.3= 39.0	40≒30.0 ×1.5= 45.0
H ₂₁ 幅	101 ≒30.0 ×3.4=102.0	101≒30.0 ×3.5=105.0

●(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計 算 値	算 出 値
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	(106)≒30.3cm×3.5=106.1	左に同じ
H ₂₁ 長	150 ≒30.3 ×5.0=151.5	左に同じ
H ₂₁ 縁-HP	22 ≒30.3 ×0.7= 21.2	22≒30.3 ×0.5= 15.2
H ₂₁ 北縁-HP	61 =30.3 ×2.0= 60.6	左に同じ
HP-南壁	40 ≒30.3 ×1.3= 39.4	40≒30.3 ×1.5= 45.5
H ₂₁ 幅	101 ≒30.3 ×3.3=100.0	101≒30.3 ×3.5=106.1

規 模	1間×1間
	主 柱 (4)
	棟持柱 (2)
	高 床 (4)
	方形区画 H ₂₁
床面積 m ²	

表30 1414号C 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
北西-南東		P11~14・21	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃			H ₂₁ 東縁-HP ₂₁₁	H ₂₁ 北縁-HP ₂₁₁	P ₁₁	調査区外
N-52°-W		P22・D11					28	34	P ₁₂	調査区外
番号	検出面標高	平均	P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄	測点 a ₄	平均	H ₂₁ 西縁-HP ₂₁₂	H ₂₁ 北縁-HP ₂₁₂	P ₁₃	調査区外
								16	34	P ₁₄
P ₁₁	調査区外		棟持柱間 a ₁		H ₂₁ 長 ●150				P ₂₁	欠失
P ₁₂	調査区外		P ₂₁ -P ₂₂				HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	H ₂₁₁ -南壁	P ₂₂	調査区外
P ₁₃	調査区外					●106		H ₂₁₂ -南壁	D ₁₁	調査区外
P ₁₄	欠失							67	H ₂₁	47.43
P ₂₁	欠失							67	HP ₂₁₁	47.32
P ₂₂	調査区外						平均	●67	HP ₂₁₂	47.22
壁	47.43							H ₂₁ 幅		
高床	47.42							●101		
中床	47.33									
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差						

●H ₂₁ 幅換算	計算値	算出値
H ₂₁ 幅	101=29.7cm×3.4=100.98	101=28.9cm×3.5=101.2
H ₂₁ 長	150=29.7 ×5.1=151.5	150=28.9 ×5.0=144.5
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	106=29.7 ×3.6=106.9	106=28.9 ×3.5=101.2
H ₂₁ 縁-HP	22=29.7 ×0.7= 20.8	22=28.9 ×1.0= 28.9
H ₂₁ 北縁-HP	34=29.7 ×1.1= 32.7	34=28.9 ×1.0= 28.9
HP-南壁	67=29.7 ×2.3= 68.3	67=28.9 ×2.5= 72.3

●(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換	計算値	算出値
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	106=30.3cm×3.5=106.1	左に同じ
H ₂₁ 長	150=30.3 ×5.0=152.0	左に同じ
H ₂₁ 縁-HP	22=30.3 ×0.7= 21.2	22=30.3 ×0.5= 15.2
H ₂₁ 北縁-HP	34=30.3 ×1.1= 33.3	34=30.3 ×1.0= 30.3
HP-南壁	67=30.3 ×2.2= 66.7	67=30.3 ×2.0= 60.6
H ₂₁ 幅	101=30.3 ×3.3=100.0	101=30.3 ×3.5=106.1

規模	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 (4)
	高床 (4)
	方形区画 H ₂₁
	床面積 m ²

表31 1414号D 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
北西-南東		P11~14・21	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃			H ₂₁ 東縁-HP ₂₁₁	H ₂₁ 北縁-HP ₂₁₁	P ₁₁	調査区外
N-52°-W		P22・D11					42	15	P ₁₂	調査区外
番号	検出面標高	平均	P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄	測点 a ₄	平均	H ₂₁ 西縁-HP ₂₁₂	H ₂₁ 北縁-HP ₂₁₂	P ₁₃	調査区外
								30	(15)	P ₁₄
P ₁₁	調査区外		棟持柱間 a ₁		H ₂₁ 長 ●150				P ₂₁	欠失
P ₁₂	調査区外		P ₂₁ -P ₂₂				HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	H ₂₁₁ -南壁	P ₂₂	調査区外
P ₁₃	調査区外					●78		86	D ₁₁	調査区外
P ₁₄	欠失							H ₂₁₂ -南壁	H ₂₁	47.29
P ₂₁	欠失							(86)	HP ₂₁₁	47.23
P ₂₂	調査区外						平均	●86	HP ₂₁₂	47.22
壁	47.43							H ₂₁ 幅		
高床	47.42							●101		
中床	47.33									
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差						

(H ₂₁ 北縁-HP)換算	計 算 値	算 出 値
H ₂₁ 北縁-HP	15=30.0cm×0.5	左に同じ
H ₂₁ 長	150=30.0 ×5.0	左に同じ
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	78=30.0 ×2.6	78≒30.0 ×2.5= 75.0
H ₂₁ 縁-HP	36=30.0 ×1.2	36≒30.0 ×1.0= 30.0
HP-南壁	86≒30.0 ×2.9= 87.0	86≒30.0 ×3.0= 90.0
H ₂₁ 幅	101≒30.0 ×3.4=102.0	101≒30.0 ×3.5=105.0

●(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計 算 値	算 出 値
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	78=30.0cm×2.6	78=31.2cm×2.5
H ₂₁ 北縁-HP	15=30.0 ×0.5	15≒31.2 ×0.5= 15.6
H ₂₁ 長	150=30.0 ×5.0	150≒31.2 ×5.0=156.0
H ₂₁ 縁-HP	36=30.0 ×1.2	36≒31.2 ×1.0= 31.2
HP-南壁	86≒30.0 ×2.9= 87.0	86≒31.2 ×3.0= 93.6
H ₂₁ 幅	101≒30.0 ×3.4=102.0	101≒31.2 ×3.0= 93.6

規 模	1間×1間
	主 柱 (2)
	棟持柱 (2)
	高 床 (4)
	方形区画 H ₂₁
床面積	m ²

表32 1415号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠 番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
東-西 N-3°-E	P11・13・21・22	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃ (342)	342	342	東柱筋-東壁 ●104	北壁-北柱筋 (43)	P ₁₁	欠失
	D11・21	P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄ 342					P ₁₂	47.40
番号	検出面標高	平均	●342	平均	●45	南柱筋-南壁 46	P ₁₃	欠失	
							P ₁₄	47.20	
P ₂₁	欠失	棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂	●(431)	北壁-南壁 ●(431)	P ₂₁	欠失			
P ₂₂	欠失				P ₂₂	欠失			
壁	47.54						D ₁₁	欠失	
高床							D ₂₁	未検出	
中床	47.44								
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差					

●梁行換算	計 算 値	算 出 値
梁行 B	342 ≒30.0cm×11.4	342 =29.7cm×11.5=341.55
△東柱筋-東壁	104 ≒30.0 × 3.5=105.0	104 =29.7 × 3.5=103.95
(壁-柱筋)平均	45 =30.0 × 1.5	45 =29.7 × 1.5= 44.45
北壁-南壁	(431)≒30.0 ×14.4=432.0	(431)=29.7 ×15.0=445.5

●(壁-柱筋)換算	計 算 値	算 出 値
(壁-柱筋)平均	45 =30.0cm× 1.5	左に同じ
△梁行 B	342 =30.0 ×11.4	342 ≒30.0×11.5=345.0
△東柱筋-東壁	104 ≒30.0 × 3.5=105.0	104 ≒30.0× 3.5=105.0
北壁-南壁	(431)≒30.0 ×14.4=432.0	(431)=30.0×14.0=420.0

規 模	1間×1間
	主 柱 (4)
	棟持柱 (2)
	床面積

表33 1416号竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
東-西 N-89°-E		P11~13・21・22 D11・21	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃ (326)		326	東柱筋-東壁 ●107	北壁-北柱筋 48	P ₁₁	欠失
			P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄ 326				南柱筋-南壁 46	P ₁₂	未検出
			棟持柱間 a ₁						P ₁₃	欠失
			P ₂₁ -P ₂₂						P ₁₄	47.44
平均			●326						P ₂₁	欠失
									P ₂₂	欠失
									D ₁₁	欠失
									D ₂₁	未検出
番号	検出面標高									
P ₁₁	欠失									
P ₁₂	未検出									
P ₁₃	欠失									
P ₁₄	47.44									
P ₂₁	欠失									
P ₂₂	欠失									
壁	47.52									
高床										
中床	47.38									
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差						

●梁行換算	計算値	算出値
梁行 B	$326 \div 29.9 \text{cm} \times 10.9 = 325.91$	$326 = 29.6 \text{cm} \times 11.0 = 325.6$
△東柱筋-東壁	$107 \div 29.9 \times 3.6 = 107.6$	$107 \div 29.6 \times 3.5 = 103.6$
△(壁-柱筋)平均	$47 \div 29.9 \times 1.6 = 47.8$	$47 \div 29.6 \times 1.5 = 44.4$
北壁-南壁	$420 \div 29.9 \times 14.0 = 418.6$	$420 \div 29.6 \times 14.0 = 414.4$

(壁-柱筋)平均換算	計算値	算出値
△(壁-柱筋)平均	$47 = 29.4 \text{cm} \times 1.6 = 47.04$	$47 = 31.3 \text{cm} \times 1.5 = 46.95$
△梁行 B	$326 \div 29.4 \times 11.1 = 326.3$	$326 \div 31.3 \times 10.5 = 328.7$
△東柱筋-東壁	$107 \div 29.4 \times 3.6 = 105.8$	$107 \div 31.3 \times 3.5 = 110.0$
北壁-南壁	$420 \div 29.4 \times 14.2 = 417.5$	$420 = 31.3 \times 13.0 = 406.9$

規模	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 (2)
	床面積 m ²

表34 1419号竖穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
南-北 N-19°-E		P11・13・14・21 D11・21	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃ (324)		324	P ₂₂ -北柱筋 19	西壁-西柱筋 ●68	P ₁₁	欠失
			P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄ 324			測点 b ₄ 西柱筋-P ₂₂ ●61		P ₁₂	47.79
			棟持柱間 a ₁						P ₁₃	欠失
			P ₂₁ -P ₂₂						P ₁₄	欠失
平均			●324						P ₂₁	欠失
									P ₂₂	47.33
									D ₁₁	欠失
									D ₂₁	欠失
番号	検出面標高									
P ₁₁	欠失									
P ₁₂	47.89									
P ₁₃	欠失									
P ₁₄	欠失									
P ₂₁	欠失									
P ₂₂	47.45									
壁	48.05									
高床										
中床	47.94									
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差						

●梁行換算	計 算 値	算 出 値
梁 行 B	324=30.0cm×10.8	324≒29.5cm×11.0=324.5
北柱筋-北壁	61≒30.0 × 2.0=60.0	61≒29.5 × 2.0= 59.0
△西壁-西柱筋	68≒30.0 × 2.3=69.0	68≒29.5 × 2.5= 73.8

●北柱筋-北壁換算	計 算 値	算 出 値
北柱筋-北壁	61≒30.0cm× 2.0=60.0	左に同じ
梁 行 B	324=30.0 ×10.8	324≒30.0×11.0=330.0
△西壁-西柱筋	68≒30.0 × 2.3=69.0	68≒30.0× 2.5= 75.0

規 模	1間×1間
	主 柱 (4)
	棟持柱 (2)
	床面積 m ²

表35 1420号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠 番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標 高
南西-北東	P11~14・21・22	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃					P ₁₁	欠失
N-49°-E	D11・21	P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄					P ₁₂	欠失
								P ₁₃	欠失
								P ₁₄	欠失
								P ₂₁	欠失
								P ₂₂	欠失
								D ₁₁	欠失
								D ₂₁	欠失

番号	検出面標高	平均	棟持柱間 a ₁
P ₁₁	欠 失		
P ₁₂	欠 失		
P ₁₃	欠 失		
P ₁₄	欠 失		
P ₂₁	欠 失		
P ₂₂	欠 失		
壁	47.96		
高床			
中床	47.90		

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差

規 模	1間×1間
	主 柱 (4)
	棟持柱 (2)
	床面積 m ²

表36 1421号A竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠 番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標 高	
北東-南西	P12~14	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₂	(339)	(236)	H ₂₁ 幅 128	東壁沿高床幅 (137)	P ₁₁	46.82	
N-39°-E	D11	P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₃ -P ₁₄	(339)	(236)	測点 a ₄	測点 b ₄	P ₁₂	欠失	
						北壁-D ₂₁	棟持柱筋 -DH ₂₁ 西縁 11	P ₁₃	未検出	
						64	高床南縁-P ₂₁	P ₁₄	未検出	
						D ₂₁ -北高床南縁	高床西縁-東柱筋	P ₂₁	46.81	
						DH ₂₁ 東縁-D ₂₁	P ₂₁ -北柱筋	P ₂₂	46.55	
						64	29	a M ₁₁	46.55	
						D ₂₁ -P ₂₁ 直交線	南柱筋-P ₂₂	a M ₁₁ -西柱筋	aHM ₁₁	47.01
						D ₂₁ -西柱筋	(28)	(118)	D ₁₁	無配置
						93	P ₂₂ -高床北縁	西柱筋-H ₂₁ 東縁	DH ₂₁	47.56
						D ₂₁ -北柱筋	(29)	28	D ₂₁	46.90
						121	南壁沿高床幅	H ₂₁ 幅	DP ₂₁₁	未配置
						北柱筋-HP ₂₁₁	(128)	116	DP ₂₁₂	未配置
						(51)	北壁-南壁	東壁-西壁	H ₂₁	47.44
						HP ₂₁₁ -H ₂₁ 北縁	●(709)	●(545)	HP ₂₁₁	47.26
						7	西柱筋-HP ₂₁₁		HP ₂₁₂	47.22
						H ₂₁ 長	西柱筋-HP ₂₁₁			
						223	18			
						H ₂₁ 南縁-HP ₂₁₁				
						8				

番号	検出面標高	平均	棟持柱間 a ₁
P ₁₁	48.20		
P ₁₂	欠 失		
P ₁₃	未検出		
P ₁₄	未検出		
P ₂₁	47.19		
P ₂₂	47.11		
壁	47.89		
高床	47.56		
中床	47.41		

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
(1.44)	(1.44)	(103)	(103)	(56)

●棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟 持 a ₁	395 = 29.9cm × 13.2 = 394.7	395 = 30.4cm × 13.0 = 395.2
桁 行 A	(339) ≒ 29.9 × 11.3 = 337.9	(339) ≒ 30.4 × 11.0 = 334.4
梁 行 B	(236) ≒ 29.9 × 7.9 = 236.2	(236) ≒ 30.4 × 8.0 = 243.2
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	238 ≒ 29.9 × 8.0 = 239.2	238 ≒ 30.4 × 8.0 = 243.2
北壁-南壁	(709) ≒ 29.9 × 23.7 = 708.6	(709) ≒ 30.4 × 23.0 = 699.2
東壁-西壁	(545) ≒ 29.9 × 18.2 = 544.2	(545) ≒ 30.4 × 18.0 = 547.2

(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計 算 値	算 出 値
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	238 = 30.1cm × 7.9 = 237.8	238 = 29.8cm × 8.0 = 238.4
棟 持 a ₁	395 ≒ 30.1 × 13.1 = 394.3	395 ≒ 29.8 × 13.0 = 402.3
△桁 行 A	(339) ≒ 30.1 × 11.3 = 340.1	(339) ≒ 29.8 × 11.5 = 342.7
梁 行 B	(236) ≒ 30.1 × 7.8 = 234.8	(236) ≒ 29.8 × 8.0 = 238.4
北壁-南壁	(709) ≒ 30.1 × 23.6 = 710.4	(709) ≒ 29.8 × 24.0 = 715.2
東壁-西壁	(545) ≒ 30.1 × 18.1 = 548.8	(545) ≒ 29.8 × 18.0 = 536.4

規 模	1間×1間
	主 柱 (4)
	棟持柱 2
	高 床 5
	棟持柱筋区画 aHM ₁₁
	方形区画 DH ₂₁
方形区画 H ₂₁	
床面積 (38.7) m ²	

表37 1421号B 壁穴住居跡計測表

主軸方向	欠 番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標 高
北東-南西 N-45°-E	P12~14 D11	P ₁₁ -P ₁₂ (370)	P ₁₁ -P ₁₃ (208)	(370)	(208)	北壁沿高床幅 (100)	東壁沿高床幅 (100)	P ₁₁	46.80
		P ₁₃ -P ₁₄ (370)	P ₁₂ -P ₁₄ (208)	測点 a ₄ 北壁-D ₂₁ (43)	測点 b ₄ P ₈₁ -西柱筋 9	高床南縁-P ₂₁ 20	高床西縁-東柱筋 (45)	P ₁₂	欠失
		● (370)	● (208)	棟持柱筋 -西柱筋 104	棟持柱筋 -D ₂₁ 東縁 108	P ₂₁ -北柱筋 0	東柱筋-aM ₁₁ 104	P ₁₃	未確認
		棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ● 370		D ₂₁ -北高床南縁 (57)	棟持柱筋 -D ₂₁ 149	南柱筋-P ₂₂ 0	aM ₁₁ -西柱筋 (104)	P ₁₄	未検出
				D ₂₁ -北柱筋 77	棟持柱筋 -D ₂₁ 149	P ₂₁ -高床北縁 (20)	西柱筋-H ₂₁ 東縁 45	P ₂₁	46.86
				北柱筋-P ₈₁ 92	棟持柱筋 -H ₂₁ 東縁 149	南壁沿高床幅 (100)	H ₂₁ 幅 85	P ₂₂	46.88
				北柱筋-H ₂₁ 北縁 90	棟持柱筋 -H ₂₁ 東縁 149	北壁-高床北縁 (100)	東壁-西壁 ● (483)	aHM ₁₁	46.96
				H ₂₁ 南縁-南柱筋 52		北壁-南壁 ● (610)		P ₈₁	47.25
				H ₂₁ 長 ● 228				D ₁₁	無配置
								D ₂₁	重複
								DP ₂₁₁	未検出
								DP ₂₁₂	未検出
								H ₂₁	47.38
								HP ₂₁₁	未配置
								HP ₂₁₂	未配置

棟持換算	計 算 値	算 出 値
△棟 持 a ₁	370 = 30.1cm × 12.3 = 370.2	370 = 29.6cm × 12.5
△桁 行 A	(370) ≒ 30.1 × 12.3 = 370.2	(370) ≒ 29.6 × 12.5
梁 行 B	(208) ≒ 30.1 × 6.9 = 207.7	(208) ≒ 29.6 × 7.0 = 207.2
H ₂₁ 長	228 ≒ 30.1 × 7.6 = 228.8	228 ≒ 29.6 × 7.5 = 222.0
北壁-南壁	(610) ≒ 30.1 × 20.3 = 611.0	(610) ≒ 29.6 × 21.0 = 621.6
東壁-西壁	(483) ≒ 30.1 × 16.0 = 481.6	(483) ≒ 29.6 × 16.0 = 473.6

●H ₂₁ 長換算	計 算 値	算 出 値
△ H ₂₁ 長	228 = 30.0cm × 7.6	228 = 30.4cm × 7.5
棟 持 a ₁	370 ≒ 30.0 × 12.3 = 369.0	370 ≒ 30.4 × 12.0 = 364.8
桁 行 A	(370) ≒ 30.0 × 12.3 = 369.0	(370) ≒ 30.4 × 12.0 = 364.8
梁 行 B	(208) ≒ 30.0 × 6.9 = 207.0	(208) ≒ 30.4 × 7.0 = 212.8
北壁-南壁	(610) ≒ 30.0 × 20.3 = 609.0	(610) ≒ 30.4 × 20.0 = 608.0
東壁-西壁	(483) = 30.0 × 16.1	(483) ≒ 30.4 × 16.0 = 486.4

規 模	1間×1間
	主 柱 (4)
	棟持柱 2
	高 床 (5)
	棟持柱筋区画 aHM ₁₁
	方形区画 H ₂₁
床面積 (29.5) m ²	

表38 1421号C 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
北東-南西		P12~14		P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃			北壁-北柱筋	東壁-東柱筋	P ₁₁	46.79
N-31°-E		D11・21		(220)	(254)			110	(74)	P ₁₂	欠失
				P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄			北柱筋-P ₂₁	東柱筋-棟持柱筋	P ₁₃	重複
				(220)	(254)			7	127	P ₁₄	未確認
番号	検出面標高	平均		●(220)	●(254)			P ₂₂ -南柱筋	棟持柱筋-西柱筋	P ₂₁	47.06
P ₁₁	47.20			棟持柱間 a ₁				(7)	(127)	P ₂₂	46.93
P ₁₂	欠失			P ₂₁ -P ₂₂				南柱筋-南壁	西柱筋-西壁	aHM ₁₁	無配置
P ₁₃	重複			●206				(110)	(28)	D ₁₁	無配置
P ₁₄	未確認							北壁-南壁	東壁-西壁	D ₂₁	未検出
P ₂₁	47.26							●(440)	●(356)	H ₂₁	無配置
P ₂₂	46.99							北壁-北柱筋		HP ₂₁₁	無配置
壁	47.84							●117		HP ₂₁₂	無配置
高床											
中床	47.26										
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差							
(0.87)	(0.87)	(-34)	(-34)	(-14)							

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	206 ≒ 30.3cm × 6.9 = 209.1	206 = 29.4cm × 7.0 = 205.8
△桁行 A	(220) ≒ 30.3 × 7.3 = 221.2	(220) ≒ 29.4 × 7.5 = 220.5
梁行 B	(254) ≒ 30.3 × 8.4 = 254.5	(254) ≒ 29.4 × 8.5 = 249.9
北壁-北柱筋	117 ≒ 30.3 × 3.9 = 118.2	117 ≒ 29.4 × 4.0 = 117.6
北壁-南壁	(440) ≒ 30.3 × 14.5 = 439.4	(440) ≒ 29.4 × 15.0 = 441.0
東壁-西壁	(356) ≒ 30.3 × 11.7 = 354.5	(356) ≒ 29.4 × 12.0 = 352.8

●(北壁-北柱筋換算)	計算値	算出値
北壁-北柱筋	117 = 30.0cm × 3.9	117 = 29.3cm × 4.0 = 117.2
棟持 a ₁	206 ≒ 30.0 × 6.9 = 207.0	206 ≒ 29.3 × 7.0 = 205.1
△桁行 A	(220) ≒ 30.0 × 7.3 = 219.0	(220) = 29.3 × 7.5 = 219.8
△梁行 B	(254) ≒ 30.0 × 8.5 = 255.0	(254) ≒ 29.3 × 8.5 = 249.1
北壁-南壁	(440) ≒ 30.0 × 14.7 = 441.0	(440) = 29.3 × 15.0 = 439.5
東壁-西壁	(356) ≒ 30.0 × 11.9 = 357.0	(356) ≒ 29.3 × 12.0 = 351.6

規 模	1間×1間
	主柱(4)
	棟持柱 2
床面積(15.7)㎡	

表39 1422号A堅穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高		
東—西 N—75°—E		P11~13 H21・HP211		P ₁₁ —P ₁₂ (476)	P ₁₁ —P ₁₃ (350)	(476)	(350)	西壁—西柱筋 (43)	北壁—HP ₂₁₂ 5	P ₁₁	未確認		
平均		●(476) ●(350)		P ₁₃ —P ₁₄ (476)	P ₁₂ —P ₁₄ (350)	測点 a ₄ P ₅₁ —西柱筋	測点 b ₄ 北柱筋—P ₅₁	西柱筋—高床東縁 (63)	HP ₂₁₂ —北柱筋 (46)	P ₁₂	未確認		
番号	検出面標高			棟持柱間 a ₁	測点 b	西柱筋—H ₂₁ 西縁		高床東縁—P ₂₁ 14	北柱筋—H ₂₁ 南縁 (42)	P ₁₃	未確認		
P ₁₁	未確認			P ₂₁ —P ₂₂ ●322	北壁—D ₁₁ 157	162	測点 b	西壁—P ₂₁ 120	H ₂₁ 南縁—P ₆₂ 10	P ₁₄	47.67		
P ₁₂	未確認					H ₂₁ 西縁—H ₂₁₁ (13)	H ₂₁ 幅 (93)	P ₂₂ —高床西縁 35	P ₆₂ —D ₁₁ 54	P ₂₁	47.49		
P ₁₃	未確認					HP ₂₁₁ —HP ₂₁₂ (50)	HP ₂₁₁ —P ₆₁ 98	高床西縁—東柱筋 42	D ₁₁ —棟持柱筋 69	P ₂₂	47.38		
P ₁₄	47.83					HP ₂₁₂ —H ₂₁ 東縁 (13)	測点 a ₄	東柱筋—東壁 65	棟持柱筋—南柱筋 175	P ₅₁	47.76		
P ₂₁	47.74					H ₂₁ 東縁—東柱筋 238	西柱筋—DP ₂₁₁ 215	P ₂₂ —東壁 142	南柱筋—D ₂₁ 12	P ₆₁	47.51		
P ₂₂	47.77					P ₆₂ —東柱筋 238	DP ₂₁₁ —D ₂₁ 14	西壁—東壁 ●584	D ₂₁ —DP ₂₁₁ 16	P ₆₂	47.75		
壁	47.16					西柱筋—P ₆₁ 175	D ₂₁ —DP ₂₁₂ 17		DP ₂₁₁ —南壁 12	D ₁₁	47.58		
高床	47.98					西柱筋—HP ₂₁₁ 175	DP ₂₁₁ —DP ₂₁₂ ●31		北壁—南壁 ●441	D ₂₁	47.61		
中床	47.83						DP ₂₁₂ —東柱筋 230			DP ₂₁₁	47.56		
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差							DP ₂₁₂	47.58	
(1.36)	(1.36)	(126)	(126)	(-154)							H ₂₁	未検出	
												HP ₂₁₁	47.71
												HP ₂₁₂	47.74

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(476) ≒ 29.9cm × 15.9 = 475.4	(476) ≒ 29.8cm × 16.0 = 476.8
△梁行 B	(350) ≒ 29.9 × 11.7 = 349.8	(350) ≒ 29.8 × 11.5 = 342.7
棟持 a ₁	322 ≒ 29.9 × 10.8 = 322.9	322 ≒ 29.8 × 11.0 = 327.8
DP ₂₁₁ —DP ₂₁₂	31 ≒ 29.9 × 1.0 = 29.9	31 ≒ 29.8 × 1.0 = 29.8
西壁—東壁	584 ≒ 29.9 × 19.6 = 586.0	584 ≒ 29.8 × 20.0 = 596.0
北壁—南壁	441 ≒ 29.9 × 14.7 = 439.5	441 ≒ 29.8 × 15.0 = 447.0

(DP ₂₁₁ —DP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
DP ₂₁₁ —DP ₂₁₂	31 = 31.0cm × 1.0	左に同じ
△桁行 A	(476) ≒ 31.0 × 15.4 = 477.4	(476) ≒ 31.0 × 15.5 = 480.5
△梁行 B	(350) = 31.0 × 11.3 = 350.3	(350) ≒ 31.0 × 11.5 = 356.5
△棟持 a ₁	322 = 31.0 × 10.4 = 322.4	322 ≒ 31.0 × 10.5 = 325.5
西壁—東壁	584 ≒ 31.0 × 18.8 = 582.8	584 ≒ 31.0 × 19.0 = 589.0
北壁—南壁	441 ≒ 31.0 × 14.2 = 440.2	441 ≒ 31.0 × 14.0 = 434.0

規 模	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 2
	施設柱 2
	壁沿高床 2
	(方形区画 H ₂₁) 床面積(25.8)㎡

表40 1422号B 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
東-西 N-75°-E		P11~13・D ₂₁ H21・HP211	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	(476)	(350)	西壁-西柱筋 43	北壁-HP ₂₁₂ (5)	P ₁₁	重複
平均		●(476)	●(350)						P ₁₂	重複
P ₁₁		47.83							P ₁₃	重複
P ₁₂		欠失							P ₁₄	47.68
P ₁₃		未確認							P ₂₁	47.61
P ₁₄		未確認							P ₂₂	47.61
P ₂₁		47.77							P ₆₁	47.76
P ₂₂		47.74							P ₆₁	未確認
壁		48.17							P ₆₂	未確認
高床		除去							D ₁₁	47.63
中床		47.76							D ₂₁	重複
桁行比		桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差				DP ₂₁₁	欠失
(1.36)	(1.36)	(126)	(126)	(-154)					DP ₂₁₂	欠失
P ₆₁		47.77							H ₂₁	除去
P ₆₂		47.74							HP ₂₁₁	47.72
D ₁₁		47.63							HP ₂₁₂	47.74
D ₂₁		重複								
DP ₂₁₁		欠失								
DP ₂₁₂		欠失								
H ₂₁		除去								
HP ₂₁₁		47.72								
HP ₂₁₂		47.74								

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	322 = 30.1cm × 10.7 = 322.1	322 = 29.3cm × 11.0 = 322.3
桁行 A	(476) = 30.1 × 15.8 = 475.6	(476) ÷ 29.3 × 16.0 = 468.8
梁行 B	(350) ÷ 30.1 × 11.6 = 349.2	(350) ÷ 29.3 × 12.0 = 351.6
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	(56) ÷ 30.1 × 1.9 = 57.2	(56) ÷ 29.3 × 2.0 = 58.6
H ₂₁ 幅	(93) = 30.1 × 3.1 = 93.3	93 ÷ 29.3 × 3.0 = 87.9
西柱筋-D ₁₁	210 ÷ 30.1 × 7.0 = 210.7	210 ÷ 29.3 × 7.0 = 205.1
(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	(56) = 29.5cm × 1.9 = 56.1	(56) = 28.0cm × 2.0
棟持 a ₁	322 = 29.5 × 10.9 = 321.6	322 = 28.0 × 11.5
桁行 A	(476) ÷ 29.5 × 16.1 = 475.0	(476) = 28.0 × 17.0
△梁行 B	(350) ÷ 29.5 × 11.9 = 351.1	(350) = 28.0 × 12.5
△H ₂₁ 幅	(93) ÷ 29.5 × 3.2 = 94.4	(93) ÷ 28.0 × 3.5 = 98.0
△西柱筋-D ₁₁	210 = 29.5 × 7.1 = 209.5	210 = 28.0 × 7.5

規 模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	方形区画 1
	壁隅高床(2)
	壁沿高床 2
床面積25.8㎡	

表41 1423号竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
東-西 N-83°-W		P11・13・14 D11・D21	P ₁₁ -P ₁₂ (262)	P ₁₁ -P ₁₃ (344)	(262)	(344)	西壁-西高床東縁	北壁-北柱筋 26	P ₁₁	欠失
平均		●(262)	●(344)						P ₁₂	47.77
P ₁₁		欠失							P ₁₃	欠失
P ₁₂		47.88							P ₁₄	欠失
P ₁₃		欠失							P ₂₁	47.65
P ₁₄		欠失							P ₂₂	47.53
P ₂₁		47.76							D ₁₁	欠失
P ₂₂		47.75							D ₂₁	欠失
壁		48.03								
高床		欠失								
中床		47.94								
桁行比		桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差					
(0.76)	(0.76)	(-82)	(-82)	26						

●桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁 行 A	$(262) = 30.1\text{cm} \times 8.7 = 261.9$	$(262) = 29.1\text{cm} \times 9.0 = 261.9$
梁 行 B	$(344) \div 30.1 \times 11.4 = 343.1$	$(344) \div 29.1 \times 12.0 = 349.2$
棟 持 a_1	$288 \div 30.1 \times 9.6 = 289.0$	$288 \div 29.1 \times 10.0 = 291.0$

●棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟 持 a_1	$288 = 30.0\text{cm} \times 9.6$	$288 = 28.8\text{cm} \times 10.0$
桁 行 A	$(262) \div 30.0 \times 8.7 = 261.0$	$(262) \div 28.8 \times 9.0 = 259.2$
梁 行 B	$(344) \div 30.0 \times 11.5 = 345.0$	$(344) \div 28.8 \times 12.0 = 345.6$

規 模	1間×1間
	主柱穴 (4)
	棟持柱 2'
	壁沿高床(2)
	床面積 m ²

表42 1424号A 竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠 番	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a_2	梁 間 b_2	測 点 a	測 点 b	番号	標 高
北東—南西 N—23°—E	P11~14	$P_{11}-P_{12}$	$P_{11}-P_{13}$	(348)	(228)	北壁— P_{21} (137)	東壁—東柱筋 (137)	P_{11}	調査区外
	P22	$P_{13}-P_{14}$	$P_{12}-P_{14}$	測 点 a_4	測 点 b_2	P_{21} —北柱筋 (20)	東柱筋—主軸 (114)	P_{12}	調査区外 欠失
平均	●(348)	●(228)	北西隅高床長	北柱筋— D_{11} (194)	P_{21} —北柱筋 (20)	主軸—西柱筋 (114)	P_{13}	調査区外 欠失	
	棟持柱間 a_1		高床南縁— HP_{211} 35	D_{11} —南柱筋 (194)	北柱筋— D_{11} (174)	主軸—西柱筋 114	P_{21}	調査区外	
	$P_{21}-P_{22}$	●(388)	$HP_{211}-HP_{212}$ ●94		D_{11} —南柱筋 174	西柱筋— D_{11} 0	P_{22}	47.34	
			HP_{212} —高床北縁 (35)		南柱筋— P_{22} 20	西柱筋— H_{21} 東縁 117	D_{11}	47.70	
			南西隅高床長 (249)		P_{22} —南壁 (137)	H_{21} 東縁— HP_{211} 93	H_{21}	47.77	
			H_{21} 長 164		北壁—南壁 ●(662)	HP_{211} —西壁 44	HP_{211}	47.52	
					北・南高床幅 (137)	東壁—西壁 ●(619)	HP_{212}	47.49	
						H_{21} 幅 137			

番号	検出面標高	桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
P_{11}	調査区外	(1.53)	(1.53)	(120)	(120)	40
P_{12}	欠失					
P_{13}	調査区外					
P_{14}	欠失					
P_{21}	調査区外					
P_{22}	47.51					
壁	47.82					
高床	欠失					
中床	47.77					

●桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁 行 A	$(348) = 30.0\text{cm} \times 11.6$	$(348) = 29.0\text{cm} \times 12.0$
梁 行 B	$(228) = 30.0 \times 7.6$	$(228) \div 29.0 \times 8.0 = 232.0$
棟 持 a_1	$(388) \div 30.0 \times 12.9 = 387.0$	$(388) \div 29.0 \times 13.5 = 391.5$
$HP_{211}-HP_{212}$	$94 \div 30.0 \times 3.1 = 93.0$	$94 \div 29.0 \times 3.5 = 101.5$
北壁—南壁	$(662) \div 30.0 \times 22.1 = 663.0$	$(662) \div 29.0 \times 23.0 = 667.0$
東壁—西壁	$(619) \div 30.0 \times 20.6 = 618.0$	$(619) \div 29.0 \times 21.0 = 609.0$

●($HP_{211}-HP_{212}$)換算	計 算 値	算 出 値
$HP_{211}-HP_{212}$	$94 = 30.3\text{cm} \times 3.1 = 93.9$	$94 = 31.3\text{cm} \times 3.0 = 93.9$
桁 行 A	$(348) \div 30.3 \times 11.5 = 348.5$	$(348) \div 31.3 \times 11.0 = 344.3$
梁 行 B	$(228) \div 30.3 \times 7.5 = 227.3$	$(228) \div 31.3 \times 7.5 = 234.8$
棟 持 a_1	$(388) = 30.3 \times 12.8 = 387.8$	$(388) \div 31.3 \times 12.5 = 391.3$
北壁—南壁	$(662) \div 30.3 \times 21.8 = 660.5$	$(662) \div 31.3 \times 21.0 = 657.3$
東壁—西壁	$(619) \div 30.3 \times 20.4 = 618.1$	$(619) \div 31.3 \times 20.0 = 626.0$

規 模	1間×1間
	主 柱 (4)
	棟持柱 (2)
	高 床 (4)
	方形区画 H_{21}
	床面積(41.0)m ²

表43 1424号B 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
北東-南西		P11~14*21		P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	(338)	(228)	北壁-P ₂₁	東壁-東柱筋	P ₁₁	調査区外
N-23°-E		P22*D11		P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄	測点 a ₄	測点 b ₄	(137)	(137)	P ₁₂	欠失
番号	検出面標高	平均	●(338)	(228)	測点 a ₄	北西壁高床長	北柱筋-D ₁₁	P ₂₁ -北柱筋	東柱筋-主軸	P ₁₃	調査区外
								(20)	(114)	P ₁₄	欠失
P ₁₁	調査区外	棟持柱間 a ₁	●(378)	P ₂₁ -P ₂₂	高床南縁-HP ₂₁₁	28	D ₁₁ -南柱筋	北柱筋-D ₁₁	主軸-西柱筋	P ₂₁	調査区外
P ₁₂	欠失							(169)	(114)	P ₂₂	欠失
P ₁₃	調査区外	HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	●83	HP ₂₁₂ -高床北縁	29	南西隅高床長	256	D ₁₁ -南柱筋	西柱筋-D ₁₁	D ₁₁	重複
P ₁₄	欠失							(169)	0	H ₂₁	47.75
P ₂₁	調査区外	南柱筋-P ₂₂	(20)	HP ₂₁₂ -高床北縁	29	南西隅高床長	256	P ₂₂ -南壁	西柱筋-H ₂₁ 東縁	HP ₂₁₁	47.42
P ₂₂	欠失							(137)	(100)	H ₂₁ 東縁-HP ₂₁₁	109
壁	47.82	北壁-南壁	●(652)	HP ₂₁₁ -西壁	28	東壁-西壁	●(602)	北壁-南壁	●(602)	●H ₂₁ 幅	137
高床	欠失										
中床	47.75	北・南高床幅	(137)	東壁-西壁	●(602)	●H ₂₁ 幅	137				
桁行比	桁行柱比							桁行差	桁行柱差	棟持柱差	H ₂₁ 長
(1.48)	(1.48)	(110)	(110)	(40)							

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(338) = 29.9cm × 11.3 = 337.9	(338) = 30.7cm × 11.0 = 337.7
H ₂₁ 幅	137 ≒ 29.9 × 4.6 = 137.5	(137) ≒ 30.7 × 4.5 = 138.2
棟持 a ₁	(378) ≒ 29.9 × 12.6 = 376.7	(378) ≒ 30.7 × 12.5 = 383.8
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	83 ≒ 29.9 × 2.8 = 83.7	83 ≒ 30.7 × 2.5 = 76.8
北壁-南壁	(652) ≒ 29.9 × 21.9 = 654.8	(652) ≒ 30.7 × 21.0 = 644.5
東壁-西壁	(602) ≒ 29.9 × 20.1 = 601.0	(602) ≒ 30.7 × 20.0 = 614.0

●(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	83 = 29.6cm × 2.8 = 82.9	83 = 27.7cm × 3.0 = 83.1
桁行 A	(338) ≒ 29.6 × 11.4 = 337.4	(338) ≒ 27.7 × 12.0 = 332.4
H ₂₁ 幅	137 ≒ 29.6 × 4.6 = 136.2	137 ≒ 27.7 × 5.0 = 138.5
棟持 a ₁	(378) ≒ 29.6 × 12.8 = 378.9	(378) ≒ 27.7 × 13.5 = 374.0
北壁-南壁	(652) ≒ 29.6 × 22.0 = 651.2	(652) ≒ 27.7 × 24.0 = 664.8
東壁-西壁	(602) ≒ 29.6 × 20.3 = 600.9	(602) ≒ 27.7 × 22.0 = 609.4

規模	1間×1間
	主柱 (4)
	棟持柱 (2)
	高床 (4)
	方形区画 H ₂₁
	床面積 (39.3)㎡

表44 1425号竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
北東-南西		P11~14*21		P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃	(298)	(228)	北壁-P ₂₁	東壁-東柱筋	P ₁₁	調査区外
N-23°-E		P22*D11		P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄	測点 a ₄	測点 b ₄	(119)	(119)	P ₁₂	欠失
番号	検出面標高	平均	●(298)	(228)	測点 a ₄	北西壁高床長	北柱筋-D ₁₁	P ₂₁ -北柱筋	東柱筋-主軸	P ₁₃	調査区外
								(247)	(169)	P ₁₄	欠失
P ₁₁	調査区外	棟持柱間 a ₁	●(338)	P ₂₁ -P ₂₂	高床南縁-HP ₂₁₁	19	D ₁₁ -南柱筋	北柱筋-D ₁₁	主軸-西柱筋	P ₂₁	調査区外
P ₁₂	欠失							(149)	(114)	P ₂₂	欠失
P ₁₃	調査区外	HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	●44	HP ₂₁₂ -高床北縁	24	南西高床長	242	D ₁₁ -南柱筋	西柱筋-D ₁₁	D ₁₁	重複
P ₁₄	欠失							(149)	0	H ₂₁	47.72
P ₂₁	調査区外	南柱筋-P ₂₂	(20)	HP ₂₁₂ -高床北縁	24	南西高床長	242	P ₂₂ -南壁	西柱筋-H ₂₁ 東縁	HP ₂₁₁	47.58
P ₂₂	欠失							(119)	(127)	H ₂₁ 東縁-HP ₂₁₁	83
壁	47.74	北壁-南壁	●(576)	HP ₂₁₁ -西壁	36	東壁-西壁	●(593)	北壁-南壁	●(576)	●H ₂₁ 幅	(119)
高床	欠失										
中床	47.70	北・南高床幅	(119)	東壁-西壁	●(593)	●H ₂₁ 幅	(119)				
桁行比	桁行柱比							桁行差	桁行柱差	棟持柱差	H ₂₁ 長
(1.48)	(1.48)	(110)	(110)	(40)							

●桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁 行 A	$(298) = 30.1\text{cm} \times 9.9 = 297.99$	$(298) = 29.8\text{cm} \times 10.0$
H ₂₁ 幅	$(119) \approx 30.1 \times 4.0 = 120.4$	$(119) = 29.8 \times 4.0 = 119.2$
棟 持 a ₁	$(338) \approx 30.1 \times 11.2 = 337.1$	$(338) \approx 29.8 \times 11.5 = 342.7$
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	$44 \approx 30.1 \times 1.5 = 45.2$	$44 \approx 29.8 \times 1.5 = 44.7$
北壁-南壁	$(576) \approx 30.1 \times 19.1 = 574.9$	$(576) \approx 29.8 \times 19.0 = 566.2$
東壁-西壁	$(593) \approx 30.1 \times 19.8 = 596.0$	$(593) \approx 29.8 \times 20.0 = 596.0$
●(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計 算 値	算 出 値
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	$44 = 29.3\text{cm} \times 1.5 = 43.95$	左に同じ
桁 行 A	$(298) \approx 29.3 \times 10.2 = 298.9$	$(298) \approx 29.3 \times 10.0 = 293.0$
H ₂₁ 幅	$(119) \approx 29.3 \times 4.1 = 120.1$	$(119) \approx 29.3 \times 4.0 = 117.2$
棟 持 a ₁	$(338) \approx 29.3 \times 11.5 = 337.0$	左に同じ
北壁-南壁	$(576) \approx 29.3 \times 19.7 = 577.2$	$(576) \approx 29.3 \times 20.0 = 586.0$
東壁-西壁	$(593) \approx 29.3 \times 20.2 = 591.9$	$(593) \approx 29.3 \times 20.0 = 586.0$

規 模	1間×1間
	主 柱 (4)
	棟持柱 (2)
	高 床
	方形区画 H ₂₁
	床面積(34.2)㎡

表45 1426号竪穴住居跡計測表

主軸方向	欠 番	桁 行 A	梁 行 B	桁行柱間 a ₂	梁 間 b ₂	測 点 a	測 点 b	番号	標 高
南-北 N-18°-E	P11~14・21・22 D11・21	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃			北壁沿高床幅 ●119	東壁-西壁 ●360	P ₁₁ P ₁₂ P ₁₃ P ₁₄ P ₂₁ P ₂₂ D ₁₁ D ₂₁	欠失 欠失 欠失 欠失 欠失 欠失 欠失 欠失
		P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄						
番号	検出面標高	平均		棟持柱間 a ₁					
P ₁₁	欠 失			P ₂₁ -P ₂₂					
P ₁₂	欠 失								
P ₁₃	欠 失								
P ₁₄	欠 失								
P ₂₁	欠 失								
P ₂₂	欠 失								
壁	47.71								
高床	47.46								
中床	47.27								
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差					

●高床幅換算	計 算 値	算 出 値
北壁沿高床幅	$119 \approx 30.0\text{cm} \times 4.0 = 120.0$	左に同じ
東壁-西壁	$360 = 30.0 \times 12.0$	左に同じ
●東壁-西壁換算	計 算 値	算 出 値
東壁-西壁	$360 = 30.0\text{cm} \times 12.0$	左に同じ
北壁沿高床幅	$119 \approx 30.0 \times 4.0 = 120.0$	左に同じ

規 模	1間×1間
	主 柱 (4)
	棟持柱 (2)
	壁沿高床(2)
	床面積 ㎡

表46 1435号A 竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高								
南西—北東		P11・14・32・DH21		P ₁₁ —P ₁₂	P ₁₁ —P ₁₃	(388)	(265)	南壁—南柱筋	西壁—西柱筋	P ₁₁	欠失								
N—25°—E		H21・HP211		(388)	(265)			(76)	78	P ₁₂	47.77								
番号	検出面標高	平均	●(388)	●(265)	(157)	78	P ₂₁ —D ₁₁	H ₂₁ 東縁—棟持柱筋 129	H ₂₁ 東縁—棟持柱筋 129	P ₂₁	47.69								
												P ₁₃ —P ₁₄	P ₁₂ —P ₁₄	測点 a ₄	測点 b ₄	南柱筋—P ₂₁	西柱筋—H ₂₁ 東縁	P ₁₃	47.49
												(388)	(265)	南西隅高床長	西壁—HP ₂₁₂	50	(49)	P ₁₄	欠失
												棟持柱間 a ₁		H ₂₁ 南縁—HP ₂₁₁	HP ₂₁₂ —H ₂₁ 東縁	136		P ₂₁	47.37
												P ₂₁ —P ₂₂	測点 a ₄	(16)	(49)	D ₁₁ —P ₂₁	棟持柱筋—D ₁₁	P ₂₂	47.46
												●306	北柱筋—H ₂₁ 北縁	HP ₂₁₁ —HP ₂₁₂	測点 b	170	44	P ₃₁	47.46
												測点 a ₄	16	●(291)	H ₂₁ 幅	P ₂₁ —北柱筋	D ₁₁ —東柱筋	D ₁₁	47.47
												H ₂₁ 長	南東隅高床長	HP ₂₁₂ —H ₂₁ 北縁	HD ₂₁ 幅	北柱筋—北壁	東柱筋—HD ₂₁ 西縁	D ₂₁	47.75
												(323)	(270)	(16)	HD ₂₁ 幅	180	(16)	DH ₂₁	欠失
												南柱筋—HP ₂₁₁	HD ₂₁ 長	北西隅高床長	P ₃₁ —棟持柱筋	南壁—北壁	HD ₂₁ 西縁—D ₂₁	DP ₂₁₁	無配置
(97)	(210)	164	43	●(644)	76	DP ₂₁₂	無配置												
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差	南柱筋—HD ₂₁			H ₂₁	47.98										
(1.46)	(1.46)	(123)	(123)	(-82)	(194)			HP ₂₁₁	P ₁₁ 兼用										
				測点 a ₄	HD ₂₁ 南縁—D ₂₁			HP ₂₁₂	欠失										
				北東隅高床長	95														
				164	D ₂₁ —北柱筋														
				P ₃₁ —P ₂₂ 東西軸	99														
				48															

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	306 = 30.0cm × 10.2	306 = 30.6cm × 10.0
△桁行 A	(388) ≒ 30.0 × 12.9 = 387.0	(388) ≒ 30.6 × 12.5 = 382.5
△梁行 B	(265) ≒ 30.0 × 8.8 = 264.0	(265) ≒ 30.6 × 8.5 = 260.1
△HP ₂₁₁ —HP ₂₁₂	(291) = 30.0 × 9.7	(291) = 30.6 × 9.5 = 290.7
南壁—北壁	(644) ≒ 30.0 × 21.5 = 645.0	(644) ≒ 30.6 × 21.0 = 642.6
西壁—東壁	(530) ≒ 30.0 × 17.7 = 531.0	(530) ≒ 30.6 × 17.0 = 520.2

●(HP ₂₁₁ —HP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
△HP ₂₁₁ —HP ₂₁₂	291 = 30.0cm × 9.7	291 = 30.6cm × 9.5 = 290.7
棟持 a ₁	306 = 30.0 × 10.2	306 = 30.6 × 10.0
△桁行 A	(388) ≒ 30.0 × 12.9 = 387.0	(388) ≒ 30.6 × 12.5 = 382.5
△梁行 B	(265) ≒ 30.0 × 8.8 = 264.0	(265) ≒ 30.6 × 8.5 = 260.1
南壁—北壁	(644) ≒ 30.0 × 21.5 = 645.0	(644) ≒ 30.6 × 21.0 = 642.6
西壁—東壁	(530) ≒ 30.0 × 17.7 = 531.0	(530) ≒ 30.6 × 17.0 = 520.2

規 模	1間×1間
	主柱(4)
	棟持柱 2
	壁隅高床(4)
	方形区画 DH ₂₁
	方形区画 H ₂₁
	旧出住HP除去祭祀床面積(34.1)㎡

表47 1435号B 壁穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
南西—北東		P11・P13・P14・D11・D21		P ₁₁ -P ₁₂ (329)	P ₁₁ -P ₁₃ (198)	(399)	(198)	南壁—P ₂₁ (55)	西壁—HP ₂₁₂ 62	P ₁₁	欠失
N—23°—E		DH21・DP211		P ₁₃ -P ₁₄ (329)	P ₁₂ -P ₁₄ (198)	測点 a ₄	測点 b ₄	P ₂₁ -南柱筋	HP ₂₁₂ -H ₂₁ 東縁	P ₁₂	47.74
番号	検出面標高	平均	棟持柱間 a ₁	●(329)	(198)	南壁—H ₂₁ 南縁 (110)	南東隅高床幅 (130)	9	(65)	P ₁₃	欠失
P ₁₁	欠失			●263	測点 a ₄	H ₂₁ 南縁—HP ₂₁₁ 17	北東隅高床幅 130	南柱筋—D ₁₁	H ₂₁ 東縁—西柱筋 12	P ₁₄	欠失
P ₁₂	47.88			測点 a ₄	●(33)	●150	H ₂₁ 幅 (127)	D ₁₁ -P ₂₁	西柱筋—D ₁₁	P ₂₁	47.54
P ₁₃	欠失			DH ₂₁ 長 172	DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	測点 b	97	57	P ₂₂	47.35
P ₁₄	欠失			H ₂₁ 南縁—北柱筋 75	H ₂₁ 北縁—北柱筋 (99)	H ₂₁ 長 (184)	P ₂₁ -北柱筋	75	42	P ₃₁	未検出
P ₂₁	47.77			H ₂₁ 南縁—北柱筋 75	H ₂₁ 北縁—北柱筋 (99)	測点 a ₄	H ₂₁ 幅 (130)	北柱筋—北壁	棟持柱筋—西柱筋	P ₃₂	47.65
P ₂₂	47.70			H ₂₁ 南縁—北柱筋 75	H ₂₁ 北縁—北柱筋 (99)	測点 a ₄	HD ₂₁ 幅 (130)	南壁—北壁	棟持柱筋—西柱筋	D ₁₁	47.77
壁	48.01			H ₂₁ 南縁—北柱筋 75	H ₂₁ 北縁—北柱筋 (99)	測点 a ₄	P ₃₂ -棟持柱筋	●(445)	西柱筋—HD ₂₁ 西縁 (39)	D ₂₁	47.75
高床	47.98			H ₂₁ 南縁—北柱筋 75	H ₂₁ 北縁—北柱筋 (99)	測点 a ₄	南柱筋—DH ₂₁ 南縁 (82)	P ₂₁ -北柱筋	HD ₂₁ 西縁—HP ₂₁₂ (90)	DH ₂₁	欠失
中床	47.96			H ₂₁ 南縁—北柱筋 75	H ₂₁ 北縁—北柱筋 (99)	測点 a ₄	DH ₂₁ 南縁—DP ₂₁₁ (95)	338	DP ₂₁₂ -東壁 40	DP ₂₁₁	除去
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差			西壁—東壁 (506)	DP ₂₁₂	(47.73)		
							D ₁₁ -D ₂₁ 270	H ₂₁	欠失		
								HP ₂₁₁	47.78		
								HP ₂₁₂	47.77		

棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	263 = 29.9cm × 8.8 = 263.1	263 = 29.2cm × 9.0 = 262.8
△桁行 A	(329) = 29.9 × 11.0 = 328.9	(329) ≒ 29.2 × 11.5 = 335.8
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	(33) = 29.9 × 1.1 = 32.9	(33) ≒ 29.2 × 1.0 = 29.2
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	150 = 29.9 × 5.0 = 149.5	150 ≒ 29.2 × 5.0 = 146.0
南壁—北壁	(445) ≒ 29.9 × 14.9 = 445.5	(445) ≒ 29.2 × 15.0 = 438.0
西壁—東壁	(506) ≒ 29.9 × 16.9 = 505.3	(506) ≒ 29.2 × 17.0 = 496.4
●(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	150 = 30.0cm × 5.0	左に同じ
棟持 a ₁	263 ≒ 30.0 × 8.8 = 264.0	263 = 30.0 × 9.0 = 270.0
桁行 A	(329) ≒ 30.0 × 11.0 = 330.0	左に同じ
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	33 = 30.0 × 1.1	33 ≒ 30.0 × 1.0 = 30.0
南壁—北壁	(445) ≒ 30.0 × 14.8 = 444.0	(445) ≒ 30.0 × 15.0 = 450.0
西壁—東壁	(506) ≒ 30.0 × 16.9 = 507.0	(506) ≒ 30.0 × 17.0 = 510.0

規 模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	壁隅高床(2)
	方形区画 DH ₂₁
	方形区画 H ₂₁
床面積(22.5)㎡	

表48 1436号竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
南西-北東 N-27°-E		P11・14・53 DP212	P ₁₁ -P ₁₂ (276)	P ₁₁ -P ₁₃ (192)	(276)	(192)	南壁-南柱筋 (90)	西壁-西壁 13	P ₁₁	未検出
番号	検出面標高	平均	P ₁₃ -P ₁₄ (276)	P ₁₂ -P ₁₄ (192)	測点 a ₄	測点 b ₃	南柱筋-P ₂₁	西壁-西柱筋	P ₁₂	47.74
			棟持柱間 a ₁		南柱筋-DP ₂₁₁	南柱筋-P ₅₄	50	76	P ₁₃	47.56
			P ₂₁ -P ₂₂ ●162		149	98	P ₂₁ -D ₁₁	西柱筋-棟持柱筋	P ₁₄	未検出
					DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂ ●(31)		77	96	P ₂₁	47.67
					DP ₂₁₂ -北柱筋 (96)		D ₁₁ -P ₂₁	棟持柱筋-D ₁₁	P ₂₂	47.70
							73	20	P ₅₁	47.70
							P ₂₁ -北柱筋 76	D ₁₁ -東柱筋 74	P ₅₂	47.78
							北柱筋-北壁 59	東柱筋-DP ₂₁₁ ●150	P ₅₃	未確認
							南壁-北壁 ●(425)	DP ₂₁₁ -東壁 35	P ₅₄	47.51
								西壁-東壁 ●(451)	P ₉₁	47.49
壁	47.96					D ₁₁	47.75			
高床	47.90					D ₂₁	47.80			
中床	47.84					DP ₂₁₁	(47.72)			
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差		DP ₂₁₂	除去			
(1.43)	(1.43)	(84)	(84)	(-114)						

棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	162 = 30.0cm × 5.4	162 = 32.4cm × 5.0
△桁行 A	(276) = 30.0 × 9.2	(276) = 32.4 × 8.5 = 275.4
△東柱筋-DP ₂₁₁	150 = 30.0 × 5.0	150 = 32.4 × 4.5 = 145.8
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	(31) = 30.0 × 1.0 = 30.0	(31) = 32.4 × 1.0 = 32.4
南壁-北壁	(425) = 30.0 × 14.2 = 426.0	(425) = 32.4 × 13.0 = 421.2
西壁-東壁	(451) = 30.0 × 15.1 = 453.0	(451) = 32.4 × 14.0 = 453.6

●(DP _m -DP _m)換算	計算値	算出値
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	(31) = 31.0cm × 1.0	左に同じ
桁行 A	(276) = 31.0 × 8.9 = 275.9	(276) = 31.0 × 9.0 = 279.0
東柱筋-DP ₂₁₁	150 = 31.0 × 4.8 = 148.8	150 = 31.0 × 5.0 = 155.0
棟持 a ₁	162 = 31.0 × 5.2 = 161.2	162 = 31.0 × 5.0 = 155.0
南壁-北壁	(425) = 31.0 × 13.7 = 424.7	(425) = 31.0 × 14.0 = 434.0
西壁-東壁	(451) = 31.0 × 14.5 = 449.5	(451) = 31.0 × 15.0 = 465.0

規模	1間×1間
	主柱(4)
	棟持柱 2
	床面積(19.2)㎡

表49 1437号竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高		
南-北 N-22°-E		P11~14・21・22 D11・21	P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃				東壁-西壁 ●354	P ₁₁	欠失		
番号	検出面標高	平均	P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄					P ₁₂	欠失		
			棟持柱間 a ₁						P ₁₃	欠失		
			P ₂₁ -P ₂₂							P ₁₄	欠失	
										P ₂₁	欠失	
										P ₂₂	欠失	
										D ₁₁	欠失	
										D ₂₁	欠失	
			壁	47.47								
			高床									
			中床	47.24								
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差								
●東壁-西壁	計算値		算出値									
東壁-西壁	354 = 31.1cm × 11.8		354 = 29.5cm × 12.0									

規模	1間×1間
	支柱(4)
	棟持柱(2)
	床面積 ㎡

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(334) = 30.1cm × 11.1 = 334.1	(334) = 30.4cm × 11.0 = 334.4
△梁行 B	356 ≒ 30.1 × 11.8 = 355.2	356 ≒ 30.4 × 11.5 = 349.6
△棟持 a ₁	203 ≒ 30.1 × 6.7 = 201.7	203 ≒ 30.4 × 6.5 = 197.6
南柱筋-DP ₂₁₁	115 ≒ 30.1 × 3.8 = 114.4	115 ≒ 30.4 × 4.0 = 121.6
南壁-北壁	(679) ≒ 30.1 × 22.6 = 680.3	(679) ≒ 30.4 × 22.0 = 668.8
西壁-東壁	(498) ≒ 30.1 × 16.5 = 496.7	(498) ≒ 30.4 × 16.0 = 486.4

●南筋-DP ₂₁₁ 換算	計算値	算出値
南柱筋-DP ₂₁₁	115 = 30.3cm × 3.8 = 115.1	115 = 28.8cm × 4.0 = 115.2
△桁行 A	(334) = 30.3 × 11.0 = 333.3	(334) ≒ 28.8 × 11.5 = 331.2
△梁行 B	356 ≒ 30.3 × 11.7 = 354.5	356 ≒ 28.8 × 12.5 = 360.0
棟持 a ₁	203 = 30.3 × 6.7 = 203.0	203 ≒ 28.8 × 7.0 = 201.6
南壁-北壁	(679) = 30.3 × 22.4 = 678.7	(679) ≒ 28.8 × 24.0 = 691.2
西壁-東壁	(498) ≒ 30.3 × 16.4 = 496.9	(498) ≒ 28.8 × 17.0 = 489.6

規 模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	床面積(33.8)㎡

表52 1465号B 壁穴住居跡計測表

主軸方向	欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
南東-北西 N-23°-W	P12・14 D11	P ₁₁ -P ₁₂ (280)	P ₁₁ -P ₁₃ 360	(287)	360	南壁-P ₂₁ 154	西壁-西柱筋 54	P ₁₁	48.62
		P ₁₃ -P ₁₄ (293)	P ₁₂ -P ₁₄ (360)	測点 a ₄ 南柱筋-DP ₂₁₁	測点 b ₄ 西柱筋-P ₂₁	P ₂₁ -南柱筋 16	西柱筋-DP ₁₁₁ 178	P ₁₃	48.43
		●(287)	●360	43	183	南柱筋-DP ₁₁₁ 87	DP ₁₁₁ -DP ₂₁₁ 108	P ₁₄	重複
		棟持柱間 a ₁ P ₂₁ -P ₂₂ ●203		DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂ ●31	P ₂₁ -東柱筋 177	DP ₁₁₁ -P ₂₂ 100	DP ₂₁₁ -東柱筋 74	P ₂₁	48.30
				DP ₂₁₂ -北柱筋 206	西柱筋-P ₂₂ 183	P ₂₂ -北柱筋 154	東柱筋-東壁 52	P ₂₂	48.22
					P ₂₂ -東柱筋 177	北柱筋-北壁 (169)	西壁-東壁 ●466	D ₁₁	欠失
						南壁-北壁 ●(680)		DP ₁₁₁	48.73
								D ₂₁	48.52
								DP ₂₁₁	48.25
								DP ₂₁₂	48.52

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(287) = 29.9cm × 9.6 = 287.0	(387) = 28.7cm × 10.0
△梁行 B	360 ≒ 29.9 × 12.0 = 358.8	360 ≒ 28.7 × 12.5 = 358.8
棟持 a ₁	203 = 29.9 × 6.8 = 203.3	203 ≒ 28.7 × 7.0 = 200.9
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	31 ≒ 29.9 × 1.0 = 29.9	31 ≒ 28.7 × 1.0 = 28.7
西壁-東壁	(680) ≒ 29.9 × 22.7 = 678.7	(680) ≒ 28.7 × 24.0 = 688.8
南壁-北壁	466 ≒ 29.9 × 15.6 = 466.4	466 ≒ 28.7 × 16.0 = 459.2

(DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	31 = 31.0cm × 1.0	左に同じ
△桁行 A	(287) ≒ 31.0 × 9.3 = 288.3	(287) ≒ 31.0 × 9.5 = 294.5
△梁行 B	360 ≒ 31.0 × 11.6 = 359.6	360 ≒ 31.0 × 11.5 = 356.5
棟持 a ₁	203 ≒ 31.0 × 6.5 = 201.5	左に同じ
南壁-北壁	(680) ≒ 31.0 × 21.9 = 678.9	(680) ≒ 31.0 × 22.0 = 682.0
西壁-東壁	466 ≒ 31.0 × 15.0 = 465.0	左に同じ

規 模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 2
	床面積(31.7)㎡

表53 1466号竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
南-北 N-21°-W		DP212						南壁-P ₂₁ 101	西壁-D ₁₁ 172	P ₁₁	
平均		棟持柱間 a ₁		測点 a ₄	測点 b ₄	東西 P ₂₁ -DP ₂₁₁	西壁-高床西縁	P ₂₁ -D ₁₁	D ₁₁ -南北 0	P ₁₂	
P ₁₁		P ₂₁ -P ₂₂		20	144	20	144	63	5	P ₁₃	
P ₁₂		●155		DP ₂₁₁ -D ₂₁	高床西縁-南北 0	21	33	92	133	P ₁₄	
P ₁₃				D ₂₁ -DP ₂₁₂	南北 0-東壁	(22)	173	P ₂₂ -北壁 (101)	D ₂₁ -DP ₂₁₁	P ₂₁	48.43
P ₁₄				DP ₂₁₂ -東西 P ₂₂	壁沿高床長	(92)	●206	13	24	P ₂₂	48.30
P ₂₁				DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂		●(43)		●(88)	●350	D ₁₁	48.76
P ₂₂								●(357)		D ₂₁	48.66
壁										DP ₂₁₁	48.57
高床										DP ₂₁₂	未検出
中床											
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差							

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	155 = 29.8cm × 5.2 = 154.96	155 = 31.0cm × 5.0
△DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	(43) = 29.8 × 1.4 = 41.7	(43) = 31.0 × 1.5 = 46.5
壁隅高床幅	(88) = 29.8 × 3.0 = 89.4	(88) = 31.0 × 3.0 = 93.0
壁隅高床長	206 = 29.8 × 6.9 = 205.6	206 = 31.0 × 7.0 = 217.0
南壁-北壁	(357) = 29.8 × 12.0 = 357.6	(357) = 31.0 × 12.0 = 372.0
西壁-東壁	350 = 29.8 × 11.7 = 348.7	350 = 31.0 × 11.0 = 341.0

(DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂)換	計算値	算出値
△DP ₂₁₁ -DP ₂₁₂	(43) = 30.7cm × 1.4 = 42.98	(43) = 28.7cm × 1.5 = 43.1
△棟持 a ₁	155 = 30.7 × 5.0 = 153.5	155 = 28.7 × 5.5 = 157.9
壁隅高床幅	(88) = 30.7 × 2.9 = 89.1	(88) = 28.7 × 3.0 = 86.1
壁隅高床長	206 = 30.7 × 6.7 = 205.7	206 = 28.7 × 7.0 = 200.9
南壁-北壁	(357) = 30.7 × 11.6 = 356.1	(357) = 28.7 × 12.0 = 344.4
西壁-東壁	350 = 30.7 × 11.4 = 349.98	350 = 28.7 × 12.0 = 344.4

規 模	間×間
	主柱
	棟持柱 2
	壁隅高床 1
床面積(12.5)㎡	

表54 1467号竪穴住居跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
南-北 N-22°-W		P11~13*21 P22、D11*21		P ₁₁ -P ₁₂	P ₁₁ -P ₁₃			南壁高床幅	西壁-西柱筋	P ₁₁	欠失
平均		棟持柱間 a ₁		P ₁₃ -P ₁₄	P ₁₂ -P ₁₄			高床北縁-P ₂₂ 25	西柱筋-P ₂₁	P ₁₂	欠失
P ₁₁		P ₂₁ -P ₂₂						P ₂₁ -南柱筋 (25)	P ₂₁ -東柱筋	P ₁₃	欠失
P ₁₂		●						南壁-北壁	東柱筋-東壁	P ₁₄	48.84
P ₁₃										P ₂₁	未確認
P ₁₄										P ₂₂	欠失
P ₂₁											
P ₂₂											
壁											
高床											
中床											
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差							

表55 2001号A 堅穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A		梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
北東-南西		P11~14・81・83	P ₁₁ -P ₁₂		P ₁₁ -P ₁₃	(283)	(260)	北壁沿高床幅 (112)	東壁沿高床幅 (147)	P ₁₁	欠失
N-25°-E		H ₂₁ , HP ₂₁₁ , 212	P ₁₃ -P ₁₄		P ₁₂ -P ₁₄	測点 a ₄	測点 b ₄	高床南縁-P ₂₁ (35)	高床西縁-東柱筋 (20)	P ₁₂	欠失
番号	検出面標高	平均	●(283)		●(260)	北壁-P ₈₁ (35)	●(119)	P ₂₁ -北柱筋 (35)	東柱筋 aM ₁₁ (161)	P ₁₃	欠失
P ₁₁	欠失	棟持柱間 a ₁	●(353)		P ₈₂ -南壁 35	棟持柱筋 -H ₂₁ 東縁 (119)		南柱筋-P ₂₂ (35)	aM ₁₁ -西柱筋 (99)	P ₁₄	欠失
P ₁₂	欠失		P ₂₁ -P ₂₂		北壁-P ₈₃ (51)	P ₂₁ -高床北縁 (35)		H ₂₁ 幅 ●(147)		P ₂₁	(46.80)
P ₁₃	欠失	●(353)		P ₈₄ -南壁 51	北柱筋-H ₂₁ 北縁 (北柱筋-HP ₂₁₁) (217)		南壁沿高床幅 (112)	東壁-西壁 (594)	P ₂₂	46.80	
P ₁₄	欠失	●(353)		HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂ (H ₂₁ 長) ●(213)	H ₂₁ 南縁-南柱筋 (HP ₂₁₂ -南柱筋) (217)				P ₈₁	欠失	
P ₂₁	47.19	桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差			P ₈₂	47.03	
P ₂₂	47.13	(1.09)	(1.09)	(23)	(23)	(70)			P ₈₃	欠失	
壁	47.31								P ₈₄	47.24	
高床	欠失								H ₂₁	欠失	
中床	47.19								HP ₂₁₁	欠失	
									HP ₂₁₂	欠失	
									aHM ₁₁	欠失	

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	353 = 29.9cm × 11.8 = 352.8	353 = 29.4cm × 12.0 = 352.8
△桁行 A	(283) ÷ 29.9 × 9.5 = 284.1	(283) ÷ 29.4 × 9.5 = 279.3
△梁行 B	(260) ÷ 29.9 × 8.7 = 260.1	(260) ÷ 29.4 × 8.5 = 249.9
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	213 ÷ 29.9 × 7.1 = 212.3	213 ÷ 29.4 × 7.0 = 205.8
H ₂₁ 幅	(147) = 29.9 × 4.9 = 146.5	(147) = 29.4 × 5.0
棟持柱筋-HP ₂₁₁	(119) ÷ 29.9 × 4.0 = 119.6	(119) ÷ 29.4 × 4.0 = 117.6

(HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂)換算	計算値	算出値
HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂	(213) = 30.0cm × 7.1	(213) = 30.4cm × 7.0 = 212.8
△棟持 a ₁	353 ÷ 30.0 × 11.8 = 354.0	353 ÷ 30.4 × 11.5 = 349.6
△桁行 A	(283) ÷ 30.0 × 9.4 = 282.0	(283) ÷ 30.4 × 9.5 = 288.8
△梁行 B	(260) ÷ 30.0 × 8.7 = 261.0	(260) ÷ 30.4 × 8.5 = 258.4
H ₂₁ 幅	(147) = 30.0 × 4.9	(147) ÷ 30.4 × 5.0 = 152.0
棟持柱筋-HP ₂₁₁	(119) ÷ 30.0 × 4.0 = 120.0	(119) ÷ 30.4 × 4.0 = 121.6

規模	1 間 × 1 間
	主柱 (4)
	棟持柱 (2)
	補柱 (4)
	高床 (5)
	棟持柱筋区画 aHM ₁₁
	方形区画 H ₂₁
床面積 (38.4) m ²	

表56 2001号B 堅穴住居跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A		梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	測点 b	番号	標高
北東-南西		P11~14・81・83・84	P ₁₁ -P ₁₂		P ₁₁ -P ₁₃	(283)	(260)	北壁沿高床幅 ●(112)	東壁沿高床幅 ●(127)	P ₁₁	欠失
N-25°-E		H ₂₁ , HP ₂₁₁ , 212	P ₁₃ -P ₁₄		P ₁₂ -P ₁₄	測点 a ₄	測点 b ₄	高床南縁-P ₂₁ (35)	高床西縁-東柱筋 (14)	P ₁₂	欠失
番号	検出面標高	平均	(283)		(260)	北壁-P ₈₁ (35)	●(119)	P ₂₁ -北柱筋 (35)	東柱筋-棟持柱筋 (161)	P ₁₃	欠失
P ₁₁	欠失	棟持柱間 a ₁	●(353)		P ₈₂ -南壁 35	棟持柱筋 -H ₂₁ 東縁 (119)		南柱筋-P ₂₂ (35)	棟持柱筋-西柱筋 (125)	P ₁₄	欠失
P ₁₂	欠失		P ₂₁ -P ₂₂		北壁-P ₈₃ (51)	P ₂₁ -高床北縁 (35)		H ₂₁ 幅 ●(127)		P ₂₁	重複
P ₁₃	欠失	●(353)		P ₈₄ -南壁 (51)	北柱筋-H ₂₁ 北縁 (北柱筋-HP ₂₁₁) (70)		南壁沿高床幅 (112)	東壁-西壁 (568)	P ₂₂	重複	
P ₁₄	欠失	●(353)		HP ₂₁₁ -HP ₂₁₂ (H ₂₁ 長) ●(143)	H ₂₁ 南縁-南柱筋 (HP ₂₁₂ -南柱筋) (70)				P ₈₁	欠失	
P ₂₁	重複	桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差			P ₈₂	47.09	
P ₂₂	重複	(1.09)	(1.09)	(23)	(23)	(70)			P ₈₃	欠失	
壁	47.19								P ₈₄	重複	
高床	47.16								H ₂₁	46.81	
中床	47.10								HP ₂₁₁	欠失	
									HP ₂₁₂	欠失	
									aHM ₁₁	欠失	

●桁筋-HP ₂₁ 換算	計 算 値	算 出 値
棟持柱筋-HP ₂₁	(119) = 29.8cm × 4.0 = 119.2	左に同じ
△東壁沿高床幅	(127) ≒ 29.8 × 4.3 = 128.1	(127) ≒ 29.8 × 4.5 = 134.1
北壁沿高床幅	(112) ≒ 29.8 × 3.8 = 113.2	(112) ≒ 29.8 × 4.0 = 119.2
棟 持 a ₁	(353) ≒ 29.8 × 11.8 = 351.6	(353) ≒ 29.8 × 12.0 = 357.6
HP ₂₁ -HP ₂₂	(143) = 29.8 × 4.8 = 143.0	(143) ≒ 29.8 × 5.0 = 149.0
東壁-西壁	(568) ≒ 29.8 × 19.1 = 569.2	(568) ≒ 29.8 × 19.0 = 566.2
HP ₂₁ -HP ₂₂ 換算	計 算 値	算 出 値
HP ₂₁ -HP ₂₂	(143) = 29.8cm × 4.8 = 143.04	(143) = 28.6cm × 5.0
棟持柱筋-HP ₂₁	(119) = 29.8 × 4.0 = 119.2	(119) ≒ 28.6 × 4.0 = 114.4
△東壁沿高床幅	(127) ≒ 29.8 × 4.3 = 128.1	(127) ≒ 28.6 × 4.5 = 128.7
北壁沿高床幅	(112) ≒ 29.8 × 3.8 = 113.2	(112) ≒ 28.6 × 4.0 = 114.4
△棟持 a ₁	(353) ≒ 29.8 × 11.8 = 351.6	(353) ≒ 28.6 × 12.5 = 357.5
東壁-西壁	(568) = 29.8 × 19.1 = 569.2	(568) ≒ 28.6 × 20.0 = 572.0

規 模	1間×1間
	主柱 4
	棟持柱 (2)
	補柱 (4)
	高床 (3)
	棟持柱筋区画溝 aM ₁₁
	方形区画 H ₂₁
床面積(36.7)㎡	

表57 1号案据立柱建物跡計測表

主軸方向	欠 番	桁行 A	梁行 B	桁立柱間 a ₂	梁間 b ₂
東-西 N-70°W		P ₁ -P ₃ 430	P ₁ -P ₄ 258	P ₁ -P ₂ 208	258
		P ₄ -P ₆ 431	P ₃ -P ₆ 258	P ₂ -P ₃ 223	
		平均 ●431	●258	P ₄ -P ₅ 216	
		棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	216	
			P ₂ -P ₅ 271	P ₅ -P ₆ 215	
			平均	216	
番号	検出面標高				
P ₁	48.97				
P ₃	48.90				
P ₄	49.02				
P ₆	48.91				
P ₂₁					
P ₂₂					
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差	
1.67	0.84	173	-42		

番号	標高
P ₁	48.56
P ₂	48.69
P ₃	48.33
P ₄	48.60
P ₅	48.47
P ₆	48.55

●桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁行 A	431 = 29.9cm × 14.4 = 430.6	431 = 30.8cm × 14.0 = 431.2
梁行 B	258 ≒ 29.9cm × 8.6 = 257.1	258 ≒ 30.8 × 8.5 = 261.8
棟持 a ₁	無配置	無配置

規 模	1間×2間
	棟持柱 0
	面積11.1㎡

表58 12号A案掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂
東-西		P ₂₁		P ₁ -P ₃	P ₁ -P ₄	P ₁ -P ₂	312
N-81°-W				465	314	244	
番号		検出面標高		P ₄ -P ₆	P ₃ -P ₆	P ₂ -P ₃	平均
P ₁	49.06	●455		309	221	P ₄ -P ₅	
P ₃	49.01	棟持柱間 a ₁		柱間 b ₁	242		
P ₄	49.01	P ₂₁ -P ₂₂		P ₂ -P ₅	P ₅ -P ₆	平均	
P ₆	49.00	●(444)		(322)	203		
P ₂₁	未確認					228	
P ₂₂	49.00						
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差			
1.42	0.71	132	-90	-1			

番号	標高
P ₁	48.48
P ₂	48.74
P ₃	48.78
P ₄	48.61
P ₅	48.63
P ₆	48.65
P ₂₁	未確認
P ₂₂	48.69

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	455 = 30.1cm × 15.1 = 454.5	455 = 30.3cm × 15.0 = 454.5
△梁行 B	312 ≈ 30.1 × 10.4 = 313.0	312 ≈ 30.3 × 10.5 = 318.2
△棟持 a ₁	(444) ≈ 30.1 × 14.8 = 445.5	(444) ≈ 30.3 × 14.5 = 439.4
●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	(444) = 30.0cm × 14.8	(444) = 29.6cm × 15.0
△桁行 A	455 = 30.0 × 15.2 = 456.0	455 ≈ 29.6 × 15.5 = 458.8
△梁行 B	312 = 30.0 × 10.4	312 ≈ 29.6 × 10.5 = 310.8

規模	1間×2間
	棟持柱 2
	面積14.0㎡

表59 12号B案掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂
東-西		P ₂₂		P ₁ -P ₃	P ₁ -P ₄	P ₁ -P ₂	320
N-83°-W				458	338	232	
番号		検出面標高		P ₄ -P ₆	P ₃ -P ₆	P ₂ -P ₃	平均
P ₁	重複	●452		306	226	P ₄ -P ₅	
P ₃	49.01	棟持柱間 a ₁		柱間 b ₁	231		
P ₄	49.03	P ₂₁ -P ₂₂		P ₂ -P ₅	P ₅ -P ₆	平均	
P ₆	49.00	(448)		(322)	214		
P ₂₁	未確認					226	
P ₂₂	重複						
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差			
1.41	0.71	132	-94	-11			

番号	標高
P ₁	重複
P ₂	48.49
P ₃	48.69
P ₄	48.80
P ₅	重複
P ₆	48.65
P ₂₁	未確認
P ₂₂	48.69

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	452 = 29.9cm × 15.1 = 451.5	452 = 30.1cm × 15.0 = 451.5
△梁行 B	322 ≈ 29.9 × 10.8 = 322.9	322 ≈ 30.1 × 10.5 = 316.1
棟持 a ₁	(448) ≈ 29.9 × 15.0 = 448.5	(448) ≈ 30.1 × 15.0 = 451.5
●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	(448) ≈ 30.1cm × 14.9 = 448.5	(448) ≈ 29.9cm × 15.0 = 448.5
桁行 A	452 = 30.1 × 15.0 = 451.5	452 ≈ 29.9 × 15.0 = 448.5
梁行 B	322 = 30.1 × 10.7 = 322.1	322 ≈ 29.9 × 11.0 = 328.9

規模	1間×2間
	棟持柱 2
	面積14.5㎡

表60 1002号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 A	測点 B	番号	標高	
南-北		N-15°-W	P ₁ -P ₄	P ₁ -P ₅	P ₁ -P ₂	313	南柱筋-P61A	西柱筋-P61A	P ₁	48.56	
			693	324	268		227	(60)	P ₂	48.51	
			P ₅ -P ₈	P ₄ -P ₈	P ₂ -P ₃		南柱筋-P62B	東柱筋-P62A	P ₃	48.51	
			682	302	201		203	60	P ₄	48.58	
		平均	●688	●313	P ₃ -P ₄		平均	215	60	P ₅	48.67
			棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	224		P61A-P65A	西柱筋-P63A	P ₆	48.43	
				P ₂ -P ₆	P ₅ -P ₆	施設柱間B	114	80	P ₇	48.47	
				296	240	P61-P62	P65A-P66A	東柱筋-P64A	P ₈	48.60	
				P ₃ -P ₇	P ₆ -P ₇	●(422)	125	74	P ₆₁	48.41	
				306	214	P63-P64	P66A-P67A		P ₆₂	48.61	
			平均	301	P ₇ -P ₈		116		溝1001A	48.38	
					228		P67A-P63A		溝1001B	48.62	
				平均	229		100		溝1003	48.28	
							P61A-P63A		溝2001A	48.77	
							455		溝2001B	48.86	
									土坑11	47.85	
									土坑12(1001A)	47.97	
									土坑12(1001B)	48.22	
									土坑1002A	48.26	
									土坑1002B	48.51	
									溝2003	48.61	
									P1549(溝2004)	48.46	
									P1325(溝2005)	48.54	
									P1520(溝2006)	48.42	

関連遺構	主軸(真軸)	検出面標高
住1001	N-75°-E	49.13
溝1001A	N-75°-E	48.93
溝1003	N-69°-E	48.64
溝18	N-75°-E	48.64
土坂1001A		48.63
土坂1002A		48.64
建1001	N-89°-W	48.95
溝1001B	N-89°-W	48.95
溝2001	N-89°-W	48.91
溝2002	N-89°-W	48.92
土坂1001B	?	48.61
土坂1002B	?	48.67
土坂1003	N-85°-W	48.58
溝2003	?	48.79
溝2004	?	48.69
溝2005	N-89°-W	48.63
溝2006	N-89°-W	48.66
溝2007	N-89°-W	48.63
土坑13	N-84°-W	48.58

測点 B		測点 A		主軸方向	
北柱筋-P61B	P66B-P67B	(182)	155	西柱筋-P61B	東-西
南柱筋-P62B	P67B-P68B	174	(91)	(西柱筋-P65B)	N-89°-W
P61B-P65B	P68B-P62B	(72)	(83)		
P65B-P66B	P61B-P62B	123	(524)	桁行 A	梁行 B
				363	166

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
2.20	0.73	375	-84	

●桁行換算		計算値	算出値
桁行 A	688	≒30.0cm×22.9=687.0	688 =29.9cm×23.0=687.7
△梁行 B	313	≒30.0 ×10.4=312.0	313 ≒29.9 ×10.5=314.0
施設柱間B	(422)	≒30.0 ×14.1=423.0	(422)≒29.9 ×14.0=418.6

●施設柱間換算		計算値	算出値
施設柱間B	(422)	=29.9cm×14.1=421.6	(422)≒30.1cm×14.0=421.4
桁行 A	688	=29.9 ×23.0=687.7	688 ≒30.1 ×23.0=692.3
△梁行 B	313	≒29.9 ×10.5=314.0	313 =30.1 ×10.5=316.1

規		1間×3間
模	棟持柱	0
	施設柱	2
	施設溝	1
		床面積21.5㎡

表61 1003号A掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A		梁行 B		桁立柱間 a ₂		梁間		柱間 a ₃		番号		標高	
東-西		P ₃		P ₁ -P ₃		P ₁ -P ₄		P ₁ -P ₂		359		P ₂₁ -P ₈₁		P ₁		48.44	
N-76°-E				(446)		359		226				226		P ₂		48.64	
番号		検出面標高		P ₄ -P ₆		P ₃ -P ₆		P ₂ -P ₃		柱間 b ₃		P ₈₁ -P ₂₂		P ₃		欠失?	
P ₁		48.75		464		(359)		220		P 2 - P ₈₁		194		P ₄		48.59	
P ₃		欠失?		平均		455		359		187		210		P ₅		48.52	
P ₄		48.72		棟持柱間 a ₁		柱間 b ₁		P ₄ -P ₅		P ₈₁ -P ₅				P ₆		48.65	
P ₆		48.89		P ₂₁ -P ₂₂		P ₂ -P ₅		P ₅ -P ₆		134				P ₂₁		48.52	
P ₂₁		48.81		420		321		219		161		平均		P ₂₂		48.65	
P ₂₂		48.86						平均		228				P ₈₁		48.41	
桁行比		桁立柱比		桁行差		桁立柱差		棟持柱差									
1.37		0.64		96		-131		-35									

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	455=29.9cm×15.2=454.5	455=30.3cm×15.0=454.5
梁行 B	359=29.9 ×12.0=358.8	359=30.3 ×12.0=363.6
棟持 a ₁	420=29.9 ×14.0=418.6	420=30.3 ×14.0=424.2
●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	420=30.0cm×14.0	左に同じ
桁行 A	455=30.0 ×15.2=456	455=30.0 ×15.0=450
梁行 B	359=30.0 ×12.0=360	359=30.0 ×12.0=360

規模	1間×2間
	棟持柱 2
	床 束 1 面積16.3㎡

表62 1003号B掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A		梁行 B		桁立柱間 a ₂		梁間		柱間 a ₃		番号		標高	
東-西		P1・3~5		P ₁ -P ₃		P ₁ -P ₄		P ₁ -P ₂		(359)		P ₂₁ -P ₈₁		P ₁		重複	
N-76°-E		P 6・21		(400)		(359)		210				(201)		P ₂		48.57	
番号		検出面標高		P ₄ -P ₆		P ₃ -P ₆		P ₂ -P ₃		柱間 b ₃		P ₈₁ -P ₂₂		P ₃		欠失?	
P ₁		重複		400		(359)		190		P ₂ -P ₈₁		180		P ₄		重複	
P ₃		欠失?		平均		400		(359)		159		191		P ₅		48.64	
P ₄		重複		棟持柱間 a ₁		柱間 b ₁		P ₄ -P ₅		P ₈₁ -P ₅				P ₆		48.82	
P ₆		48.82		P ₂₁ -P ₂₂		P ₂ -P ₅		P ₅ -P ₆		174		平均		P ₂₁		重複	
P ₂₁		重複		(381)		333		194		167				P ₂₂		48.78	
P ₂₂		48.78				平均		200						P ₈₁		48.60	
桁行比		桁立柱比		桁行差		桁立柱差		棟持柱差									
1.05		0.56		41		-159		-19									

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	400=30.1cm×13.3=400.3	400=30.8cm×13.0=400.4
△梁行 B	(359)≒30.1 ×11.9=358.2	(359)≒30.8 ×11.5=354.2
△棟持 a ₁	(381)≒30.1 ×12.7=382.3	(381)≒30.8 ×12.5=385.0
●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	(381)=30.0cm×12.7	(381)=29.3cm×13.0=380.9
△桁行 A	400≒30.0 ×13.3=399	400≒29.3 ×13.5=395.6
△梁行 B	(359)≒30.0 ×12.0=360.0	(359)≒29.3 ×12.5=366.3

規模	1間×2間
	棟持柱 2
	床 束 1 面積(14.4)㎡

表63 1004号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	番号	標高	
東—西 N—89°—W		P 1・2・5		P ₁ —P ₄ (590)	P ₁ —P ₅ (448)	P ₁ —P ₂ (195)	448	P ₁	未検出?	
番号	検出面標高	平均	棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	P ₅ —P ₈ (584)	P ₄ —P ₈ 448	P 2—P 3 (209)	P ₂	未検出?	
					P ₁	未検出?	P ₃ —P ₄	P ₃	48.70	
					P ₄	48.81	186	P ₄	48.45	
					P ₅	未検出	P ₂₁ —P ₂₂ 652	P ₅ —P ₆ (211)	P ₅	未検出
					P ₈	48.77	P ₂ —P ₆ (448)	P ₆ —P ₇ 438	P ₆	48.48
					P ₂₁	48.55	P ₃ —P ₇ 443	P ₇ —P ₈ 184	P ₇	48.59
P ₂₂	48.82	196	平均	P ₈	48.39					
桁行比		桁行柱比		桁行差		桁行柱差		棟持柱差		
1.31		0.43		139		-252		65		

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(587) ÷ 29.9cm × 19.6 = 586.0	(587) ÷ 29.4cm × 20.0 = 588.0
梁行 B	448 ÷ 29.9 × 15.0 = 448.5	448 ÷ 29.4 × 15.0 = 441.0
棟持 a ₁	652 ÷ 29.9 × 21.8 = 651.8	652 ÷ 29.4 × 22.0 = 646.8

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	652 ÷ 30.0cm × 21.7 = 651	652 ÷ 29.6cm × 22.0 = 651.2
桁行 A	(587) ÷ 30.0 × 19.6 = 588	(587) ÷ 29.6 × 20.0 = 592.0
梁行 B	448 ÷ 30.0 × 14.9 = 447	448 ÷ 29.6 × 15.0 = 444.0

規模	1間×3間
	棟持柱 2
	面積26.3㎡

表64 1005号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間	柱間 a ₃	番号	標高		
南東—北西 N—45°—W		P ₁		P ₁ —P ₃ (490)	P ₁ —P ₄ (442)	P ₁ —P ₂ (282)	442	P ₂₁ —P ₈₁ 260	P ₁	欠失?		
番号	検出面標高	平均	棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	P ₄ —P ₆ 518	P ₂ —P ₆ 442	P ₂ —P ₃ 208	柱間 b ₃	P ₈₁ —P ₂₂ 221	P ₂	48.49	
					P ₁	欠失?	P ₄ —P ₅	P ₂ —P ₈₁ 260	241	平均	P ₃	48.49
					P ₃	48.96	259	P ₈₁ —P ₅	254	平均	P ₄	48.38
					P ₄	48.75	P ₂₁ —P ₂₂ 481	P ₅ —P ₆ 259	257	平均	P ₅	48.66
					P ₆	48.96	487	252			P ₆	48.72
					P ₂₁	48.77					P ₂₁	48.69
P ₂₂	48.92					P ₂₂	48.67					
桁行比		桁行柱比		桁行差		桁行柱差		棟持柱差				
1.14		0.57		62		-190		-23				

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	504 ÷ 30.0cm × 16.8	504 ÷ 29.6cm × 17.0 = 503.2
梁行 B	442 ÷ 30.0 × 14.7 = 441.0	442 ÷ 29.6 × 15.0 = 444.0
△棟持 a ₁	481 ÷ 30.0 × 16.0 = 480.0	481 ÷ 29.6 × 16.5 = 488.4

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	481 ÷ 30.0cm × 16.0 = 480.0	左に同じ
桁行 A	504 ÷ 30.0 × 16.8	504 ÷ 30.0 × 17.0 = 510
△梁行 B	442 ÷ 30.0 × 14.7 = 441.0	442 ÷ 30.0 × 14.5 = 435

規模	1間×2間
	棟持柱 2
	床束 1 面積22.3㎡

表65 1007号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A		梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間	柱間 a ₃	番号	標高	
東一西		P ₃	P ₁ -P ₃		P ₁ -P ₄	P ₁ -P ₂	315	P ₂₁ -P ₈₁	P ₁	48.70	
N-81°-E			(392)		315	214		169	P ₂	48.78	
番号		検出面標高	P ₄ -P ₆		P ₃ -P ₆	P ₂ -P ₃	柱間 b ₃	P ₈₁ -P ₂₂	P ₃	欠失?	
P ₁	48.77	平均	375		(315)	178	P ₂ -P ₈₁	167	P ₄	48.50	
P ₃	欠失?		384		315	P ₄ -P ₅		123	168	P ₅	48.57
P ₄	48.72	棟持柱間 a ₁		柱間 b ₁	186		P ₈₁ -P 5	平均		P ₆	48.79
P ₆	48.89	P ₂₁ -P ₂₂		P ₂ -P ₅	P ₅ -P ₆	168		146	平均	P ₂₁	48.45
P ₂₁	48.74	336		291	189	平均		P ₂₂	48.80		
P ₂₂	48.90	平均		192				P ₈₁	48.58		
桁行比		桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差						
1.22		0.61	69	-123	-48						

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	384=30.0cm×12.8	384=29.5cm×13.0=383.5
△梁行 B	315=30.0 ×10.5	315=29.5 ×10.5=309.8
△棟持 a ₁	336=30.0 ×11.2	336=29.5 ×11.5=339.3

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	336=30.0cm×11.2	336=30.5cm×11.0=335.5
△桁行 A	384=30.0 ×12.8	384=30.5 ×12.5=381.3
△梁行 B	315=30.0 ×10.5	315=30.5 ×10.5=320.3

規模	1間×2間
	棟持柱 2
	床束 1
面積12.1㎡	

表66 1008号A掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A		梁行 B	桁行柱間 b ₂	梁間	番号	標高
南一北		P ₂₁	P ₁ -P ₃		P ₁ -P ₄	P ₁ -P ₂	391	P ₁	48.45
N-12°-W			518		399	255		P ₂	48.67
番号		検出面標高	P ₄ -P ₆		P ₃ -P ₆	P ₂ -P ₃	P ₃		
P ₁	48.85	平均	476		382	263	P ₄		
P ₃	48.75		497		391	P ₄ -P ₅	P ₅		
P ₄	48.61	棟持柱間 a ₁		柱間 b ₁	244		P ₆		
P ₆	48.98	P ₂₁ -P ₂₂		P ₂ -P ₅	P ₅ -P ₆	232	P ₂₁		
P ₂₁	未検出	(511)		409	平均		249		
P ₂₂	48.96	平均		249					
桁行比		桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差				
1.28		0.64	106	-142	14				

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	497=29.9cm×16.6=493.3	497=29.2cm×17.0=496.4
△梁行 B	391=29.9 ×13.1=391.7	391=29.2 ×13.5=394.2
△棟持 a ₁	511=29.9 ×17.1=511.3	511=29.2 ×17.5

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	511=30.1cm×17.0=511.7	左に同じ
△桁行 A	497=30.1 ×16.5=496.7	左に同じ
梁行 B	391=30.1 ×13.0=391.3	左に同じ

規模	1間×2間
	棟持柱 2
面積19.4㎡	

表67 1008号B掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間	番号	標高			
南-北		P 1	P ₁ -P ₃	P ₁ -P ₄	P ₁ -P ₂	348	P ₁	48.87			
N-11°-W			433	357	222		P ₂	48.76			
番号	検出面標高	平均	P ₄ -P ₆	P ₃ -P ₆	P ₂ -P ₃	P ₄ -P ₅	P ₃	48.51			
			464	338	211		P ₄	48.57			
			449	348	235		P ₅	未計測			
			棟持柱間 a ₁		柱間 b ₁	P ₅ -P ₆	P ₂₁ -P ₂₂	P ₂ -P ₅	P ₆	P ₂₁	48.85
			505		376						
			平均		平均		224				
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差							
1.29	0.64	101	-124	56							

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	449≒30.0cm×15.0=450	左に同じ
△梁行 B	348≒30.0 ×11.6	348≒30.0 ×11.5=345.0
棟持 a ₁	505≒30.0 ×16.8=504	505≒30.0 ×17.0=510.0

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	505≒30.1cm×16.8=505.7	505≒29.7cm×17.0=504.9
桁行 A	449≒30.1 ×14.9=448.5	449≒29.7 ×15.0=445.5
△梁行 B	348≒30.1 ×11.6=349.2	348≒29.7 ×11.5=341.6

規	1間×2間
棟持柱	2
模	面積15.6㎡

表68 1009号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間	番号	標高			
東-西		P 1	P ₁ -P ₃	P ₁ -P ₄	P ₁ -P ₂	420	P ₁	未検出			
N-81°-E			(536)	(427)	(276)		P ₂	48.31			
番号	検出面標高	平均	P ₄ -P ₆	P ₃ -P ₆	P ₂ -P ₃	P ₄ -P ₅	P ₃	48.40			
			536	412	260		P ₄	48.56			
			536	420	(268)		P ₅	48.71			
			棟持柱間 a ₁		柱間 b ₁	P ₅ -P ₆	P ₂₁ -P ₂₂	P ₂ -P ₅	P ₆	P ₂₁	48.65
			518		349						
			平均		平均		268				
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差							
1.28	0.64	116	-152	-18							

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	536≒29.9cm×17.9=535.2	536≒29.8cm×18.0=536.4
梁行 B	420≒29.9 ×14.0=418.6	420≒29.8 ×14.0=417.2
△棟持 a ₁	518≒29.9 ×17.3=517.3	518≒29.8 ×17.5=521.5

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	518≒29.9cm×17.3=517.3	518≒30.5cm×17.0=518.5
△桁行 A	536≒29.9 ×17.9=535.2	536≒30.5 ×17.5=533.8
梁行 B	420≒29.9 ×14.0=418.6	420≒30.5 ×14.0=427.0

規	1間×2間
棟持柱	2
模	面積22.5㎡

表69 1010号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間	番号	標高
東—西		/	P ₁ —P ₃	P ₁ —P ₄	P ₁ —P ₂	153	P ₁	48.71
N—71°—E			389	150	190		P ₂	48.61
番号	検出面標高	平均	P ₄ —P ₆	P ₃ —P ₆	P ₂ —P ₃	/	P ₃	48.58
			408	155	199		P ₄	48.53
			399	153	209		P ₅	48.65
			/	棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	/	P ₆	48.63
				/	/		P ₂ —P ₅	199
							152	199
/		平均	199					

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
2.61	1.04	246	46	/

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	399=30.0cm×13.3	399=30.7cm×13.0=399.1
梁行 B	153=30.0 × 5.1	153=30.7 × 5.0=153.5

規	1間×2間
模	棟持柱 0
	面積6.1㎡

表70 1019号A掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	番号	標高	
東—西		P 6	P ₁ —P ₃	P ₁ —P ₄	P ₁ —P ₂	367	P ₁	48.17	
N—68°—E			385	364	204		P ₂	48.23	
番号	検出面標高	平均	P ₄ —P ₆	P ₃ —P ₆	P ₂ —P ₃	/	P ₃	48.57	
			(385)	(370)	181		P ₄	48.10	
			385	367	206		P ₅	48.33	
			/	棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	/	P ₆	欠失	
				/	/		P ₂₁ —P ₂₂	P ₂ —P ₅	P ₅ —P ₆
							400	394	(179)
/		平均	193						

桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差
1.05	0.53	18	-174	15

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	385=30.1cm×12.8=385.3	385=29.6cm×13.0=384.8
△梁行 B	367=30.1 × 12.2=367.2	367=29.6 × 12.5=370.0
△棟持 a ₁	400=30.1 × 13.3=400.3	400=29.6 × 13.5=399.6

●棟持換算	計算値	算出値
△棟持 a ₁	400=30.1cm×13.3=400.3	400=30.8cm×13.0=400.4
桁行 A	385=30.1 × 12.8=385.3	385=30.8 × 12.5
梁行 B	367=30.1 × 12.2=367.2	367=30.8 × 12.0=369.6

規	1間×2間
模	棟持柱 2
	面積14.1㎡

表71 1019号B掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	番号	標高
南西—北東 N—63°—E		P1・5・6 P21	P ₁ —P ₃ (420)	P ₁ —P ₄ (334)	P ₁ —P ₂ (206)	(342)	P ₁	重複
番号		検出面標高	P ₄ —P ₆ (420)	P ₃ —P ₆ (349)	P ₂ —P ₃ (214)		P ₂	48.24
P ₁	重複		平均	棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	P ₄ —P ₅ (210)	P ₃	48.30
P ₃	48.54						P ₂₁ —P ₂₂ (384)	P ₂ —P ₅ (334)
P ₄	48.15		平均		(210)	P ₅	欠失	
P ₆	欠失					P ₆	欠失	
P ₂₁	欠失					P ₂₁	欠失	
P ₂₂	48.66					P ₂₂	48.57	
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差				
(1.20)	(0.61)	(78)	(-132)	(-36)				

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(420) = 30.0cm × 14.0	左に同じ
△梁行 B	(342) = 30.0 × 11.4	(342) ÷ 30.0 × 11.5 = 345.0
棟持 a ₁	(384) = 30.0 × 12.8	(384) ÷ 30.0 × 13.0 = 390.0
●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	(384) = 30.0cm × 12.8	(384) = 29.5cm × 13.0 = 383.5
桁行 A	(420) = 30.0 × 14.0	(420) ÷ 29.5 × 14.0 = 413.0
△梁行 B	(342) = 30.0 × 11.4	(342) ÷ 29.5 × 11.5 = 339.3

規	1間×2間
棟持柱	2
模	面積(14.4)㎡

表72 1029号A掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	番号	標高
東—西 N—79°—W		P 4	P ₁ —P ₃ 555	P ₁ —P ₄ (324)	P ₁ —P ₂ 284	324	P ₁	48.74
番号		検出面標高	P ₄ —P ₆ 541	P ₃ —P ₆ 324	P ₂ —P ₃ 271		P ₂	48.97
P ₁	48.90		平均	●548	●324	P ₄ —P ₅ (294)	P ₃	48.53
P ₃	48.84						棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁
P ₄	未確認				平均	274	P ₅	48.05
P ₆	48.91						P ₆	48.57
P ₂₁							P ₆₁	48.65
P ₂₂								
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差				
1.69	0.85	224	-50					

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	548 ÷ 29.9cm × 18.3 = 547.2	548 ÷ 30.4cm × 18.0 = 547.2
△梁行 B	324 ÷ 29.9 × 10.8 = 322.9	324 ÷ 30.4 × 10.5 = 319.2
棟持 a ₁	無配置	無配置

規	1間×2間
棟持柱	0
床束	1
模	面積17.8㎡

表73 1029号B掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	番号	標高
東-西		P 2~4		P ₁ -P ₃	P ₁ -P ₄	P ₁ -P ₂	(348)	P ₁	48.74
N-75°-W		P 6		(516)	(348)	(258)		P ₂	48.84
番号	検出面標高	平均	●(516)	●(348)	棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	P ₄ -P ₅	P ₃	重複
								P ₄	未確認
P ₅	48.04								
P ₆	重複						P ₆	重複	
P ₂₁	/	平均						P ₈₁	48.7
P ₂₂									
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差					
(1.48)	(0.74)	(168)	(-90)	/					

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(516) = 30.0cm × 17.2	(516) ≈ 30.4cm × 17.0 = 516.8
△梁行 B	(348) = 30.0 × 11.6	(348) ≈ 30.4 × 11.5 = 349.6
棟持 a ₁	無配置	無配置

規 模	1間×2間
	棟持柱 0
	床束 1
面積(18.0)㎡	

表74 1031号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間	番号	標高
南-北		P 5・6		P ₁ -P ₃	P ₁ -P ₄	P ₁ -P ₂	370	P ₁	48.40
N-15°-W		P22		415	370	194		P ₂	48.38
番号	検出面標高	平均	428	370	棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	P ₄ -P ₅	P ₃	48.25
								P ₄	48.37
P ₅	48.30							P ₅	欠失
P ₆	48.57							P ₆	未確認
P ₂₁	48.65	平均						P ₂₁	48.33
P ₂₂	48.35							P ₂₂	48.16
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差					
1.16	0.58	58	(-156)	0					

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	428 = 29.9cm × 14.3 = 427.6	428 = 30.6cm × 14.0 = 428.4
梁行 B	370 ≈ 29.9 × 12.4 = 370.8	370 ≈ 30.6 × 12.0 = 367.2
棟持 a ₁	(428) = 29.9 × 14.3 = 427.6	(428) = 30.6 × 14.0 = 428.4

●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	(428) = 29.9cm × 14.3 = 427.6	(428) = 30.6cm × 14.0 = 428.4
桁行 A	428 = 29.9 × 14.3 = 427.6	428 = 30.6 × 14.0 = 428.4
梁行 B	370 ≈ 29.9 × 12.4 = 370.8	370 ≈ 30.6 × 12.0 = 367.2

規 模	1間×2間
	棟持柱 2
	面積15.8㎡

表75 1032号掘立柱建物跡計測表

主軸方向	欠番	桁行 A	梁行 B	桁立柱間 a ₂	梁間 b ₂
東—西 N-68°-E	P1・2・5 P6・21	P ₁ -P ₃ (385)	P ₁ -P ₄ (362)	P ₁ -P ₂	(362)

番号	検出面標高
P ₁	重複
P ₃	48.67
P ₄	48.12
P ₆	欠失
P ₂₁	欠失
P ₂₂	48.69

平均	(376)	(362)	P ₄ -P ₅
棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁		
P ₂₁ -P ₂₂ (408)	P ₂ -P ₅ (362)	P ₅ -P ₆	
	平均	(188)	

桁行比	桁立柱比	桁行差	桁立柱差	棟持柱差
(1.04)	(0.52)	(14)	(-174)	(41)

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(376) = 30.1cm × 12.5 = 376.3	(376) = 28.9cm × 13.0 = 375.7
△梁行 B	(362) = 30.1 × 12.0 = 361.2	(362) = 28.9 × 12.5 = 361.3
棟持 a ₁	(408) = 30.1 × 13.6 = 409.4	(408) = 28.9 × 14.0 = 404.6
●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	(408) = 30.0cm × 13.6	(408) = 29.1cm × 14.0 = 407.4
桁行 A	(376) = 30.0 × 12.5 = 375.0	(376) = 29.1 × 13.0 = 378.3
△梁行 B	(362) = 30.0 × 12.1 = 363.0	(362) = 29.1 × 12.5 = 363.8

番号	標高
P ₁	重複
P ₂	重複
P ₃	48.38
P ₄	48.04
P ₅	重複
P ₆	欠失
P ₂₁	欠失
P ₂₂	48.37

規	1間×2間
	棟持柱 2
模	面積(13.6)㎡

表76 2013号A掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁立柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a ₁	測点 b ₁	番号	標高										
南西—北東	P1・2・4・6			P ₁ —P ₅ (890)	P ₁ —P ₆ (526)	P ₁ —P ₂ (222)	(526)	南柱筋—P ₂₃ (445)	西柱筋—P ₂₃ (246)	P ₁	未確認										
N—30°—E	P7~9			P ₆ —P ₁₀ (890)	P ₅ —P ₁₀ (526)	P ₂ —P ₃ (223)	柱間 b ₃	P ₂₃ —北柱筋 (445)	東柱筋—P ₂₂ (280)	P ₂	未確認										
番号	検出面標高	平均	●(890)	棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	P ₃ —P ₄ (223)	P ₂ —P ₇ (526)	測点 a ₁	測点 b ₄	P ₄	48.66										
P ₁	未確認									P ₅	49.34										
P ₅	49.01									P ₆	未確認										
P ₆	未確認									P ₇	未確認										
P ₁₀	未確認									P ₈	未確認										
P ₂₁	48.90									P ₉	48.42										
P ₂₂	49.01									P ₁₀	未確認										
桁行比	桁立柱比									桁行差	桁立柱差	棟持柱差	P ₆ —P ₇ (222)	平均	●58	P ₂₁ —南柱筋 (60)	西柱筋—P ₂₁ 246	P ₁₀	48.38		
(1.69)	(0.42)									(364)	(-303)	(115)	P ₇ —P ₈ (223)					施設柱間 a ₄	東柱筋—P ₂₁ 280	P ₂₁	48.38
													P ₈ —P ₉ (245)					北柱筋—P ₆₁ 31	東柱筋—P ₂₂ 280	P ₂₂	48.45
					P ₉ —P ₁₀ 200	北柱筋—P ₆₂ 34	施設柱間 b ₄	西柱筋—P ₂₂ 246	P ₂₃	48.03											
					平均	平均	33	74	P ₆₁	48.94											
									P ₆₂	48.57											
									P ₆₁ —P ₆₂ 106												
									P ₆₁ —P ₂₂ 66												

桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	890 ≒ 30.0cm × 29.7 = 891.0	890 ≒ 29.7cm × 30.0 = 891.0
△梁行 B	(526) ≒ 30.0 × 17.5 = 525.0	(526) ≒ 29.7 × 17.5 = 519.8
棟持 a ₁	1005 = 30.0 × 33.5	1005 ≒ 29.7 × 34.0 = 1009.8
測点 a ₁	58 ≒ 30.0 × 1.9 = 57.0	58 ≒ 29.7 × 2.0 = 59.4
●棟持換算	計算値	算出値
棟持 a ₁	1005 = 30.0cm × 33.5	1005 ≒ 29.6cm × 34.0 = 1006.4
桁行 A	890 ≒ 30.0 × 29.7 = 891.0	890 ≒ 29.6 × 30.0 = 888.0
梁行 B	(526) ≒ 30.0 × 17.5 = 525.0	(526) ≒ 29.6 × 18.0 = 532.8
測点 a ₁	58 ≒ 30.0 × 1.9 = 57.0	58 ≒ 29.6 × 2.0 = 59.2

規模	1間×4間
	主柱 10
	棟持柱 3
	施設柱 2
	面積46.8m ²

表77 2013号B掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番	桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a ₁	測点 b ₁	番号	標高
南西—北東 N—30°—E	P1~4・6	P8・9	P ₁ —P ₅ (944)	P ₁ —P ₆ 466	P ₁ —P ₂ (236)	466	南柱筋—P ₂₃ (472)	西柱筋—P ₂₃ (224)	P ₁	未確認
	P ₆ —P ₁₀ (944)		P ₅ —P ₁₀ (466)	P ₂ —P ₃ (236)	柱間 b ₃ P ₂₃ —北柱筋 (472)		東柱筋—P ₂₃ (242)	P ₂	未確認	
平均	●(944)	●466	棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	P ₃ —P ₄ (236)	P ₂ —P ₇ (466)	測点 a ₁	測点 b ₄	P ₃	未確認
							P ₂₁ —P ₂₂ ●1066	P ₃ —P ₈ (466)	P ₄ —P ₉ 448	P ₂₁ —南柱筋 (61)
平均	●61	61	P ₆ —P ₇ (251)	P ₇ —P ₈ (221)	P ₈ —P ₉ (236)	P ₂₂ —北柱筋 61	西柱筋—P ₂₁ 242	東柱筋—P ₂₂ 233	P ₅	未確認
							東柱筋—P ₂₂ 233	P ₆	未確認	
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差	P ₉ —P ₁₀ (236)	平均	●61	東柱筋—P ₂₂ 233	P ₇	48.15
(2.03)	(0.51)	(478)	(-230)	(122)	平均	236		東柱筋—P ₂₂ 233	P ₈	未確認
									P ₉	未確認
									P ₁₀	48.53
									P ₂₁	48.41
									P ₂₂	未確認
									P ₂₃	48.03

●桁行換算	計 算 値	算 出 値
桁行 A	(944) = 30.0cm × 31.46 = 943.8	(944) ≒ 30.5cm × 31.0 = 945.5
△梁行 A	466 ≒ 30.0 × 15.5 = 465.0	466 ≒ 30.5 × 15.5 = 472.8
棟持 a ₁	1066 ≒ 30.0 × 35.5 = 1065.0	1066 ≒ 30.5 × 35.0 = 1067.5
測点 a ₁	61 ≒ 30.0 × 2.0 = 60.0	61 = 30.5 × 2.0
●棟持換算	計 算 値	算 出 値
棟持 a ₁	1066 ≒ 30.0cm × 35.5 = 1065.0	1066 = 29.6cm × 36.0 = 1065.6
桁行 A	(944) ≒ 30.0 × 31.5 = 945.0	(944) ≒ 29.6 × 32.0 = 947.2
△梁行 B	466 ≒ 30.0 × 15.5 = 465.0	466 ≒ 29.6 × 15.5 = 458.8
測点 a ₁	61 ≒ 30.0 × 2.0 = 60.0	61 ≒ 29.6 × 2.0 = 59.2

規 模	1間×4間
	主柱 10
	棟持柱 3
	面積(44.0)㎡

表78 2014号掘立柱建物跡計測表

主軸方向		欠番		桁行 A	梁行 B	桁行柱間 a ₂	梁間 b ₂	測点 a	番号	標高
北西—南東		P2~5・7~10		P ₁ -P ₅	P ₁ -P ₆	P ₁ -P ₂	(428)	西柱筋-P ₂₁	P ₁	47.43
N-59°-W		P22		(884)	428	(221)		(221)	P ₂	調査区外
番号	検出面標高	平均	●(884)	●428	P ₃ -P ₄	(221)	柱間 b ₃	P ₂₂ -東柱筋	P ₃	調査区外
P ₈ -P ₁₀	P ₅ -P ₁₀	P ₂ -P ₃	P ₄ -P ₉	P ₅	調査区外					
P ₁	47.71		棟持柱間 a ₁	柱間 b ₁	(221)	(428)	P ₂ -P ₇	西柱筋-P ₆₁	P ₆	47.05
P ₅	調査区外		P ₂₁ -P ₂₂	P ₃ -P ₈	P ₄ -P ₅	(221)	(428)	463	P ₇	欠失
P ₆	47.54		●(442)	(428)	(221)			東柱筋-P ₆₂	P ₈	欠失
P ₁₀	調査区外							217	P ₉	調査区外
P ₂₁	47.51				P ₆ -P ₇	(221)		施設柱間 a ₄	P ₁₀	調査区外
P ₂₂	調査区外				P ₇ -P ₈	(221)		施設柱測点 b・b ₃	P ₂₁	46.92
桁行比	桁行柱比	桁行差	桁行柱差	棟持柱差	P ₈ -P ₉	(221)		P ₆₁ -P ₆₂	P ₂₂	調査区外
(2.1)	(0.5)	(456)	(-207)	(-442)	P ₉ -P ₁₀	(221)		●204	P ₆₁	47.35
					平均	(221)		126	P ₆₂	47.35
								測点 b ₃		
								南柱筋-P ₆₂		
								123		
								平均	●125	

●桁行換算	計算値	算出値
桁行 A	(884) ≒ 30.0cm × 29.5 = 885.0	(884) ≒ 29.5cm × 30.0 = 885.0
△梁行 B	428 ≒ 30.0 × 14.3 = 429.0	428 = 29.5 × 14.5 = 427.8
棟持 a ₁	(442) ≒ 30.0 × 14.7 = 441.0	(442) ≒ 29.5 × 15.0 = 442.5
施設柱間 a ₄	204 = 30.0 × 6.8	204 ≒ 29.5 × 7.0 = 206.5
施設柱測点 b・b ₃	125 ≒ 30.0 × 4.2 = 126.0	125 ≒ 29.5 × 4.0 = 118.0

●棟持換算	計算値	算出値
△梁行 B	428 = 29.9cm × 14.3 = 427.6	428 = 29.5cm × 14.5 = 427.8
桁行 A	(884) ≒ 29.9 × 29.6 = 885.0	(884) ≒ 29.5 × 30.0 = 885.0
棟持 a ₁	(442) ≒ 29.9 × 14.8 = 442.5	(442) ≒ 29.5 × 15.0 = 442.5
施設柱間 a ₄	204 ≒ 29.9 × 6.8 = 203.3	204 ≒ 29.5 × 7.0 = 206.5
施設柱測点 b・b ₃	125 ≒ 29.9 × 4.2 = 125.6	125 ≒ 29.5 × 4.0 = 118.0

規 模	1間×4間
	主柱(10)
	棟持柱(2)
	施設柱 2
面積(37.8)㎡	

版 图



(1) 127~132号竪穴住居跡（北から）



(2) 133~135号竪穴住居跡（北から）

住1424群

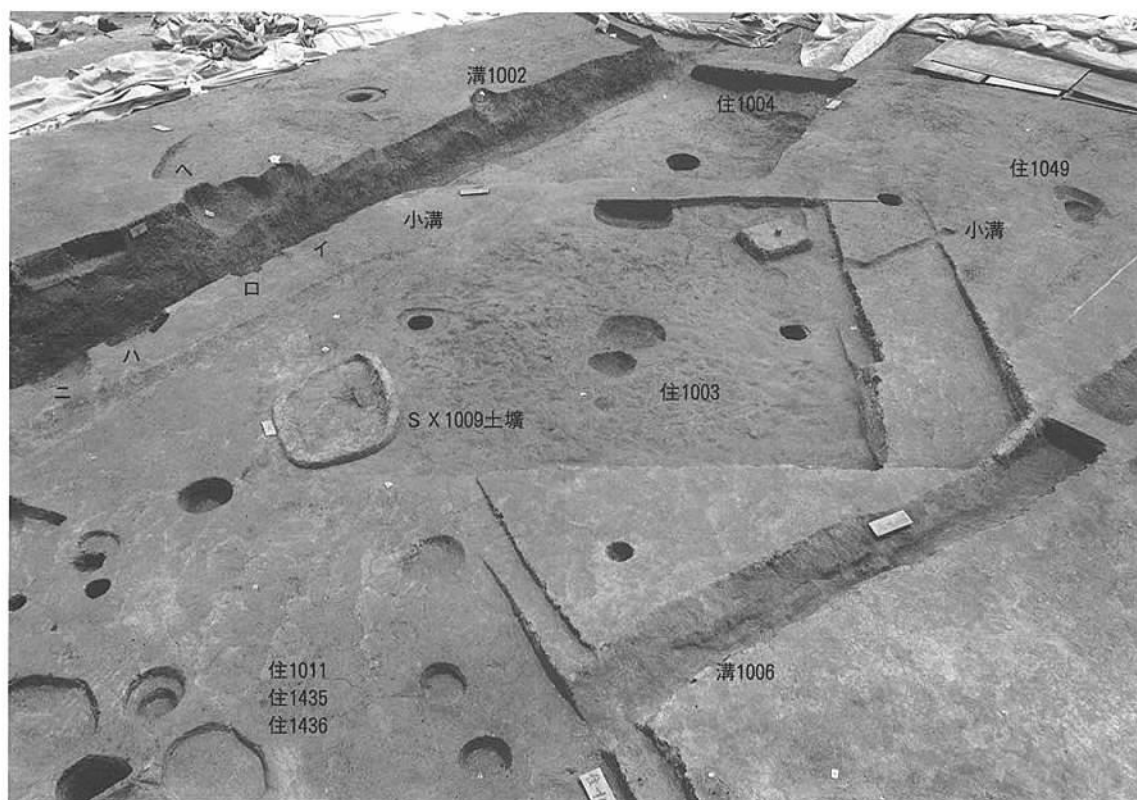
住1422群

住1421群

住1003号群



(1) 住1003号群・住1421号群と中世溝1002号（北西から）
(2) 住1011号北柱筋下の素環頭刀子出土状態（南西から）



(1) 住1003号群と中世溝1002号・小溝・Pイ～ニ・Pへ (北東から)



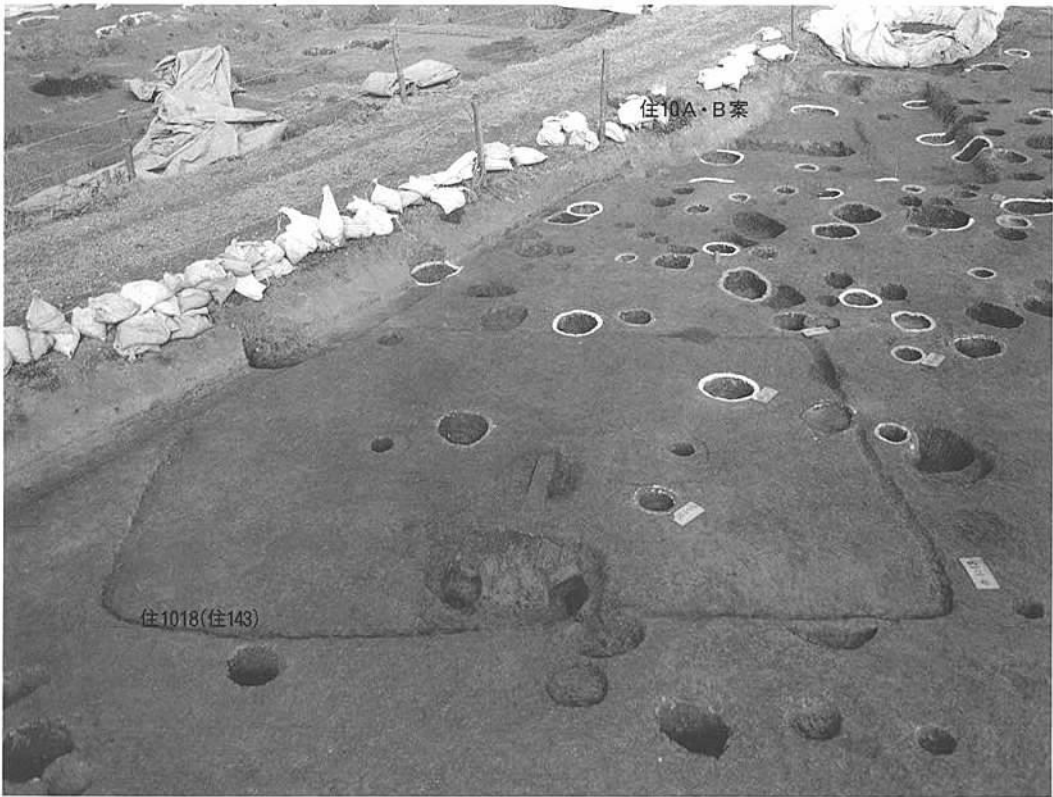
(2) 住1003号群と中世溝1002号・小溝・Pロ～ト (北から)



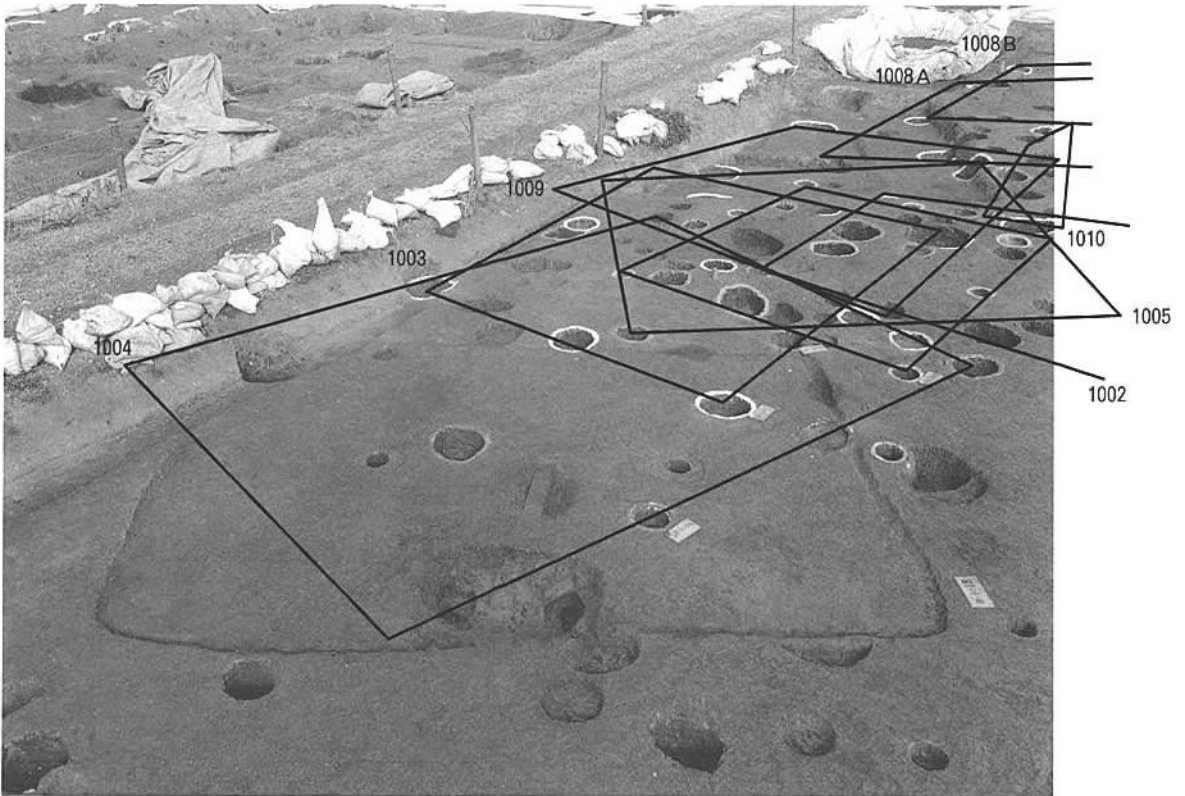
(1) 住1003号群と中世溝1002号・小溝・Pロ〜ホ・Pト（北東から）



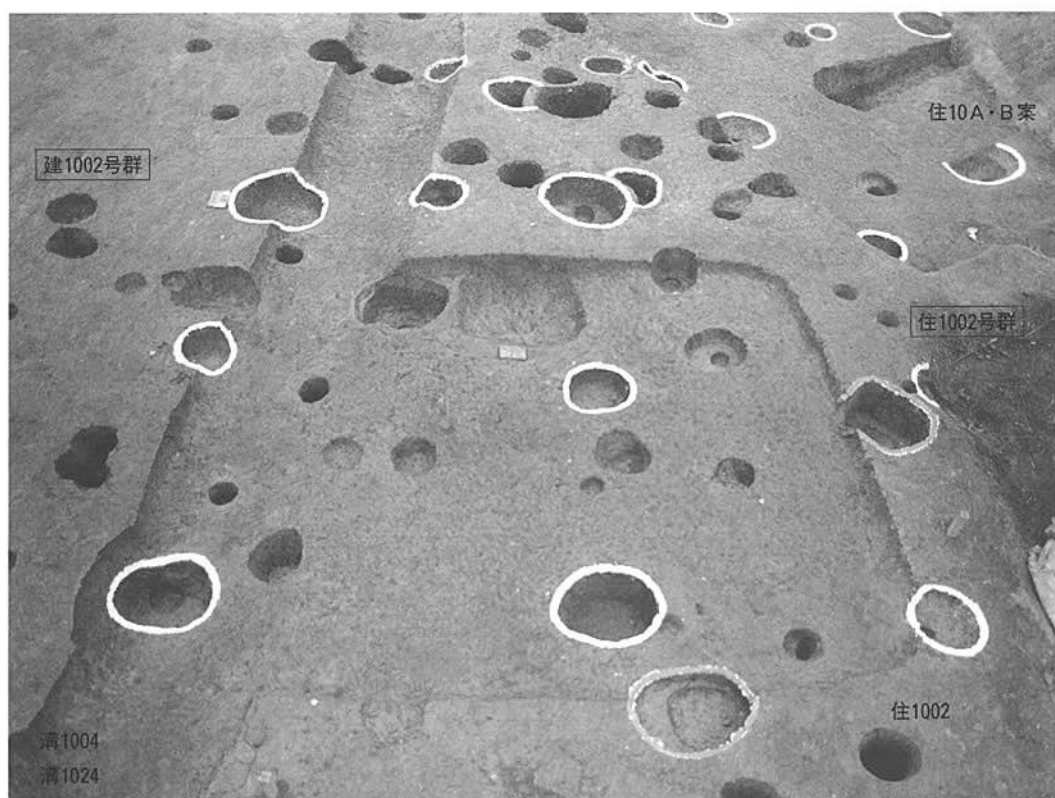
(2) 住1003号の住居遺棄祭祀土壇S X 1009号刀子出土状態（南東から）



(1) 建1002号群と住1018号(住143号)・住10号案(南西から)

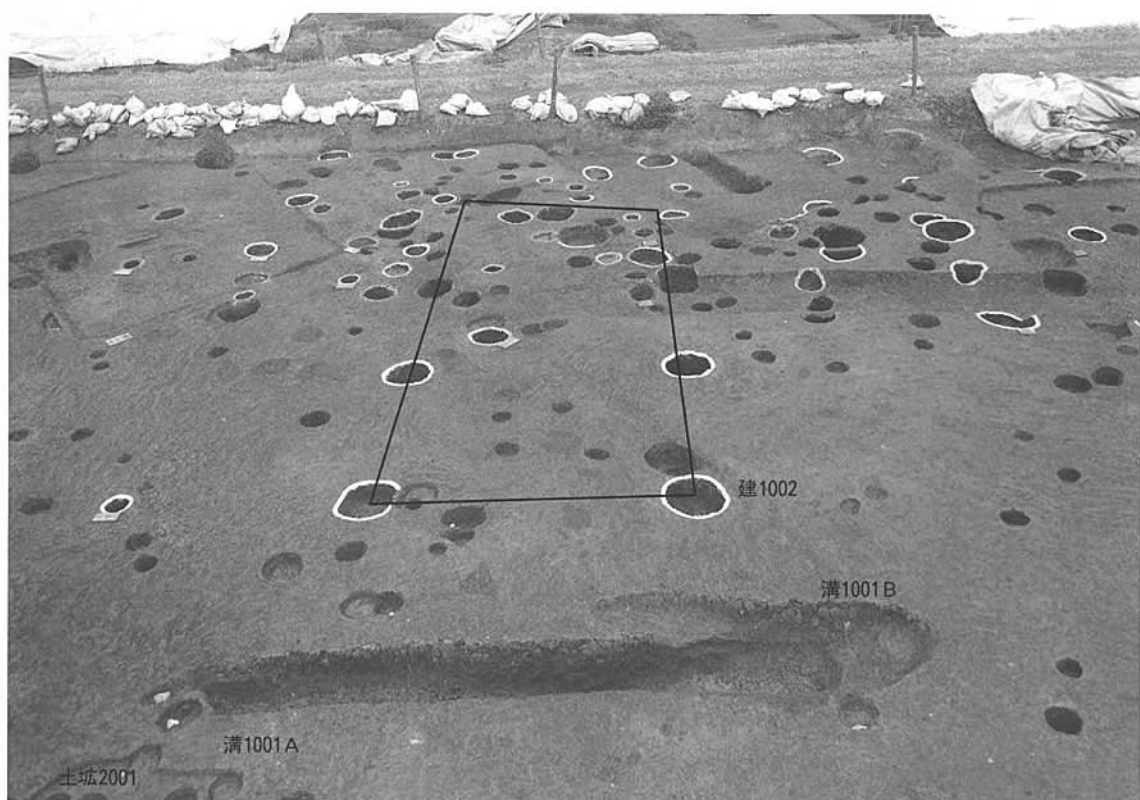


(2) 建1002号群中の〔建1002～1005・1007～1010号〕(南西から)

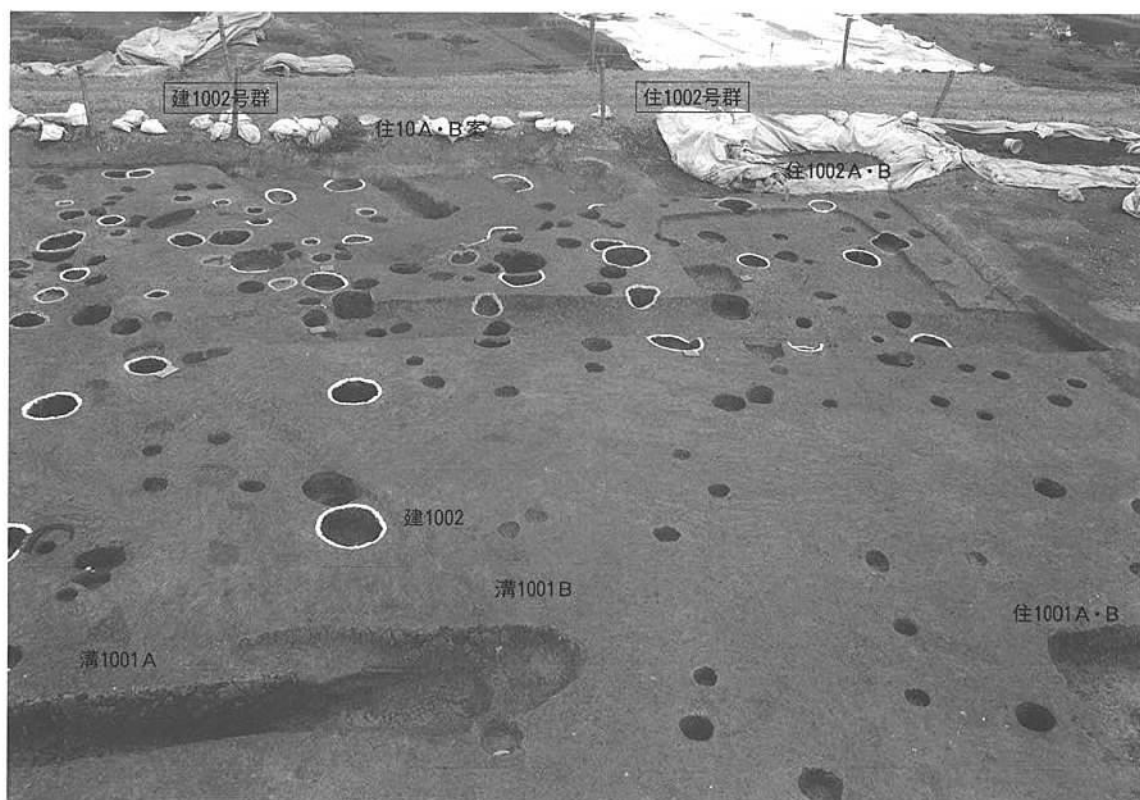


(1) 建1002号群・住1002号群と中世溝1004・1024号（東から）

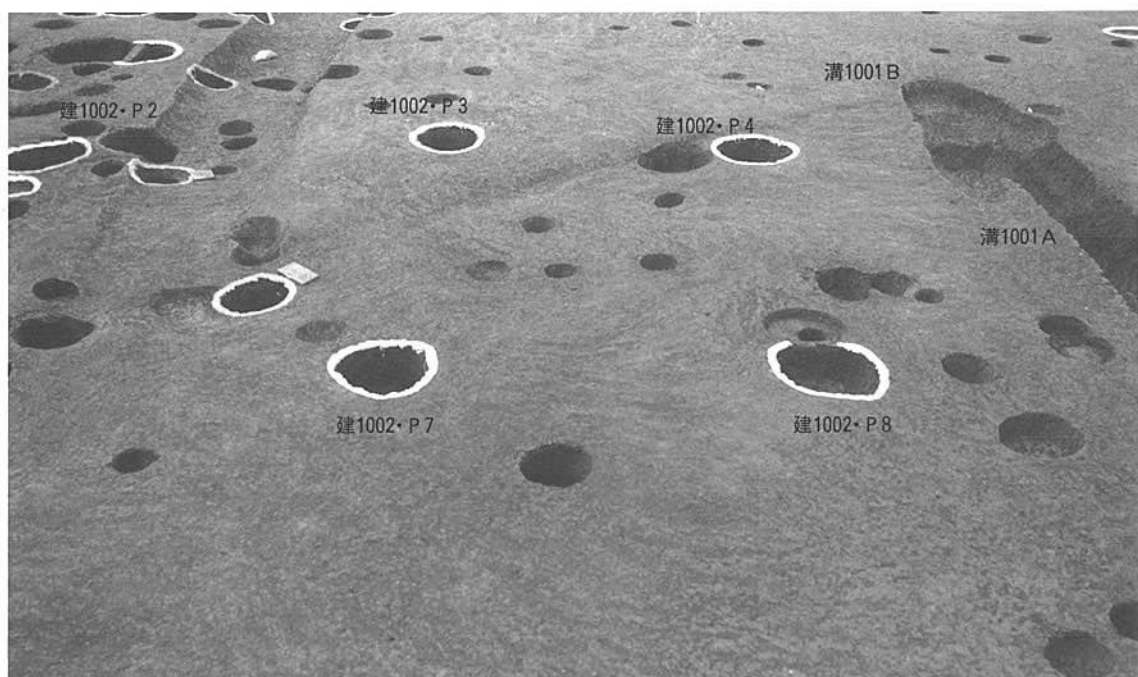
(2) 建1002号群・住1002号群、溝2004・2005号と中世溝1004・1024号（東から）



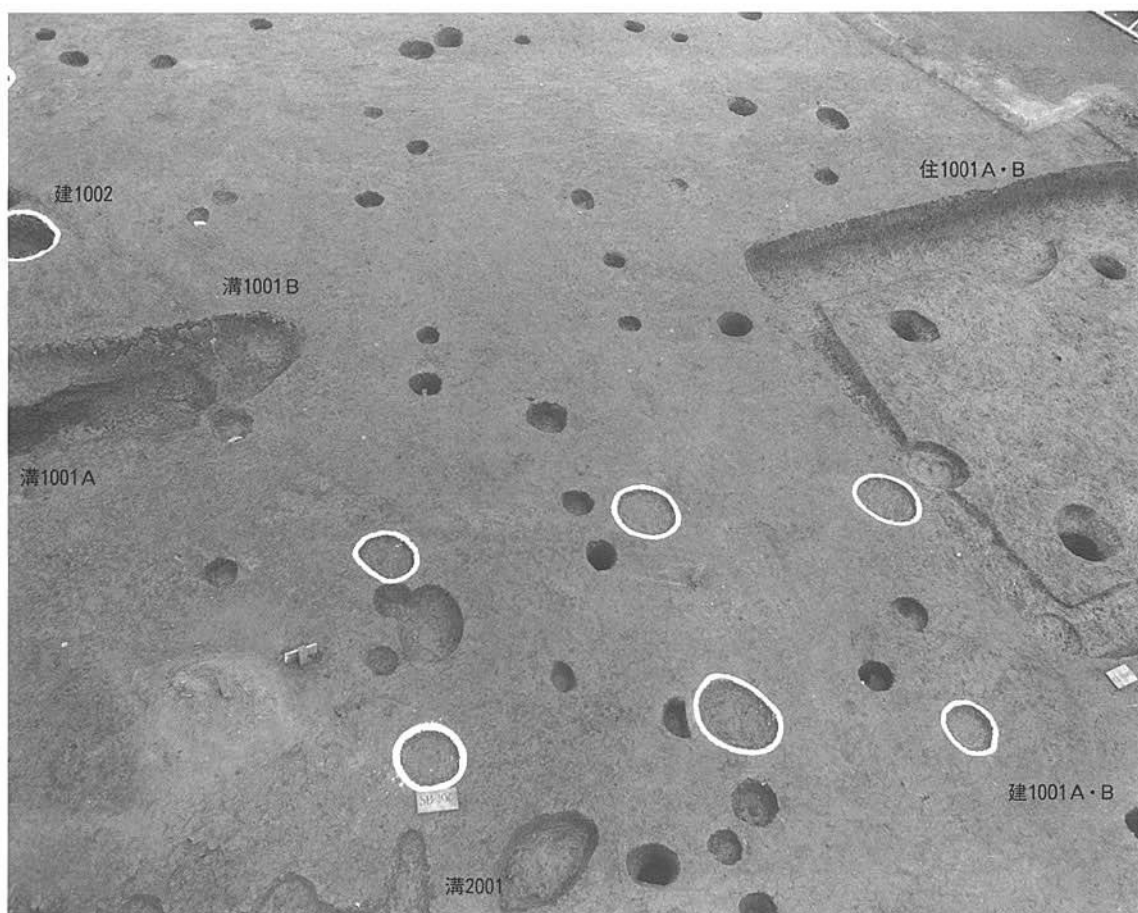
(1) 建1002号と溝1001・2003号 (南から)



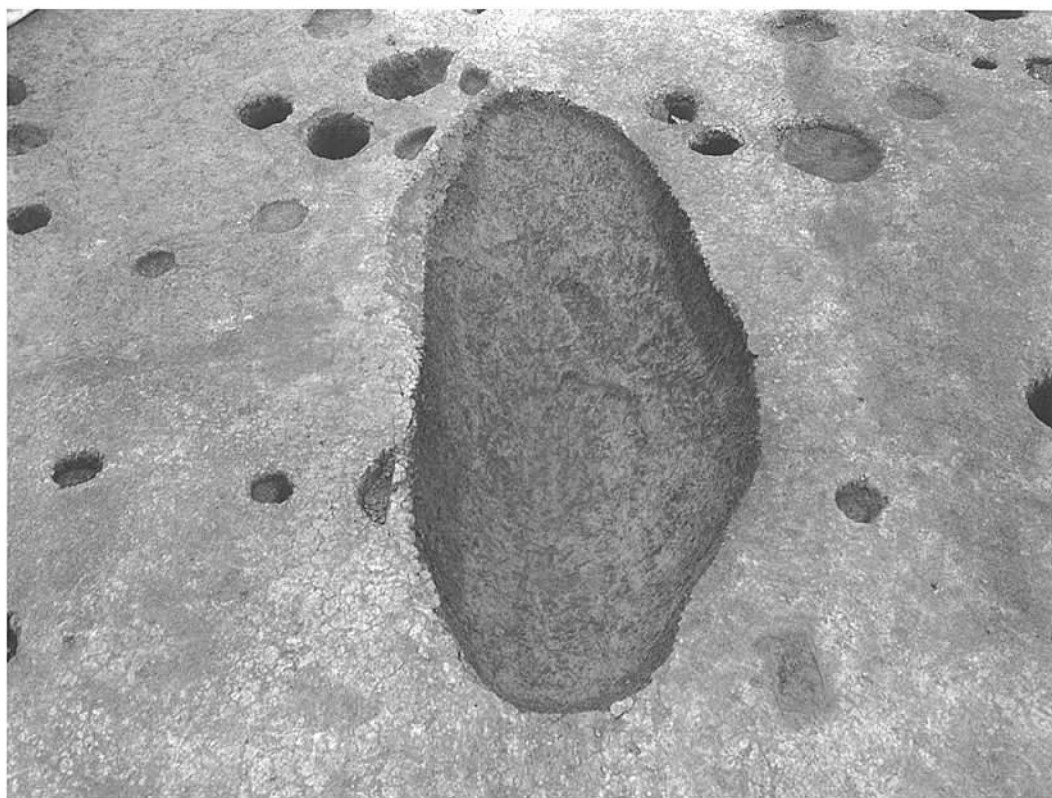
(2) 建1002号群・住1002号群と溝1001・2001号 (南から)



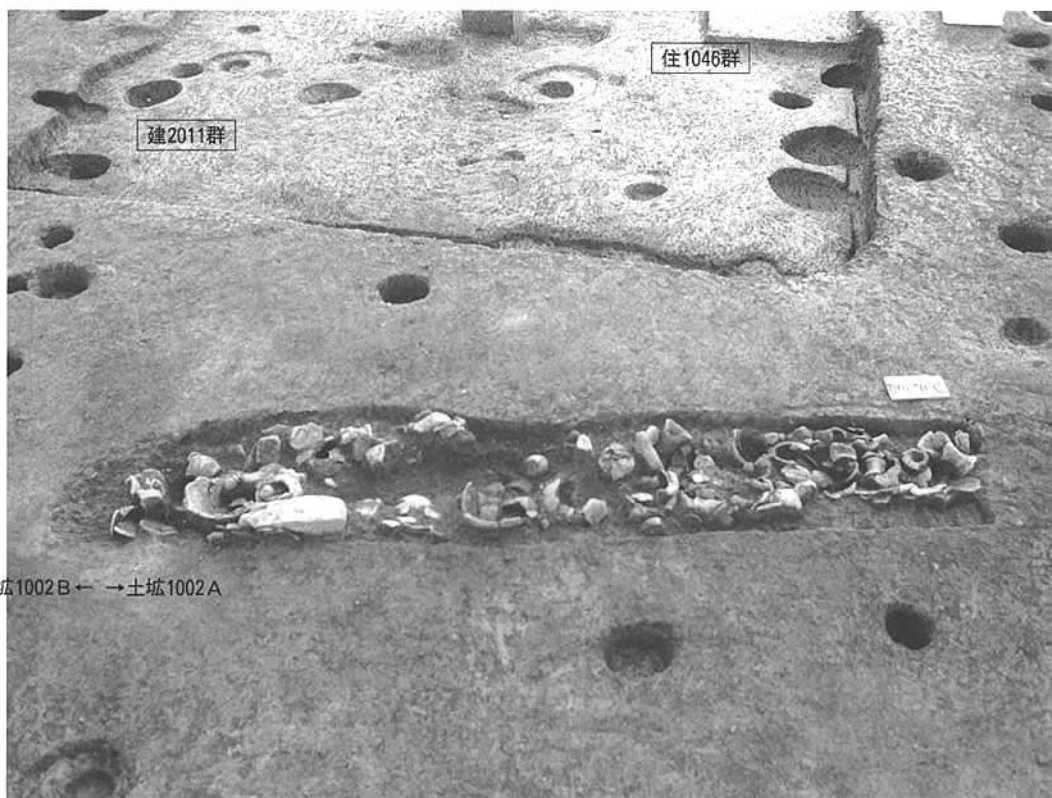
(1) 建1002号と溝1001号 (西から)



(2) 建1001・1002号・住1001号と溝1001・2001号 (南から)



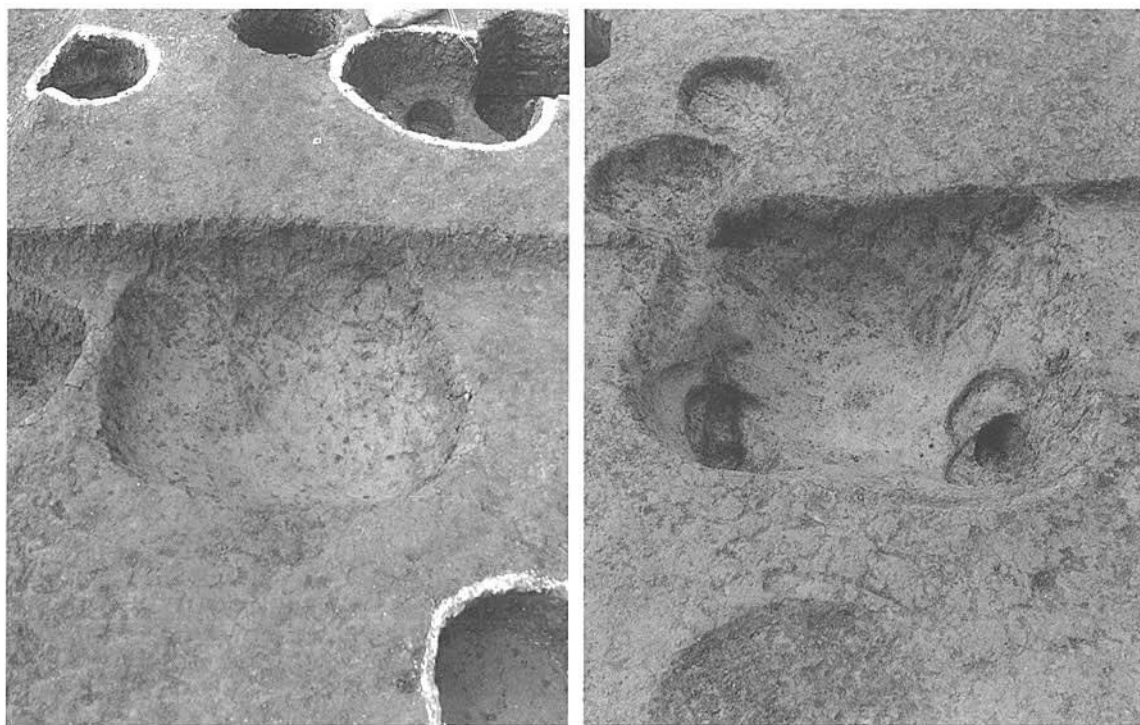
(1) 完掘した土塚1001号〔土坑12号〕(西から)



(2) 建2011号群・住1046号群と土塚1002号の上位土器群出土状態(北から)

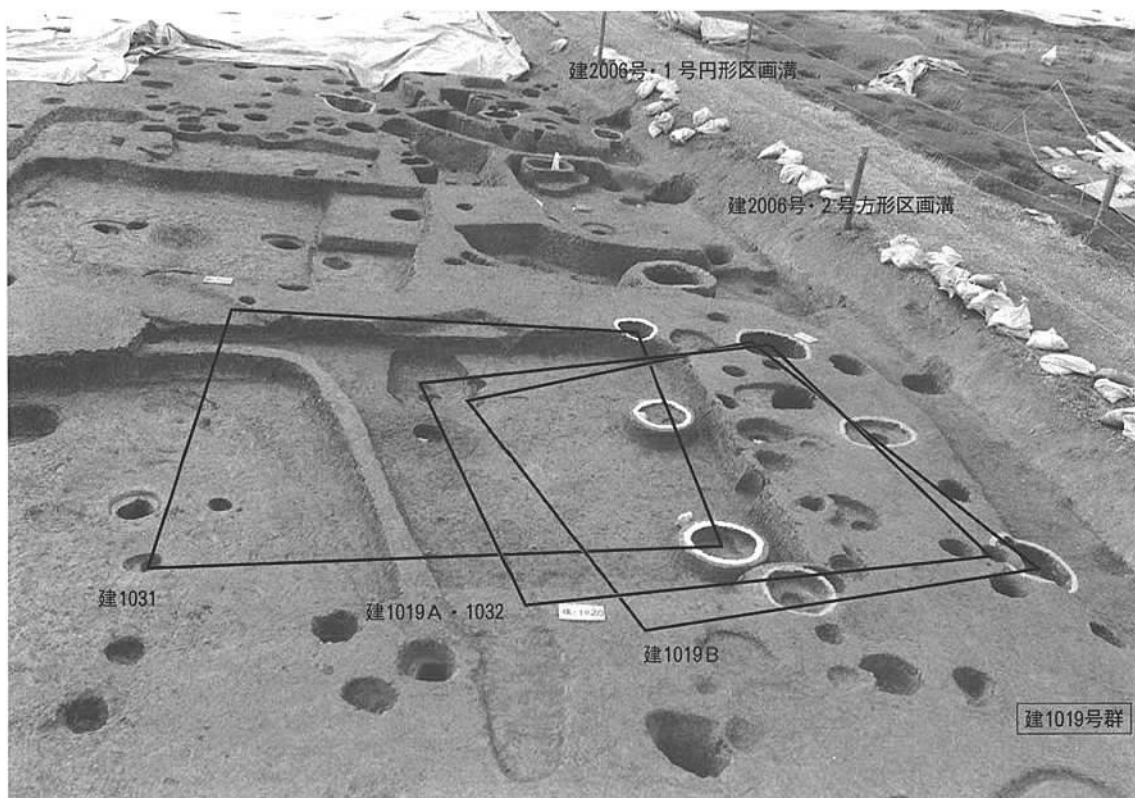


(1) 土坑1003号（土坑11号）の下位土器群出土状態（西から）

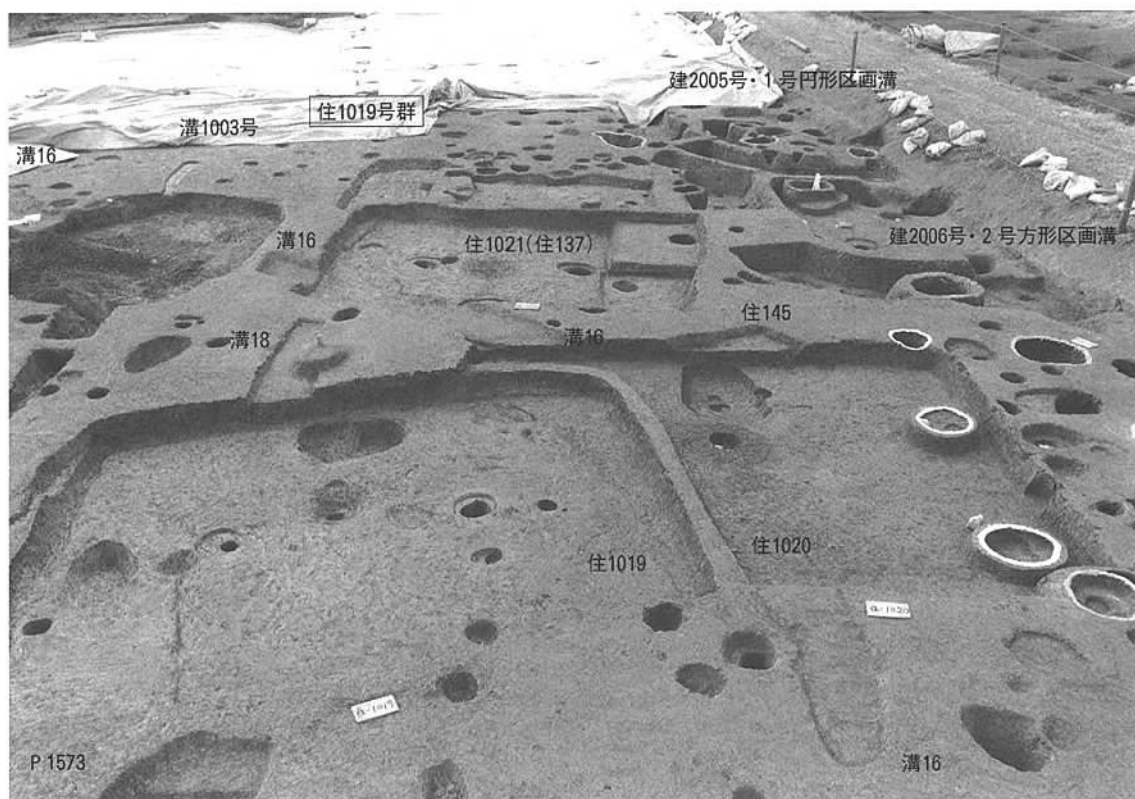


(2) 住1002号A・Bの西壁中央土坑D21とD P211・212（東から）

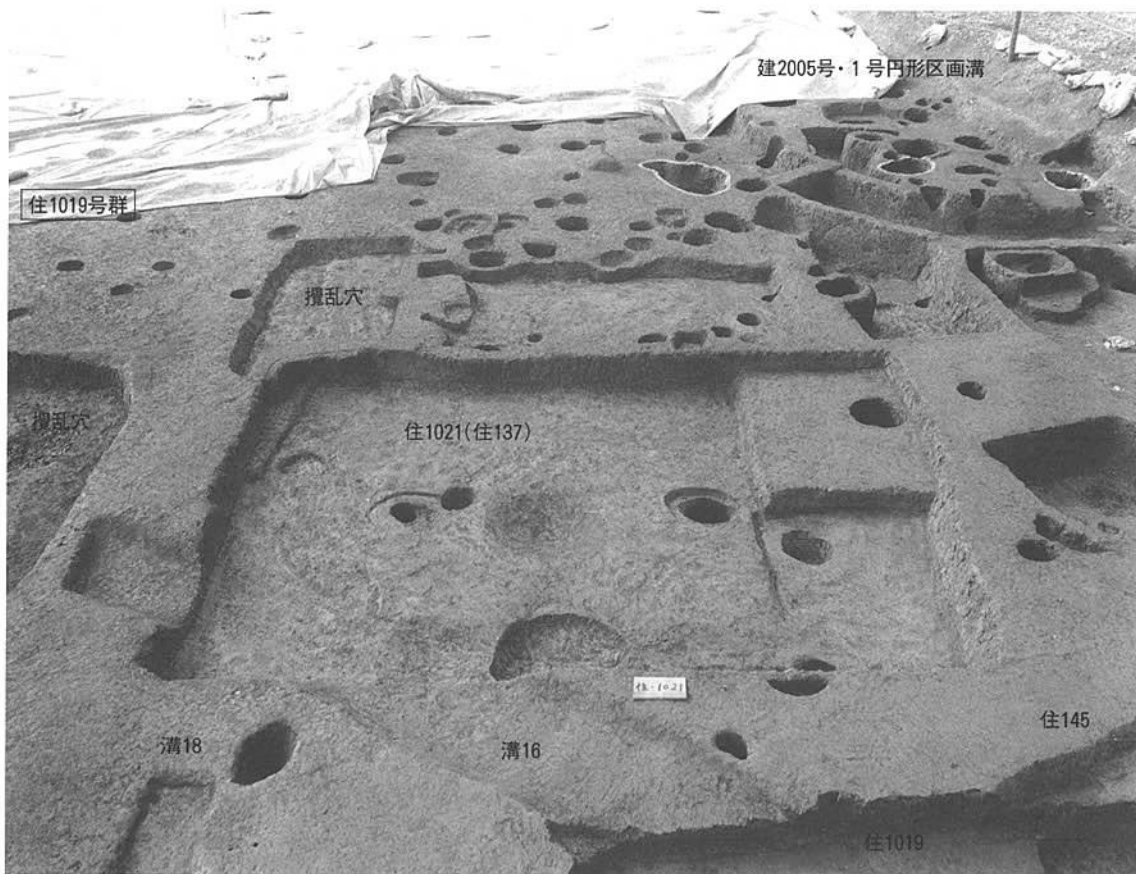
(3) 完掘した住1018号A・B（住143号）の南壁中央土坑D21とD P211・212（北東から）



(1) 建1019号群 (南から)



(2) 建1019号群・住1019号群、溝1003・18号と中世溝16号 (東から)



(1) 完掘した住1019号・溝18号と中世溝16号 (南東から)

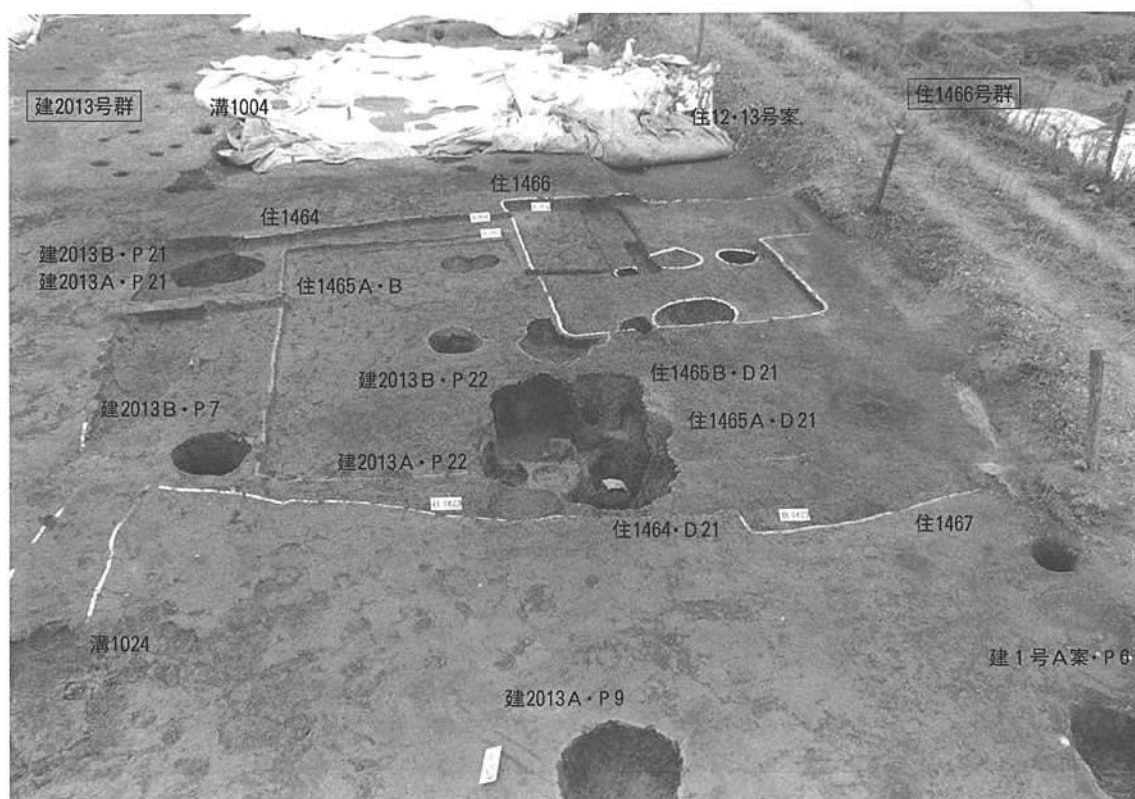


(2) 完掘した住1019号A～C (住141号) の西壁中央土塚D21とD P211・212 (北東から)

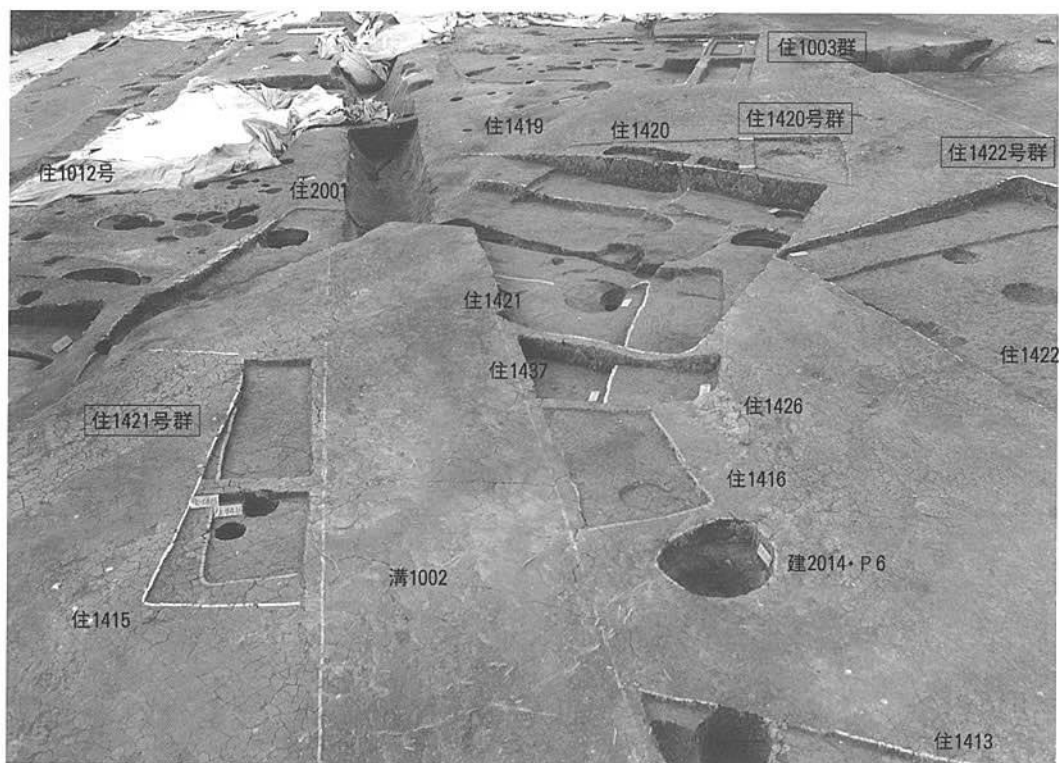
(3) 完掘した住1020号A・B (住142号) の西壁中央土塚D21とD P211・212、建1019号A・Bと建1032号の各P 4 (北東から)



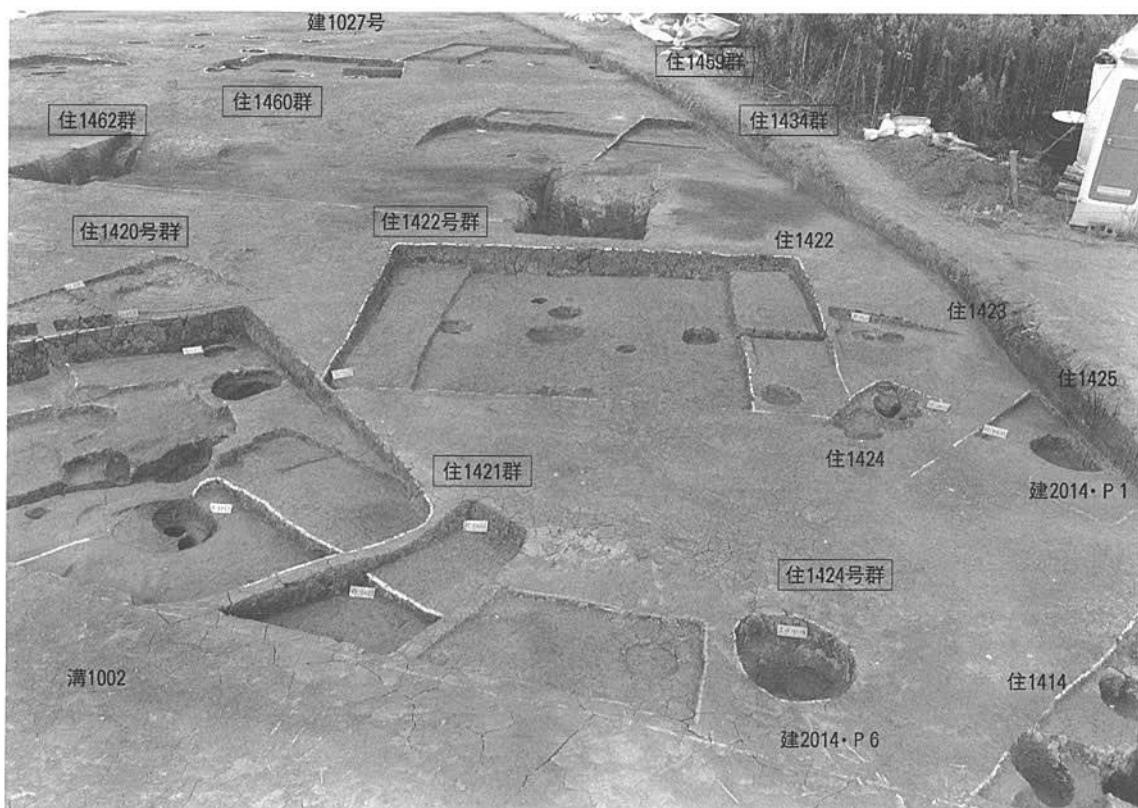
(1) 建1029・2013号と建1号案・住19号案（南から）



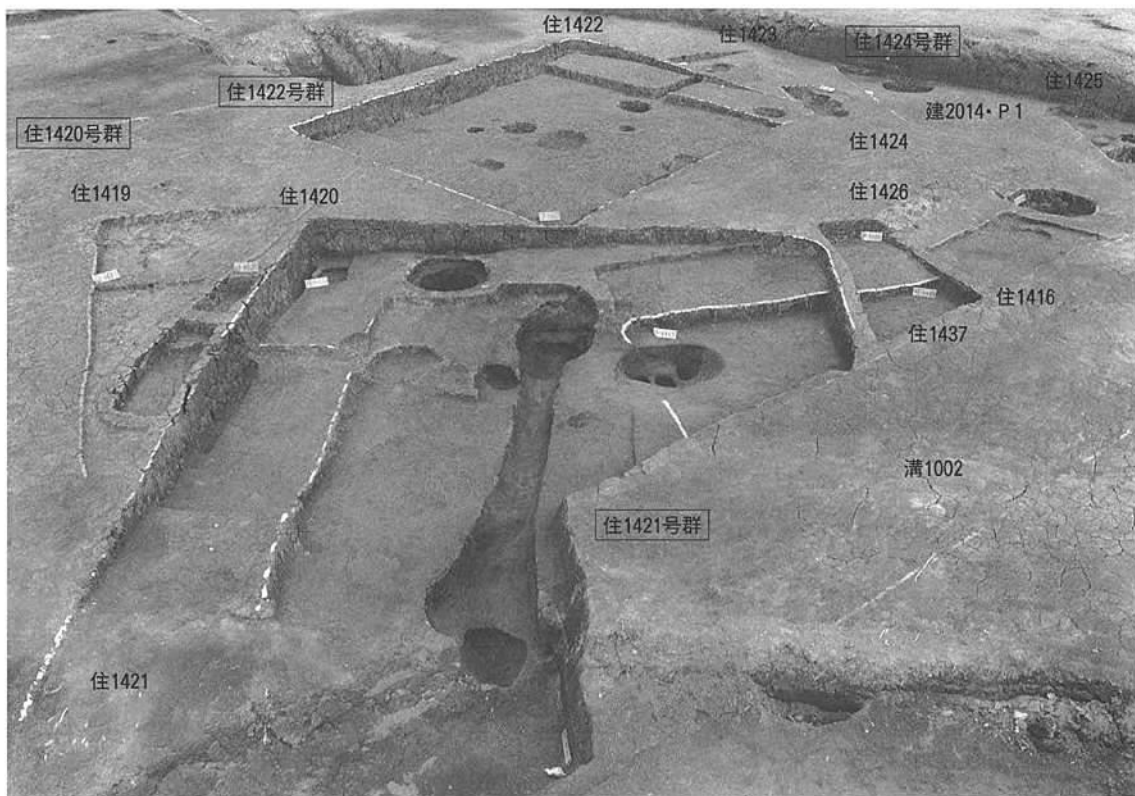
(2) 建2013号群・住1466号群と中世溝1004・1024号（北東から）



(1) I 住1424群・II 住1422群・III 住1421群・IV 住1420群・建2014号と中世溝1002号(東から)



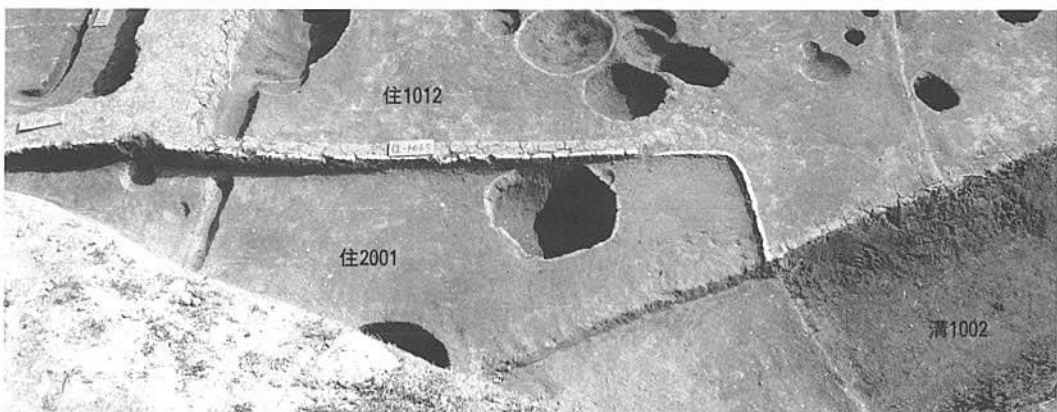
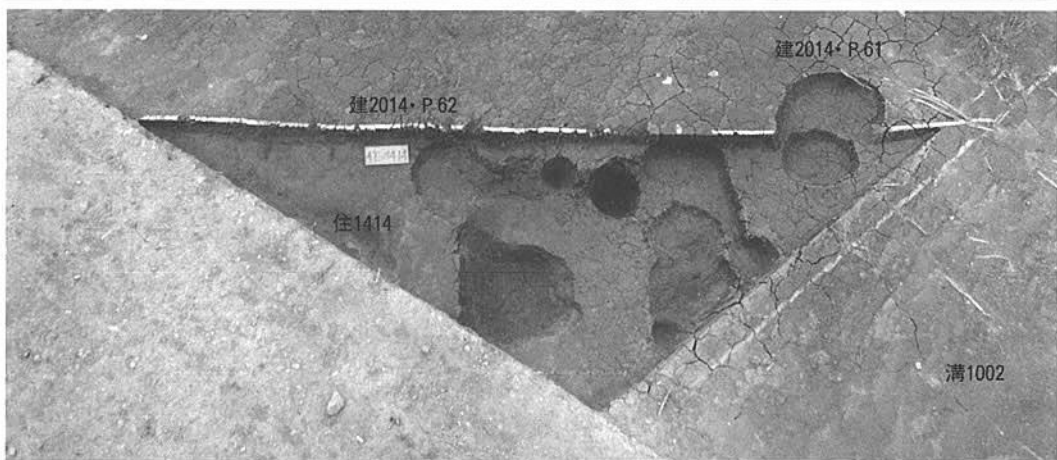
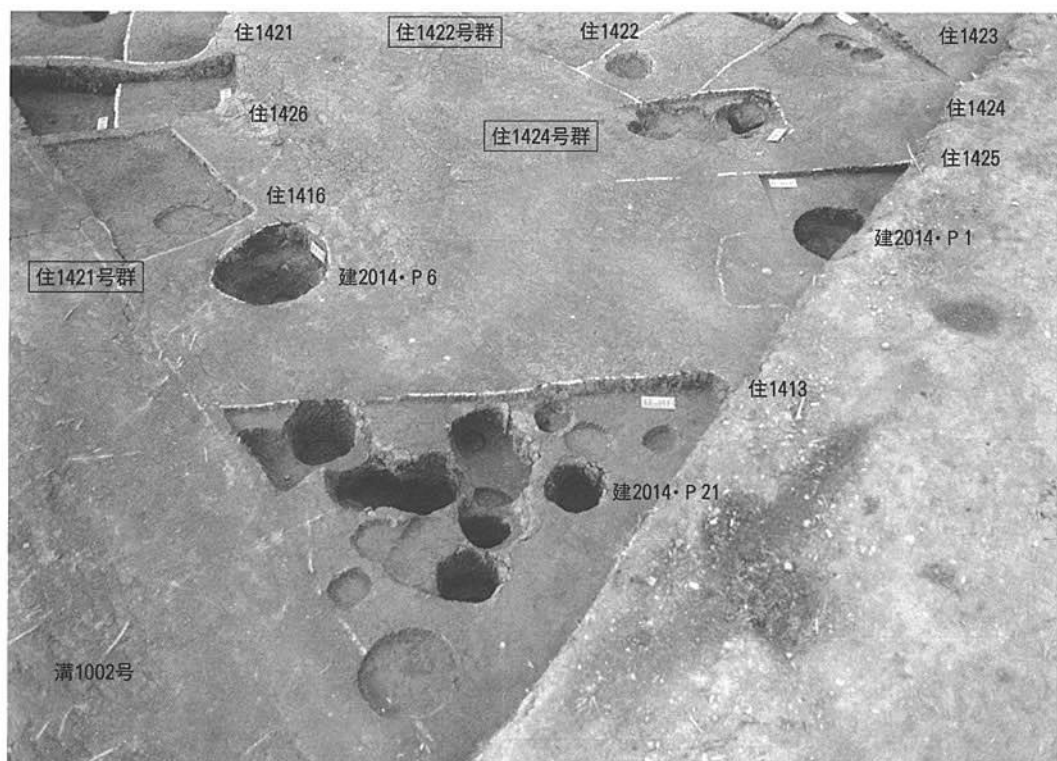
(2) 同 (南から)



(1) I住1424群・II住1422群・III住1421群・IV住1420群・建2014号と中世溝1002号（南西から）



(2) 住1421号の住居施設（南東から）



- (1) I住1424群・II住1422群・III住1421群・建2014号と中世溝1002号（南東から）
- (2) 住1414号・建2014号と中世溝1002号（北東から）
- (3) 住1012号・2001号と中世溝1002号（北東から）



住1003—3



住1426—13



住1003—5



住137—3



住1421—18



円形周溝 1—4



住1421—16



住1421—20



住1421—17



住1421—21



住1437—23



3



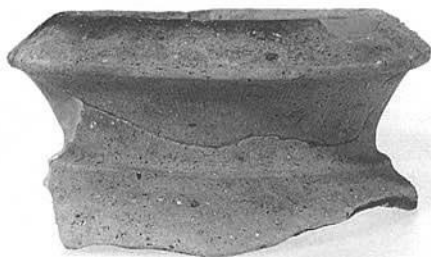
18



4



22



5



24



7



26



9

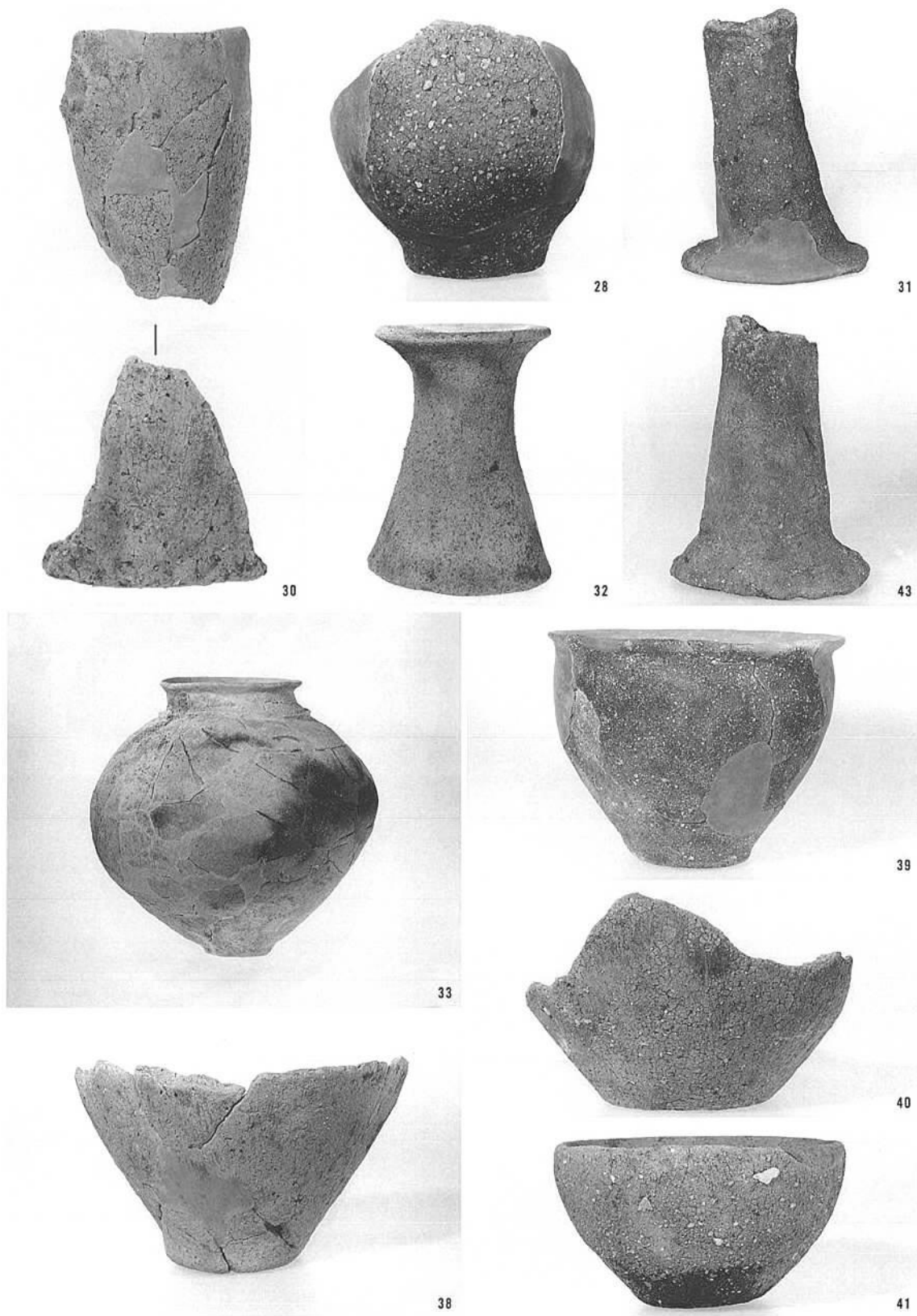


27



10

1022号溝出土土器. 1



1022号沟出土土器， 2



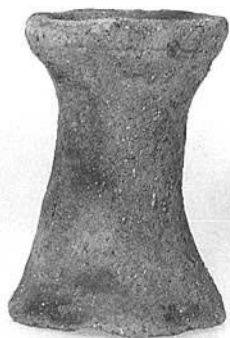
44



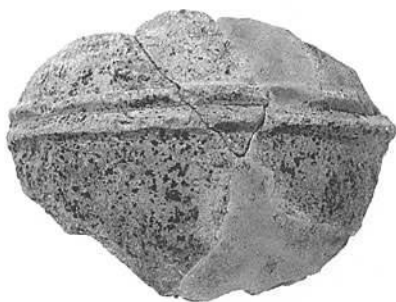
45



46



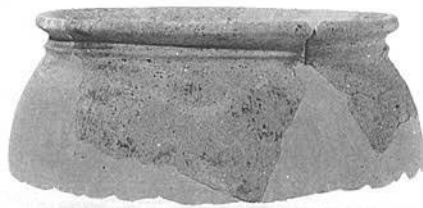
47



51



49



56



58



50



59



60



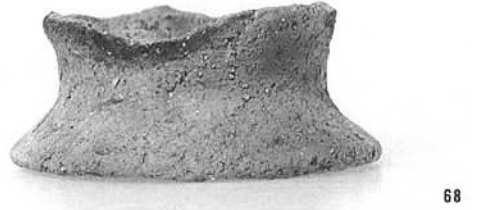
62



61



64



68



67



69



70



71



72



74



75



76



77



84



79



85



80



86



81



83



87



88



93



89



96



90



97



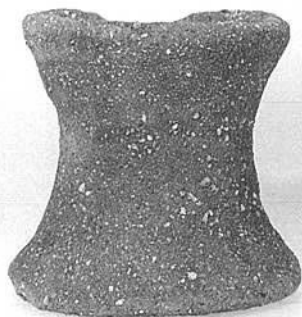
91



92



98



100



110



111



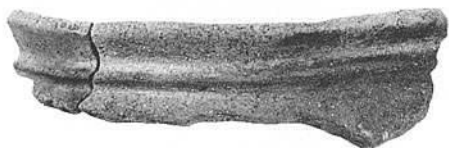
106



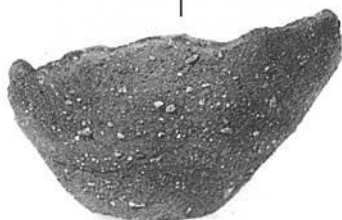
112



107



114



109



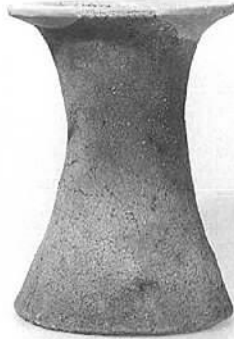
118



120



121



122



123



124



125



126



127



131



132





145



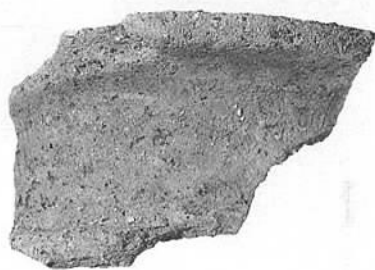
149



150



146



147



151



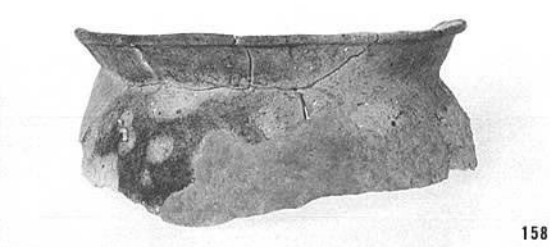
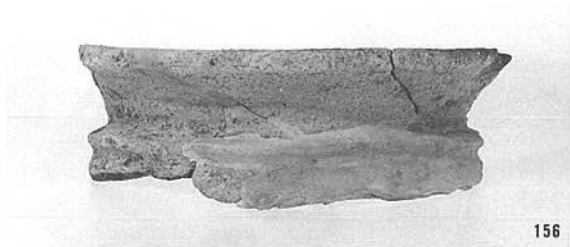
152



154



155





167



168



169



170



171



178



172



175



173



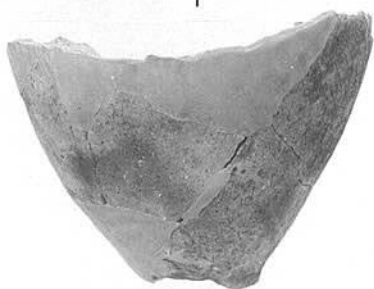
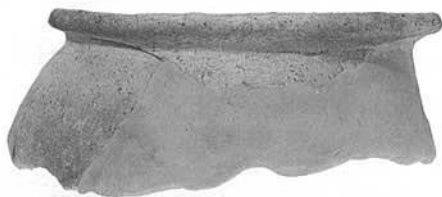
177



179



185



180



186



181



187



188



189



190





206



212



207



214



208



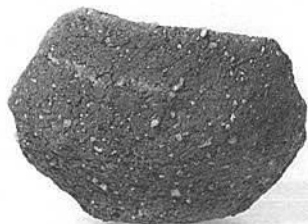
209



215



210



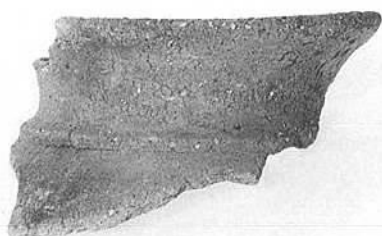
216



217



218



220



219



221



224



222



225



225



233



227



236



228



237



231



238



240



244



243



245



246



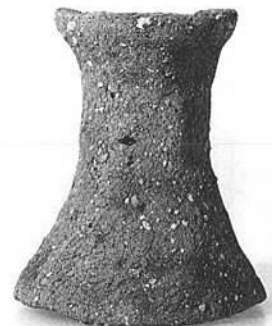
251



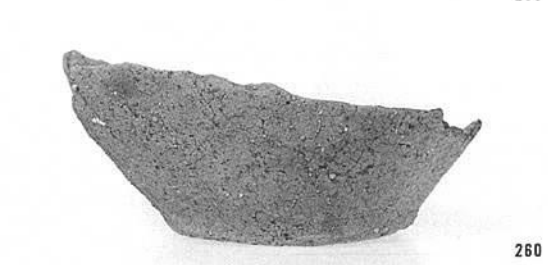
248



249



250

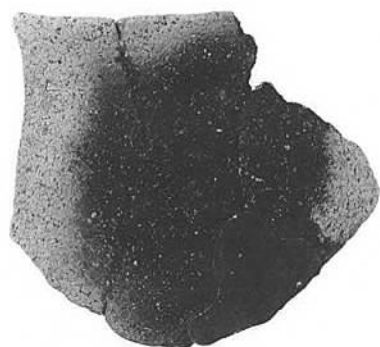




261



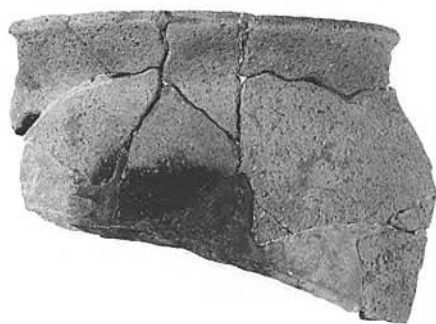
266



262



267



264



268



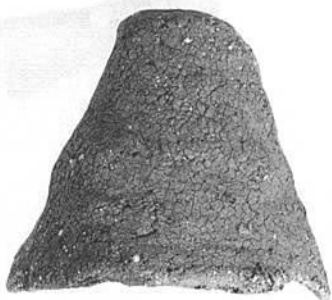
265



269



270



271



272



273



274



275



276



278



277



279



280



281



282



283



286



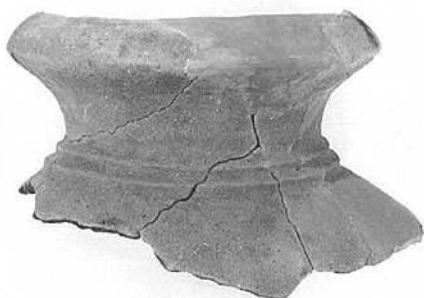
284



288



285



289



291



298



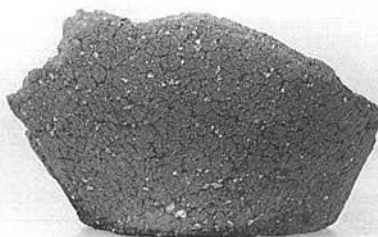
292



301



293



302



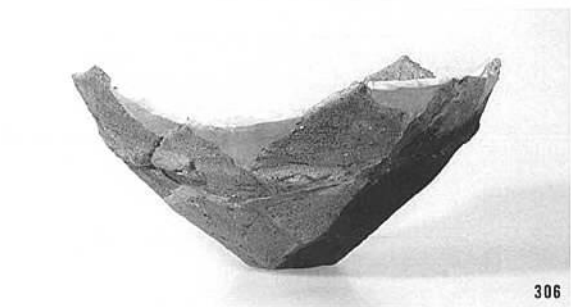
294



297



303





311



312



314



316



319



317



321



318



325



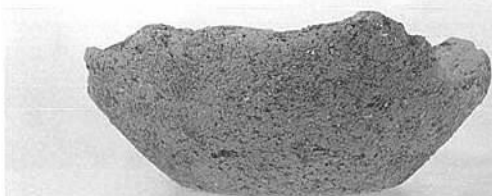
326



327



328



322



329



323



330



324



331



1



340



334



335



341



336



344



338



342



343



345



351



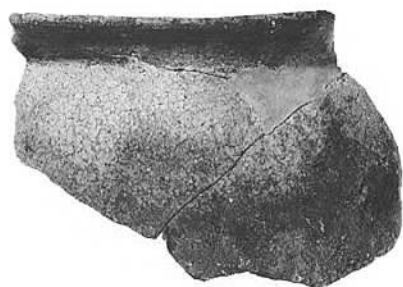
346



352



348



353



349



350



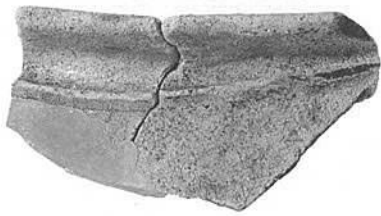
354



355



357



358



359



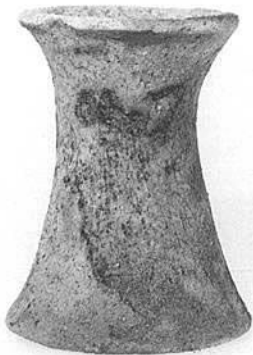
360



361



362



363



364



365



366



367



368



369



373



370



374



371



372



376



377



380



379



381



382



383



384



385



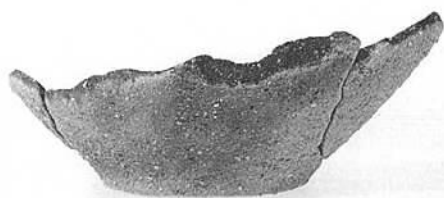
386



387



388



392



389



393



394



390



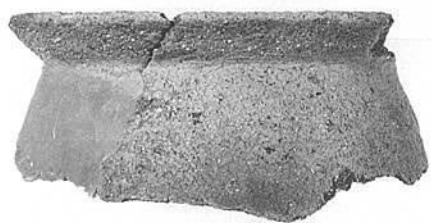
395



391



396



397



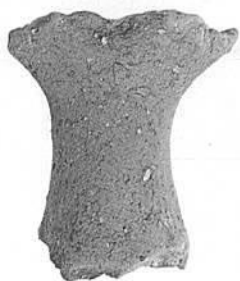
401



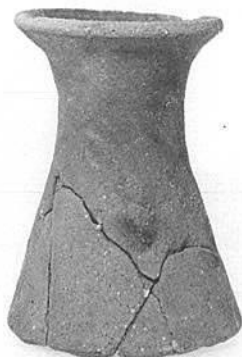
405



398



404



406



399



402



400



403



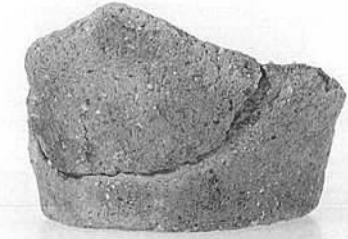
407



412



408



413



410



414



411



415



417



418



420



422



421



424



425



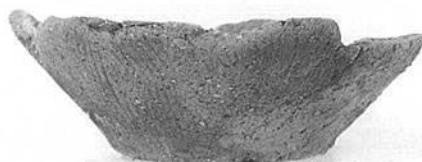
426



428



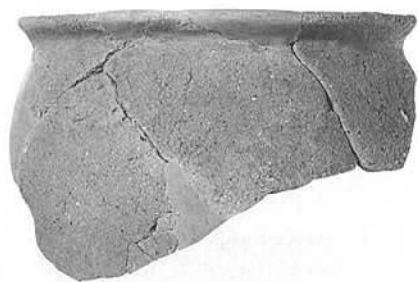
427



429



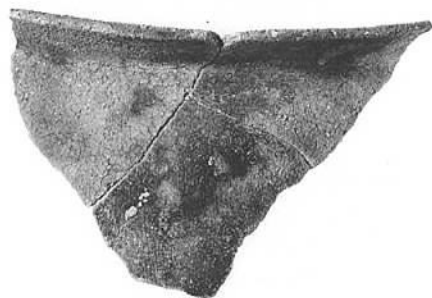
431



432



442



433



434



443



439



444



440



445



448



450



453



454



460



461



463



471



473



475



476



486



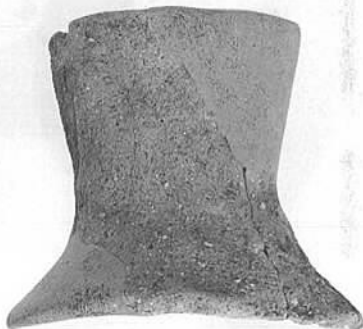
478



488



479



489



481



491



483



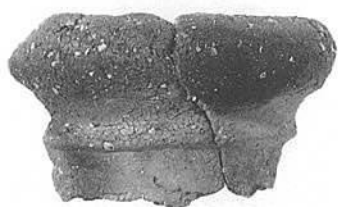
492



495



506



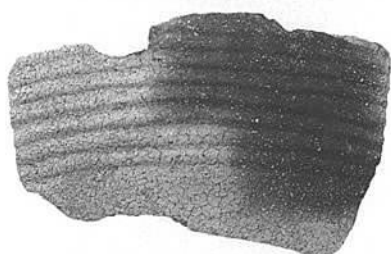
497



510



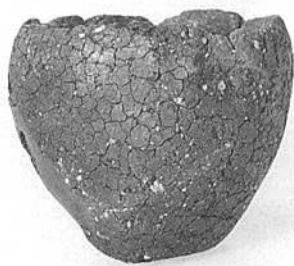
499



513



500



514



501

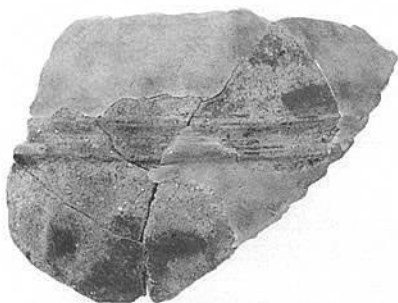
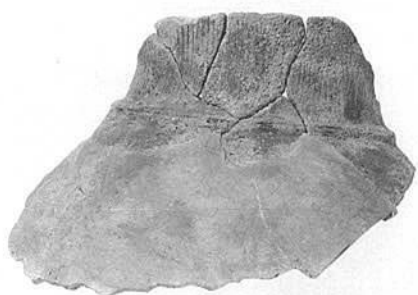


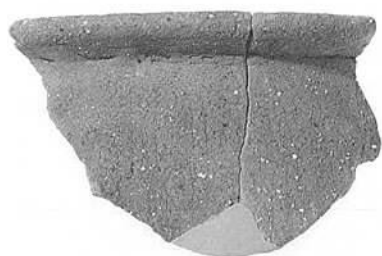
518



520







559



574



564



575



566



576



570



577



571



578



582



592



587



593



589



594



590



598



591



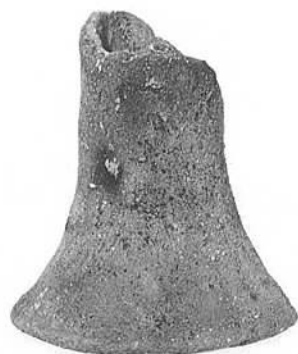
599



601



604



605



608



611



613



610



612



614



615



617



618



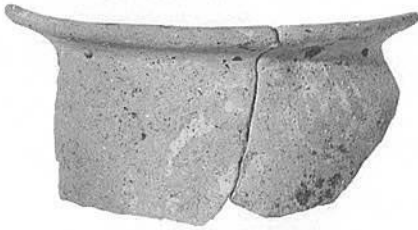
626



622



627



623



628



625



633



634



635



636



637



638



639



640



641



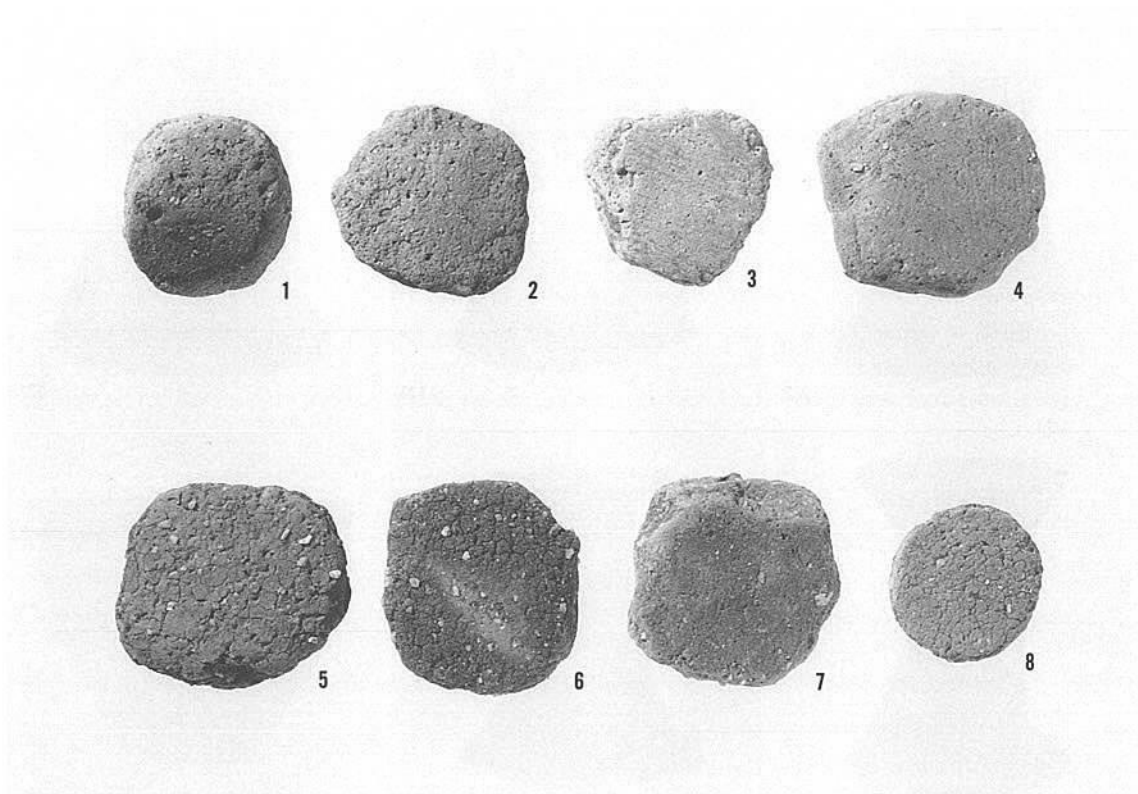
644



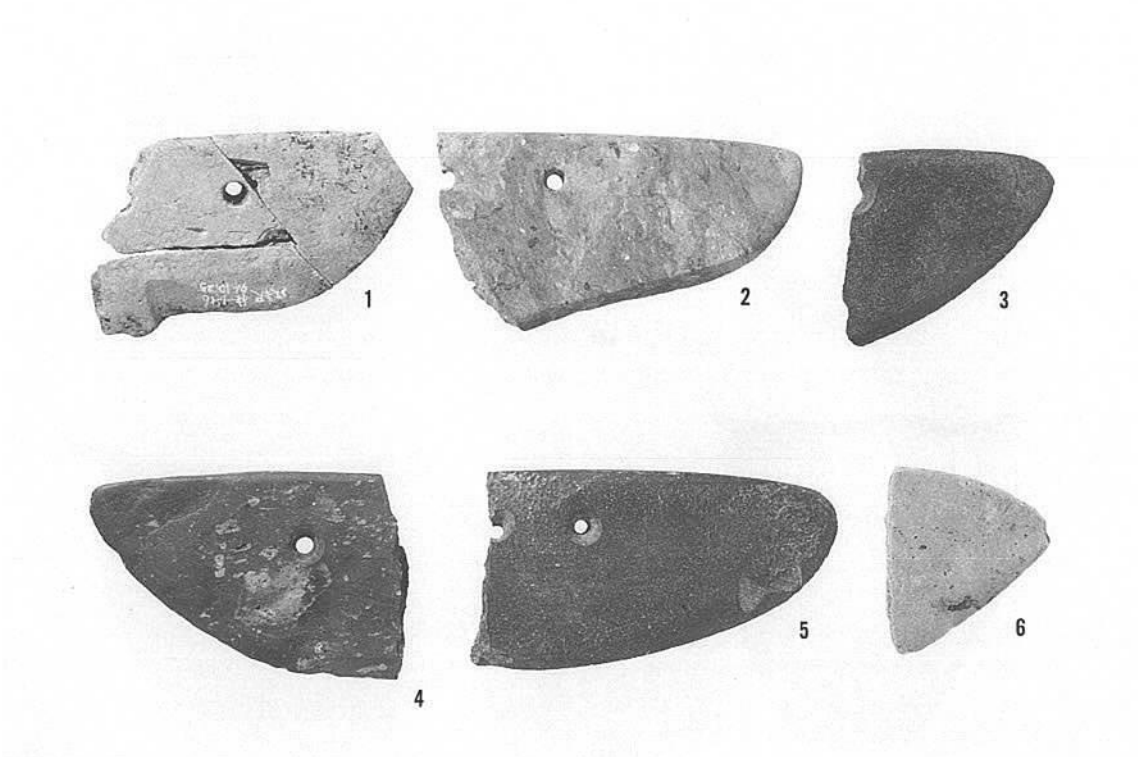
643



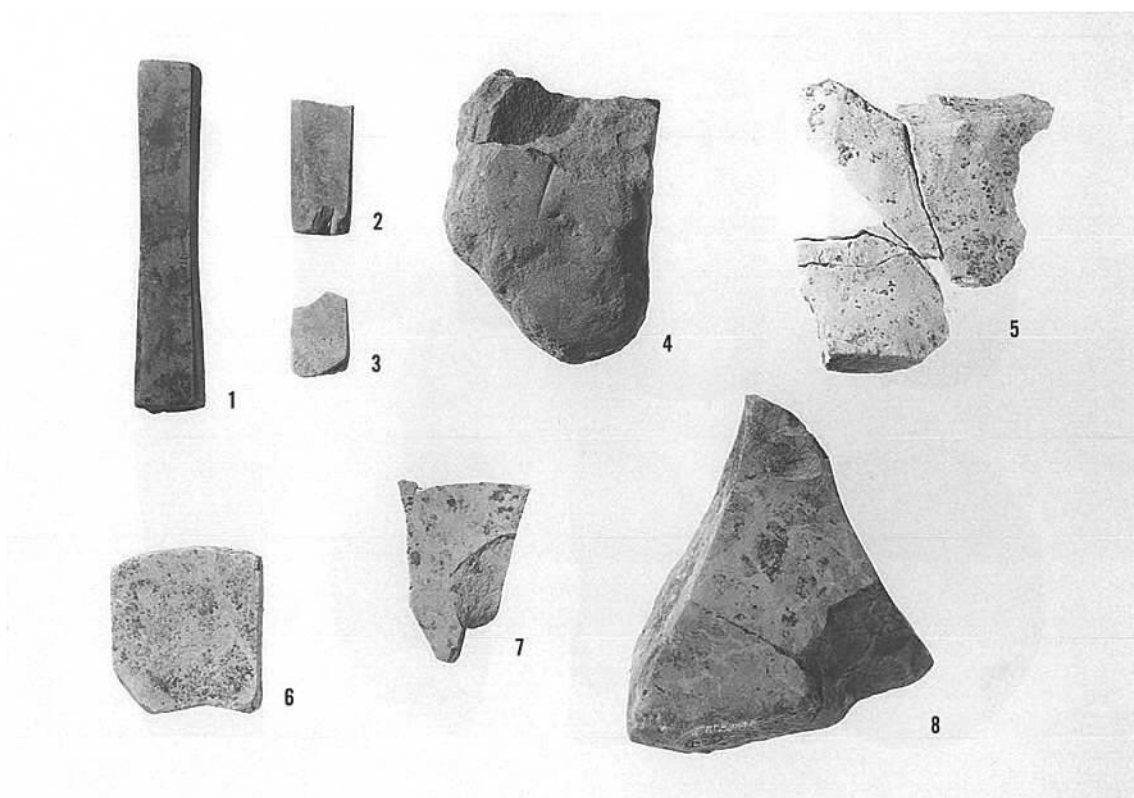
645



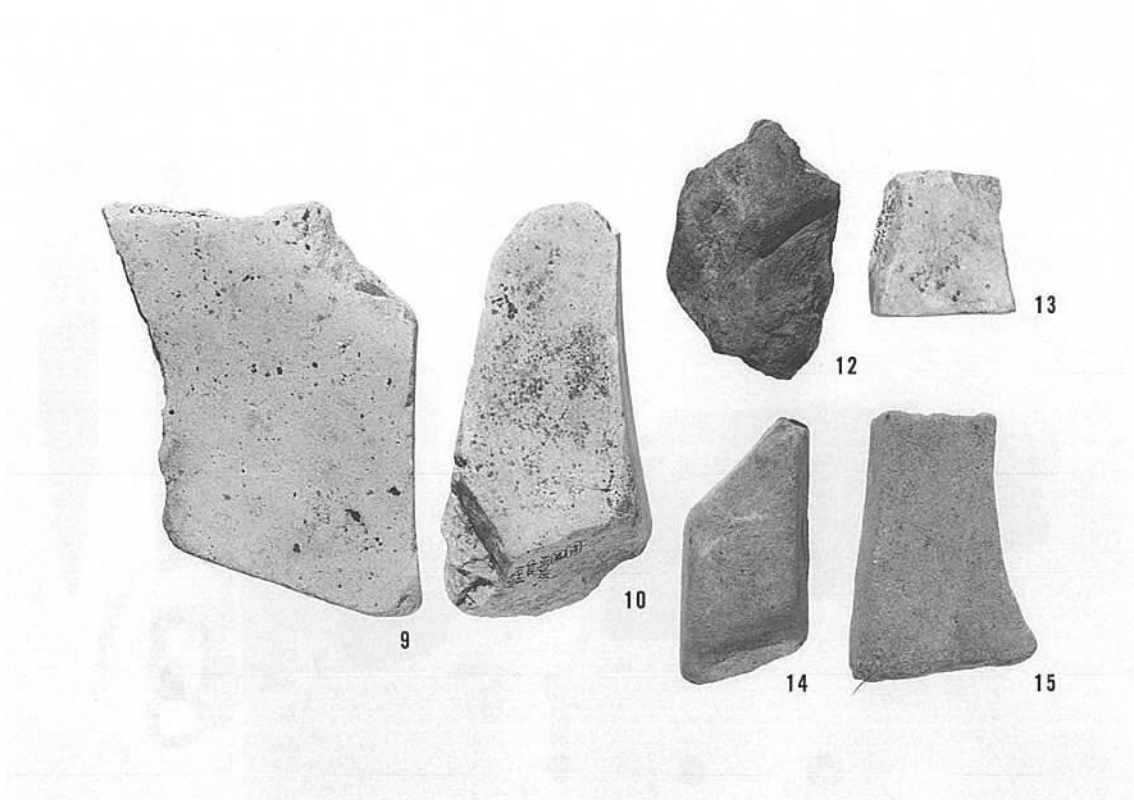
(1) 土製品



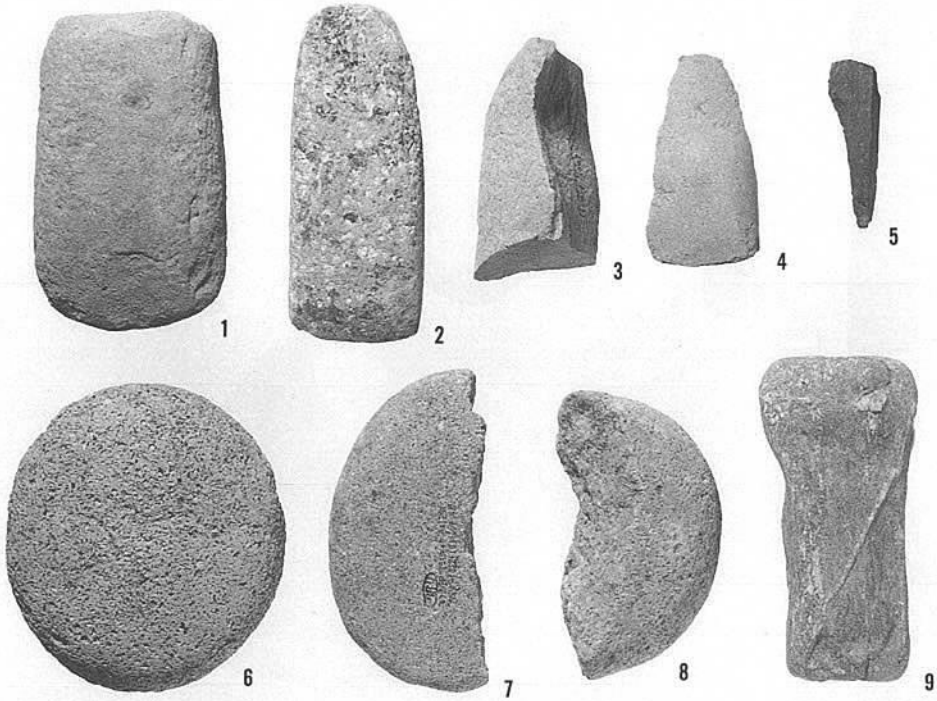
(2) 石包丁



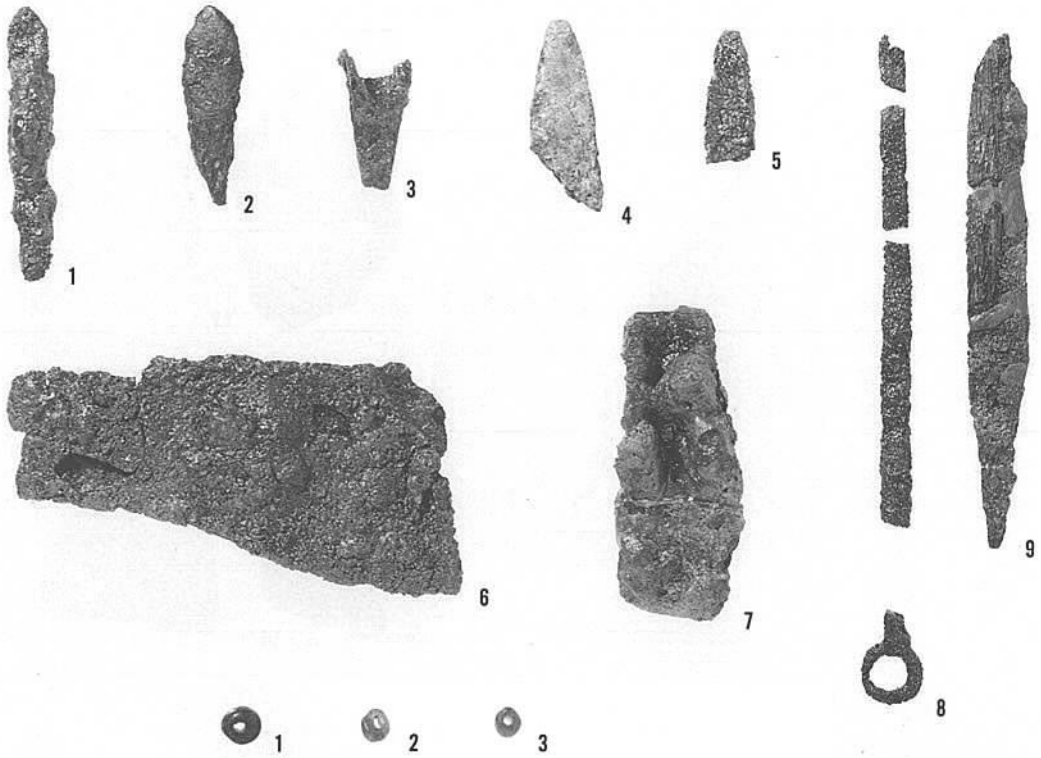
(1) 砥石. 1



(2) 砥石. 2



(1) その他の石製品



(2) 鉄製品・玉

報告書抄録

ふりがな	いらいじゃくいせき							
書名	以来尺遺跡							
副書名	福岡県筑紫野市大字筑紫所在遺跡の調査							
巻次	II							
シリーズ名	一般国道3号 筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第6集							
編著者名	馬田弘稔・齋部麻矢・秦 憲二・杉原敏之							
編集機関	福岡県教育委員会							
所在地	〒812-8575 福岡県福岡市博多区東公園7番7号 TEL (092) 651-1111							
発行年月日	西暦1998年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃 〃	東経 〃 〃	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いらいじゃく 以来尺	ふくおかけんちくしのし 福岡県筑紫野市 おおあざちくしあざいらい 大字筑紫字以来 じゃく 尺 927・29・932他	402176	170142	33°27'25"	130°32'55"	19930506	12,360	道路（一般 国道3号筑 紫野バイパ ス）建設に 伴う 事前調査
						）		
						19950120		
						19971029		
						）		
						19971118		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
以来尺	集 落	旧石器			ナイフ形石器 台形石器 角錐状石器		大型掘立柱建物跡 通路状遺構 青銅製鋤先	
		縄文			石器・晚期土器			
		弥生	縦穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑 溝	弥生土器 石器・鉄器 土製品 玉類				
		古墳	横穴式石室 縦穴住居跡	須恵器 土師器 石器・鉄器 玉類				
		中世	溝 掘立柱建物跡	陶磁器・土師器 石器・鉄器				
山城	近世	溝			陶磁器			

福岡県行政資料

分類番号 JH	所属コード 2133051
登録年度 9	登録番号 17

一般国道
3号 筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第6集

いらいじやくいせき
以来尺遺跡II

福岡県筑紫野市大字筑紫所在遺跡の調査

平成10年3月31日

発行 福岡県教育委員会
〒812-8575 福岡市博多区東公園7番7号

印刷 株式会社昭和堂印刷
〒812-0004 福岡市博多区榎田2-2-52 徳重ビル

以来尺遺跡 II

福岡県筑紫野市大字筑紫所在遺跡の調査

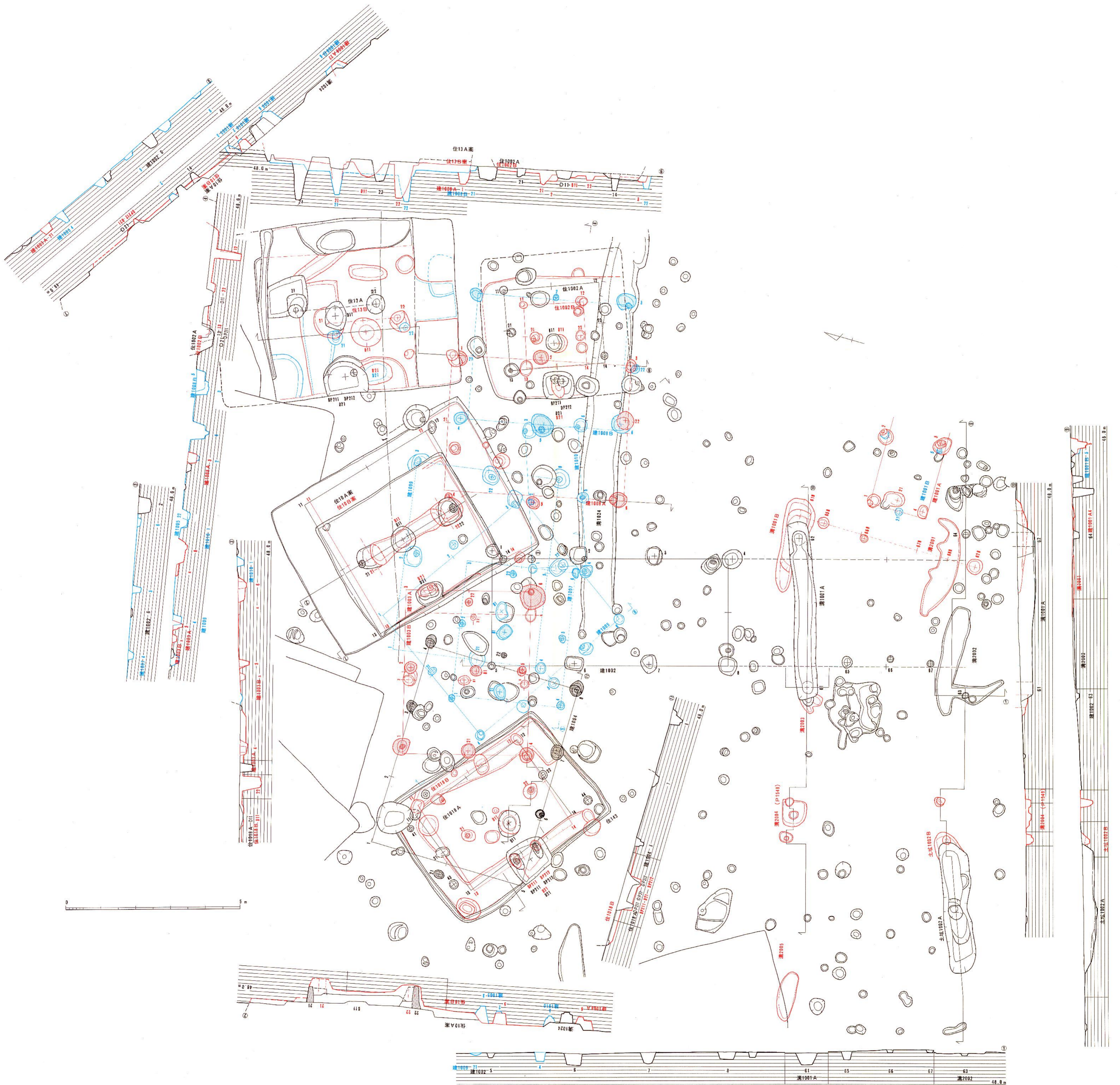
- 付図1 以来尺遺跡遺構配置図 (1/200)
- 付図2 建1002号群(建1001~1005・1007~1010号)、住1002号群(住1001・1002・1018号、住10・12・13号案)、溝1001 (1004) 号実測図 (1/60)
- 付図3 建1019号群 (建1019・1031・1032号)、住1019号群 (1019~1021・115号)、溝1003・2005・2006・16・18号実測図 (1/60)
- 付図4 住1466号群 (住1464~1467号、住18~20号案)、建2013号群 (建1029・2013号、建1・12号案)、溝1004 (1024) 号実測図 (1/60)
- 付図5 建2014号、㊶住1424号群(住1013・1014・1024・1025号)、㊵住1422号群 (住1422・1423号)、㊴住1421号群 (住1415・1416・1421・1426・1437・2001号)、㊳住1420号群 (住1419・1420号) 実測図 (1/60)
- 付図6 住1003号群 (住1003・1011・1049・1157・1435・1436号)、中世溝1002号群 (溝1002・1005・1006号、小溝、Pイ~ト) 実測図 (1/60)

1998

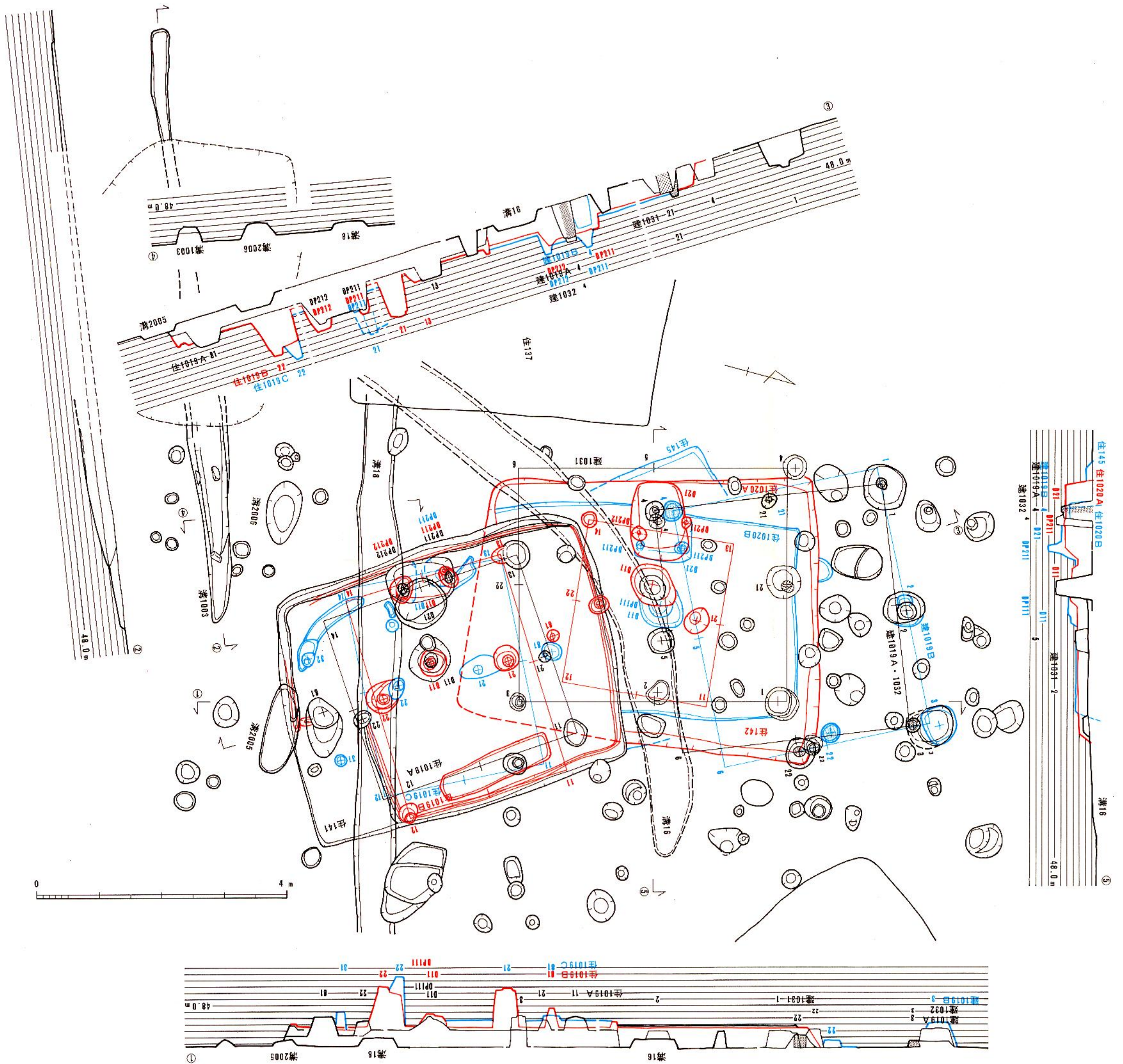
福岡県教育委員会



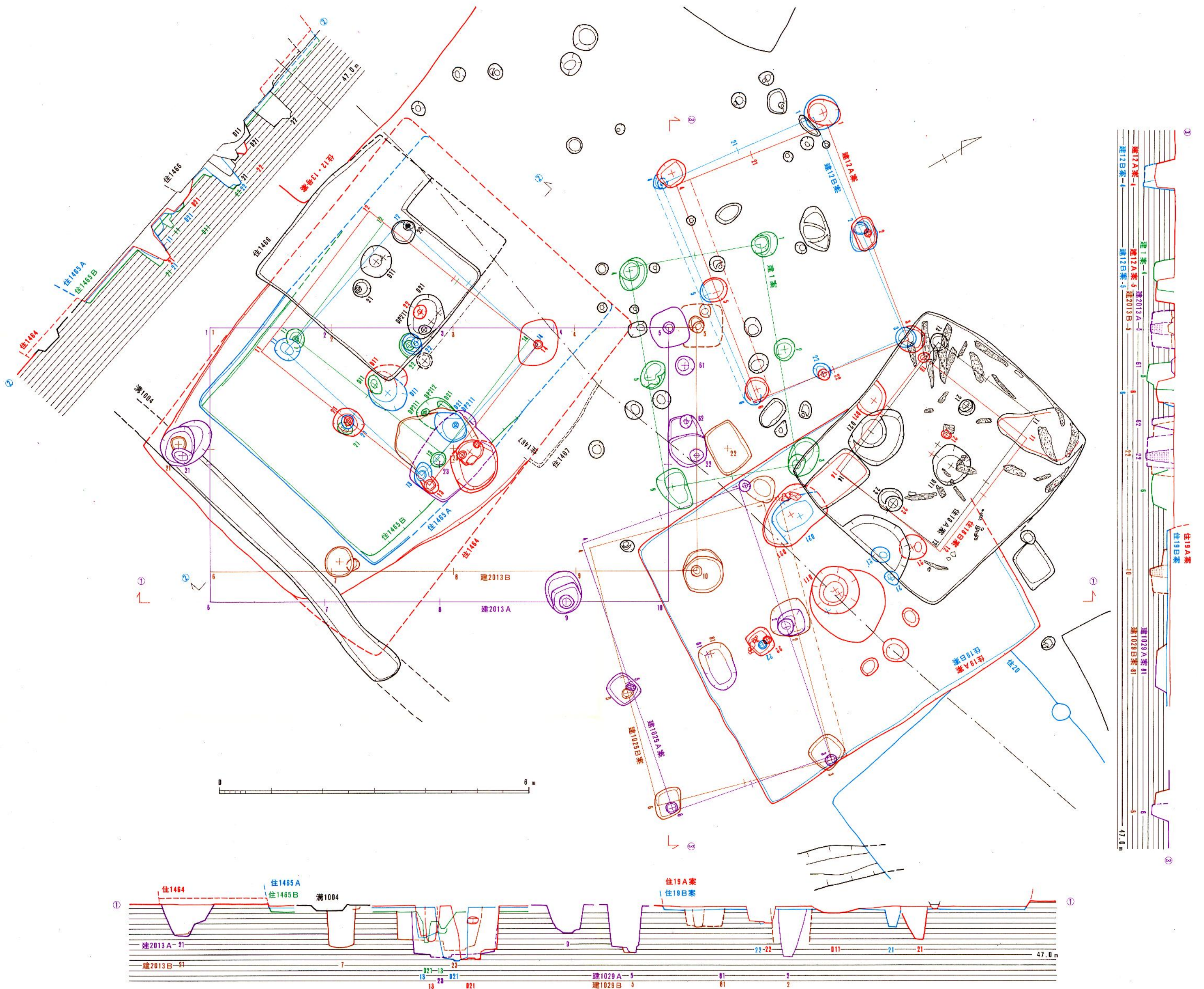
付圖1 以英尺測繪建築圖 (1/200)



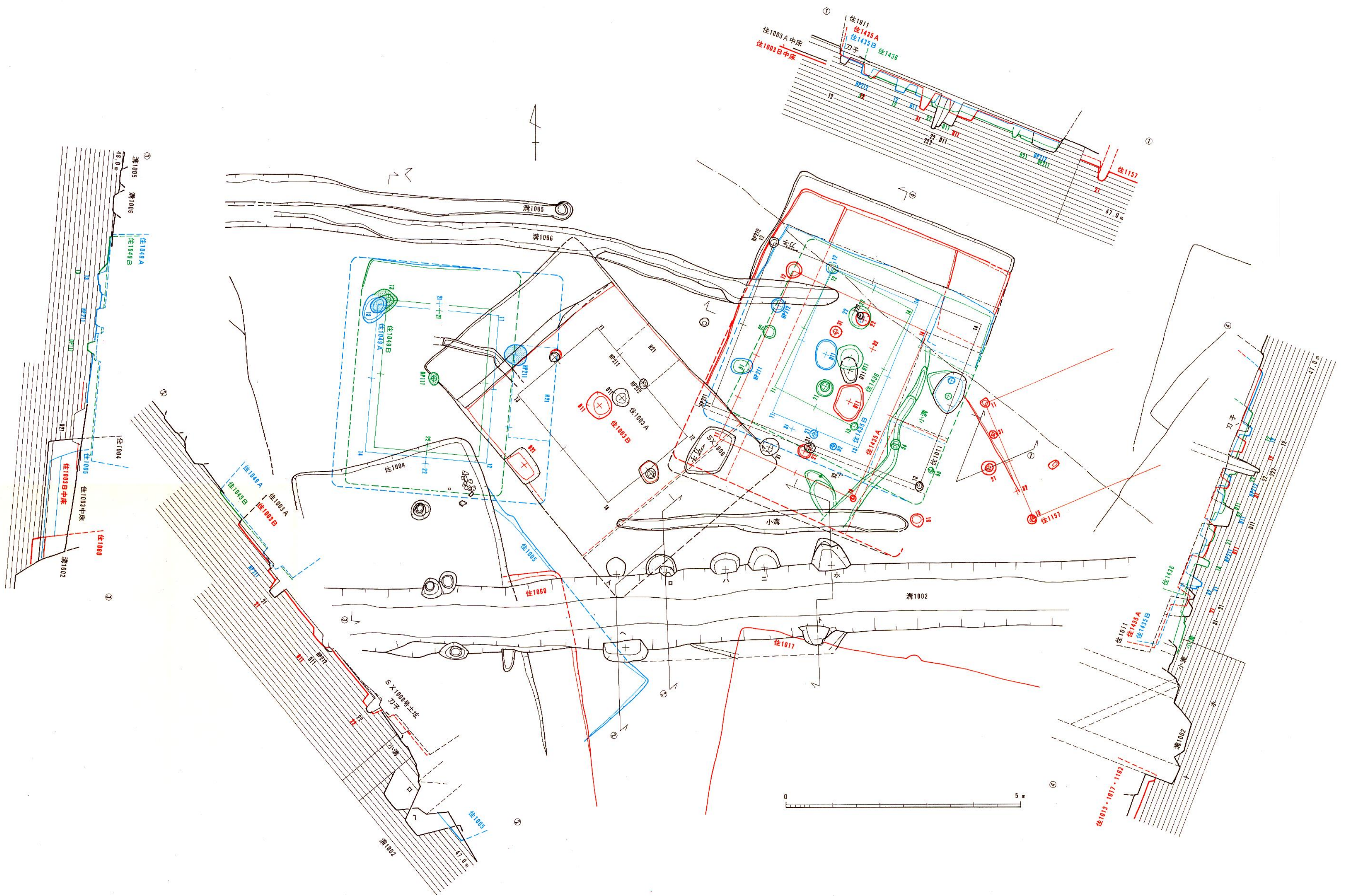
付图2 建1002号群 (建1001~1005、1007~1010号)、住1002号群 (住1001·1002·1018号、住10·12·13号案) 建1001 (1004) 号详测图 (1/60)



付图3 建1009号群(建1019~1031·1032号)、住1019号群(住1019~1021·115号)、溝1003·2005·2006·16·18号实测图(1/60)



付图4 住1466号群 (住1464~1467号、住18~20号案)、建2013号群 (建1029·2013号、建1·12号案)、溝1004 (1024) 号实测图 (1/60)



付図6 住1003号群 (住1003・1011・1049・1157・1435・1436号)、中世溝1002号群 (溝1002・1005・1006号、小溝、Pイート) 実測図 (1/60)